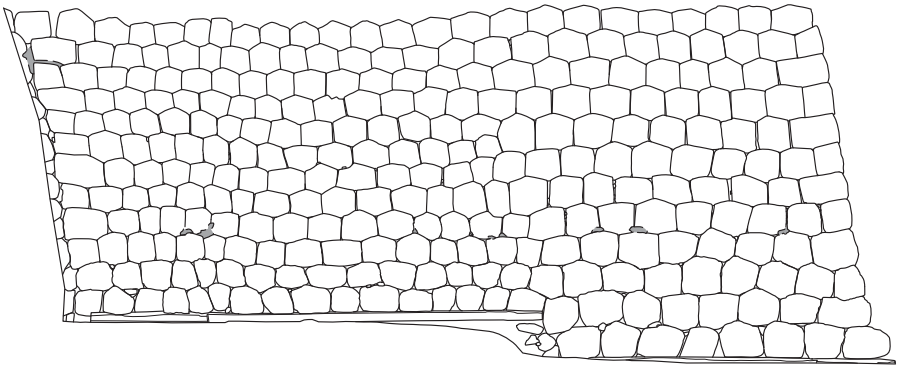
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 156 集

新堀川護岸
（しんぼりがわごがん）

都市計画道路はりまや町一宮線に伴う発掘調査報告書



2022.12

高 知 県
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

新堀川護岸

都市計画道路はりまや町一宮線に伴う発掘調査報告書

2022.12

高 知 県
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは，高知広域都市計画道路事業はりまや町一宮線（はりまや工区）の施工に伴い，高知市に所在する新堀川護岸の発掘調査を平成30年度から令和3年度にかけて行いました。

新堀川一帯は堀川と江ノ口川を結び，木材の運搬だけではなく魚の棚や紺屋町をつなぎ商売を支えました。新堀は現在埋め立てられ，横堀が新堀川と名前を変えて地域に親しまれています。今回の調査は，横堀公園内を中心に行い，かつて一帯を所有していた竹村家の遺物が多く出土しています。現在の横堀公園は竹村家の庭部分であったことから，江戸時代から近代にかけての玩具が多く出土しました。昔も今も変わらず子ども達に親しまれている場所とも言えます。

本書が埋蔵文化財の保護だけではなく，希少生物をはじめとした環境の保護の認識と理解の一助となり，未来に活かせることを期待します。

調査にあたって，地域の方々をはじめ，ご指導・ご助言をいただいた先生方，ご協力いただいた関係諸機関の方々に心からの謝意を表します。

令和4年12月

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長　松田直則

例言

1. 本書は高知広域都市計画道路事業はりまや町一宮線（はりまや工区）の施工に伴い，平成30～令和3年度に実施した発掘調査報告書である。
2. 本調査は，高知県からの委託を受け，公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査地は，高知市はりまや町，桜井町，菜園場町に位置する。
4. 調査期間は，平成31年1月28日～3月31日，令和元年9月26日～令和2年1月31日，令和2年7月13日～令和3年2月22日，令和3年6月7日～6月30日の4期に分けて実施した。
5. 調査体制

平成30年度

総括　(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総務　同次長　和田安弘，同総務係長　吉森和子
調査総括　同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当　同調査第二班長　坂本憲昭，調査員　下木千佳
技術補助員　坂本憲彦
事務補助員　奥宮千恵子

令和元年度

総括　(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総務　同次長　和田安弘，同総務係主査　門田香織
調査総括　同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当　専門調査員　徳平涼子，調査員　下木千佳
技術補助員　大原直美
事務補助員　笹野女怜，奥宮千恵子
整理作業員　松田美香，岩貞聖子，田島歩

令和2年度

総括　(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総務　同次長兼総務課長　橋田歩，同総務係主査　門田香織
調査総括　同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当　専門調査員　筒井三菜，調査員　下木千佳
技術補助員　坂本憲彦，高尾和江
事務補助員　笹野女怜
整理作業員　松田美香，岩貞聖子，田中寧音

令和3年度

総括　(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総務　同次長兼総務課長　橋田歩，同総務係主査　門田香織

調査総括　同調査課長　吉成承三
調査担当　同調査担当チーフ　坂本憲昭，同調査員　下木千佳
技術補助員　田中寧音
事務補助員　北村幸絵
整理作業員　松田美香，岩貞聖子，岡宗真紀，西峰広太，山本ルミ

令和4年度
総括　（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総務　同次長　橋田歩，同総務係主査　門田香織
調査総括　同調査課長　吉成承三
調査担当　担当チーフ　久家隆芳，調査員　下木千佳
技術補助員　幾野雄也
事務補助員　北村幸絵
整理作業員　松田美香，西峰広太，川添明美

6. 本書の執筆・編集は下木が行った。
7. 遺構については，SA（柵列），SB（掘立柱建物跡），SK（土坑），SD（溝），SE（井戸），SX（性格不明遺構）で表記した。また，掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており，方位Ｎは世界測地系のGNである。
8. 遺物については，原則として縮尺1/3で掲載し，一部の遺物については縮尺を変えているが，各挿図にはスケールを記している。また，遺物番号は調査区ごとの通し番号とし，挿図と図版の遺物番号は一致している。
9. 現地調査及び報告書作成をするにあたっては，下記の方々のご指導及び貴重なご教授，ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。
高知市教育委員会，パリノ・サーヴェイ株式会社，公益財団法人高知県埋蔵文化財センター諸氏
10. 調査にあたっては，高知県，高知県教育委員会，高知市教育委員会のご協力を頂いた。また，地元住民の方々に遺跡に対するご理解とご協力を頂き，厚く感謝の意を表したい。
11. 整理作業及び発掘作業については，多くの方々に労を厭わず作業に従事して頂いた。感謝の意を表したい。
12. 出土遺物は「18－4KS」「19－2KS」「20－3KS」「21－3KS」と注記し，高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章　序章
1. 目的 1
2. 組織・関係者 1
3. はりまや町一宮線(はりまや工区)工事アドバイザー 2
4. 関係団体 2
第Ⅱ章　遺跡の環境
1. 地理的環境 3
2. 歴史的環境 3
3. 新堀川の沿革 6
第Ⅲ章　実施経過 11
第Ⅳ章　調査の成果
1. A区 19
2. B区 65
3. C区 89
4. H区 99
5. I区 107
6. 石垣解体調査 111
7. 近代瓦について 164
第Ⅴ章　自然科学分析 171
第Ⅵ章　まとめ 193
築石一覧表 201
遺物観察表 243
瓦観察表 269
写真図版 275

挿図目次

図1　新堀川護岸位置 3
図2　周辺の遺跡地図 4
図3　昭和22(1947)年撮影空中写真に加筆 5
図4　正保土佐国城絵図 6
図5　寛文己酉高知絵図 6
図6　寛文己酉高知絵図拡大 6
図7　浦戸湾風景絵巻 7
図8　高知街図　天明8(1788)年 7
図9　土佐国高知市街図　明治32(1899)年 7
図10　空中写真　昭和22(1947)年 7
図11　空中写真　平成29(2017)年 7
図12　元気な裸の仲仕達1(横川宝喜) 9
図13　元気な裸の仲仕達2(横川宝喜) 9
図14　元気な裸の仲仕達3(横川宝喜) 9
図15　新堀川の風景(江川一義) 9
図16　「木屋」竹村家(個人蔵) 9
図17　台風10号被害を受けた石垣(個人蔵) 9
図18　台風10号被害を受けた横堀公園(個人蔵) 9
図19　昭和51年の新堀川(武吉孝夫) 9
図20　調査区位置図 12
図21　TR1・2出土遺物実測図 14
図22　TR3出土遺物実測図 15
図23　TR3・5出土遺物実測図 16
図24　測線配置図 18
図25　解析結果 18
図26　調査区位置図 19
図27　A区西壁セクション 20
図28　A区客土・包含層出土遺物実測図 21
図29　A区石列1 22
図30　A・B区第1遺構面平面図 23
図31　A区SK1・4出土遺物実測図 24
図32　A区SK6・7 25
図33　A区SK10 25
図34　A区SK5～15出土遺物実測図 26
図35　A区SK12 27
図36　A区SD3 27
図37　A区SD1～6出土遺物実測図 28
図38　A区SD6，SX8 29
図39　A区SX1～9出土遺物実測図 30
図40　A区SX6 31
図41　A区SX9，P28 31
図42　A区P6～45出土遺物実測図 33
図43　A・B区第2遺構面平面図 34
図44　A区SK18 35
図45　A区SK22・23，SD9 35
図46　A区SK25 36
図47　A区SK28・33・34 36
図48　A区SK30・31 37
図49　A区SK32 37
図50　A区SK18～28出土遺物実測図 38
図51　A区SK29～36出土遺物実測図 39
図52　A区SD7・8 40
図53　A区SD7～13出土遺物実測図 41
図54　A区SD13 42
図55　A区SD16，B区SD8 43
図56　A区SD16出土遺物実測図 44
図57　A区SX10・11出土遺物実測図 45
図58　A区P57～70出土遺物実測図 47
図59　A区P78～98出土遺物実測図 48
図60　A区SB1 49
図61　A区SB1P5出土遺物実測図 49
図62　A・B区第3遺構面平面図 50
図63　A区SK37～43出土遺物実測図 51
図64　A区SK37・42 52
図65　A区SD18～20出土遺物実測図 53
図66　A区SX12出土遺物実測図 54
図67　A区P100～106出土遺物実測図 55
図68　A区P114・152 56
図69　A区P110～148出土遺物実測図 57
図70　A区SK46 58
図71　A区SK47 58
図72　A区SK46～51出土遺物実測図 58
図73　A・B区第4遺構面平面図 59

図74　A区SK50～52 60
図75　A区SD22 61
図76　A区SD21・22出土遺物実測図 61
図77　A区SX14，P205 63
図78　A区第4遺構面遺構出土遺物実測図 64
図79　B区第Ⅰ層出土遺物実測図 66
図80　B区第Ⅱ・Ⅲ層出土遺物実測図 67
図81　B区SB1出土遺物実測図 68
図82　B区SK5～12出土遺物実測図 68
図83　B区SB1 69
図84　B区SD3 70
図85　B区SD3，SX3，P18・37
出土遺物実測図 70
図86　B区SK15，P93 71
図87　B区SX7 71
図88　B区SX9 72
図89　B区SD8，SK15，SX7～9
出土遺物実測図 73
図90　B区P44～121出土遺物実測図 75
図91　B区石列2 76
図92　B区SK20 77
図93　B区SK27 77
図94　B区SK20～29，
SD10出土遺物実測図 78
図95　B区SK29，SD10 79
図96　B区P184 79
図97　B区P132～184出土遺物実測図 80
図98　B区SB2 81
図99　B区SK30・44 82
図100　B区SK30～44，SD21・27
出土遺物実測図 82
図101　B区SD21・27 84
図102　B区SX18・22出土遺物実測図 84
図103　B区SX22 85
図104　B区P254 86
図105　B区P190・226・245出土遺物実測図 87
図106　B区P239出土遺物実測図 87
図107　B区P254～294出土遺物実測図 88
図108　C区客土・包含層出土遺物実測図 89
図109　C区第1遺構面 89
図110　C区SK2出土遺物実測図 90
図111　C区第2遺構面 90
図112　C区SB1 91
図113　C区SB1，SK12，SD4
出土遺物実測図 91
図114　C区P12出土遺物実測図1 92
図115　C区P12出土遺物実測図2 93
図116　C区SK15～18・20・25
出土遺物実測図 94
図117　C区第3遺構面 95
図118　C区第4遺構面 95
図119　C区SX3，P16・20出土遺物実測図 96
図120　C区SK29・31・32，P26
出土遺物実測図 98
図121　H区包含層出土遺物実測図 99
図122　H区第1遺構面 100
図123　H区SX1出土遺物実測図 100
図124　H区第2遺構面 101
図125　H区SK5～7出土遺物実測図 101
図126　H区第3遺構面 101
図127　H区SK15 102
図128　H区SK9～17出土遺物実測図 103
図129　H区SK18・19，SD3
出土遺物実測図 104
図130　H区SX6出土遺物実測図 105
図131　H区第4遺構面 106
図132　I区第Ⅰ・Ⅲ層出土遺物実測図 107
図133　I区各遺構面平面図 108
図134　I区遺構出土遺物実測図 110
図135　石垣断面 112
図136　石垣各部位別呼称概略図 113
図137　第1遺構面 114
図138　第2遺構面 115
図139　第4遺構面 116
図140　D区出土遺物実測図 117
図141　E区客土，イ2～4段
目出土遺物実測図 118
図142　E区イ5段目出土遺物実測図 119

図143　E区イ6・7段目出土遺物実測図 120
図144　E区イ8段目出土遺物実測図 121
図145　E区イ9・10段目出土遺物実測図 122
図146　E区イ11・12, 胴木出土遺物実測図 123
図147　E区ロ3～6段目出土遺物実測図 125
図148　E区ロ7～10段目,
根石出土遺物実測図 126
図149　E区SK1, SX4出土遺物実測図 128
図150　E区SX4出土遺物実測図 129
図151　F区ホ3～5段目出土遺物実測図 130
図152　F区ホ7段目・根石・胴木
出土遺物実測図 131
図153　F区ニ胴木, G区出土遺物実測図 133
図154　石垣移築位置 134
図155　取り上げ胴木範囲 135
図156　新堀川補足調査区 136
図157　K区平面図 137
図158　L区平面図 139
図159　旧橋台(南西より) 140
図160　旧橋台(南より) 140
図161　旧橋台位置図 140
図162　立面1・2立面図 145
図163　立面1・2石質図 146
図164　立面1・2オルソ画像図 147
図165　立面3立面図・石質図・オルソ画像図 149
図166　立面4立面図 151
図167　立面4石質図 152
図168　立面4オルソ画像図 153
図169　立面5(イ)
立面図・石質図・オルソ画像図 155
図170　立面6-1(ロ)
立面図・石質図・オルソ画像図 157
図171　立面6-2(ニ)
立面図・石質図・オルソ画像図 159
図172　立面7(ホ)
立面図・石質図・オルソ画像図 161
図173　立面8立面図・石質図・オルソ画像図 163
図174　軒丸瓦・鳥衾瓦実測図 164
図175　軒平瓦・軒桟瓦実測図 165
図176　桟瓦実測図 166
図177　丸瓦実測図 167
図178　平瓦実測図 168
図179　銘平瓦実測図 169
図180　同笵銘平瓦 170
図181　モデリング年代・暦年較正結果 175
図182　木材(1) 178
図183　木材(2) 179
図184　年代測定試料採取箇所 180
図185　試料採取箇所 181
図186　暦年較正結果 182
図187　主要珪藻化石群集 188
図188　主要花粉化石群集 188
図189　珪藻化石 191
図190　花粉化石 192
図191　胴木A・B類断面 193
図192　胴木模式図 193
図193　胴木と根石 194
図194　平面胴木 194
図195　丸太胴木文字部分 195
図196　墨書胴木実測図 195
図197　胴木・旧石垣検出状態(一部合成) 196
図198　立面旧石垣 197
図199　石垣構築順 199

表目次

表 1　樹種同定結果 172
表 2　放射性炭素年代測定結果 173
表 3　ウイグルマッチング結果 174
表 4　放射性炭素年代測定結果 182
表 5　珪藻分析結果 184
表 6　花粉分析結果 187

付図目次

付図1　第1遺構面平面図(S＝1/200)
付図2　石垣立面図

第Ⅰ章　序章

1. 目的

現在，主な調査対象地である新堀川と呼ばれている箇所は高知市桜井町から菜園場町にかけて南北に掘り抜かれた堀である。元々は北の江ノ口川と南の堀川をつなぐ横堀であり，横堀公園から西の魚の棚まで分岐した堀が新堀である。後述するが，新堀の埋め立てが進行するにしたがって名称が揺らぎ最終的に横堀が新堀川と呼ばれるようになったと考えられる。高知市の近世近代の発掘調査は高知郭中参考地域を中心に行われていたが，今回の調査地は郭中外であり調査が行われておらず，埋蔵文化財包蔵地として認められない箇所になる。

高知広域都市計画道路事業はりまや町一宮線（はりまや工区）は，高知県によって平成7年に都市計画決定され，平成12年に事業着手，平成15年に工事着手された。しかし，希少動植物が生息する新堀川の水辺空間が大切であるという声が高まり，平成23年から桜井橋より南側区間（新市町，桜井町から南）の工事が中断されていた。その間新堀川の環境調査や交通量調査，シオマネキの生息調査を行い，データ蓄積を経てはりまや町一宮線（はりまや工区）まちづくり協議会を立ち上げパブリックコメントや意見を総括した。そして平成30年6月のまちづくり協議会において工事決定の報告がなされ，その後のはりまや町一宮線（はりまや工区）工事アドバイザー会議において「工事の計画にはまず歴史的な分野の調査が行われないといけない。石垣の調査が真っ先であり，調査を行う中でどういった歴史的･文化的な価値があるのか，どういう変遷で変わってきたか，調査計画を十分に考えて進めていくことが必要」との意見が提案された。これを受けて平成30年度に一次調査を実施した。その結果，工事にあたって現状の石垣の形状や規模についての記録を残すことや，石垣背面で遺構と遺物が見つかったことから，横堀公園の掘削範囲についての面的な記録保存を目的とした二次調査を令和元年度に実施した。この二次調査では，石垣移設にかかる解体と公園内の工事によって影響を受ける部分について調査を行った。また一次調査において複数の遺構面を検出したことから，二次調査はそれに準じて4面にわたる調査を行った。

令和2年度は石垣解体に伴う調査と公園内の通信管埋設に伴う調査を行った。東山建設株式会社が石垣移築工事を受注していたことから，共同で解体及び移築を行った。この工事の過程で現況の石垣背面より旧石垣を検出した。また，四国通建株式会社の通信管埋設工事が横堀公園内において予定されていたため，この工事の対象区域内の調査も併せて行った。

令和3年度は埋設された新堀の痕跡調査を目的とした石垣の根入れ部分の掘削を行い，平面の確認及び石垣観察表の作成を行った。

2. 組織･関係者

高知県土木部都市計画課

高知県土木部高知土木事務所

3. はりまや町一宮線(はりまや工区)工事アドバイザー

道路交通テーマ

那須清吾

希少動植物テーマ

石松惇，伊谷行，大野正夫，張浩

歴史･文化テーマ

北垣聰一郎，宅間一之，山中稔，渡部淳

まちづくりテーマ

北山めぐみ，橋田剛，高知市都市計画課長

4. 関係団体

発掘調査　公益財団法人高知県文化財団(埋蔵文化財センター)

設計者　　株式会社空間文化開発機構

施工者　　東山建設株式会社

石工　　株式会社粟田建設

石垣測量　株式会社四航コンサルタント，株式会社イビソク

物理探査　応用地質株式会社

第Ⅱ章　遺跡の環境

1. 地理的環境

報告書の対象となる新堀川護岸が所在する高知市は高知県中央部に位置し，東を南国市，北を土佐町，西をいの町と土佐市に接し，南は太平洋に面する。面積309㎢，人口約32万人を有する高知県の政治･経済･文化の中心地である。

高知県は北部に1,500～2,000m級の急峻な四国山地が連なり，高知市においても北部に標高400～600m級の山々が控える山国である。鏡川や物部川などの河川が太平洋に流れ込み，沖積平野である高知平野をつくり出し，南は太平洋に面して扇状に張り出す地形を成している。

新堀川護岸が所在する菜園場町周辺は鏡川によって形成された沖積低地の三角州上に位置する。また，鏡川の河口部に所在することから汽水域であり，横堀の一部は小規模な干潟としての性格を持つ。その環境によってコアマモやトビハゼをはじめチワラスボ，シオマネキなどの生物が生息している。

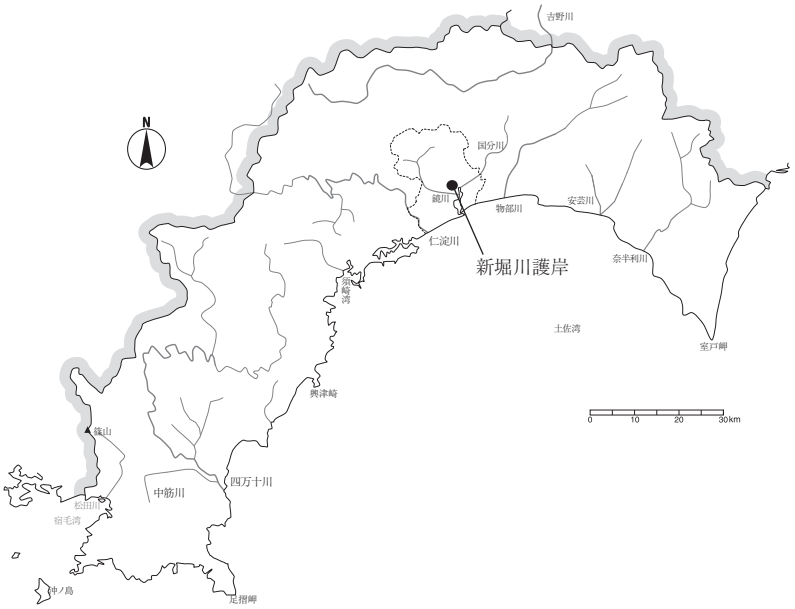


図1　新堀川護岸位置

2.歴史的環境

江戸時代城下町として栄えた高知市中心部の様相は近年の発掘調査によって少しずつ明らかになってきており，弥生時代や古墳時代の遺物の出土も散見されるようになってきている。弥生時代の遺物としては尾戸窯跡で前期の太型蛤刃石斧が出土しているほか，弘人屋敷跡で後期の遺物がみられる。高知城下町で最も古い遺構は古墳時代のもので，高知城伝下屋敷跡や史跡高知城跡北曲輪の下層で確認された土坑から土師器が出土している。律令期の遺物も高知城伝下屋敷跡や高知城跡北曲輪などで出土しており，例えば高知城跡北曲輪[(1)]の土坑からは土師器や須恵器等が多数出土している。また，弘人屋敷跡では11～12世紀の瓦が出土しているほか，自然流路や土坑も確認されて



No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	高知城跡（大高坂城跡）	中世～近世	10	帯屋町遺跡	古墳・中世～近世
2	小石木山古墳	古墳	11	国沢城跡	中世
3	小石木町遺跡	弥生	12	高知城伝下屋敷跡	近世
4	潮江城跡	中世	13	金子橋遺跡	近世
5	南御屋敷跡	近世	14	開成館跡	近世
6	中島町遺跡	古墳	15	西弘小路遺跡	古代～近世
7	尾戸遺跡	弥生	16	追手筋遺跡	中世～近世
8	尾戸窯跡	近世	17	新堀川護岸	近世～近代
9	弘人屋敷跡	古墳～近世			

図2　周辺の遺跡地図

いる。これらの調査より，高知城跡が所在する大高坂山の裾部では既に古墳時代や律令期頃の集落が営まれていたことがわかってきている。

南北朝時代には大高坂山城が築城されたのを始め，大高坂山の裾部や微高地では中世の遺構が散見される。弘人屋敷跡では14～16世紀の備前焼大甕の埋葬遺構を含む中世墓が検出されており，現代の区画のもととなる15～16世紀の溝跡なども確認されている。

江戸時代の遺跡としては土佐藩祖山内一豊が築城した高知城跡に象徴され，現在では追手門や天守閣，本丸御殿は国の重要文化財に指定されている。高知城築城と併行して城下町の建設も行われ，上町，郭中，下町の3ブロックからなる大規模な都市が出現する。

高知城下町関連の遺跡も調査事例が近年増加している。2001年には高知地家簡裁庁舎建替えに伴い高知城伝下屋敷跡の調査が行われている。高知城跡内堀内の南西部に位置し，寛文年間（1661

～1673)の郭中図に「御下屋敷」と描かれている場所である。調査では土佐藩，あるいは山内家関連の施設の存在を示唆する三ッ葉柏紋の瓦や木管などの遺物がみられる。

ところで同遺跡には石灰岩を主に使用した石列[(2)]などが検出されているが，史跡高知城跡丸ノ内緑地[(3)]の水路遺構なども同様に石灰岩を使用している。

傾向として，武家屋敷や寺社仏閣に関連する遺構，かつ，石垣など見せる目的を持つものについてはチャートが使用されることが多い。例としては高知市旧山内家下屋敷長屋や山内神社などがある。しかし，礎盤など見えないものについては石灰岩が用いられることがある。一方，民衆が石垣などを持てるようになるのは近代になってからであり，それまでは基本的に土手であったと考えられる。さらに，石垣は石灰岩が用いられることが多く，新堀川護岸も例外ではない。当時の石材の選択については階層差について検討の余地が残る。

窯跡では高知城跡の北西に尾戸窯跡がある。承応2(1653)年に二代藩主忠義の命により藩窯として現在の高知市小津町に開窯し陶器製作を行った。2003年には民間開発に伴う調査が高知市教育委員会によって行われ，尾戸窯跡関連の近世陶磁器や窯道具が出土している。文政3(1820)年には現在の高知市鴨部に土佐藩の藩窯であった能茶山窯が開窯し磁器と陶器の製作を行った。天保7(1836)年以降は碗や皿などをはじめとした日用品を大量生産し，県内で多く出土している。

註

⑴ 高知市教育委員会 2011『史跡高知城跡-北曲輪地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』高知市文化財調査報告書第35集

⑵ (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2002『高知城伝下屋敷跡-高知地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査報告書-』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第75集



図3　昭和22(1947)年撮影空中写真に加筆

(3)(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2006『史跡高知城跡-丸ノ内緑地試掘確認調査発掘調査報告書-』
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第96集

3.新堀川の沿革

新堀や横堀，新堀川について，調査の前段階では明確な名称と位置関係や歴史は把握されておらず，漠然と一帯を新堀川と呼称しており，そのため議論に混乱を及ぼすことがままあった。しかし，絵図や文書，地名などから推察し，江ノ口川と堀川を結ぶ南北の堀を横堀，材木町の中心に掘り抜かれた堀を新堀と呼称していた，と考えられる(図3)。後述するが，新堀川はそれらを総称して使用されていた可能性が高い。ここではその根拠となる絵図や文書などを紹介する。

新堀や横堀について触れており，現段階で最も古い記載は『皆山集』にある。寛永2(1625)年に赤岡町，樽屋町，佐賀町3町の町人が私費で新堀を開削し，堀を挟んで材木町が成立したことが記されている。このことから，すでに横堀は掘り抜かれていたことがわかる。また，この時に新堀川法度が出され，材木の売買について記されている。その対象範囲は東は農人町，北は山田町とされている。この文章の中では新堀と新堀川が使い分けられており，新堀は新たに掘られた堀を指し，新堀川は一帯を指していることがわかる。



図4　正保土佐国城絵図

正保年間(1644～1647)，幕府に提出するため作成された『正保土佐国城絵図』には新堀川一帯が描かれており，堀の幅などが記載されている(図4)。横堀は桜井町と新市町間が幅12間深さ3尺(22.446m)，材木町と菜園場町の間は幅13間(23.66m)，堤防の高さは新市町側が1間1尺(2.123m)，桜井町側と菜園場町側が3尺(0.909m)とあり，菜園場町の堤防の方が低い。一方，堀の周辺は緑に縁取られており，土手の植栽を表現している。この時点では横堀は江ノ口川と繋がっておらず，農人町の堀にも出れず，浦戸湾に出るためには納屋堀を南に抜ける必要があった。



図5　寛文己酉高知絵図

寛文9(1669)年の『寛文己酉高知絵図』は『正保土佐国城絵図』と比較しても基本的な構造は変わらないが，堀川沿いに雁木のような表記が見られる(図6)。横堀公園の北部分に「福岡宮内船屋」と書かれていることが挙げられる。福岡宮内は土佐藩家老であり，防衛の拠点として菜園場町に船屋を構えていたと思われる。堀の構造も浦戸湾より郭中に侵攻されるのを防ぐため複雑化させており，城下町整備のなかで防衛の機能を持たせている。さらに，この絵図では下町



図6　寛文己酉高知絵図拡大



図7　浦戸湾風景絵巻



図8　高知街図　天明8(1788)年



図9　土佐国高知市街図　明治32(1899)年



図10　空中写真　昭和22(1947)年



図11　空中写真　平成29(2017)年

の開発が進み，正保段階より下町の区画が描写が鮮明である。

『皆山集』の刎橋の項目に貞享3(1686)年には「……菜園場横堀を山田橋川下へ堀通……」との記載がある。なおかつ『貞享三年高知城下町絵図』では幕府に城下町の修築を申請しており，横堀周辺については横堀と江ノ口川の合流，南は竪堀と農人町の堀を合流させる計画についての記載が見られる。そして，元禄元(1688)年の『長帳(山内家御手許文書)』甲101号に横堀と江ノ口川の普請について記載があり，『元禄二，三年図』をはじめとした皆山集に記載のある元禄年間の絵図を見ると，その計画が実施されたことがわかる。この文献は横堀と新堀が混同されていない重要な資料である。

さて，明和9(1772)年になると材木町で材木屋を営んでいた竹村家の次男，傳五右衛門が分家し，材木屋から「木屋」の文字をとって菜園場町で金物屋を始める。その後，この「木屋」は橋の名前まで菜園場橋から木屋橋に変わるほどの豪商となった。竹村家については高松恵(1996)「商家『木屋』の『年譜』」に詳しく記されており，竹村家の資料は高知県立歴史民俗資料館と高知県立文学館(旧高知県立郷土文化会館)に寄贈されている。この竹村家の遺構や遺物が今回の調査では多く出土した。

天明8(1788)年の『高知街図』(図8)では下町の土手の植栽が顕著に描かれ，各町の支配割りが明記されている。このことから，横堀の護岸はいつからいつまで土手であったのか，いつから石垣が構築されていたのかが当初の課題であった。この絵図では菜園場町の表記は見られず，新町ということになっている。また，貞享年間に掘り抜かれた竪堀や江ノ口川周辺の表記も改められており，納屋堀は一部埋め立てられていることもわかる。

『浦戸湾風景絵巻』(図7)は明確な描かれた時期は不明であるが，江戸時代後期の市街地の様相がわかりやすく描かれている。風景の中で菜園場の表記が見られ，堀川を往来する船や，幡多倉橋や菜園場橋の周辺に船を泊めている様子，幡多倉橋と菜園場橋の間の雁木のようなスペースから船を上げて修理を行っている人まで描かれている。肝心の横堀自体は表記が曖昧であるが，その周辺に倉や茅葺の家が軒を連ねており，石垣や土手の表現もされている。

18世紀後半より，大きく地割が変動する動きはみられなかったが，近代になると新堀の埋め立てが始まる。『皆山集』に「新堀之内西数十間を埋め明治維新際北町集議書及使者家ヲ此内ニ設置八年一月消失於是亦東ノ方ニ数十間を増埋シテ学校ヲ建…(中略)…又東一町間ノ堀ヲ南北ヨリ埋立中間ニ小溝ノミヲ存スルハ明治十七年七月ナリ」とあるように，新堀は都市計画の中で埋め立てられた。なおかつ，明治期に差し掛かると絵図の精度が向上し，より詳細に新堀が埋設されていく過程がみてとれる。大正10(1921)年の『高知市全圖』では新堀は全体が埋設され，路面電車が開通しており，近代化のなかで陸運は発達し，水運は衰退していく兆しがみえる。

昭和22(1947)年(図10)と平成29(2017)年(図11)の空中写真を比較すると，堀川と横堀の関係の把握は容易である。昭和22(1947)年の空中写真は新堀の形も区画として残っているが，実際の新堀は地図から姿を消している。

一方，新堀は埋設されるものの横堀を中心に水運を象徴するような写真も残っている。昭和29(1954)年に撮影された写真は『元気な裸の仲仕達』(図12～14)というタイトルで第17回写真コンテストに出品されており，現在高知市文化振興事業団が所有している。この写真は木屋橋の北側で砂を積み込んだ木造船と国民服の帽子や麦わら帽子を被った「仲仕」が砂利を運んでいるものであり，当時の様子を伝えてくれる。水運を支えた堀川や横堀と人々の生活の営みを物語っている。また，背景には木屋の店舗や母家，石垣が写り込んでいる。翌年の昭和30(1955)年に撮影された『新堀川



図12　元気な裸の仲仕達1(横川宝喜)



図13　元気な裸の仲仕達2(横川宝喜)



図14　元気な裸の仲仕達3(横川宝喜)



図15　新堀川の風景(江川一義)



図16　「木屋」竹村家(個人蔵)



図17　台風10号被害を受けた石垣(個人蔵)



図18　台風10号被害を受けた横堀公園(個人蔵)



図19　昭和51年の新堀川(武吉孝夫)

の風景』（図15）では材木が杭に括り付けられており，材木町としての機能がまだ有されていることがわかる。木屋の建物と石垣もよく観察することができる。

新堀川護岸の石垣には災害の歴史も色濃く残っており，「土佐湾台風」とも呼ばれる昭和45(1970)年8月に甚大な影響を及ぼした台風10号による被害状況も残っている（図17･18）。台風10号は西日本を中心に猛威を振るい，特に高知市は満潮時と重なったことから記録的な高潮に見舞われた。新堀川周辺も例外ではなく，横堀公園の木は台風によって倒木しており，石垣も破損していることがわかる。蔵の漆喰も剥げ落ち，台風の影響の甚大さがうかがえる。調査前に石垣カルテを作成したところ，この写真と同じラインで石垣を修復し，セメントで固められていた。解体時もこの背面より土嚢が出土している。新堀川護岸は沖積低地の護岸という特性もあって，災害の影響をしばしば受けている。この写真でわかる部分以外も必要に応じて修復されており，古い部分はセメントなどを使用しない空積みが用いられているが，近代になるにつれてセメントなどを用いた練り積みなど，新しい技法が使用されている。

竹村家が母家を解体した後の昭和51(1976)年，モータープールにしていた時代の写真（図19）も残っており，蔵があった部分は駐車場になっている。道路側の石垣からは草木が生えているが，根入れにはもやい杭が打ち込まれ，船も見られることから，この時代はまだ材木町として水運の機能が残っていたことが垣間見える。

堀が開削されたことを皮切りに発展してきたこの地域は，多くの災害をその時々の技術で乗り越えてきた。現代では道路に生まれ変わり，方法は変化しても交通という目的は変わらず人々に求められている

参考文献
高知県教育委員会　1972『土佐の民家』
甲藤次郎，西和彦　1972「高知平野の地形と沖積層」『高知大学学術研究報告　第20巻　自然科学　第13号』高知大学
高松恵　1996「商家「木屋」の『年譜』」『高知県立歴史民俗資料館　研究紀要第6号』高知県立歴史民俗資料館
竹村守順･竹村守雄　2011『商家「木屋」とその時代　－高知･竹村家の一時代－』
※「木屋」竹村家の写真及び台風10号による被害の写真は竹村守順氏と竹村守雄氏に提供して頂いた。
間城龍男　2003「高知城下町の水防」『高知市史研究創刊号』高知市史編さん委員会
高知市　2012『描かれた高知市　高知市史　絵図地図編』
武吉孝夫　2014『昭和51年を歩く　高知市拾遺集』

絵図所蔵
『正保土佐国城絵図』国立公文書館
『浦戸湾風景絵巻』高知県立高知城歴史博物館
『土佐國高知市街圖』高知市立自由民権記念館

写真所蔵
国土地理院ウェブサイト
高知市文化振興事業団　『新堀川の風景』『元気な裸の仲仕達』第17回写真コンテスト「高知を撮る」受賞作品
高知市立市民図書館所蔵　武吉孝夫写真文庫

第Ⅲ章　実施経過

1. 実施経過(図20)

平成30年度

平成31年1月28日から3月31日まで発掘調査を行った。

現存する石垣の観察表作成，新堀の痕跡調査を目的とした物理探査，5箇所の試掘調査を行った。試掘調査は石垣の構造確認を目的としたものであり，横堀公園内を3箇所，石垣の根入れを対象として2箇所掘削を行った。

令和元年度

令和元年9月26日から令和2年1月31日まで発掘調査を行った。石垣の移設に伴い影響を受ける部分を2区画に分割し，南側をＡ区，北側をＢ区とした。

令和2年度

令和2年7月13日から令和3年2月22日まで石垣の解体調査および発掘調査を行った。埋設管工事のため立坑部分をＣ区，埋設管部分をＨ区とＩ区に分割し調査を行った。

石垣解体について，大きく分けて3つの手法や時期がみられたため，北よりＥ区，Ｆ区，Ｇ区の区画に分けた。また，公園のトイレとして稼働していた部分に関しては令和3年1月より調査に着手したため，Ｊ区とした。石垣の性格としてはＪ区とＥ区は同一である。

令和3年度

令和3年6月7日から6月30日まで新堀川護岸の西岸について発掘調査を行った。現在のはりまや橋小学校の南側周辺に旧新堀は存在したと考えられるが，明確な位置は不明である。西岸の石垣は東側の横堀公園側と打って変わり，石材は統一されておらず，積み方も不揃いである。観察表を作成することによって，石垣の全容をつかみ，石垣を破壊せず調査することを目的とした。また，平成30年度の調査において試掘を行った箇所について性格不明の木材を検出したことから，そのトレンチを拡張することによって平面的な情報を確認した。

現地説明会

発掘調査の成果を県民・市民の方々に報告するため，令和元年度は令和元年11月3日（日）と令和2年1月12日（日），令和2年度は令和2年10月17日（土）と令和2年11月14日（土）に現地説明会を行った。

令和元年度の1回目は47名，2回目は50名の参加があった。1回目の現地説明会は初回ということもあり，概要からの解説と主にＡ区の解説を行った。2回目の現地説明会はＢ区の解説を行った。

令和2年度の現地説明会は両日とも東山建設株式会社と協働で開催し，10月の現地説明会は株式会社粟田建設粟田純徳氏を講師として迎え，石垣に用いられている石の解説も行った。

当初は10月の現地説明会のみ開催の予定であったが，旧石垣を検出したことをはじめ再度現地説明会を行う必要があるとアドバイザーより指示があったため，11月に2回目の説明会を開いた。10月の現地説明会は新型コロナウイルス感染症感染予防対策として午前と午後に分割し，午前は53名，午後は37名，計90名の参加があった。説明内容は過去2年の調査の振り返りと令和2年度の調査で新たにわかったこと，亀甲積みの石垣が明治15年以降の構築であることを報告した。11月の現地説明

会は前回の補足とし，午前午後の分割は行わなかった。60名の参加があり，主に旧石垣について報告した。新堀川護岸は高知市の中心部であり，発掘調査現場も公園という憩いの場であることから関心を持たれやすく，調査中も質問を受けることが多かった。その都度対応することは調査の性格上難しく，特定の人のみが情報を得ることになってしまう。しかし，現地説明会を行うことで広く平等に周知を図り，理解してもらうことができた。

2.トレンチ調査(図20)

アドバイザー会議において新堀川護岸の構造を確認する必要があると提言され，公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが試掘確認調査を実施するよう指示があったため，平成31年1月より調査を行った。天明8(1788)年の絵図では現在の石垣部分が土塁や柳などの植栽と思われる表現がされており，現在の植栽が関係するものか調べて欲しいという地元の意見もあった。

トレンチを3箇所横堀公園内に設定し，2箇所は新堀川内に設定し，計5箇所の掘削を行った。

TR1(図20･21)

横堀公園の西側に位置する石垣の北部に設定した東西方向のトレンチである。幅2mのトレンチを天端より東に約7mの長さで設定した。石垣の裏込めの範囲の検出及び，それに伴う構造の調査をした。天明8(1788)年の絵図ではTR1に相当する部分に土塁状の植栽とみられる表記があり，土塁が現存する可能性があったが，現代の遺物が出土したことから戦後以降と判断される。また土塁ができる前段階には，コンクリートにより石垣天端上面がテラス状に固められていた。公園化に伴う整地層より下層では最低でも3回以上素掘りの土手状の傾斜があることがわかった。その前段階では，掘り込みの背後に溝を検出した。土手に伴う排水の機能を持っていた可能性がある。

図示した遺物は1～3である。1は陶器台付灯明皿である。鉄釉を施す。2は肥前波佐見産の磁器碗である。見込に五弁花のコンニャク印判，外面に唐草文，高台内に「大明年製」の染付がみられる。3は磁器碗である。高台内に「福貴者□」，内面口縁は四方襷の染付がみられ，見込には砂が付着する。

TR2(図20･21)

TR1は植栽の関係上約7mまでの展開しかできなかったため，TR1東端を補填する形でTR2を約2×3mで設定した。TR2では石垣や土手に関係する層は確認でき

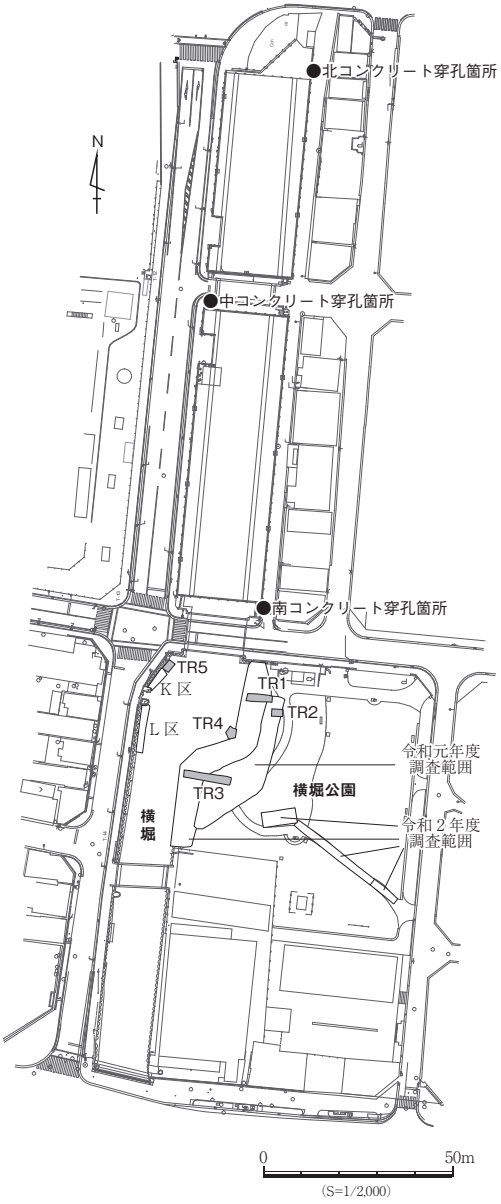


図20　調査区位置図

なかった。深さ40～80cmにかけて川砂利のような砂の堆積が確認された。TR3では対応する層がなく，公園化に伴う整地の可能性が考えられる。海抜0.2mほどで柱穴を確認した。また，その下層より石灰岩の礎盤を伴う柱穴を検出した。これらの遺構は出土遺物より江戸時代とみられる。

遺物は4～6を図示した。4は磁器広東碗である。見込に波濤文の染付がみられる。5は磁器碗である。見込に花文の染付がみられる。6は土師器皿で尾戸の白焼きである。

TR3（図20･22･23）

横堀公園の西側に連なる石垣の南部に設定した東西方向のトレンチである。幅2mのトレンチを石垣の天端より東に12.5mの長さで設定した。TR1と同様，石垣の裏込めの検出及び構造の調査を図るものである。土塁の下層では石灰岩を検出し，矢穴痕とルート痕が確認できた。ルートは戦後日本において使用され始めたものである。下層には川砂利が堆積しており，TR2のものと酷似する。東側の下層と対応する遺物が検出できたことから人為的な客土であると考えられる。戦前では，17世紀後半～18世紀前半，18世紀後半～19世紀，19世紀後半，明治期の4面確認できた。

地表面から1mほど下の高さでは焼土が非常に集中した第XVI層が確認でき，遺構と遺物が認められた。現在の石垣より5mほど東では南北方向の溝が検出された。この溝には瓦が規則的に並んでおり，溝の水切り的な役割を担っていた可能性がある。また，それより西では川に向かって下がっていく堆積があった。第XVI層の下層では，シルト質砂の第XⅤⅢ層がフラットに堆積しており，護岸的性格は認められなかったが，柱穴が確認できた。竹村家に伴うものである可能性がある。

遺物は7～29を図示した。7は陶器碗である。内面は淡黄色を呈し，内外面は灰釉が施される。8は陶器碗である。内外面はにぶい黄色を呈し，畳付は僅かに砂が付着する。9は陶器皿である。内面は灰黄色を呈する。10は陶器灯明受皿で回転ナデ調整され，受部に切り込まれる。11は陶器台付灯明皿である。内面から外面底部付近にかけて鉄釉が施される。12は陶器擂鉢である。内外面は灰褐色を呈する。13は陶器擂鉢である。内面口縁2条凹線，外面口縁2条凹線，10歯摺目である。14は陶器備前焼擂鉢である。内外面は灰赤色を呈し，外面口縁に二重凹線，内面口縁に一重凹線が施される。15は陶器甕である。底部は露胎である。16は磁器碗である。見込に一重圏線，外面に青海波文と外高台に二重圏線の染付が施される。17は磁器碗である。内面口縁に二重圏線，見込は一重圏線，外面には花文の染付がみられる。18は磁器碗である。外面は口縁に一重圏線，窓絵，外高台は三重圏線がみられ，高台内に「唐」という文字の染付がみられる。見込は二重圏線に五弁花である。19は磁器碗である。外面に二重圏線と草文，見込に一重圏線と松竹梅文の染付がみられる。20は磁器小皿か。外面は青磁釉が施され，内面は二重圏線と五弁花である。21は磁器杯である。内面に「山奇」の文字が染付で書かれる。22は磁器猪口である。内外面に透明釉が施され，高台は蛇ノ目釉剥である。23は肥前産磁器蓋である。内面に圏線と雷文，外面に扇文の染付が施される。24は肥前産磁器蓋である。内面に圏線と雷文，摘内に「瑞」の文字，外面扇文の窓絵の染付が施される。25は土師器皿である。26と27は土製品泥面子である。型成形で26はコウモリ文，27は「尾上」字か。28は石製品硯で，粘板岩か。29はガラス製品瓶である。「元禄海苔」のエンボス加工が施される。

TR4（図20）

横堀の東岸に石垣の下部構造を確認するために設定したトレンチである。干潟の発掘調査は生物に影響を与える可能性があるため，最小限の掘削にとどめた。

立面5と6－1の入隅に1辺2mの五角形のトレンチを設定した。全体を30cmほど掘り下げ，さら

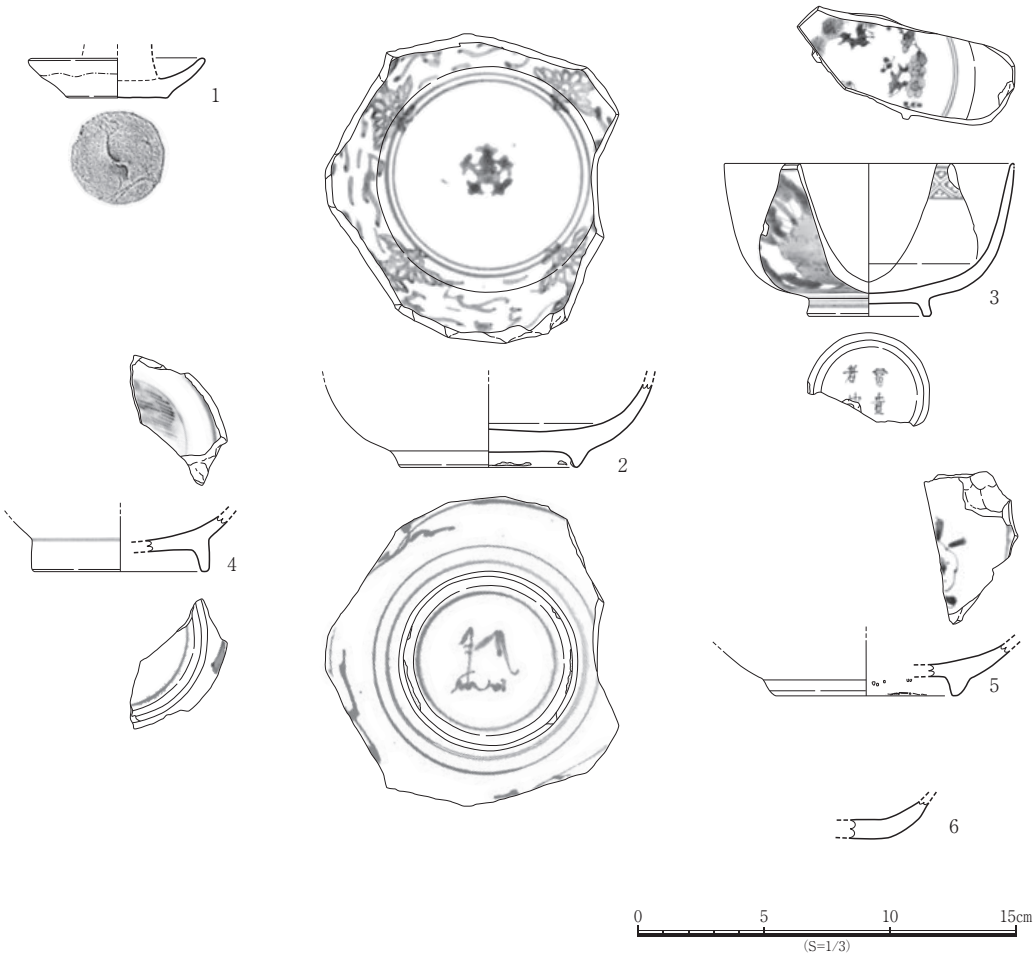


図21　TR1･2出土遺物実測図

に石垣より1mの範囲まで縮小し掘削した。海抜－60cmほどで松杭列とコンクリートを検出した。胴木の有無を確認するため，コンクリートを一部破壊した。コンクリートから下に90cmほど掘削し，根石と捨て石を検出した。非常に調査範囲が限られており，安全を確保するため捨て石の除去ができず，胴木の確認には至らなかった。干潟に覆われた石垣を含め，根石，捨て石に至るまですべて石灰岩であった。遺物は図示していない。

TR5（図20･23）

横堀の西岸の石垣の下部構造を確認するために一辺2mの正方形のトレンチを設定した。TR4と同様，生物に影響を与える可能性があるため最小限の掘削にとどめた。一辺2mの正方形の範囲を掘削したが，木材が検出され，トレンチのほとんどを占めるため，比較的石垣が安定している北に1mほど拡張し，2×3mのトレンチとした。

海抜－0.592mで胴木を確認した。胴木の上には長方形の石灰岩が2石認められた。その北側には直径40cmの木材があり，木材の上に花崗岩の築石が積まれていた。

トレンチ内には直径15cmほどの木材を石垣とは接触しないが，並行する角度で検出した。また，木材の間にはコンクリートの塊が挟まっていた。さらに海抜－0.02～－0.683mの間に石灰岩が数石とチャートが1石あった。おそらく旧石垣に使用されていた石材が廃棄されたものであると考えられる。TR5の石垣は明治期より徐々に埋め戻され，大正2（1913）年には完全に埋め戻される。今

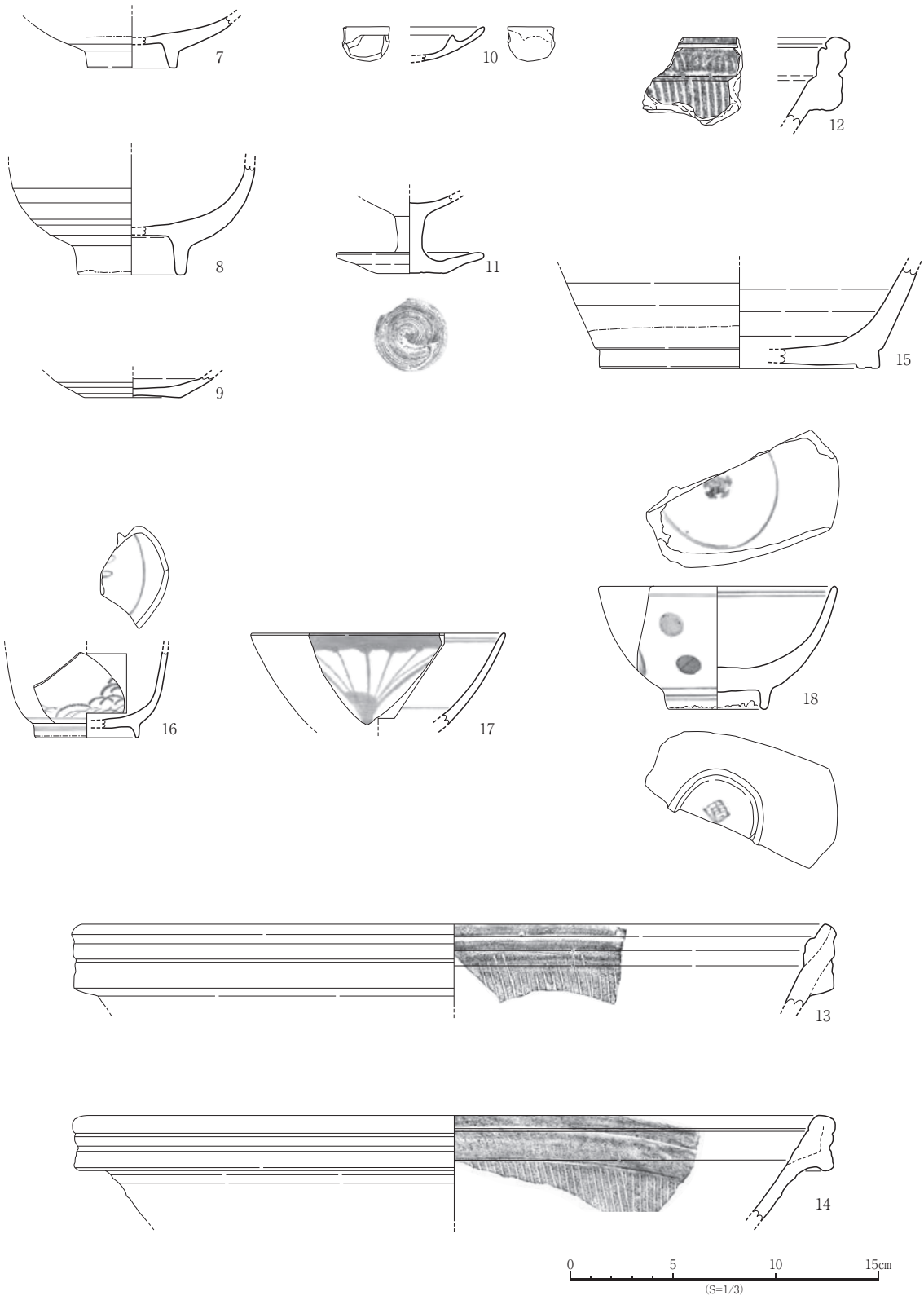


図22　TR3出土遺物実測図



図23　TR3･5出土遺物実測図

回検出された石灰岩の根石と胴木はその時のものと考えられる。また，新堀橋は大正から昭和初期の段階で初めて架橋される。花崗岩および，その下の木材がそれに伴う可能性がある。旧材の石灰岩はその際に廃棄されたと推測できる。遺物は30を図示した。30は磁器徳利であり，近代である。TR4とTR5は新堀川の中ということもあり，近代から現代にかけての廃棄物が多くみられた。

北コンクリート穿孔箇所(図20)

横堀の東岸かつ，駐車場の北部を掘削した。1.7mほど東へ掘り進めた。埋土には石灰岩などが含まれていた。この掘削範囲では石垣を確認することはできなかった。

中コンクリート穿孔箇所(図20)

新市橋の北部かつ，駐車場の下を掘削した。横堀の西岸にあたる。西へ1mほど掘削したが，石垣を確認することができなかった。埋土には石灰岩が含まれていたほか，工事に伴う現代のゴミが顕著であった。

南コンクリート穿孔箇所(図20)

横堀の東岸にあたる，駐車場と新堀橋の間を掘削した。東へ2mほど掘削したが，石垣を確認することはできなかった。埋土からは石灰岩など旧石垣に伴うであろう石材が出土した。

3.石垣観察

新堀川護岸に残存する石垣を把握するため，該当する箇所について写真測量を行い，石垣のオルソ画像などを作成した。また，トレンチ調査によって，石垣に追加できる部分も写真測量を行った。そのデータをもとに石垣観察表を作成し，石垣の積み方や石質の調査を行った。

オルソ画像だけではその変遷や歴史的背景を共有することが困難であるため，ここでは石垣の所見なども含めてまとめたものを石垣観察表と称した。

解体調査において補足した部分も多いため，石垣については後述する。

4.地中レーダ探査(図24･25)

新堀の埋没範囲やその性格を掴むため，応用地質株式会社に新堀地中レーダ探査を委託した。新堀推定範囲は近隣に小学校や民家が立ち並ぶため，発掘調査が困難である。そのため掘削を伴わないレーダ探査を用いて新堀の検出を試みた。絵図や航空写真より大まかに新堀の範囲を割り出し，東端は横堀に最も近い歩行者用道路，その西側の歩行者用道路，民地の東側駐車場，はりまや橋小学校側の歩道，横堀側の歩道を計測した。

新堀想定位置の最も東側と西側は埋設物などの撹乱が激しく，堀についてあまり望んだような成果が出なかった。しかし，2測線については民地のためあまり開発された形跡がなく，想定される範囲で掘り込み状の波形が確認できた。



図24　測線配置図



図25　解析結果

第Ⅳ章　調査の成果

横堀公園は県民の憩いの場として親しまれているため，全面を占有するのではなく護岸から東屋にかけて占有し，東側を解放することで通行に配慮した。そのため，土置き場を確保するべく調査区の南をＡ区，北をＢ区と2分割して調査を行った。また，Ｃ区，Ｈ区，Ｉ区は通信管埋設のため追加で調査を行い，それぞれ土置き場を確保するため分割している(図26)。

検出面については4面に分けて報告する。第1遺構面は戦前，第2遺構面は明治・大正期，第3遺構面は幕末，第4遺構面は江戸前期～中期とする。

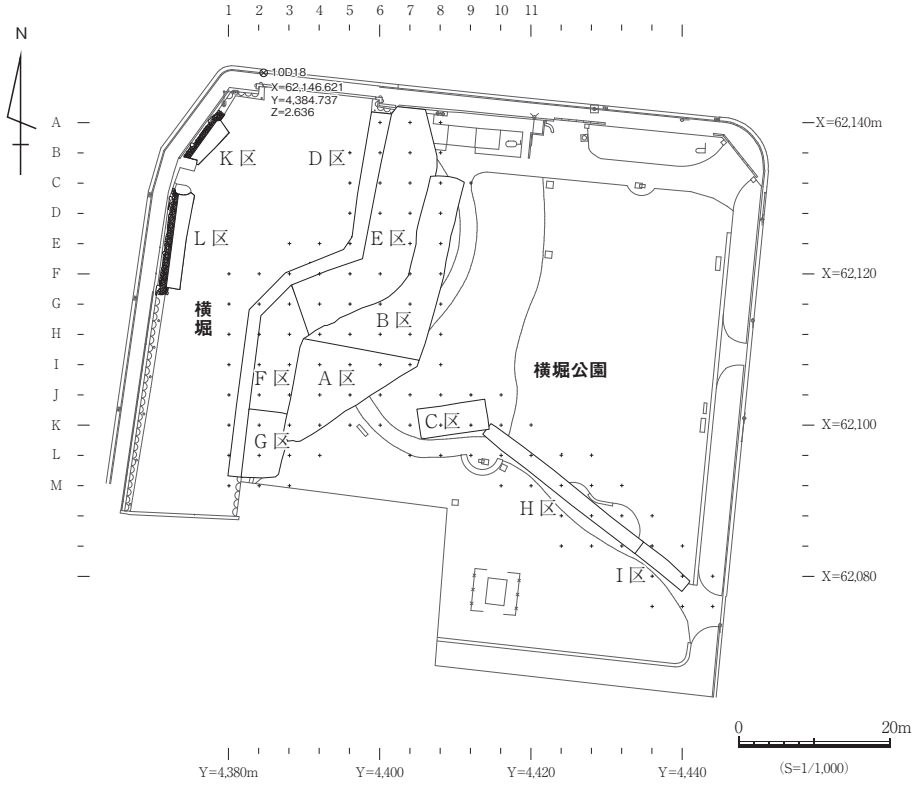


図26　調査区位置図

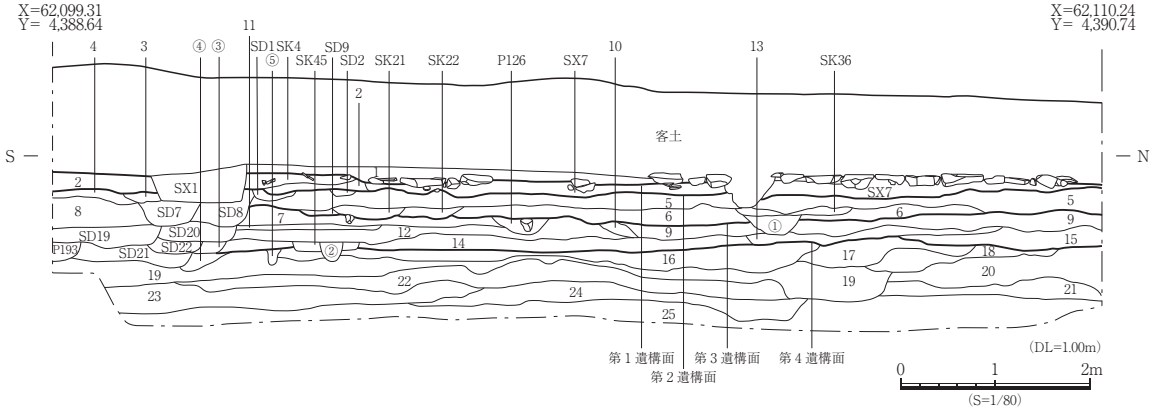
1. A区

(1) 基本層序(図27)

調査区全面に客土がみられ，厚さは約0.8～1.2mを測る。公園の造成による撹乱が顕著であった。なお，この性格は横堀公園全体にみられ，それ以下の層序も大きく変化がなかったため調査区全体の層序とする。第1遺構面は0.6～0.7mの高さで検出し，やや南に向かって下がる。SX1やSB1，巣窟庵跡は0.7m前後で検出しており，石垣もこの高さより積み方が変わることから，この高さの時期に画期があることがわかる。建物の前後はハンダなどで突き固められる。2層は焼土と瓦が堆積していた。後述するがSX1はおそらく蔵の基礎であったため，その廃棄に伴う可能性がある。第Ⅰ層は第1遺構面と第2遺構面の間を指す整地層である。灰黄褐色中粒砂質シルトに中礫を含む。第2遺構面は0.38～0.48mの高さで検出した。第Ⅱ層は主に細粒砂質シルトが堆積している整地層であ

る。焼土や炭化物も含まれているが，平面的に焼けた痕跡はなく，整地層に混じっている。第3遺構面は0.25～0.3mの高さで検出した。第Ⅲ層は主に中粒砂質シルトが堆積している整地層である。マンガンが多く，粘性が強い。第4遺構面は－0.05～0.1mの高さで検出した。生活の痕跡は確認できなかったが，第25層で粗朶を検出した。後述するが，J区で検出した粗朶と同一の可能性がある。

一帯は0.6mほどで湧水があった。新堀川は干満の影響を受けるため，満潮時の湧水は特に顕著であった。



層位
第1層　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂質シルト層で，中礫を含む
第Ⅰ層(包含層)
第2層　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト層で，焼土と瓦を含む
第Ⅱ層(包含層)
第3層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂質シルト層で，中礫を含む
第4層　にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルト層で，焼土と中礫と瓦を含む
第5層　にぶい黄褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト層で，焼土と炭化物を含む
第6層　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト層で，炭化物を含む
第7層　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト層で，僅かに焼土を含む
第8層　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト層で，焼土と炭化物を含む
第Ⅲ層(包含層)
第9層　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト層で，中礫，焼土，炭化物を含む
第10層　灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト層で，中礫とマンガンを含む
第11層　にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂質シルト層で，焼土と炭化物を含む
第12層　灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト層で，粘性が強く，マンガンを含む
第13層　にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルト層で，炭化物とマンガンを含む
第14層　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂質シルト層で，粘性強く，マンガンを斑に含む
第15層　灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト層で，粘性が強く，マンガンを含む
第16層　にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂質シルト層で，中礫と炭化物を含む
無遺物層
第17層　にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルト層で，中礫を含む
第18層　黄褐色(10YR5/1)シルト質中粒砂層で，マンガンを含む
第19層　灰黄褐色(10YR5/2)中粒砂質シルト層で，中礫を含む
第20層　黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂層で，マンガンを含む
第21層　黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂質シルト層で，中礫を含む
第22層　灰色(5Y4/1)細粒砂質シルト層で，粘性強い
第23層　黄灰色(2.5Y5/1)中粒砂質シルト層で，粘性強く，マンガンを含む
第24層　黄褐色(10YR5/1)細粒砂質シルト層で，マンガンを含む
第25層　灰黄褐色(10YR5/2)シルト質中粒砂層で，マンガンを含む

遺構埋土
① 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトで，焼土を僅かに含み，中礫と瓦を含む(ピット)
② にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂質シルトで，中礫を多く含む(ピット)
③ 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトで，炭化物を含む(ピット)
④ 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトで，中礫とマンガンを含む(ピット)
⑤ にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂質シルトで，焼土を多く含み，炭化物を含む(ピット)
⑥ 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトでマンガンを含む(ピット)

図27　A区西壁セクション

(2) 包含層出土遺物

客土(図28)

公園の整地によって撹乱された遺物が混入していたため報告する。図示した遺物は31～37である。31は陶器台付灯明皿である。鉄釉が施され，底部は糸切りされる。32は能茶山窯磁器碗である。見込は圏線内に山水楼閣，高台内に「茶」の銘がみられる。外面には格子文，外高台には三重圏線がみられる。33は金属製品古銭，天保通寶である。34～37は土製品泥面子である。いずれも型成形で34は備前蝶，35は変わり左二つ丁子巴がみられる。36は「自」字文，37は「福」字文である。

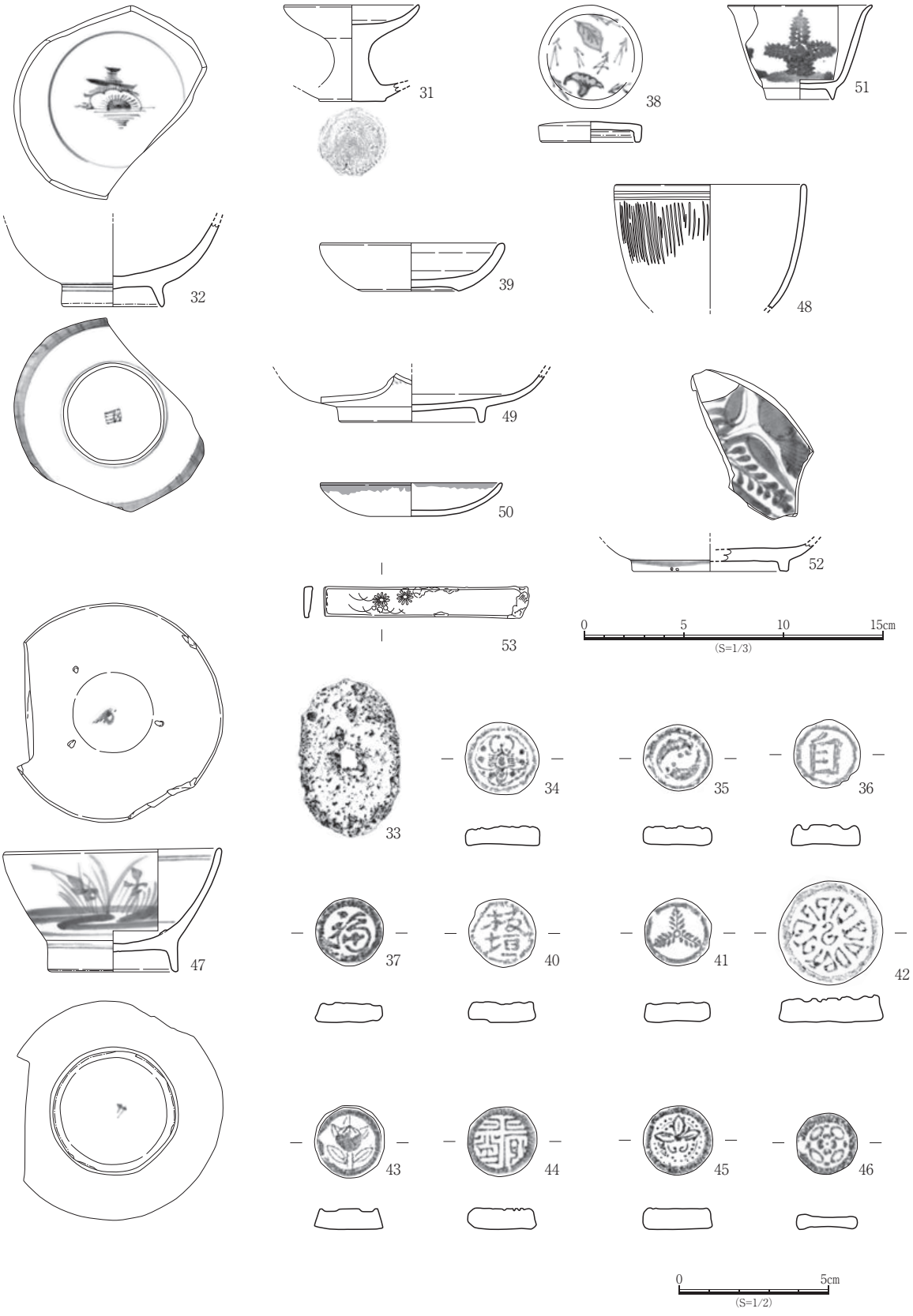


図28　A区客土・包含層出土遺物実測図

第Ⅰ層(図28)

第Ⅰ層は近代の整地層であるが，江戸時代の遺物が含まれていたため報告する。図示した遺物は38～46である。38は能茶山窯磁器蓋である。全体に透明釉が施され，外面に草花文と松葉文の染付がみられる。39は土師質土器皿である。40～46は土製品泥面子である。いずれも型成形で，下面はナデ調整である。40は「板垣」字文，41は三ツ葉柏文，42は幾何学文様，43は橘文，44は篆書の文字がみられる。45は草花文か。46は梅文か。

第Ⅱ層(図28)

第Ⅱ層は近代の整地層であるが，江戸時代の遺物が含まれていたため報告する。図示した遺物は47である。47は能茶山窯磁器広東碗である。外面に草花文と蝶文，内面に帆掛船と一重圏線，外高台，外面頸部，内面口縁に圏線がみられ，高台内に「サ」銘がみられる。見込にはハマ跡が残る。

第Ⅲ層(図28)

第Ⅲ層は近世の整地層である。遺物は48～53を図示した。

48は陶器碗である。全体に灰釉が施される。外面口縁は白化粧土象嵌による二重圏線と体部に暦手文がみられる。尾戸窯とみられる。49は陶器碗とみられる。全面に灰釉が施され，畳付は釉剥される。外面に僅かに染付が残存する。尾戸窯とみられる。50は陶器灯明皿である。内外の口縁部にタールが付着する。51は肥前系磁器染付杯である。全面に透明釉が施される。外面に植物文のコンニャク印判がみられる。口縁は外反する。52は青花皿である。透明釉が施される。内面に草花文，外高台に一重圏線がみられる。53は金属製品小柄である。柄に菊の陽刻がみられる。

(3) 遺構と遺物

①第1遺構面(図30)

石列1(図29)

検出長は9.8m，検出幅は3.2mを測る石列である。主に石灰岩が使用されており，石材は平面が平坦になるように加工されている。また，石列の中に石灰岩の破片が敷かれている。昭和初期頃に巣窟庵と呼ばれる建物がこの一帯に移築されたことから，その時の施工の可能性が高い。

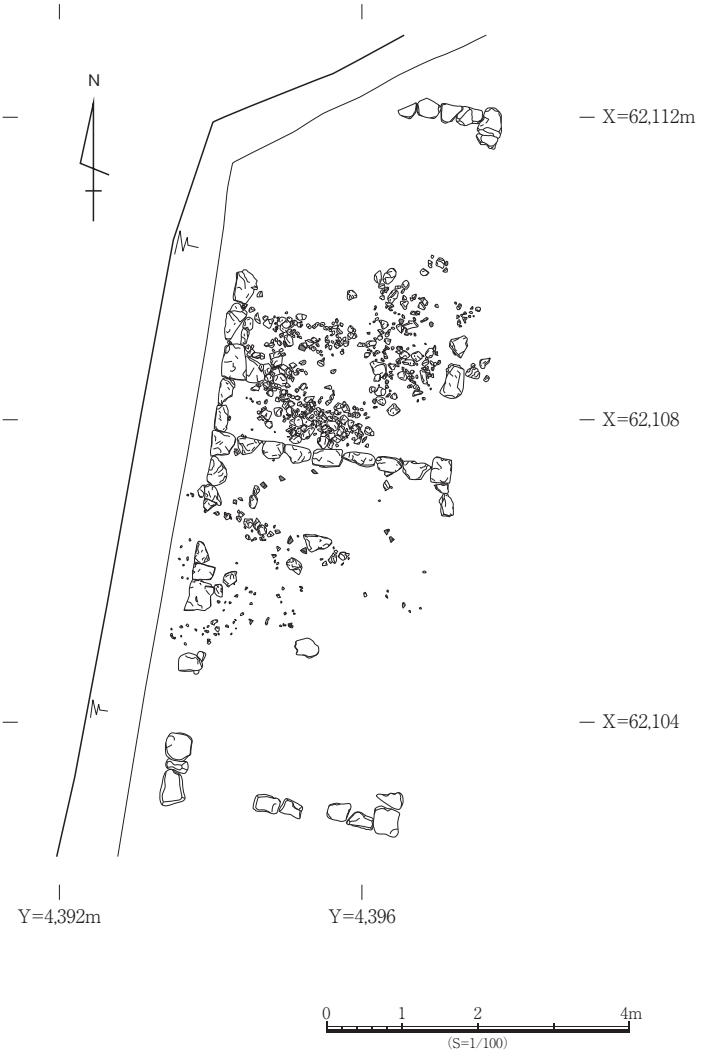


図29　A区石列1



図30　A･B区第1遺構面平面図

SK1（図31）

撹乱に切られる。平面形態は長方形を呈す。検出長は1.40m，検出幅は1.14m，深さは15.3cmを測る。埋土は黒褐色粗粒砂で，黄褐色粗粒砂の擬礫を含む。出土遺物は陶器25点，磁器7点，土師器1点，土製品１点である。図示した遺物は54である。54は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。四つ目菱文である。下面に煤のようなものが付着する。

SK4（図31）

SX1に切られる。平面形態は不整形を呈す。検出長は1.74m，検出幅は1.18m，深さ15.6cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで石灰岩の礫と焼土，炭化物を含む。出土遺物は平瓦が3点，瓦片が1点，陶器33点，磁器40点，炻器7点，ガラス製品4点，鉄製品6点，泥面子1点である。図示した遺物は55～58である。55は磁器隅切角皿である。外面体部に花卉文，雲文がみられ，外高台に圏線，高台内に一重圏線と変形銘，内面体部に松に梅文，如意頭の窓絵に水草と蛤がみられる。四隅は四方襷に雷文，見込淵に雷文，捻文と宝文の染付がみられる。56は磁器蓋付鉢か。外面に蝶文，草花文，渦文がみられる。57は磁器香炉である。外面型紙刷りで雷文と篆書の「福」字がみられる。58は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整で組合い菱文である。

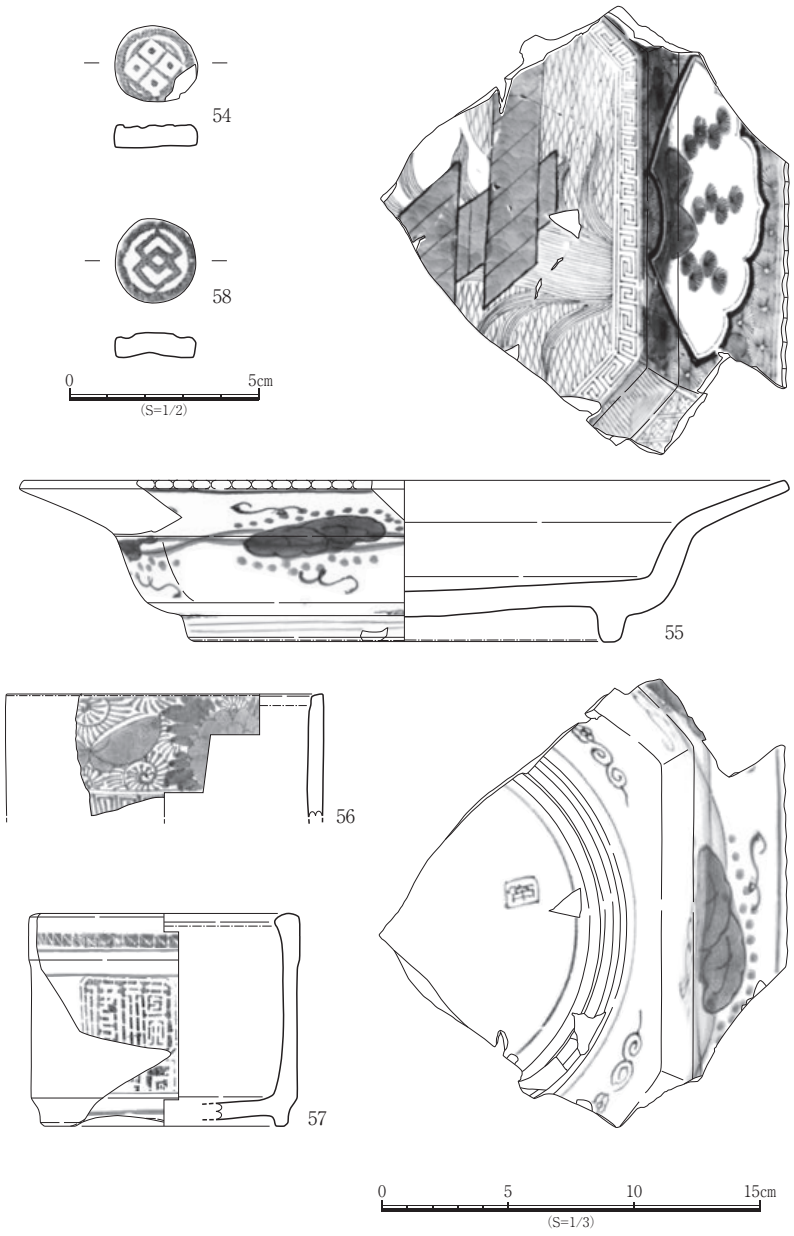


図31　A区SK1・4出土遺物実測図

SK5（図34）

SX7，P32を切る。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.00m，検出幅0.64m，深さ6.9cmを測る。埋土はにぶい黄褐色細粒砂質シルトで明黄褐色のブロックと石灰岩の礫を含む。出土遺物は陶器1点，磁器1点，金属製品1点である。図示した遺物は59である。59は金属製品の簪である。頭部は耳掻き状を呈し，頭部より約2cmの部分に径2mmの円孔を有する。

SK6（図32・34）

SK7，SK16を切る。平面形態は溝状を呈する。検出長2.60m，検出幅0.53m，深さ7.8cmを測る。埋土は黒褐色シルト質細粒砂で0.2～0.4cmの礫を含む。出土遺物は陶器5点，磁器5点，土師器3点，鉄製品1点，ガラス製品1点である。図示した遺物は60である。60は陶器猪口である。底部は露胎し，回転糸切りである。

SK7（図32・34）

SK6に切られ，SK16，SX8を切る。平面形態は溝状を呈する。検出長2.92m，検出幅は0.71m，深さ6.2cmを測る。埋土はセクション図に記載した。出土遺物は陶器17点，磁器4点，炻器6点である。図示した遺物は61と62である。61は陶器鉢である。外面に黒褐釉で文様を施す。行平鍋の一部か。62は瓦質土器火鉢である。外面段部には縮緬状の文様に獅子の突起を貼付し，突起には径8mmの円孔が施される。内面には煤が付着する。

SK8（図34）

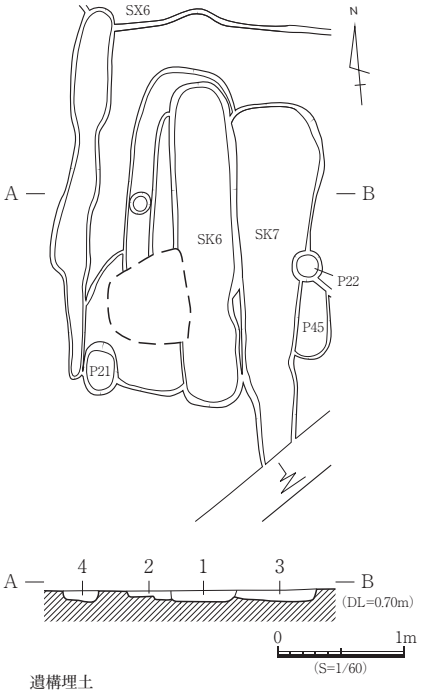
SK9を切る。平面形態は楕円形を呈し，検出長1.84m，検出幅1.32m，深さ7.4cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで焼土と炭化物を含む。出土遺物は陶器17点，磁器4点，炻器6点，泥面子1点である。図示した遺物は63～65である。63は陶器台付灯明受皿である。内面から外面にかけて鉄釉が施され，底部は回転糸切り痕が認められる。64は磁器丸形碗である。外面区画間に草文がみられる。腰部はやや張り，口縁部は内湾気味に立ち上がりのびる。やや被熱している。65は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整で「尾上」文がみられる。

SK10（図33・34）

SX9を切り，P26に切られる。平面形態は不整形を呈し，検出長1.45m，検出幅0.80m，深さ9.0cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細粒砂に0.5～1cmの礫と焼土，炭化物を含む。出土遺物は陶器11点，磁器7点である。図示した遺物は66である。66は磁器皿である。外面に唐草文，内面に窓絵に壽と格子の染付がみられる。

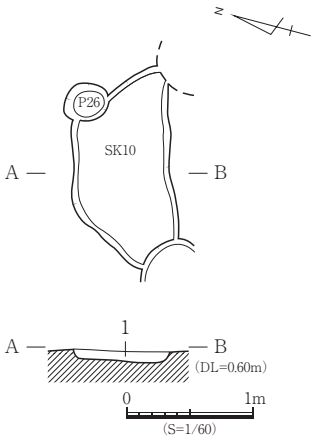
SK11（図34）

SD1・5を切る。平面形態は方形を呈し，検出長2.0m，検出幅1.50m，深さ45.9cmを測る。埋土は褐色の細粒砂質シルトに焼土と石灰岩を含む。出土遺物は平瓦4点，桟瓦4点，丸瓦1点，瓦片6点，陶器20点，磁器31点，炻器9点，鉄製品4点である。図示した遺物は67～69である。67は陶器餌鉢である。内面から外面体部にかけてオリーブ黄が施される。外面に銅板の細工がみられる。68は



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト質細粒砂で，細礫を含む（SK6）
2. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質細粒砂で，細礫を含む
3. 黒褐色（10YR3/2）シルト質細粒砂で，細礫と炭化物を含む（SK7）
4. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質細粒砂で，細礫を含む

図32　A区SK6・7



遺構埋土
1. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質細粒砂で，粗礫と焼土，炭化物を含む

図33　A区SK10

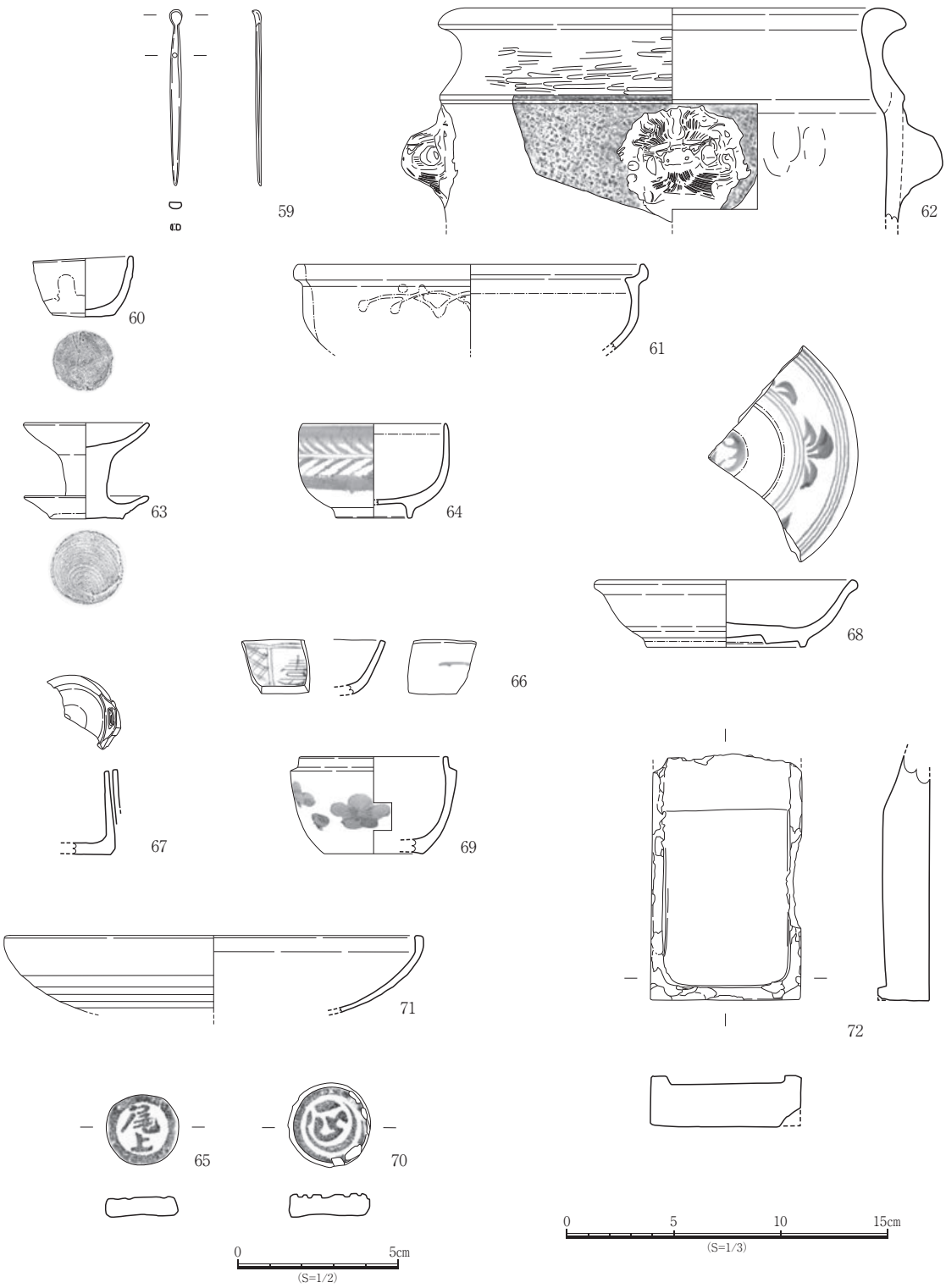


図34　A区SK5～15出土遺物実測図

肥前波佐見産の磁器皿である。見込は蛇ノ目釉剥，蛇ノ目内および内面に草文，圏線が施され，内面口縁には四重圏線がみられる。蛇ノ目凹形高台であり，口縁が肥厚する。69は磁器合子である。透明釉が施され，口縁部は露胎である。外面に梅文の染付がみられる。

SK12（図34・35）

SX6・8を切り，SK13，P34に切られる。平面形態は方形を呈し，検出長2.27m，検出幅2.20m，深さ12.1cmを測る。上層は黒褐色細粒砂質シルト，下層は暗褐色細粒砂質シルトで0.5～1cmの礫を僅かに含む。遺構の南西部には瓦を用いた仕切りがみられた。出土遺物は陶器3点，磁器4点，炻器5点，鉄製品3点，泥面子1点である。図示した遺物は70である。70は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。「福」文である。

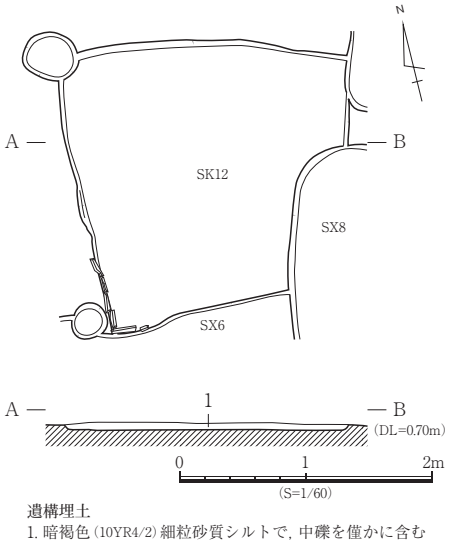


図35　A区SK12

SK15（図34）

SX9を切り，P27・35に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長2.32m，検出幅0.43m，深さ34.4cmを測る。埋土は暗褐色細粒砂質シルトに0.2～0.4cmの礫を含む。出土遺物は陶器25点，磁器15点，土師器１点，石製品1点である。図示した遺物は71と72である。71は土師器皿である。内面底部に煤が付着する。72は石製品硯である。僅かに墨の痕が残る。流紋岩とみられる。陸から波止まで残存している。

SD1（図37）

SD3を切り，SK11，P29・30に切られる。検出長3.11m，検出幅1.15m，深さ0.50cmを測る東西溝跡である。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトに明黄褐色シルトを僅かに含む。出土遺物は陶器77点，磁器146点，土師器2点，炻器20点，ガラス製品7点，鉄製品6点，土製品3点，貝3点，骨3点である。

図示した遺物は73～77である。73は陶器蓋である。暗赤褐釉と黒釉が施される。74は磁器猪口である。外面に「嫦娥□」，山水風景の染付がみられる。75～77は土製品泥面子である。いずれも型成形で，下面はナデ調整である。75は丸に「璃」文，76は隅立て四つ目文，77はコウモリ文である。

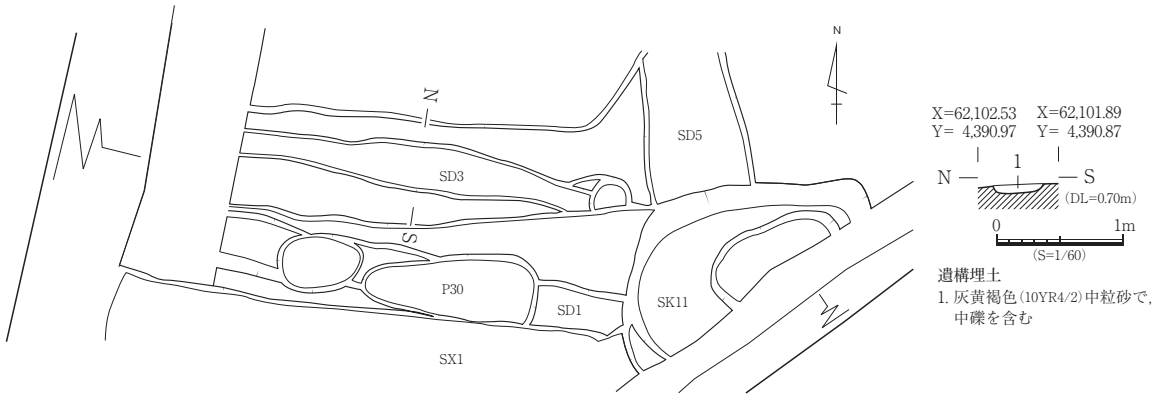


図36　A区SD3

SD3(図36・37)

SD1に切られる。検出長5.24m，検出幅0.40m，深さ5.1cmを測る東西溝跡である。断面形は逆台形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトである。出土遺物は陶器30点，磁器18点，炻器10点である。図示した遺物は78である。78は陶器火鉢である。外面に緑釉が施され，外面頸部に花文がみられる。内面肩部に煤が付着する。

SD5(図37)

SK11，SX7に切られる。検出長1.66m，検出幅0.85m，深さ9.1cmを測る南北溝跡である。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂に礫を含む。出土遺物は平瓦1点，桟瓦3点，瓦片1点，陶器40点，磁器30点，土師器3点，炻器9点，鉄製品2点である。図示した遺物は79である。79は陶器火入である。外面に青灰釉と黒褐釉が施される。低平で円筒形を呈し，口縁は肥厚する。また，内面体部に鉄が付着していた。

SD6(図37・38)

SX8を切る。検出長3.12m，検出幅0.82m，深さ12.1cmを測る南北溝跡である。埋土は暗褐色シルト質細粒砂で細礫と焼土を含む。出土遺物は陶器25点，磁器41点，土師器2点，炻器7点，玩具2点である。図示した遺物は80である。80は陶器碗である。内面から外面体部にかけて灰白釉が施され，外高台は土見せである。内面は蛇ノ目釉剥され，砂が付着する。

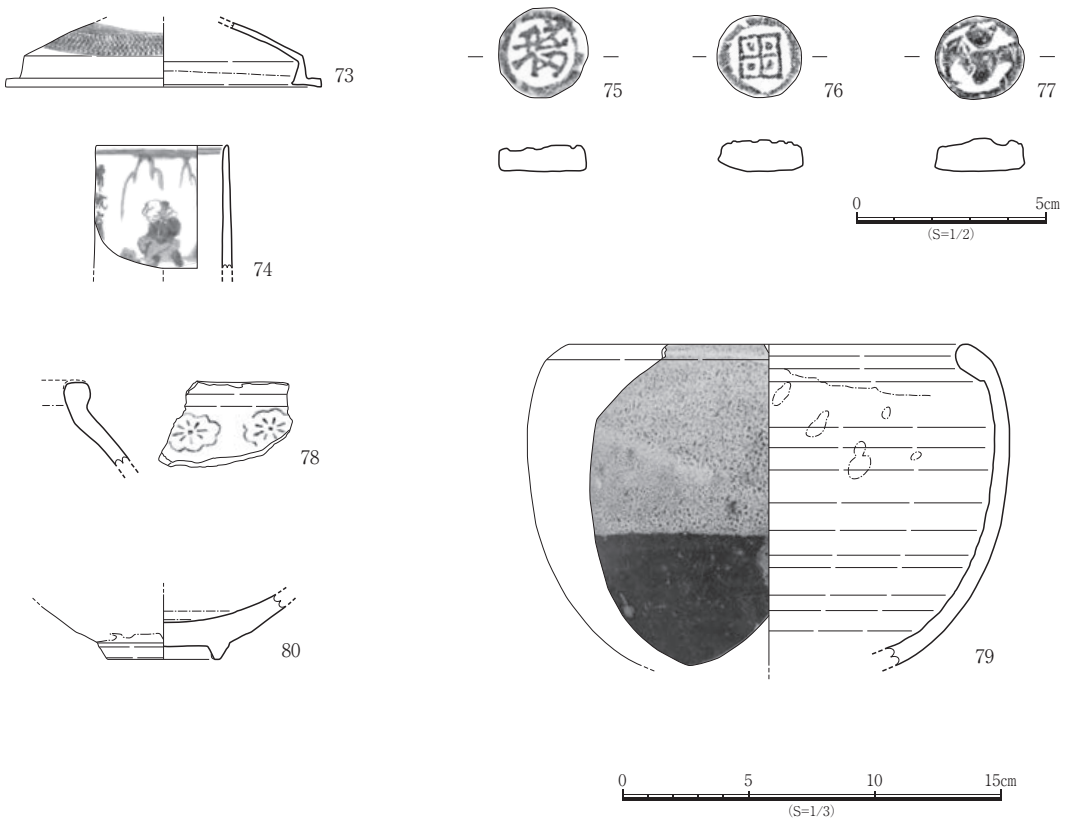
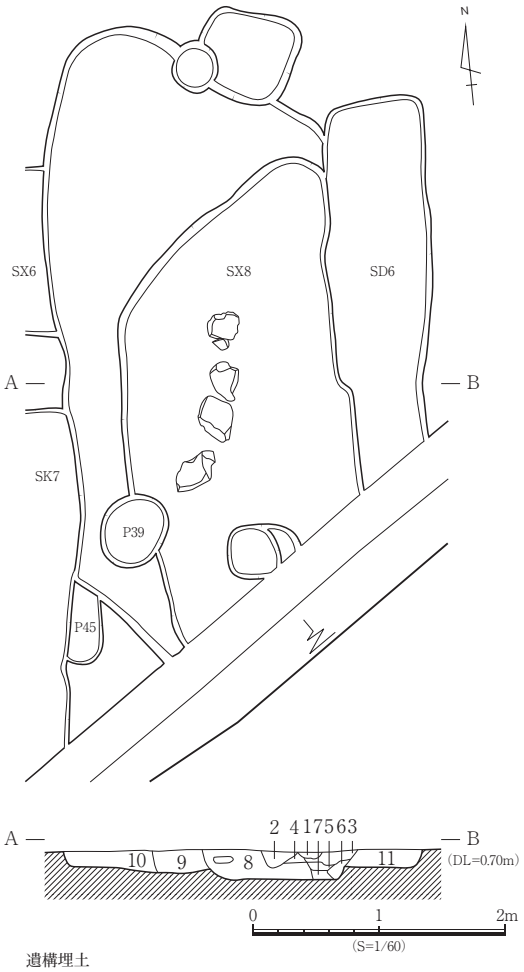


図37　A区SD1～6出土遺物実測図

SX1（図39）

SK4を切る。平面形態は溝状を呈し，検出長5.34m，検出幅1.14m，深さ47.7cmを測る。F区の石垣の延長であり，建物跡の可能性が高い。この石垣が竹村家の母家と庭園部分の境界である。石垣から南にかけて灰オリーブ色中粒砂質シルトが堆積し，石垣の天端を覆う。石垣は石灰岩で構成されており，間には黄褐色のハンダが補填される。また，蔵内部の版築として灰褐色中粒砂質シルトが認められた。出土遺物は平瓦1点，桟瓦9点，丸瓦1点，瓦片9点，陶器59点，磁器116点，炻器21点，土製品2点，ガラス製品1点，鉄製品1点である。

図示した遺物は81～87である。81は陶器輪花皿である。外面に草花文，内面に松竹梅文，菖蒲文がみられる。底部は蛇ノ目凹形高台を呈し，高台内に「仕」の墨書か。82は陶器蓋である。天井部は平坦に近いが中心部はやや盛り上がり，断面は三角形状の返りが垂直気味に付き，口縁端部は面取状である。83は陶器蓋である。外面に鉄釉を施す。外面天井部にクシ目，あるいはハケ目による調整がされる。摘はボタン状を呈し，外面に釘の先端が溶着する。84は磁器杯である。口縁部と内面に絵付され，口縁部は外方に開き，外面には段を設ける。85は肥前系磁器小瓶である。外面に蛸唐草文の染付がみられる。86と87は土製品泥面子である。いずれも型成形で，下面はナデ調整である。86は橘文，87は桔梗文である。



遺構埋土
1. 橙色（7.5YR6/6）細粒砂（SX8）
2. 明黄褐色（10YR6/8）中粒砂で，石灰岩を含む（SX8ハンダ）
3. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質細粒砂で，明黄褐色（10YR6/8）中粒砂のハンダを僅かに含む（SX8）
4. 暗褐色（10YR3/3）シルト質細粒砂で，中礫を含む（SX8）
5. 黒褐色（10YR3/2）中粒砂で，中礫，鉄を含む（SX8）
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質細粒砂で，焼土と炭化物を含む（SX8）
7. にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂質シルトで，炭化物を含む（SX8）
8. 暗褐色（10YR3/3）シルト質細粒砂で，中礫を含み，瓦・遺物が集中する（SX8）
9. 黒褐色（10YR3/2）シルト質細粒砂で，中礫を多く含む（SX8）
10. 暗褐色（10YR3/3）シルト質細粒砂で，中礫を多く含む
11. 暗褐色（10YR3/3）シルト質細粒砂で，中礫と焼土を含む（SD6）

図38　A区SD6，SX8

SX6（図39・40）

SK12，SD2，SX8を切り，SX7に切られる。平面形態は不整形を呈し，検出長3.89m，検出幅1.35m，深さ13.1cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂に細礫を含む。出土遺物は陶器28点，磁器13点，土師器9点，鉄製品3点である。図示した遺物は88である。88は磁器碗である。全体に透明釉が施され，内面口縁部に六重圏線（一部雷文），見込腰部に一重圏線，中心一重圏線内に舟文がみられる。外面は口縁に二重圏線，水鳥と流水文，腰に一重圏線，腰と高台の間に一重圏線，外高台に一重圏線の染付がみられる。

SX7（図39）

SX6を切り，SD4に切られる。平面形態はやや方形を呈し，検出長59.9m，検出幅33.8m，深さ7.1cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質細粒砂に礫を含む。出土遺物は丸瓦1点，陶器40点，磁器39

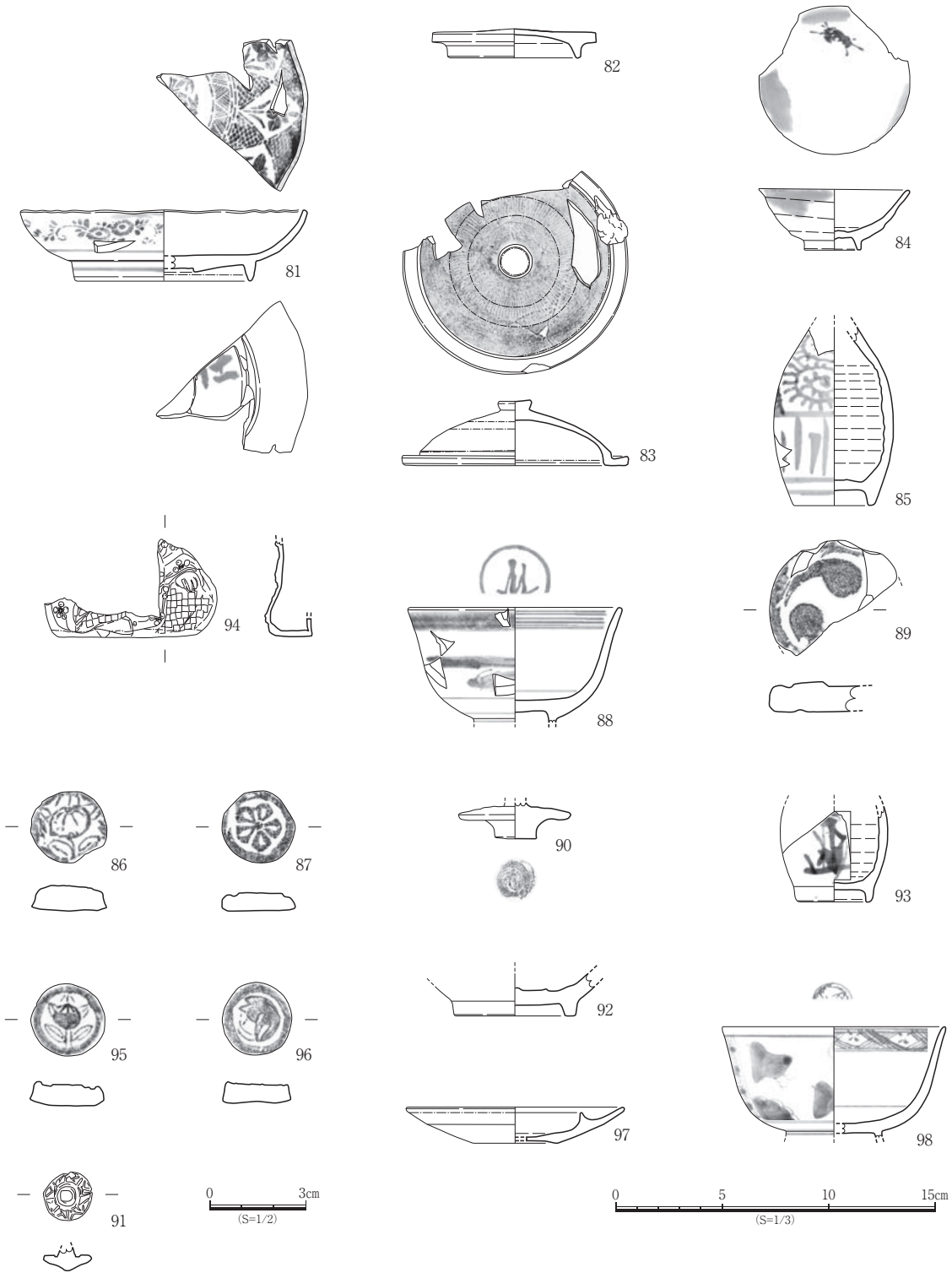


図39　A区SX1～9出土遺物実測図

点，土師器4点，炻器3点，鉄製品6点，土製品１点である。図示した遺物は89である。89は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。三巴文か。

SX8（図38・39）

SK14，P47を切り，SK7・12，SD6，SX6，P33・39に切られる。平面形態はやや長方形を呈し，検出長5.03m，検出幅2.25m，深さ19.6cmを測る。埋土はセクションに記した。この遺構から検出した石は全て石灰岩である。出土遺物は平瓦1点，桟瓦3点，丸瓦2点，瓦片4点，陶器112点，磁器147点，土師器1点，玩具1点，炻器58点，鉄製品18点，土製品2点，銅銭2点である。図示した遺物は90～96である。90は陶器蓋である。外面は鉄釉を施す。91は陶器玩具である。外面に橙釉を施し，独楽状を呈する。表面には山形状の文様がみられる。92は磁器瓶である。外面に灰釉が施され，畳付は無釉である。93は磁器小瓶である。外面は草花文の染付がみられる。94は磁器人形である。外面に灰白釉を施し，底部は無釉である。型合わせの人形であり，中空になる。市松模様の枕に肘を置く。95と96は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。95は橘文，96は草花文か。

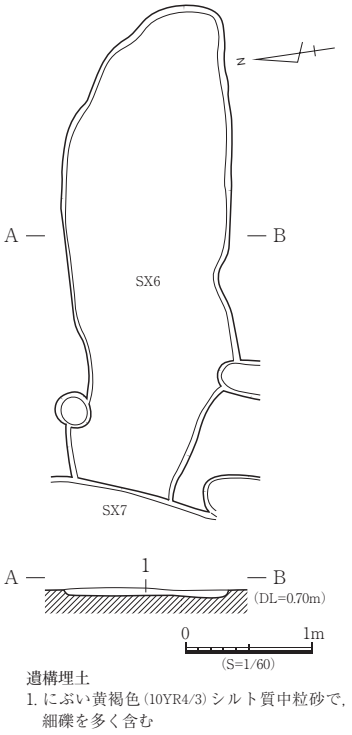


図40　A区SX6

SX9（図39・41）

SK15，P28に切られる。平面形態は長方形を呈し，検出長3.56m，検出幅2.00m，深さ15.9cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトに中礫と焼土，炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，陶器29点，磁器23点，土製品玩具6点，鉄製品3点である。図示した遺物は97と98である。97は陶器灯明受皿である。灰黄釉が内面から外面口縁部まで施される。僅かにタールが付着する。98は磁器碗である。内外面に透明釉が施され，外面は窓絵に青海波，雲に千鳥,圏線の染付がみられる。内面口縁に四方襷，圏線，見込に松竹梅文がみられる。

P6（図42）

平面形態は楕円形を呈し，長径72cm，短径68cm，深さ23.6cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明黄褐色細粒砂質シルトのブロックを含む。図示した遺物は99と100である。99は陶器皿である。灰白釉が内面から外面口縁まで施される。細かい貫入が入る。見込の一部に目跡が残る。100は磁器碗である。見込と外高台に圏線の染付がみられる。

P9（図42）

平面形態は楕円形を呈し，長径82cm，短径57cm，深さ

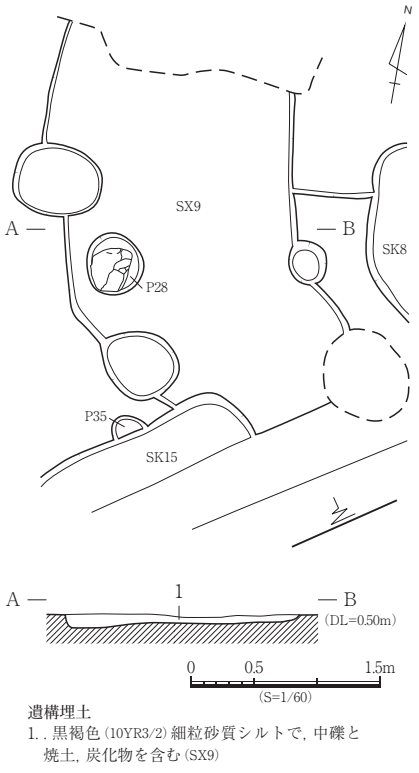


図41　A区SX9，P28

10.8cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。101を図示した。101は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。矢車文である。

P13(図42)

SX7を切り，平面形態は楕円形を呈し，長径60cm，短径40cm，深さ8.9cmを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂で，細礫を含む。図示した遺物は102である。102は陶器瓶である。外面に鉄釉が施される。轆轤成形で底部が面取される。

P22(図42)

平面形態は楕円形を呈し，長径38cm，短径31cm，深さ8.1cmを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂で,細礫を含む。図示した遺物はいずれも掘方から出土しており,103･104はガラス製品である。103は瓶蓋であり,瓶との接点が擦れる。104は瓶である。角肩で気泡が入る。頸部は蓋により擦れる。103と104はセットである。

P28(図41・42)

平面形態は楕円形を呈し，長径50cm，短径42cm，深さ15.3cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，細礫を含む。底には石灰岩がみられた。礎盤か。図示した遺物の105は磁器碗である。外面に鳥文と花文,腰部と外高台に一重圏線,見込に一重圏線の染付がみられる。見込にピン痕が残る。

P30(図42)

SD1を切り，SX1に切られる。平面形態は楕円形を呈し，長径140cm，短径55cm，深さ12.9cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。図示した遺物は106と107である。106は陶器蓋である。天井部にリボン状の摘を貼付する。107は磁器輪花皿である。内面体部窓絵に草花文，菊文，見込に三角文，松竹梅文，外面に花唐草文の染付がみられる。蛇ノ目凹形高台である。

P35(図41・42)

SK15を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径45cm，短径43cm，深さ27.6cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，明黄褐色細粒砂の擬礫を多く含む。図示した遺物は108と109である。108は陶器土瓶である。内外に鉄釉を施し，外面口縁から胴部まで飛鉋文がみられる。109は磁器輪花皿である。内面に草花文，蝶文，亀甲文，外面に唐草文,下界線がみられる。見込は三角文，松竹梅文，外高台に圏線がみられる。蛇ノ目凹形高台で型打成形である。

P38(図42)

SK13を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径74cm，短径46cm，深さ11.6cmを測る。埋土は灰黄褐色細粒砂質で，焼土と炭化物，細礫を含む。図示した遺物の110は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。花文である。

P45(図42)

SK7に切られる。長径67cm，短径25cm，深さ3.1cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細粒砂で細礫を含む。図示した遺物の111は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。四つ目菱である。

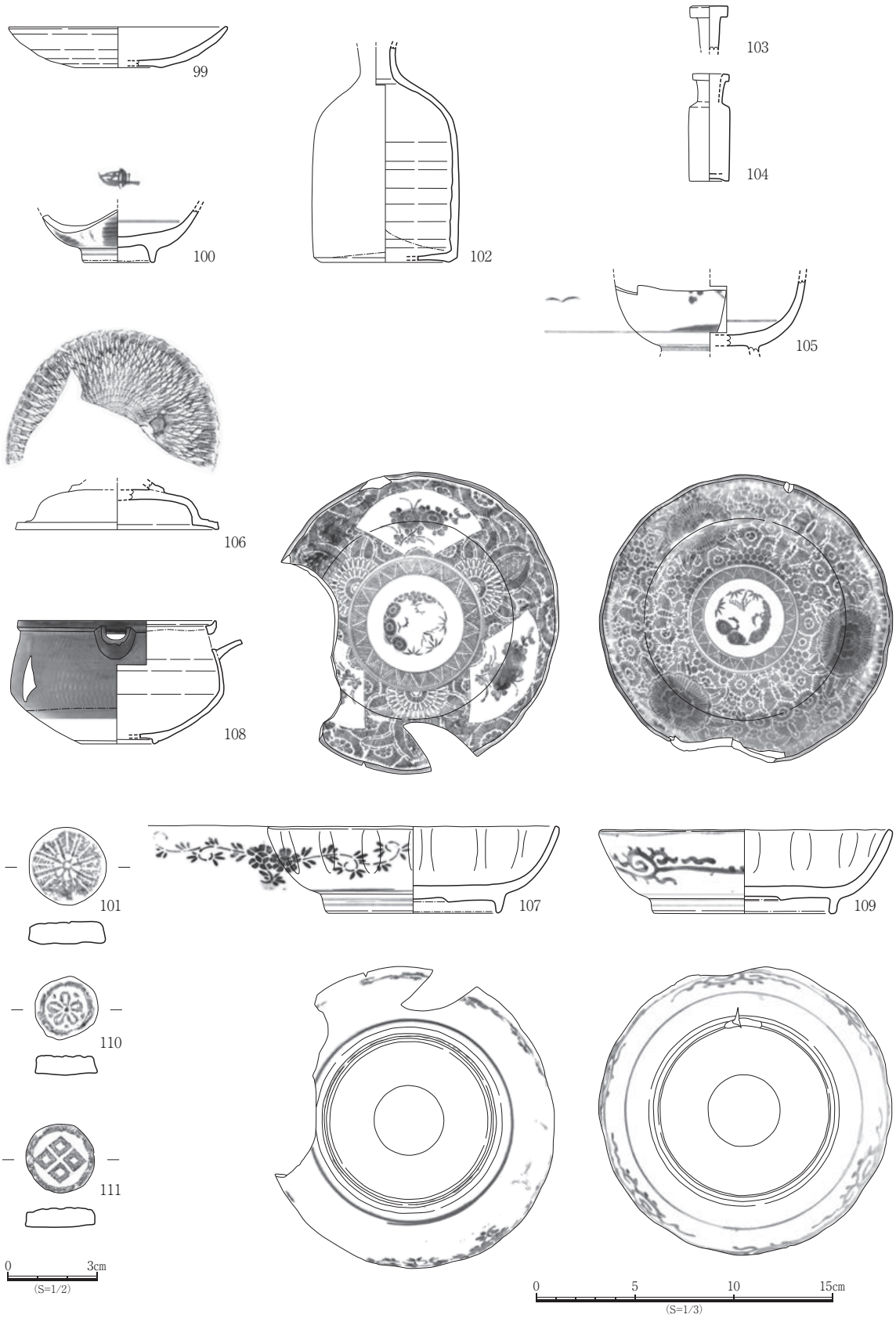


図42　A区P6～45出土遺物実測図

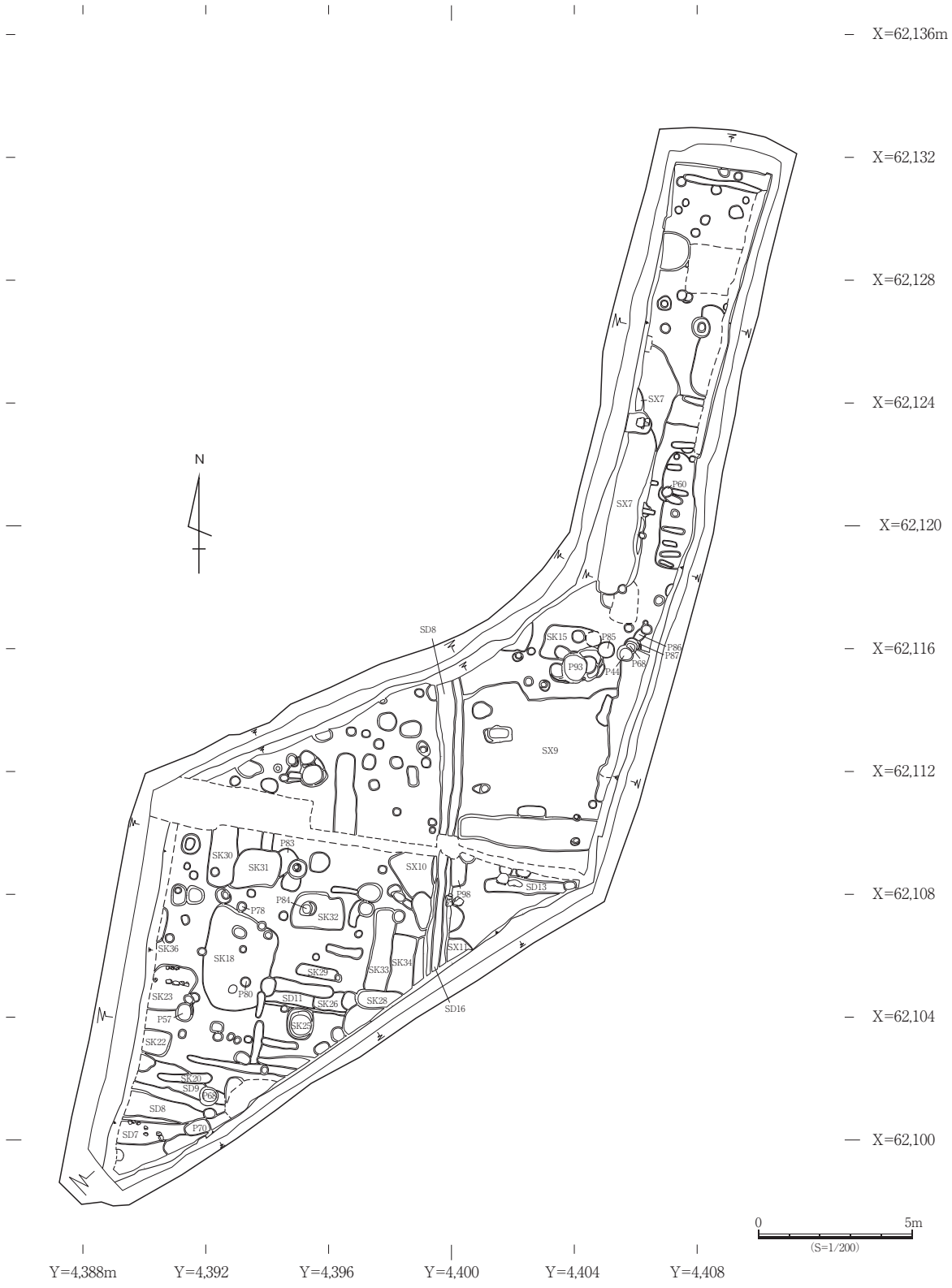


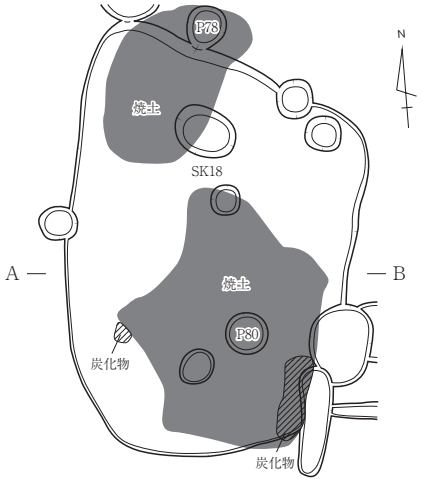
図43　A・B区第2遺構面平面図

②第2遺構面(図43)

SK18(図44・50)

P80・92を底で検出し，P78・80に切られる。平面形態は方形を呈す。検出長は3.22m，検出幅は2.29m，深さ3.7cmを測る。埋土についてはセクションに記載した。出土遺物は平瓦4点，丸瓦1点，瓦片1点，陶器52点，磁器58点，土師器20点，土製品玩具8点，炻器3点，石製品1点，ガラス1点，鉄製品5点，銅銭3点である。

図示した遺物は112～118である。112は陶器碗である。外面体部まで灰釉が施される。見込に僅かに砂が付着する。113は磁器皿である。透明釉が施され，見込に鷺と草木文，外高台に圏線，高台内に圏線と「成化年製」と思われる文字がみられる。114は磁器小杯である。透明釉が施され，外面に「寿 福 寿」文と唐草文，宝文がみられる。全体が被熱しており，断面に煤が付着する。115と116は土製品の碁石である。117と118は金属製品古銭，寛永通寶である。



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトで，明赤褐色(5YR5/8)中粒砂質シルト・橙色(7.5YR6/6)中粒砂質シルトの焼土と炭化物を多く含み，中礫を含む
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルトで，細礫を含む

図44　A区SK18

SK20(図45)

SD9を切る。平面形態は溝状を呈する。検出長1.79m，検出幅0.35m，深さ5.4cmを測る。埋土はオリーブ褐色細粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫と明赤褐色中粒砂質シルトの焼土，炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，丸瓦1点，瓦片3点，陶器4点である。

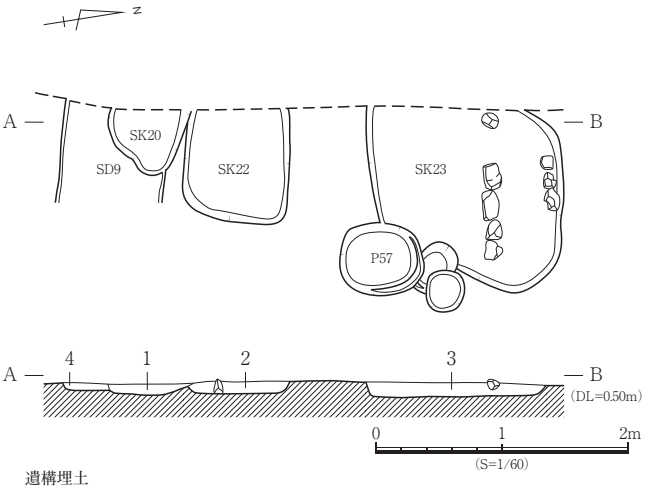
瓦を図示したため，後述する。

SK22(図45・50)

平面形態は方形を呈する。検出長0.92m，検出幅0.85m，深さ10.8cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を多く含み，橙色中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む。出土遺物は丸瓦1点，陶器1点，磁器2点である。図示した遺物は119である。119は陶器小碗である。外面体部まで灰釉が施され，見込の貫入が顕著である。

SK23(図45・50)

P57に切られる。平面形態は方形を呈する。検出長1.56m，検出幅1.33m，深さ9.1cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトで，明赤褐色(5YR5/8)中粒砂質シルト・橙色(7.5YR6/6)中粒砂質シルトの焼土含む
2. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトで，明赤褐色(5YR5/8)中粒砂質シルトの焼土を多く含み，橙色(7.5YR6/6)中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む(SK22)
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂で，明赤褐色(5YR5/8)中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む(SK23)
4. 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂質シルトで，細礫，明赤褐色(5YR5/8)中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む(SD9)

図45　A区SK22・23，SD9

質シルトの焼土と炭化物を含む。出土遺物は桟瓦1点，丸瓦1点，陶器7点，瀬戸系1点，磁器9点，土師器1点，炻器1点，鉄製品1点である。図示した遺物は120である。120は磁器蓋付鉢である。外面に銀杏と花文か。内外の口縁は釉剥され，直立する。

SK25(図46・50)

SD11に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.73m，検出幅は0.70m，深さ45.4cmを測る。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と橙色中粒砂質シルトの焼土を含む。

出土遺物は平瓦5点，陶器3点，磁器7点，土製品玩具1点，石製品1点である。図示した遺物は121～126である。121～123は陶器台付灯明皿である。121と122は内面から外面底部にかけて鉄釉が施される。121は比較的底部が薄い。122は底部にタールが付着する。123は内面から外面底部まで灰オリーブ釉が施され，脚部分がやや太く，皿にかけてゆるやかにくびれる。124は磁器碗である。透明釉が施される。125は磁器瓶である。外面に明オリーブ灰釉が施され，外面の染付は草花文と思われる。畳付に砂が付着し，輪状の脚を貼付する。126は石製品硯である。石材は凝灰岩と思われる。本来は幅6.9cm，全長7.7cm以上の硯であったが，破損したため裏面を新たに彫り，小型の硯として再利用したと思われる。

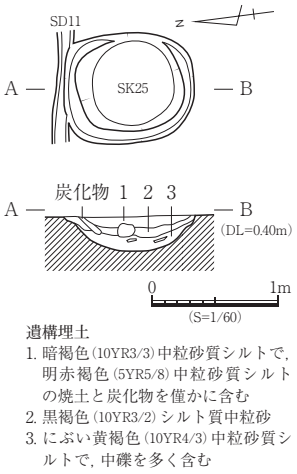


図46　A区SK25

SK26(図50)

SK27，SD11・12，P95に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.14m，検出幅0.68m，深さ7.9cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を多く含み，炭化物を含む。出土遺物は陶器1点，磁器2点，石製品1点である。図示した遺物は127である。127は石製品硯である。石材は頁岩で一部破損しており，海部分が残存している。小型である。

SK28(図47・50)

平面形態は長方形を呈する。検出長1.57m，検出幅0.67m，深さ33.4cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，中礫とハンダを含む。出土遺物は陶器10点，磁器16点，炻器1点である。図示した遺物は128～130である。128は磁器碗である。透明釉が施され，外面に鳳凰と草花文，菊文，蓮弁文，外高台に格子文，見込に麒麟文の染付がみられる。129は磁器紅皿である。菊花形を呈する型打成形である。130は磁器蓋である。内面に圏線と五弁花文，外面に花文，摘内に三重圏線の染付がみられる。

SK29(図51)

平面形態は溝状を呈する。検出長1.39m，検出幅0.40m，深さ3.4cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を多く含み，炭化物を含む。出土遺物は丸瓦2点，陶器6点，磁器6点，石製品1点である。図示した遺物は131～135である。131は陶器鉢である。全体に灰白釉が施され，胴が張り，口縁は内傾する。口縁端部は外に折り返す。132は磁器輪

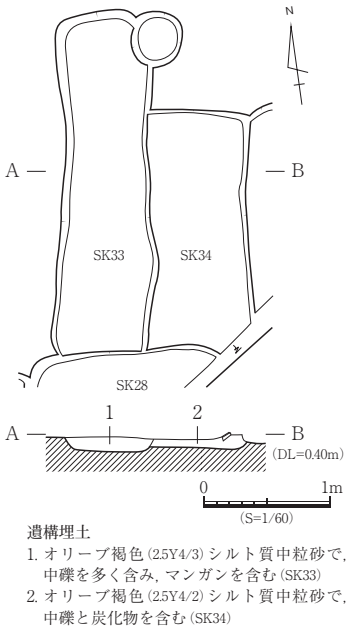


図47　A区SK28・33・34

花皿である。畳付以外に透明釉を施す。口縁端部に口錆，見込に山水楼閣文の染付がみられる。133は磁器仏飯器である。外面杯部に唐草文の染付がみられる。134は肥前系磁器小瓶である。外面に竹文，梅文の染付がみられる。135は石製品硯である。石材は砂岩である。陸部分が残存し，縁は一部欠ける。

SK30(図48・51)

SK31に切られる。平面形態は長方形を呈する。検出長2.06m，検出幅0.97m，深さ6.4cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，橙色中粒砂質シルトの焼土を多く含む。出土遺物は陶器1点である。図示した遺物は136である。136は陶器瓶で，鶴首形を呈する。内面口縁から外面まで光沢のある灰釉が施される。

SK31(図48・51)

SK30を切る。平面形態は方形を呈する。検出長1.65m，検出幅1.25m，深さ7.6cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は平瓦1点，丸瓦1点，陶器13点，磁器5点，土師器2点，炻器1点，石製品1点，土製品1点である。図示した遺物は137である。137は土製品碁石で，全面ナデ調整である。

SK32(図49・51)

P84を切る。平面形態は方形を呈する。検出長1.78m，検出幅1.06m，深さ10.0cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は陶器1点，磁器1点である。図示した遺物は138と139である。138は陶器土瓶である。底部に3点脚を貼付する。139は磁器瓶で，鶴首形を呈する。透明釉が外面から内面口縁まで施され，草花文の染付がみられる。

SK33(図47・51)

SK28，P95に切られ，SK34を切る。平面形態は長方形を呈する。検出長2.76m，検出幅0.83m，深さ10.9cmを測る。埋土はオリーブ褐色のシルト質中粒砂で0.5～1cmの礫と炭化物を含む。出土遺物は桟瓦1点，陶器7点，瀬戸系5点，磁器1点，土師器2点，土製品1点，炻器1点である。図示した遺物は140である。140は磁器杯である。内面から外面体部まで透明釉が施される。割口に被熱した痕跡が残る。

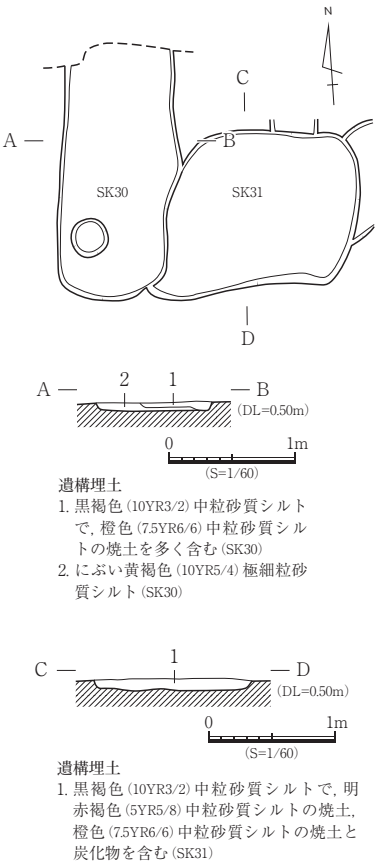


図48　A区SK30・31

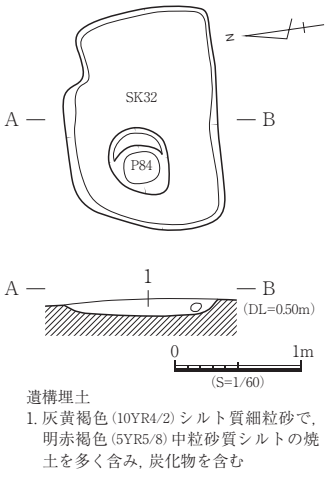


図49　A区SK32

SK34(図47・51)

SK33，SX11に切られ，南へ続く。平面形態は長方形を呈する。検出長1.96m，検出幅0.80m，深さ8.1cmを測る。埋土はオリーブ褐色シルト質中粒砂に0.5～1cmの礫と炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，陶器20点，磁器15点，炻器2点，土製品1点，ガラス1点である。図示した遺物は141である。141は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整である。下り藤文か。全体が摩耗し，一部欠損する。

1. A区

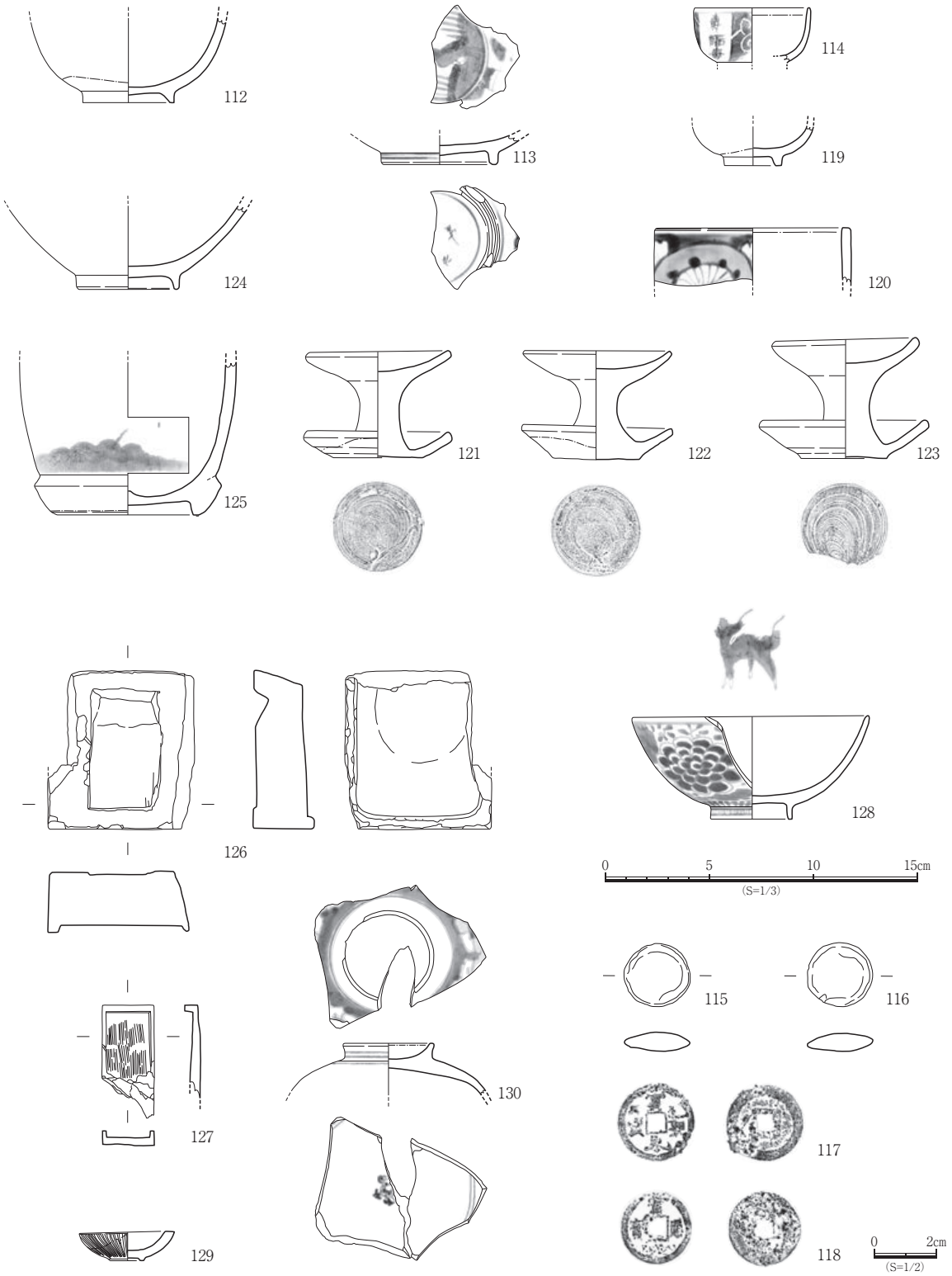


図50　A区SK18～28出土遺物実測図

SK36(図51)

平面形態は楕円形を呈する。検出長1.21m，検出幅0.21m，深さ8.2cmを測る。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と橙色中粒砂質シルトの焼土，石灰岩を含む。出土遺物は丸瓦1点，陶器2点，炻器1点，石製品1点である。図示した遺物は142である。142は陶器蓋である。内面体部と外面の一部に鉄釉が施される。

SD7(図52・53)

P70を切り，SK19，P53に切られる。検出長3.80m，検出幅0.82m，深さ9.1cmを測る東西溝跡である。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と橙色中粒砂質シ

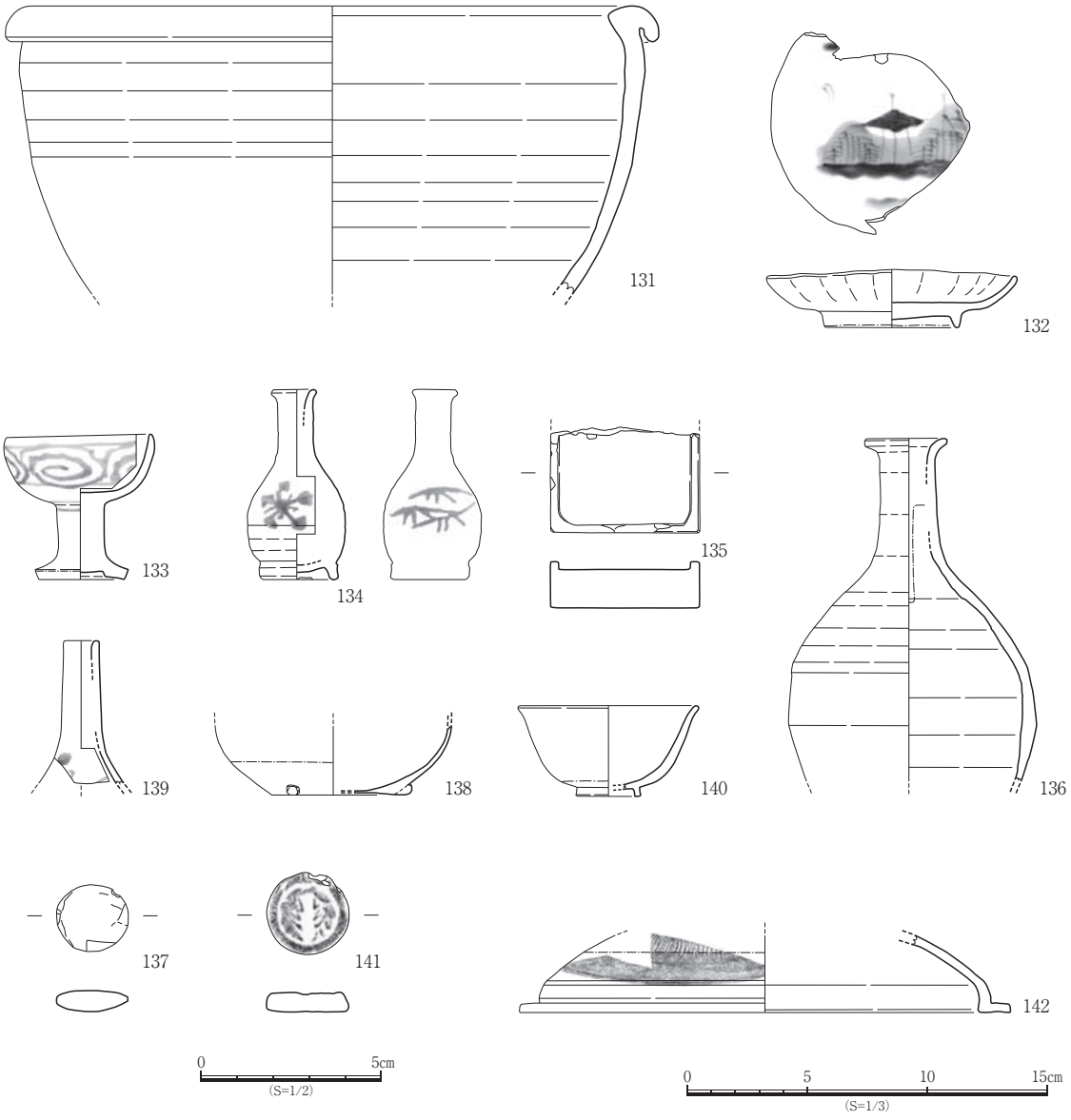


図51　A区SK29～36出土遺物実測図

ルトの焼土を含む。出土遺物は平瓦8点，陶器14点，磁器21点，土師器2点，炻器2点，瓦質土器1点，鉄製品1点，骨1点である。図示した遺物は143～146である。143は肥前系陶器碗である。全体に透明釉が施され，内面の貫入が顕著である。外面に松文，山水文，外高台に二重圏線の染付がみられる。腰部が張り，僅かに開きながら口縁部へ伸びる。144は陶器小皿である。内面から外面口縁まで灰釉を施し，全体がやや被熱する。145は陶器小壺である。外面に鉄釉，内面に明赤褐釉を施す。割口に煤が付着する。146は瓦質土器焜炉である。箱形を呈し，外面はミガキが入る。側面に扇形の把手を貼付する。

SD8(図52・53)

SD7，P53に切られる。検出長2.52m，検出幅0.97m，深さ10.6cmを測る東西溝跡である。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を多く含み，炭化物を含む。出土遺物は桟瓦1点，陶器8点，磁器4点，炻器1点である。図示した遺物は147と148である。147は陶器鍋である。内面は灰釉，外面は把手部分のみ暗赤褐釉が施される。把手接地面は大きく，持ち手は太い。接着部分は偏平になり，花形の印が2箇所みられる。また，胴部に鉄釉によって模様が描かれる。胴下部に煤が多く付着する。148は磁器蓋である。内面口縁部に宝文，波文，松竹梅文，外面口縁部に宝文，松文，草花文の型紙刷りがみられる。摘内に染付で「□年□」と記される。

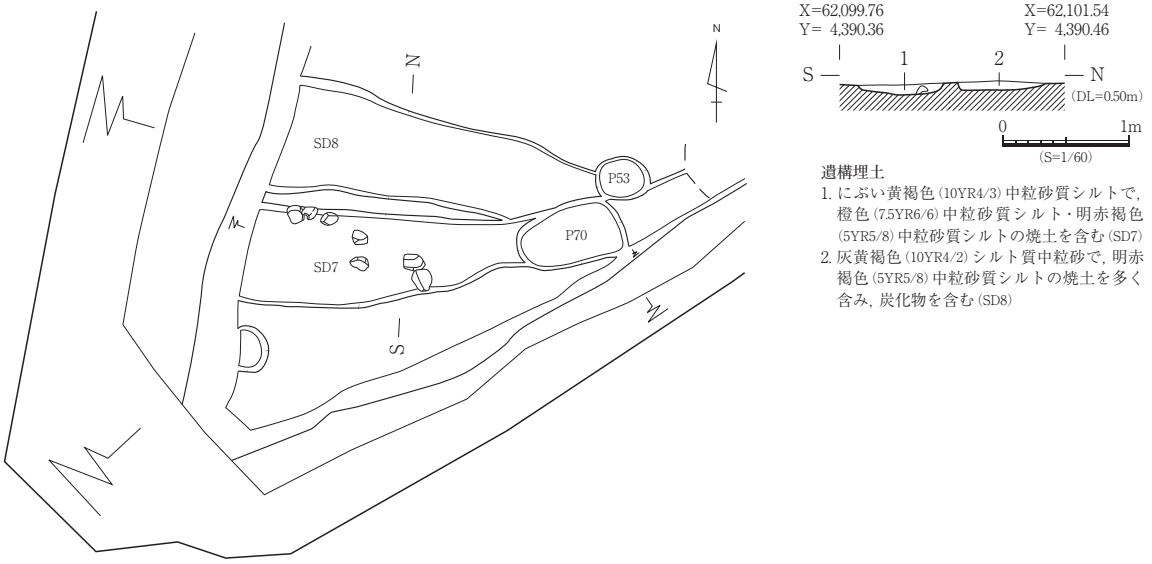


図52　A区SD7・8

SD9(図45・53)

SK20・21，P54・68に切られる。検出長3.05m，検出幅0.84m，深さ7.4cmを測る東西溝跡である。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫，橙色中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む。出土遺物は丸瓦1点，陶器3点，磁器4点，炻器2点，石製品1点である。図示した遺物は149である。149は瀬戸系磁器皿である。木型打込成形で見込に「壽」文の陰刻，見込に「□乃宋」と朱で上絵付される。

SD11(図46・53)

SK25～27，P81を切り，西はピットに切られる。検出長2.75m，検出幅0.14m，深さ5.9cmを測る東西溝跡である。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を多く含み，

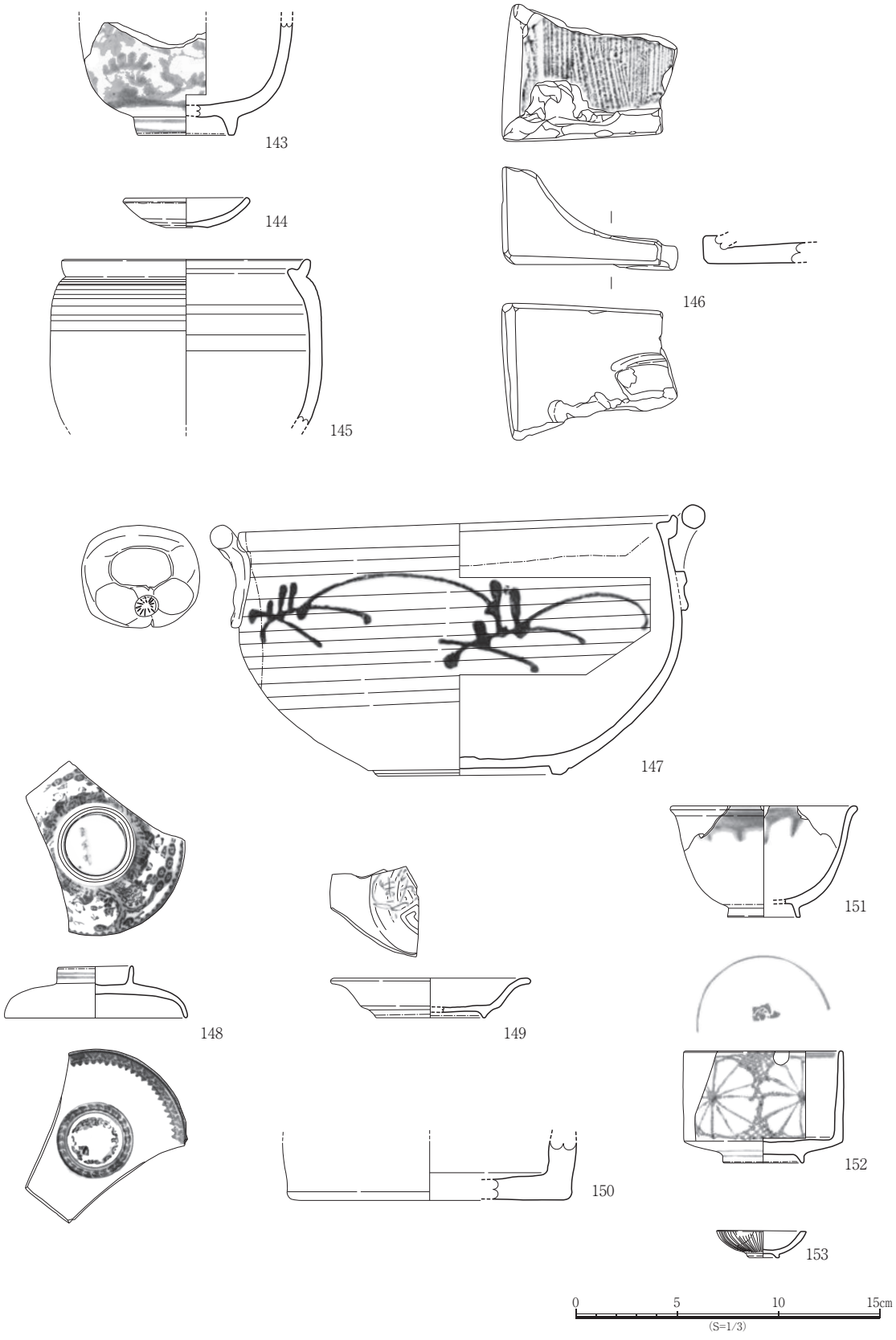


図53　A区SD7～13出土遺物実測図

炭化物を含む。出土遺物は陶器1点，磁器2点，炻器1点である。図示した遺物は150である。150は炻器焜炉である。胎土はにぶい黄橙色を呈し，礫を含む。

SD13(図53・54)

検出長2.69m，検出幅0.57m，深さ12.7cmを測る東西溝跡である。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂で明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む。出土遺物は平瓦6点，桟瓦4点，丸瓦3点，瓦片1点，陶器41点，磁器56点，土師器7点，炻器17点，石製品1点である。図示した遺物は151～153である。151は陶器小碗である。灰釉を内面から外面体部まで施し，貫入は顕著である。内外面口縁に緑釉を施す。152は肥前系磁器碗である。外面に草花文，格子文，外高台に二重圏線，内面口縁に圏線，見込に圏線とコンニャク印判による五弁花文か。153は磁器紅皿である。型打成形で底部に焼成時の礫が付着する。

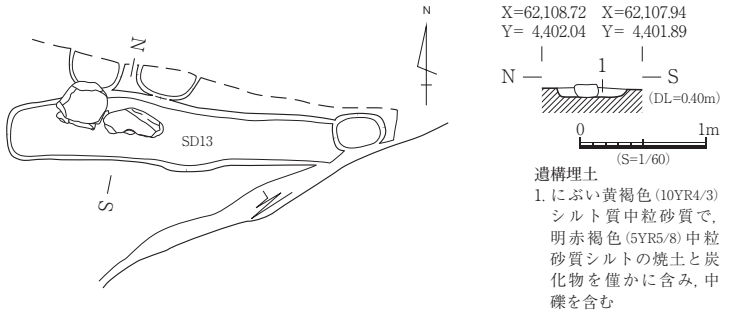


図54　A区SD13

SD16(図55・56)

SK35，SX11，P62・96・98に切られる。検出長4.05m，検出幅0.79m，深さ28.6cmを測る南北溝跡である。埋土は暗褐色中粒砂質シルトに明赤褐色中粒砂質シルトを多く含み，炭化物を含む。溝に沿って材木が敷かれ，その上に10～80cmの自然石が積まれていた。自然石は石灰岩が主であり，僅かにチャートが使用されていた。また，石列の中に石臼もみられた。出土遺物は平瓦1点，桟瓦1点，丸瓦4点，瓦片24点，道具瓦2点，陶器36点，磁器29点，土師器3点，炻器5点，ガラス1点，石製品1点，鉄製品6点である。

図示した遺物は154～165である。154は陶器皿である。内面から外面体部にかけて灰釉が施される。見込は蛇ノ目釉剥される。155は陶器蓋である。外面に鉄釉で笹文が描かれる。156は陶器土瓶である。全体に鉄釉が施され，外面に飛鉋文が施される。157は陶器火入である。灰オリーブ釉が体部から底部下半まで施される。端部を除いて内面も施される。見込に4箇所目跡が残る。筒形で口縁上端部は平坦になる。端部や高台に煤が付着する。158は陶器火入である。暗緑釉が施され，口縁は丸く肥厚し，頸部が僅かにしまり，胴部が丸く膨らむ。159は磁器碗である。外面に植物文の染付がみられ，一部上絵付けされる。焼継痕が残る。160は磁器紅皿である。灰白釉が内面から外面口縁まで施される。型打成形である。全体が僅かに被熱する。161は磁器杯である。全体に透明釉が施される。内面に金塗で鶴文がみられる。162は肥前系磁器杯である。全体に透明釉が施される。外面に笹文の染付がみられる。163は磁器仏飯器である。内面から外高台にかけて灰白釉が施される。杯部外面に草花文がみられる。164は磁器花瓶か。口縁部から頸部にかけて残存する。頸部から口縁に向け大きく広がり，端部が屈曲し内傾する。ムラのある明緑灰釉が外面から内面頸

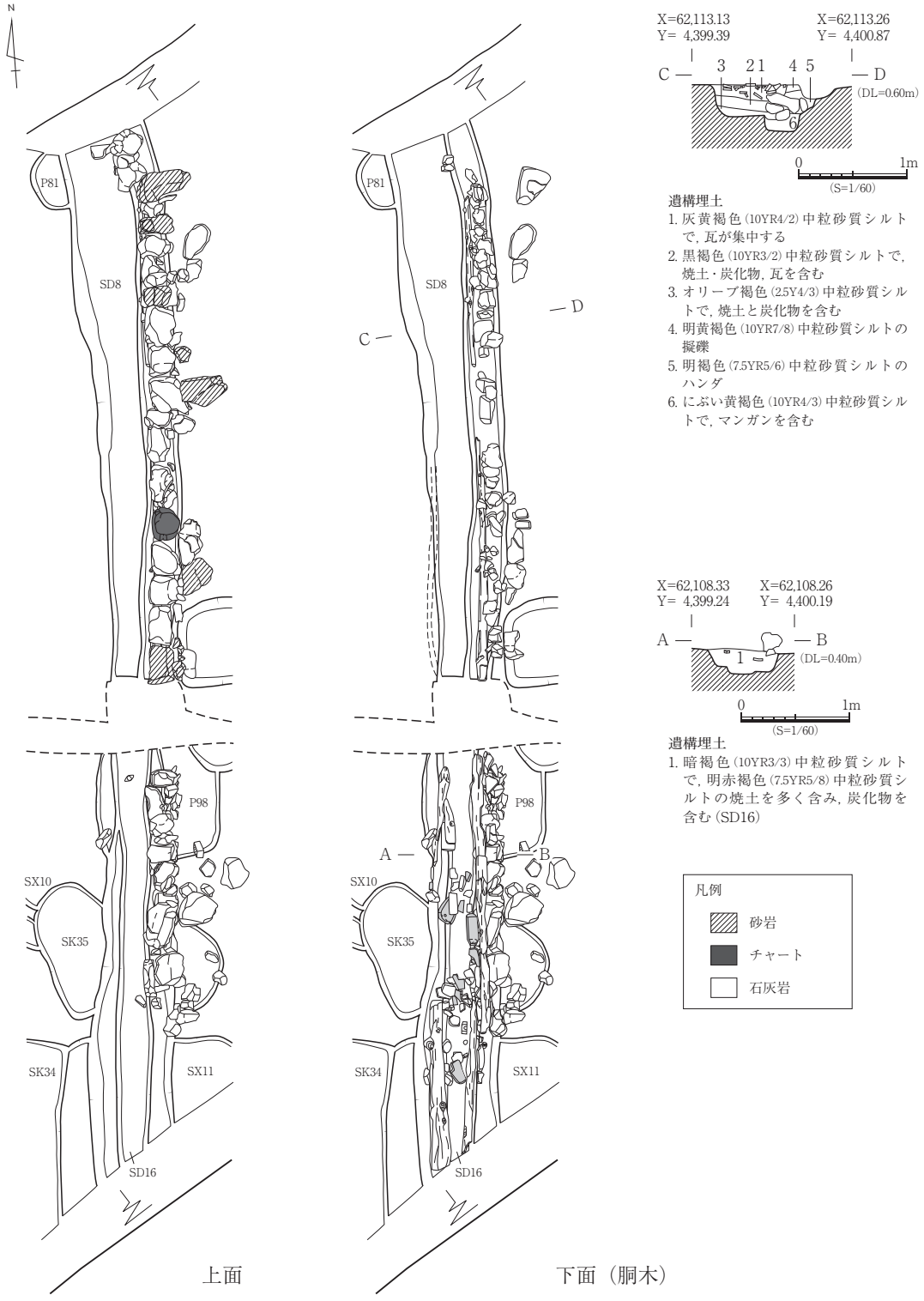


図55　A区SD16，B区SD8

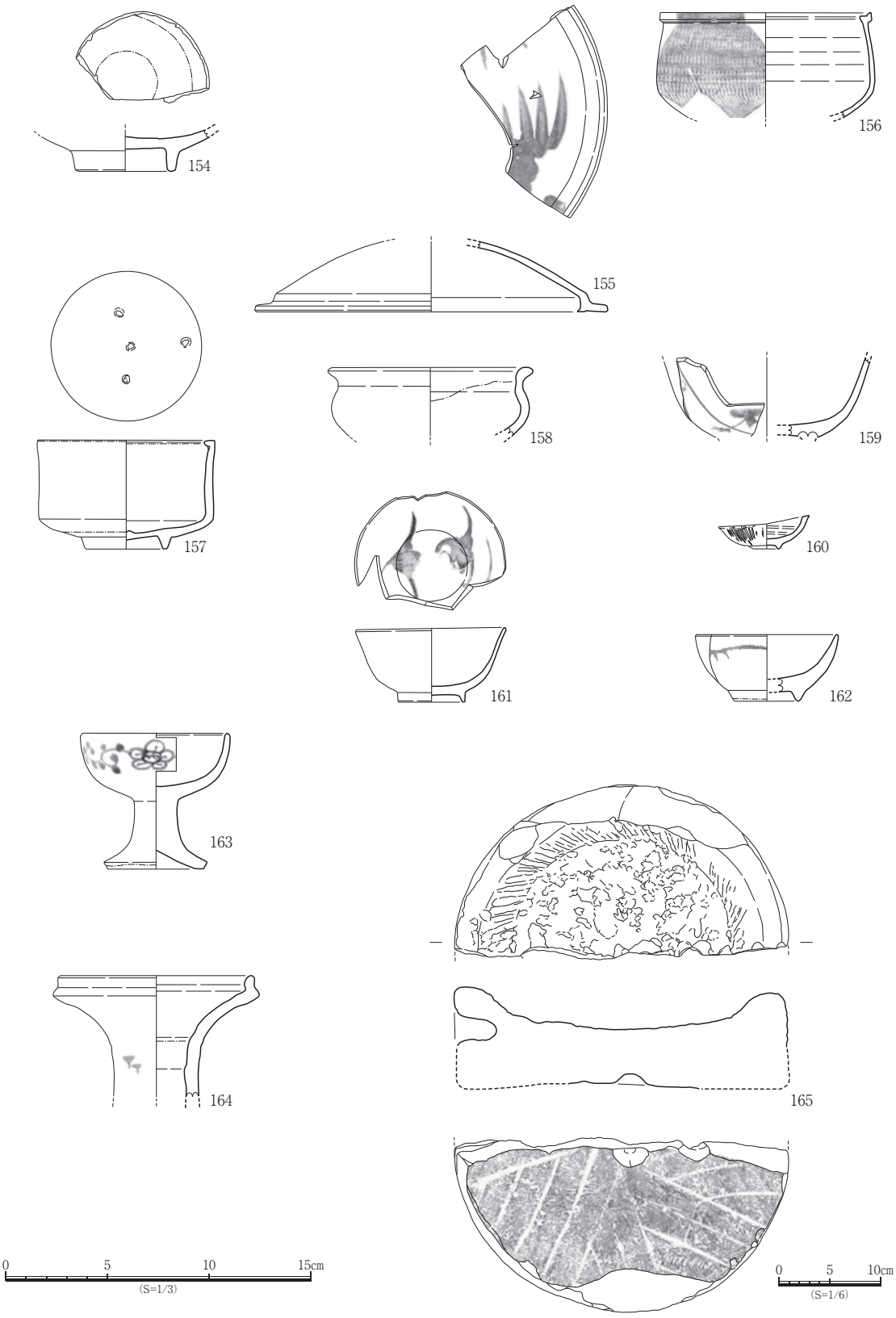


図56　A区SD16出土遺物実測図

部まで施される。外面頸部に逆三角形の染付がみられる。165は石製品石臼である。石材は花崗岩である。中央円孔と側面に径3.6cmの孔がみられる。上臼である。

SX10（図55・57）

SK15，SD16に切られる。平面形態はやや方形を呈し，検出長1.79m，検出幅1.40m，深さ11.6cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂質シルトに赤褐色中粒砂質シルトの焼土と炭化物を多く含む。出土遺物は瓦片3点，陶器3点，磁器7点，ガラス1点，鉄製品1点である。図示した遺物は166～170である。166は陶器輪花皿である。内面から外面体部まで灰白釉が施される。167は陶器皿である。灰白釉が施され，見込の貫入が顕著である。胎土に礫が混じる。重ね焼き痕あり。168は磁器瓶である。透明釉が施され，染付は一部残存するが判別はできなかった。169は磁器壁掛け花器である。陽刻で松文が施され，その上から染付される。壁側は鉄釉が施される。170は肥前系磁器火入である。内面口縁部から外高台まで透明釉が施される。底部に脚を3点貼付する。

SX11（図55・57）

SK34を切る。平面形態はやや方形を呈し，検出長1.78m，検出幅1.90m，深さ9.7cmを測る。埋土は褐色シルト質中粒砂で，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と中礫を含む。出土遺物は平瓦1点，瓦片6点，陶器10点，磁器7点である。図示した遺物は171と172である。171は磁器蓋である。内外面に透明釉が施され，外面窓絵に椿文，摘に圏線がみられる。内面口縁に雷文，天井に圏線が

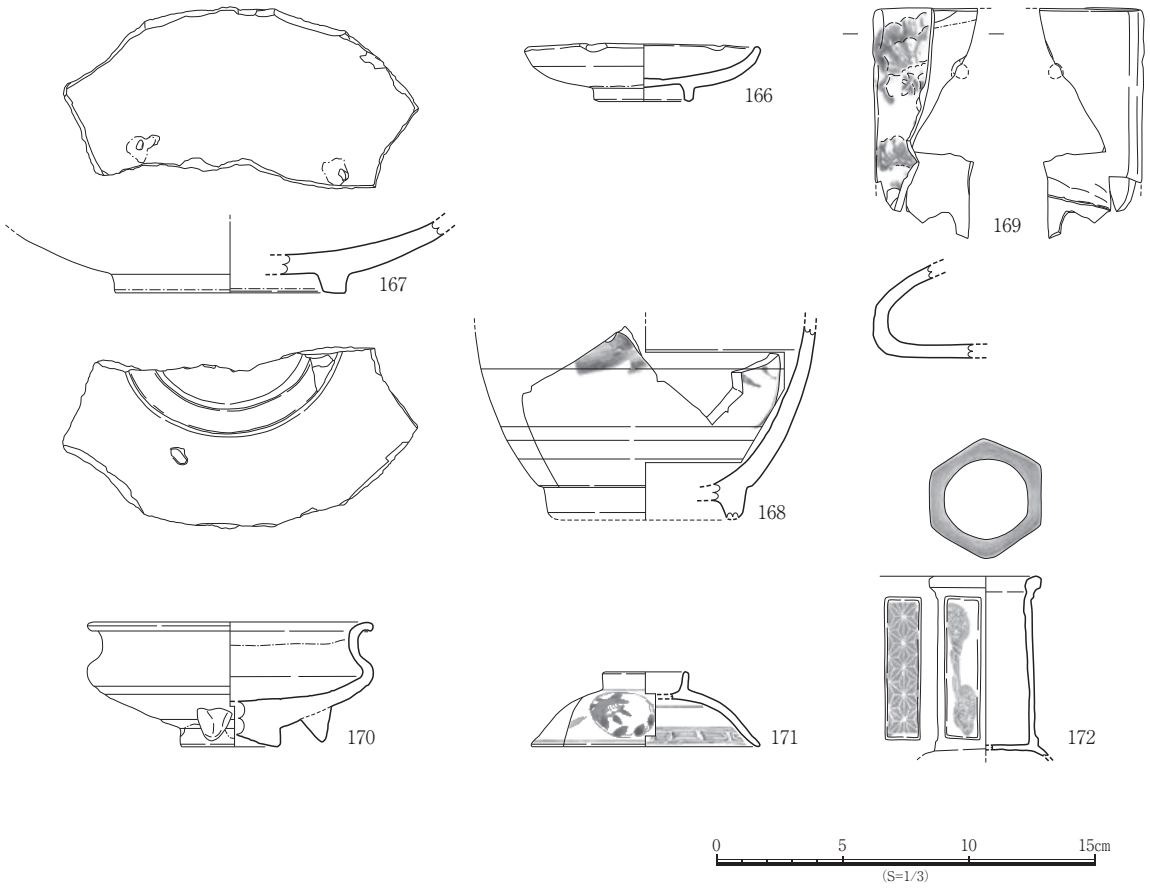


図57　A区SX10・11出土遺物実測図

みられる。172は磁器花瓶である。頸部が残存する。口縁部は六角形を呈し，内面は丸形を呈する。全体に透明釉が施され，麻の葉と松文の陽刻に染付が施される。

P51

平面形態は楕円形を呈し，長径48cm，短径47cm，深さ17.7cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土，炭化物を僅かに含む。瓦を図化したため，後述する。

P57（図58）

SK23とP69を切る。長径66cm，短径55cm，深さ25.0cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。

図示した遺物は173～175である。173は尾戸窯産陶器碗である。内面から外面体部下部まで灰釉を施す。口縁部は露胎である。鉄錆で注連縄文が施される。腰折形で内底3箇所に円錐形ピン痕が残存する。174は陶器甕である。内面口縁から外面にかけて鉄釉が施され，外面肩部12条以上の沈線が入る。口縁は内側が外傾しながら直立し，端部は外側へ肥厚する。175は陶器カップである。釉はなく，全面は露胎である。外面に布目圧痕による文様がある。カップの底部は複数の穿孔がみられる。

P62（図58）

SD16を切る。長径68cm，短径62cm，深さ11.5cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，橙色中粒砂質シルトの焼土と石灰岩を含む。

図示した遺物は176～178である。176は磁器皿である。高台内に墨書があり，「丁」もしくは「ト」か。見込に砂が付着する。177は磁器碗である。透明釉が全体に施され，内外面口縁に瓔珞文，外面に漢人，草木に蝶文がみられる。コバルト染付である。178は磁器皿である。透明釉が施され，畳付は釉剥である。見込に山水楼閣文の染付がみられる。

P68（図58）

SD9を切る。直径61cm，深さ24.1cmを測る。平面形態は円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト質極細粒砂で，橙色中粒砂質シルトの焼土を含み，炭化物を多く含む。遺物は179と180を図示した。179は磁器皿である。内外面は明緑灰釉が施され，畳付は釉剥される。見込に竹文と草花文の染付がみられ，割口にスラグが付着する。180は磁器蓋付鉢である。透明釉が全体に施される。高台外の重ね部分が釉剥される。外面に唐草文と松文の染付がみられる。

P70（図58）

SD7に切られる。長径58cm，短径51cm，深さ10.6cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と橙色中粒砂質シルトの焼土，炭化物を含む。遺物は181を図示した。181は磁器瓶である。外面に青磁釉が施される。頸部はしまり，装飾が付く。口縁は外に広がり，胴部が膨らむ。

P78（図59）

SK18を切る。長径36cm，短径32cm，深さ11.6cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を含む。遺物は182を図示した。182は肥前系磁器皿である。透明釉が施され，内面に格子文の染付がみられる。

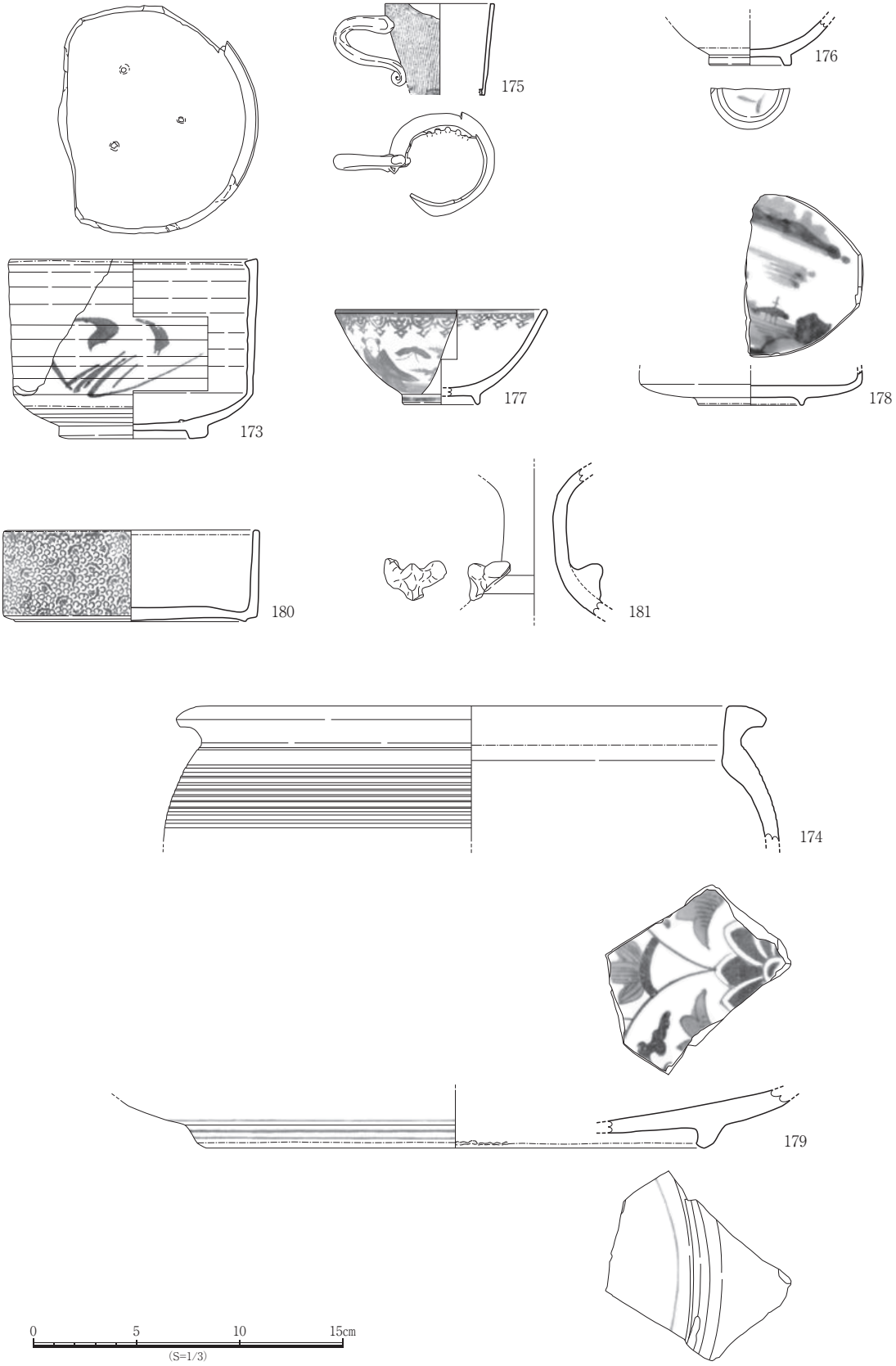


図58　A区P57～70出土遺物実測図

P80(図59)

SK18を切る。長径34cm，短径32cm，深さ5.9cmを測る。平面形態は楕円形である。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と橙色中粒砂質シルトの焼土，炭化物を含む。遺物は183を図示した。183は磁器輪花皿である。見込は蛇ノ目釉剥され，重ね焼き痕が残る。

P84(図59)

SK32に切られる。長径58cm，短径46cm，深さ19.9cmを測る。平面形態は楕円形である。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土，炭化物を僅かに含む。遺物は184を図示した。184は磁器蓋である。全体に透明釉が施される。外面は窓絵に楼閣文，草花文，口縁に格子文の染付がみられ，内面は雷文がみられる。断面に鉄分が付着する。

P96(図59)

SD16を切り，P62に切られる。長径89cm，短径63cm，深さ5.9cmを測る。平面形態は楕円形である。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む。遺物は185を図示した。185は磁器仏飯器である。全体に透明釉が施される。外面に花卉，花文の染付がみられる。

P98(図55・59)

SD16を切り，P97に切られる。長径101cm，短径51cm，深さ11.3cmを測る。平面形態は方形である。平面形態はやや方形を呈する。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫と炭化物を含み，明赤褐色中粒砂質シルトの焼土を僅かに含む。遺物は186と187を図示した。186は陶器鉢である。灰白釉が施される。187は磁器碗である。外面に草花文，外高台に二重圏線の染付がみられる。

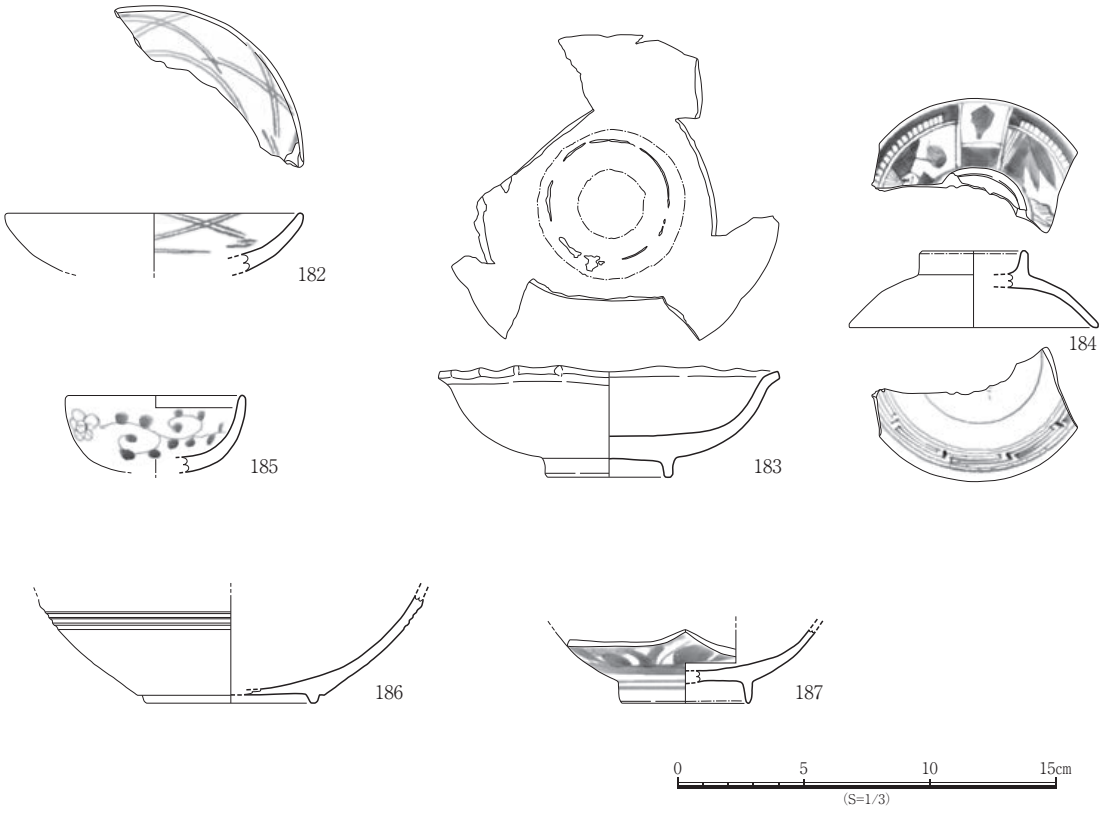


図59　A区P78～98出土遺物実測図

③第3遺構面(図62)

SB1(図60・61)

梁間1間(4.2m)，桁行2間(4.8m)の南北棟掘立柱建物跡を確認した。1間×2間の建物である。柱穴は円形または楕円形を呈し，径30～82cm，深さ6.4～24.9cmを測る。埋土は暗褐色，灰黄褐色の中粒砂質シルトに炭化物や酸化鉄を含む。柱痕はにぶい黄褐色，灰黄褐色，暗オリーブ褐色の中粒砂質シルトに炭化物や焼土を含む。柱痕内には15～30cmの石灰岩が礎盤として使用されているものもみられた。出土遺物は陶器5点，磁器5点，土師器8点，土師質土器2点である。図示した遺物は188と189である。188は土師質土器杯である。轆轤成形で回転糸切りである。189は土師質土器灯明皿である。内外面体部にタールが付着する。

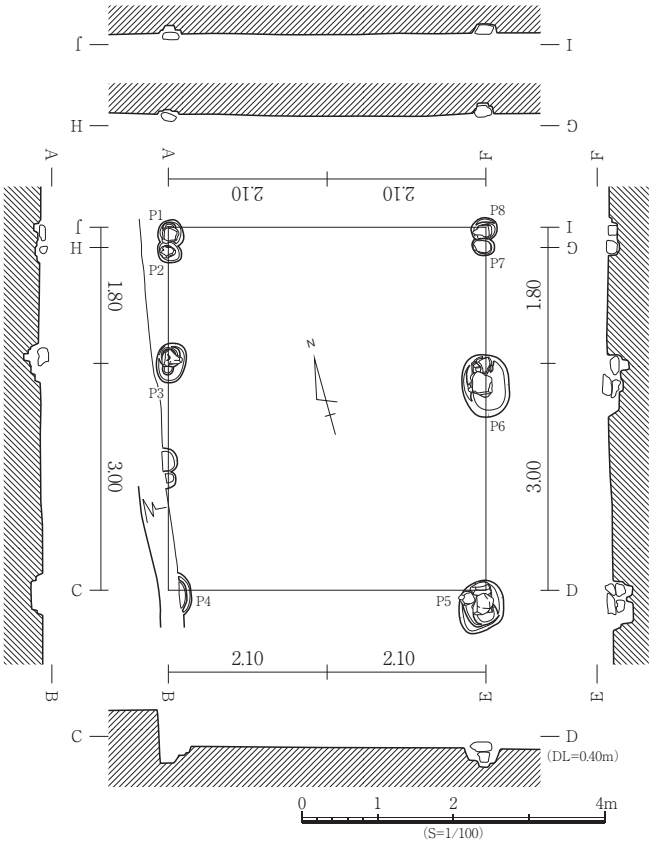


図60　A区SB1

SK37(図63・64)

P142を切る。平面形態は方形を呈する。検出長は1.00m，検出幅は0.77m，深さ7.0cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトに明赤褐色中粒砂質シルトのブロックと炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，陶器9点，磁器9点，炻器4点，土製玩具1点である。図示した遺物は190～192である。190は陶器皿である。内面から外面体部にかけて灰釉が施され，見込に7条のおろしがみられる。191は陶器火鉢か。内面から外面体部にかけて鉄釉が施され，見込にハリ痕4点がみられ，礫が付着する。内外面とも被熱しており，断面に煤などの痕跡がないことから破損する前に焼けたと推測できる。192は土製品泥面子である。型成形で，下面はナデ調整，梅文である。

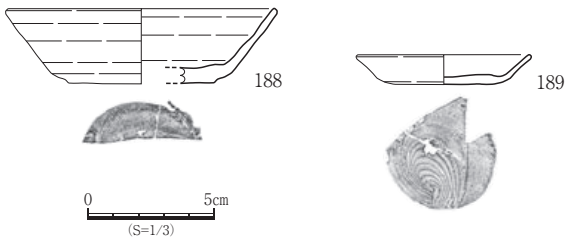


図61　A区SB1P5出土遺物実測図

SK38(図63)

SD9を切り，P99に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長0.95m，検出幅0.71m，深さ27.5cmを測る。埋土は暗褐色粗粒砂質シルトに橙色中粒砂質シルトと炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，陶器4点，磁器7点，土師器2点，炻器1点，玩具1点である。図示した遺物は193～199である。193は陶器小碗である。黄灰釉が施され，見込に緑釉が施される。外面口縁に笹文の染付がみられる。194は陶器杯である。灰白釉を腰部から上へ施す。見込に気泡が多い。195は陶器蓋である。外面に明赤褐釉が施される。型押成形でナデ調整される。端部に煤が付着する。196は磁



図62　A・B区第3遺構面平面図

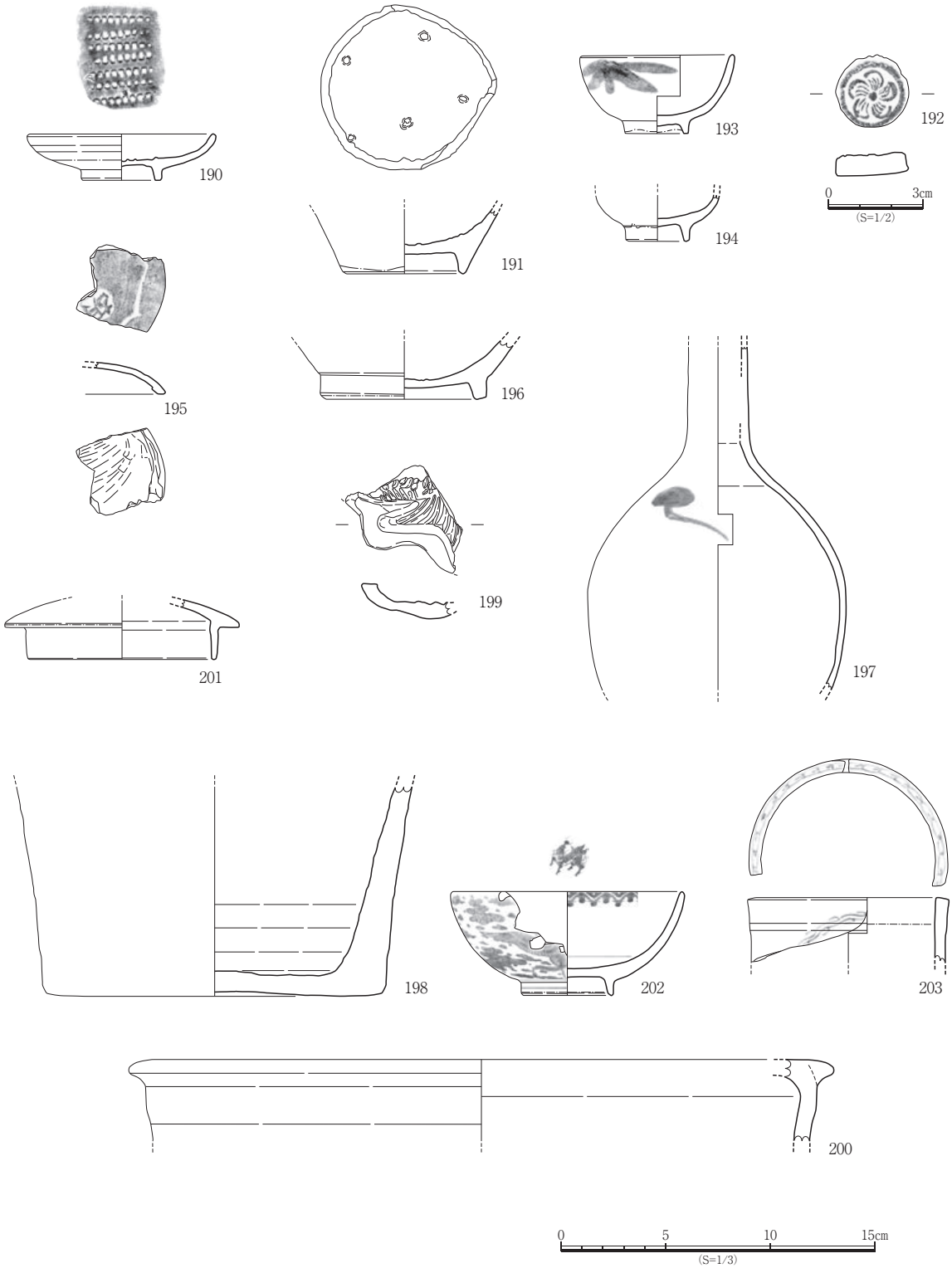


図63　A区SK37～43出土遺物実測図

器瓶である。外面に明オリーブ灰釉が施される。197は磁器瓶である。外面から内面口縁まで明オリーブ灰釉が施される。貫入が顕著であり，外面に草花文の染付がみられる。内面及び断面に煤が付着する。198は土師器焜炉である。円筒形を呈し，回転ナデ調整される。摩耗が顕著で内面に煤が付着する。199は土師器人形型である。型押成形で下面はナデ調整される。

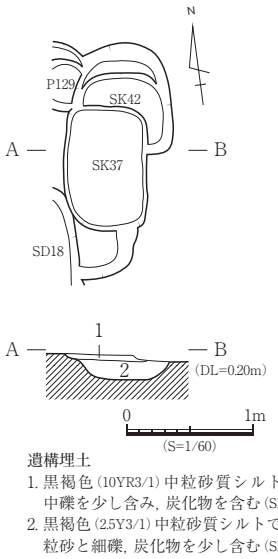


図64　A区SK37・42

SK42(図63・64)

P129に切られる。平面形態は方形を呈する。検出長0.91m，検出幅0.84m，深さ18.1cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は平瓦1点，陶器1点，磁器4点，土師器1点である。図示した遺物は200である。200は陶器鉢である。口縁受部以外は鉄釉が施される。

SK43(図63)

SD18，P143に切られる。平面形態は長方形を呈する。検出長1.73m，検出幅は0.70m，深さ45.4cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で，炭化物を含み，10～15cmの礫と酸化鉄を多く含む。出土遺物は平瓦4点，桟瓦1点，丸瓦2点，陶器22点，磁器19点，炻器2点である。図示した遺物は201～203である。201は陶器蓋である。灰白釉が全体に施され，掛子は無釉である。202は磁器碗である。全体に透明釉が施され，畳付は釉剥される。外面に鳳凰，青海波，雲文の染付がみられ，外高台に三重圏線，見込に麒麟，内面口縁に宝文の染付がみられる。203は磁器灰落しである。透明釉が外面から内面口縁まで施される。口縁受部に渦文，外面に唐草文がみられる。内面に煤が付着する。

SD18(図64・65)

SK43，P142を切り，P123に切られる。検出長2.91m，検出幅0.70m，深さ50.1cmを測る南北溝跡である。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂に炭化物と酸化鉄を含み，グライ化している。

出土遺物は袖瓦2点，道具瓦1点，陶器32点，磁器29点，炻器10点，銅銭1点である。図示した遺物は204と205である。204は磁器皿である。内面に麻雀牌文，高台内に「東洋陶器會社」のプリントがみられる。昭和3～36年に生産されたものであることから，撹乱の可能性が高い。205は磁器小杯である。外面に草花文と唐草文がみられる。

SD20(図65)

P110に切られる。検出長3.35m，検出幅0.82m，深さ34.6cmを測る東西溝跡である。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで炭化物を含む。出土遺物は平瓦6点，桟瓦4点，丸瓦3点，瓦片1点，陶器41点，磁器56点，土師器7点，炻器17点，石製品1点である。

図示した遺物は206～212である。206は陶器皿である。内面から外面体部にかけて鉄釉が施され，一部青みがかる。見込は蛇ノ目釉剥される。重ね焼きされており，外面口縁部分に接着する。207は陶器輪花皿である。口縁部に口錆，見込に山水と網干文，雁文の染付がみられる。208は陶器土瓶である。内面に浅黄釉が施される。脚を貼付し，内面中心に多くの礫が付着する。209は磁器碗である。透明釉が全体に施される。外面に格子文，外高台に圏線，内面口縁に圏線，見込に菱形格子文の染付がみられる。210は磁器広東碗である。見込に鷺文の染付がみられる。211は能茶山窯

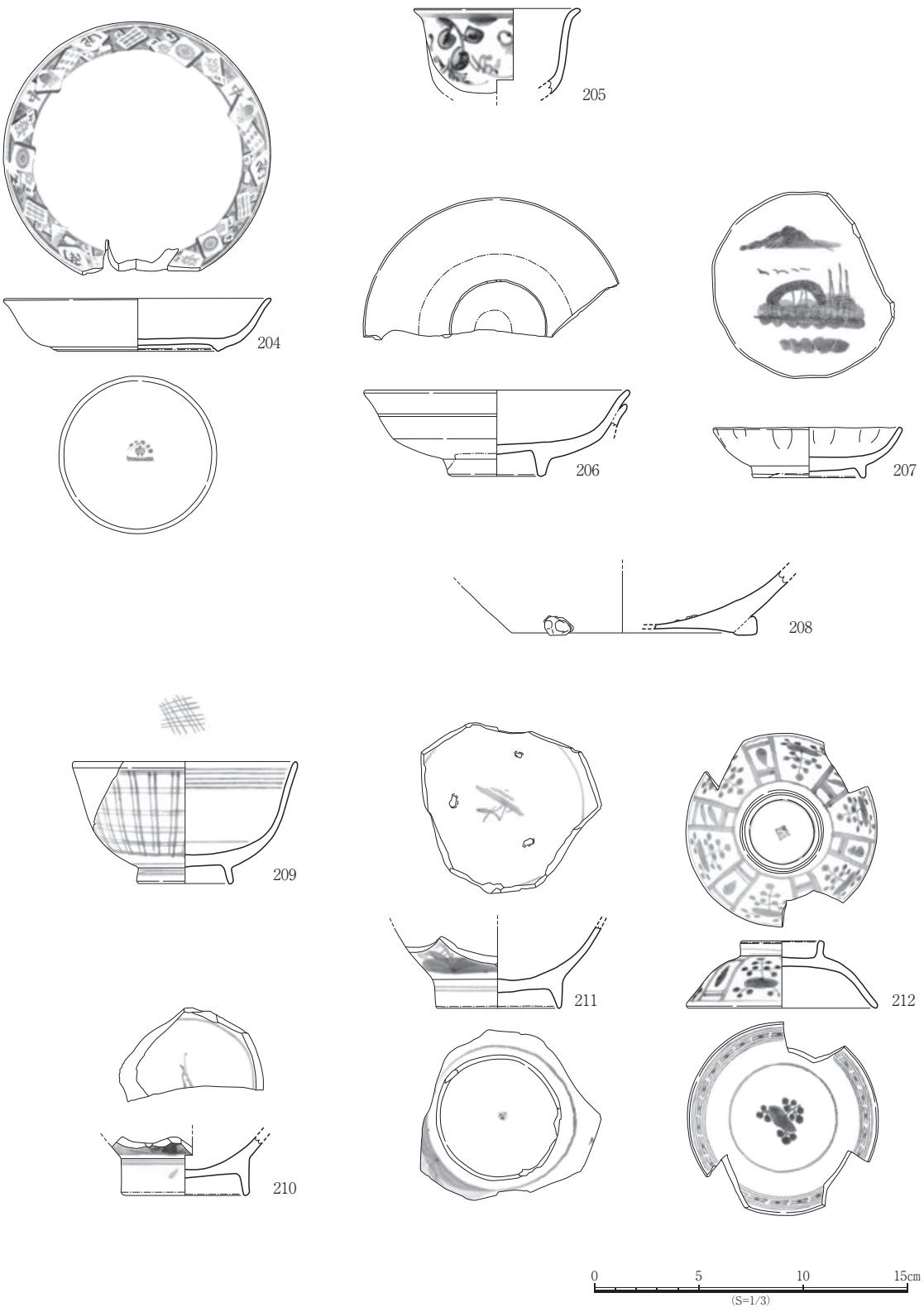


図65　A区SD18～20出土遺物実測図

磁器広東碗である。見込に舟文，ピン痕が残る。外面に草花文，高台内に「サ」文の染付がみられる。212は磁器蓋である。外面摘内枠に「吉」字文，窓絵に花卉，内面天井部に圏線と花卉，内面口縁に雷文の染付がみられる。

SX12(図66)

SD20に切られる。平面形態は不整形を呈し，検出長2.61m，検出幅1.75m，深さ11.7cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂質シルトである。出土遺物は丸瓦1点，陶器7点，磁器4点，土師器3点，骨1点である。図示した遺物は213～215である。213は瀬戸系磁器皿である。内面に陽刻枠と菊文，枠に斜格子と波文の陽刻がみられる。その上より染付される。型打成形である。214は磁器皿である。型打成形で蛇ノ目凹形高台である。全体に透明釉を施し，高台内は蛇ノ目釉剥する。外高台に二重圏線，外面体下部に二重圏線，内面に草花文の染付がみられる。215は型打成形の磁器変形皿である。口縁部に口錆，内面の窓絵に八卦文，外面に宝文の染付がみられる。

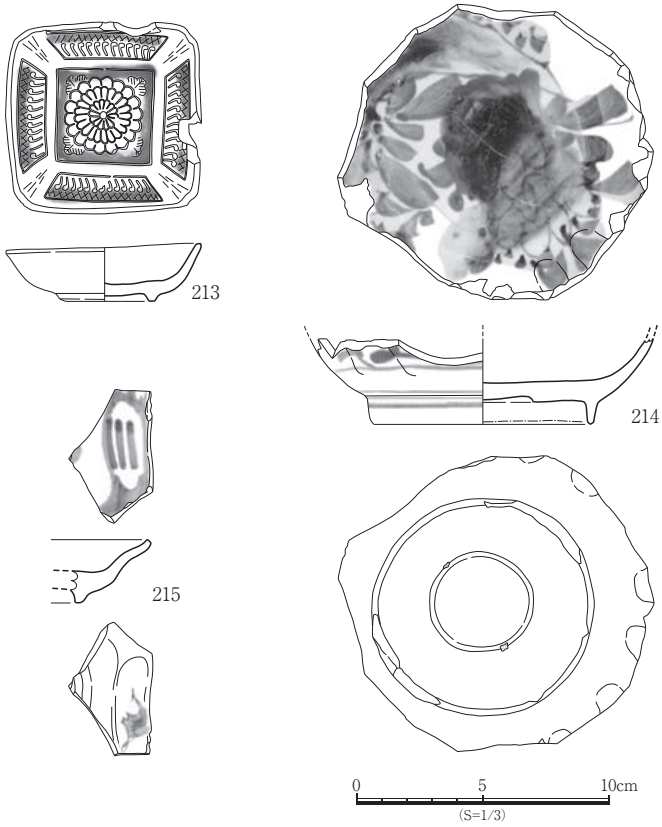


図66　A区SX12出土遺物実測図

P100(図67)

長径66cm，短径54cm，深さ16.8cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色細粒砂質シルトで，1～5cm大の円礫を多く含み，炭化物を含む。遺物は216と217を図示した。216は陶器蓋である。鉄釉が施され，轆轤成形，底部糸切りである。217は陶器鉢である。内外面に鉄釉が施される。

P102(図67)

直径33cm，深さ16.6cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，赤擬礫と炭化物を含む。遺物は218を図示した。218は磁器皿である。蛇ノ目凹形高台である。外高台に圏線，外面に塔文，内面に笹と松文である。

P104(図67)

P130を切る。長径37cm，短径36cm，深さ7.7cmを測る。平面形態は円形を呈する。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，赤擬礫と炭化物を含む。遺物は219を図示した。219は磁器蓋である。全体に透明釉が施され，摘内圏線に「大明年製」の銘がみられる。天井部に花唐草文，外面に牡丹文，唐草文の染付がみられる。

P106(図67)

長径38cm，短径25cm，深さ27.0cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色細粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。柱痕は暗褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。遺物は220～222を図示した。220は陶器瓶である。外面に灰白釉が施され，鷺と樹木文の錆絵がみられる。221は陶器火鉢か。明緑灰釉が内面口縁と外面体部にかかる。222は磁器皿である。内面から外面体部にかけて透明釉が施される。見込に笹文，草花文，外面に唐草文，高台内に「大明年製」と思われる銘がみられる。

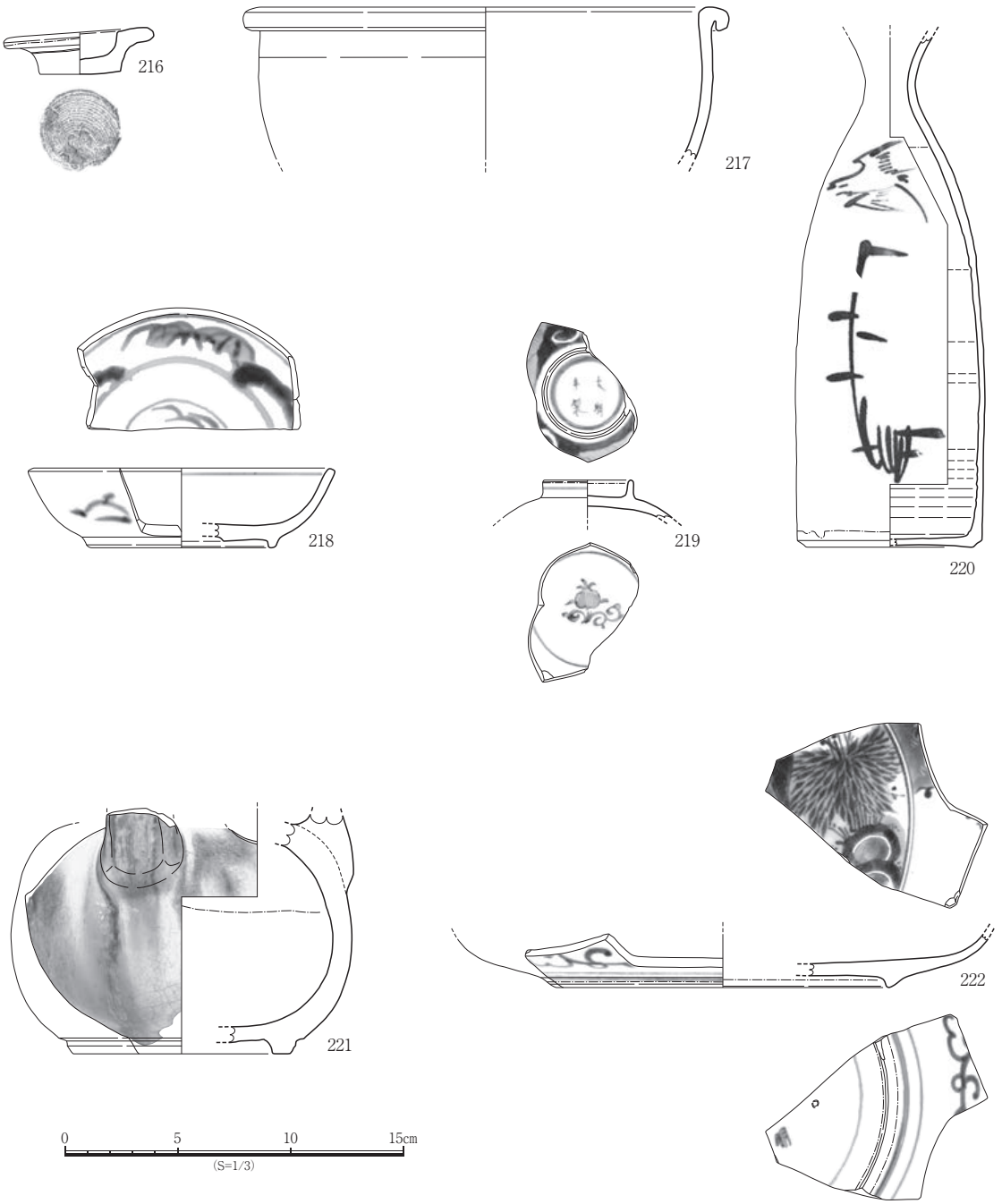


図67　A区P100～106出土遺物実測図

P110(図69)

SD20を切る。長径42cm，短径35cm，深さ34.7cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。遺物は223と224を図示した。223は陶器碗である。灰白釉が施され，見込は蛇ノ目釉剥される。見込と外高台に圏線，外面に草花文の染付がみられる。224は陶器蓋である。外面に錆絵で笹文がみられる。

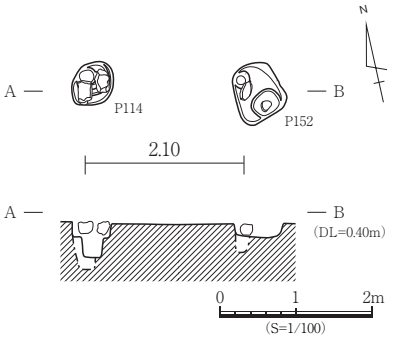


図68　A区P114・152

P114(図68・69)

長径65cm，短径52cm，深さ60.8cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。遺物は225と226を図示した。225は土師器小皿である。底部は糸切りされ，外面に「…之□」「単入」の墨書がみられる。また，掘方から226の陶器碗が出土している。内面から外面体部にかけて灰オリーブ釉が施され，貫入が顕著である。高台内に墨書があるが判読は難しい。

P128(図69)

長径26cm，短径24cm，深さ13.6cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は暗褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含む。柱痕は黒褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。柱痕より遺物が出土しており，227を図示した。227は陶器壺である。内面は黒褐釉，外面は暗赤褐釉が施され，外面に錆絵がみられる。

P129(図69)

SK42を切る。長径60cm，短径53cm，深さ8.8cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含み，粗礫と酸化鉄を多く含む。遺物は228～230を図示した。228は陶器瓶である。灰オリーブ釉を外面から内面肩部まで施す。229は磁器碗である。全体に透明釉を施す。外面に桃文，腰部に圏線，内面口縁に二重圏線，腰部に二重圏線の染付がみられる。230は石製品砥石である。石材はチャートである。

P140(図69)

SD19に切られる。長径73cm，短径36cm，深さ10.3cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含み，酸化鉄を多く含む。遺物は231を図示した。231は陶器火入である。透明釉を外面から内面口縁まで施す。外面に山水文の染付がみられる。

P143(図69)

長径45cm，短径28cm，深さ19.5cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土はオリーブ黒色シルト質中粒砂で，中礫を多く含む。遺物は232を図示した。232は陶器小碗である。灰釉と一部緑釉が施される。轆轤成形である。

P148(図69)

直径21cm，深さ21.1cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含み，酸化鉄を多く含む。遺物は233を図示した。233は陶器杯である。透明釉が施され，貫入は顕著である。



図69　A区P110～148出土遺物実測図

④第4遺構面(図73)

SK46(図70・72)

P203に切られる。平面形態は長方形を呈する。検出長は1.39m，検出幅は0.62m，深さ29.7cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は陶器8点，磁器5点，土師器3点，土師質土器1点，炻器1点，石製品1点である。図示した遺物は234と235である。234は磁器碗である。透明釉が施される。235は土師質皿である。内面に轆轤目が少し残り，底部は回転糸切りされる。

SK47(図71・72)

SK51を切り，SD23，P166に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.15m，検出幅0.92m，深さ35.7cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は陶器1点，磁器1点，炻器1点，鉄製品2点である。図示した遺物は236である。236は陶器鉢である。外面に赤褐釉，内面底部に暗オリーブ褐釉が施される。

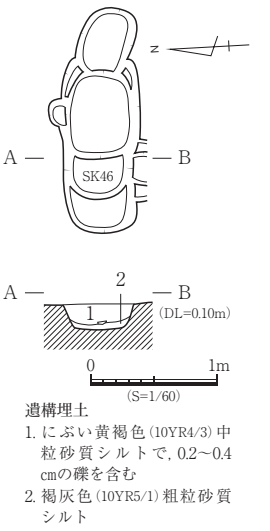


図70　A区SK46

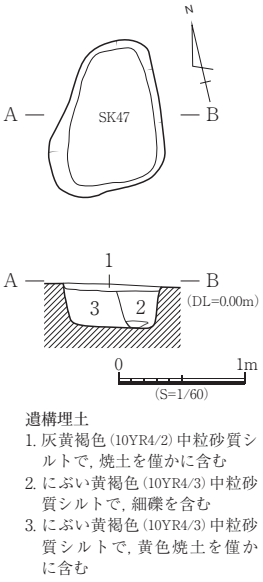


図71　A区SK47

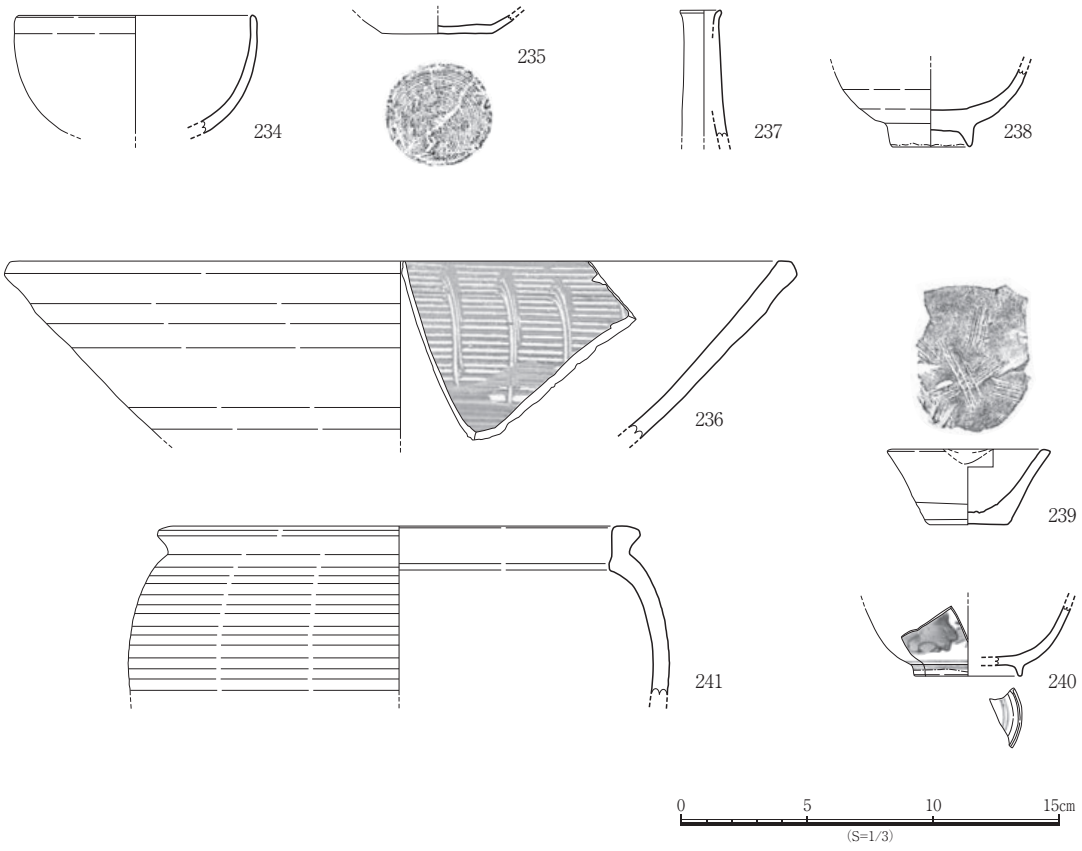


図72　A区SK46～51出土遺物実測図



図73　A・B区第4遺構面平面図

SK48(図72)

SD22に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長0.98m，検出幅0.37m，深さ18.7cmを測る。埋土は黄灰色シルト質中粒砂で，炭化物を含む。出土遺物は陶器1点である。図示した遺物は237である。237は磁器瓶である。頸部のみ残存し，外面ににぶい赤褐釉が施される。

SK49(図72)

平面形態は長方形を呈する。検出長1.41m，検出幅は1.04m，深さ7.7cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫と炭化物を含む。出土遺物は瓦片9点，陶器1点，土師器1点，鉄製品2点である。図示した遺物は238である。238は磁器小碗である。外面に灰オリーブ釉が施される。轆轤成形で見込と高台内に小礫が付着する。

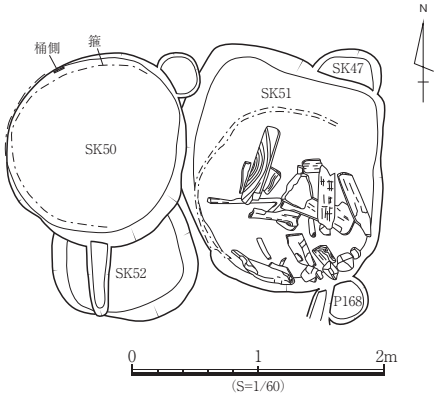


図74　A区SK50～52

SK50(図72・74)

SK51・52を切り，P167に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.53m，検出幅は1.46m，深さ43.3cmを測る。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含み，焼土を僅かに含む。出土遺物は陶器1点，磁器4点，土師器1点である。図示した遺物は239と240である。239は陶器玩具で片口鉢を呈し，オリーブ黒釉が施される。見込に3歯摺目が入る。240は磁器小碗である。全体に透明釉が施され，外面に樹木文，外高台に三重圏線，内高台に二重圏線の染付がみられる。

SK51(図72・74)

SK47・50，SD2，P167に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.95m，検出幅は1.55m，深さ44.5cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。出土遺物は陶器2点，磁器5点である。図示した遺物は241である。241は陶器甕である。全体に鉄釉を施す。また，外面に沈線を巡らす。

SK52(図74)

SK50に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.14m，検出幅は0.85m，深さ34.8cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫と炭化物を含む。

遺物は出土していない。

SD21(図75・76)

SD22，P169に切られる。検出長1.75m，検出幅0.57m，深さ16.9cmを測る南北溝跡である。埋土は黒褐色シルト質中粒砂で，細礫を含み，焼土と炭化物を多く含む。出土遺物は瓦片1点，陶器3点，磁器5点，炻器3点である。図示した遺物は242と243で，242は磁器碗である。透明釉を施し，外面口縁と外高台に圏線，外面に風景文がみられる。243は磁器皿である。内面から外面体部にかけて青磁釉が施され，見込は蛇ノ目釉剥される。

SD22(図75・76)

SD21を切り，SK48，P157・172に切られる。検出長2.58m，検出幅0.85m，深さ18.6cmを測る東西溝跡である。上層は黒褐色中粒砂質シルトに焼土と思われる橙色の中粒砂質シルトと炭化物を

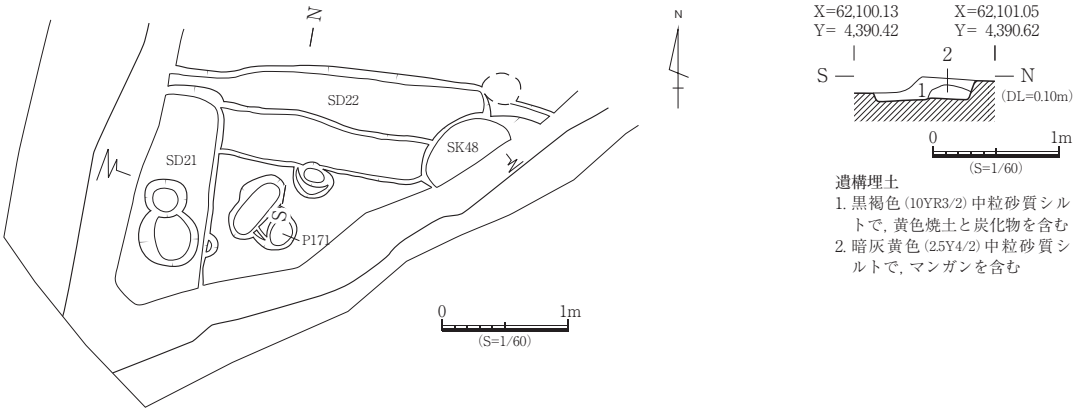


図75　A区SD22

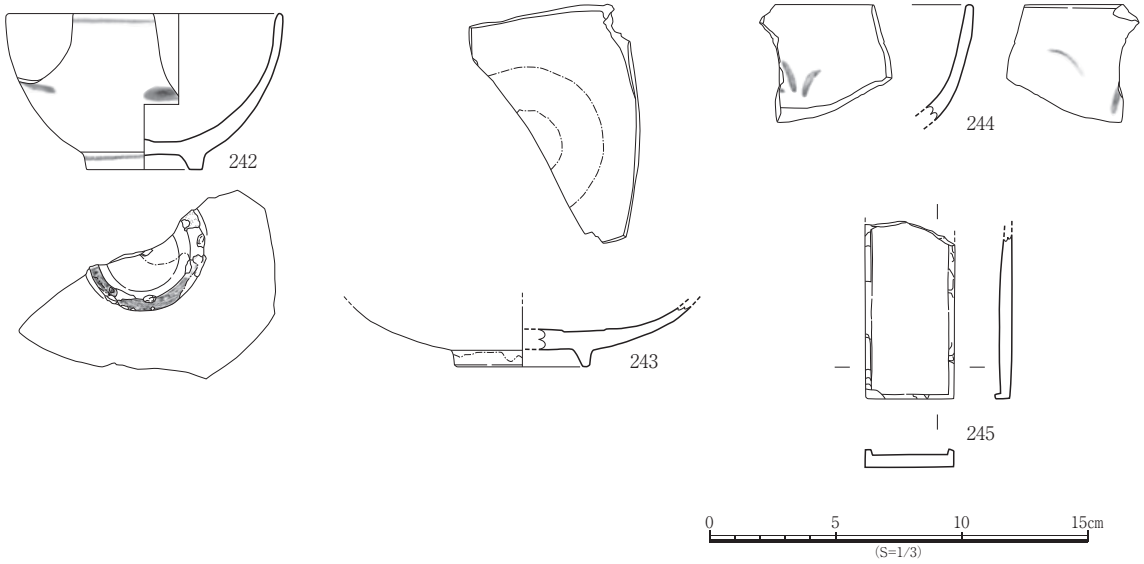


図76　A区SD21・22出土遺物実測図

含む。出土遺物は陶器12点，磁器7点，土師器10点，炻器1点，石製品1点である。図示した遺物は244と245である。244は陶器碗である。にぶい黄釉が全体に施され，内外面に草文の錆絵がみられる。245は石製品硯である。石材は粘板岩か。

SX14(図77・78)

平面形態は楕円形を呈し，検出長2.70m，検出幅2.45m，深さ66.8cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，0.2～0.4cmの礫と焼土と思われる橙色の中粒砂質シルト，炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，丸瓦1点，陶器9点，磁器7点，土師器3点，炻器1点である。図示した遺物は246～248である。246は陶器鉢である。黒褐釉が施される。247は陶器火鉢である。内面から外面口縁部にかけて暗褐釉を施す。248は磁器皿である。全体に透明釉を施す。見込に籠文，野菜文の染付がみられる。

SX15(図78)

平面形態は溝状を呈し，長径3.46m，短径0.21m，深さ9.2cmを測る。埋土は黒褐色シルト質中粒砂で，細礫を含む。出土遺物は図示した249のみである。249は肥前系磁器紅皿である。内面から外面体部まで白磁釉が施され，菊花形を呈する。型打成形で焼成時の礫が付着している。

P155(図78)

平面形態は楕円形を呈し，長径49cm，短径19cm，深さ20.0cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。出土遺物は図示した250のみである。250は土師器の尾戸窯産白土器小皿である。見込に陽刻の高砂文がみられる。

P164(図78)

平面形態は楕円形を呈し，長径46cm，短径42cm，深さ41.7cmを測る。埋土は黄灰色シルト質中粒砂で，マンガンを含む。柱痕を検出しており，灰黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。柱痕からのみ遺物を検出し，図示した251のみである。251は磁器皿で内面から外面体部にかけて青磁釉が施される。見込は蛇ノ目釉剥される。

P168(図78)

SK51とP196を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径38cm，短径36cm，深さ6.6cmを測る。埋土は黒褐色シルト質中粒砂で，細礫と焼土を含む。出土遺物は図示した252のみである。252は土師器杯である。ナデ成形である。

P171(図78)

ピットに切られる。平面形態は楕円形を呈し，長径35cm，短径27cm，深さ13.2cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と焼土，炭化物を含む。出土遺物は図示した253のみである。253は陶器鉢である。外面は透明釉，内面は緑釉が施される。

P176(図78)

P187を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径26cm，短径23cm，深さ17.2cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，細礫と炭化物を含む。出土遺物は陶器1点，磁器1点である。図示した遺物は254である。254は陶器擂鉢である。外面口縁に1条沈線がめぐる。

P178(図78)

P186を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径41cm，短径35cm，深さ10.9cmを測る。埋土は黄灰色シルト質中粒砂である。ピットの堀方より遺物を検出し，255を図示した。255は陶器瓶である。灰釉が施され，肩部に山水文の染付がみられる。

P184(図78)

平面形態は楕円形を呈し，長径37cm，短径30cm，深さ12.2cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，炭化物を少し含む。出土遺物は陶器2点，磁器2点，炻器1点である。図示した遺物は256である。256は肥前系陶器碗である。オリーブ黄釉が内面から外面体部にかけて施される。

P185(図78)

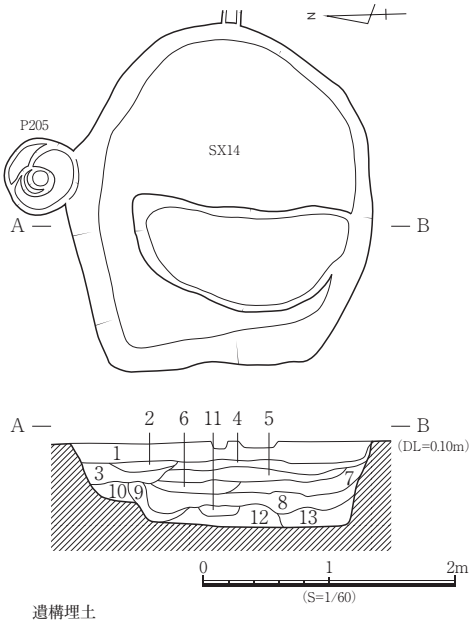
平面形態は楕円形を呈し，長径36cm，短径26cm，深さ16.8cmを測る。埋土は黒褐色シルト質粗粒砂である。図示した遺物は257である。257は磁器碗である。内面は透明釉，外面は青磁釉が施される。内面に二重圏線，五弁花文，高台内に渦「福」の染付がみられる。

P187(図78)

P176に切られる。平面形態は楕円形を呈し，長径34cm，短径32cm，深さ19.2cmを測る。埋土は黄灰色シルト質中粒砂で，マンガンを含む。図示した遺物は258である。258は陶器火入である。外面は暗赤褐釉，内面はにぶい赤褐釉が施される。内面は僅かに被熱する。

P205(図77・78)

SX14を切る。平面形態は楕円形を呈し，長径63cm，短径59cm，深さ23.2cmを測る。埋土は黒褐色シルト質粗粒砂，柱痕は黒褐色シルト質粗粒砂である。図示した遺物は259である。259は磁器小碗である。明緑灰釉が施され，外高台に二重圏線，外面に花文の染付がみられる。



遺構埋土
1. 褐色(10YR4/4)中粒砂質シルトで，中礫とハンダを含む
2. にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂質シルトで，中礫とハンダ・炭化物を含む
3. にぶい褐色(10YR5/3)中粒砂質シルトで，中礫を多く含む
4. 灰色(5Y4/1)中粒砂質シルトで，マンガンを含む
5. オリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂質シルトで，中礫とハンダを含む
6. 灰色(5Y4/1)細粒砂質シルトで，中礫を含む
7. 灰色(5Y4/1)細粒砂質シルトで，粘性強い
8. オリーブ黒色(5Y3/1)中粒砂質シルトで，中礫を含む
9. 灰色(5Y5/1)細粒砂質シルトで，炭化物を含む
10. 灰黄色(2.5Y4/1)シルト
11. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
12. オリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂質シルトで，中礫を少し含む
13. 灰色(7.5Y4/1)シルト質中粒砂で，細粒砂と中礫を多く含む

図77　A区SX14，P205

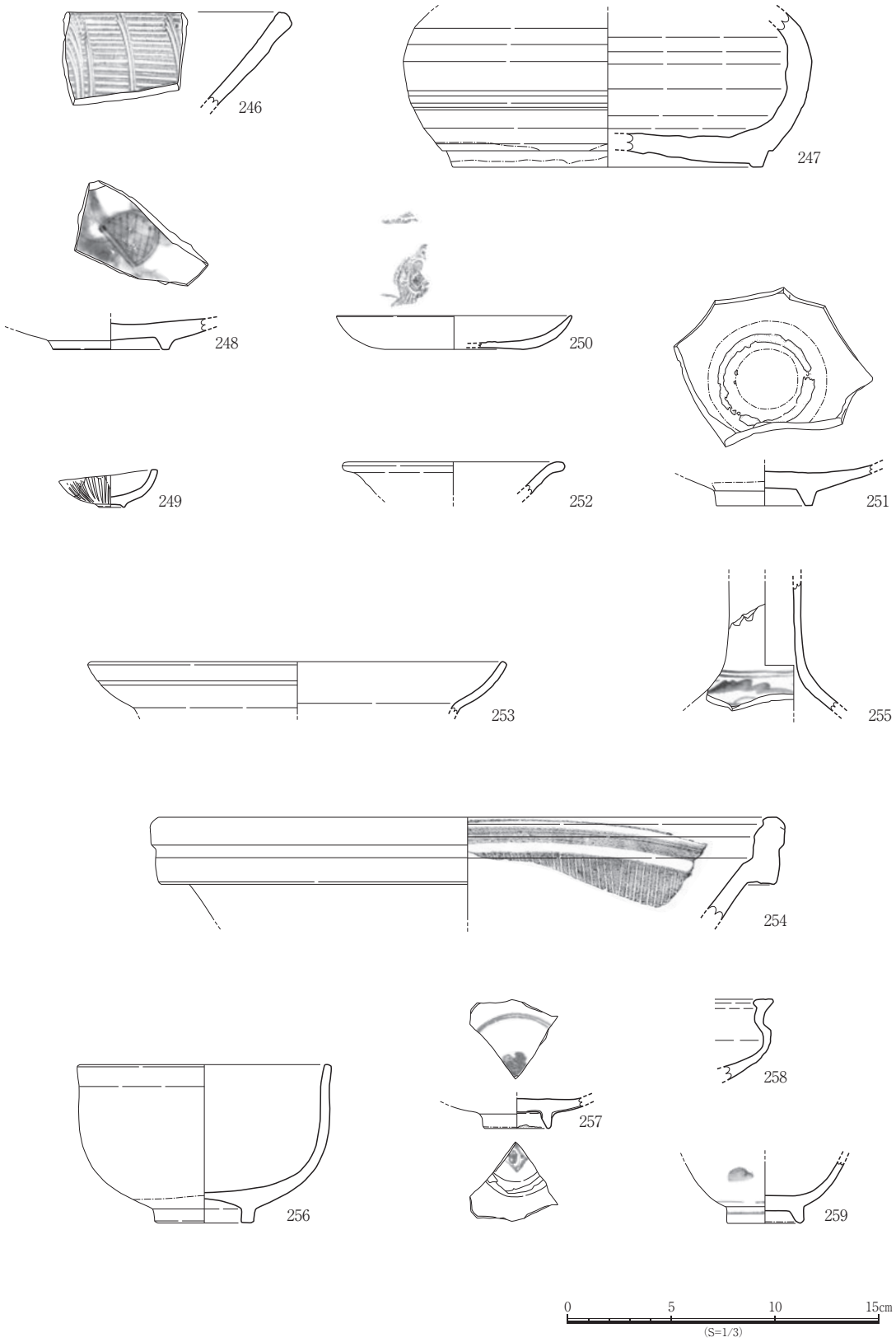


図78　A区第4遺構面遺構出土遺物実測図

2. Ｂ区（図26）

Ｂ区はＡ区の北に設定した調査区である。基本層序などもＡ区と同一である（図27）。

⑴ 包含層出土遺物

第Ⅰ層（図79）

第Ⅰ層は近代の整地層であるが，江戸時代の遺物が含まれていたため報告する。出土遺物は260～265を図示した。

260は陶器皿である。灰釉が施され，内面体部に草花文，見込に梅文がみられる。261は陶器灯明皿である。内面から外面口縁まで灰釉が施される。見込に3箇所ピン痕が残る。口縁部は被熱し，外面にタールが付着する。262は磁器輪花皿である。内面体部に唐草文，見込に松竹梅文，外面に唐草文の染付がみられる。263は尾戸窯土師器皿，白土器である。見込に型押による松文と鶴文がみられる。264は土製品泥面子である。型押成形で丸に九枚変形笹文がみられる。265は石製品硯である。石材は砂岩である。海より割れている。

第Ⅱ層（図80）

第Ⅱ層は近代の整地層であるが，江戸時代の遺物が含まれていたため報告する。出土遺物は266～270を図示した。

266は信楽系陶器碗である。内面から高台付近まで灰釉が施される。外面に鉄錆文がみられる。削出高台で焼成時に畳付に礫が付着する。267は陶器鉢である。灰オリーブ釉を内面から外面体部にかけて施し，外面体部から外高台まで鉄釉を施す。外面体部に8条の波状文がみられる。268は陶器鉢である。明オリーブ灰釉が内面から外面体部まで施される。胴部は丸く膨らみ，口縁は外反し，内面底部に5箇所ハリ痕がみられる。外高台に鉄が付着する。廃棄後の付着とみられる。269は京都・信楽系の陶器灯明皿である。内面から外面口縁まで灰釉が施される。内面に格子状櫛目がみられる。口縁部は被熱し，外面にタールが付着する。270は石製品硯である。石材は粘板岩で，硯背に「本高島青石」の刻書がみられる。3箇所穿孔される。滋賀県高島産である。

第Ⅲ層（図80）

第Ⅲ層は近世の整地層である。出土遺物は271～276を図示した。

271は陶器皿である。内面から外高台付近まで鉄釉が施される。見込は蛇ノ目釉剥され，重ね焼き痕がみられる。高台内に墨書がみられる。272は陶器灯明受皿であり，外面口縁から内面体部まで鉄釉が施される。外面に重ね焼き痕がみられる。273は陶器灯明受皿である。釉薬はみられない。輪状受部貼付に3箇所切れ込みが施される。内外面の口縁部にタールが付着する。274は磁器皿である。灰白釉が施され，畳付は釉剥し，見込は蛇ノ目釉剥される。内面体部に二重格子文の染付がみられる。275は磁器杯である。外面に花卉文，界線，外高台に圏線がみられる。276は土製品人形である。全体にキラ粉が付着する。型成形で下面に径4mmの孔がある。天神様である。

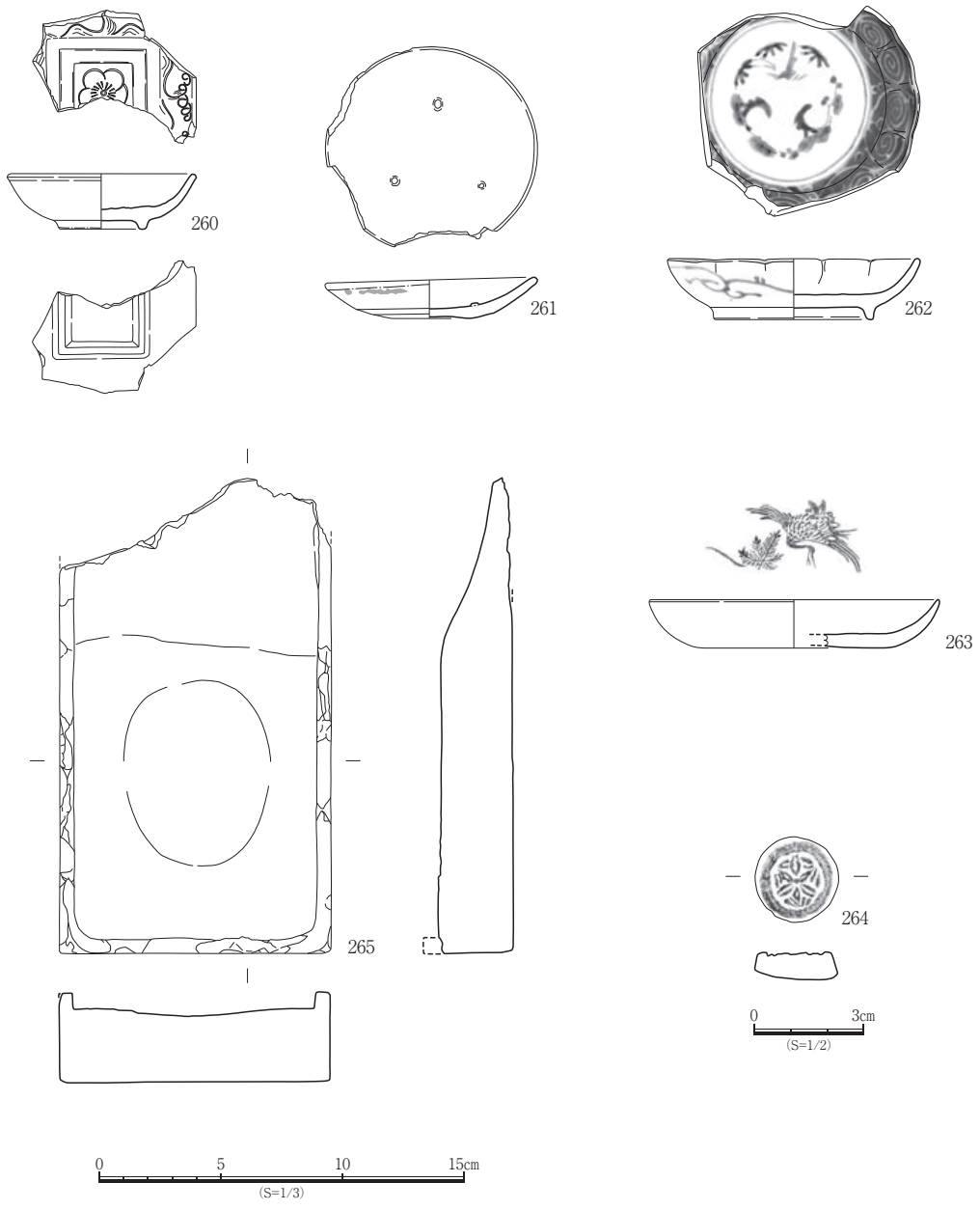


図79　B区第Ⅰ層出土遺物実測図

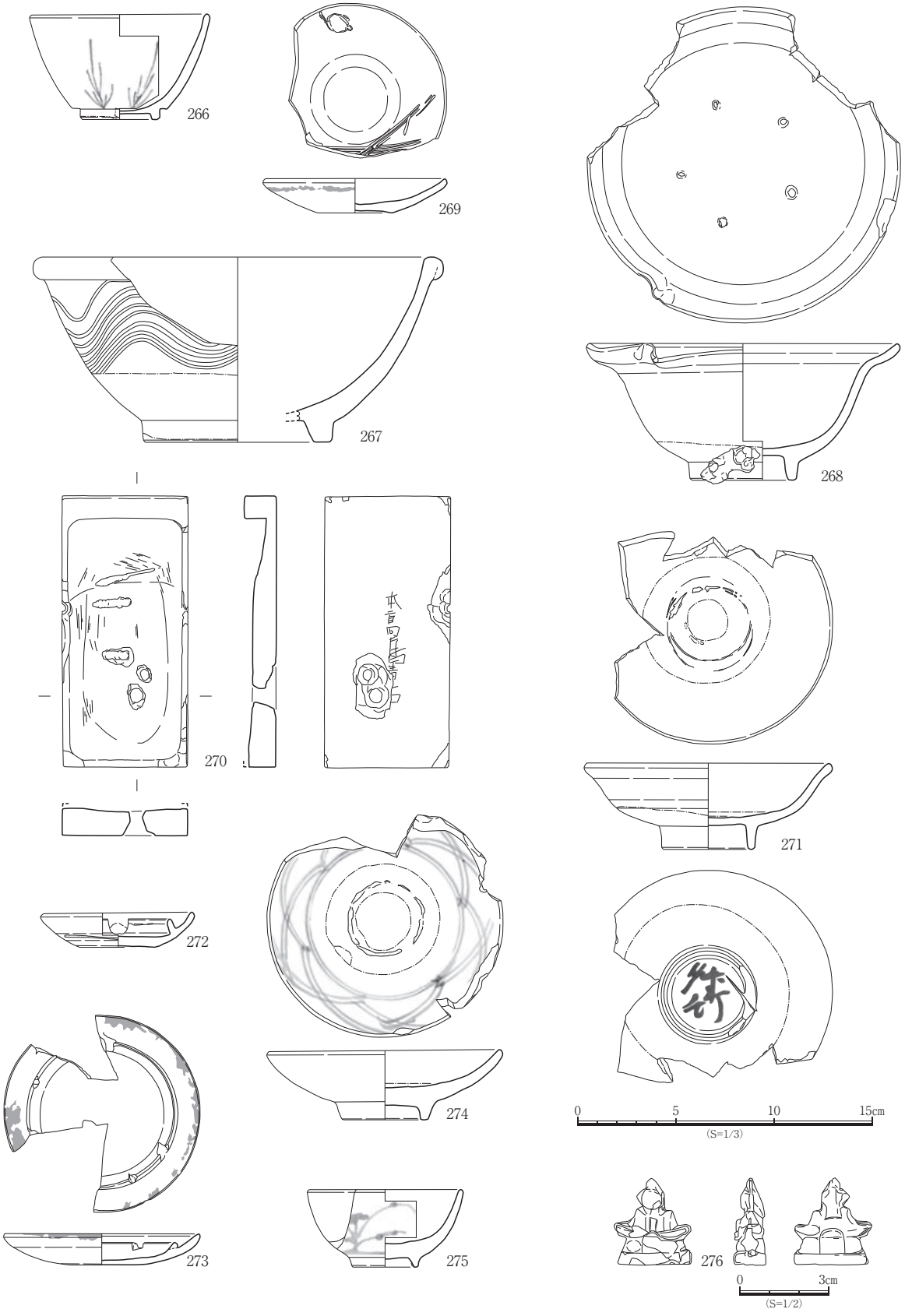


図80　B区第Ⅱ・Ⅲ層出土遺物実測図

(2)遺構と遺物

①第1遺構面(図30)

SB1(図81・83)

検出長10.1m，検出幅3.3m，深さ33.0cmを測る。石灰岩による敷石を一部コンクリートで固めている。聞き取りや過去の見取り図から竹村家が深尾邸より移築した巣窟庵の一部と思われる。出土遺物は軒平瓦1点，平瓦4点，瓦片21点，陶器25点，磁器40点，骨1点，貝1点である。図示した遺物は277である。277は瀬戸系磁器角皿である。白磁釉が施される。見込に陽刻の梅文，内面体部に陽刻の紗綾文がみられる。

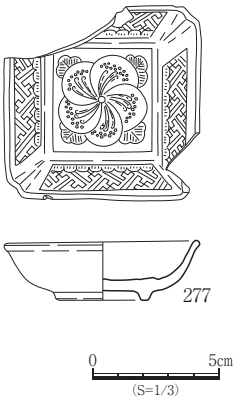


図81　B区SB1出土遺物実測図

SK5(図82)

SK2に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長1.62m，検出幅0.70m，深さ14.0cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで石灰岩の礫を含んでいた。出土遺物は陶器5点，磁器11点，鉄製品1点，骨1点，土製玩具1点である。図示した遺物は278と279である。278は陶器蓋である。外面に青磁釉が施され，笠部は露胎である。279は土製品玩具である。外面にキラ粉が付着する。型打成形後ナデ成形される。焜炉を模した飯事道具である。

SK9(図83)

SB1を切る。平面形態は不整形を呈する。検出長1.39m，検出幅0.50m，深さ15.8cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂で黄褐色中粒砂質シルトのブロックを含む。出土遺物は軒平瓦1点，平瓦1点，陶器5点，磁器7点，炻器3点，鉄製品1点である。瓦を図示したため，後述する。

SK12(図82)

撹乱，P31～33に切られる。平面形態は溝状を呈する。検出長1.81m，検出幅は1.08m，深さ10.6cmを測る。埋土は黒褐色の中粒砂質シルトで礫と瓦を多く含む。

出土遺物は瓦片2点，陶器12点，磁器27点，炻器15点，鉄製品4点，銅製品1点，土製玩具3点である。図示した遺物は280と281で，土製品泥面子である。いずれも型押成形で下面はナデ調整される。280は「ユ」文，281は葵文である。

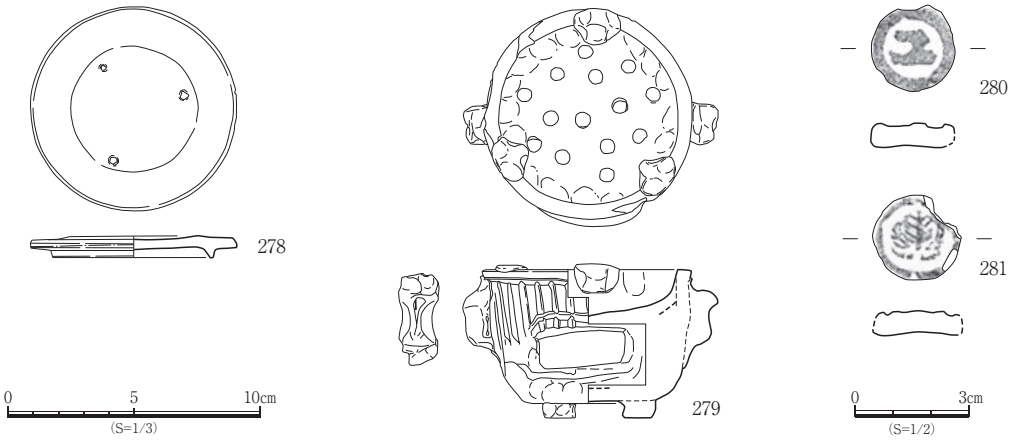
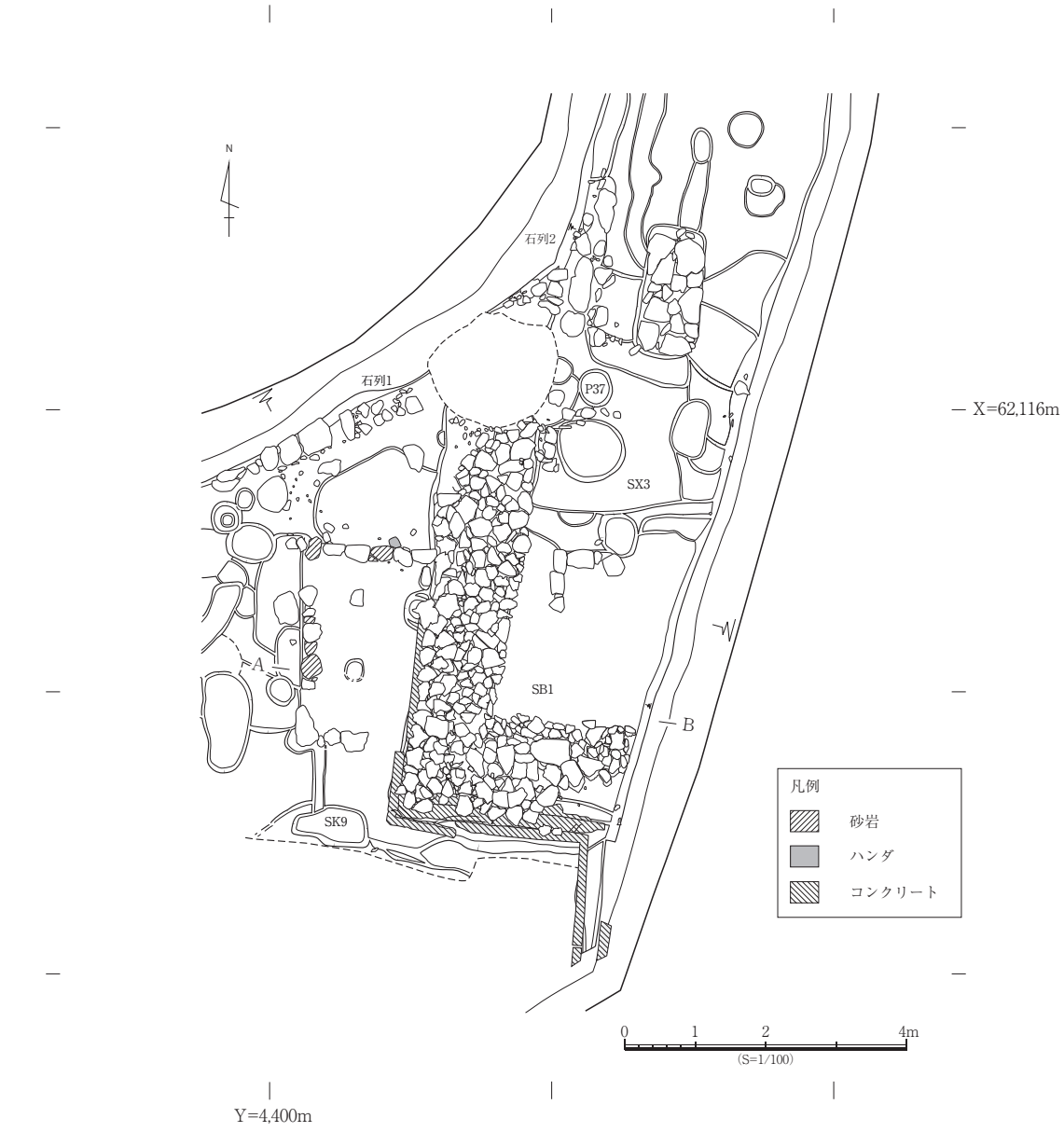


図82　B区SK5～12出土遺物実測図



遺構埋土
1. 明赤褐色(5YR5/8)粗粒砂質シルトで，にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルトと中礫を含み，僅かに黄褐色(10YR5/6)中粒砂質シルトの擬礫を含む
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルトで，石灰岩のグリ石と僅かに黄褐色(10YR5/6)中粒砂質シルトの擬礫を含む
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で，中礫を含む
4. 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂質シルト
5. 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂質シルトで，黄褐色(10YR5/6)中粒砂質シルトの擬礫を多く含む
6. 黒褐色(10YR3/1)中粒砂質シルトで，黄褐色(10YR5/6)中粒砂質シルトが固く締められる
7. 褐色(7.5YR5/1)シルト質粗粒砂で，中礫を含む
8. 灰褐色(7.5YR4/2)シルト質粗粒砂で，中礫を含む
9. 黒褐色(10YR3/1)シルト粗粒砂で，中礫を含む

図83　B区SB1

SD3(図84・85)

SKに切られる。検出長3.05m，検出幅0.33m，深さ3.6cmを測る南北溝跡である。断面形は逆台形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトに黄褐色中粒砂質シルトブロックと炭化物を含む。出土遺物は陶器1点，磁器3点，土製玩具1点である。図示した遺物は282である。282は土製品泥面子である。型押成形で下面はナデ調整され，文字文である。

SX3(図85)

SK4～6，SX1，P23・25に切られ，SK3，P37・38・42・43を切る。平面形態はやや方形を呈し，検出長2.85m，検出幅2.17m，深さ19.1cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトに黄褐色中粒砂質シルトブロックと炭化物を含む。出土遺物は平瓦1点，棧瓦2点，瓦片3点，軒平瓦1点，陶器40点，磁器34点，土製玩具2点，炻器34点，ガラス製品1点，鉄製品2点，銅製品1点，骨4点である。図示した遺物は283と284である。いずれも土製品泥面子である。型押成形で下面はナデ調整され，283は梅文，284は三つ葉柏文である。

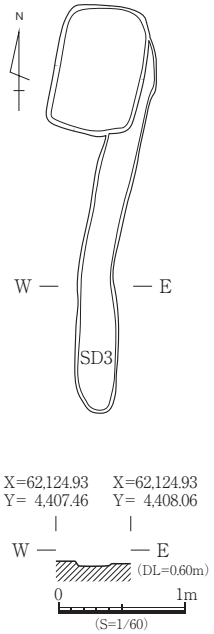


図84　B区SD3

P18(図85)

撹乱に切られる。長径147cm，短径38cm，深さ7.2cmを測り，平面形態は不整形を呈する。埋土は暗褐色シルト質中粒砂で，焼土を含む。図示した遺物は285である。285は土製品泥面子で型押成形，下面はナデ調整される。蜻蛉文である。

P37(図85)

長径54cm，短径48cm，深さ25.5cmを測り，平面形態は不整形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，中礫と焼土を含む。図示した遺物は286と287であり，これらはセットである。286は陶器急須蓋である。内外面の笠部に鉄釉が施される。287は陶器急須である。内外面に鉄釉が施される。外面には飛鉋文がみられる。

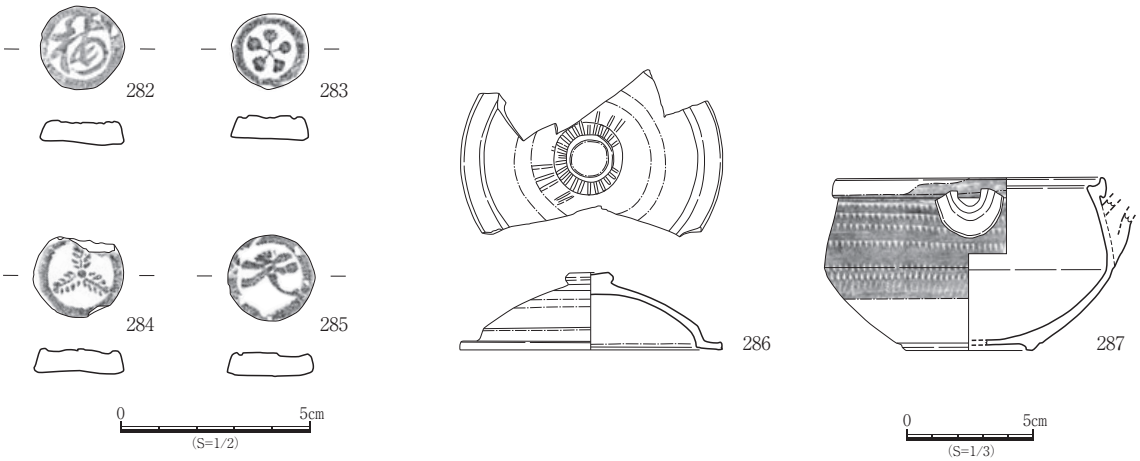


図85　B区SD3，SX3，P18・37出土遺物実測図

②第2遺構面(図43)

SK15(図86・89)

P107を切り，P119に切られる。平面形態は長方形を呈し，検出長1.87m，検出幅1.14m，深さ9.7cmを測る。埋土はにぶい黄褐色の粗粒砂質シルトに0.5～1cmの礫を少し含み，明黄褐色中粒砂質シルトのブロックを含む。出土遺物は陶器4点，磁器2点，炻器1点が出土している。図示した遺物は288である。288は陶器小碗である。浅黄釉が内面から外高台付近まで施され，貫入は顕著である。

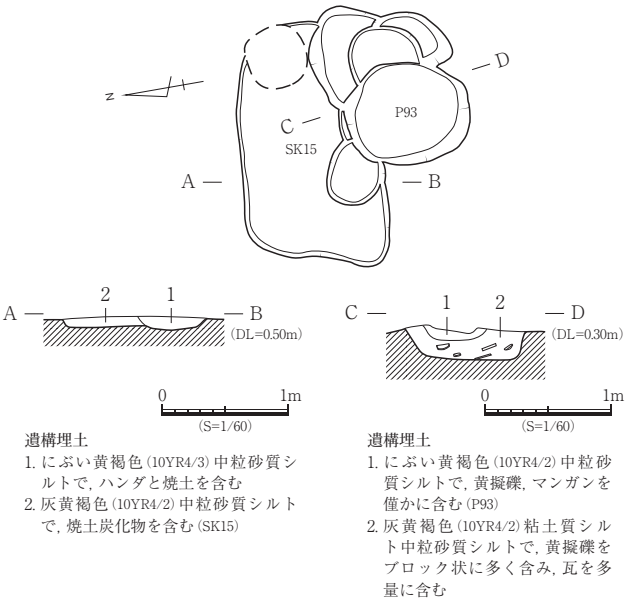


図86　B区SK15，P93

SD8(図55・89)

A区SD16と同一。検出長4.35m，検出幅0.91m，深さ42.9cmを測る南北溝跡である。断面形は逆台形を呈し，埋土は暗褐色中粒砂質シルトに明赤褐色中粒砂質シルトを多く含み，炭化物を含む。溝に沿って材木が敷かれ，その上に10～80cmの自然石が積まれていた。自然石は石灰岩が主であり，僅かにチャートが使用されていた。また，溝の西側はほぼ残存していない。出土遺物は平瓦1点，瓦片37点，陶器32点，磁器21点，炻器16点，鉄製品1点である。図示した遺物は289である。289は陶器壺である。内面から外高台付近にかけて鉄釉が施される。碁笥底である。

SX7(図87・89)

SX14を切り，ピットに切られる。西端は調査区外である。平面形態は溝状を呈し，検出長6.86m，検出幅1.25m，深さ15.6cmを測る。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。出土遺物は瓦片7点，陶器47点，磁器51点，土師器1点，炻器6点である。遺物は290を図示した。

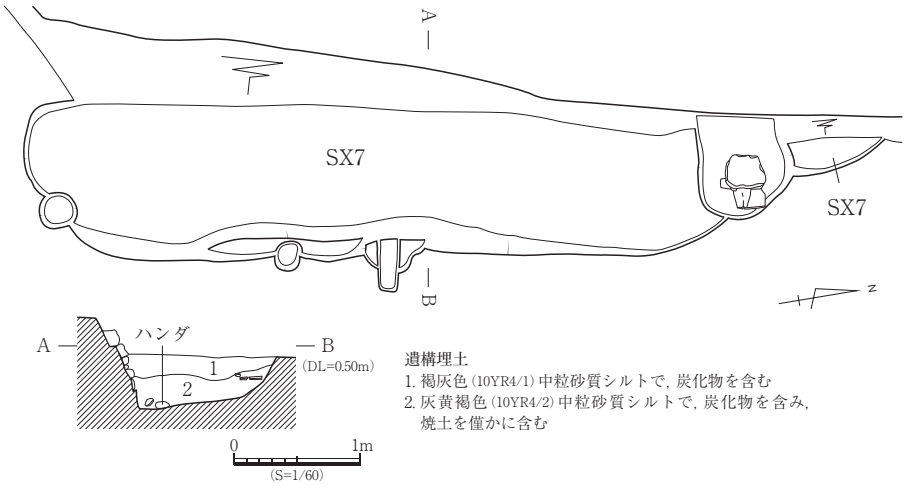
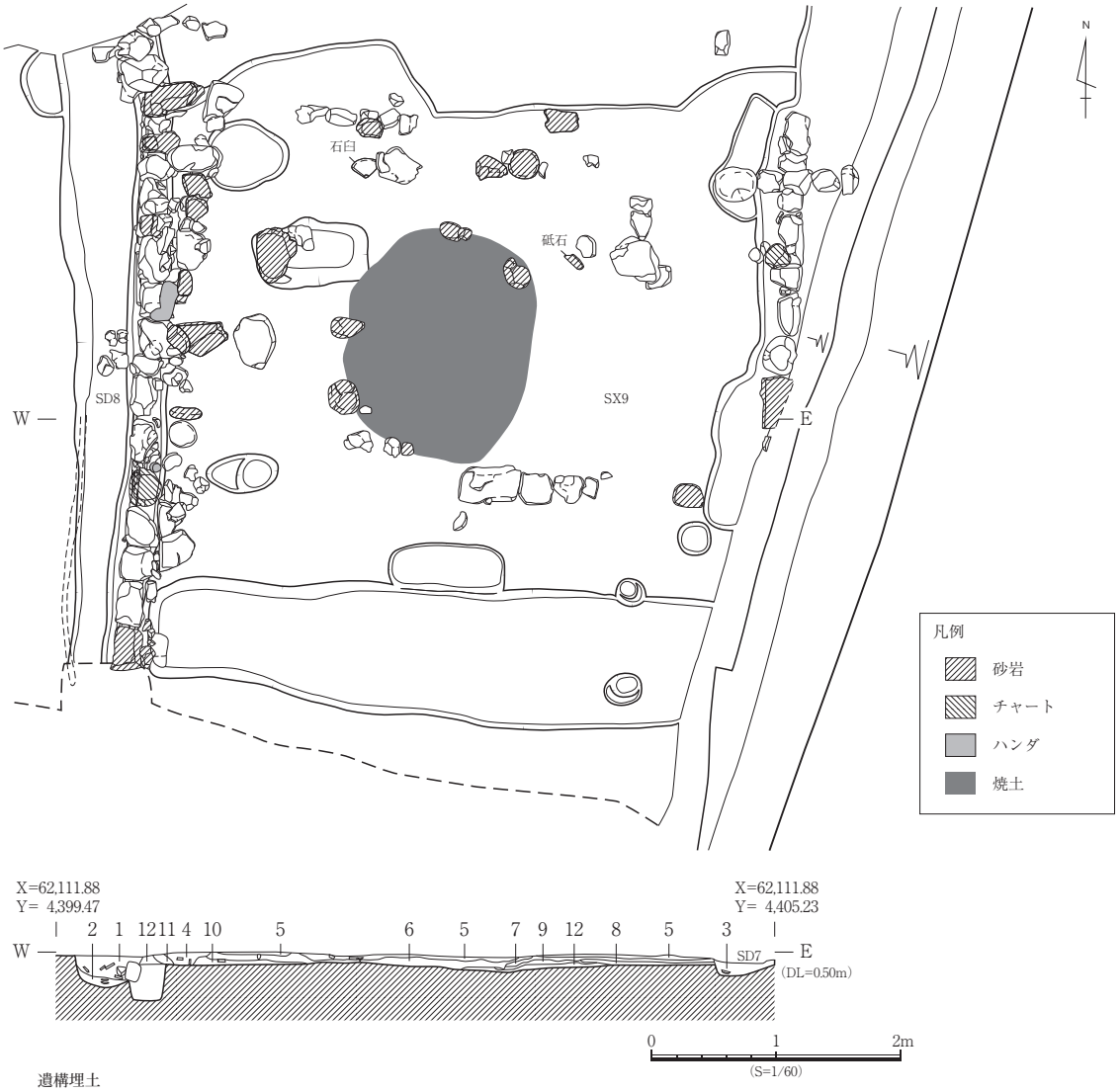


図87　B区SX7



遺構埋土

1. 灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂質シルトで, 中礫を含み, 瓦を多く含む (SD8)
2. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトで, 焼土を斑に含む (SD8)
3. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトで, ハンダと焼土, 中礫を含み, 硬く締まる
4. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトで, 焼土と炭化物を僅かに含み, 瓦を多く含む (SX9)
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 中粒砂質シルトで, 一部に焼土を含み, 全面にハンダを含む (SX9)
6. 黄褐色 (10YR5/6) 中粒砂質シルトで, 焼土と炭化物を多量に含み, ハンダで硬く締まる (SX9)
7. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 中粒砂質シルトで, 硬く締まる (SX9)
8. 明黄褐色 (10YR6/6) 中粒砂質シルトで, 一部に黄灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂質シルトを含み, 硬く締まる (SX9)
9. 黄灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂質シルトで, 硬く締まる (SX9)
10. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 中粒砂質シルトで, 硬く締まる (SX9)
11. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトで, 僅かに焼土を含む (SX9)
12. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトで, 焼土を含み, ハンダを多く含む (SX9)

図88　B区SX9



図89　B区SD8，SK15，SX7～9出土遺物実測図

290は磁器輪花皿である。透明釉と灰白釉が施され，見込に「寿」文，体部に同心円文，外面に宝文の染付がみられる。

SX9(図88・89)

SD7, P77～79, SX10に切られ, SX13, P124・131を切る。平面形態は不整形を呈し, 検出長5.28m, 検出幅2.31m，深さ11.0cmを測る。一帯には石列が散見され，建物が建つ可能性が高い。おそらくSX10の前身である。埋土は暗オリーブ褐色中粒砂質シルトが硬く締められ，その下層は明黄褐色中粒砂質シルトの所謂ハンダで硬く締められる。最下層は黒褐色中粒砂質シルトに焼土を含み，この層も締められていた。SX10も版築が顕著である。出土遺物は瓦片4点，陶器42点，磁器28点，炻器13点，鉄製品1点，銅銭6点である。

図示した遺物は291～297である。291は陶器杯である。内面から外高台まで灰釉を施す。292は陶器餌皿である。内面から外面体部まで灰釉を施す。内面，口縁部，底部に砂が付着する。293は陶器紅皿である。型打成形で菊花形を呈する。294は陶器燗徳利である。口縁から頸部まで緑釉が施される。胴部は透明釉が施され，貫入は顕著である。295は磁器小碗である。透明釉が施され，外面に花卉文の染付がみられる。見込に舟文か。高台内に能茶山窯の「サ」文か。296は能茶山窯磁器八角鉢である。全体に透明釉を施し，見込に草花と鳥文，内面区画内に花卉文，雲文，捻り格子文，外面に如意頭と雲文，高台内枠に「茶山」銘の染付がみられる。297は磁器仏飯器である。透明釉を施す。杯部外面に唐草文の染付がみられる。

P44(図90)

P76を切り，P68に切られる。長径56cm，短径46cm，深さ26.7cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。図示した遺物は298である。298は陶器火入である。内面口縁から外面体部まで鉄釉を施す。僅かに被熱した痕跡が残る。

P60(図90)

長径52cm，短径51cm，深さ5.5cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は褐灰色中粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。礎盤を検出した。図示した遺物は299である。299は土製品泥面子である。型押成形で下面はナデ調整される。変わり熊笹文か。

P68(図90)

P44・87を切る。長径45cm，短径43cm，深さ21.1cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで, 炭化物と0.5～1cmの礫を多く含む。図示した遺物は300と301である。300は陶器甕である。内面から外面体部下部まで鉄釉を施し，内面底部に5点ハリ痕が残る。301は瓦質土器火鉢である。円筒形を呈する。内外面ともに横方向にナデ調整され，底部に円柱形を呈する脚を3点貼付する。

P85(図90)

長径45cm，短径35cm，深さ22.9cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は褐灰色中粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。桶枠を検出した。図示した遺物は302である。302は陶器擂鉢で内面口縁から外面体部にかけて鉄釉が施される。18歯摺目である。

P93(図86・90)

長径102cm，短径83cm，深さ39.7cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色

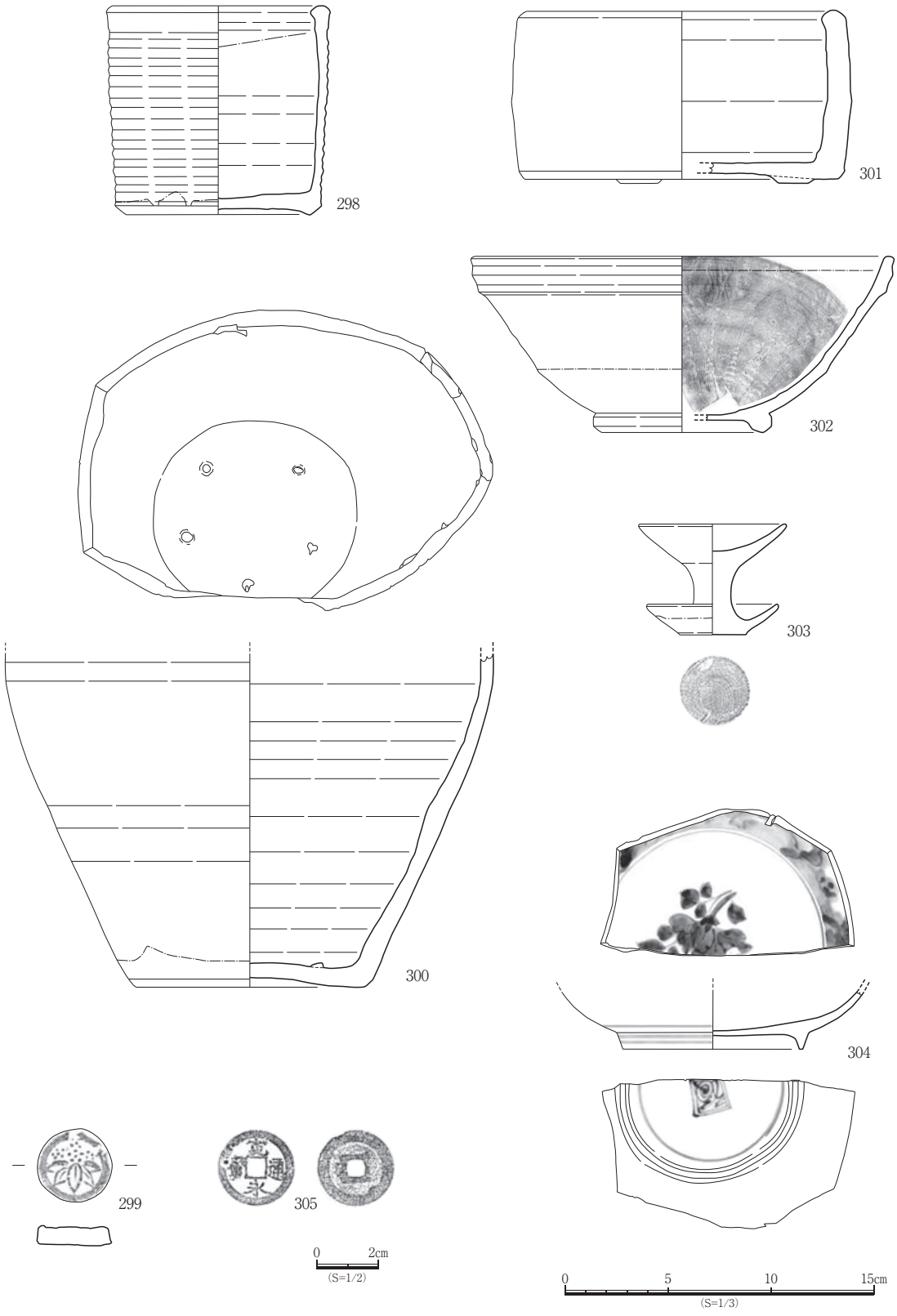


図90　B区P44～121出土遺物実測図

粗粒砂質シルトで，中礫と明黄褐色中粒砂質シルトの擬礫を多く含む。図示した遺物は303と304である。303は陶器台付灯明皿である。内面から外面底部まで鉄釉を施す。304は磁器皿である。透明釉を施し，外高台に二重圏線，高台内に一重圏線，渦福文，体部下方に一重圏線，見込に牡丹文と界線二重圏線，体部に山水文か。

P121(図90)

長径39cm，短径33cm，深さ13.0cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は赤褐色中粒砂質シルトの焼土で，炭化物を含む。図示した遺物は305である。305は金属製品古銭，寛永通寶である。

石列2(図91)

調査区の西立面に沿って石列2を検出した。石列2は東側の面が揃うため，護岸などの石垣とは性質が異なる。検出長5.2m，高さ0.7m，主軸はN－6°－Eを測る。上方は撹乱されていた。石材は主に20～40cmの石灰岩を使用しており，一部砂岩やチャート，ハンダのブロックもみられた。自然石のほか，転用石とみられるものも使用されていた。明確な裏込め石などはなく，基礎も胴木などはみられなかった。

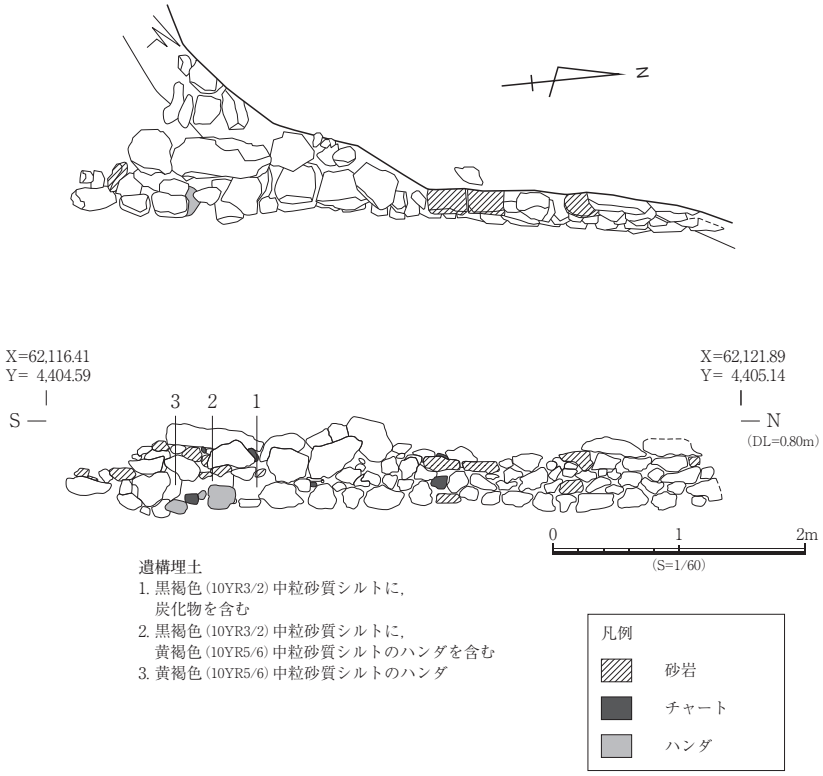


図91　B区石列2

③第3遺構面(図62)

SK20(図92・94)

SK21に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長1.25m，検出幅1.18m，深さ44.0cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は陶器10点，磁器25点，土師器5点，炻器3点，鉄製品1点である。図示した遺物は306である。306は土師器皿である。底部は糸切りされる。

SK27(図93・94)

平面形態は楕円形を呈し，検出長0.98m，検出幅0.93m，深さ21.5cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，焼土を含む。出土遺物は棧瓦1点，丸瓦2点，瓦片1点，軒平瓦4点，陶器52点，磁器28点，土師器2点，炻器13点，鉄製品1点である。図示した遺物は307と308である。307は陶器擂鉢である。胎土に1～2mmの角礫が混じる。10歯摺目の後，口縁をナデ調整する。308は在地系の瓦質土器火鉢である。内面底部にキラ粉が付着する。轆轤成形である。

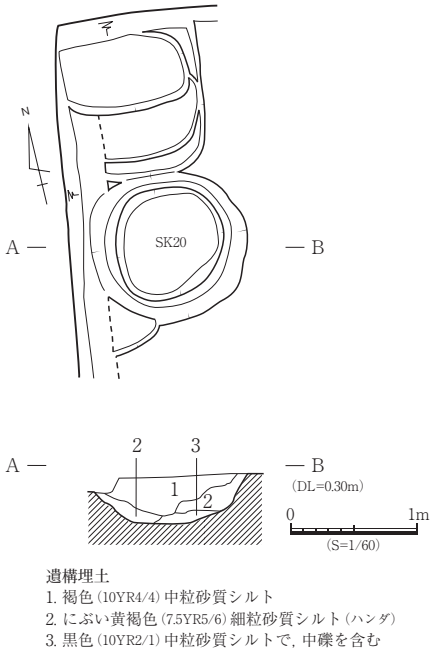


図92　B区SK20

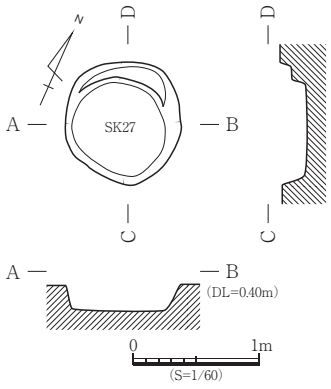


図93　B区SK27

SK29(図94・95)

SD10を切る。平面形態は楕円形を呈し，検出長0.79m，検出幅0.70m，深さ38.9cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトである。出土遺物は平瓦1点，丸瓦3点，陶器6点，磁器6点，炻器5点である。遺物は309を図示した。309は青花碗である。明オリーブ灰釉を施し，畳付は釉剥される。内面の貫入は顕著である。外面に山水文の染付がみられる。

SD10(図94・95)

SK29，P186に切られる。検出長2.50m，検出幅1.04m，深さ10.0cmを測る南北溝跡である。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。出土遺物は平瓦1点，棧瓦1点，瓦片4点，陶器1点，磁器38点，土師器7点，炻器1点，鉄製品1点である。図示した遺物

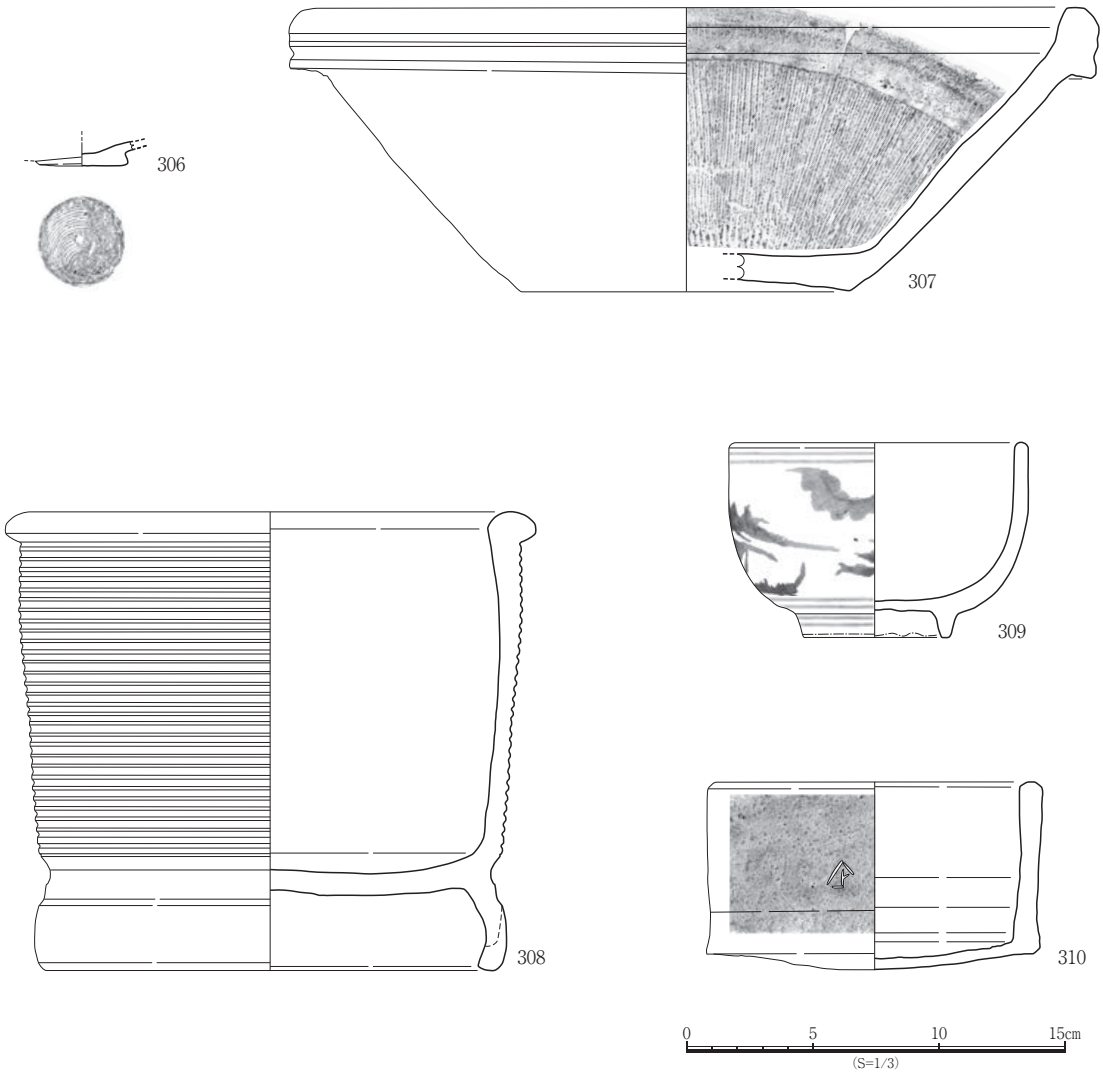


図94　B区SK20～29，SD10出土遺物実測図

は310である。310は陶器火鉢か。胎土には粗礫が混じり，釉はかからない。外面体部に「∧」に「上」の刻印がみられる。底部は薄く，下方に膨れる。

SD14

SD8に切られる。検出長5.35m，検出幅0.54m，深さ9.5cmを測る南北溝跡である。埋土は黒褐色シルト質粗粒砂で，焼土と炭化物を多く含む。出土遺物は軒平瓦2点，瓦片1点，陶器5点，磁器7点，土師器1点，炻器4点である。瓦を図示したため，後述する。

P132(図97)

上面の遺構に切られる。長径128cm，短径90cm，深さ20.3cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，中礫を含む。図示した遺物は311と312である。これらはセットである。311は陶器合子蓋である。外面に灰釉が施され，内面は露胎である。312は陶器合子である。灰釉が施され，口縁部は釉剥される。見込に3点ハリ痕が残る。

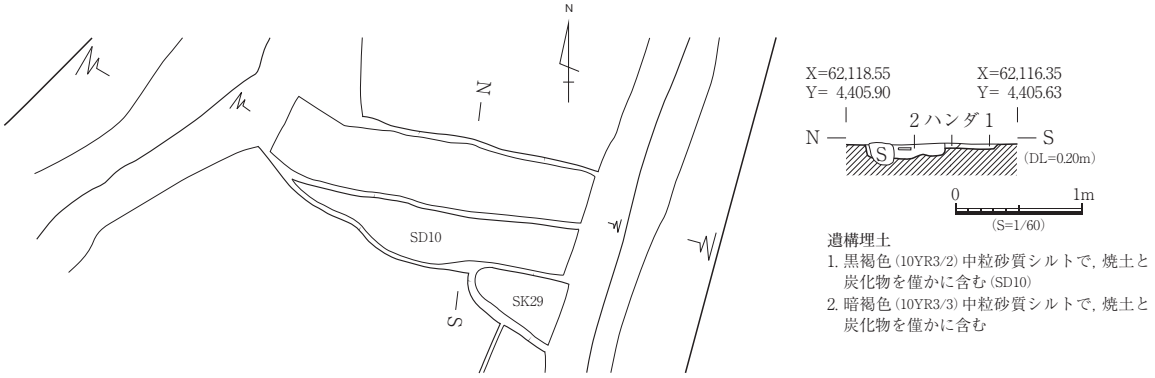


図95　B区SK29，SD10

P157(図97)

P155に切られる。長径37cm，短径36cm，深さ7.0cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂である。図示した遺物は313である。313は陶器擂鉢で外面口縁に2条の沈線，内面口縁には2条の沈線，内面に7歯単位の摺目がみられる。

P162(図97)

SK25，P167を切り，P158に切られる。長径86cm，短径46cm，深さ9.1cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルト質粗粒砂である。図示した遺物は314である。314は土師器皿である。内外面とも回転ナデを施し，底部は回転糸切りされる。

P172(図97)

長径60cm，短径54cm，深さ17.3cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色シルト質粗粒砂である。図示した遺物は315である。315は陶器碗である。口縁が肥厚し，内外面に灰白釉が施され，外面口縁に二重圏線と草文の染付がみられる。

P179(図97)

長径30cm，短径26cm，深さ7.8cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色シルト質粗粒砂で，炭化物を含む。図示した遺物は316である。316は端反磁器碗である。外面に山水に東屋，網干，松，波，背景に岩山が描かれた風景文と下界線，外高台に二重圏線，見込は二重圏線に鷺文か。内面口縁に雷文の染付がみられる。

P184(図96・97)

長径122cm，短径95cm，深さ8.5cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はセクションに記載した。図示した遺物は317である。317は瓦質土器火鉢である。底部はヘラ切り後，3箇所に脚を貼付する。煤が付着する。

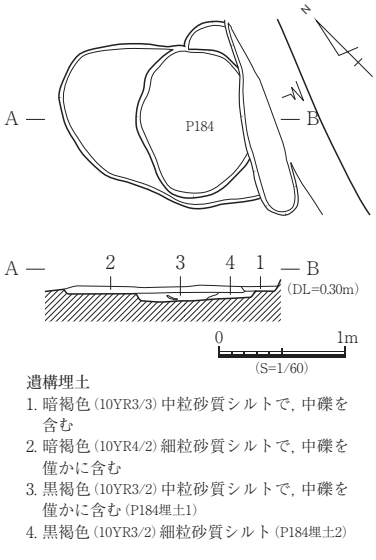


図96　B区P184

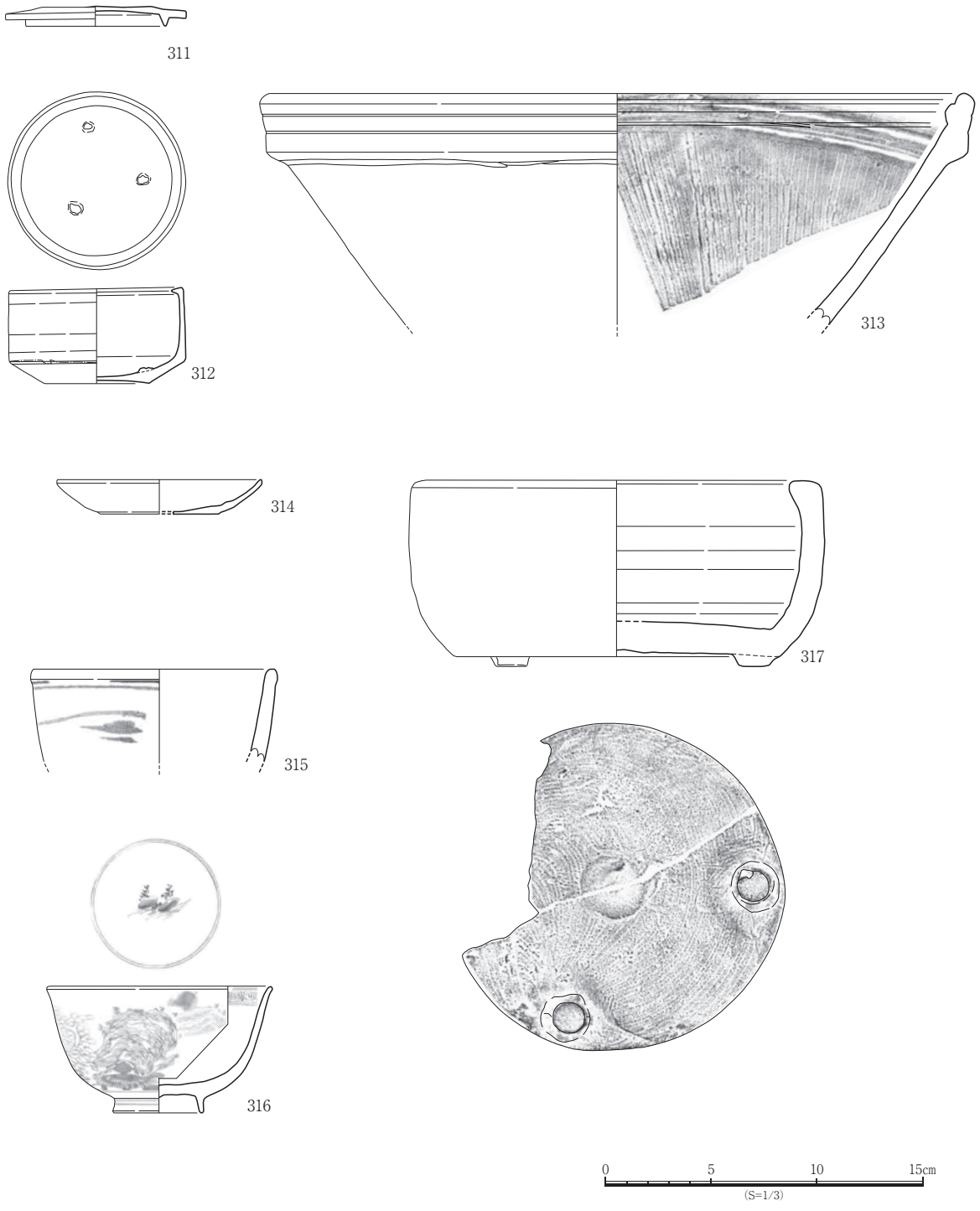


図97　B区P132～184出土遺物実測図

④第4遺構面(図73)

SB2(図98)

梁間1間(2.1m)，桁行3間(4.49m)の掘立柱建物跡を確認した。柱穴は円形または楕円形を呈し，径43～56cm，深さ9.2～21.9cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。出土遺物は陶器5点，磁器5点，土師器8点であるが，図示した遺物はない。

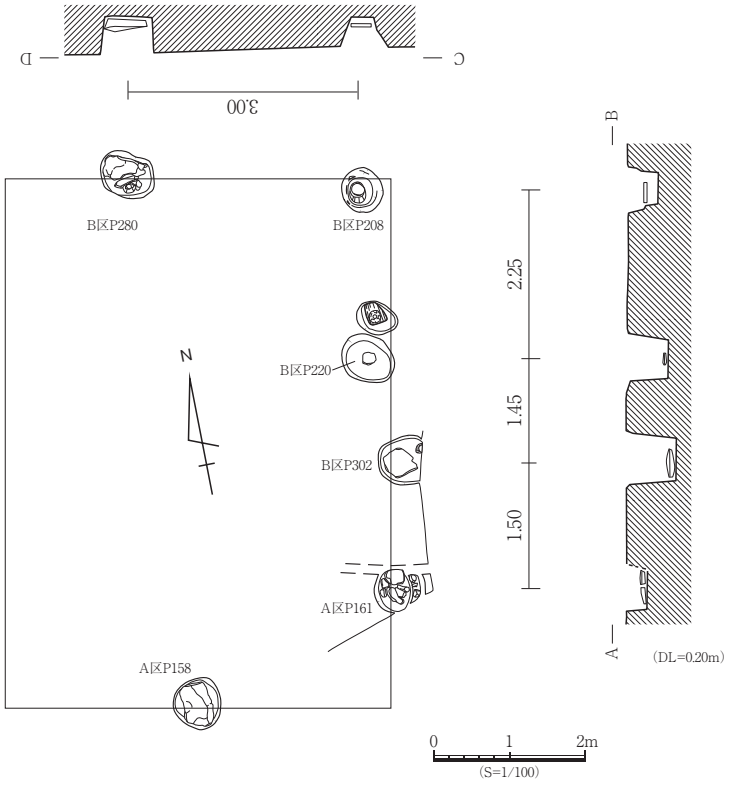


図98　B区SB2

SK30(図99・100)

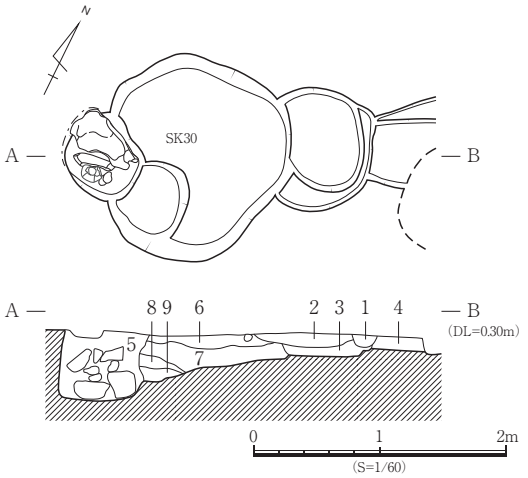
P246・247・280に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長1.61m，検出幅1.47m，深さ33.7cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。出土遺物は陶器2点，土師器2点が出土している。図示した遺物は318である。318は唐津系陶器皿である。鉄釉を施し，見込に砂目痕が3箇所残る。

SK34(図100・104)

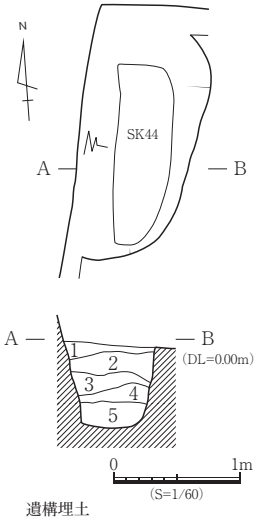
P199に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長0.83m，検出幅0.54m，深さ4.7cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンと焼土を含む。出土遺物は陶器2点である。図示した遺物は319である。319は陶器鉢であり，内外に鉄釉を施す。内面横ハケの後，縦に文様を施す。

SK40(図100・103)

P209・220に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長0.96m，検出幅0.68m，深さ10.4cmを測る。埋土は黒色中粒砂質シルトで，炭化物を多く含む。出土遺物は陶器1点，磁器1点である。図示した遺物は320である。320は陶器灯明皿である。全体ににぶい赤褐釉が施される。口縁部にタールが付着する。



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR4/2)中粒砂質シルトで，中礫を多く含み，黄擬礫を含む
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルト
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂質シルトで，マンガンを含み，僅かに焼土を含む
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルトで，粗礫と炭化物を含む
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂で，粗礫を含む(SK30埋土1)
7. 褐色(10YR4/4)中粒砂質シルト(SK30埋土2)
8. 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂質シルト(SK30埋土3)
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質粗粒砂(SK30埋土4)



遺構埋土
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂質シルトで，炭化物を含む
2. 黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂質シルトで，木片を含む
3. 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂質シルトで，木片を含む
4. 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂質シルトで，木片を含む
5. 黒色(5Y2/1)粗粒砂質シルトで，中礫を含む

図99　B区SK30・44

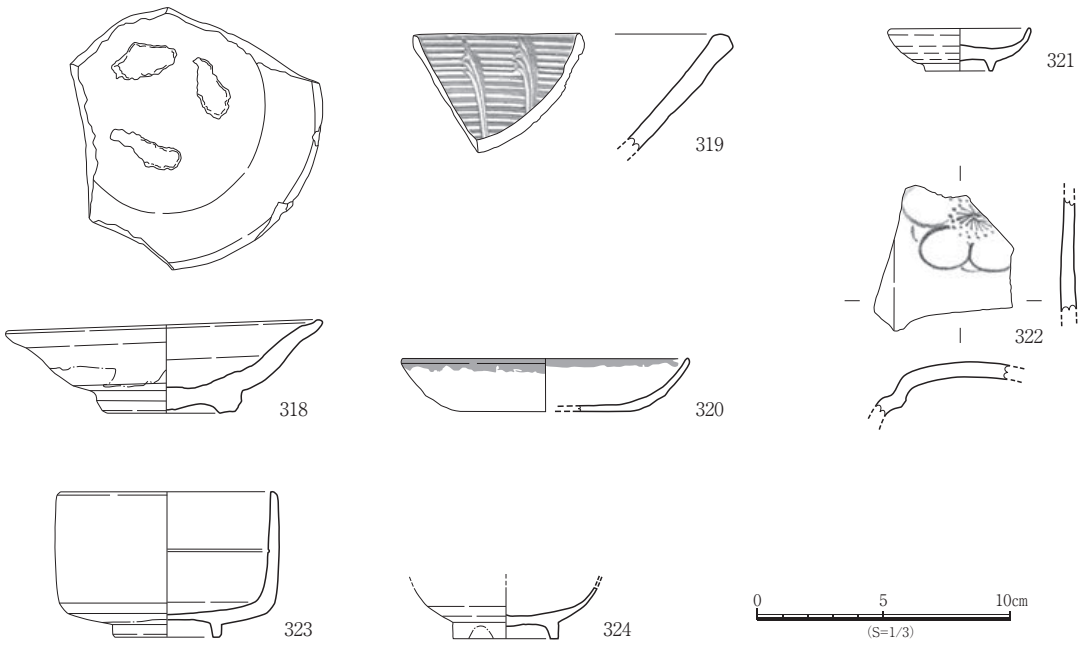


図100　B区SK30～44，SD21・27出土遺物実測図

SK43（図100・101）

P293を切る。平面形態はやや長方形を呈し，検出長1.72m，検出幅0.53m，深さ8.2cmを測る。埋土は褐灰色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。出土遺物は瓦片1点，陶器5点，磁器1点，炻器1点である。図示した遺物は321である。321は磁器杯である。全体に明オリーブ釉が施される。

SK44（図99・100）

上面のSK20に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長1.80m，検出幅0.63m，深さ65.0cmを測る。埋土はセクションに記載した。出土遺物は陶器2点，磁器6点，土師器1点である。図示した遺物は322である。322は陶器，器種不明である。外面は灰釉が施され，内面露胎である。外面には鉄錆による梅文がみられる。

SK51（図104）

P201・218・286に切られる。平面形態は楕円形を呈し，検出長0.98m，検出幅0.87m，深さ41.0cmを測る。埋土は褐灰色中粒砂質シルトで，炭化物を含み，ハンダを多く含む。出土遺物は丸瓦1点，炻器1点である。図示した遺物は瓦である。後述する。

SD21（図100・101）

SD17，P221・224・226に切られ，底でSD27を検出した。複数回掘削した痕跡がみられる。検出長1.98m，検出幅0.60m，深さ21.5cmを測る東西溝跡である。埋土は灰色中粒砂質シルトである。また，木樋を検出した。出土遺物は瓦片3点，瓦頭1点，陶器14点，磁器5点，炻器1点である。図示した遺物は323である。323は陶器碗である。内面から高台付近まで灰釉を施し，内面体部に一重沈線がみられる。

SD27（図100・101）

SD8に切られる。検出長5.35m，検出幅0.54m，深さ9.5cmを測る東西溝跡である。埋土は黒褐色シルト質粗粒砂で，マンガンを含む。出土遺物は瓦片3点，陶器6点，炻器1点である。図示した遺物は324である。324は陶器小碗である。内面から高台まで灰釉が施される。

SX18（図102・103）

SK42，P208を切り，P217に切られる。平面形態は不整形を呈し，検出長2.62m，検出幅1.17m，深さ43.0cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト質粗粒砂で，0.5～1cmの礫を多く含む。出土遺物は瓦片2点，磁器3点，炭化物2点である。図示した遺物は325である。325は磁器皿である。透明釉が施され，畳付は釉剥される。見込には蓮葉文の染付がみられる。

SX22（図102・103）

SX25を切り，SX21とP286に切られる。平面形態はやや楕円形を呈し，検出長4.14m，検出幅0.98m，深さ20.2cmを測る。埋土は黄灰色粗粒砂質シルトに焼土を含む。出土遺物は陶器1点，炻器1点である。図示した遺物は326である。326は土師器焼塩壺である。帯状の粘土を巻上げ，叩き成形され，底央部を充填される。刻印はみられなかった。

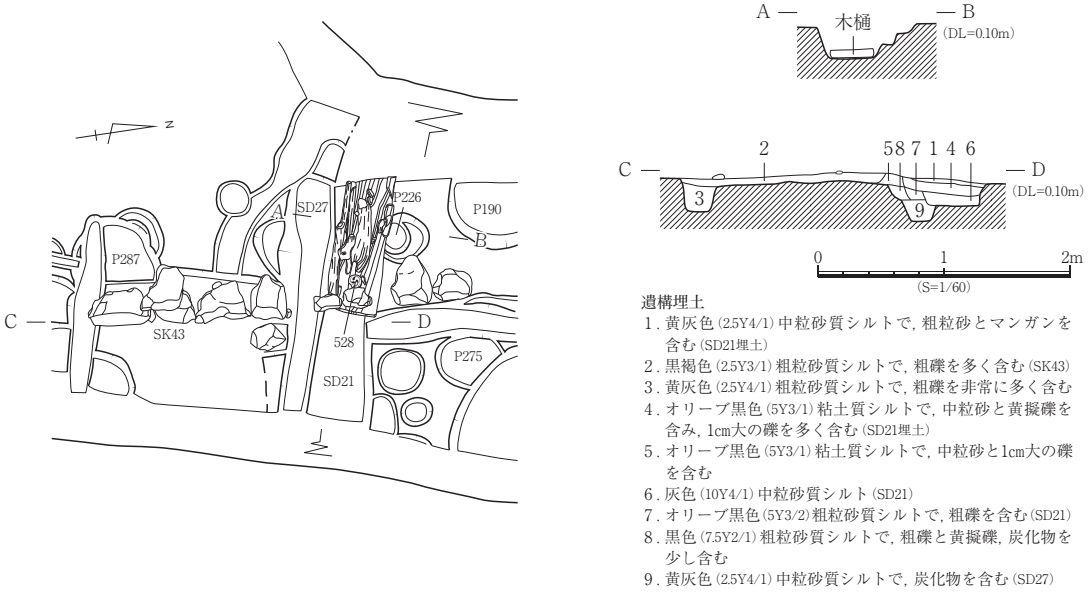


図101　B区SD21・27

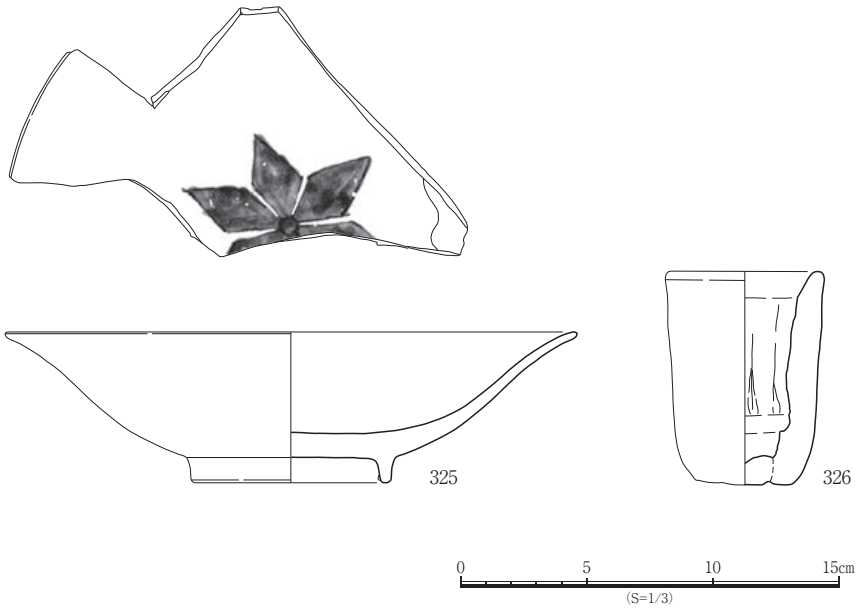


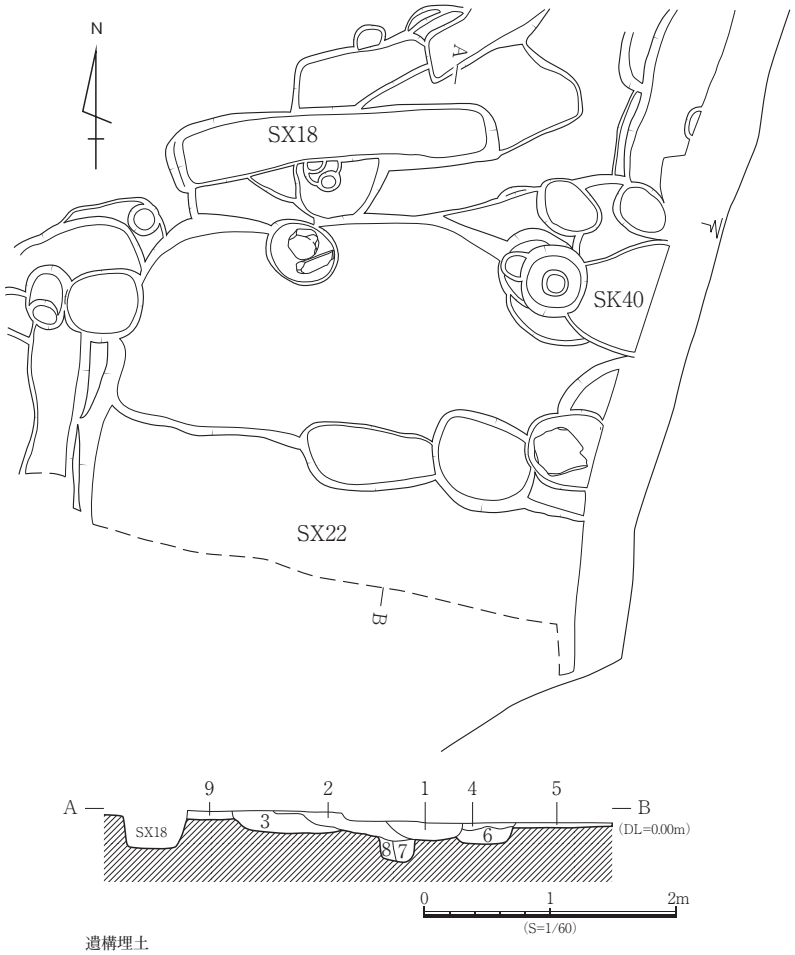
図102　B区SX18・22出土遺物実測図

P190(図101・105)

長径94cm，短径53cm，深さ17.9cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，炭化物と黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。図示した遺物は327である。327は磁器蓋である。摘に三重圏線，笠部に菊唐草文，内面に松竹梅文と四方襷文の染付がみられる。

P226(図101・105)

長径40cm，短径38cm，深さ19.7cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。図示した遺物は328である。328は磁器油壺である。外面体部に唐草文，蓮弁文の染付がみられる。



遺構埋土
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粗粒砂質シルトで, マンガンを含む
2. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粗粒砂質シルトで, 焼土を含む (SX22)
3. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂質シルトで, 細粒砂を含む (SX22)
4. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト質粗粒砂で, 中粒砂を含む
5. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 中粒砂質シルトで, 僅かにマンガンを含む
6. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質粗粒砂で, 細粒砂を含む (ピット)
7. 黒褐色 (2.5Y3/2) 中粒砂質シルトで, 僅かにマンガンを含む (ピット)
8. 黄灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂質シルトで, 僅かにマンガンを含む (ピット)
9. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂質シルトで, 中粒砂を含む

図103　B区SX22

P239(図104・106)

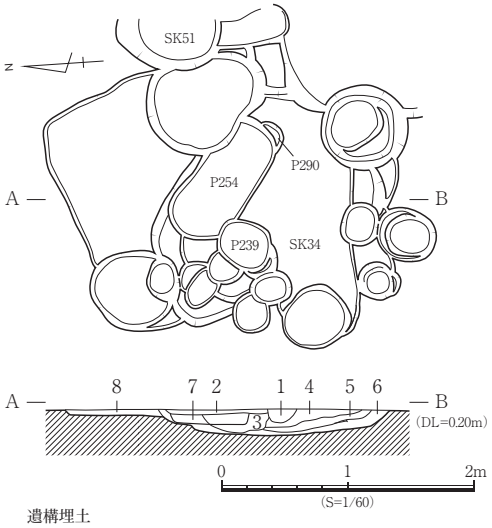
SK39, P139に切られる。長径44cm, 短径38cm, 深さ13.7cmを測り, 平面形態は楕円形を呈する。埋土は褐色粗粒砂質シルトで，焼土と炭化物を含む。図示した遺物は329である。329は陶器甕である。外面に鉄釉が施され，その上より灰釉が流し掛けられる。内面底部に当て具痕，格子目によるタタキ成形がみられる。

P245(図105)

P276を切る。長径92cm，短径50cm，深さ30.4cmを測り，平面形態はやや楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，炭化物と黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。図示した遺物は330と331である。330は陶器蓋である。外面から口縁まで鉄釉を施す。花形の摘が貼り付けられる。331は磁器蓋である。透明釉を施し，外面摘に三重圏線，笠部に菊唐草文，内面に松竹梅文と四方襷の染付がみられる。

P254(図104・107)

SK45を切り，P193・218に切られる。長径109cm，短径50cm，深さ13.8cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，焼土を含む。図示した遺物は332と333である。332は陶器碗である。灰白釉が施され，貫入がみられる。外面に風景文，朱で梅文の上絵付がみられる。333は陶器擂鉢である。胎土には粗粒砂が混じる。内面に11歯単位の摺目が施され，口縁部は面取される。



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/4)シルト質粗粒砂で，粗礫を含み，炭化物を多く含む(ピット)
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(P211)
3. 黒褐色(10YR3/1)中粒砂質シルトで，炭化物を多く含む
4. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトで，炭化物を少し含む(SK41埋土1)
5. 黒褐色(7.5YR3/2)中粒砂質シルトで，焼土を非常に多く含み，炭化物を含む(SK45埋土2)
6. 黒褐色(10YR2/1)中粒砂質シルトで，炭化物の堆積(SK45埋土3)
7. 暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトで，炭化物と黄擬礫を含み，1cm大の礫を少し含む(SK45埋土4)
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂質シルトで，1cm大の礫を多く含み，黄擬礫を含む(SK33)

図104　B区P254

P255(図107)

P276を切り，P245に切られる。長径48cm，短径19cm，深さ6.8cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，炭化物と黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。図示した遺物は334である。334は土師器焙烙である。口縁部に径2mm，深さ4mmの孔がみられる。内外面に使用時の被熱痕が残る。

P264(図107)

長径52cm，短径33cm，深さ26.5cmを測り，平面形態はやや楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，炭化物と黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。柱痕が残っており，埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。図示した遺物は335である。335は磁器望料碗蓋である。透明釉が施され，摘に二重圏線，笠部に文字文，内面口縁部に二重圏線，天井部には一重圏線，太極図がみられる。

P275(図101・107)

長径56cm，短径45cm，深さ5.2cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンと中礫を含む。図示した遺物は336である。336は陶器擂鉢である。11歯単位の摺目がみられた。

P279(図107)

長径32cm，短径29cm，深さ5.6cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトで，炭化物と黄褐色中粒砂質シルトのハンダを含む。図示した遺物は337である。337は陶器碗である。内面から外面体部にかけて灰白釉を施す。貫入が顕著である。外面体部に帯文の鉄錆がみられる。

P287(図101・107)

長径53cm，短径43cm，深さ13.9cmを測り，平面形態はやや楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで，マンガンを含む。図示した遺物は338である。338は土師器小皿である。底部は糸切りされ，内外面は回転ナデ，見込はヘラ調整される。

P290(図104・107)

SK45に切られる。長径48cm，短径34cm，深さ7.7cmを測り，平面形態は楕円形を呈する。埋土

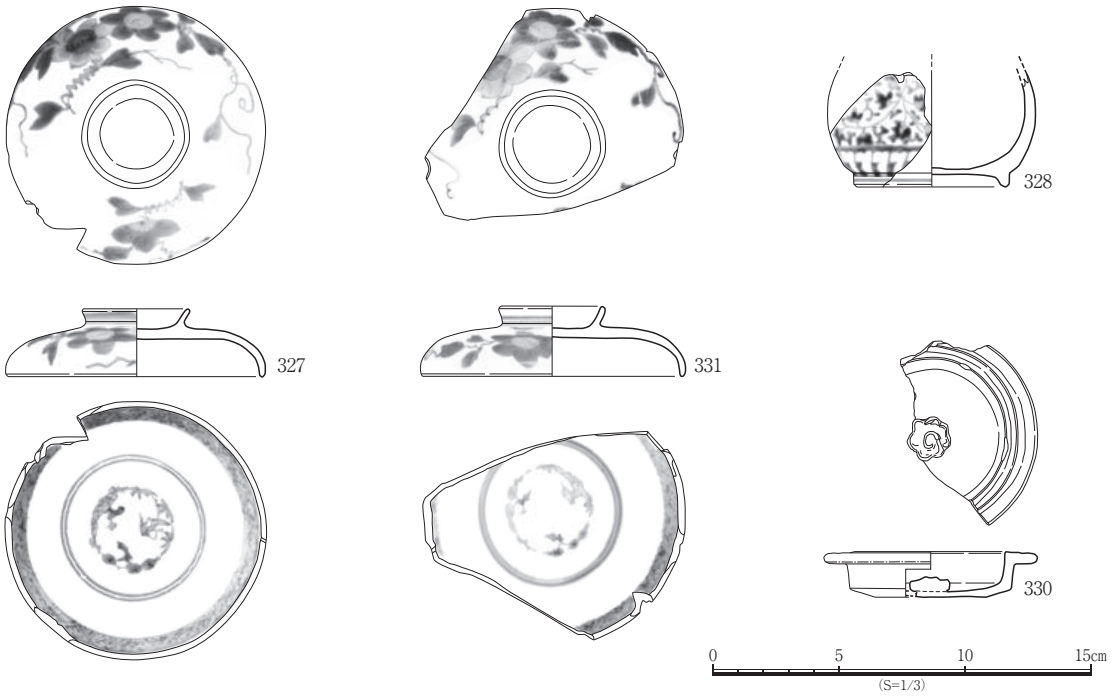


図105　B区P190・226・245出土遺物実測図

は灰色中粒砂質シルトである。図示した遺物は339である。339は瓦質土器焜炉である。円筒形で前方に楕円形の窓を持つ。内面口縁部は回転ナデ，内面肩部に指頭圧痕が残り，外面は回転ナデ調整される。口縁部は被熱する。

P294(図107)

長径79cm，短径77cm，深さ29.8cmを測り，平面形態は円形を呈する。埋土はオリーブ黒色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。遺物は瓦片3点，陶器4点，磁器1点，銅銭1点が出土しており，340を図示した。340は金属製品古銭で，寛永通寶である。

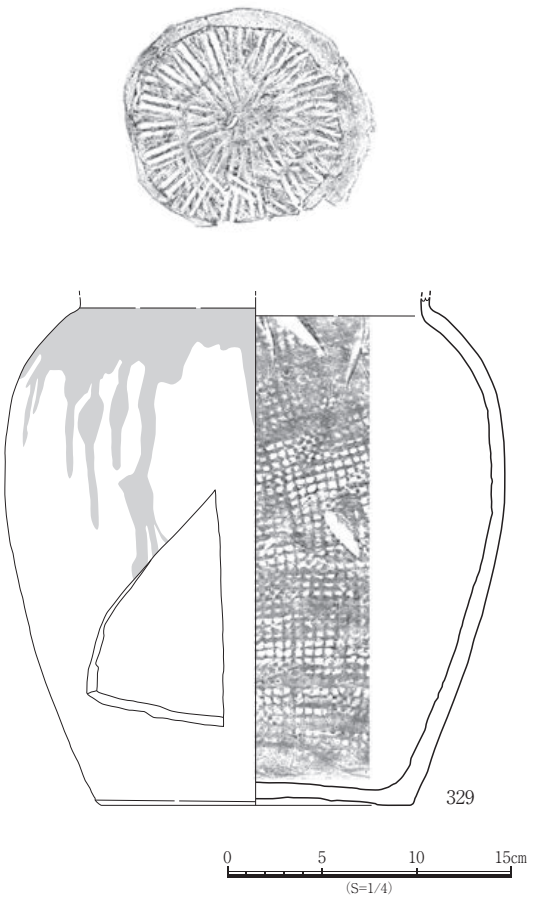


図106　B区P239出土遺物実測図

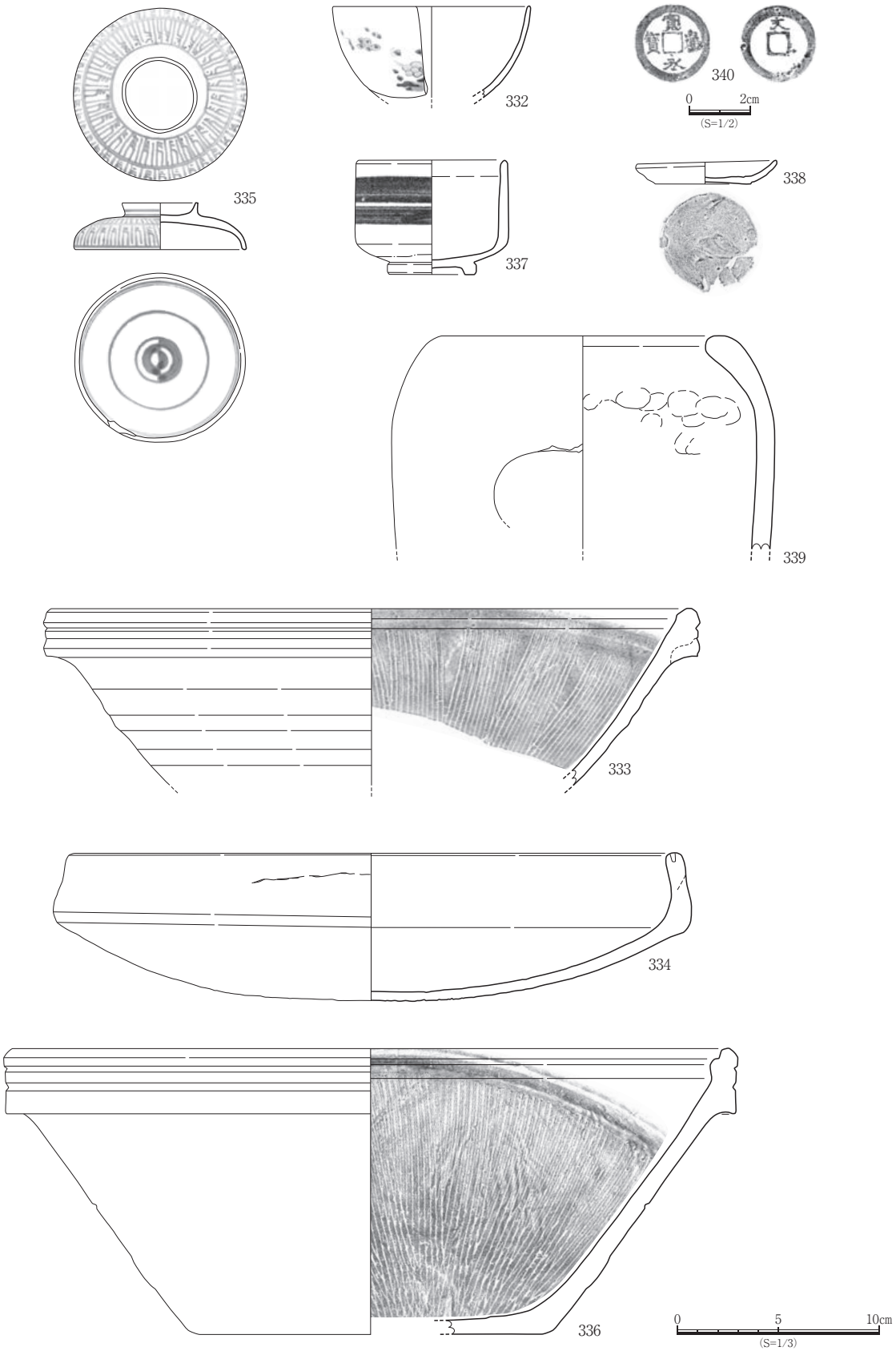


図107　B区P254～294出土遺物実測図

3. C区(図26)

A区の東に9×4mのトレンチを設定した。通信管埋設によって影響を受ける部分について調査を行った。その後C区の南東にH区とI区の調査を行った。基本層序については図27を原則とする。

(1) 包含層出土遺物

客土(図108)

客土であるが，江戸時代の遺物が含まれていたため報告する。遺物は341を図示した。341は石製品硯である。陸が残存し，石材は泥質砂岩である。

第Ⅰ層・第Ⅱ層

図示していない。

第Ⅲ層(図108)

包含層であるが，近世の遺物がみられたため342と343を図示した。342は陶器碗である。内面から外面体部まで灰釉が施される。外面は鉄錆で絵付される。343は尾戸窯陶器手焙りである。外面から内面の一部に鉄釉を施す。茄子形を呈し，上部に片喰形の窓が設けられる。碁笥底である。

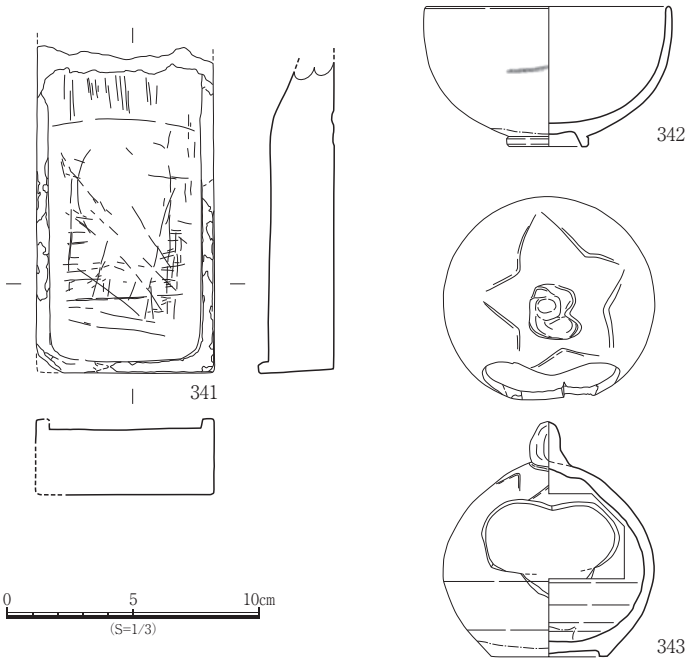


図108　C区客土，包含層出土遺物実測図

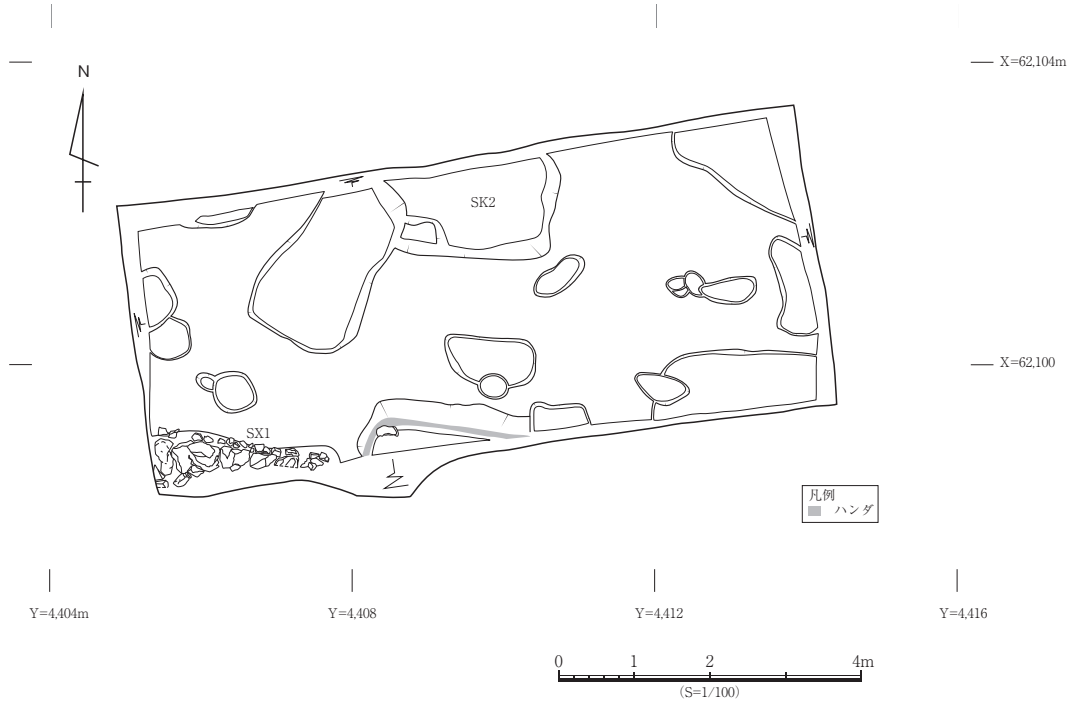


図109　C区第1遺構面

(2) 遺構と遺物

① 第1遺構面(図109)

SK2(図109・110)

SK1に切られる。平面形態はやや長方形である。検出長は2.14m，検出幅は1.42m，深さ26.7cmを測る。埋土は黄灰色中粒砂質シルトで，粗礫を多く含む。

出土遺物は瓦片11点，陶器8点，磁器32点，炻器7点，石製品2点である。図示した遺物は344である。344は石製品石臼で，石材は花崗岩である。

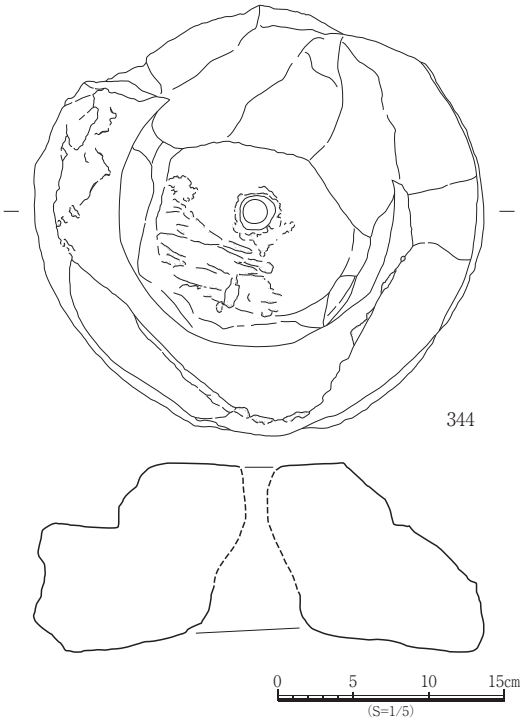


図110　C区SK2出土遺物実測図

SX1(図109)

主に40～50cmの石灰岩を使用した石列で検出長は2.3ｍである。石垣の延長を屋敷の区画として利用したもので，H区まで繋がる。石灰岩は加工され，北に面が揃うように配置されていた。また，石尻はハンダによって固められていた。

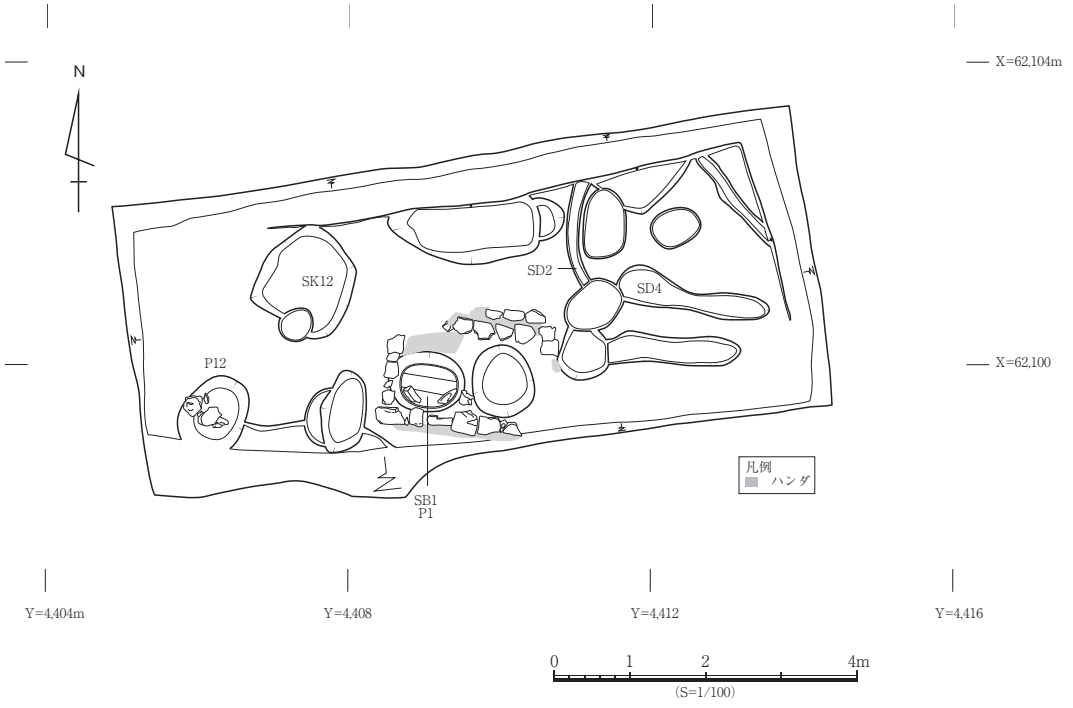


図111　C区第2遺構面

②　第2遺構面(図111)

SB1(図112・113)

検出長2.2m，検出幅1.2m，深さ25.0cmを測る。埋土はセクションに記載した。石列は主に石灰岩が使用されていた。土坑墓の可能性が考えられる。

出土遺物は丸瓦1点，道具瓦1点，瓦片9点，陶器17点，磁器9点，土製品1点，炻器3点，金属製品1点である。図示した遺物は345と346である。これらはSB1内のP1から出土した。P1は桶枠がみられた。345は磁器瓶である。全体に透明釉を施し，胴部の染付は柳文か。頸部に耳が付く。346は銅製品簪である。薄く扁平である。

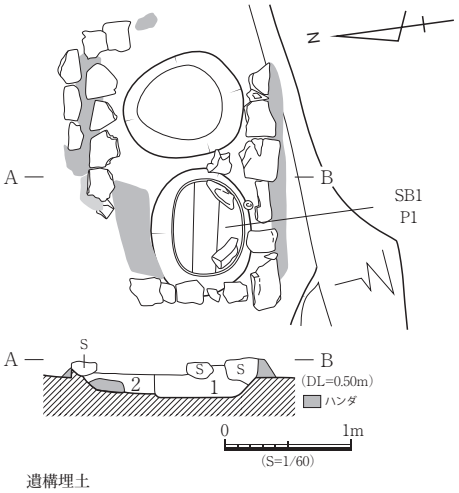


図112　C区SB1

SK12(図113)

SK11，P10に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.52m，検出幅1.44m，深さ17.5cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトに炭を含む。

出土遺物は瓦片2点，陶器10点，磁器4点，土師器1点，炻器2点，金属製品1点である。図示した遺物は347である。347は土師器焼塩壺である。内面に布目圧痕が残り，外面及び内面にナデ調整がみられる。

SD4(図113)

P5を切る。検出長2.04m，検出幅0.52m，深さ4.2cmを測る。南北溝跡である。赤褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含む。

出土遺物は陶器8点，磁器1点，炻器5点である。図示した遺物は348である。348は陶器壺である。内面から外面体部にかけて鉄釉を施す。畳付付近に鉄が付着しており，廃棄時に付着したと思われる。

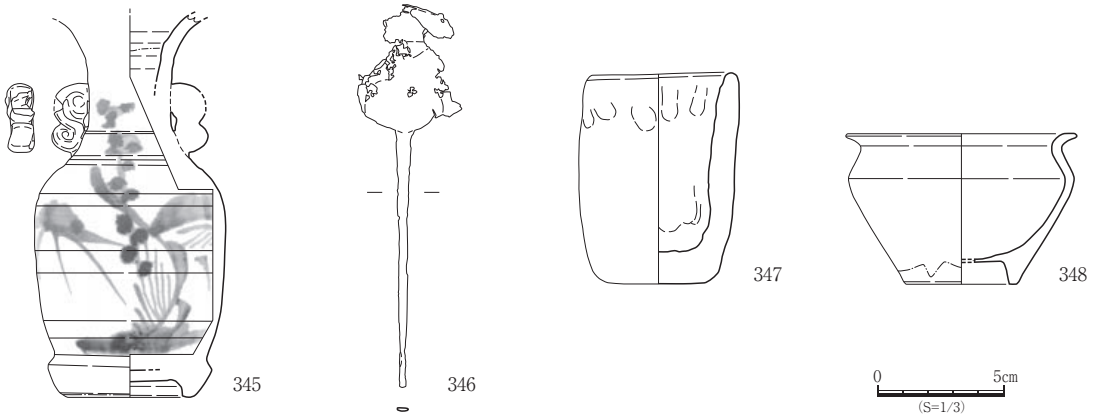


図113　C区SB1，SK12，SD4出土遺物実測図

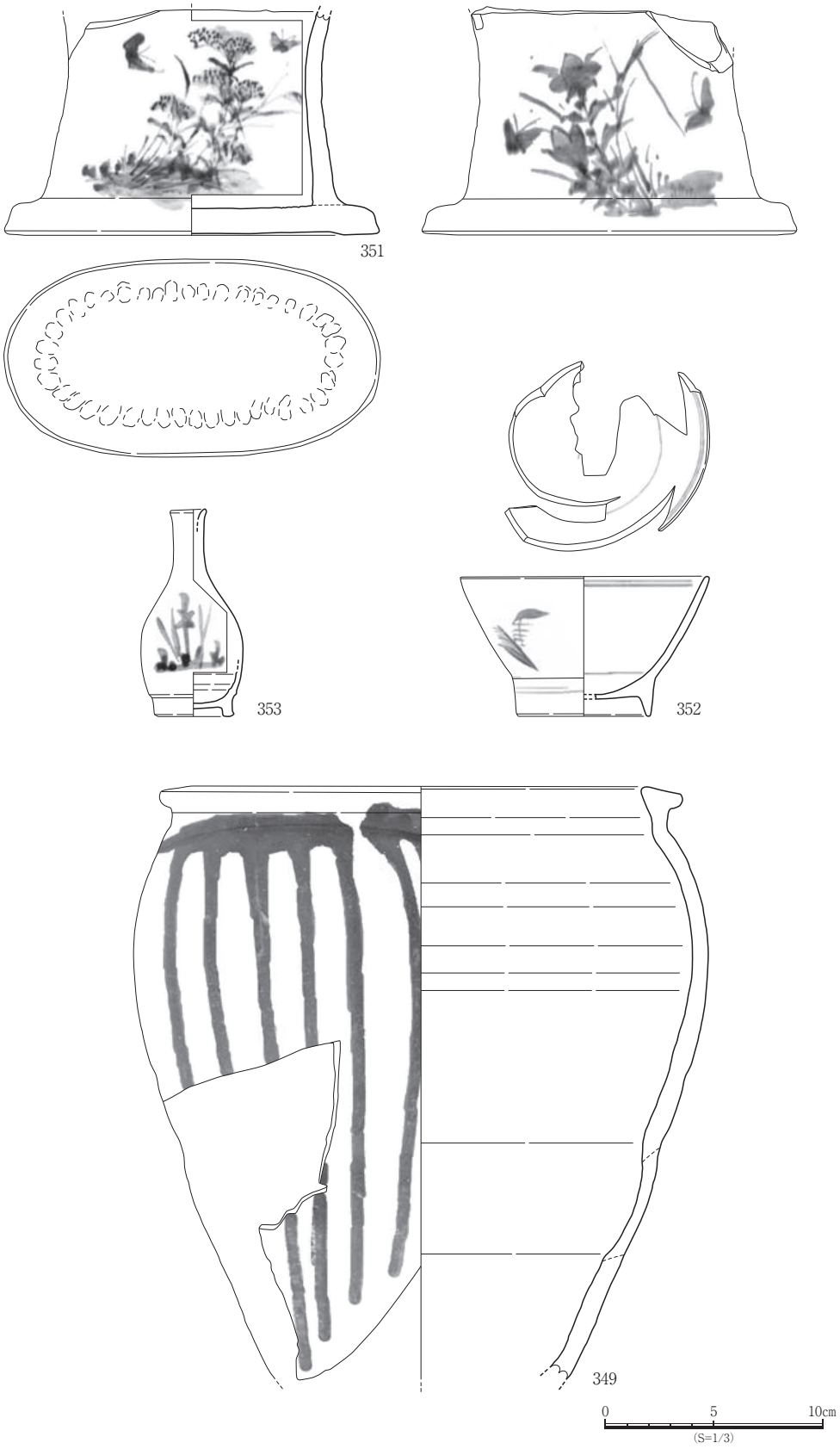


図114　C区P12出土遺物実測図1

P12(図114・115)

SD5に切られる。平面形態は楕円形を呈し，長径98cm，短径96cm，深さ30.0cmを測る。埋土は黄灰色細粒砂質シルトで，黄褐色細粒砂質シルトの黄擬礫とマンガンを含む。

出土遺物は瓦片42点，陶器49点，磁器63点，炻器11点，ガラス3点，鉄製品4点である。図示した遺物は349～353である。349は陶器甕である。内面から外面底部付近まで柿釉を施し，頸部から鉄釉を掛け流す。350は陶器甕である。内面から外面付近にかけて鉄釉を施し，肩部に8条沈線が施される。内面底部に3点ハリ痕が残存する。おそらく5点である。351は磁器枕である。全体に透明釉を施し，畳付のみ釉剥する。両面胴部に草花に蝶文の染付がみられる。352は磁器広東碗である。透明釉を施し，外面の草文，外高台は三重圏線，内面口縁に二重圏線と見込には一重圏線の染付がみられる。353は磁器瓶である。透明釉を施し，草花文と草文の染付がみられる。

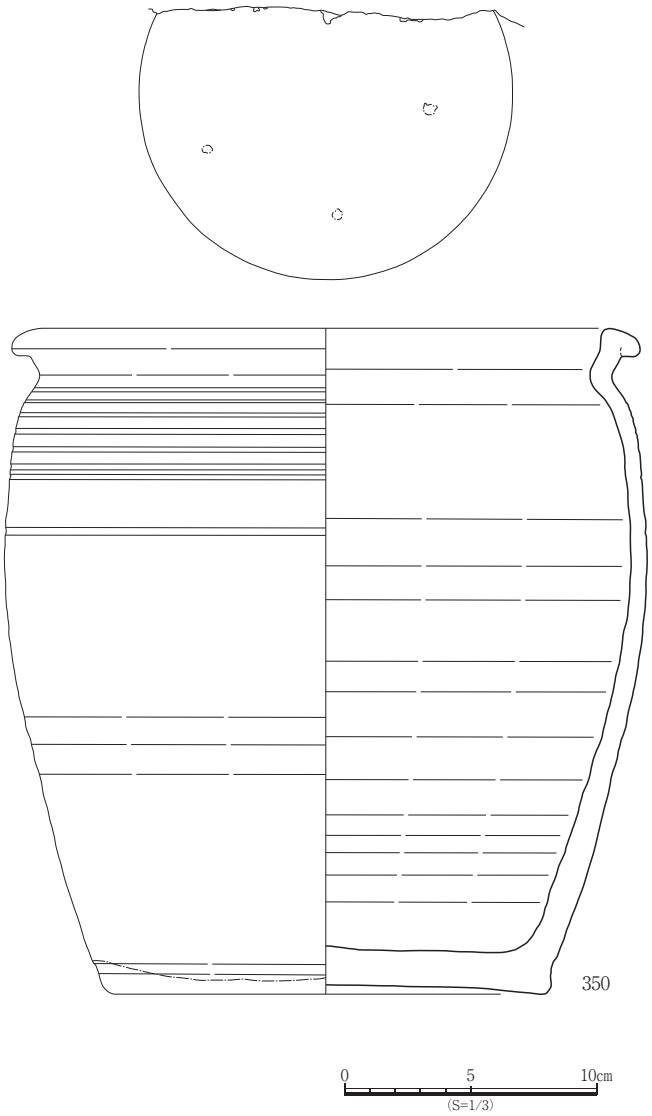


図115　C区P12出土遺物実測図2

③　第3遺構面(図117)

SK15(図116)

平面形態は方形を呈する。検出長1.74m，検出幅0.52m，深さ10.7cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトである。出土遺物は瓦片10点，陶器20点，磁器6点，鉄製品1点である。図示した遺物は354である。354は磁器杯である。青磁釉を施し，雁文の染付がみられる。

SK16(図116)

SK23を切る。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.08m，検出幅0.60m，深さ13.6cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質中粒砂で焼土を含む。出土遺物は瓦片5点，陶器12点，磁器12点，土師器2点，土製玩具1点，ガラス1点である。図示した遺物は355～358である。355は陶器餌鉢である。内面から外面底部まで灰釉を施す。356は磁器輪花皿である。透明釉を施し，口縁部は口錆，見込に楼閣山水文の染付がみられる。357は磁器玩具である。紅皿を模した玩具である。358は土製品泥面子である。型押成形で下面はナデ調整される。「民」文である。

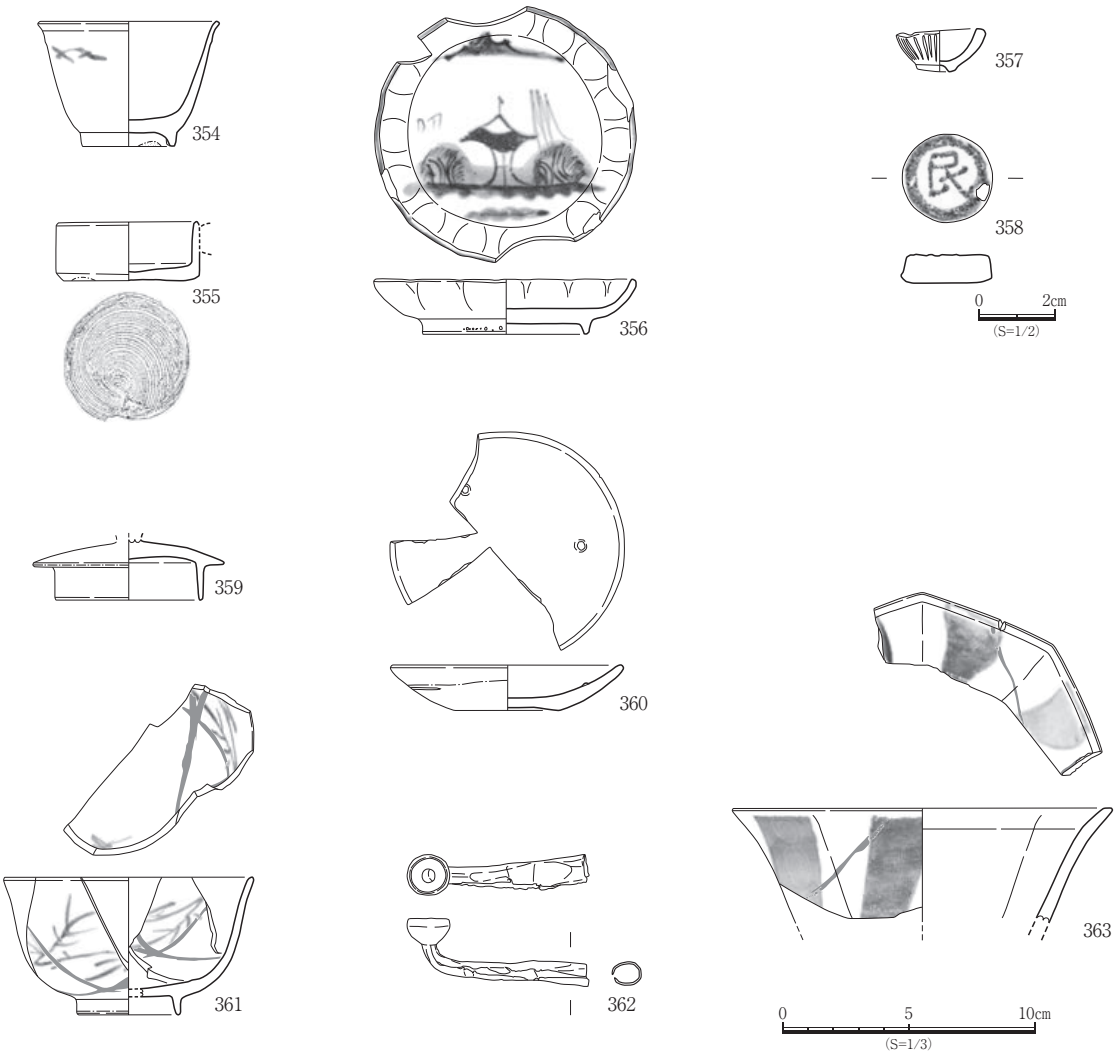


図116　C区SK15～18・20・25出土遺物実測図

SK17(図117)

SK21を切る。平面形態は長方形を呈する。検出長0.78m，検出幅は0.62m，深さ14.5cmを測る。埋土はオリーブ褐色中粒砂質シルト，マンガンを含み硬く締まり，明黄褐色中粒砂質シルトの黄擬礫を含む。出土遺物は平瓦4点，陶器9点，磁器7点，銅銭1点である。図示した遺物は359である。359は陶器蓋である。外面摘から口縁まで灰釉を施す。内面は被熱が顕著である。

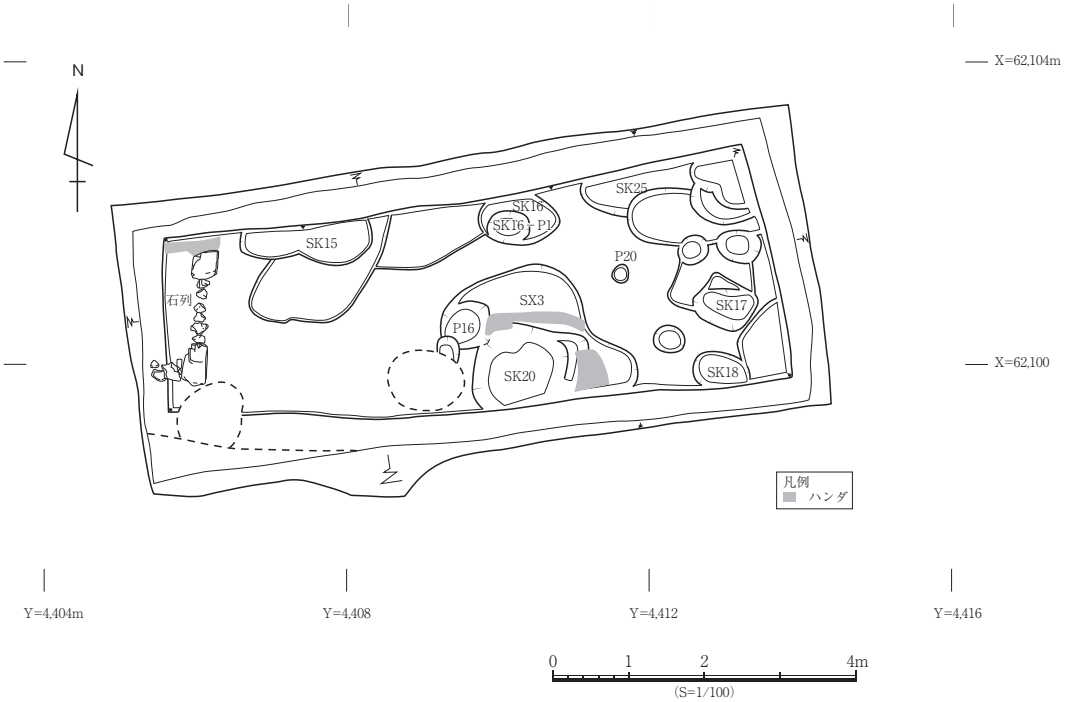


図117　C区第3遺構面

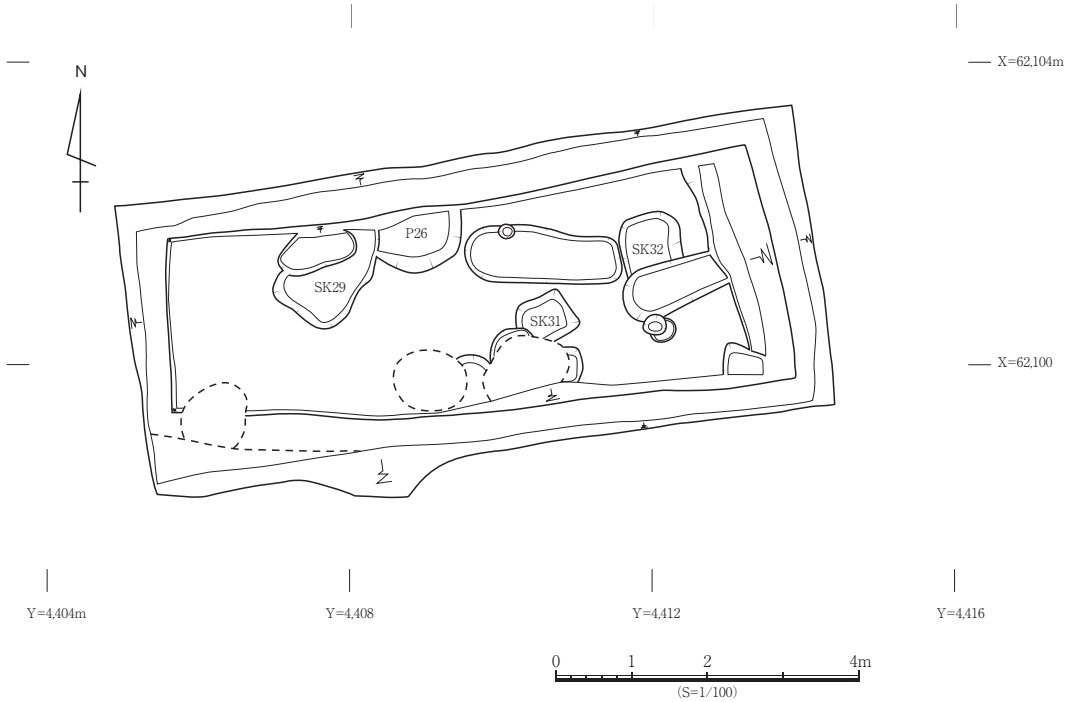


図118　C区第4遺構面

SK18(図116・117)

SK13に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長0.78m，検出幅0.50m，深さ13.5cmを測る。埋土はオリーブ褐色中粒砂質シルト，マンガンを含み硬く締まる。

出土遺物は瓦片4点，陶器22点，磁器8点，土師器6点，炻器5点，鉄製品3点である。図示した遺物は360と361である。360は陶器皿である。内面から外面口縁にかけて灰釉を施す。内面に2点ハリ痕が残存する。外面はやや煤が付着する。361は磁器碗である。透明釉を施す。内外面に草文の染付に金で上絵付がみられる。補修痕が残る。

SK20(図116・117)

SB1，SX3に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長1.44m，検出幅1.22m，深さ53.9cmを測る。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，焼土を含む。

出土遺物は平瓦3点，丸瓦1点，瓦片15点，陶器16点，磁器23点，土師器3点，炻器8点，金属製品1点である。図示した遺物は362である。362は銅製煙管の雁首である。

SK25(図116・117)

SK14・24に切られる。平面形態はやや楕円形を呈する。検出長1.48m，検出幅0.70m，深さ9.6cmを測る。埋土はオリーブ褐色中粒砂質シルトで，マンガンを含み硬く締まる。

出土遺物は瓦片2点，陶器16点，磁器14点，土師器5点，炻器2点である。図示した遺物は363である。363は磁器八角鉢である。全体に透明釉を施し，外面は縦に帯線と帯線内に渦文のパターンの染付がみられる。内面は濃淡のある帯線の染付がみられる。補修痕がみられる。

SX3(図117・119)

SB1，P16に切られ，P20を切る。平面形態は楕円形を呈し，検出長2.06m，検出幅2.04m，深さ13.7cmを測る。埋土はにぶい黄褐色中粒砂質シルトで，焼土を含む。出土遺物は瓦片23点，陶器39点，磁器23点，土師器1点，炻器5点である。図示した遺物は364と365である。364は陶器蓋である。全体に鉄釉を施し，摘の一部は露胎する。内面に重ね焼き痕あり。365は磁器蓋である。全体に透明釉を施す。摘内に落款，外面に草文，内面天井部に葉文と一重圏線，内面口縁に二重圏線がみられる。

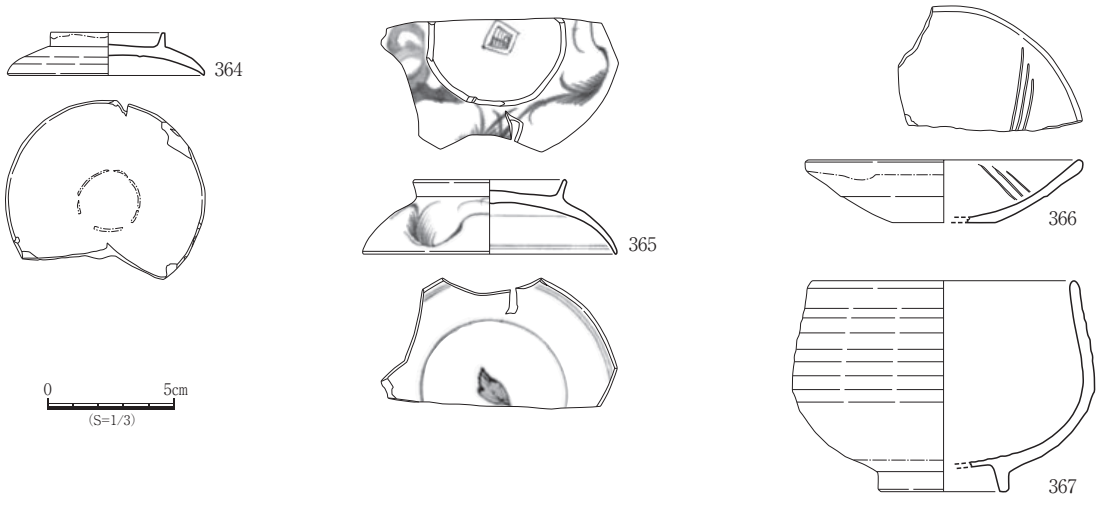


図119　C区SX3，P16・20出土遺物実測図

P16(図119)

SX3を切り, P14に切られる。平面形態は四角形を呈し, 長径65cm, 短径62cm, 深さ14.5cmを測る。埋土は暗オリーブ褐色細粒砂質シルトである。

図示した遺物は366である。366は京都・信楽系灰釉陶器灯明受皿である。内面から外面口縁部まで灰釉を施す。内面に3条の櫛目が施される。断面に煤が付着している。

P20(図117・119)

SD5に切られる。平面形態は楕円形を呈し，長径25cm，短径22cm，深さ7.1cmを測る。埋土は暗オリーブ褐色細粒砂質シルトである。図示した遺物は367である。367は陶器碗である。内面から外面体部まで灰釉を施す。見込に僅かに砂が付着する。

④　第4遺構面(図118)

SK29(図118・120)

SK31に切られる。平面形態は長方形を呈する。検出長1.54m，検出幅1.04m，深さ28.1cmを測る。埋土はオリーブ黒色中粒砂質シルトで，オリーブ色中粒砂質シルトを含む。

出土遺物は瓦片3点，陶器26点，磁器6点，炻器6点である。図示した遺物は368である。368は陶器甕である。内面から外面底部付近まで柿釉を施す。肩部に鉄釉を流し掛ける。また，肩部は2条の沈線と櫛描波状文がみられる。内面底部には6箇所の砂目が残る。

SK31(図118・120)

SB1-P3，SX5に切られる。平面形態は楕円形を呈する。検出長10.76m，検出幅0.66m，深さ9.9cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，マンガンを含む。

出土遺物は瓦片1点，陶器4点，磁器3点，土師器6点，炻器2点である。

図示した遺物は369～371である。369は陶器蓋である。露切以外は灰釉を施す。笠部に柴束文の鉄錆がみられる。370は陶器土瓶である。口縁部以外に灰釉が施される。外面に椿文の鉄錆がみられる。371は土師器小皿である。底部は回転糸切りされ，内外面はナデ調整される。

SK32(図118・120)

SX5を切る。平面形態は長方形を呈する。検出長1.30m，検出幅0.72m，深さ19.3cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，マンガンを含む。

出土遺物は陶器14点, 磁器7点, 土師器7点, 土製品1点である。図示した遺物は372と373である。372は陶器碗である。内面から外面体部まで灰釉が施される。373は土製品人形である。表面にキラ粉が付着する。型成形で底面に径1.3cm，深さ3.7cmの円錐形の孔がみられる。

P26(図118・120)

SK29に切られる。平面形態は楕円形を呈する。長径110cm，短径75cm，深さ6.0cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，マンガンを含む。出土遺物は瓦片1点，陶器2点，磁器2点，土師器2点である。図示した遺物は374である。374は土師器皿である。底部は糸切りで内外面は回転ナデ調整である。

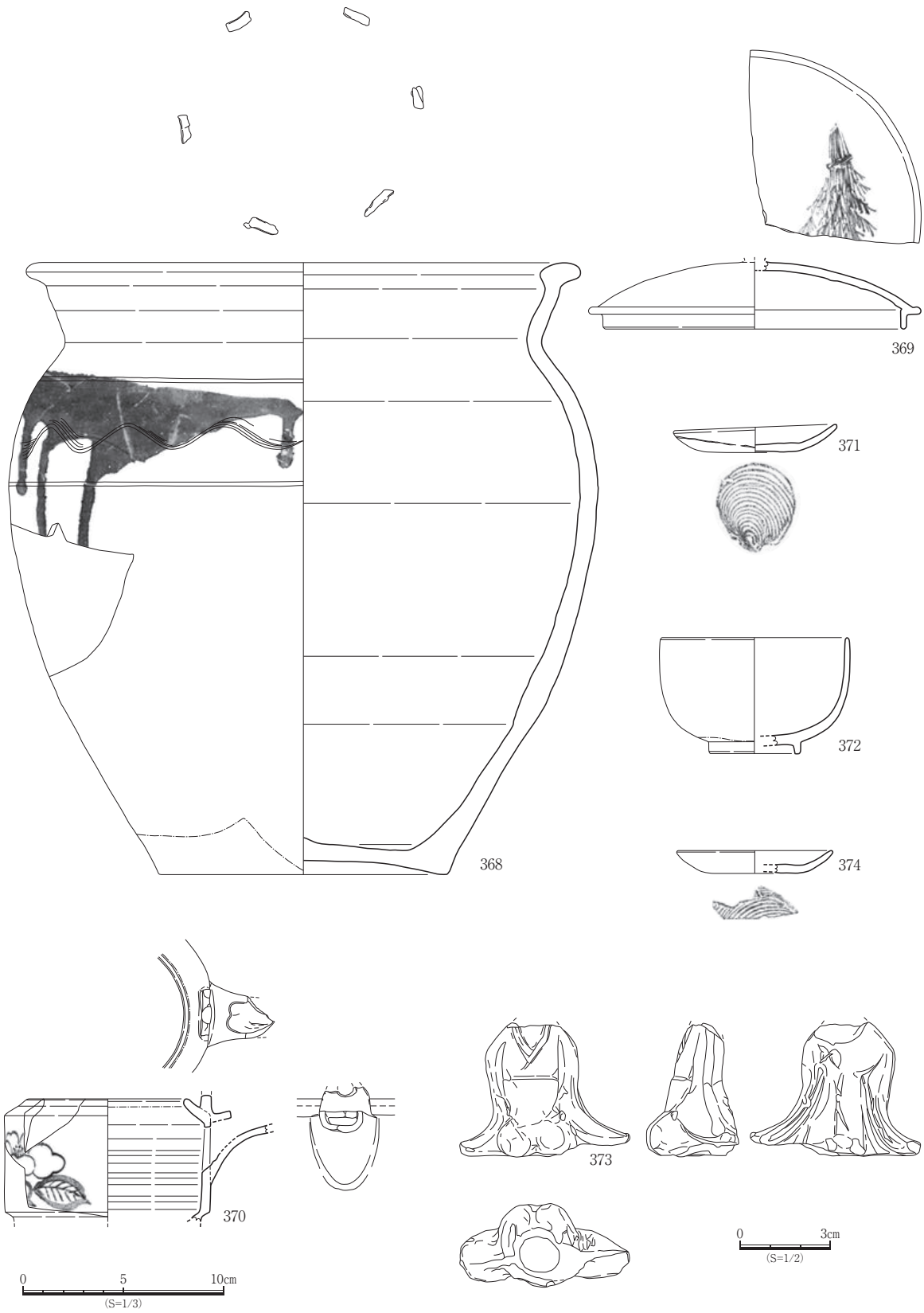


図120　C区SK29・31・32，P26出土遺物実測図

4. H区(図26)

H区は水道管および電気の配線による撹乱が甚だしく，調査の範囲が著しく少ない。これらの撹乱については図中に破線で表記した。

(1) 包含層出土遺物

第Ⅰ層(図121)

図示した遺物は375である。375は石製品硯である。石材は頁岩である。自然石を掘りくぼめている。

第Ⅱ層(図121)

図示した遺物は376～378である。376は陶器香炉である。口縁部は内側に折れて返しが付き，口縁部から外高台付近まで鉄釉が施される。377は磁器徳利である。透明釉を施し，竹文に花鳥文，背面は舟文がみられる。378は土製品泥面子型である。内面は型成形され，陰刻の篆書がみられる。

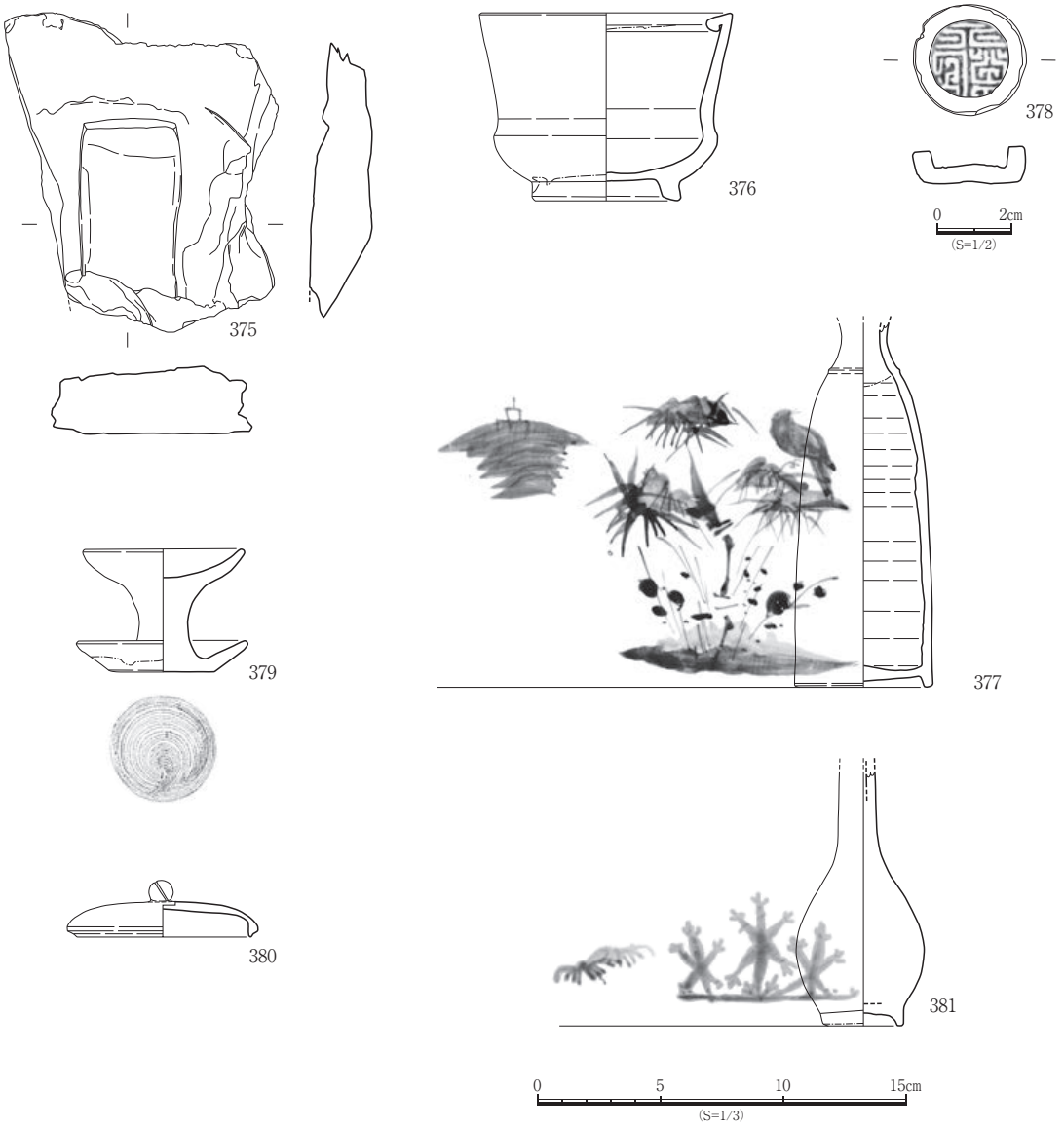


図121　H区包含層出土遺物実測図

第Ⅲ層(図121)

図示した遺物は379～381である。379は陶器台付灯明皿である。内面から外面底部にかけて鉄釉を施す。受皿の外面は被熱している。380は磁器蓋である。透明釉が施される。381は磁器瓶である。紅葉文と笹文の染付がみられる。

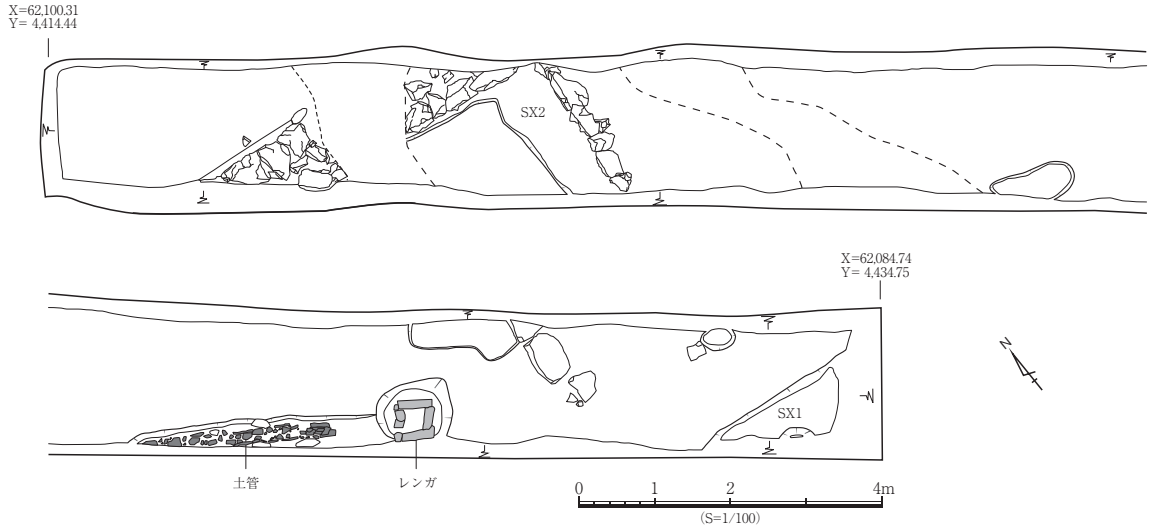


図122　H区第1遺構面

(2) 遺構と遺物

①　第1遺構面(図122)

第1遺構面は明治から戦前の遺構がみられ，その時代のメルクマールともいえる土管とそれに伴うレンガなどを検出した。

SX1(図122・123)

平面形態はやや楕円形を呈し，検出長1.74m，検出幅0.79m，深さ38.7cmを測る。埋土は暗オリーブ褐色細粒砂質シルトに中礫と石灰岩を含む。出土遺物は瓦片1点，陶器18点，磁器7点，土師器5点，炻器5点，土製品1点，古銭1点である。図示した遺物は382である。382は土製品人形である。大黒天である。

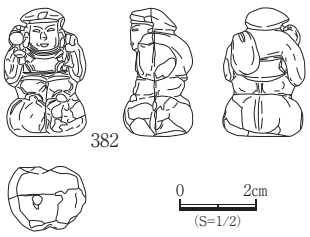


図123　H区SX1出土遺物実測図

SX2(図122)

SX2は石列とそれに伴うセメントの練積みによって構成される遺構である。検出長2.1m，検出幅2.0mを測り，使用されている石材は石灰岩であった。当時一帯を所有していた竹村家は石灰岩産業にも出資していたため，セメントの使用は不思議ではない。なお，遺物は図示していない。

②　第2遺構面(図125)

SK5(図124・125)

P2に切られる。平面形態はやや楕円形を呈し，検出長2.00m，検出幅1.20m，深さ9.2cmを測る。埋土は褐色細粒砂質シルトで，炭化物と中礫を含む。出土遺物は陶器2点，土師器6点である。図示した遺物は383～385である。383～385は土師器皿である。いずれも轆轤成形で底部は糸切りさ

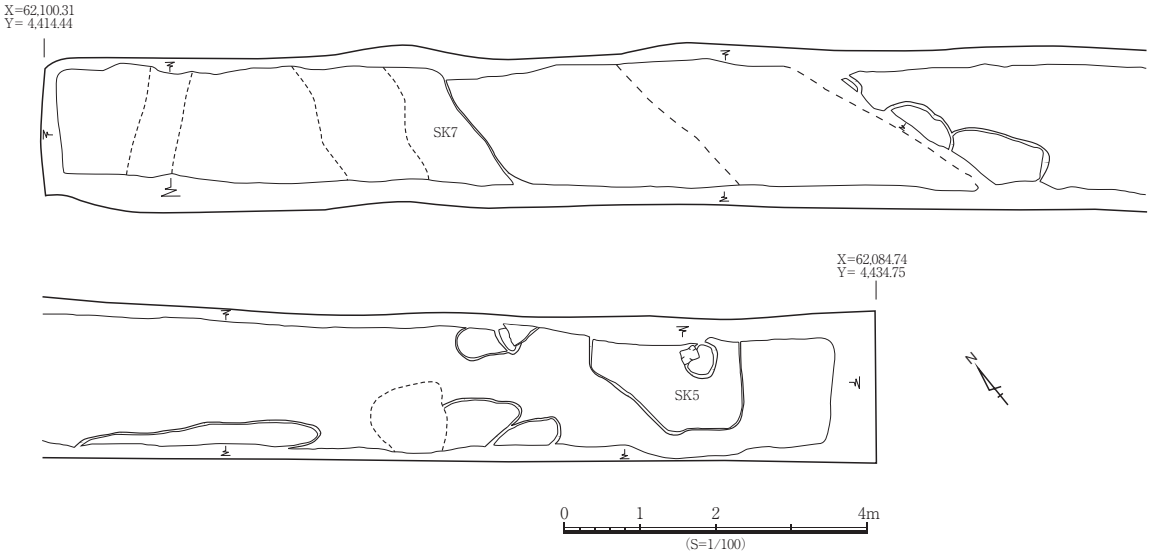


図124　H区第2遺構面

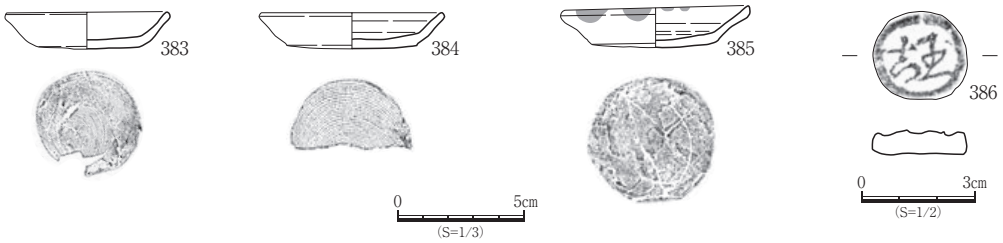


図125　H区SK5～7出土遺物実測図

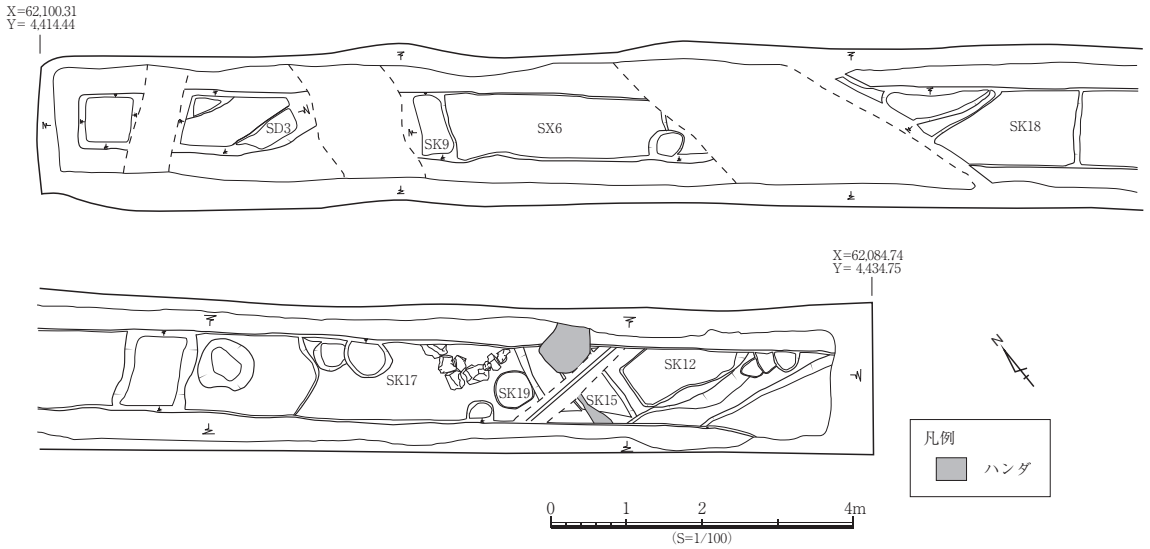


図126　H区第3遺構面

れる。383は全体が被熱する。385は灯明皿として使用されており，口縁部にタールが付着する。

SK7(図124・125)

一部撹乱される。平面形態はやや長方形を呈し，検出長1.74m，検出幅0.82m，深さ8.9cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂質シルトで粗礫や貝などを含む。

出土遺物は陶器22点，磁器22点，土製品1点，炻器2点である。遺物は386を図示した。386は土製品泥面子である。型成形で，下面ナデ調整である。「強」字か。

③　第3遺構面(図126)

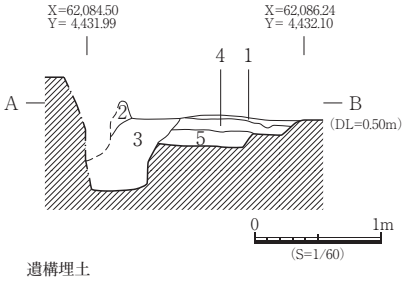
SK9(図126・128)

SX6を切る。平面形態はやや長方形を呈し，検出長0.80m，検出幅0.39m，深さ18.3cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトで，炭化物を含む。

出土遺物は陶器1点，磁器4点である。遺物は387を図示した。387は肥前系磁器皿である。透明釉を施し，外面および内面に八卦，口縁部に帯線，見込に太極図，外高台に二重圏線，高台内に二重圏線と「太清萬曆年製」銘の染付とハリ痕が5点残る。

SK15(図127・128)

SK12に切られる。平面形態はやや長方形を呈し，検出長3.18m，検出幅2.36m，深さ18.0cmを測る。埋土はセクション図に記した。出土遺物は陶器8点，磁器6点，土師器11点，土製品1点，鉄製品1点である。遺物は，388を図示した。388は土師器皿である。底部は糸切りされ，全体が摩耗している。



遺構埋土
1. 明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルトで，ハンダを含む
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂で，10cm前後の円礫含む
3. 明褐色(7.5YR5/8)細粒砂質シルトで，焼土・ハンダ・炭を多く含む(SK12)
4. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂質シルトで，焼土含む
5. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂質シルトで，焼土僅かに含む

図127　H区SK15

SK17(図126・128)

SK13・19，P3・4・6に切られる。平面形態はやや長方形を呈し，検出長4.12m，検出幅0.96m，深さ9.2cmを測る。埋土は褐色細粒砂質シルトに炭と漆喰を含む焼土である。

出土遺物は瓦片7点，陶器80点，磁器34点，土師器2点，土製品1点，炻器10点，石製品2点，金属製品5点である。図示した遺物は389～391である。389は陶器捏鉢である。内外面の一部に自然釉がかかり，内面には白い内容物が付着する。器面にスラグが付着するが，割れ口にも付着しているため廃棄後と思われる。390は陶器壺である。内面から外面体部まで鉄釉を施し，内底面に重ね焼き痕がみられ，銅片も僅かに付着する。391は陶器仏花器である。頸部は鉄釉，胴部は灰釉が施される。胴部に鉄錆で笹文がみられる。底部に廃棄時と思われる穿孔がみられる。

SK18(図126・129)

SK14，SD2に切られる。平面形態はやや長方形を呈し，検出長2.08m，検出幅0.98m，深さ11.0cmを測る。埋土は暗褐色細粒砂質シルトで，中礫を含み硬く締まる。

出土遺物は陶器4点，磁器10点である。遺物は392を図示した。392は磁器皿である。透明釉を施し，見込に海浜風景文の染付がみられる。蛇ノ目凹型高台であり，口縁は肥厚する。見込にハリ痕が3点残る。

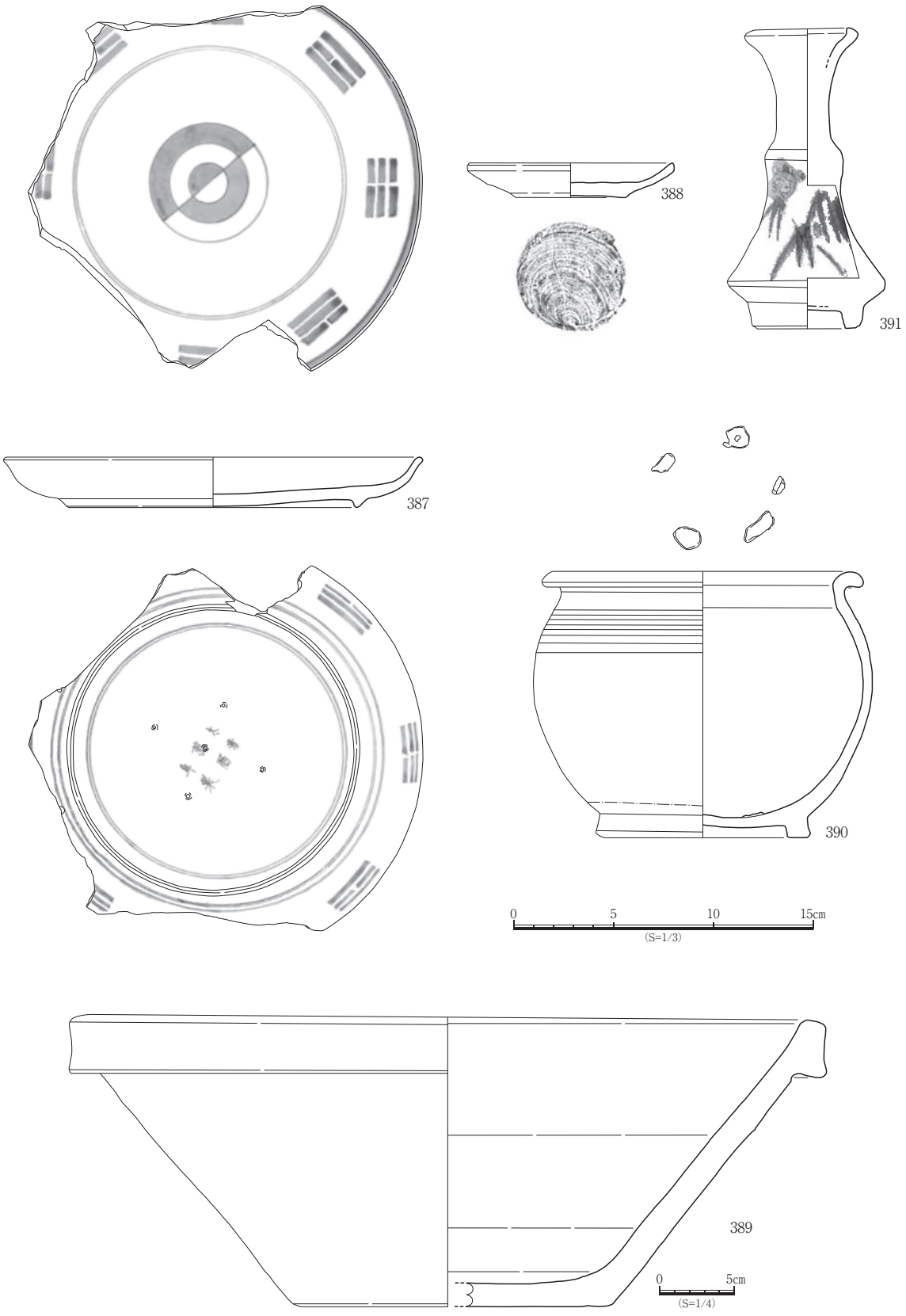


図128　H区SK9～17出土遺物実測図

SK19(図126・129)

SK17を切る。平面形態は円形を呈し，検出長0.52m，検出幅0.5m，深さ47.3cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトに炭を含む。

出土遺物は瓦片4点，陶器15点，磁器9点，土師器1点，炻器4点，古銭2点である。図示した遺物は393である。393は磁器小杯である。透明釉が施され，外面に笹文の染付がみられる。

SD3(図126・129)

一部撹乱される。検出長0.84m，検出幅0.41m，深さ24.8cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルトに焼土と石灰岩を含む。出土遺物は陶器17点，磁器3点，土師器1点，土製品1点，鉄製品1点である。図示した遺物は394である。394は土師器灯明皿である。内外の口縁部にタールが付着する。

SX6(図126・130)

撹乱とSK9に切られ，遺構が調査区外に広がるため，平面形態は不明である。検出長2.88m，検出幅0.74m，深さ19.6cmを測る。埋土は褐色細粒砂質シルトに炭と瓦を多く含む。火災に伴う廃棄土坑か。

出土遺物は瓦片12点，陶器68点，磁器74点，土師器1点，炻器37点，鉄製品1点，金属製品4点である。遺物は395～410を図示した。395は陶器碗である。内面から外高台まで灰釉を施し，見込に2点ハリ痕が残存する。396は陶器碗である。灰白釉を施し，畳付は釉剥する。外面は雪輪文と草花文の染付がみられ，被熱する。397は陶器皿である。内面から外面口縁にかけて鉄釉を施し，見込を蛇ノ目釉剥する。重ね焼き痕が残る。398は陶器皿である。内面から外面口縁まで灰釉を施す。内面に3条の櫛目がみられ，見込に3点ハリ痕が残る。399は陶器杯である。内面から外面体部まで灰釉を施す。貫入は粗い。主に内面が被熱する。400は陶器杯である。内面から外高台まで灰釉を施す。全体が被熱する。401は陶器杯である。内面から外面体部まで灰釉を施す。一部ややスラグが付着し，全体が被熱する。402は陶器杯である。内面から外面体部まで灰釉を施し，外面に笹文の錆絵がみられる。全体が被熱する。403は陶器杯である。全体に白磁釉が施され，畳付は釉剥される。外面に笹文の染付がみられる。404は陶器蓋である。土瓶蓋か。外面笠部に放射状の沈線を施し，にぶい黄釉を施す。貫入が顕著である。405は陶器灯明受皿である。白磁釉が外面口縁から内面にかけて施され，受部口縁は釉剥される。口縁部やや被熱し，底部には煤が付着する。

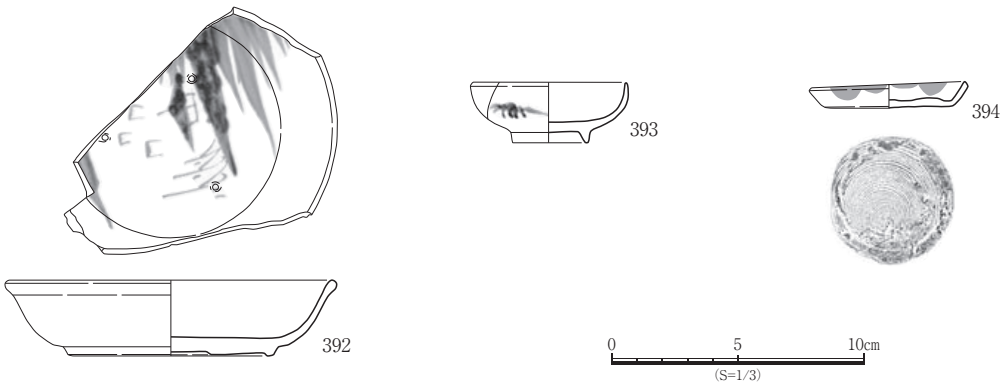


図129　H区SK18・19，SD3出土遺物実測図

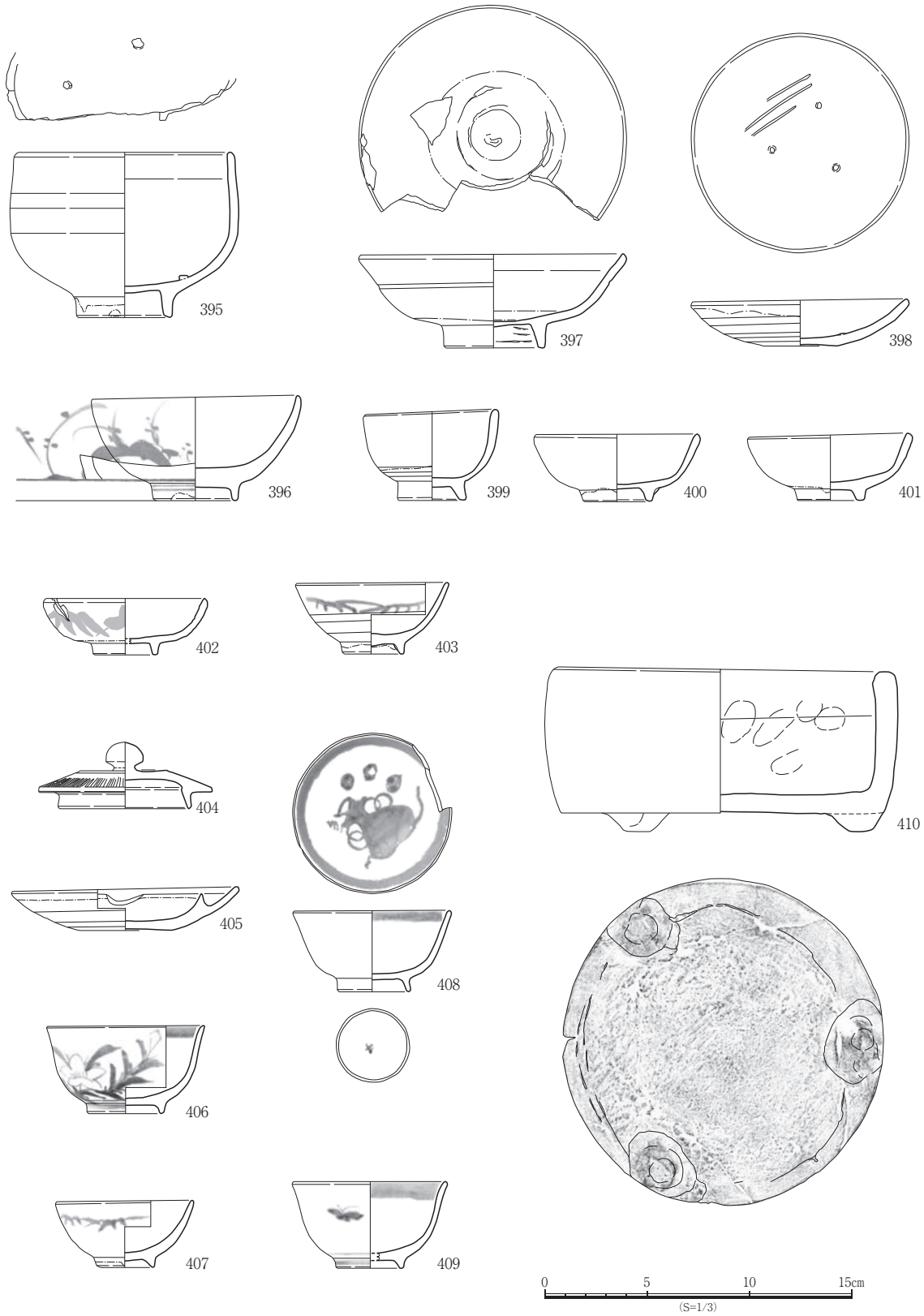


図130　H区SX6出土遺物実測図

406は磁器杯である。外面に桔梗文，界線，外高台に一重圏線，内面口縁に帯線の染付がみられる。407は磁器杯である。透明釉を施す。外面に笹文の染付を施す。408は磁器杯である。透明釉を施し，見込に宝文，内面口縁に帯線，高台内に「サ」銘の染付がみられる。409は磁器杯である。透明釉を施し，外面に蝶文，界線，外高台に二重圏線，内面口縁部に帯線の染付がみられる。内面は被熱する。410は土師器火鉢である。火鉢は円筒形を呈し，底部に円形の脚を3箇所貼付する。

④　第4遺構面(図131)

第4遺構面は検出範囲が狭く，明確な遺構はごく僅かであった。遺構から出土した遺物も細片が多く，図示に至らなかった。

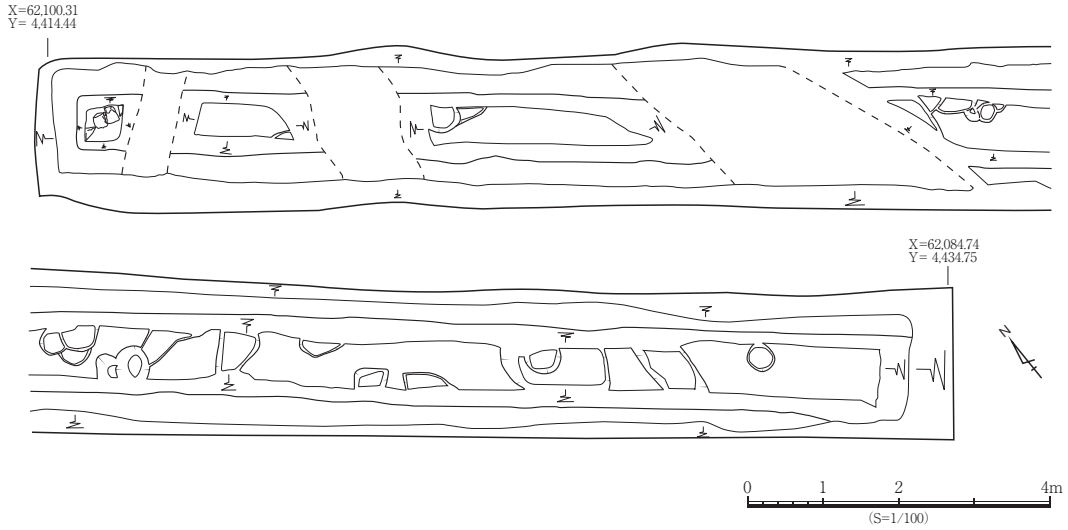


図131　H区第4遺構面

5. Ⅰ区(図26)

Ⅰ区はH区の南東に設定した。一連の調査においては最も東の調査区である。

(1) 包含層出土遺物

第Ⅰ層(図132)

図示した遺物は411～415である。411は陶器碗である。青磁釉が施され，外面は網目文，外高台に二重圏線の染付がみられる。412は磁器碗である。透明釉が施され，外面に丸と矩形文と一重圏線，外高台に二重圏線，内面口縁部に二重圏線の染付がみられ，見込は染付がみられるが判別で

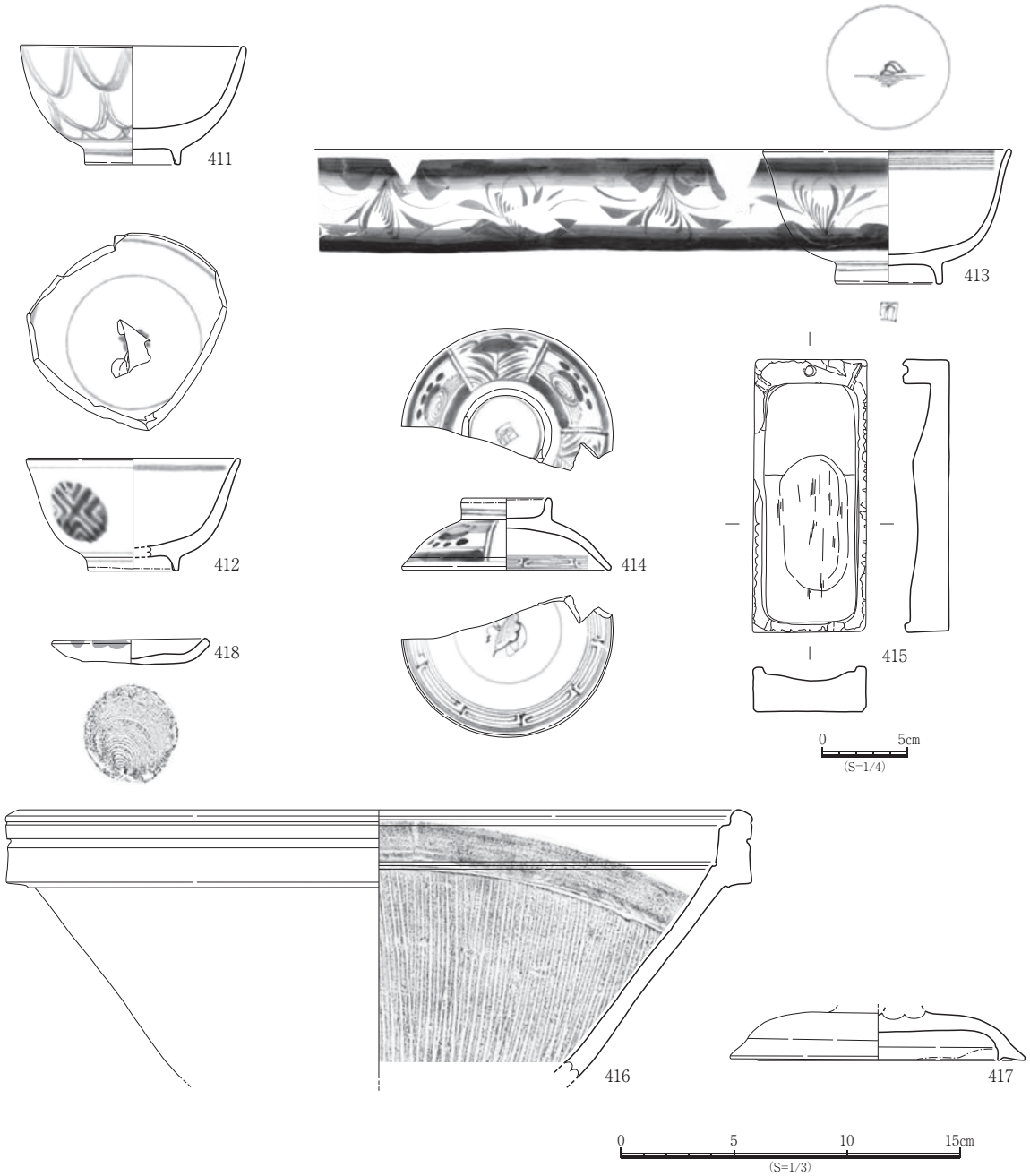


図132　Ⅰ区第Ⅰ・Ⅲ層出土遺物実測図

きなかった。413は能茶山窯磁器碗である。透明釉が施され，外面に草花文，帯線，一重圏線，外高台に二重圏線，高台内に「茶」銘がみられる。内面口縁は七重圏線がみられ，見込には貝文の染付か。414は磁器蓋である。透明釉が施され，外面は花卉文，橘文，外摘に二重圏線，摘内には一重圏線に「茶」銘，内面は宝文と雷文の染付がみられる。415は石製品硯である。石材は砂岩で，淵に径5mmの孔がみられる。

第Ⅱ層

Ⅱ層は図示するべき遺物がなかったため省略する。

第Ⅲ層(図132)

図示した遺物は416～418である。416は陶器擂鉢である。9歯摺目である。417は磁器蓋である。外面および天井部に青磁釉が施され，掛子は無釉である。口縁部に砂が付着する。418は土師器灯明皿である。轆轤成形後，底部は回転糸切りされる。口縁部にタールが付着する。

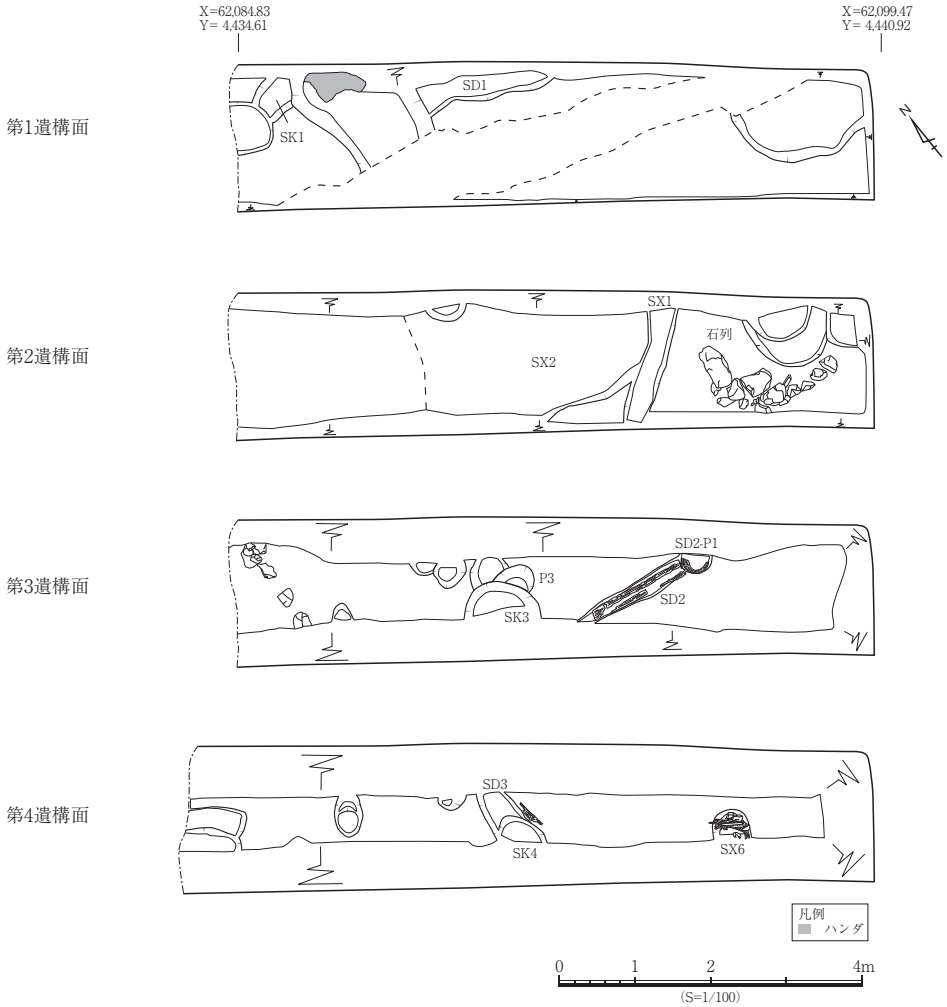


図133　I区各遺構面平面図

⑵ 遺構と遺物

①　第１遺構面(図133)

SK1(図133・134)

撹乱に切られる。平面形態はやや楕円形を呈し，検出長0.70m，検出幅0.52m，深さ14.1cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂質シルトで，ハンダを含む。

出土遺物は陶器21点，磁器14点，土製品2点，炻器33点である。図示した遺物は419である。419は陶器灰落しである。内面口縁から外面底部まで灰釉が施され，外面に山文，花文，松葉文の染付がみられる。内面底部はやや被熱する。

②　第２遺構面(図133)

石列(図133・134)

検出長1.3m，検出幅1.0mの遺構である。黒褐色細粒砂質シルトに焼土を含む。図示した遺物は420である。420は陶器皿である。内面から外面体部まで鉄釉を施し，見込を蛇ノ目釉剥される。見込には重ね焼き痕が残る。

③　第３遺構面(図133)

SD2(図133・134)

木樋を持つ溝跡である。検出長1.60m，検出幅0.28m，深さ4.0cmを測る。埋土はオリーブ黒色中粒砂質シルトである。また，SD2に接続するピットは深さ34.8cm，埋土は黒褐色粗粒砂質シルトで，柔らかい埋土であった。出土遺物は陶器37点，磁器26点，土師器1点，炻器1点，鉄製品1点である。図示した遺物は421である。421は磁器猪口である。透明釉が施され，外面に蓮文，蝶文，内面に宝文の染付がみられる。

P3(図133・134)

平面形態はやや楕円形を呈し，検出長44cm，検出幅29cm，深さ18.3cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，炭化物を含む。

出土遺物は瓦片1点，陶器10点，磁器4点である。図示した遺物は422である。422は陶器碗である。内面から外高台まで灰釉を施し，見込に5点ハリ痕が残る。

④　第４遺構面(図133)

第4遺構面は検出範囲が狭く，明確な遺構はごく僅かであった。遺構から出土した遺物も細片が多く，図示に至らなかった。

SX6(図133)

平面形態は楕円形を呈し，検出長0.51m，検出幅0.33m，深さ40.0cmを測る。埋土は黒褐色中粒砂質シルトで，1cm前後の角礫を含む。木片が多くみられたが，いずれも加工痕などはなく，径5cm程度であった。

出土遺物は陶器7点，磁器1点，土師器2点である。いずれも細片であったため図示していない。

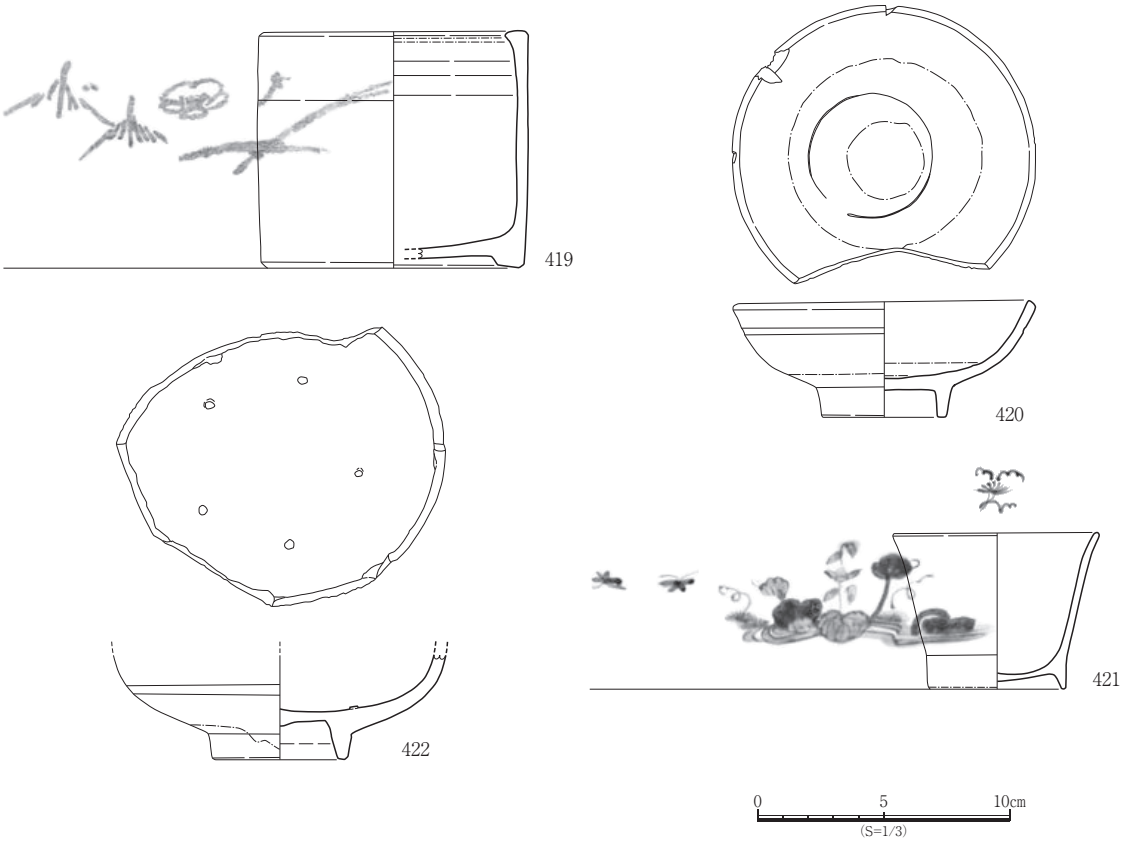


図134　I区遺構出土遺物実測図

6. 石垣解体調査

⑴ 石垣解体調査記録

新堀川の干潟空間を拡充するため，石垣があった部分を干潟西，石垣を解体して本来の位置より東に再度積上げることとなった。石垣観察表はアラビア数字でネーミングしたが，解体および積上げは施工者の主導のもとイロハでネーミングを行った。

解体に際しては石垣の背面構造の確認と記録保存を目的とし調査を行った。調査では石垣一段ごとに盛土の確認，築石と裏込め石の検出を行い，遺構・遺物の確認も一段ごとに行った。

各築石の解体にあたっては石質および介石などの有無を記録し，遺物が出土した場合は出土状態を写真撮影および測量し記録した。

石垣解体調査は工事アドバイザー会議によって調査方法や工程などの協議・確認を行い，受託業者同士の連絡および調整を行った。現場での解体調査の流れとしては，天端石周辺は公園の植栽が顕著であったため，根に注意し築石の検出を行った。各段，築石の輪郭を明瞭にするため盛土や裏込め石を主に人力で除去した。その後築石に墨で番号をつけ，全体の清掃を行い写真測量を実施した。その後，施工者と一石ごとに取り上げ，築石や介石などの状況を確認し，写真記録を行った。取り上げた石は新堀川に架かる旧駐車場に運搬し保存した。

⑵ 基本層序(図135)

調査区は公園ということもあり，全面に客土がみられ，厚さは約0.8～1.5mを測る。特に北端部は公衆トイレが設置されていたため撹乱の影響が大きく，Ａ区やＢ区でみられた第1遺構面，第2遺構面，第3遺構面を検出できなかった。石垣の3段目までは背面がコンクリートで固められている。これは道路工事や新堀橋構築時に施工されたと考えられる。

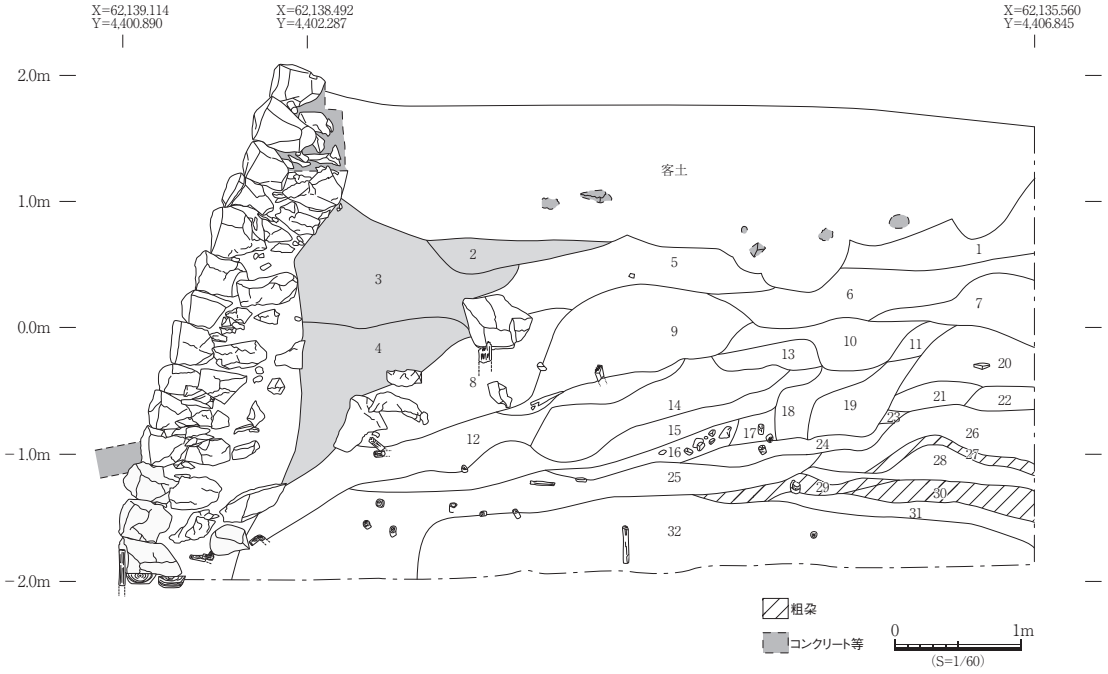
第2～4層は石灰岩の角礫を含む裏込め層である。第3層は10cm前後の石灰岩を多く含んでおり，その間に中粒砂質シルトを含む。第4層はやや石灰岩を含むシルト質中粒砂である。石垣築造時に川を掘るため，必然的に流れ込みの遺物が再堆積し，出土遺物の器種や年代もばらつきが大きい。また，築石の間などは川の影響などが顕著であり，露出していた6段目までは現代の遺物が散見される。

旧石垣の築石や裏込め石からなる層位は第8層である。盛土として第9～15層が構築される。盛土はシルトとシルトに中粒砂や細粒砂を含む層が交互に堆積する。

第16層は石灰岩の角礫が10cm程度の厚さで堆積し，背面の第18層や第19層はシルト層がまとまって堆積している。土丹的な性格を持つと考えられる。

それより下層には第27層・第29層・第30層に粗朶層がみられた。第26～31層にかけて珪藻分析と花粉分析，第29層と第30層の粗朶に対して放射線炭素年代測定を行った。第29層の粗朶はシダ網ウラジロ科によって構成されており，17世紀初頭の年代を検出した。第30層の粗朶は特定まで至らず，時代も不確かであった。分析の成果については後述する。

最下層の第31層と第32層からは遺物を検出することはできなかった。第31層は第30層の粗朶がやや含まれており，粗朶を施工する前段階と思われる。



層位

第 1 層 にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂質シルトで，細礫を含む
第 2 層 オリーブ黒色(5Y3/2)細粒砂質シルトで,マンガンを網状に含む
第 3 層 暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトで,裏込め石を含む
第 4 層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト質中粒砂で,チャートと中礫(円礫)を多く含む
第 5 層 オリーブ黒色(5Y3/1)シルトで,炭を含む
第 6 層 灰オリーブ色（5Y4/2）細粒砂質シルト
第 7 層 にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂質シルトで，細礫を含む
第 8 層 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂質シルトで，石灰とマンガンを多く含む
第 9 層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルト
第10層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，マンガンと焼土を含む
第11層 オリーブ黒色（7.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，僅かにマンガンを含む
第12層 オリーブ黒色（5Y3/2）シルトで，炭と焼土を含む
第13層 灰色（5Y4/1）細粒砂質シルトで，僅かにマンガンを含む
第14層 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂質シルトで，石灰と炭とマンガンを含む
第15層 オリーブ黒色（7.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，僅かにマンガンを含む
第16層 オリーブ黒色（5Y3/1）極細粒砂質シルトで，石灰岩を多く含む
第17層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，マンガンを含む
第18層 黒褐色（2.5Y3/2）シルトで，黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂が混じる
第19層 灰色（5Y4/1）シルト
第20層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，マンガンを含む
第21層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルト
第22層 黒褐色（10YR3/2）シルト質中粒砂で，マンガンを多く含む
第23層 灰色（5Y4/1）シルト
第24層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，木片を含む
第25層 黒褐色（2.5Y3/1）粗粒砂質シルトで，中礫（チャート）を含む
第26層 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルトで，細礫を含む
第27層 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂質シルト（粗朶層）
第28層 黒褐色（2.5Y3/1）シルト質細粒砂
第29層 オリーブ黒色（5Y3/1）中粒砂質シルト（粗朶層）
第30層 黒褐色（2.5Y3/1）シルト質中粒砂（粗朶層）
第31層 黒褐色（2.5Y3/1）シルトで，一部粗朶を含む
第32層 黒褐色（2.5Y3/1）シルト質中粒砂

図135　石垣断面

(3) 石垣分類(図136)

調査前段階の石垣は大きく分けて4つに分類される。北より立面イ(亀甲積み)，立面ロ・ハ(亀甲崩し)，立面ニ・ホ(練り積み・乱積み)，G区立面ホ(亀甲積み)である。立面イは南北の石垣で，その南端を立面ロが覆っていた。立面ロは南端が東に折れ(立面ハ)，旧石垣に沿っていた。立面ホは一連のものとしてナンバリングされていたが，実際には分割できる。立面ニ・ホ(北部)は立面ハと立面ホ(南部)を覆い隠していた。

また，調査のなかで旧石垣の存在が判明した。旧石垣は立面イ，立面ロの背面で検出された。旧石垣も石灰岩による石垣であったが，胴木を持つ石垣と胴木を持たない石垣がみられた。

Ａ区とＢ区に相当する遺構面を石垣解体時も調査を行ったが，石垣の構築時に撹乱されており，遺構と石垣の関連性の精査は困難であった。一部対応する部分について図化し掲載した。

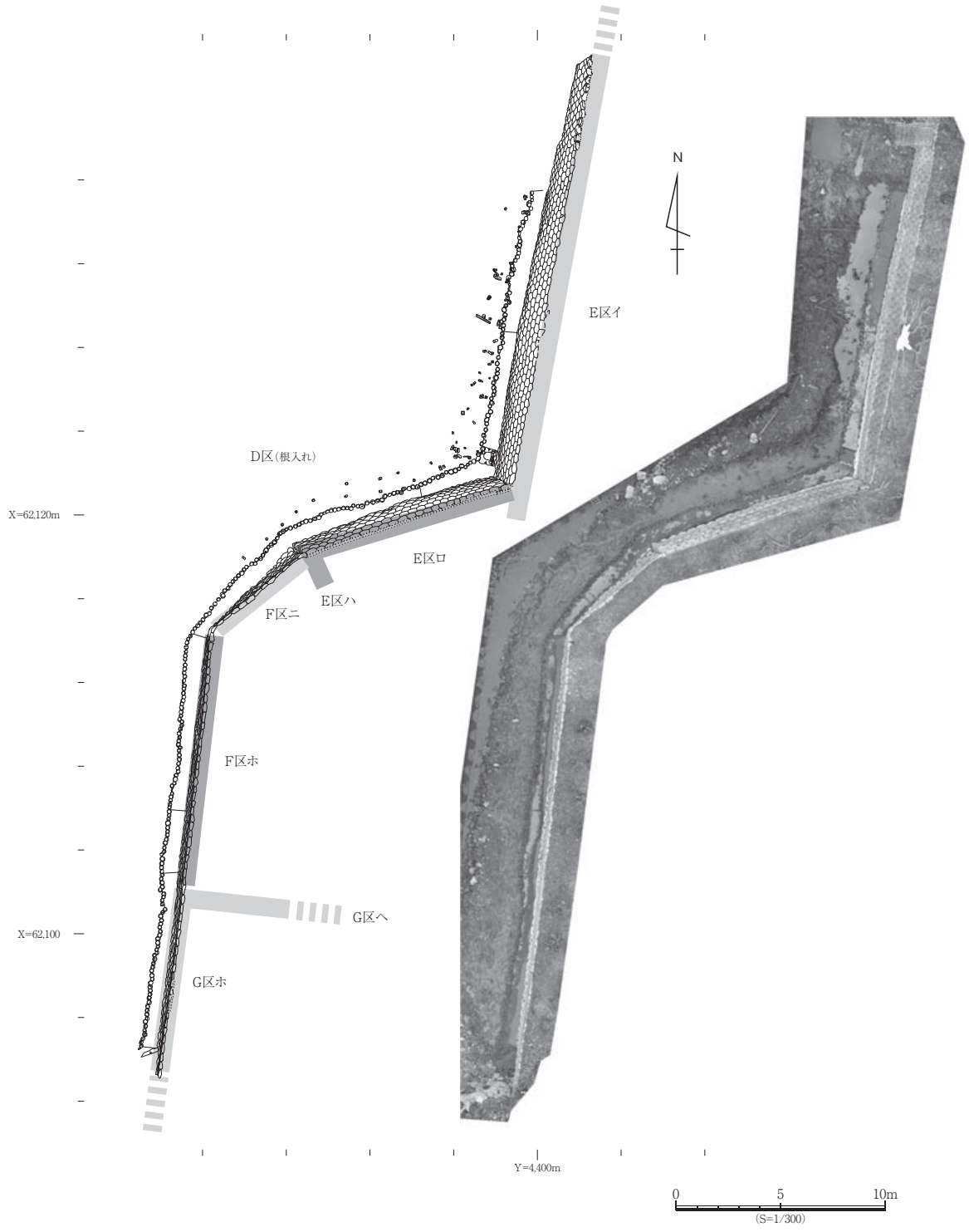


図136　石垣各部位別呼称概略図

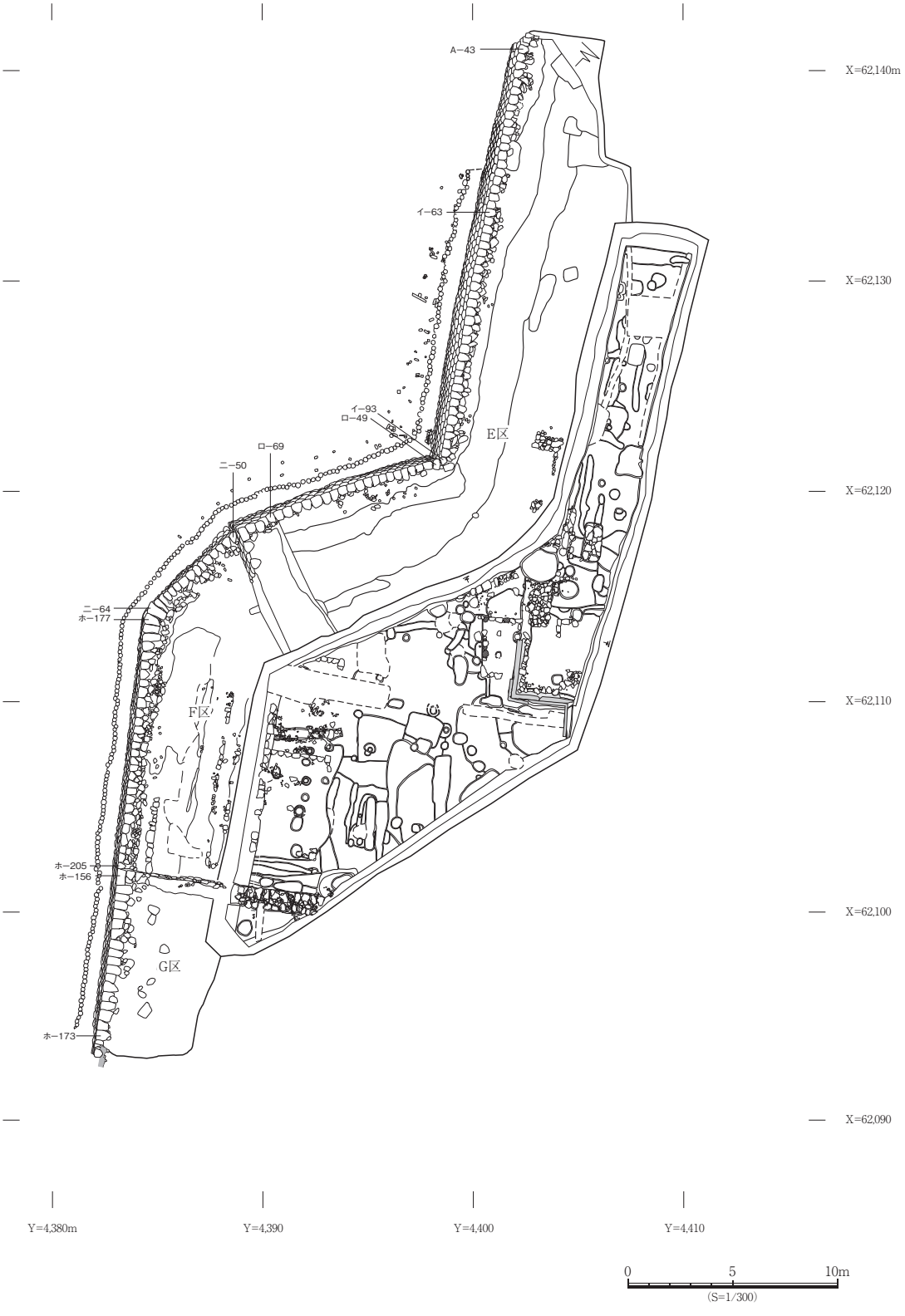

A−43
イ−63
イ−93
ロ−49
ロ−69
ニ−50
ニ−64
ホ−177
ホ−205
ホ−156
ホ−173
E区
F区
G区
X=62,140m
X=62,130
X=62,120
X=62,110
X=62,100
X=62,090
Y=4,380m
Y=4,390
Y=4,400
Y=4,410
0
5
10m
(S=1/300)

図137　第1遺構面

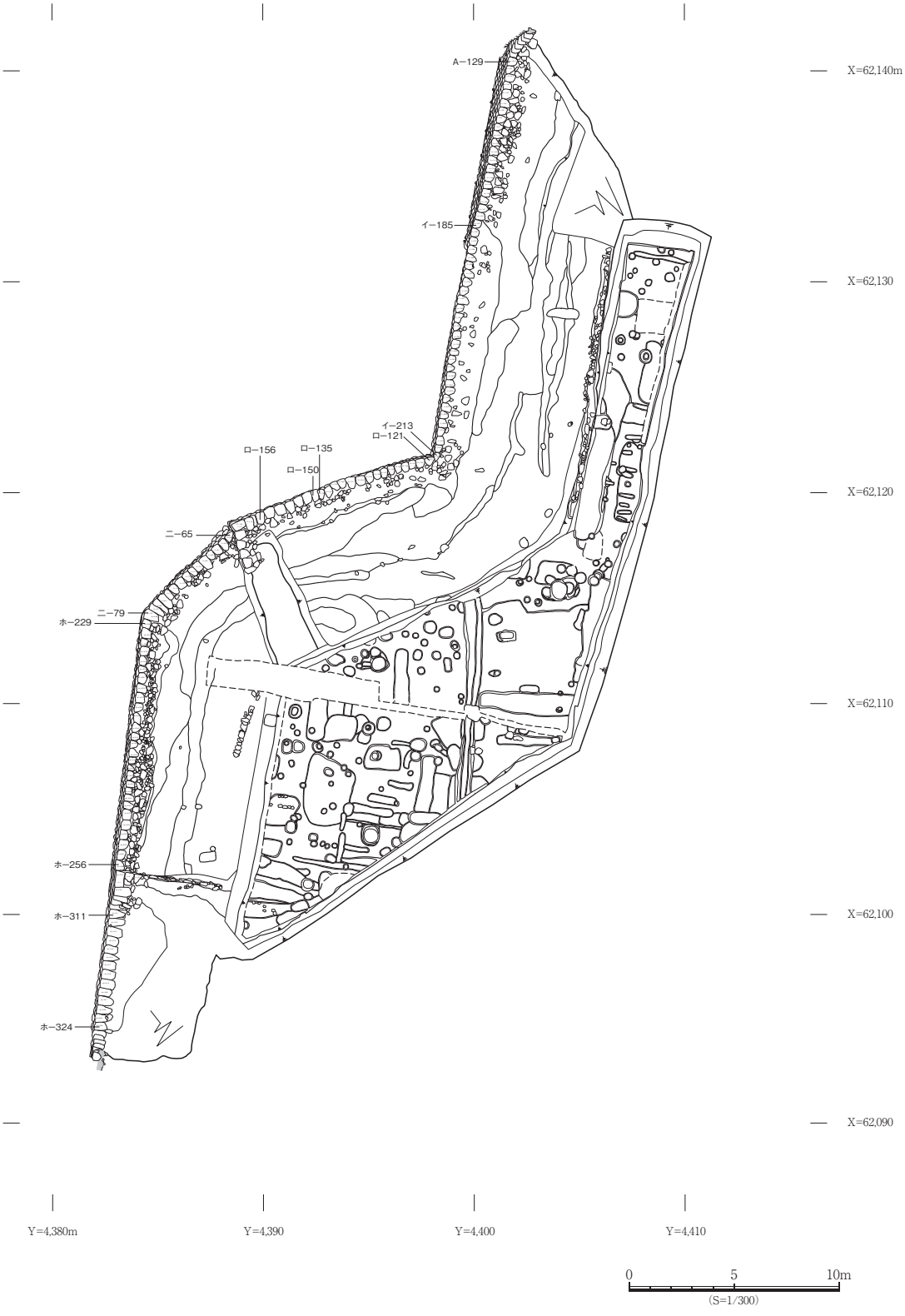

A−129
イ−185
イ−213
ロ−121
ロ−156
ロ−135
ロ−150
ニ−65
ニ−79
ホ−229
ホ−256
ホ−311
ホ−324
X=62,140m
X=62,130
X=62,120
X=62,110
X=62,100
X=62,090
Y=4,380m
Y=4,390
Y=4,400
Y=4,410
0
5
10m
(S=1/300)

図138　第2遺構面

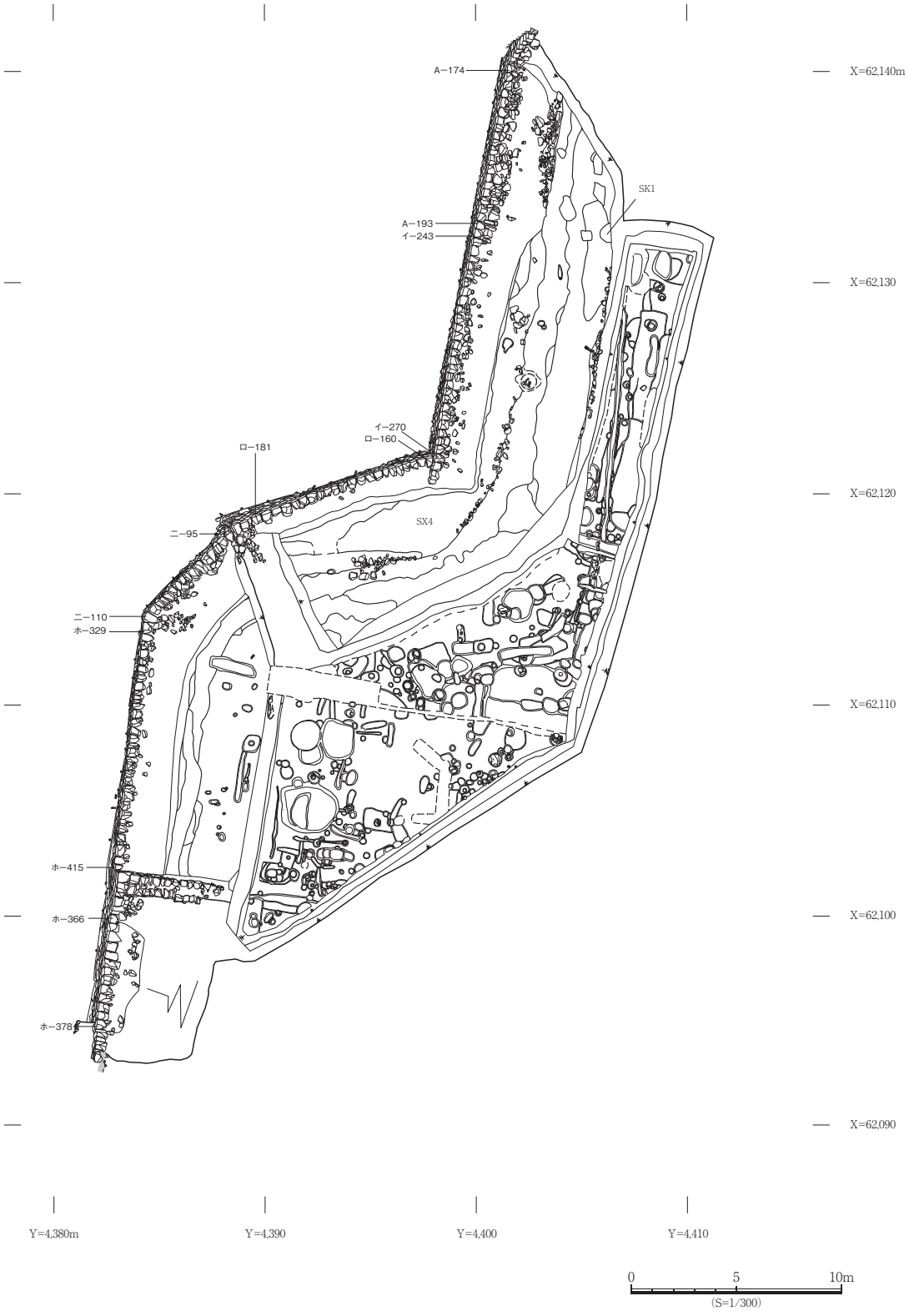

A−174
A−193
イ−243
SK1
イ−270
ロ−160
ロ−181
ニ−95
SX4
ニ−110
ホ−329
ホ−415
ホ−366
ホ−378
X=62,140m
X=62,130
X=62,120
X=62,110
X=62,100
X=62,090
Y=4,380m
Y=4,390
Y=4,400
Y=4,410
0
5
10m
(S=1/300)

図139　第4遺構面

⑷出土遺物

①D区(図136・140)

石垣の根入れをD区とした。遺物はほとんどが流れ込みと思われるが，コンクリートとの位置関係などから参考になる遺物を図示した。根入れは木杭が列を成し，木杭と石垣の間はコンクリートで固められていた。そのコンクリートは新堀橋まで続いていることから，昭和元年頃に施工されたものと考えられる。よって，コンクリートから下は昭和期より古く，上はそれ以降であると考えられる。

石垣の根入れ部分より出土した遺物423～426を図示した。423は陶器壺である。外面口縁から胴部まで鉄釉が施され，高台内に墨書で「セツ□□」の文字がみられる。断面に鉄分が付着する。424は磁器広東碗である。透明釉が施され，見込は一重圏線と鷺文，内面口縁は二重圏線，外高台に三重圏線，外面に草花文と鳥文の染付がみられる。425は磁器八角皿である。透明釉が施され，内面に風景文か。外面に雲文の染付がみられる。426は磁器皿である。全体に透明釉が施され，畳付は釉剥され，内面は蛇ノ目釉剥され，二重圏線と菱形文の染付がみられる。

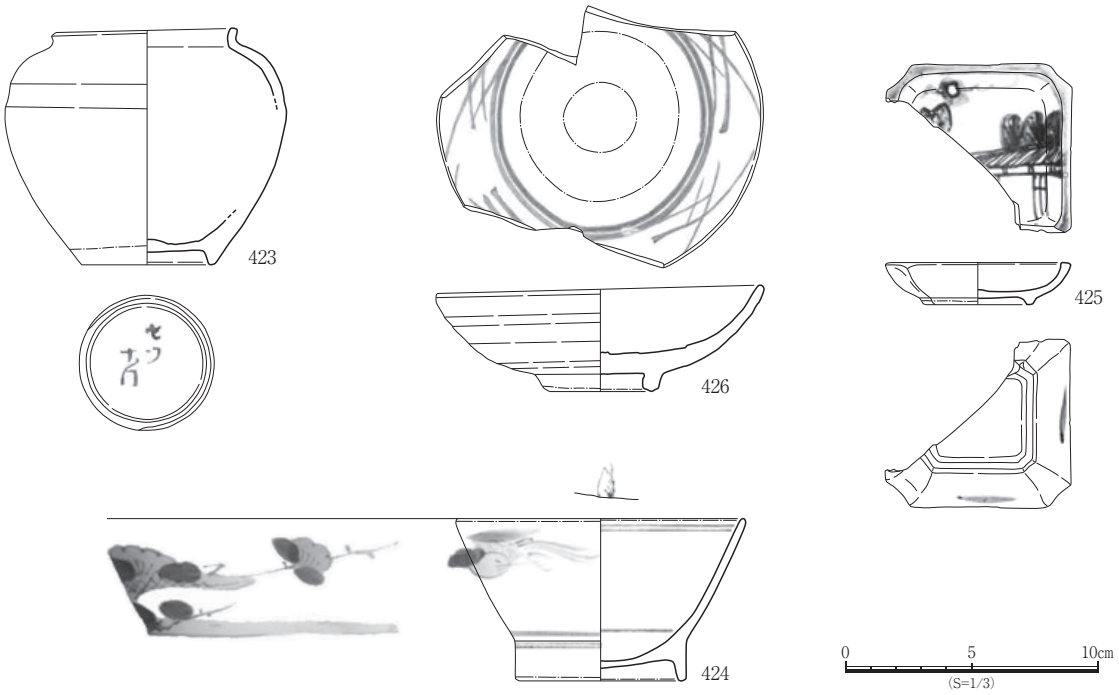


図140　D区出土遺物実測図

②E区(図136)

石垣イ(図136)

石垣イは残存していた石垣の中で最も古い石垣である。北は新堀橋の橋台に覆われ，南は石垣ロに覆われている。亀甲積みで，それぞれの築石の大きさは一定であった。築石の背面には築石より7割ほどの大きさの石材があてられているのが特徴であり，あて石と呼称した。裏込め石はほとんどが石灰岩の角礫であった。

天端付近は公園化や植栽による根の撹乱が顕著であり，孕みが随所に見受けられた。

客土（図141）

客土から江戸時代の遺物が出土したため図示した。427は磁器蓋である。透明釉を施し，内面口縁部に鋸歯文，外面口縁部に鋸歯文，帯文，天井部に山水楼閣文，外面窓絵に花文，草文，唐草文の染付がみられる。

イ2段目（図141）

盛土から出土した428と429を図示した。428は磁器皿である。灰白釉が施され，高台内に「□ニシヒヤセ」と墨書で書かれる。見込は菊花文の陽刻がみられ，型打成形で蛇ノ目凹形高台である。429は磁器餌鉢である。内面から外面体部に透明釉が施される。

イ3段目（図141）

盛土から出土した430を図示した。430は磁器碗である。透明釉が施され，内面口縁に雷文，見込に渦文，松竹梅文，外面に草花文，桐文の染付がみられる。

イ4段目（図141）

盛土から出土した431と432を図示した。431は磁器小瓶である。外面体部から内面口縁まで灰白釉が施され，外面は梅文と笹文の染付がみられる。底部回転糸切りである。432は土師器蓋である。外面は回転ナデ調整され，掛子は面取される。全体が被熱する。

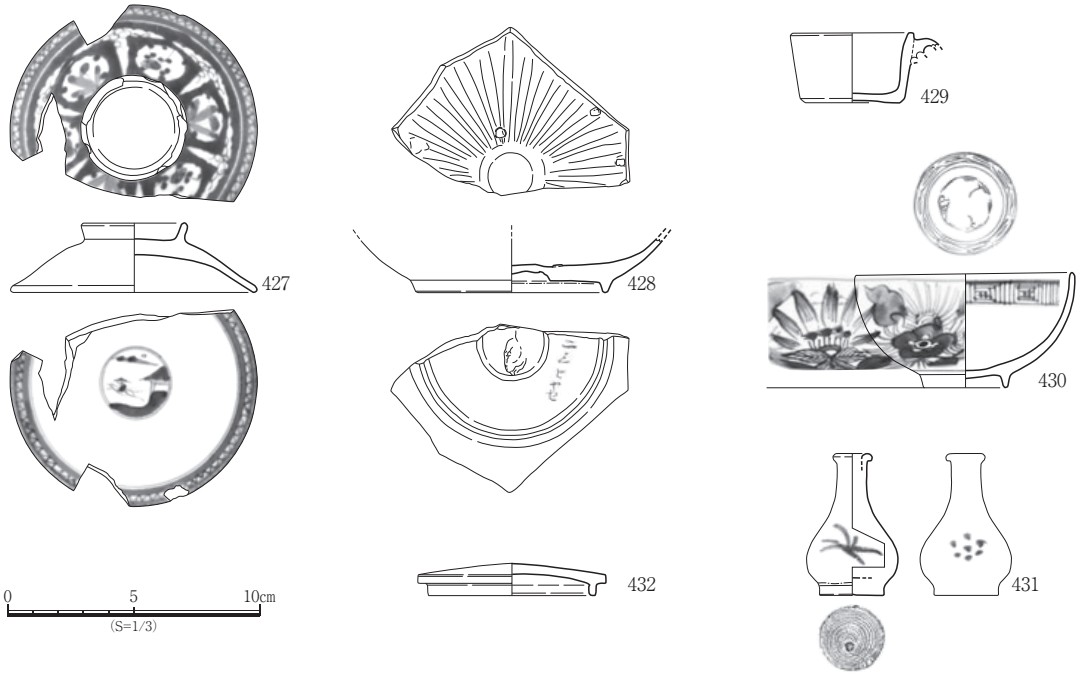


図141　E区客土，イ2～4段目出土遺物実測図

イ5段目（図142）

盛土から出土した433～438を図示した。433は陶器土瓶蓋である。外面に灰釉が施され，貫入は顕著である。外面に井桁文が黒釉で描かれ，径3mmの穿孔がみられる。434は陶器擂鉢である。11歯摺目で内面は摩耗する。435は陶器火鉢か。内面口縁から外面体部まで銅緑釉が施され，やや被熱する。436は磁器広東碗で透明釉が施される。内面口縁は二重圏線，見込に一重圏線，外面に草花文，外高台に二重圏線の染付がみられる。437は磁器広東碗である。透明釉が施され，内面に

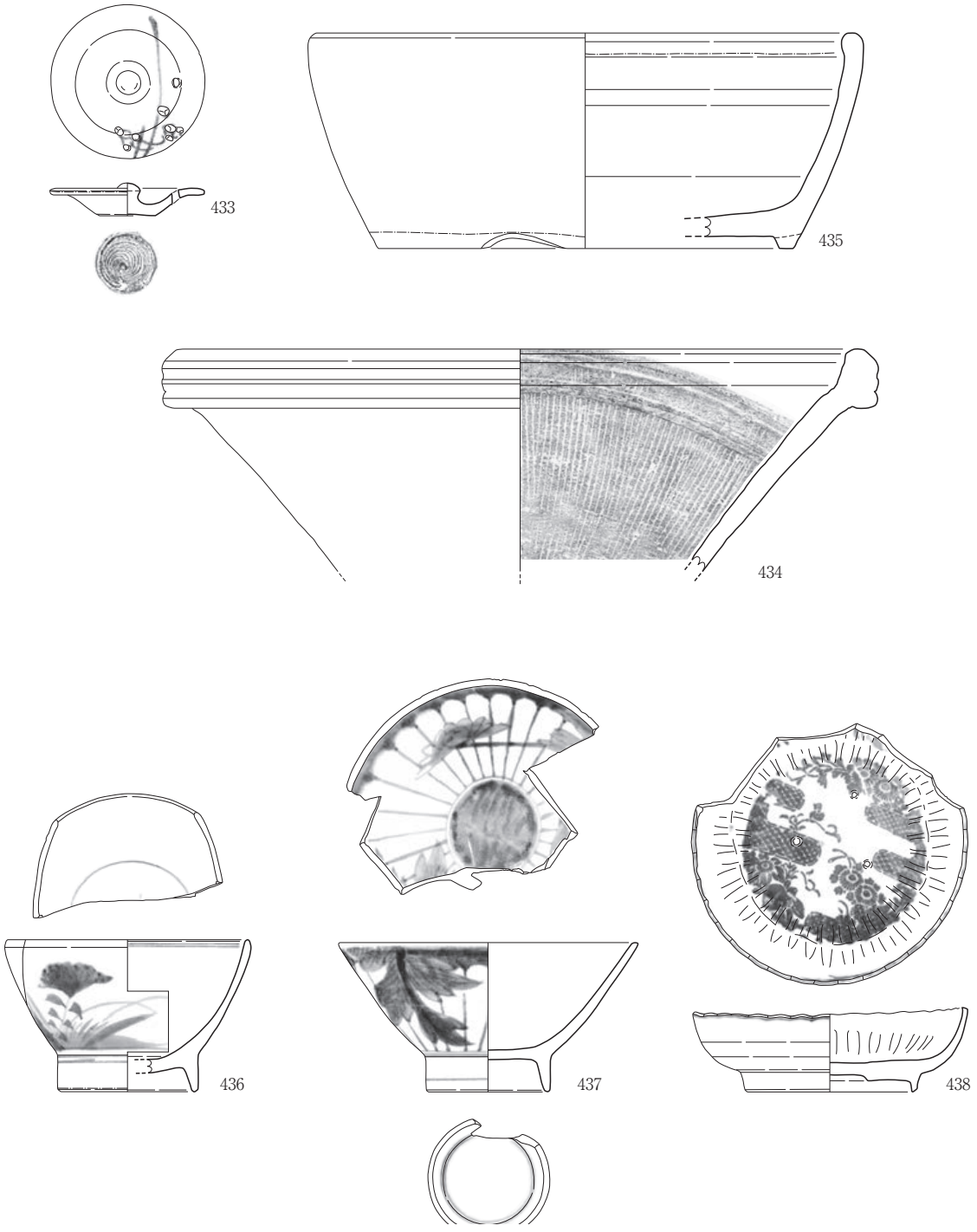


図142　E区イ5段目出土遺物実測図

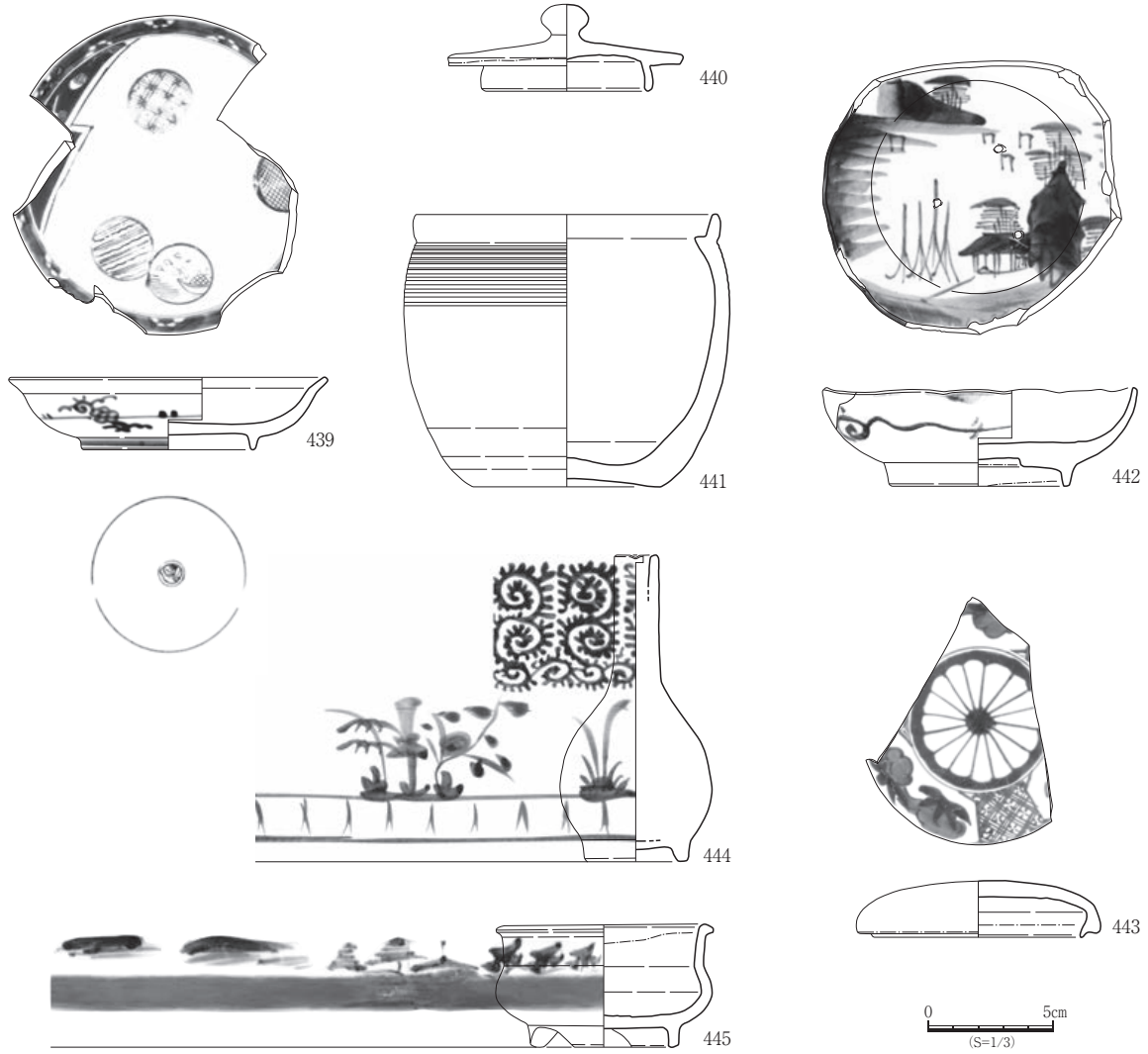


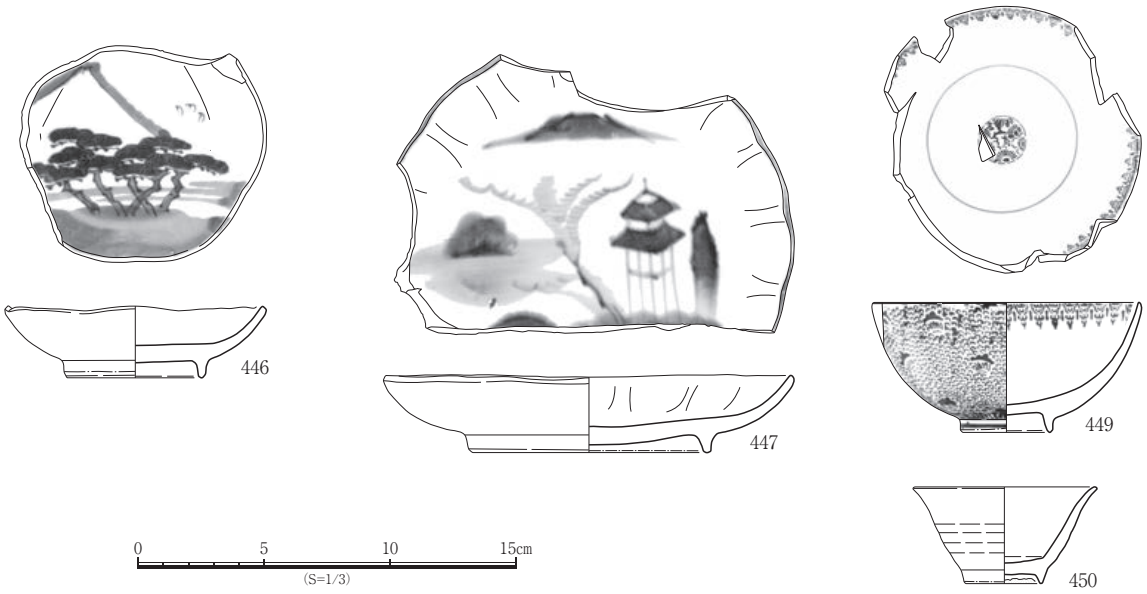
図143　E区イ6･7段目出土遺物実測図

菊弁文，蓮文，外面に菊弁文，菊葉文，外高台に一重圏線，高台内に二重圏線の染付がみられる。438は型打成形の磁器輪花皿である。透明釉が施され，内面は型紙染付で雲文と菊文の染付がみられる。見込は3点ハリ痕が残り，蛇ノ目凹形高台を呈する。

イ6段目(図143)

裏込めから出土した439を図示した。439は磁器皿である。透明釉を施し，内面口縁部に半梅花文，内面に朱の上絵付けで菱窓絵，丸に四方襷，波状文，格子文，花器文とみられる染付，外面は唐草文に梅文，外高台に二重圏線，高台内に一重圏線と変形字銘がみられる。

盛土より出土した440～444を図示した。440は陶器蓋である。外面笠部に青緑釉が施される。441は陶器壺である。全体に赤褐釉を施し，肩部に10条の沈線が施される。口縁部には受部があり，底部はヘラ切りされる。442は磁器輪花皿である。透明釉が施され，外面に唐草文，内面に海浜風景文，蛇ノ目凹形高台で見込に3点ハリ痕が残存する。443は磁器蓋である。透明釉が施され，掛子は釉剥される。外面に菊花文，窓絵に四方襷文の染付がみられる。444は磁器瓶である。透明釉が施され，外頸部に蛸唐草文，胴部に草花文と笹文，二重圏線，松葉文の染付がみられる。



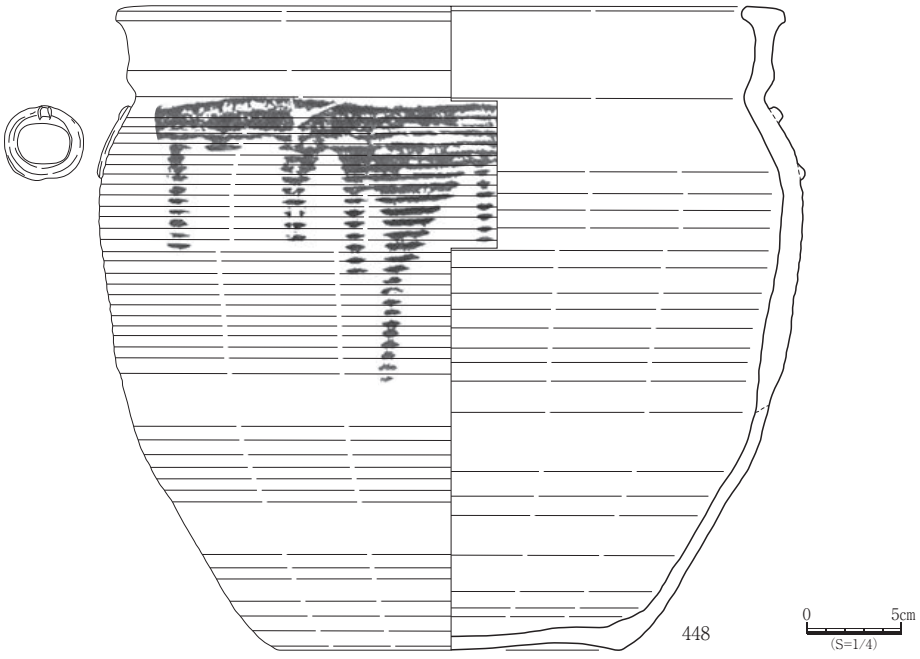


図144　E区イ8段目出土遺物実測図

イ7段目(図143)

裏込めより出土した445を図示した。445は磁器香炉である。外面から内面口縁まで透明釉が施され，外面に山水楼閣文の染付がみられる。内面に灰が付着する。

イ8段目(図144)

裏込めより出土した446と447を図示した。446は磁器輪花皿である。透明釉が施され，内面は風景文の染付がみられる。447は磁器皿である。透明釉が施され，口錆，内面に山水楼閣文の染付がみられる。

盛土より出土した448～450を図示した。448は陶器甕である。暗赤褐釉が施され，底部は無釉である。肩部に多条の沈線が施され，2箇所に不遊環を貼付する。449は磁器碗である。透明釉が施され，外面に唐草文，蓮弁文，外高台に一重圏線，内面口縁部に宝珠繋ぎ，見込に一重圏線と松竹梅文の染付がみられる。450は磁器杯である。透明釉が施され，畳付に砂が付着する。

イ９段目(図145)

裏込めからは451が出土した。451は陶器皿である。外面体部から内面まで灰釉が施され，見込は蛇ノ目釉剥される。

盛土からは452と453を図示した。452は陶器餌入である。灰白釉が施され,底部は糸切りされる。453は土師器胞衣壺である。口縁は僅かに内傾する轆轤成形である。見込には墨書で「天神」の文字がみられる。

イ10段目(図145)

裏込めからは454～456が出土した。454は陶器瓶である。胴部轆轤成形後に鎬ケズリされ，鉄釉が外面底部から内面口縁にかけて施される。「二乙」の墨書が底部にみられる。455は陶器仏花器

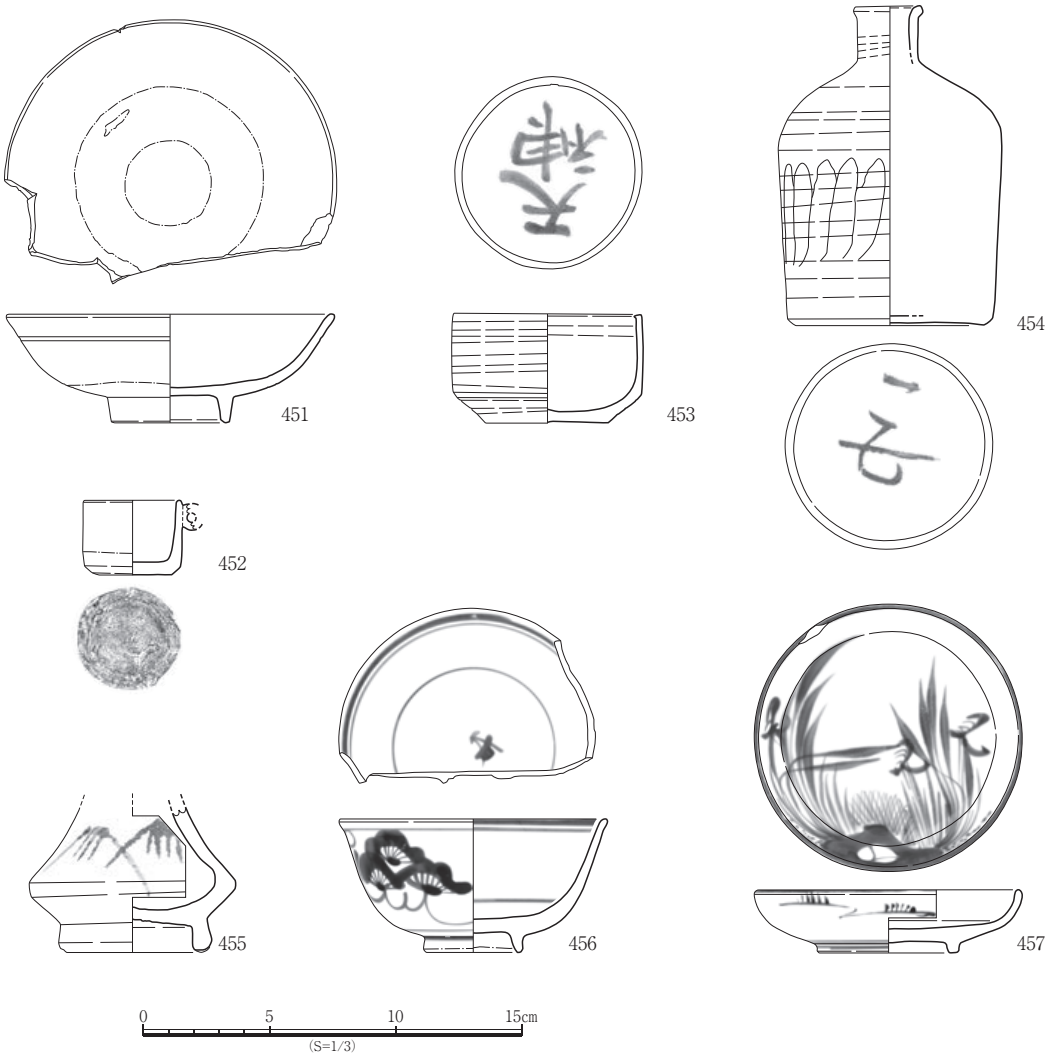


図145　E区イ9･10段目出土遺物実測図

である。外高台まで灰釉が施される。胴部は鉄釉で笹文がみられる。456は磁器碗である。全体に透明釉を外面口縁,腰部に一重圏線と松文，外高台に二重圏線，内面口縁部に二重圏線，見込に一重圏線と記号文の染付がみられる。

457が盛土より出土した。457は磁器皿である。全体に透明釉が施され，口錆，内面に草文，外面に土坡文，外高台周辺に三重圏線がみられる。

イ11段目(図146)

裏込めから出土した遺物について458～462を図示した。458は陶器擂鉢である。外面体部から内面体部まで鉄釉が施され,18歯摺目がみられる。459は磁器碗である。明オリーブ灰釉が施され,外面に菊花文，格子文，外高台に二重圏線，内面口縁部に四方襷，見込に二重圏線の染付と五弁花文のコンニャク印判がみられる。460は磁器碗である。全体に透明釉が施され，外面に雪輪文，草

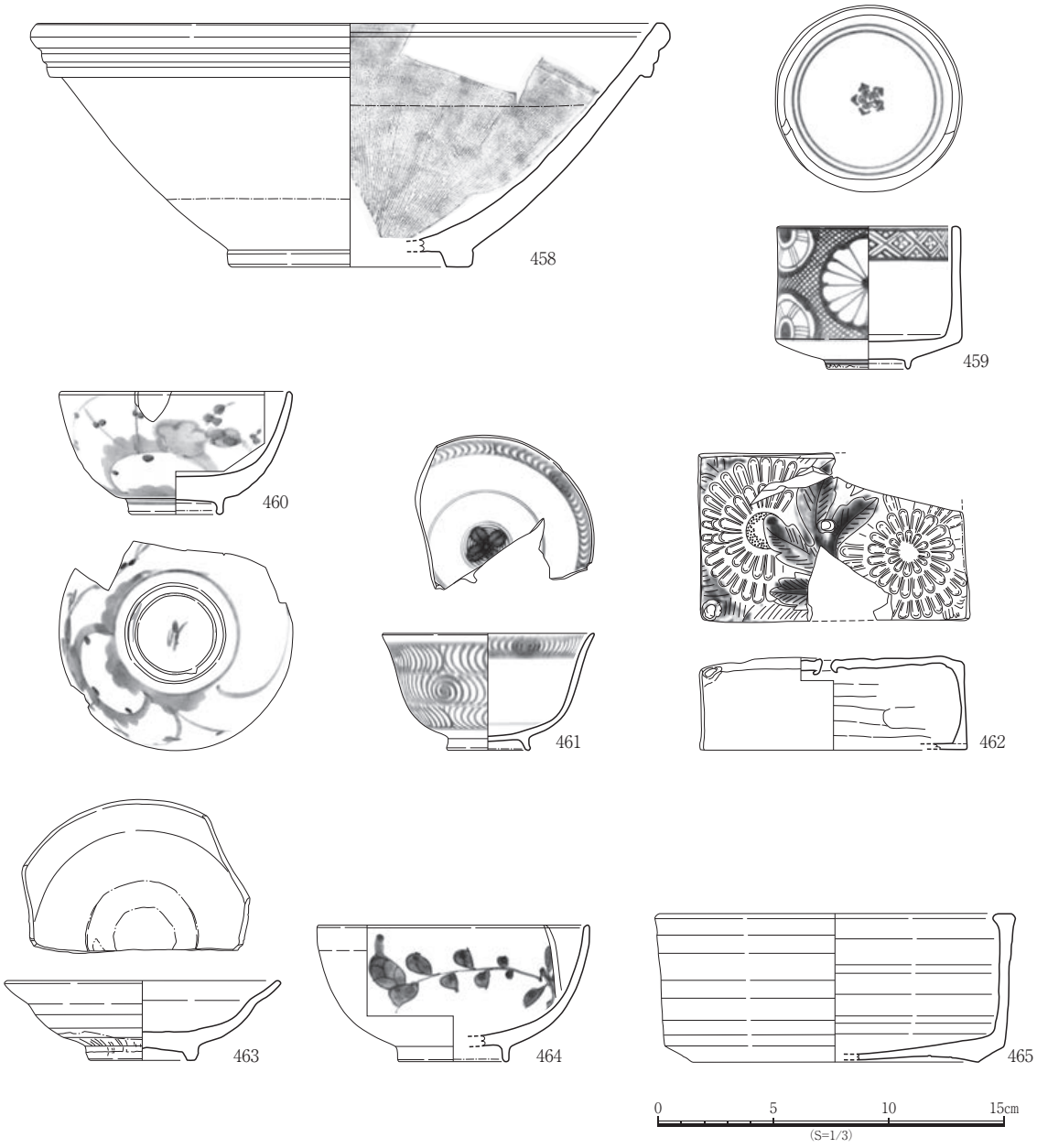


図146　E区イ11･12段目，胴木出土遺物実測図

花文，外高台に二重圏線と高台内に文字文とみられる染付がみられる。畳付にタールが付着する。461は磁器碗である。透明釉が施され，外面に渦文，内面口縁部に渦文，見込に二重圏線，葉文と同心円文の染付がみられる。462は磁器水滴である。型打成形で内面はナデ調整される。全体に透明釉が施され，菊と葉の陽刻と一部上から染付がみられる。型打成形で上面に径4㎜の穿孔が2箇所みられる。

イ12段目（図146）

裏込めから出土した463と464を図示した。463は陶器皿である。外面体部から内面まで灰釉を施し，一部緑釉がかかる。見込は蛇ノ目釉剥される。464は磁器碗である。内面に透明釉，外面に明緑灰釉を施し，内面に草文の染付がみられる。

イ胴木（図146）

出土遺物は465を図示した。465は土師器蓋付鉢か。轆轤成形後回転ナデされ，底部ヘラ削りされる。外面体部から底部にかけ変色する。

石垣ロ（図136）

石垣ロは石垣イを覆うように築かれていたため，石垣イより新しい石垣である。また，旧石垣も覆っており，旧石垣に沿って端部を折り込むようにしていたことが特徴である。石垣ロは東西で段数が変化し，それに応じて胴木の西側は1段低く，東側は1段高くなっていた。築石同士の合わせも行われており，築石のクラックに合わせて周囲の築石を加工するなどの工法が取られていた。東西で築石の大きさも変化するが，具体的な変化点はわからなかった。背面の本来裏込め層である場所に粗粒砂を使用する等されており，孕みの原因が随所に見受けられた。

ロ3段目（図147）

裏込めから出土した466～469を図示した。466は磁器仏飯器である。内面から外面底部まで白釉が施される。外面杯部に渦文と三重圏線，脚部に一重圏線の染付がみられる。467は土師器合子蓋である。内面天井部に「卍」の墨書がみられる。468は土師器合子身である。見込に九字の墨書がみられる。轆轤成形後回転ナデ調整され，底部は回転糸切りされる。469は土師器合子身か。内面はヘラによる陰刻がみられる。轆轤成形後回転ナデ調整され，底部はヘラ切りされる。

ロ6段目（図147）

盛土から出土した470～473を図示した。470は陶器鉢である。内面から外面体部まで灰釉が施される。内面に草花文，外面に草文の染付がみられる。471は磁器紅皿である。内面から外面口縁部にかけて白磁釉が施される。型成形後に底部を貼付する。472は磁器蓋である。透明釉が施され，外面に花文，摘に区画文，記号文，内面に松竹梅文，口縁部に宝文の染付がみられる。473は土師器皿である。轆轤成形後内外面はナデ調整され，底部糸切りされる。

ロ7段目（図148）

盛土から出土した474と475を図示した。474は磁器輪花皿である。透明釉が施され，内面に菊文，草花文，見込の二重圏線内に五弁花，外面に唐草文，高台付近に三重圏線，高台内に一重圏線と渦福の染付がみられる。475は銅銭貨である。表図柄は龍と「明治十五年・1SEN・大日本」，裏図柄は「以百枚換一圓一銭」の文字がみられる。475については石垣の年代を決定する上で重要な遺物であり，このことから明治15年以降の構築と考えられる。

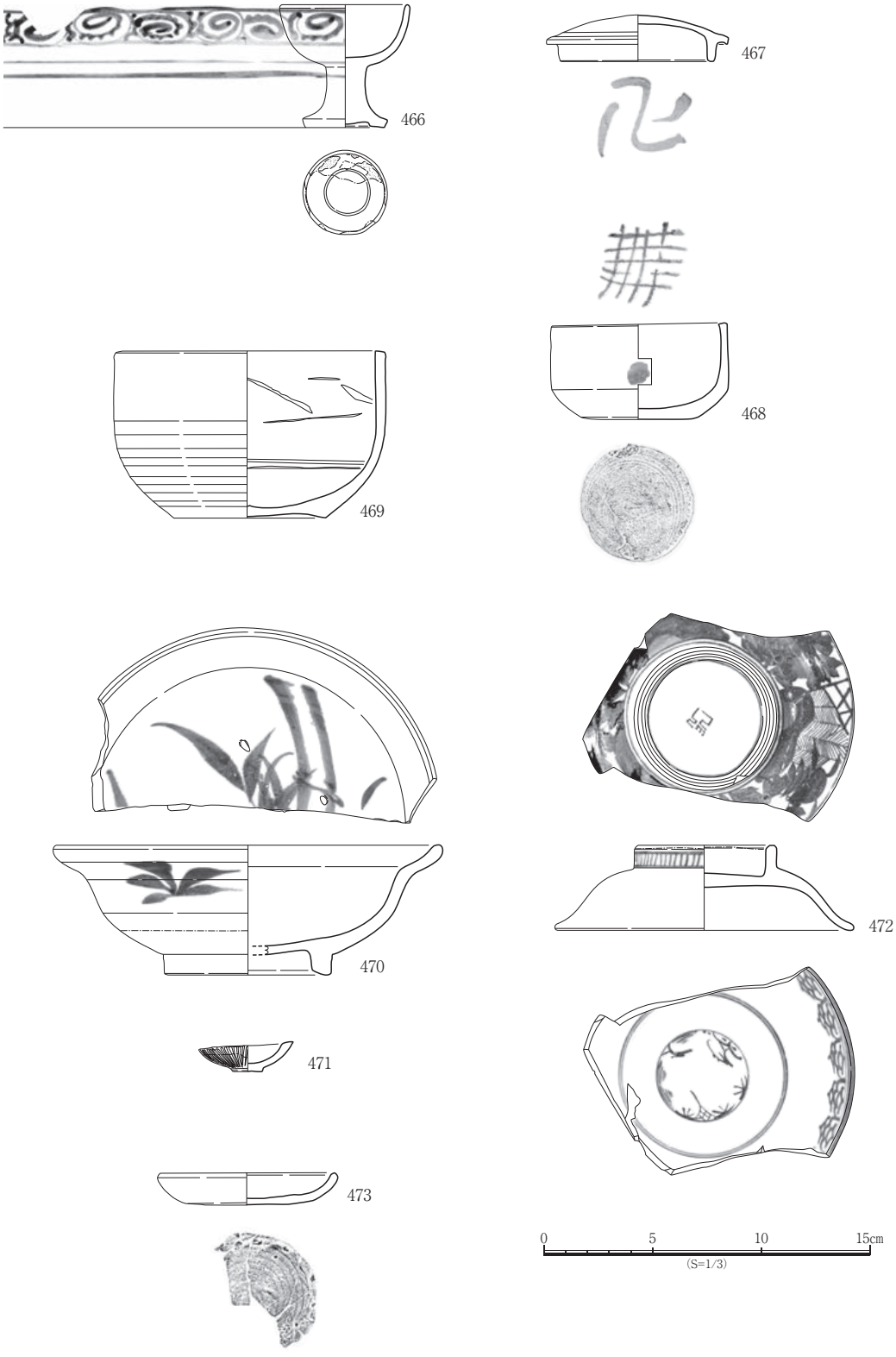


図147　E区ロ3～6段目出土遺物実測図



図148　E区ロ7～10段目，根石出土遺物実測図

ロ８段目（図148）

裏込めから476が出土した。476は磁器蓋である。透明釉が全体に施され，外面に草花文，風景文，宝珠繋ぎ，外高台に一重圏線，高台内に一重圏線，落款，内面口縁に宝珠繋ぎ，天井部に麒麟文の染付がみられる。

盛土より477～481が出土した。477は陶器蓋である。掛子以外灰釉が施され，外面に染付と鉄錆を用いてそれぞれ柴束文が描かれる。478は磁器杯である。透明釉が施され，外面に草花文，外高台に二重圏線の染付がみられる。479は磁器杯である。透明釉が施され，外面口縁部に一重圏線，風景文，外高台に一重圏線，高台内に一重圏線と変形字銘の染付がみられる。480は磁器小瓶である。全体に透明釉を施し，胴部に花文と山文の染付がみられる。畳付は砂が付着する。481は磁器油壺である。透明釉が施され，畳付は釉剥される。胴部に草花文，外高台に二重圏線の染付がみられる。

ロ１０段目（図148）

盛土より出土した482を図示した。482は陶器瓶か。底部のみが残存する。外面に暗赤褐釉が施される。底部には「上」の刻印がみられる。

ロ根石（図148）

裏込めより出土した483を図示した。483は磁器皿である。透明釉，口錆が施され，内面は陰刻で葉文，人物，藤に「古人自惑其性…」の文字とその上から一部染付がみられる。外面は葉文の染付か。高台付近に二重圏線の染付がみられる。

SK1（図139・149）

SK1はJ区として調査した区域である。A区およびB区での第4遺構面に相当する。出土遺物は484を図示した。484は陶器灯明皿である。口縁部にタールが付着する。

SX4（図139・149・150）

SX4は明治期の石垣と旧石垣の間に盛られた土である。明治期の遺物とおそらく旧石垣の遺物が混在する。出土遺物は485～498を図示した。485は陶器碗である。内面から外面体部まで灰釉が施される。釉に光沢があり，貫入は顕著である。外面は錆絵か。486は陶器皿である。白磁釉が施され，見込の二重圏線内に風景文の染付がみられる。型打成形で見込に5点ハリ痕が残り，底部は蛇ノ目凹形高台を呈する。487は陶器皿である。灰オリーブ釉，黒釉，暗灰黄釉が施され，見込は蛇ノ目釉剥される。488は陶器皿である。内面から外高台まで灰釉が施され，内面に陰刻の笹文とハリ痕が3点残る。489は陶器急須である。外面肩部から胴部まで飛鉋文が施され，注孔は5箇所円孔がみられる。外面底部に煤が付着している。490は磁器広東碗である。透明釉が施され，見込に宝文とみられる文様，外面には丸に四方襷，重なった丸に格子文と檜垣文の染付がみられる。491は磁器碗である。透明釉が施され，外面に梅文，松文，草文と界線，高台付近に二重圏線の染付がみられる。492は磁器碗である。透明釉が施され，外面に草花文，帯線，界線，内面口縁に四重圏線，見込に雁文と一重圏線の染付がみられる。内面に砂が付着する。493は磁器輪花皿である。透明釉が施され，内面に陽刻，唐草文，鶴文の染付がみられる。494は磁器皿である。透明釉が施され，内面に桜文，桜桃文，高台内に「サ」銘の染付がみられる。495は磁器皿である。外面体部に唐草文と二重圏線，外高台に二重圏線，見込に松竹梅文，内面体部に窓絵の染付がみられる。496は磁器杯である。透明釉が施され，外面に蘭文，山文，外高台に二重圏線の染付がみられる。497は磁器

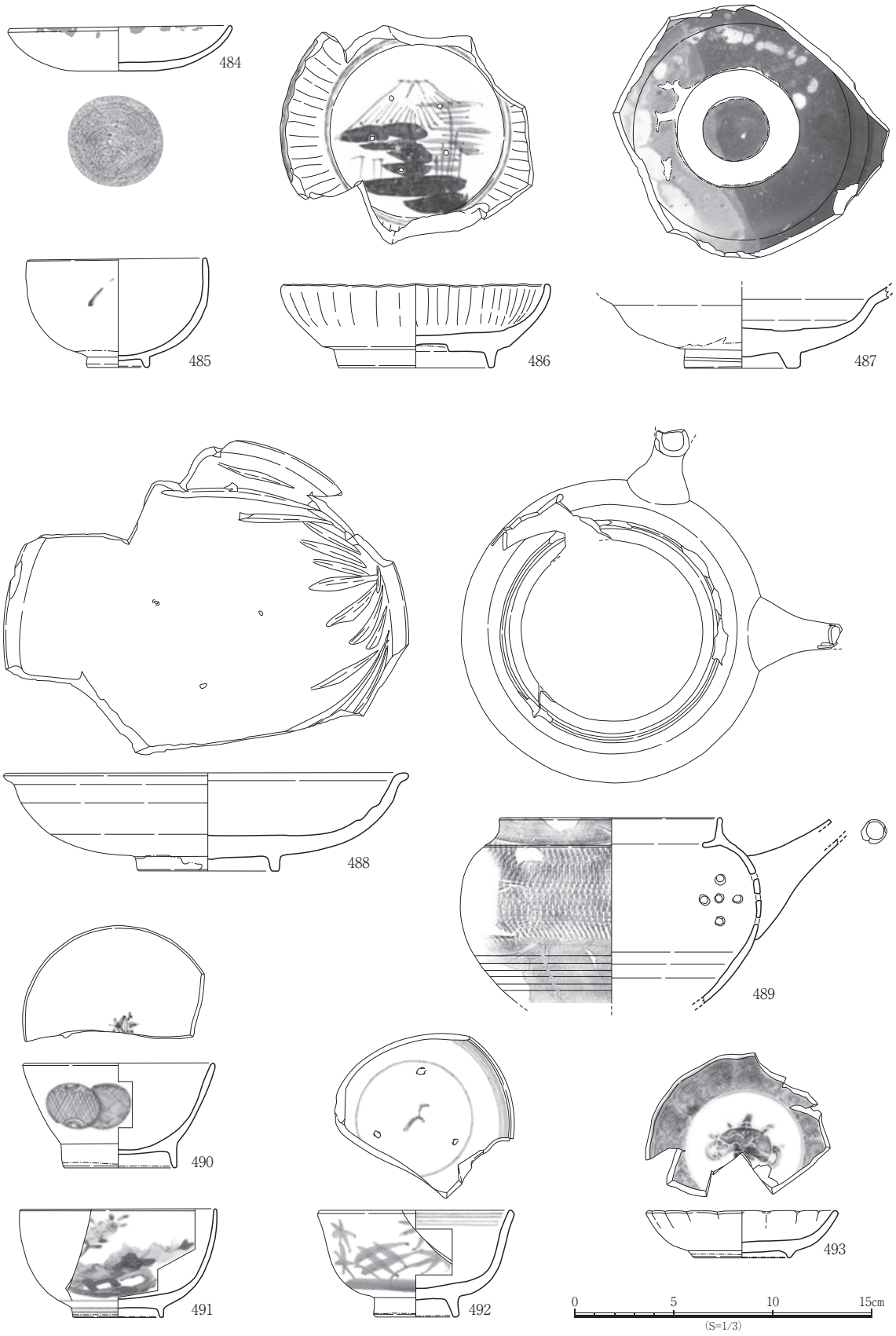


図149　E区SK1，SX4出土遺物実測図

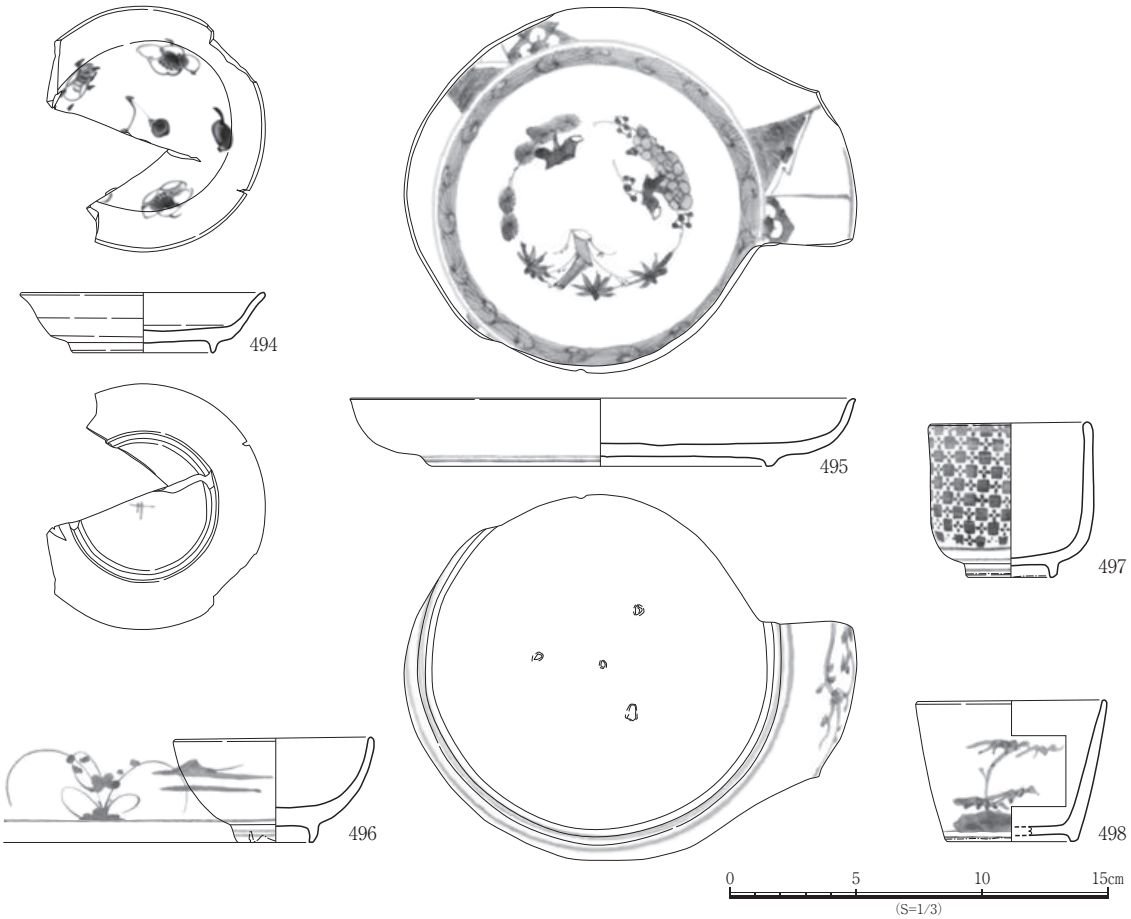


図150　E区SX4出土遺物実測図

杯である。透明釉が施され，コバルト顔料で市松と十字文，圏線，外高台に一重圏線がみられる。498は磁器猪口である。透明釉が施され，外面に竹文の染付がみられる。

③F区(図136)

石垣ホ(図136)

便宜上石垣ホと名付けたが，その性格が異なるためF区，G区と区分した。

以下はF区の内容である。

ホ3段目(図151)

盛土より出土した499を図示した。499は陶器擂鉢である。外面に墨書があるが判読できない。9歯摺目である。

ホ4段目(図151)

裏込めから出土した遺物500～503を図示した。500は磁器皿である。透明釉が施され，見込は蛇ノ目釉剥される。内面口縁に四重圏線，見込に三重圏線と葉文の染付がみられる。501は磁器杯である。透明釉が施され，内面口縁に雷文，外面口縁に一重圏線，草文，外高台に一重圏線の染付がみられる。502は磁器蓋である。透明釉が施され，外面は素描の草花文，唐草文，丸絵，内面口縁に雷文，天井部に二重圏線と渦文，一重圏線，松竹梅文の染付がみられる。503は磁器蓋である。

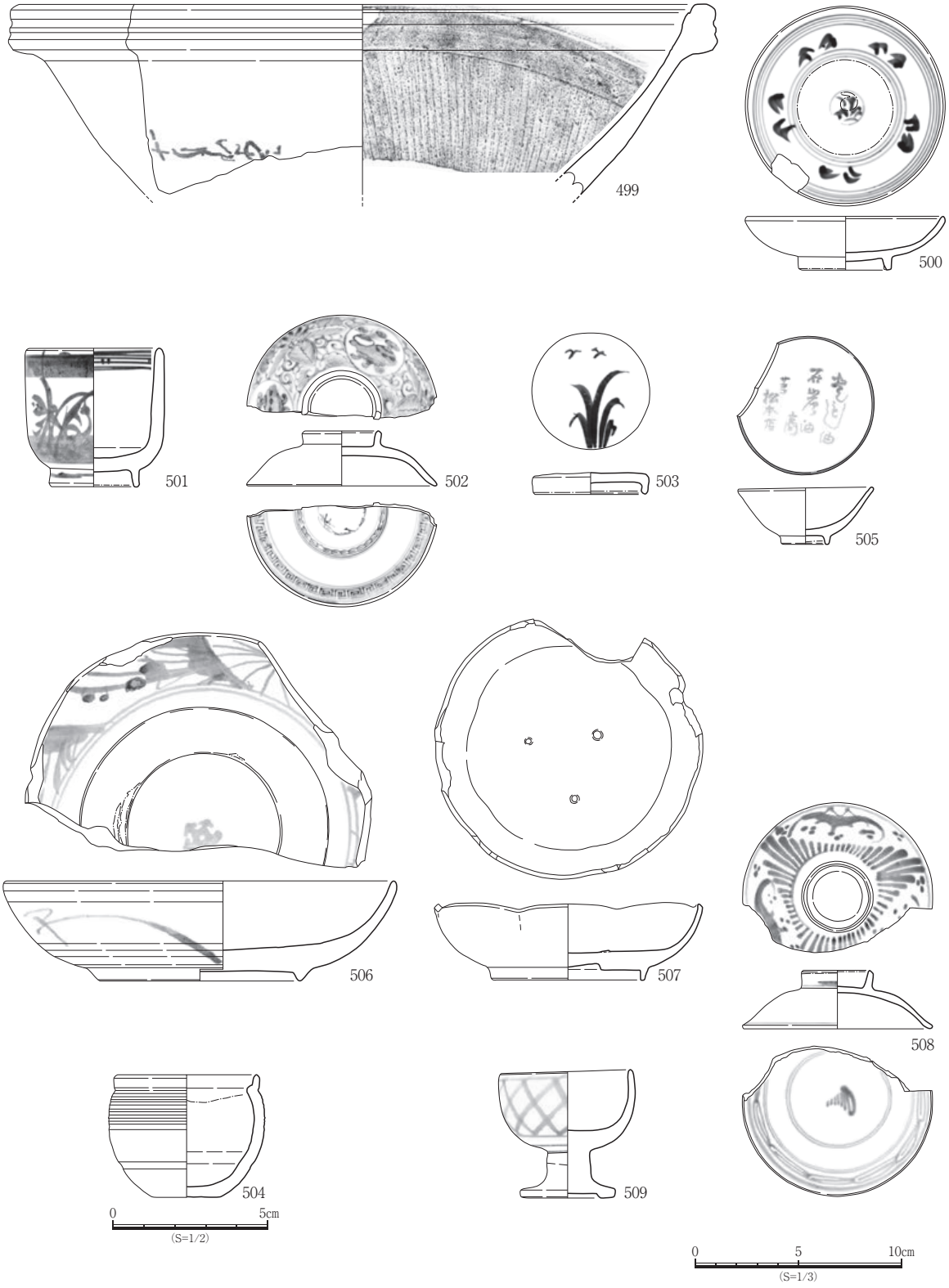


図151　F区ホ3～5段目出土遺物実測図

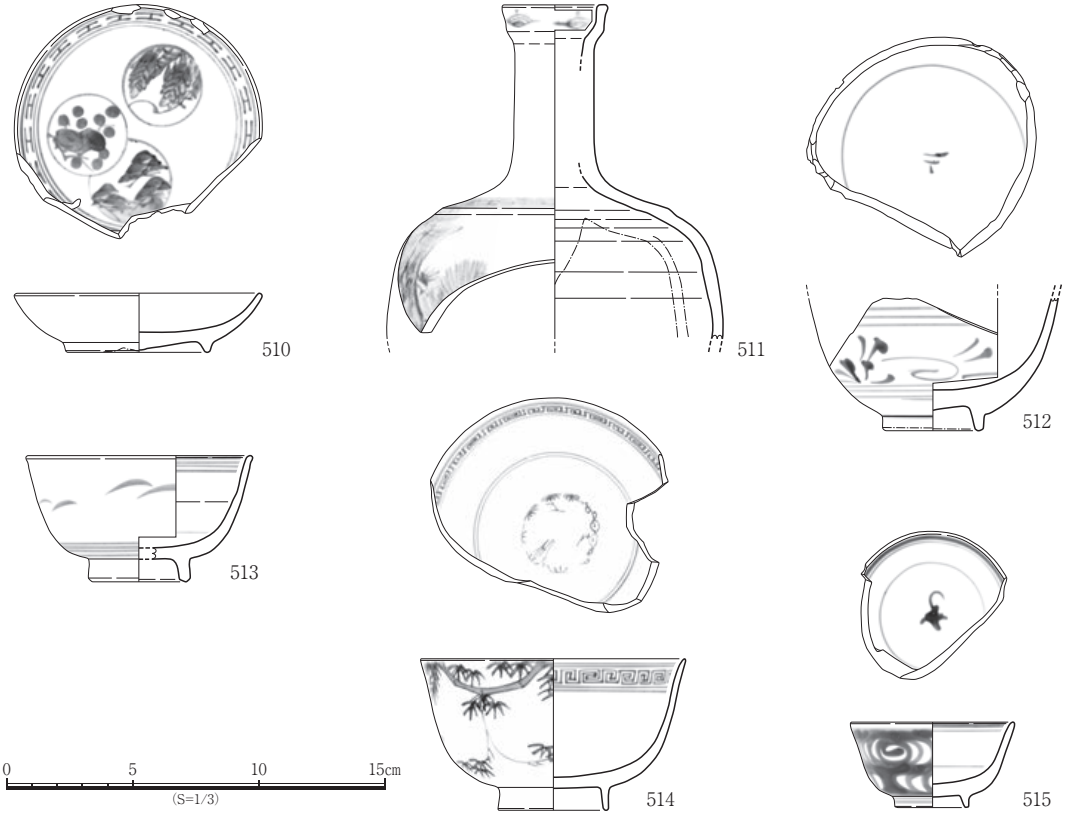


図152　F区ホ7段目・根石・胴木出土遺物実測図

全体に透明釉を施し，外面に雁文と草文の染付がみられる。

盛土から出土した504と505を図示した。504は陶器玩具である。甕を模した飯事道具で，外面から内口縁まで鉄釉を施す。505は磁器杯である。透明釉を施し，口縁部に緑の染付，見込に「光とし油 石炭，油 商 サヨコ松本店」の染付がみられる。

ホ5段目(図151)

盛土より出土した遺物の506～509を図示した。506は磁器皿である。透明釉を施し，畳付は釉剥され，見込は蛇ノ目釉剥される。見込にコンニャク印判の五弁花，内面体部に花文，外面に松葉文の染付がみられる。507は磁器輪花皿である。透明釉が施され，見込に3点ハリ痕が残る。蛇ノ目凹形高台である。508は磁器蓋である。透明釉が施され，摘に二重圏線，外面に宝文，木賊文か。内面口縁に渦文がめぐらされ，天井部に二重圏線と舟文の染付か。509は磁器仏飯器である。全体に透明釉が施され，外面に格子文と二重圏線の染付がみられる。

ホ7段目(図152)

裏込めから出土した遺物の510を図示した。510は磁器皿である。透明釉が施され，内面口縁部に三重圏線，雷文，内面は丸の窓絵に藤文，花文，松文の染付がみられる。511は磁器瓶である。透明釉が施され，外面口縁部に宝文，肩部雷文，胴部に松文の染付がみられる。

ホ根石(図152)

図示した遺物は512と513である。512は磁器碗である。透明釉が全体に施され，外面口縁部と高台周辺に四重圏線と唐草文，外高台に一重圏線，見込に一重圏線と舟文の染付がみられる。513

は磁器小碗である。透明釉が施され，外面に雁文，四重圏線，内面口縁部に四重圏線，見込に一重圏線の染付がみられる。

ホ胴木（図152）

図示した遺物は514と515である。514は磁器碗である。透明釉が施され，外面に笹文，内面に四重圏線，雷文，見込に二重圏線，松竹梅文の染付がみられる。胴木下より出土した。515は磁器杯である。透明釉を施し，外面に渦文，内面口縁に二重圏線，見込に一重圏線，記号文の染付がみられる。

石垣ニ（図136）

石垣ニはF区の石垣ホと同じ性格であり，転用石のほとんどが練り積みである。石垣ホから石垣ロに接続するためのシノギ角を持つ。また，比較的新しい石垣であるが，胴木だけは過去に使用されたものをそのまま転用している可能性が高い。

ニ胴木（図153）

出土遺物は516と517を図示した。516は磁器小碗である。透明釉を施し，内面口縁部に二重圏線，見込に一重圏線，「寿」文，外面に格子文，外高台に一重圏線の染付がみられる。517は磁器皿である。透明釉が施され，見込に海浜風景文の染付がみられる。3点ハリ痕が残存し，蛇ノ目凹形高台を呈する。

④G区（図136）

G区は石垣ホに伴う区画である。石垣ホは時期差の大きい石垣が連なっており，それらを分割してF区とG区にしている。G区は天端より3段程度は昭和45（1970）年の台風10号によって崩落しており，その後練積みにて修復されていることから客土などはその時に撹乱されていると考えられる。しかし，撹乱の中に掲載すべき遺物を検出したため以下に記す。

客土（図153）

客土より出土した518を図示した。518は磁器杯である。透明釉を施し，高台内に「岐463」の染付があり，金で「九谷」の上絵付がされ，外高台に一重圏線の染付がみられる。統制陶器である。巣窟庵は陸軍第11師団・山砲兵第11連隊本部宿舎に使用されていたことがあるため，その影響と考えられる。

ホ5段目（図153）

盛土より出土した519を図示した。519は磁器皿である。透明釉が施され，内面口縁部に一重圏線，体部に桐文，唐草文，見込に二重圏線と一重圏線，草花文の染付がみられる。見込に3点ハリ痕が残り，口縁部は肥厚し，蛇ノ目凹形高台である。

ホ根石（図153）

裏込めより出土した520と521を図示した。520は磁器杯である。透明釉が施され，外面に笹文の染付か。521は瓦質土器箱形焜炉か。胎土にキラ粉が混じり，外面は丸に「上」の刻印がみられる。

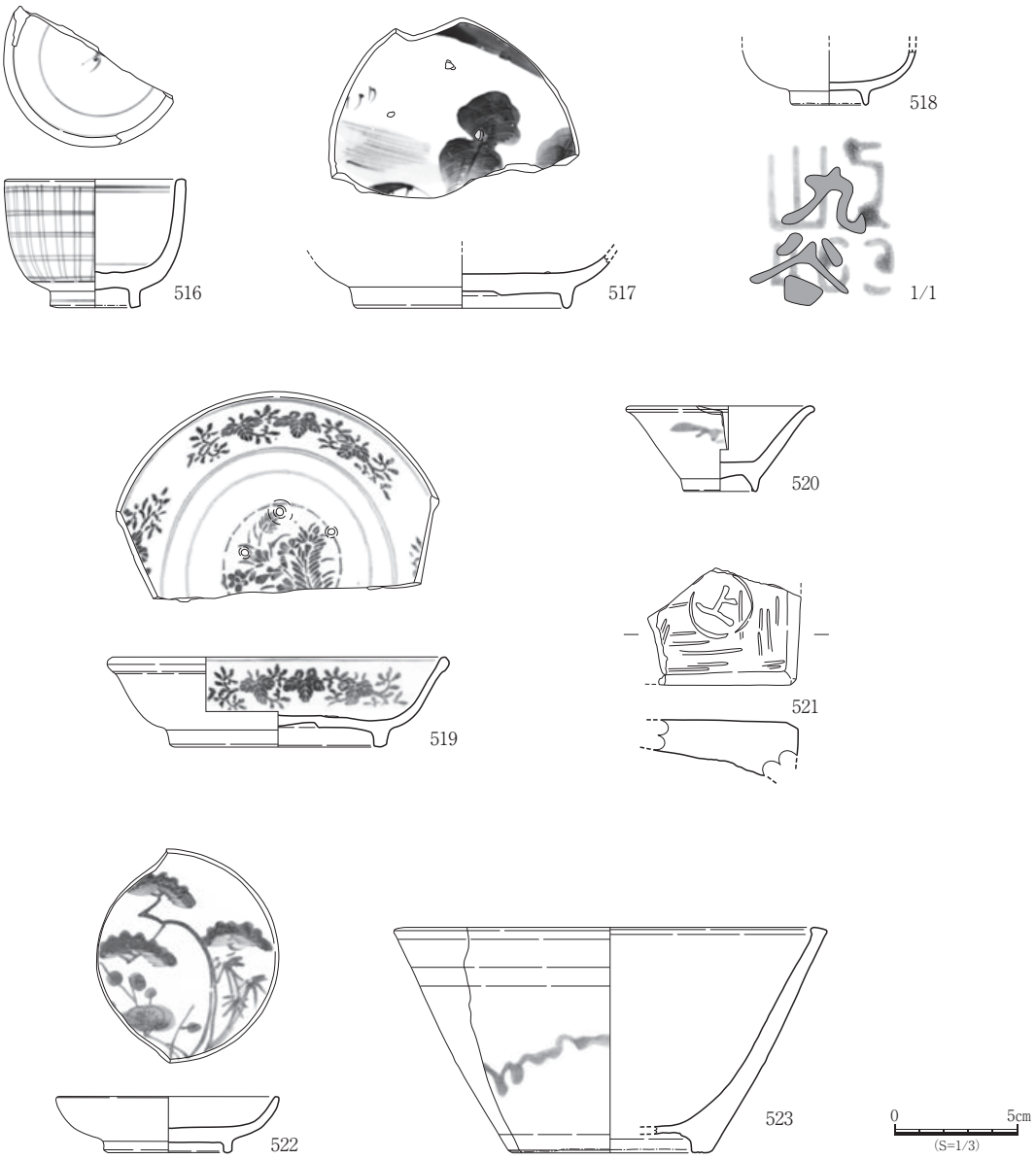


図153　F区ニ胴木，G区出土遺物実測図

ホ胴木(図153)

図示した遺物は522と523である。522は磁器皿である。透明釉が施され，見込に松竹梅文の染付，残存状態は悪いが金の上絵付が一部残る。523は磁器鉢である。全体に灰釉が施され，畳付は釉剥される。口縁上端は面取され，僅かに内側に返る。

⑸石垣積上げ記録

石垣について，各時代の石垣解体調査終了後，平板載荷試験により基礎地盤の強度確認を行い，それらの結果をふまえて石垣の保全に適した処置をし，石垣の移築を行った。なお，保全の方法については下記に記した。

①方針

解体前の石垣の復元および公園としての安全性の確保を念頭に立会を行い，工事アドバイザーへ報告を行いながら積み上げを行った。

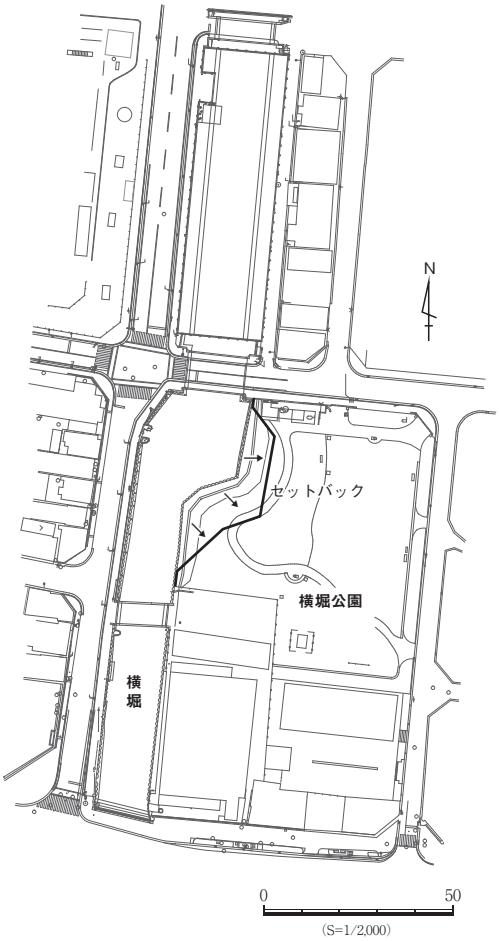


図154　石垣移築位置

②積上げの工程

ⅰ 石材の管理

石材の取り上げが終了し，調査が終了した区画より再度丁張を設定し，石垣背面の処理を行った。なお，解体した築石は，石垣面と築石番号が墨付けられ，積上げまでの間保管される。改修工事で解体された築石は約2000石であったため，現地で保管できた石以外は新堀川護岸上の旧駐車場に運ばれ一時保管された。裏込め石と盛土についても土と裏込め石に分け保管した。

ⅱ 移築の基礎と養生

移築について，安全施工に留意して盛土の流出防止の対策を行った。石垣背面と裏込め石の間に吸い出し防止シートを設置し，土の流出を防ぐ対策を行い，石垣の安全性確保に留意した。基礎から石垣を再構築するため，胴木は使用しなかった。基礎の地盤については平板載荷試験を行い，許容鉛直支持力度を満たしていなかったため，基礎にグランドセルマットレスを使用した。移築した石垣の背面には吸い出し防止シートを盛土面へ設置した後，養生を行った。

ⅲ 積上げの勾配

勾配については未解体部分との整合性を図りつつ，解体前の3分から4分勾配で積み上げた。移築は現状に復することを基本にしており，解体前を一石ごとに写真に残し，50cmメッシュと築石同士の当たり部分に墨付けをした。積上げ時にはこれらと図面をもとに正確な座標に杭を打ち，レベル測量し，丁張を開始するレベルから復元する角度に合わせて丁張の設定を行った。

ⅳ 築石の配石

クレーンを使い解体した築石を積上げ位置に運び，墨付けをした石の当たり部分を確認しながら築石の座る位置を手作業で調整した。その際，丁張に張った水糸を基準に位置や勾配を確認し配置を決定した。

v 裏込め石の敷設

移築した石垣範囲の築石裏には全面裏込め石を詰めた。裏込め石には解体前に詰められていた石の再利用と新補石材の加工によって生じた石，高知石灰石鉱業株式会社の有する稲生鉱山の石材を使用した。再利用した裏込め石についてはスケルトンバケットで混ざり込んだ盛土を取り除き，使用した。

vi 介石の調整

築石の配置が決まった後，築石を支える介石を丁寧にあてがい，石の座りや勾配の微調整を行った。介石は適切な形状の石を裏込め材から選び準備するが，個々の築石に合わせてその場で選定する場合もあった。

vii 新補石について

築石が風化しているものや割れているものについては新補石材を使用した。割れた築石を新補石材にする場合は主に石灰岩を使用した。面の形状や控えなどについて同等に加工を行い，石の据え方は良いか，改修前の石垣と比較して違和感がないかを確認した。強度について，旧石材と同質また同等以上の強度を有する石材だけを採用した。高知市に隣接する須崎鉱山株式会社勝森鉱山の採石場において新補石材に使用する石材の選定を行った。旧石材は解体時にワイヤーで型取りを行い，その作っておいた型を採石場に持ち込み選定を行った。購入した石材は，加工のため加工場（高知市六泉寺）に持ち込み，加工終了後は積上げまでの間保管された。荒割をした石材は，形を整えるため細かい加工が丁寧に施された。

viii 胴木について

ⅱでも記述したように基礎にグランドセルマットレスを設置するため，胴木を一部取り上げた（図155）。なお，取り上げなかった部分に関しては現地保存とし，検出のみ行い埋め戻した。

取り上げた胴木について，一部胴木に墨書がある部分もあった。この墨書に関しては後述する。胴木は4m以上の長さがあり，全体の保存処理をすることができなかったため，胴木の墨書部分のみ保存処理を施した。その際に一部胴木を切り取り，樹種同定などの分析を行った。

その他の胴木については本来の石垣天端があった場所に設置し，干潮の前後に露出するようにして湿潤状態を保てるようにした。この胴木には石垣の背面などで検出した築石とみられるものを置き，築石と胴木の関係を模式的に現した。

なお，この再設置は本来の石垣の高さや胴木の場所を表すものではなく，おおまかな天端の位置を現し，使用されていた胴木の活用を図ったものである。

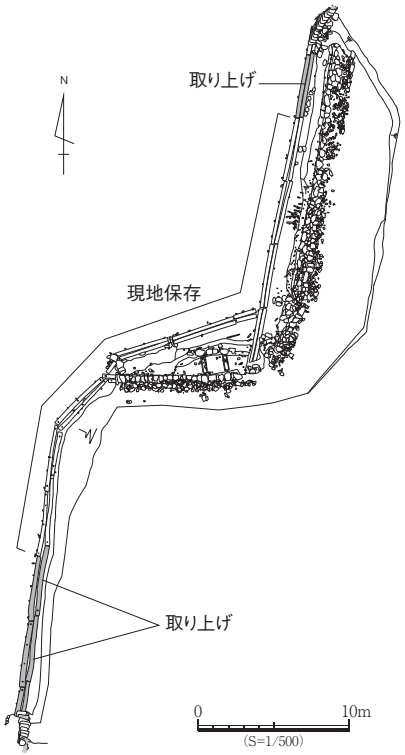


図155　取り上げ胴木範囲

(6) 補足調査(図156)

新堀川の西岸かつ，新堀橋西橋台の南側を平成30年度にTR5としてトレンチ調査を行った。当初は根入れを掘削することで石垣の深度をはじめ下部構造を確認する目的であったが，胴木以外の材木を検出したことから，材木が新堀の構造に関係するものか，材木町の名残として取り残されたものなのか不明であったため，トレンチを拡張してK区として再度掘削を行い，前後関係の把握に努めた。

また，L区では新堀の南端を確認するため根入れまでの掘削を行った。

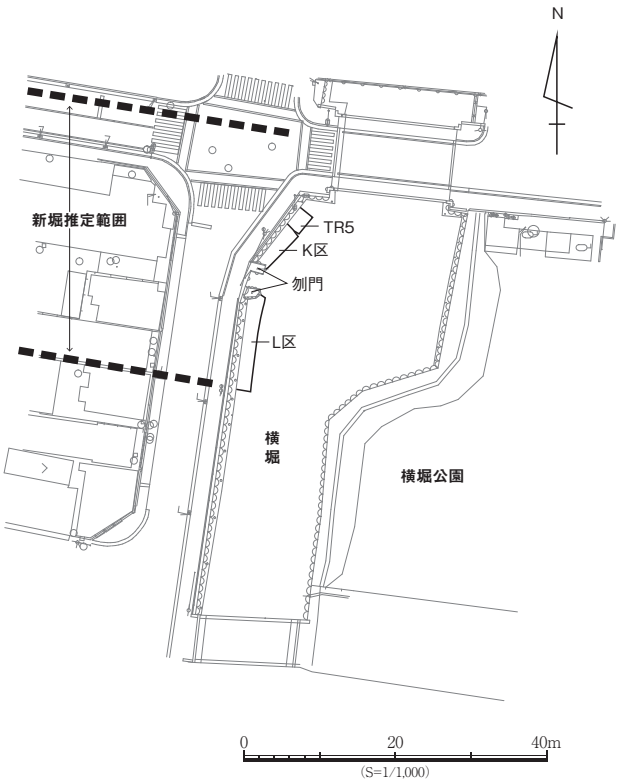


図156　新堀川補足調査区

①K区(図157)

平成30年度にTR5を設定した部分の南である。TR5は先述した通り性格不明の材木が出土しており，それが新堀の埋め立てや新堀橋の築造などの画期と符合するものか不明であったため，2×6mのトレンチを設定し，約1mほどの深さで掘削を行った。

該当範囲の石垣は平成30年度の時点でセンダンの木が張り出しており，崩落寸前であった。全体的に石垣の増改築が頻繁に行われていた形跡があることや，干満の影響を受けること，道路に面しており衝撃を受けやすい環境であることから，天端から1mは孕み，割れ，抜けが頻発しており，万が一崩落した場合は調査はおろか道路にも影響があると考えられ，平成30年度の調査では掘削範囲から除外した。しかし，新堀の全体像を明らかにするためには掘削の必要があることから，孕み部分の定点観測を続け注意を払いながら調査をした。この面の石垣は石灰岩，花崗岩，砂岩が使用されている。石灰岩が使用されている部分は概ね古いが，転用されているものもあり，採石した時代と現状が積まれた段階で時期差がある。花崗岩もまとまって使用されているが，一部石材が使用されておらず，土が充填されている部分があった。時期は不明であるが，段階的に新堀が埋め立てられる中で暗渠として使用されたか，次の撹乱が行われた時に杜撰な施工がされた可能性がある。砂岩は橋台の改修に伴って使用された可能性が高く，戦後であると考えられる。刎門に伴うように撹乱された痕跡や，面的な改修が散見され，道路の改修や上下水道，電気やガスの敷設工事による撹乱が幾度も繰り返されたと考えて良いだろう。また，平面においてTR5で出土した材木の続きも検出した。石垣の下に胴木のような用途で入り込むものではなく足場のように配置されていた。材木の周辺には石灰岩の砕石なども検出され，石を築く作業の中で落ちたものだと考えられる。石垣を解体しない調査であったので，現在の石垣が構築される前にどのような構造物があったのか不明であるが，石垣に入り込む材木は東側の石垣ハ・石垣ニの例などから古い段階の胴木であった可能性が浮上する。そのほかの材木は不揃いであることや，石垣に直接関係がないことから一時的なものであったと考える。

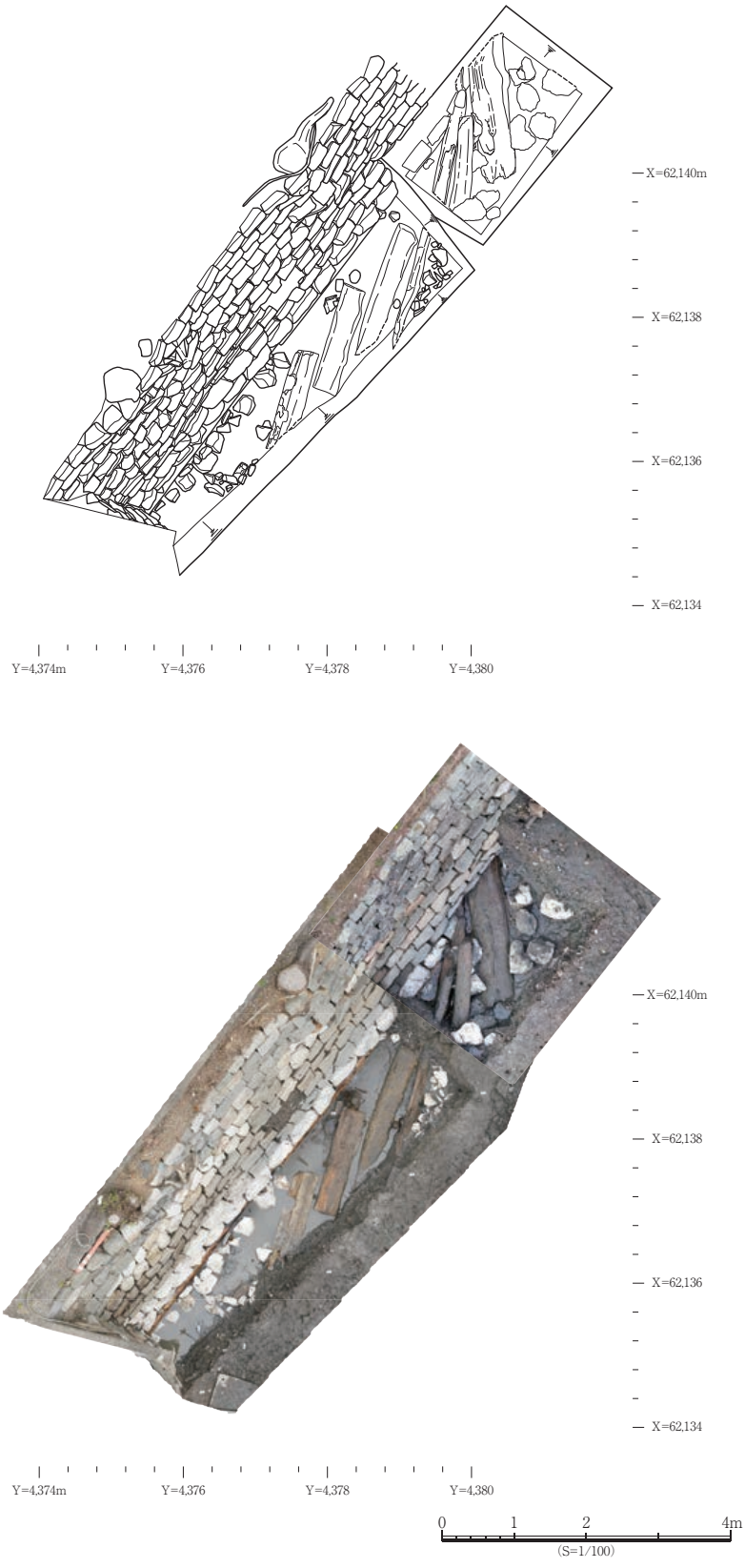

X=62,140m
X=62,138
X=62,136
X=62,134
Y=4,374m
Y=4,376
Y=4,378
Y=4,380
0
1
2
4m
(S=1/100)

図157　K区平面図

②Ｌ区(図158)

Ｌ区はＫ区から刎門を挟んで南になり，2×13mのトレンチを設定し，1.2～1.5mほどの深さで掘削を行った。Ｋ区の掘削の目的は先述した通り，材木の性格を確認するものであったが，Ｌ区は旧新堀の南端を検出するという目的である。使用されている石材は石灰岩，石英長石質砂岩，花崗岩，砂岩，チャートである。古いものは石灰岩であり，下から6段目まではほとんどが石灰岩である。僅かにチャートが混じっているが，大きさや加工方法などは石灰岩と遜色がない。また，石英長石質砂岩が多く使用されていることも特徴である。石英長石質砂岩は高知県で採石可能な石材であるが，あまり石垣などのまとまった構築物でみられることは少ない。また，この石材はノミや矢穴などは確認できず，カッターなどで表面が加工されていることも特徴である。上から6段程度はこの石材が多く確認できる。また，刎門に伴うように砂岩が使用されている。刎門自身に使われている石材は，埋没していた部分は石灰岩が多く，露出している部分は砂岩や石灰岩がランダムに使用されていた。おそらく，石垣部分は空積みの布積みであるため，その都合上ある程度の均整が必要であるが，刎門部分は完全な練積みであることから使用できる石材を柔軟に使用したと考えるのが妥当であろう。

また，掘削した範囲に伴う石垣は13段の石垣であったが，下2段とそれ以降の石垣は勾配が変化しており，2段目の築石の頭が露出して段を作り，3段目の石垣から勾配が寝ていた。その意図は不明であり，加工方法や石質などから時期差はあまり感じられない。令和3年度までの調査で検出した新堀川護岸に使用されている石垣の胴木は全て松材を2本並べて使用しており，角材か丸材の2パターンであった。角材の方が新しく，所謂亀甲積みの部分は角材を使用し，それを挟むように小ぶりな杭で固定していた。丸材は端部を半裁し，さらに四角く穴を開けそこに丸杭を打ち込み固定していた。しかし，Ｌ区においては梯子胴木と呼ばれる梯子状に胴木を組んだものが3セット確認できた。そして，その梯子胴木も1つのパターンではなく，2つのパターンに分類できることが判明した。3セットのうち北の2セットは梯子を組み合わせる部分をコの字状に削り，窪めた箇所に梯子でいう踏みざんの木材を嵌め込む。しかし，南の1セットはＶ字状に削られている。

胴木自体の加工は皮が剥がれているが，それ以上の加工はなく丸太として使用されている。胴木同士の接合部分は，それぞれの端部が半裁され食い違いになっている。そして，食い違いの部分だけをみるとＶ字状の胴木の上にコの字状の胴木が乗っており，設置の前後関係だけに着目するとＶ字状の胴木の方が古い。しかし，石垣の施工など丁寧な手法ほど古くなる傾向がある新堀川護岸一帯においてはこの加工は不自然である。この胴木は伐採された時代，加工された時代，使用された時代に差があり，転用された可能性についても視野に入れる必要がある。よって画期の実年代に迫ることは現在の状況では困難である。

今回の調査は根入れの掘削であり，表面的なデータを取るに留まった。また，遺物なども流れ込みの可能性が非常に高い立地であるため，遺物によって時期を判別することはできない。しかし，Ｌ区は写真が残っている箇所であり，刎門近くの杭群は戦後まで使用されていた足場であることがわかった。実際に調査することによって当時の痕跡が検出され，整合性を保つことができた。横堀の西岸について主眼を置いた調査であったが，令和3年度までは対岸の横堀公園の調査を行っていたためその性格の違いが浮き彫りになった。横堀公園側の石垣は亀甲積みで石灰岩でほぼ統一された造りであるが，西岸は石灰岩以外に花崗岩をはじめ県外産の石材が大量に使用された布積みであ

る。花崗岩について，高知県は採石可能な地域であるが，それは県西部のみに限った話であり，中心部での利用はみられない。しかし，昭和41(1966)年の路面電車敷設に伴い高知県でも花崗岩による構造物がみられるようになることから，それ以降と考えてよい。転用された石材なども多くみられ，六角形の面を持つものの互いに噛み合っていない築石が散見される。また，川の中を掘削することで築石サイズの石材を検出した。これは過去に使用されていた石垣が何らかの要因で落ちたものだと考えられる。胴木周辺には10cm前後の割れた石灰岩の破片も多く散乱していた。恐らく古い段階の石垣を積む際に加工されたものであろう。古い段階では石を加工する技術のある者が施工に関わっていたが，新しい段階ではそういった工法が用いられなくなることがわかる。

K区は平成30年度の調査を補足する内容でありつつ，旧新堀の痕跡に迫る調査であった。石材が検出できなかった部分については，堀が埋め立てられる中で縮小される水道の機能を担っていたと思われる。L区は旧新堀の南端に迫ることはできなかったが，梯子胴木などをはじめ想定していなかった構造がみられた。写真などと比較し，現在に至るまでの過程や，街中を縦断する堀としての性格をみることができた。当時の様相に迫ることは新堀川護岸の事業において重要なことであり，その積み重ねで全体像の把握につながる。

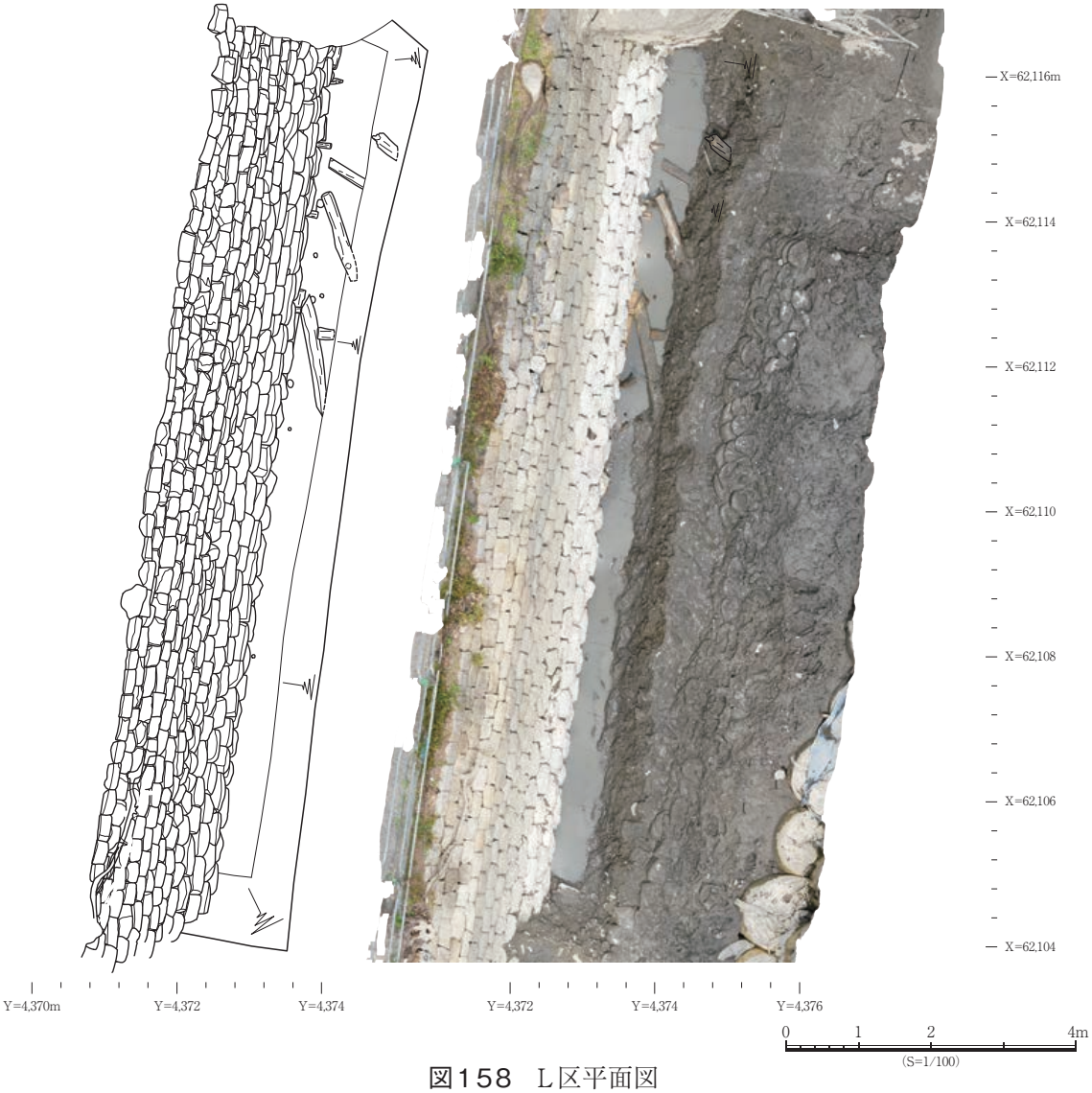


図158　L区平面図

(7) 新堀橋旧橋台について

工事の最中，現新堀橋橋台（橋名板は昭和33(1958)年）の背面より新堀橋旧橋台が検出された。両岸で旧橋台は確認できたが，右岸のみ図化した(図161)。残存幅は5.9m，残存長は5m程度であった。天端はセメント打ちであったが，南北の面は石が使用されていた。石質や背面構造は不明である。石材の面は四角形ないし五角形に加工されており，亀甲積みと間知積みの間のような積み方であったと考えられる。現行の新堀橋橋台は旧橋台を覆い隠すような構造になっていた。

新堀橋そのものが架橋されたのは絵図より昭和元(1926)年ごろと考えられる。大正14(1925)年に発行された「高知市街圖」では表記されていないが，昭和2(1927)年「高知市圖」ではその存在が確認できる。

橋台の南北には僅かに石が積まれていたが，それらはレンガやコンクリートなどが使用されており，残存状態も悪く，石垣，もしくは埋設された新堀などとの関係性は正確にはわからなかった。



図159　旧橋台(南西より)



図160　旧橋台(南より)

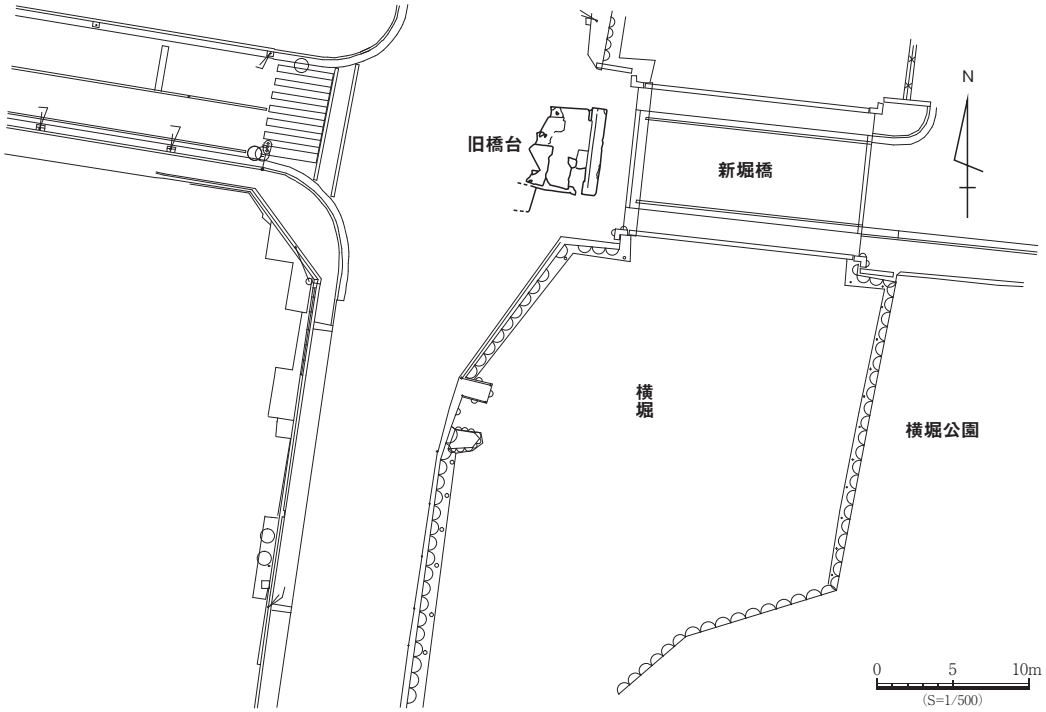


図161　旧橋台位置図

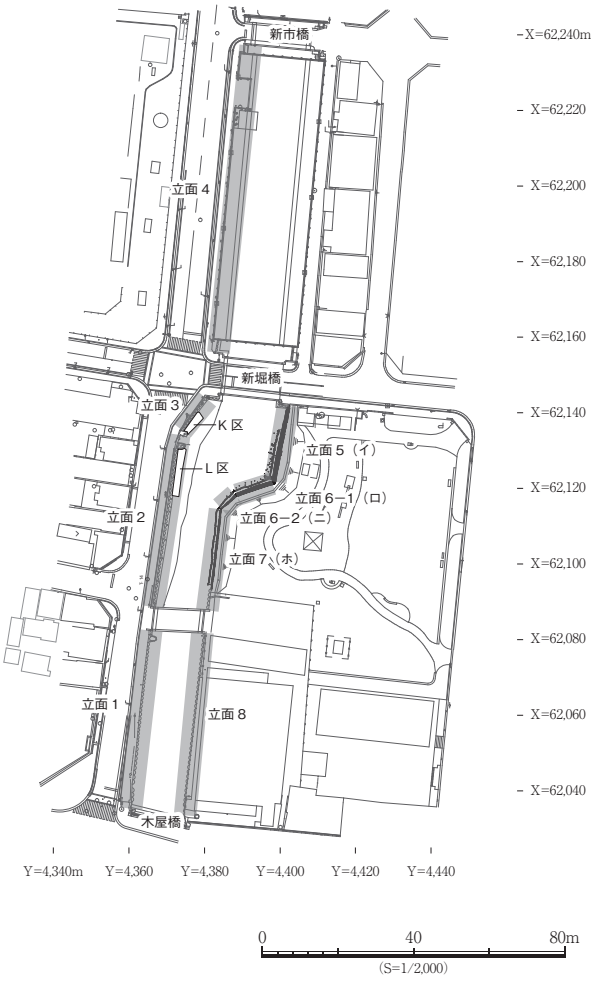
石垣観察表

石垣観察表凡例

1. オルソ画像だけではその変遷や歴史的背景を共有することが困難であるため，ここでは石垣の所見なども含めてまとめたものを石垣観察表と称した。
2. （　）は残存値である。
3. 明確な変化点は赤線にて示した。
4. 石質は以下のとおりである。

礫岩　チャート　石英長石質砂岩
砂岩　石灰岩　花崗岩
コンクリート

5. 各立面の配置は以下の通りである。



<table>
<tr><td rowspan="4">立面1</td><td rowspan="3">垂直高
(m)</td><td>南</td><td>(2.48)</td><td>該当箇所</td><td>木屋橋～四国銀行</td></tr>
<tr><td>中央</td><td>(1.56)</td><td>技法</td><td>谷積み, 布積み, 練積み</td></tr>
<tr><td>北</td><td>(1.39)</td><td>天端長(m)</td><td>(45.91)</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>基底部長(m)</td><td>(48.84)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">石垣調査</td><td colspan="2">石材の加工</td><td colspan="3">切石, 玄翁はつり</td></tr>
<tr><td colspan="2">石質</td><td colspan="3">石灰岩, 花崗岩, 砂岩, チャートなど</td></tr>
<tr><td colspan="2">石材の形状</td><td colspan="3">長方形(砂岩, 花崗岩), 長方形及び五角形や六角形など(石灰岩)</td></tr>
<tr><td colspan="2">矢穴の有無</td><td>なし</td><td>転用石の有無</td><td>あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノミの有無</td><td>あり</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>毀損状況</td><td colspan="2">石垣の現況</td><td>やや毀損</td><td>毀損状況</td><td>抜け, 割れ, 孕み</td></tr>
<tr><td>歴史調査</td><td colspan="2">構築時期</td><td>不明</td><td>発掘調査</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・南の砂岩間知石による谷積みは昭和 34（1959）年の木屋橋架橋に伴うものである。
・植栽による孕みが顕著である。
・天端より 6 段目程度まで県外産の石材が使用される。
・北部は四国銀行駐車場への架橋に伴い広範囲が練積みとなっている。全て転用石である。また，用水の水門もこの前後に再築されたと考えられる。</td></tr>
</table>

立面2	垂直高(m)	南	(1.64)	該当箇所	四国銀行橋～水門
		中央	(2.14)	技法	布積み, 練積み
		L区	(3.1)	天端長(m)	(42.17)
				基底部長(m)	(47.23)
石垣調査	石材の加工		切石, 玄翁はつり		
	石質		石灰岩, 花崗岩, 砂岩, チャート, 石英岩(要検討)など		
	石材の形状		長方形(砂岩, 花崗岩), 長方形及び五角形や六角形など(石灰岩)		
	矢穴の有無		なし	転用石の有無	あり
	ノミの有無		あり		
毀損状況	石垣の現況		やや毀損	毀損状況	抜け, 割れ, 孕み, 隙間あり
歴史調査	構築時期		不明	発掘調査	L区掘削
特記事項	・天端から最深の７段目まで花崗岩や石英長石質砂岩によって築かれている。花崗岩は県外産である。 ・上から４段目までにかけての孕みや崩れが目立つ。 ・植栽による孕みが顕著である。 ・南部は四国銀行駐車場への架橋に伴い，広範囲が練積みとなっている。全て転用石である。 ・用水の水門は転用石を練積みにしたと考えられる。				

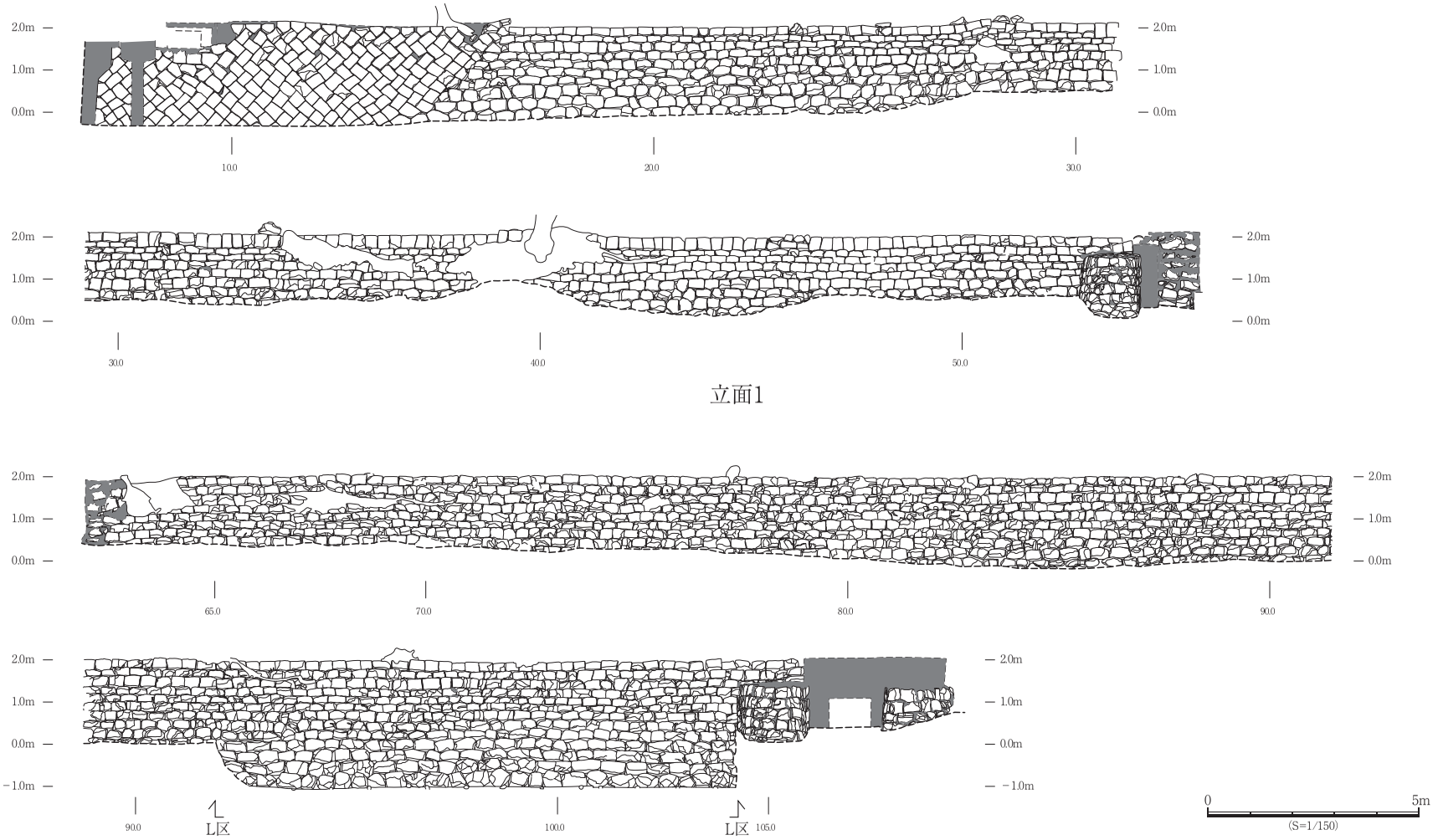


図162　立面1・2立面図

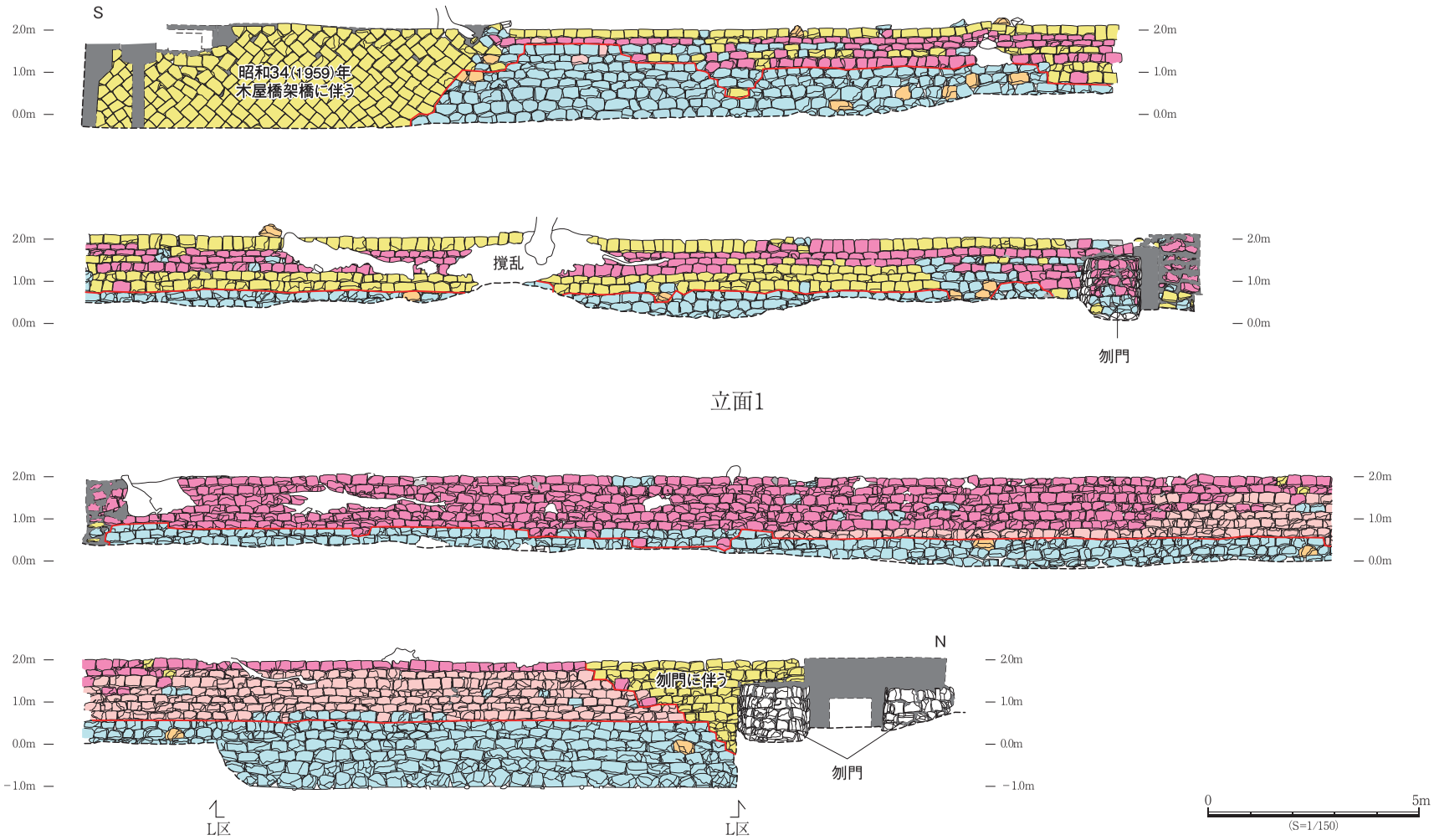


図163　立面1・2石質図

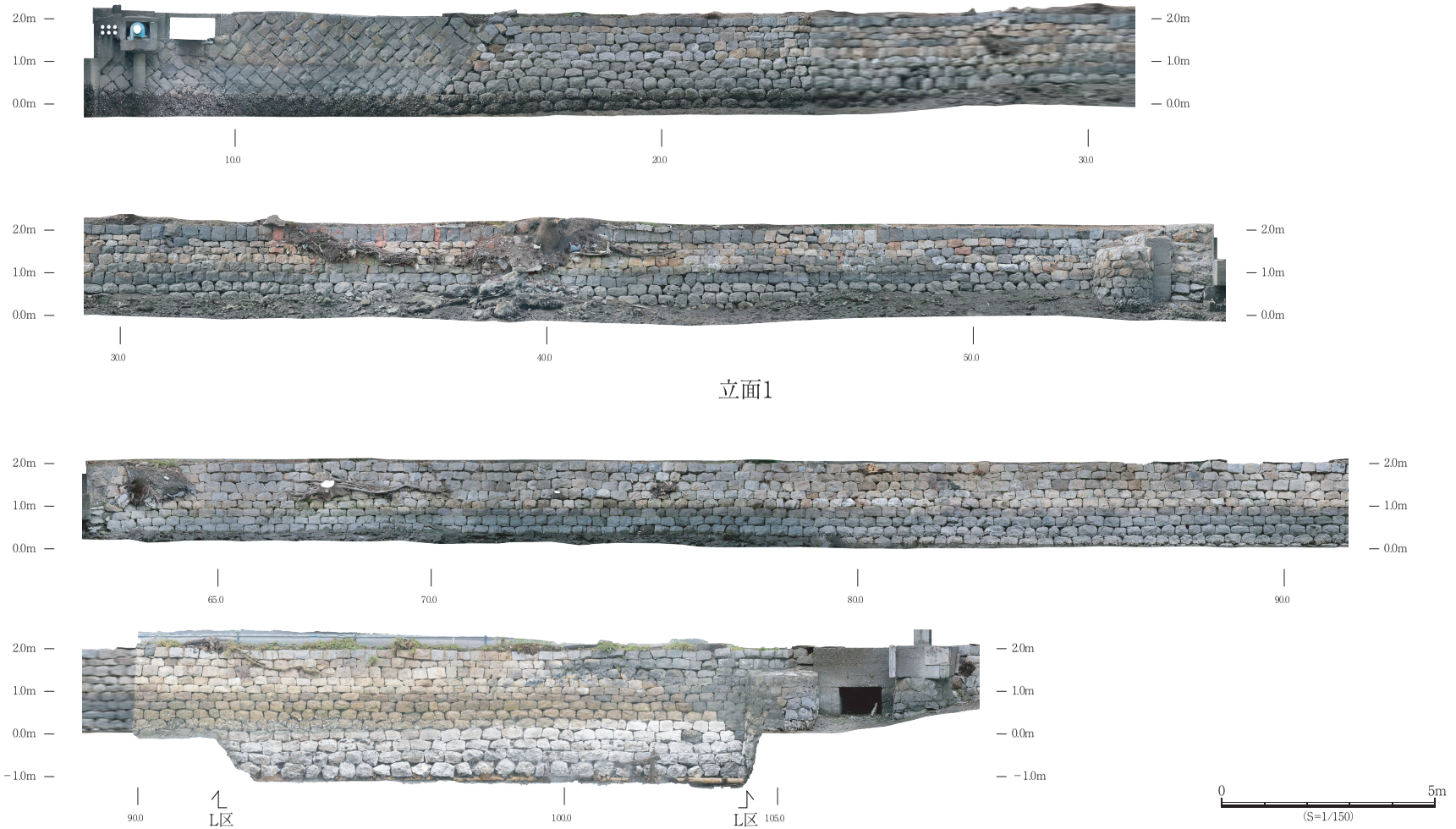


図164　立面1・2オルソ画像図

立面3	垂直高(m)		(1.29)	該当箇所	新堀川相当部
		TR5	2.55	技法	布積み
		K区	2.7	天端長(m)	(10.87)
				基底部長(m)	(10.41)
石垣調査	石材の加工		切石, 玄翁はつり		
	石質		石灰岩, 花崗岩, 砂岩, チャートなど		
	石材の形状		長方形(砂岩, 花崗岩), 長方形及び五角形や六角形など(石灰岩)		
	矢穴の有無		なし	転用石の有無	あり
	ノミの有無		あり		
毀損状況	石垣の現況		やや毀損	毀損状況	抜け, 割れ, 孕み, 隙間あり
歴史調査	構築時期		大正2(1913)年以降	発掘調査	TR5, K区
特記事項	・明治より段階的に新堀川が埋まっていく。大正 2 (1913) 年の『高知市全圖』(個人蔵) では完全に埋まっている。この石垣部分はそれ以降である。 ・新堀川が埋没し，生活排水の機能を持つ水路が残った。形骸化した水門（現在は未使用）が立面 2 と 3 の間に存在する。 ・大正 14（1925）～昭和 4（1929）年に新堀橋架橋。昭和 33（1958）年，現在の新堀橋になる。そのため，江戸期に新堀橋は存在しなかった。 ・可視部分は砂岩が大半を占めるが，花崗岩も見られた。下方には石灰岩の転用石がある。 ・石垣の南西では根石と思われる石灰岩を確認した。下部胴木あり。 ・根石の上で直径 40cm ほどの木材が検出した。この木材は石垣前面から斜め方向に置かれており，木材の上には花崗岩を主体とする石垣が築かれている。 ・立面 3 からは, 大正 2 (1913) 年前後の新堀川の埋め立て, 昭和 4 (1929) 年前後の架橋, 昭和 33（1958）年の架橋と 3 回の時期があることがわかった。おそらく石灰岩は大正 2（1913）年前後の時期である。戦後，昭和 33（1958）年の架橋に伴う石材は砂岩であり，石材の変遷が追える。				

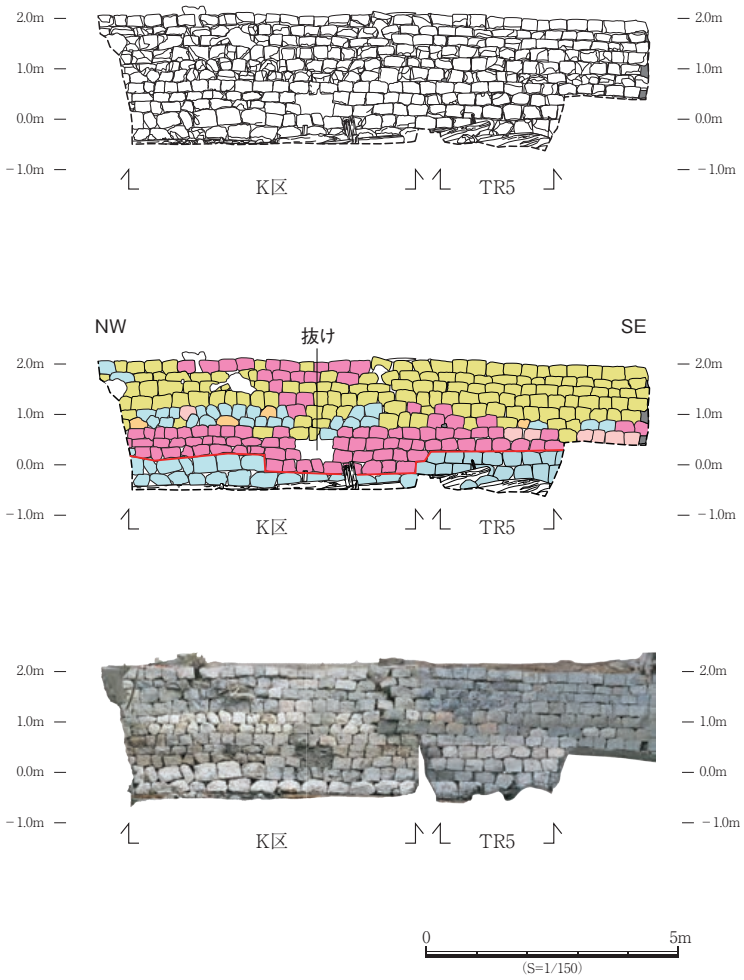


図165　立面3立面図・石質図・オルソ画像図

<table>
<tr><td rowspan="4">立面4</td><td rowspan="3">垂直高(m)</td><td>南</td><td>(1.90)</td><td>該当箇所</td><td>道路側駐車場下</td></tr>
<tr><td>中央</td><td>(1.86)</td><td>技法</td><td>布積み, 谷積み, 乱積み, 練積み</td></tr>
<tr><td>北</td><td>(1.71)</td><td>天端長(m)</td><td>(90.5)</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>基底部長(m)</td><td>(89.5)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">石垣調査</td><td colspan="2">石材の加工</td><td colspan="3">切石, 玄翁はつり</td></tr>
<tr><td colspan="2">石質</td><td colspan="3">石灰岩, 花崗岩, 砂岩, チャートなど</td></tr>
<tr><td colspan="2">石材の形状</td><td colspan="3">長方形(砂岩, 花崗岩), 長方形及び五角形や六角形など(石灰岩)</td></tr>
<tr><td colspan="2">矢穴の有無</td><td>あり</td><td>転用石の有無</td><td>あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノミの有無</td><td>なし</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>毀損状況</td><td colspan="2">石垣の現況</td><td>毀損著しい</td><td>毀損状況</td><td>抜け, 割れ, 孕み, 隙間あり
土嚢を押し込んでいる</td></tr>
<tr><td>歴史調査</td><td colspan="2">構築時期</td><td>昭和47(1972)年頃</td><td>発掘調査</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・目視できる部分の最下段は牡蠣殻や泥によって石質を判別することは困難だった。おおよそ石灰岩が使用されていると思われる。
・立面 4 の南端部は大正 15（1926）年頃に新堀橋が架かった。昭和 33（1958）年現在の新堀橋が架けられ，これは砂岩を中心に築かれている。北端部は新市橋が架かる。新市橋は江戸期より存在するが，現代にかけて何度も竣工している。現存する新市橋は昭和 58（1983）年のものである。
・天端は駐車場によって撹乱される。この時の工事の結果，南の橋側は石材を転用し，立面 3 ではみられない谷積みを形成している。
・大きく分けて 3 つの区画がある。石灰岩が主体の下部，砂岩が主体の谷積み，上方の練積みがある。練積み部分は花崗岩や砂岩，コンクリートのブロックが使用される。
・立面 4 は間詰のようにコンクリートが吹き付けられているが，潮の干満に非常に弱く，石が抜け崩れている。</td></tr>
</table>

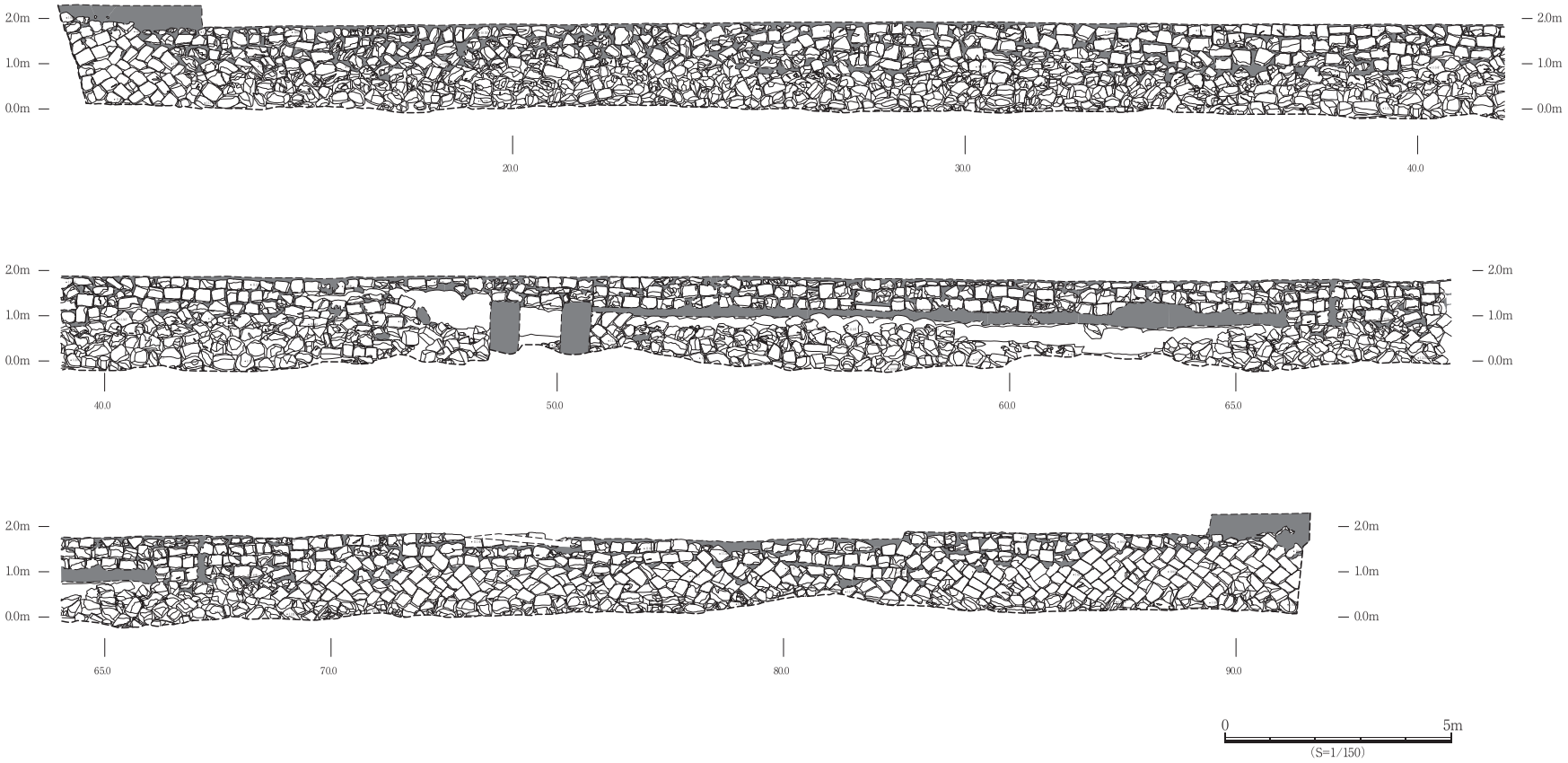

2.0m
1.0m
0.0m
20.0
30.0
40.0
40.0
50.0
60.0
65.0
65.0
70.0
80.0
90.0
0
5m
(S=1/150)

図166　立面4立面図

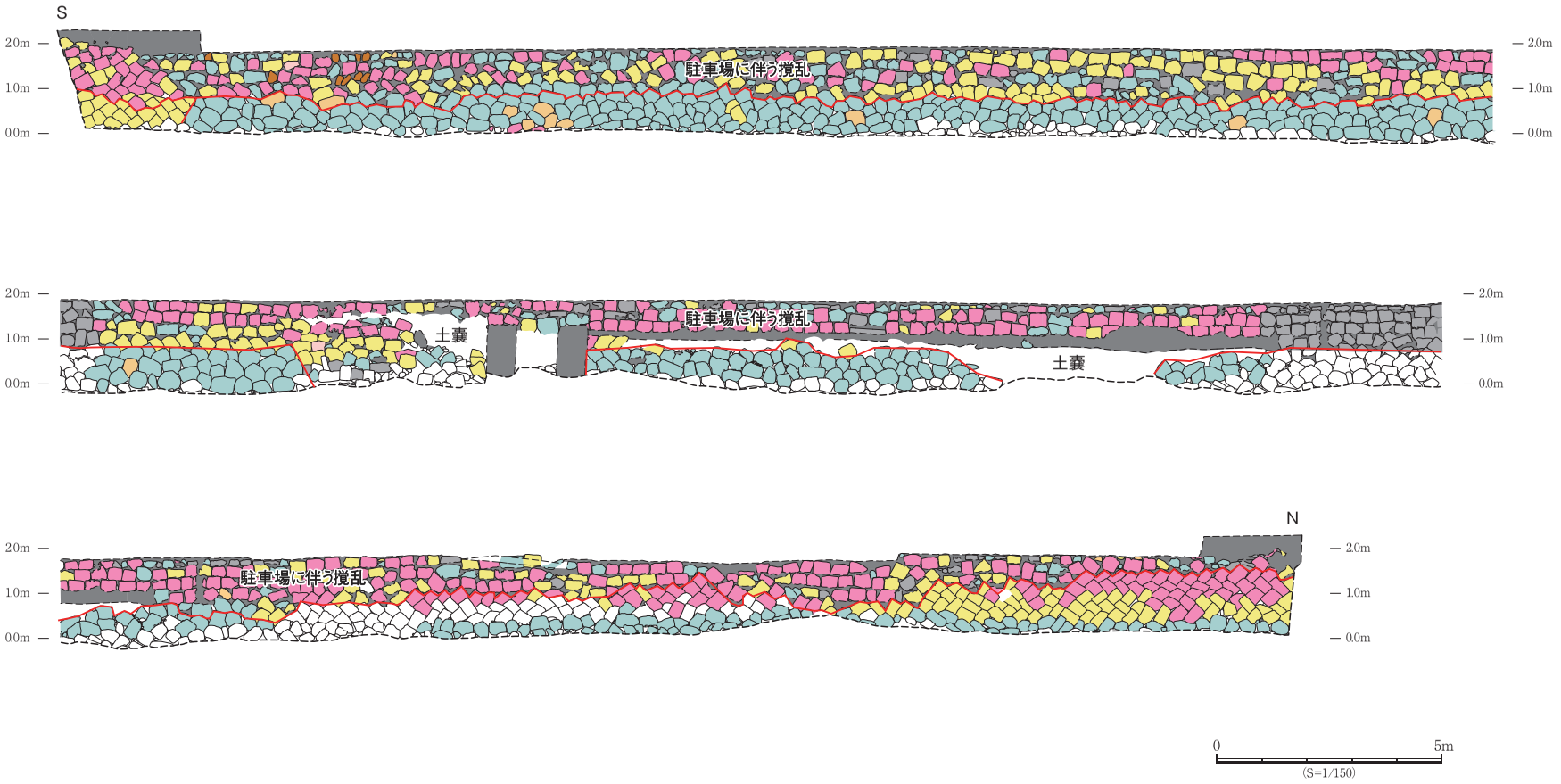


図167　立面4石質図

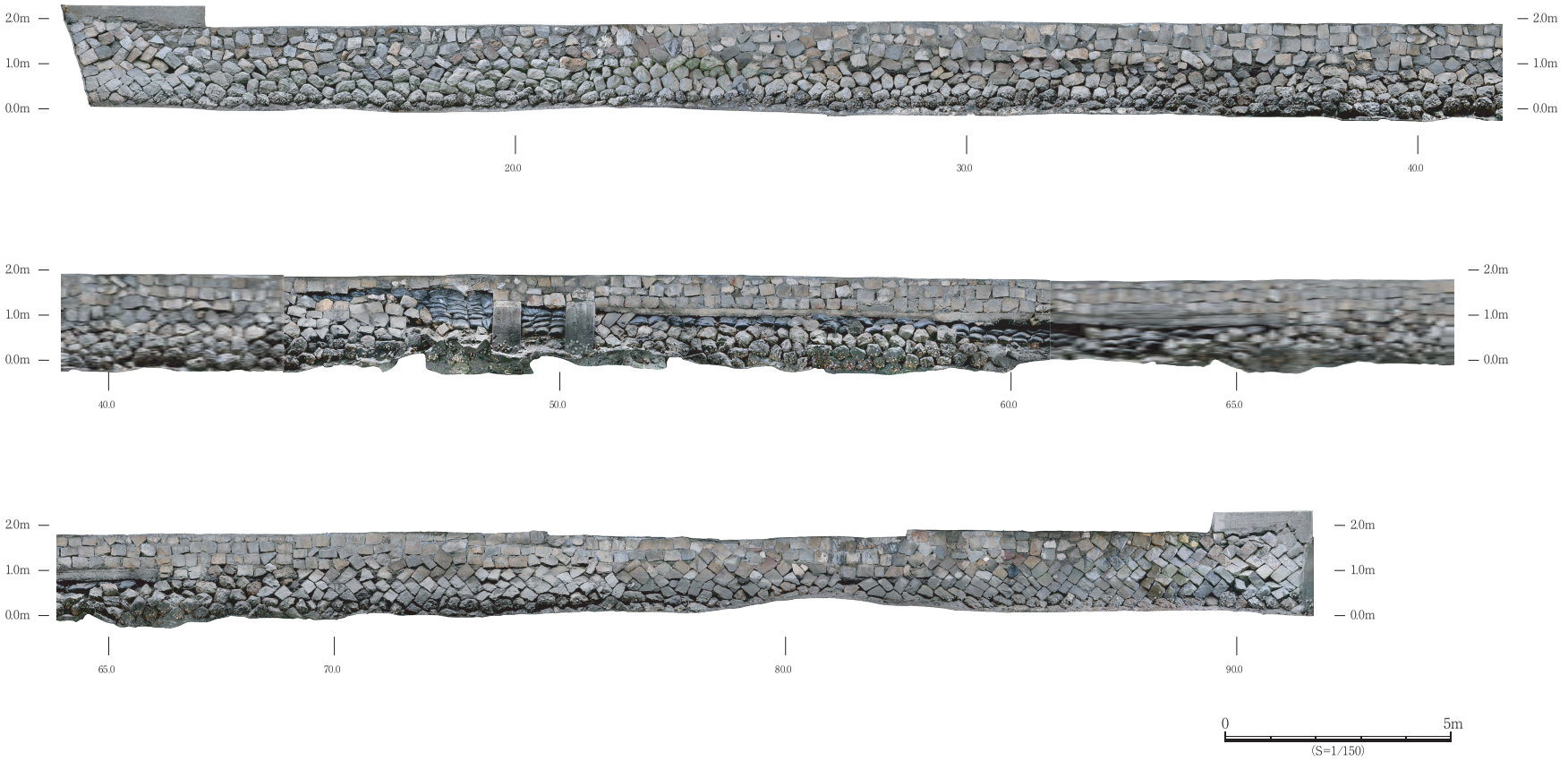


図168　立面4オルソ画像図

<table>
<tr><td rowspan="4">立面5

解体時
立面イ</td><td rowspan="3">垂直高
(m)</td><td>北</td><td>−</td><td>該当箇所</td><td>横堀公園</td></tr>
<tr><td>中央</td><td>5.1</td><td>技法</td><td>布積み</td></tr>
<tr><td>南</td><td>−</td><td>天端長(m)</td><td>(20.76)</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>基底部長(m)</td><td>(20.08)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">石垣調査</td><td colspan="2">石材の加工</td><td colspan="3">玄翁はつり, 金場取り残し</td></tr>
<tr><td colspan="2">石質</td><td colspan="3">石灰岩</td></tr>
<tr><td colspan="2">石材の形状</td><td colspan="3">五角形や六角形など(亀甲崩し)</td></tr>
<tr><td colspan="2">矢穴の有無</td><td>なし</td><td>転用石の有無</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノミの有無</td><td>なし</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>毀損状況</td><td colspan="2">石垣の現況</td><td>やや毀損</td><td>毀損状況</td><td>根による孕み, 割れ</td></tr>
<tr><td>歴史調査</td><td colspan="2">構築時期</td><td>明治15(1882)年
以降</td><td>発掘調査</td><td>TR1, TR4
解体調査</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・正保の絵図よりこの区画が存在していたことがわかる。天明８（1788）年では土手のように描かれている部分である。
・北側の石垣の面は六角形で整っている。南へ行くほどしわ寄せがきており，石が小さくなるか，または変則的な五角形になっている。
・一部風化による割れや，植栽による孕みが見受けられる。
・石垣を積む際におおよその高さを決め，合わせるようにカットして積んだと思われる。天端および上から３段目頃までは平均した高さにほぼ揃ってくる。それ以下は平均と比べばらつきがある。石垣の変化も平面的にみてあまりないことから，３段目より下は石垣を築いた時点から高さに一貫性がなかった。</td></tr>
</table>

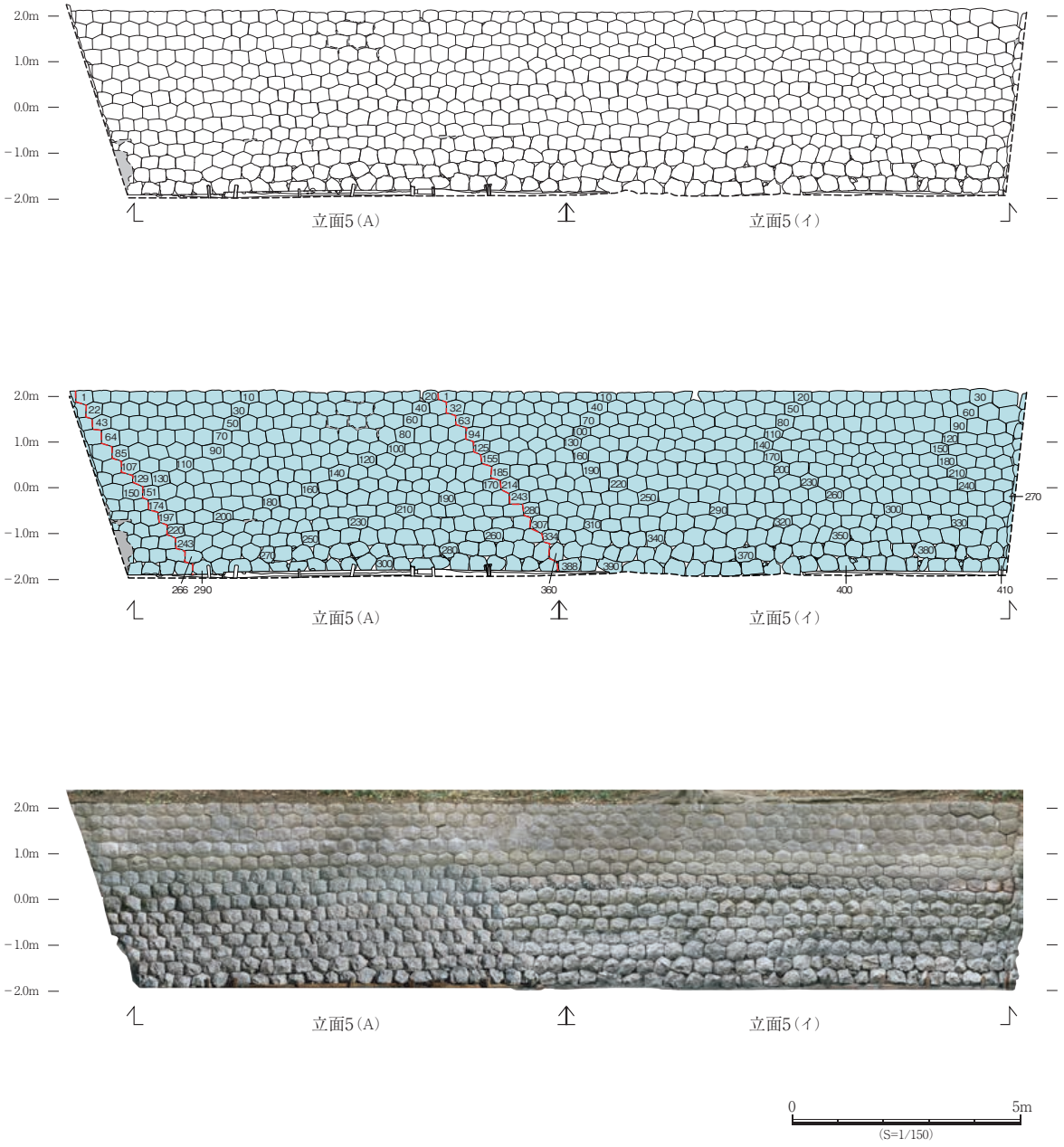


図169　立面5（イ）立面図・石質図・オルソ画像図

<table>
<tr><td rowspan="4">立面6-1

解体時
立面ロ</td><td rowspan="3">垂直高
(m)</td><td>北東</td><td>3.9</td><td>該当箇所</td><td>横堀公園</td></tr>
<tr><td>中央</td><td>－</td><td>技法</td><td>布積み</td></tr>
<tr><td>南西</td><td>4.5</td><td>天端長(m)</td><td>10.25</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>基底部長(m)</td><td>6.1+4.4</td></tr>
<tr><td rowspan="6">石垣調査</td><td colspan="2">石材の加工</td><td colspan="3">玄翁はつり, 金場取り残し</td></tr>
<tr><td colspan="2">石質</td><td colspan="3">石灰岩</td></tr>
<tr><td colspan="2">石材の形状</td><td colspan="3">五角形や六角形など(亀甲崩し)</td></tr>
<tr><td colspan="2">矢穴の有無</td><td>なし</td><td>転用石の有無</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノミの有無</td><td>なし</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>毀損状況</td><td colspan="2">石垣の現況</td><td>やや毀損</td><td>毀損状況</td><td>根による孕み, 割れ</td></tr>
<tr><td>歴史調査</td><td colspan="2">構築時期</td><td>明治15(1882)年
以降</td><td>発掘調査</td><td>TR4
解体調査</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・この区画は，天明８（1788）年では土手のように描かれている。
・天端石が全て現存しない。
・東西で構造に差があるが，おそらく同時期の構築である。低い胴木を構築し，２段積んでから高い胴木を設置したつくりになっていた。それぞれの胴木に高低差があり, 築石の高さも異なる。しかし, 作りに変化はあるものの全体は12段になっており, 段数に築石があわせている。</td></tr>
</table>

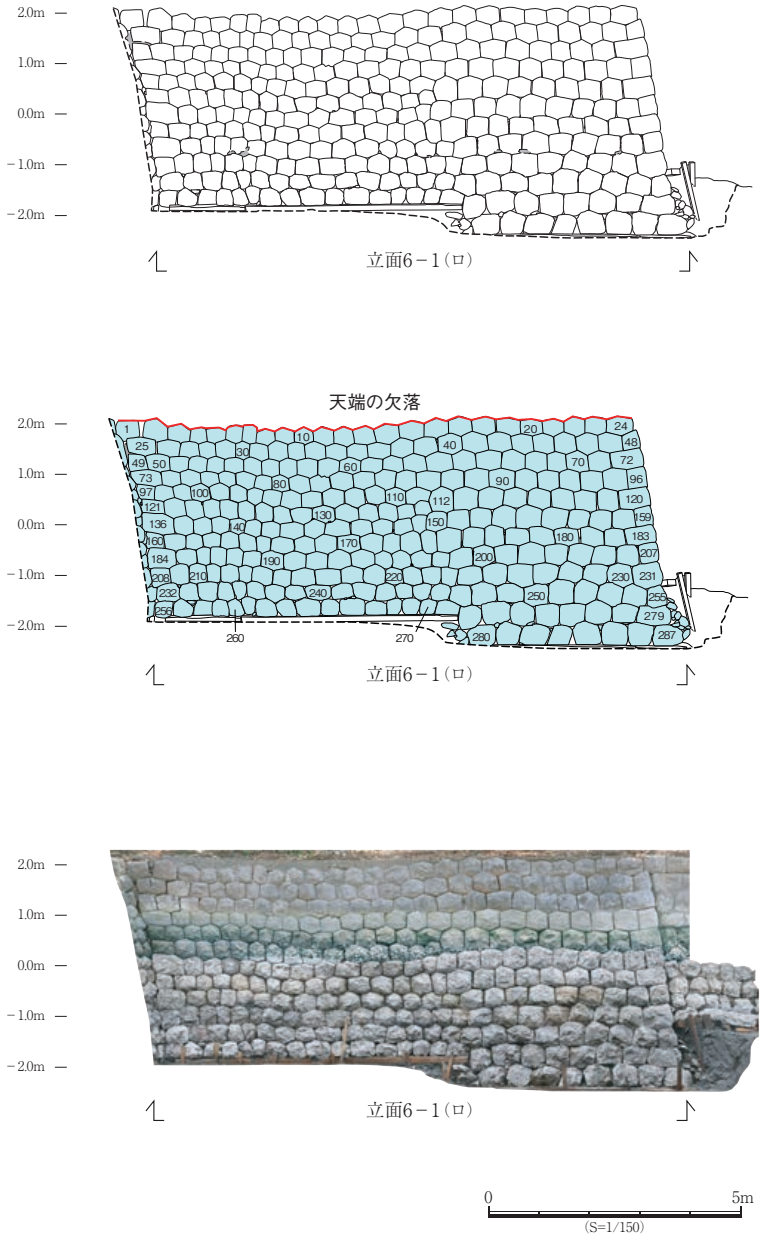


図170　立面6-1（ロ）立面図・石質図・オルソ画像図

立面6-2	垂直高(m)	北東	−	該当箇所	横堀公園
		中央	3.9	技法	乱積み, 練積み
解体時立面ニ		南西	−	天端長(m)	6.75
				基底部長(m)	7.0
石垣調査	石材の加工		玄翁はつり, 金場取り残し		
	石質		石灰岩		
	石材の形状		五角形や六角形など		
	矢穴の有無		なし	転用石の有無	あり
	ノミの有無		なし		
毀損状況	石垣の現況		やや毀損	毀損状況	根による孕み, 割れ
歴史調査	構築時期		コンクリート出現以降	発掘調査	解体調査
特記事項	・転用石を用いた練積みで，横堀公園でみられる最も新しい構築の石垣である。 ・胴木は旧石垣のものを転用しており，過不足が生じた部分には別途木材を使用している。				

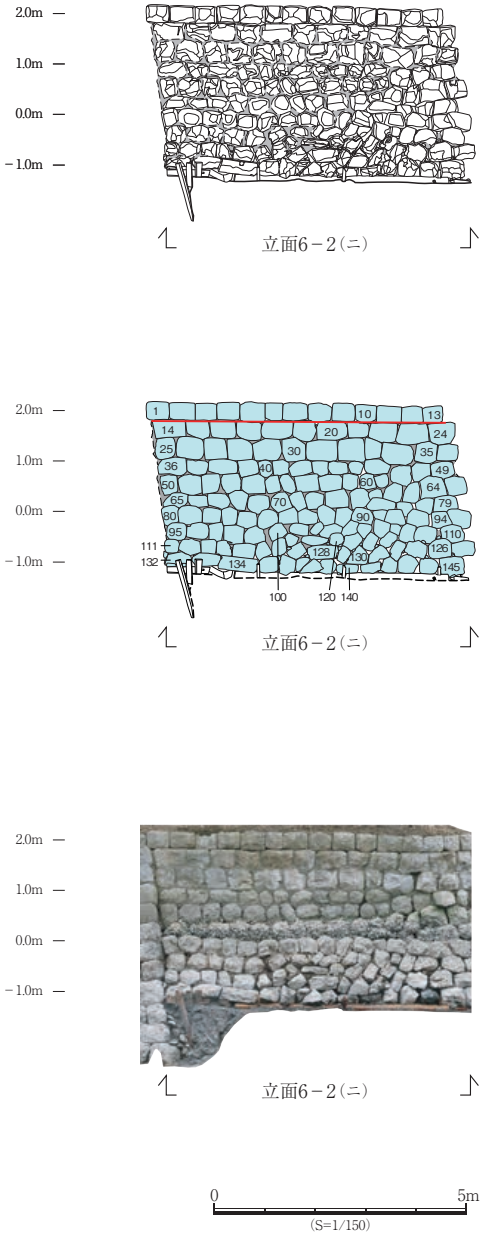


図171　立面6-2(ニ)立面図・石質図・オルソ画像図

<table>
<tr><td rowspan="4">立面7

解体時
立面ホ</td><td rowspan="3">垂直高
(m)</td><td>北</td><td>4.7</td><td>該当箇所</td><td>横堀公園, 四国銀行駐車場</td></tr>
<tr><td>中央</td><td>4.3</td><td>技法</td><td>布積み, 練積み</td></tr>
<tr><td>南</td><td>(2.01)</td><td>天端長(m)</td><td>(27.04)</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>基底部長(m)</td><td>(27.65)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">石垣調査</td><td colspan="2">石材の加工</td><td colspan="3">玄翁はつり, 金場取り残し</td></tr>
<tr><td colspan="2">石質</td><td colspan="3">石灰岩</td></tr>
<tr><td colspan="2">石材の形状</td><td colspan="3">五角形や六角形など(亀甲崩し)</td></tr>
<tr><td colspan="2">矢穴の有無</td><td>あり</td><td>転用石の有無</td><td>あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノミの有無</td><td>なし</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>毀損状況</td><td colspan="2">石垣の現況</td><td>やや毀損</td><td>毀損状況</td><td>割れ, 隙間</td></tr>
<tr><td>歴史調査</td><td colspan="2">構築時期</td><td>近代･現代</td><td>発掘調査</td><td>解体調査</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・現在の公園から旧竹村家の道具蔵までの区画である。
・大きく分けて南と北の２つの区画に分かれる。南の道具蔵に伴う石垣は空積みである。面の形は五角形ないし六角形であり，立面５より規格性は劣っているものの，亀甲崩しである。立面７において最も古い。北側は練積みとなっており，石が非常に不安定である。天端から２～３段目に比較的大ぶりの石を使用している。天端のみ空積みになっている。まとまった石の面としては立面７において最も新しい。
・南側亀甲崩しの石垣には矢穴が２つ確認できた。
・天端においてルート痕のある石が確認できた。
・天端の練積み部分は昭和 45(1970)年の台風 10 号による毀損である。</td></tr>
</table>

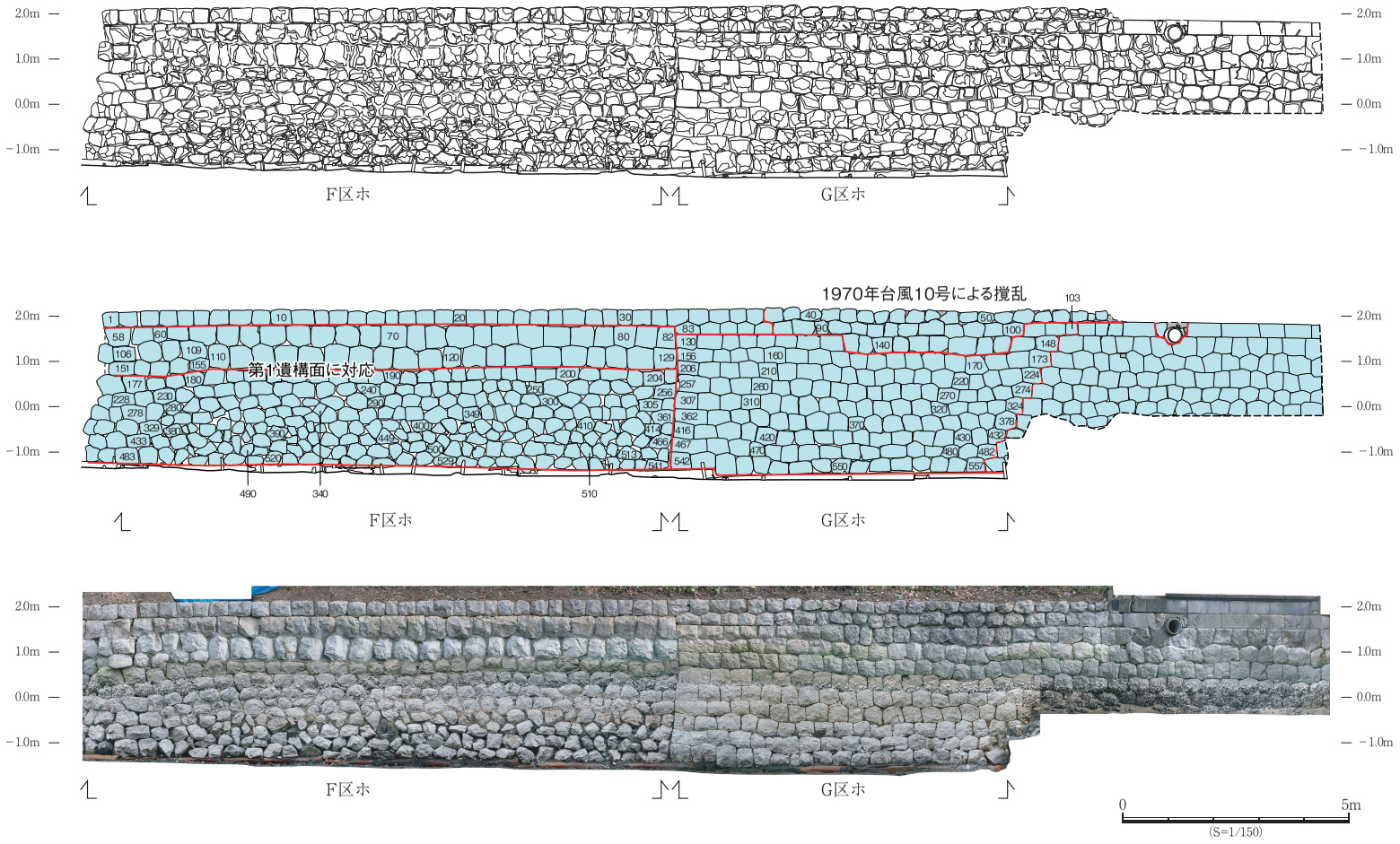


図172　立面7(ホ)立面図・石質図・オルソ画像図

立面8	垂直高（m）	北南	（1.77～2.33）	該当箇所	四国総合ビル, 木屋橋
		中央	（2.33）	技法	布積み, 練積み, 谷積み
		南	（2.01）	天端長（m）	（54.3）
				基底部長（m）	（54.8）
石垣調査	石材の加工		玄翁はつり, 金場取り残し		
	石質		石灰岩, 砂岩, チャート		
	石材の形状		五角形や六角形, 間知石など		
	矢穴の有無		なし	転用石の有無	あり
	ノミの有無		なし		
毀損状況	石垣の現況		やや毀損	毀損状況	割れ, 石材の風化
歴史調査	構築時期		近代	発掘調査	なし
特記事項	・現在の公園から竹村家の道具蔵，旧休憩所，母屋，店舗，木屋橋までの区画である。 ・北部は道具蔵があった区画である。その天端石は旧竹村家が取り壊された昭和 48（1973）年以降の構造物に伴うものだと考えられる。 ・中部は旧休憩所があったとされる区画である。明治期にはこの区画に母屋の増築がされる。 ・南部は母屋である。明治期に母屋の増築がされる。石垣の変化点もおそらくこの時期のものであろう。この部分にのみ砂岩が一部使用される。また，風化が激しい石灰岩が目立つ。母屋周辺は比較的セメントの比率が高く，石の形がわかりにくい。ほぼ乱積みである。 ・砂岩による谷積みは木屋橋の架橋に伴うものである。また，その上方には工事に伴う撹乱により無秩序に砂岩が転用され，セメントによって固められている。				

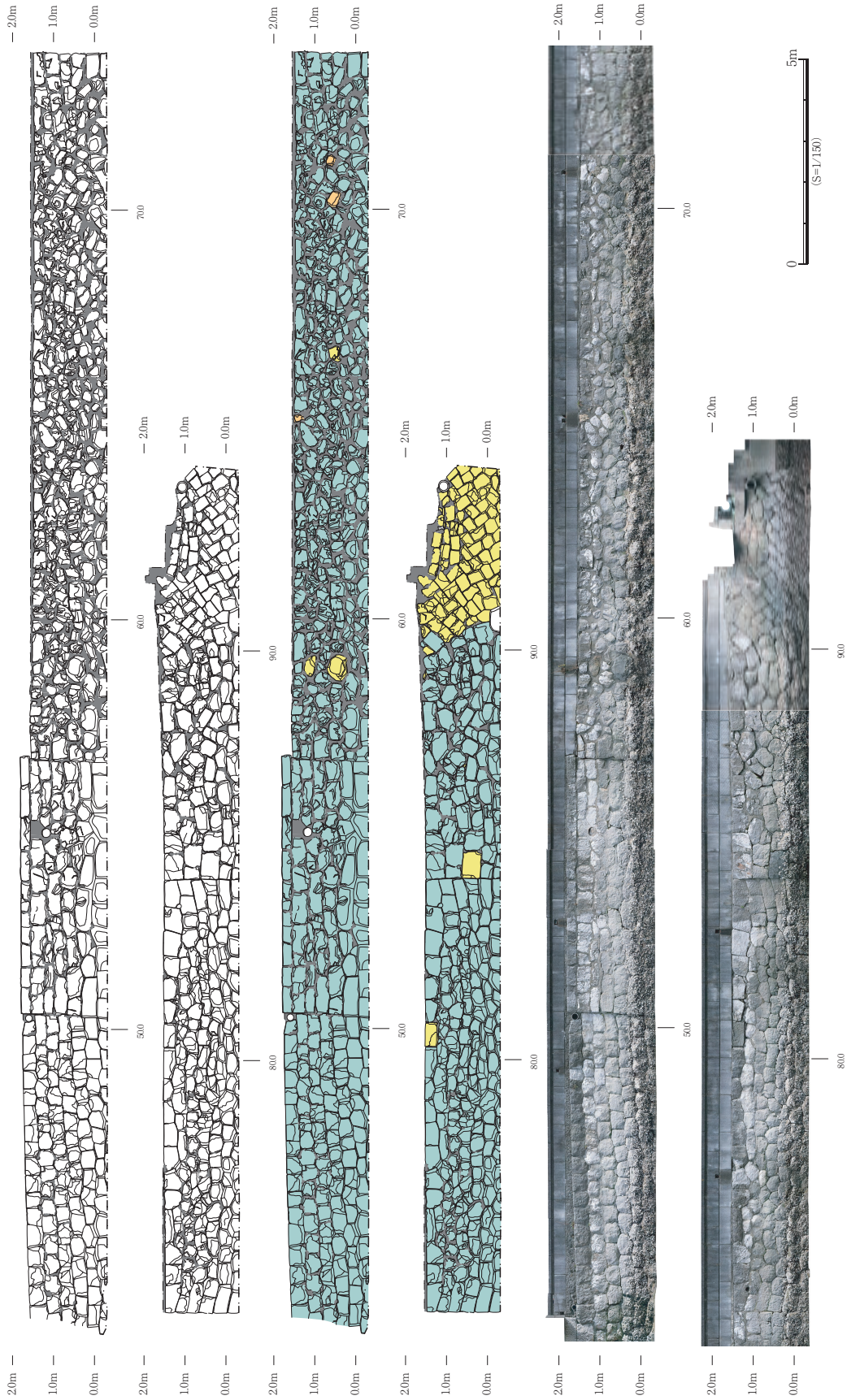


図173　立面8立面図・石質図・オルソ画像図

7. 近代瓦について

(1)軒丸瓦(図174)

検出した軒丸瓦はすべて連珠三巴文であった。524 ～ 529 を図示した。524 は右巻でキラ粉が付着する。珠文は 6 個残存する。おそらく 12 個である。525 は左巻である。珠文は 5 個残存する。おそらく 12 個である。凹面に漆喰が付着し, 棒状圧痕が残り, 2 箇所に径 1.4cm の円孔がみられる。526 は右巻で珠文は 7 個残存する。おそらく 12 個である。巴のくびれは不明瞭で巴尾が他の巴尾と離れる。527 は凸面に扇文, 兜文の陰刻が施される。コビキ B である。軒丸瓦にしてはやや幅が狭く, 小ぶりである。528 は右巻で巴尾は細く長い。珠文は 4 個残存する。おそらく 12 個である。529 は左巻である。珠文は 12 個である。

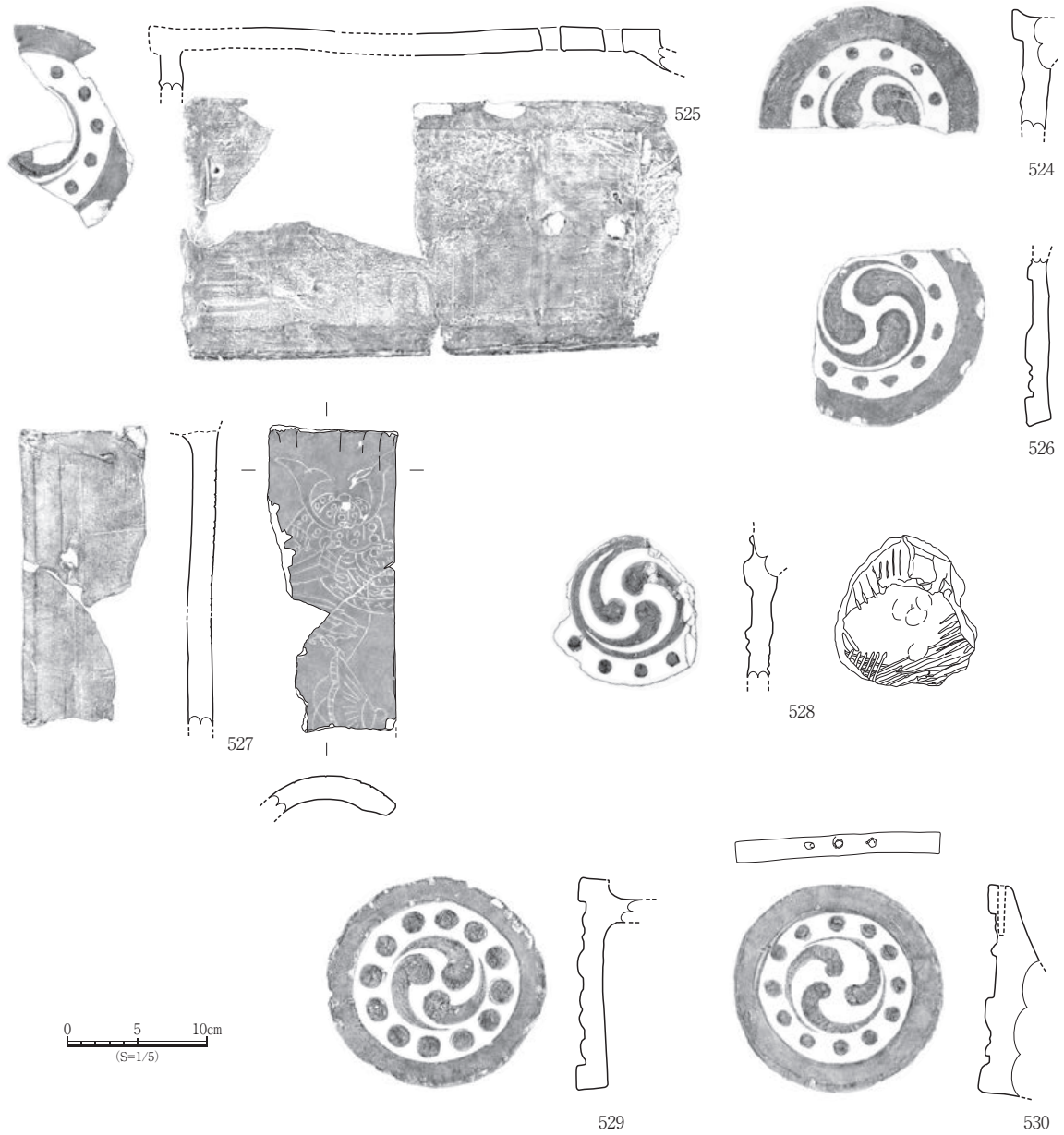


図174　軒丸瓦・鳥衾瓦実測図

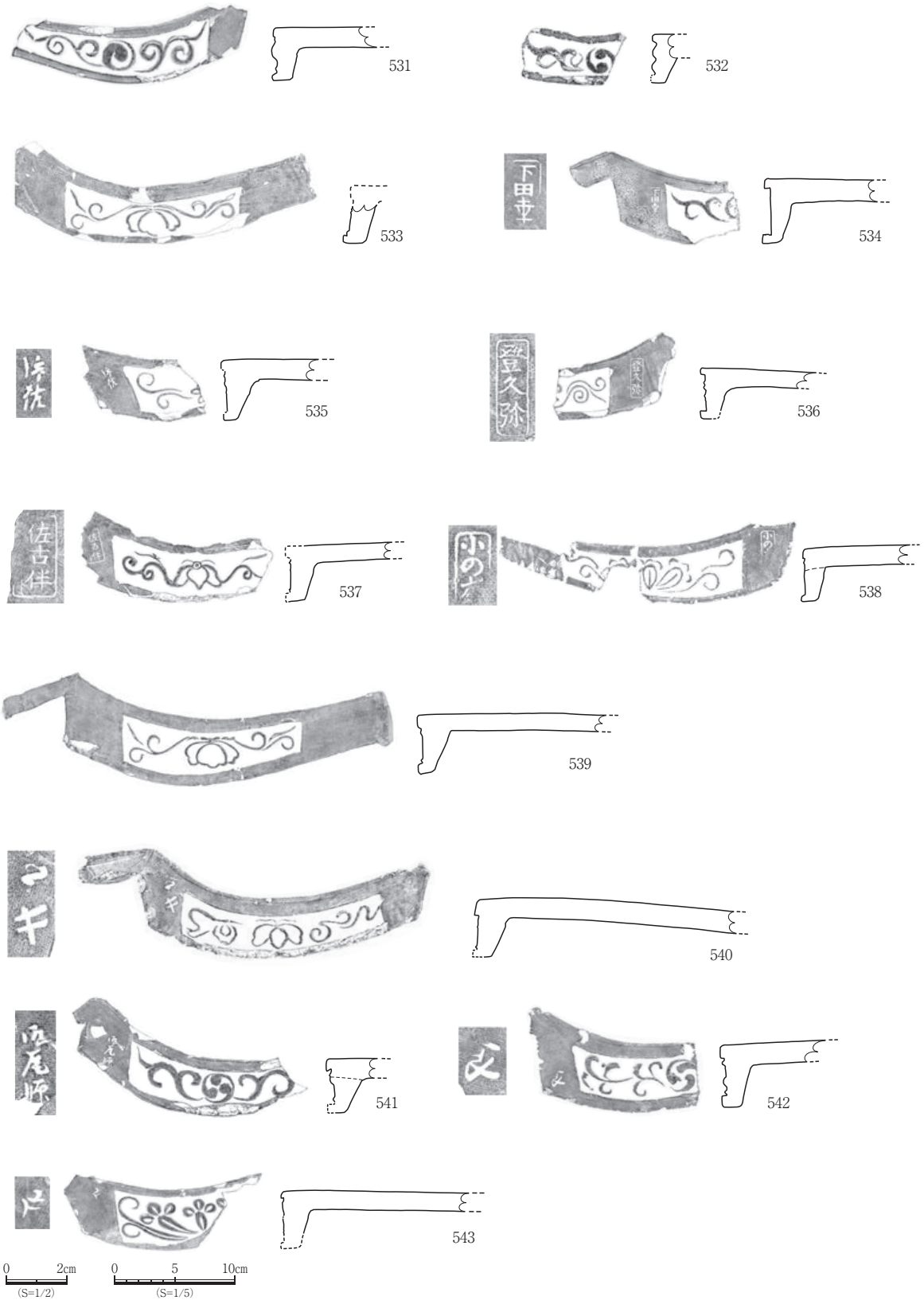


図175　軒平瓦・軒桟瓦実測図

⑵鳥衾瓦(図174)

530 は左巻連珠三巴文で珠文は 12 個である。巴頭と巴尾の括れは明瞭で，瓦当頂点に径 6㎜前後の孔が 3 カ所みられる。

⑶軒平瓦・軒桟瓦(図175)

531 ～ 543 は軒平桟瓦である。531 は中心飾が左巻一つ巴文，左右に唐草文である。532 は中心飾が二つ巴文，左右に唐草文である。533 は中心飾は蔦文，左右脇に 2 回反転の唐草文と子葉文がみられる。534 は中心飾は不明であるが，唐草文と瓦当左に枠に「下田幸」の刻印が残る。535 は瓦当にキラ粉が付着し，瓦当左に「片佐」の刻印がみられる。536 は中心飾は不明であるが，文様区画内に葉文と唐草文が残る。文様右に枠に「登久弥」の刻印がみられる。537 の中心飾は蔦文，左右脇に 2 回反転の唐草文，瓦当右に枠に「佐古伴」の刻印がみられる。香南市野市町佐古産か。538 は中心飾丁字文,左右脇に 2 回反転の唐草文を持つ。枠に「小の…」の刻印がみられる。「小の忠」か。539 は中心飾は蔦文，左右に唐草文が 2 回反転される。540 は中心飾は蔦文，左右の唐草は非対称であり，文様区画左に「アキ」の刻印がみられる。541 は中心飾は右巻三つ巴文，左に唐草文がみられる。文様区画外の左に「食」の刻印がある。「和食」の場合，安芸郡芸西村和食産の製品である。542 は右巻三つ巴文，左右に唐草文，瓦当左に「御瓦師」の銘がみられる。543 は中心飾は丁字文，2 反転の唐草文がみられる。銘は「片□」の銘がみられる。

⑷丸瓦(図177)

544 ～ 549 は丸瓦である。コビキ A は 547 と 548 である。コビキ B は 544，546，549 である。545 は不明であった。544 は凸面に縦方向の調整の痕跡，凹部にわずかに布目痕が残り，545 は凹部に布目痕が残る。546 は凸面に「∧アキ」の刻印と凹面にわずかに布目圧痕が残る。547 は凸面に「安森」の刻印か。548 は凸面はナデ調整され，凹面に布目痕が残る。549 は凸面に縦方向ナデ，凹面に布目痕が残る。

⑸桟瓦(図176)

550 を図示した。550 は枠に「□□善平」の刻印がみられる。

⑹平瓦・桟瓦(図178)

551 ～ 574 を図示した。平瓦と桟瓦の細片は分類が困難であったため，一括して報告する。

551 の銘は判読不可能であった。552 は「アキ」，553 は枠に「高□」，554 は「□濱」か。555 は「アキ□」，556 は枠に「片□」，557 は「御□」，558 は「片常」，559 は枠に「徳善□」，560 は「ヤス□」の刻印がみられた。561 は判読不可である。562 は篆字か。563 は胎土に細礫を含み，側面には枠に「長谷川」刻印，側縁両辺部は面取され，凹凸面はナデ調整される。564 は「片□」の刻印，565 は枠に「□田…」の刻印がみられる。二重に刻印が押されており，一文字目にかかる。566 は枠に「安□」の刻印がみられる。567 は下面にキラ粉が付着し，枠に「王子貞」

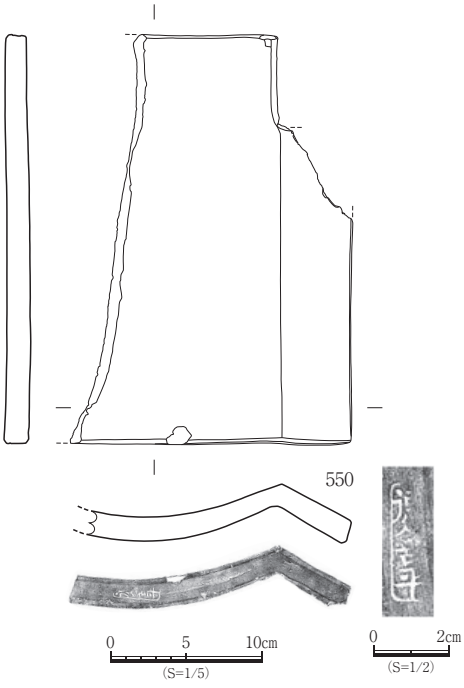


図176　桟瓦実測図

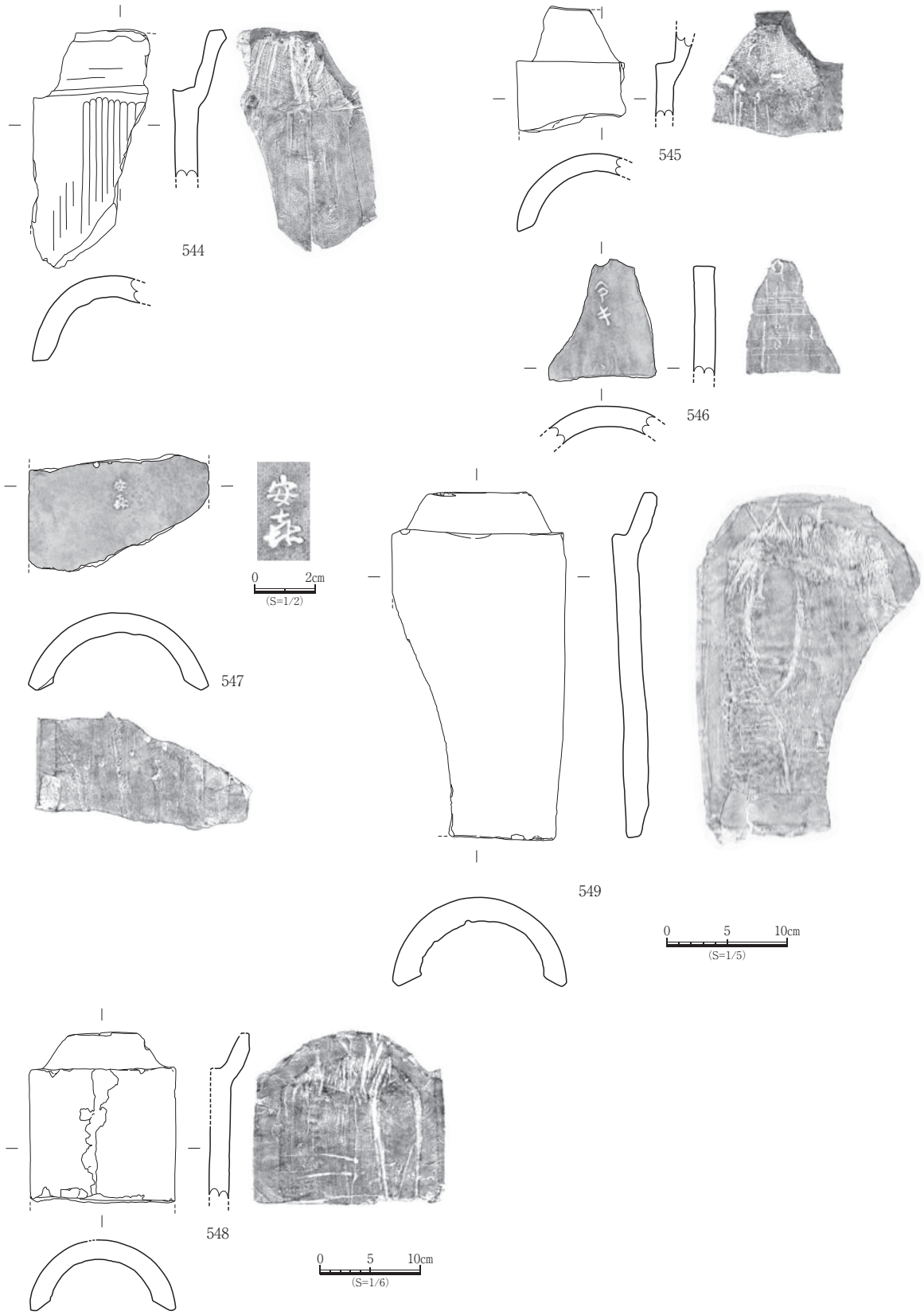


図177　丸瓦実測図

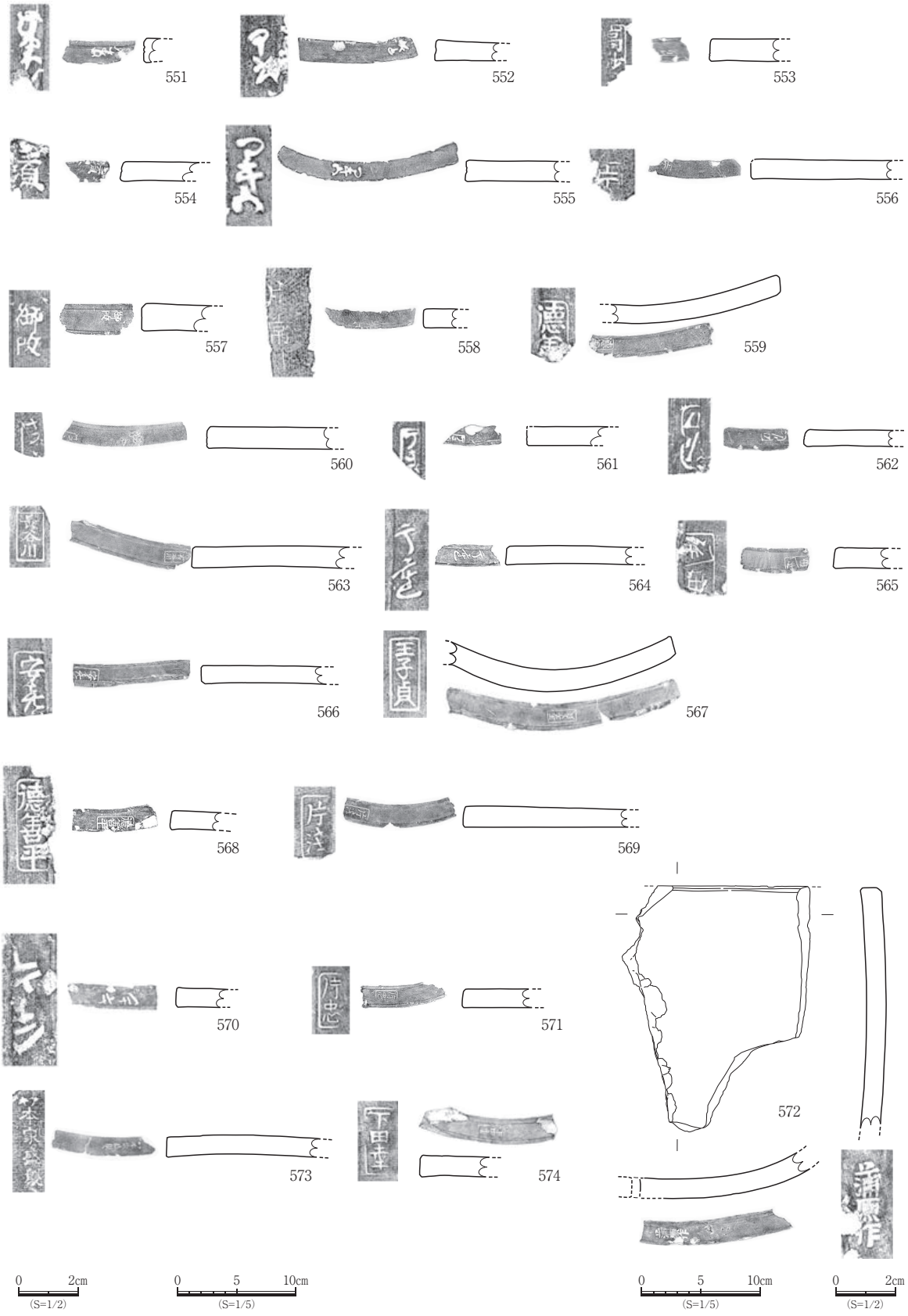

551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
0 2cm
(S=1/2)
0 5 10cm
(S=1/5)
0 5 10cm
(S=1/5)
0 2cm
(S=1/2)

図178　平瓦実測図

の刻印がみられる。端部は面取される。568 は枠に「徳善平」，569 はキラ粉が付着し，枠に「片冫□」の刻印がみられる。570 は「片□」の刻印，571 は枠に「片忠」の刻印がみられ，端部は面取される。572 は凸面にキラ粉が付着し，凹面に鉄線がみられる。「蒲原作」の刻印がみられる。蒲原は南国市岡豊町蒲原か。573 は側面に「アキ本家盛製」の刻印，574 は枠に「下田幸」の刻印がみられる。

おおまかに「アキ」ないし「安芸」の刻印を持つものは 552，555，573 であるが，異なる刻印である。「アキ」単体での刻印を持つものは平瓦や桟瓦では少なかった。559 と 568 の「徳善平」は

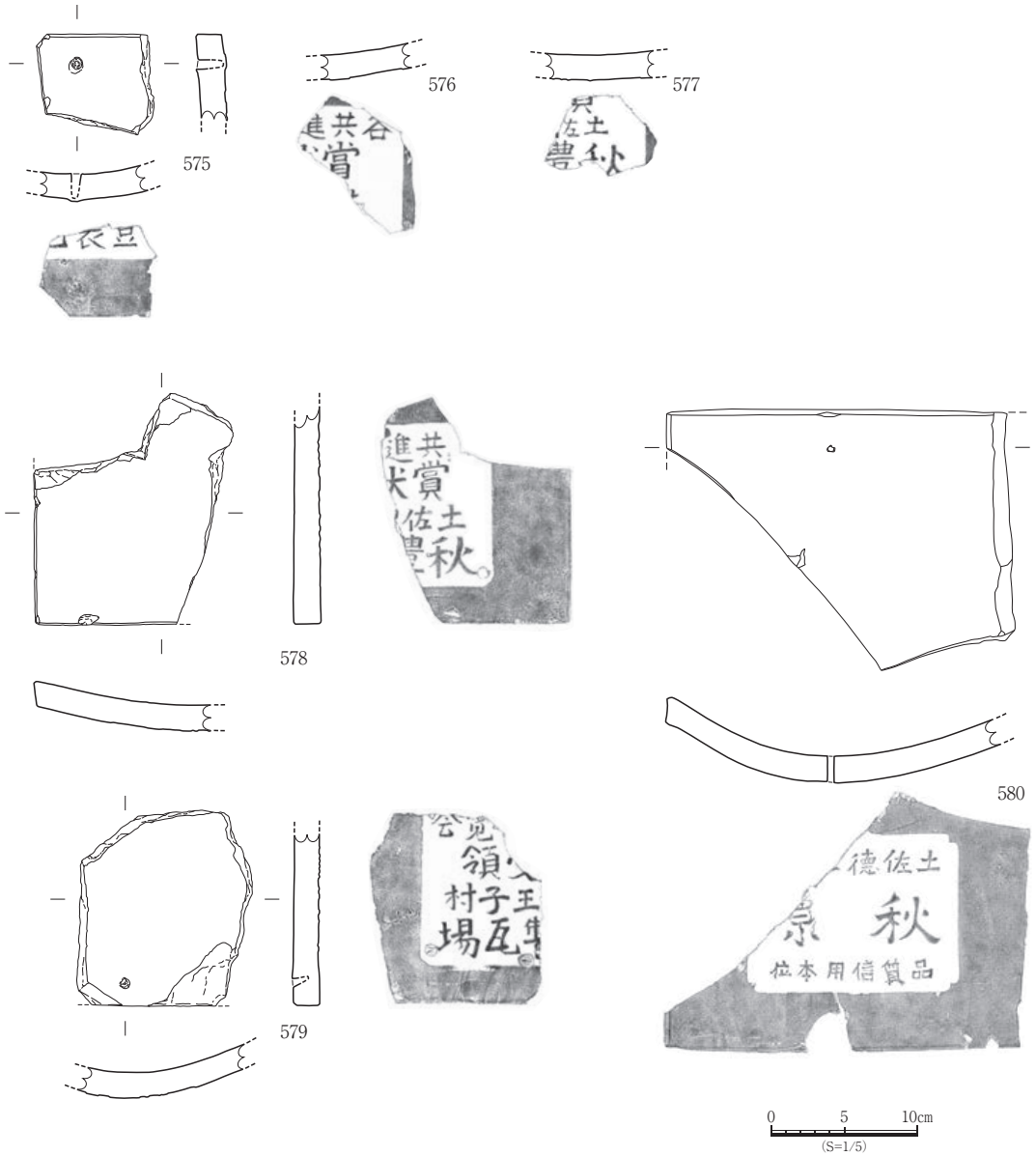


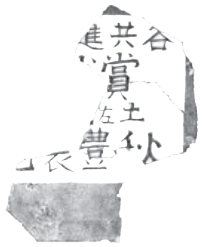
図179　銘平瓦実測図

同じ刻印である。534 と 574 は「下田幸」の刻印を持つが，異なる刻印である。

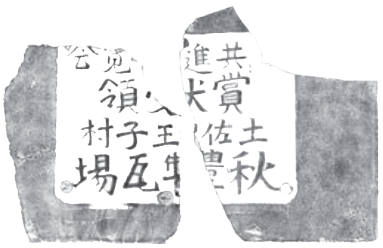
⑺平瓦（図 179・180）

平瓦は陽刻のあるものを図示した。575 と 576，577 は同笵である。凸面区画内に陽刻がみられ「谷共進　賞状　秋豊製瓦」の文字が残る。凹面は径 5mm 前後の円孔がみられるが，貫通していない。575 は 576 と 577 との接点を持たず，576 と 577 は重複する箇所があるため，少なくとも同じ製品が 2 つあったといえる。次に 578 と 579 の瓦が同笵である。凸面区画内に陽刻で「共進□寛会　賞状□領土佐□王子村　秋豊製瓦場」の文字が残る。それぞれに接点はない。575 ～ 577 と同じ「秋豊」を表すが，字体や「谷」の文字の有無から別の笵であろう。580 は凸面区画内に「土佐徳□　秋源　品質信用本位」の陽刻がみられる。凹面ナデ調整され，径 5mm の円孔がみられる。

575 や 579，580 など，これらの瓦は穿孔が特徴であり，ブランドを補償する文言を大きく銘打つことから読まれるための瓦であったと考えられる。また，これらの瓦はすべて明治期以降の包含層から出土している。



575,576,577



578,579



580

図180　同笵銘平瓦

第Ⅴ章　自然科学分析

1. 樹種同定及び放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

新堀川護岸より出土した木材の樹種同定と放射性炭素年代測定を行い，当時の用材や時代観に関する情報を得る。特に胴木の年代値に関しては，ウイグルマッチング法による解析を行い，構築年代の絞り込みを試みる。

⑴試料

樹種同定を行う試料は，対の胴木２点（試料１，試料２）と，杭（試料３），Ｆ区胴木（試料４）の４点である（図 184）。これらは，木取や年輪数を調べた後，年代測定を実施する。胴木以外は，できるだけ最外年輪で，かつ保存状態の良い場所から試料を採取する。胴木は，年論数や保存状態を考慮し，各３点の試料を分析する。また，試料調整の際に出た残渣を用いて，樹種同定を行う。試料の詳細は表１に示す。

⑵分析方法

①樹種同定

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の切片を作成する。光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東（1982），Wheeler 他（1998），Richter 他（2006）を参考にする。また，日本産木材の組織配列は，林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

②放射性炭素年代測定

胴木２点は，木口面をポリッシャーで研磨し，年輪の状態がわかりやすいようにする。状態の良い場所を選び，年輪を数えるとともに，写真撮影を行う。材幹より試料を溝状に採取したあと，ウイグルマッチングによる解析を行えるよう，外周，樹芯，中間部付近の３ヶ所を設定し，適宜トリミングして年代測定用試料とする。他の２点は外周部でかつ保存状態の良い場所を選び，試料を各１点採取する。なお，樹種同定は，試料調整の際に削り落とした部分を使って行う。試料は，塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去，水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去，塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸，水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。

試料の燃焼，二酸化炭素の精製，グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし，測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて，14C の

表 1. 樹種同定結果

試料名	年輪数・木取り	種　類	樹皮	年代測定年輪
試料1	68年丸木	マツ属複維管束亜属	有	1-5
				30-35
				65-68
試料2	46年丸木	マツ属複維管束亜属	有	1-5
				20-23
				44-46
試料3	13年芯持角	スギ	無	10-13
試料4	42年板目角材	マツ属複維管束亜属	無	40-42

計数，13C 濃度（13C/12C），14C 濃度（14C/12C）を測定する。AMS 測定時に，米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ），国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等），バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ 13C は試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また，測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり，誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は，国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また，暦年較正・ウイグルマッチング用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正ならびにウイグルマッチング法に用いるソフトウエアは，Oxcal4.3（Bronk,2009），較正曲線は Intcal20（Reimer et al.,2020）である。

⑶結果

①樹種同定

結果を表 1 に示す。同定の結果，試料 1，試料 2，試料 4 はマツ属複維管束亜属，試料 3 はスギである。以下に解剖学的特徴を示す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで，垂直樹脂道が晩材部に認められる。放射組織は，仮道管，柔細胞，水平樹脂道と，樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列，1 ～ 15 細胞高。

・スギ（Cryptomeria japonica（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で，晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で，1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列，1 ～ 10 細胞高。

②放射性炭素年代測定

結果を表 2，図 181 に示す。分析試料はいずれも保存状態が良く，定法での処理が可能で，年代測定に必要な炭素量が回収できている。同位体補正を行った年代値は，試料 1 1-5 年が 150 ± 15BP，試料 1 30-35 年が 130 ± 15BP，試料 1 65-68 年が 125 ± 15BP，試料 2 1-5 年が 110 ± 15BP，試料 2 20-23 年が 230 ± 15BP，試料 2 44-46 年が 155 ± 15BP，試料 3 が 105 ± 20BP，試料 4 が 80 ± 20BP である。

暦年較正は，大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動，その後訂正された半減期（14C

表 2. 放射性炭素年代測定結果

試料名	種類	年輪	方法	補正年代 BP (暦年較正用)	δ 13C (‰)	暦年較正年代																Code No.	
						年代値															確率 %		
試料1	マツ属複維管束亜属	1-5	AAA (1M)	150 ± 15 (152 ± 17)	-28.91 ± 0.21	σ	cal	AD	1675	-	cal	AD	1694	275	-	256	calBP	14.0	PLD-43473	pal-13230
							cal	AD	1726	-	cal	AD	1744	225	-	207	calBP	13.6		
							cal	AD	1750	-	cal	AD	1765	200	-	185	calBP	10.8		
							cal	AD	1799	-	cal	AD	1812	152	-	139	calBP	9.8		
							cal	AD	1917	-	cal	AD	1942	34	-	8	calBP	20.2		
						2 σ	cal	AD	1670	-	cal	AD	1699	281	-	252	calBP	15.5		
							cal	AD	1722	-	cal	AD	1780	229	-	170	calBP	30.5		
							cal	AD	1796	-	cal	AD	1815	154	-	136	calBP	10.4		
							cal	AD	1835	-	cal	AD	1885	116	-	65	calBP	17.1		
							cal	AD	1910	-	cal	AD	1950	41	-		calBP	21.9		
		30-35	AAA (1M)	130 ± 15 (131 ± 17)	-26.08 ± 0.22	σ	cal	AD	1687	-	cal	AD	1700	263	-	251	calBP	7.9	PLD-43474	pal-13231
							cal	AD	1721	-	cal	AD	1731	229	-	219	calBP	6.0		
							cal	AD	1806	-	cal	AD	1815	144	-	135	calBP	5.3		
							cal	AD	1834	-	cal	AD	1889	117	-	62	calBP	37.9		
							cal	AD	1908	-	cal	AD	1926	42	-	25	calBP	11.1		
						2 σ	cal	AD	1682	-	cal	AD	1738	269	-	212	calBP	24.2		
							cal	AD	1754	-	cal	AD	1762	196	-	188	calBP	1.5		
							cal	AD	1801	-	cal	AD	1938	149	-	12	calBP	69.7		
		65-68	AAA (1M)	125 ± 15 (125 ± 17)	-28.62 ± 0.22	σ	cal	AD	1690	-	cal	AD	1702	260	-	248	calBP	7.8	PLD-43475	pal-13232
							cal	AD	1721	-	cal	AD	1728	229	-	223	calBP	4.3		
							cal	AD	1809	-	cal	AD	1816	142	-	134	calBP	4.7		
							cal	AD	1833	-	cal	AD	1890	117	-	60	calBP	41.8		
							cal	AD	1908	-	cal	AD	1922	43	-	29	calBP	9.6		
						2 σ	cal	AD	1683	-	cal	AD	1735	267	-	215	calBP	24.0		
							cal	AD	1803	-	cal	AD	1930	148	-	21	calBP	71.4		
試料2	マツ属複維管束亜属	1-5	AAA (1M)	110 ± 15 (111 ± 17)	-28.33 ± 0.23	σ	cal	AD	1695	-	cal	AD	1724	255	-	226	calBP	21.1	PLD-43476	pal-13233
							cal	AD	1813	-	cal	AD	1839	138	-	112	calBP	18.6		
							cal	AD	1847	-	cal	AD	1851	103	-	99	calBP	2.5		
							cal	AD	1878	-	cal	AD	1916	73	-	35	calBP	26.0		
						2 σ	cal	AD	1691	-	cal	AD	1728	259	-	222	calBP	24.3		
							cal	AD	1809	-	cal	AD	1920	142	-	30	calBP	71.1		
		20-23	AAA (1M)	230 ± 15 (230 ± 17)	-26.21 ± 0.23	σ	cal	AD	1651	-	cal	AD	1666	300	-	285	calBP	40.1	PLD-43477	pal-13234
							cal	AD	1784	-	cal	AD	1795	166	-	156	calBP	28.2		
						2 σ	cal	AD	1642	-	cal	AD	1673	309	-	278	calBP	55.4		
							cal	AD	1777	-	cal	AD	1800	173	-	151	calBP	40.1		
		44-46	AAA (1M)	155 ± 15 (156 ± 17)	-29.14 ± 0.24	σ	cal	AD	1675	-	cal	AD	1692	276	-	258	calBP	13.7	PLD-43478	pal-13235
							cal	AD	1727	-	cal	AD	1744	223	-	207	calBP	13.6		
							cal	AD	1749	-	cal	AD	1765	201	-	185	calBP	12.8		
							cal	AD	1799	-	cal	AD	1810	152	-	141	calBP	8.9		
							cal	AD	1920	-	cal	AD	1942	31	-	8	calBP	19.2		
						2 σ	cal	AD	1668	-	cal	AD	1698	282	-	253	calBP	16.3		
							cal	AD	1723	-	cal	AD	1782	228	-	169	calBP	34.7		
							cal	AD	1796	-	cal	AD	1814	154	-	137	calBP	10.4		
							cal	AD	1836	-	cal	AD	1880	114	-	71	calBP	11.9		
							cal	AD	1912	-	cal	AD	1950	38	-		calBP	22.2		
試料3	スギ	10-13	AAA (1M)	105 ± 20 (103 ± 18)	-27.89 ± 0.31	σ	cal	AD	1697	-	cal	AD	1723	253	-	227	calBP	22.1	PLD-43479	pal-13236
							cal	AD	1813	-	cal	AD	1837	137	-	114	calBP	19.8		
							cal	AD	1880	-	cal	AD	1912	71	-	38	calBP	26.3		
						2 σ	cal	AD	1693	-	cal	AD	1727	258	-	224	calBP	25.4		
							cal	AD	1810	-	cal	AD	1919	140	-	32	calBP	70.1		
試料4	マツ属複維管束亜属	40-42	AAA (1M)	80 ± 20 (79 ± 19)	-29.49 ± 0.35	σ	cal	AD	1701	-	cal	AD	1721	249	-	229	calBP	23.0	PLD-43480	pal-13237
							cal	AD	1816	-	cal	AD	1834	135	-	117	calBP	21.7		
							cal	AD	1890	-	cal	AD	1908	60	-	42	calBP	23.6		
						2 σ	cal	AD	1695	-	cal	AD	1725	256	-	225	calBP	28.6		
							cal	AD	1811	-	cal	AD	1862	140	-	88	calBP	31.5		
							cal	AD	1867	-	cal	AD	1917	83	-	33	calBP	35.3		

1) 年代値の算出には，Libby の半減期 5568 年を使用。
2) BP 年代値は，1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は，測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4) AAA は，酸・アルカリ・酸処理を示す。
5) 暦年の計算には，Oxcal v4.3 を使用。
6) 暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
7) 較正データーセットは Intcal13 を使用。
8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように，1 桁目を丸めていない。
9) 統計的に真の値が入る確率は，σが 68.2%，2 σが 95.4% である。

表 3. ウイグルマッチング結果

試料1		較正年代（calAD）						モデリング年代（calAD）					
		σ			2 σ			σ			2 σ		
		from	to	%	from	to	%	from	to	%	from	to	%
最外年輪年代		1751	1764	21.7	1748	1770	27.1						
		1871	1880	9.4	1865	1892	17.1						
		1912	1950	37.2	1904	1960	51.3						
	65-68	1690	1702	7.8	1683	1735	24	1721	1734	21.7	1718	1740	27.1
		1721	1728	4.3	1803	1930	71.4	1841	1850	9.4	1835	1862	17.1
		1809	1816	4.7				1882	1920	37.2	1874	1930	51.3
		1833	1890	41.8									
		1908	1922	9.6									
	30-45	1687	1700	7.9	1682	1738	24.2	1721	1734	21.7	1718	1740	27.1
		1721	1731	6	1754	1762	1.5	1841	1850	9.4	1835	1862	17.1
		1806	1815	5.3	1801	1938	69.7	1882	1920	37.2	1874	1930	51.3
		1834	1889	37.9									
		1908	1926	11.1									
	1-5	1675	1694	14	1670	1699	15.5	1751	1764	21.7	1748	1770	27.1
		1726	1744	13.6	1722	1780	30.5	1871	1880	9.4	1865	1892	17.1
		1750	1765	10.8	1796	1815	10.4	1912	1950	37.2	1904	1960	51.3
		1799	1812	9.8	1835	1885	17.1						
		1917	1942	20.2	1910		21.9						

試料2		較正年代（calAD）						モデリング年代（calAD）					
		σ			2 σ			σ			2 σ		
		from	to	%	from	to	%	from	to	%	from	to	%
最外年輪年代		1808	1816	68.3	1804	1819	95.4						
	44-46	1675	1692	13.7	1668	1698	16.3	1764	1772	68.3	1760	1775	95.4
		1727	1744	13.6	1723	1782	34.7						
		1749	1765	12.8	1796	1814	10.4						
		1799	1810	8.9	1836	1880	11.9						
		1920	1942	19.2	1912		22.2						
	20-25	1651	1666	40.1	1642	1673	55.4	1788	1796	68.3	1784	1799	95.4
		1784	1795	28.2	1777	1800	40.1						
	1-5	1695	1724	21.1	1691	1728	24.3	1808	1816	68.3	1804	1819	95.4
		1813	1839	18.6	1809	1920	71.1						
		1847	1851	2.5									
		1878	1916	26									

の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することによって，暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは，Intcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。2 σ の値は，試料 1 1-5 年が calAD1,670 ～ 1,950，試料 1 30-35 年が calAD1,682 ～ 1,938，試料 1 65-68 年が calAD1,683 ～ 1,930，試料 2 1-5 年が calAD1,691 ～ 1,920，試料 2 20-23 年が calAD1,642 ～ 1,800，試料 2 44-46 年が calAD1,668 ～ 1,950，試料 3 が calAD1,693 ～ 1,919，試料 4 が calAD1,695 ～ 1,917 である。いずれも年代幅が広いが，これは当該期の較正曲線が大きく波打っているためである（図 181）。

ウイグルマッチング法とは，年輪を持った樹木試料の放射性炭素年代測定に対し，較正曲線のウイグルを応用して年代値の絞り込みを行うものである（Bronk et al.,2001）。暦年較正ソフトである OxCal（Bronk,2009）では，ベイズ推定によるモデリングを行うことによって，14C ウイグルマッチングのためのモデルを作成することが可能である。OxCal のリファレンスマニュアルによれば，典型的な 14C ウイグルマッチングの場合，年輪試料を 10 年毎に測定し，かつ測定試料に樹皮が確認されたとき，10 年輪毎に分割した最終ブロックの年代から約 5 年後が樹木試料の伐採年代とされる。計算結果（表 3）を 2 σ の値でみると，試料 1 は calAD1,748 ～ 1,770，calAD1,865 ～ 1,892，calAD1,904 ～ 1,960 と収束しないが，試料 2 では，calAD1,804 ～ 1,819 と 19 世紀初頭に収束する（図 181）。

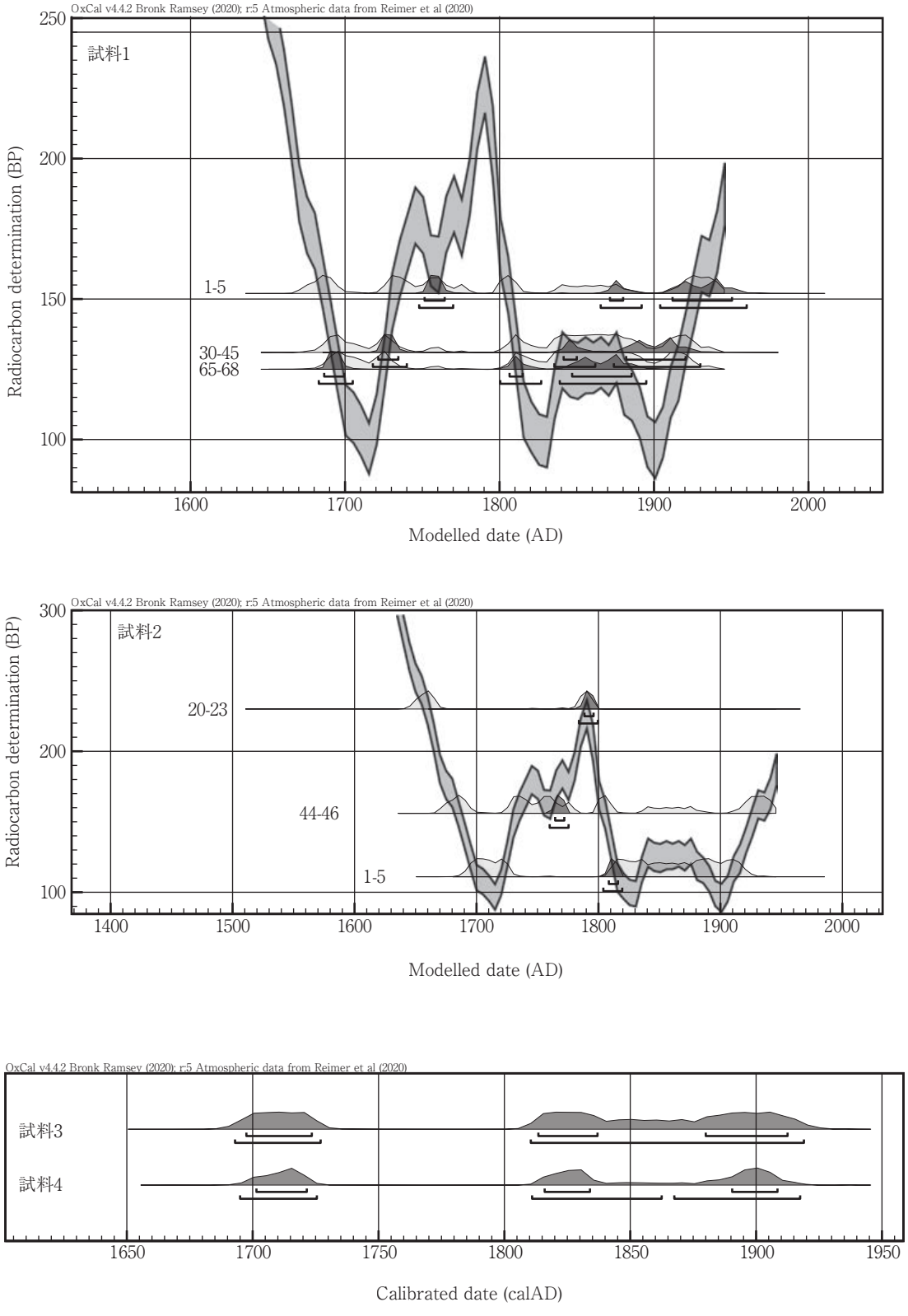


図181　モデリング年代・暦年較正結果

(4)考察

4点中3点の樹種は，マツ属複維管束亜属である。マツの木材は，油分が多く耐水性があること，成長が早く太い木が得やすいことから，土木材として使われることが多い。今回マツの利用が多いのは，木材の性質からみて，理にかなった使用法といえる。一方，マツは痩地に強く，成長が早い典型的な陽樹である。このため，土地条件が悪い場所や，何らかの要因で植生が失われた場所に先駆的に侵入し，二次林を構成する。このことから，マツは伐採地，崩壊地，海岸などに多く生育するほか，このような性質を生かしてしばしば植林される。遺跡の立地からみて，マツが生育する環境は周辺に多く存在したとみられ，入手しやすい樹木の一つであったといえる。

スギは水に強く，割裂性が良くて曲げに強い。また大径木が得られる良材であることから，建築材や器具材などさまざまな用途に使われる。高知県のような高温多湿な地域ではスギの生育に適しており，天然のスギ林が存在していたと思われる。さらに，江戸時代には森林の枯渇を防ぐため，木材の利用制限や植林を各地で積極的に行い，木材の保護･管理を強化したとされる（Totman,1989)。このことから，スギも山地を中心に多く成育していたとみられ，入手しやすい木材の一つであったと思われる。今回検出されたスギの木材は，心材と辺材の状態や年輪の状況から樹齢十数年程度の小径木と考えられる。このことから，間伐材など，建築材などの利用に不適な材を，杭として利用した可能性がある。

年代測定の結果，測定値は100～150年前を示す試料が多いため，19世紀頃に相当すると思われる。一方，暦年代にすると，17世紀～20世紀と幅が極端に広くなるが，これは較正曲線が大きく波打っているのが原因である。そこで，ウイグルマッチング法によるモデリングを試みた結果，試料1は値が収束しないが，試料2は，19世紀初頭に収束する。胴木はいずれも樹皮が付着していることから，伐採年代は19世紀初頭と考えられる。今回分析した木材の測定値はいずれも近似することから，他の木材も19世紀前半に伐採された可能性がある。なお，試料1の試料は，試料2に比べ，全体的に成長が遅く，さらに，極端に成長が遅い場所や，偽年輪のような箇所もみられた。試料1の暦年代が収束しない原因の一つとして，成長過程が不安定であったことが可能性としてあげられる。

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

Bronk RC., Plicht,J.,& Weninger B., 2001, Wiggle matching' radiocarbon dates. Radiocarbon, 43,381-389.

林　昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP).

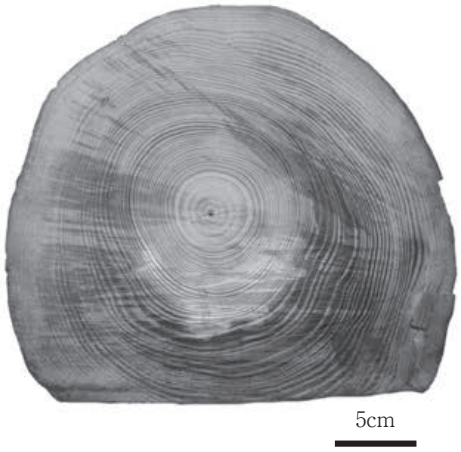
Radiocarbon, 62,1-33.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

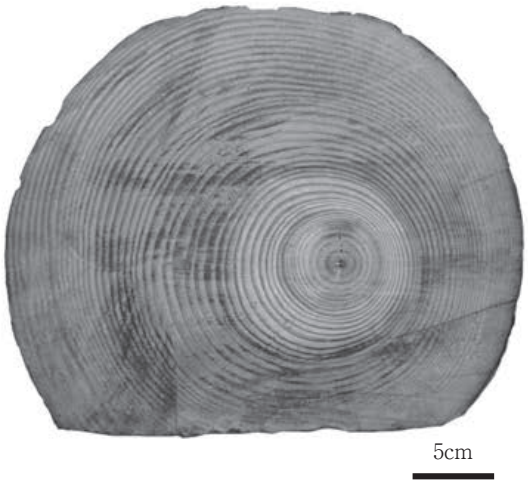
Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

Totman C.,1989,The Green Archipelago: Forestry in Pre-Industrial Japan.University of California Press,320p.

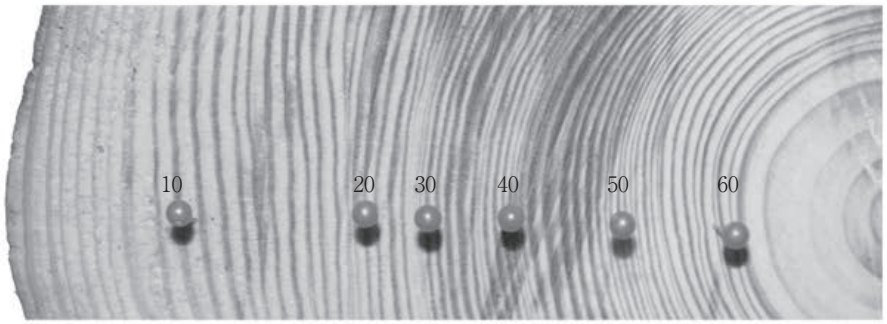
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



年代測定試料(試料1)

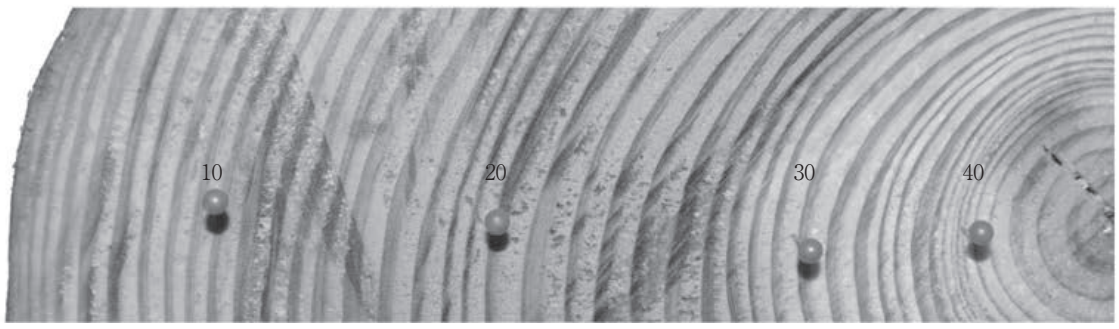


年代測定試料(試料2)



年代測定試料(試料1)

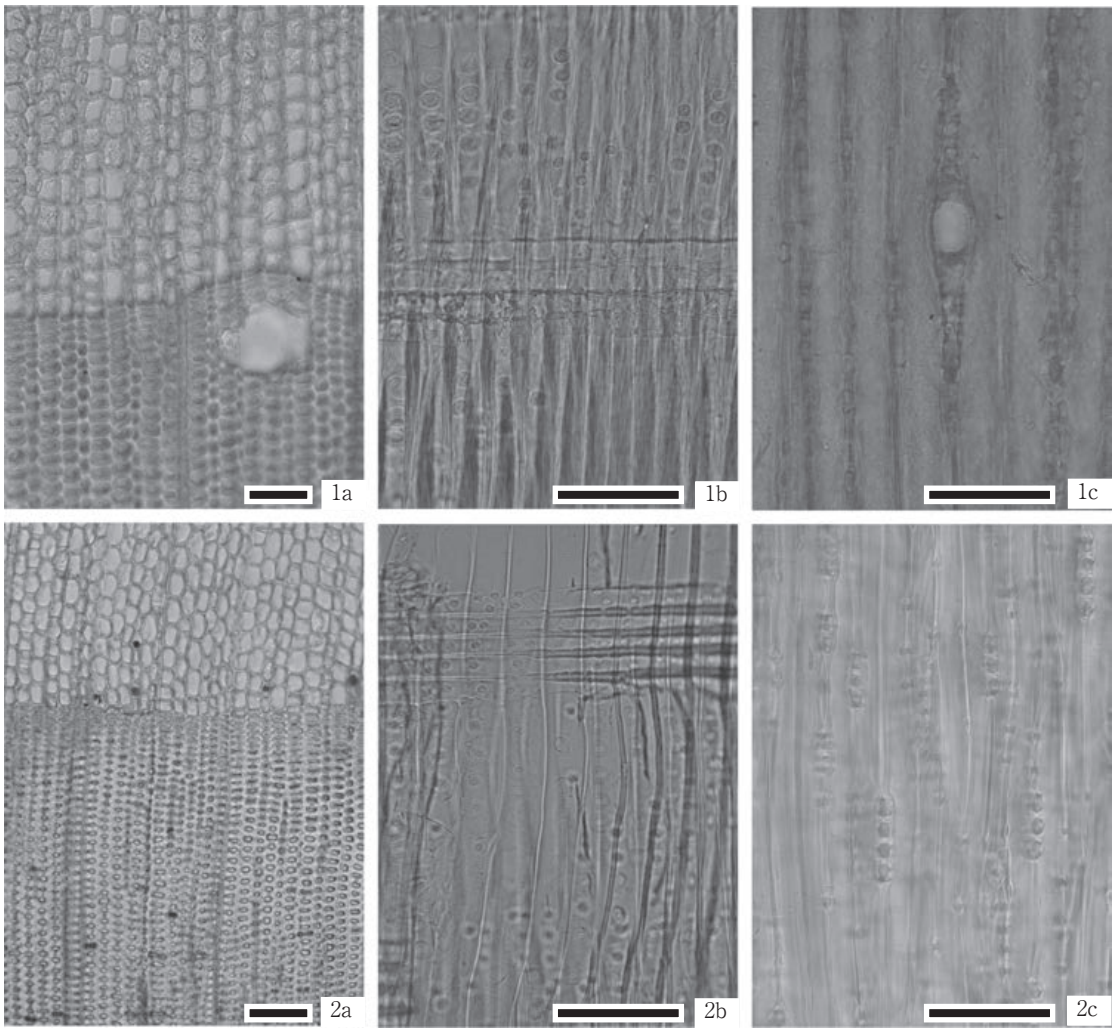
1cm



年代測定試料(試料2)

1cm

図182　木材(1)



1.マツ属複維管束亜属(試料2)
2.スギ(試料3)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

図183　木材(2)



図184　年代測定試料採取箇所

2.珪藻分析・花粉分析及び放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本分析調査では，高知城の堀としても機能した新堀川の堆積層について，環境変遷を調査することを目的として珪藻分析と花粉分析を実施する。また，各層から検出された有機物に関して放射性炭素年代測定を実施し，堆積物の年代に関る資料を得る。

⑴試料

試料は「新堀川護岸」のⅠ～Ⅵの６点である（図185）。珪藻分析と花粉分析はこれら６点の土壌を分析する。放射性炭素年代測定はⅤとⅥの土壌中に含まれる有機物を対象とする。Ⅴはシダ植物（ウラジロの類か?），Ⅵは暗赤色で薄く硬質な有機物？を抽出し，分析対象とする。

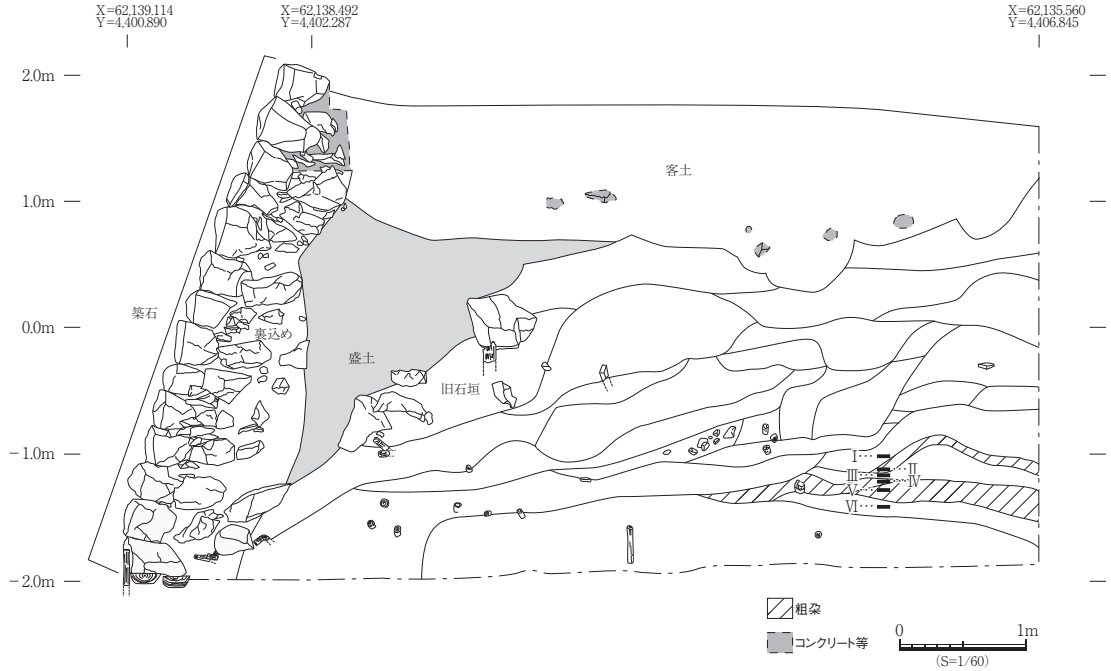


図185　試料採取箇所

⑵分析方法

①放射性炭素年代測定

試料は，塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去，水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去，塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸，水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。なお，Ⅵ層の有機物？は硬いが脆く，通常の分析では十分な炭素が回収できない恐れがあることから，塩酸処理のみにとどめる。試料の燃焼，二酸化炭素の精製，グラファイト化（鉄を触媒

とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし，測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて，14C の計数，13C 濃度（13C/12C），14C 濃度（14C/12C）を測定する。AMS 測定時に，米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ），国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等），バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ 13C は試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また，測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり，誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は，国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また，暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正用のソフトウエアは，Oxcal4.4（Bronk,2009），較正曲線は Intcal20（Reimer et al.,2020）である。

表 4. 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代												Code No.	
					年代値											確率 %		
V	シダ植物	AAA (1M)	330 ± 20 (330 ± 20)	-27.78 ± 0.33	σ	cal	AD	1505	-	cal	AD	1529	445	-	422	calBP	17.4	YU-15250	pal-13922
						cal	AD	1548	-	cal	AD	1596	403	-	355	calBP	37.4		
						cal	AD	1617	-	cal	AD	1634	334	-	316	calBP	13.5		
					2 σ	cal	AD	1490	-	cal	AD	1639	460	-	312	calBP	95.4		
Ⅵ	有機物？	HCl	1345 ± 20 (1343 ± 20)	-26.53 ± 0.29	σ	cal	AD	653	-	cal	AD	675	1297	-	1275	calBP	68.3	YU-15251	pal-13923
					2 σ	cal	AD	648	-	cal	AD	685	1302	-	1265	calBP	77.8		
						cal	AD	743	-	cal	AD	773	1207	-	1177	calBP	17.7		

1）年代値の算出には，Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は，1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は，測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は，酸・アルカリ・酸処理，HCl は塩酸処理を示す。
5）暦年の計算には，OxCal v4.4 を使用
6）暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
7）較正データーセットは，IntCal20 を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように，1 桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は，σが 68.2%，2 σが 95.4% である。

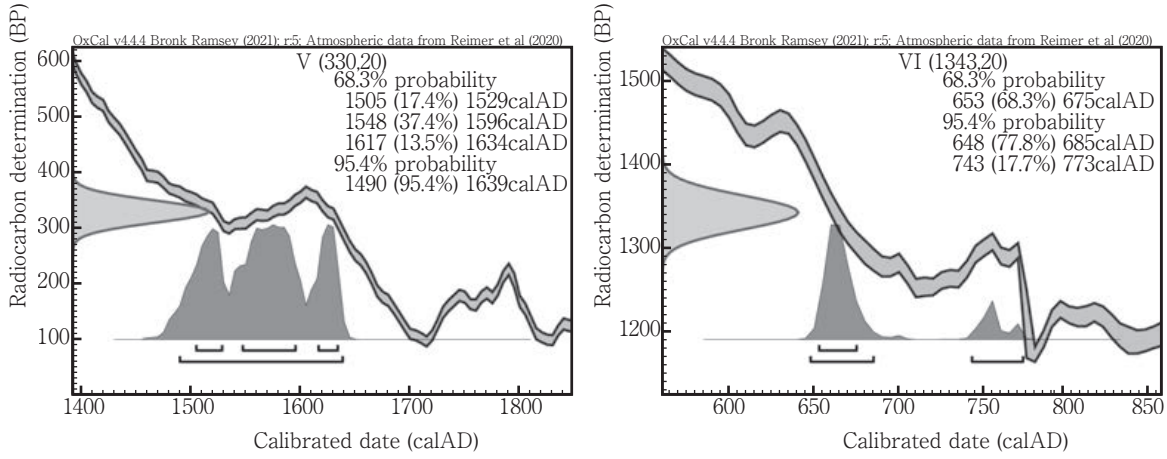


図186　暦年較正結果

②珪藻分析

湿重約 5g をビーカーに計り取り，過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に，分散剤を加えた後，蒸留水を満たし放置する。その後，上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し，珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4 ～ 5 回繰り返す。次に，自然沈降法による砂質分の除去を行い，検鏡し易い濃度に希釈し，カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し，スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は，油浸 600 倍または 1000 倍で行い，メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお，原則として，珪藻殻が半分以上破損したものについては，誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が産出した後は，示準種等の重要な種類の見落としがないように，全体を精査し，含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については，Horst Lange-Bertalot（2000），Hustedt（1930-1966），Krammer and Lange-Bertalot（1985 ～ 1991），Desikachiary（1987）などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は，まず塩分濃度に対する適応性により，海水生，海水～汽水生，汽水生，淡水生に生態分類し，さらにその中の淡水生種は，塩分，pH，水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示した。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が 100 個体以上産出した試料について図示する。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し，基本的に 1% 以上（産出種数により変更）の産出率を示す分類群について表示した。

③花粉分析

試料約 10g について，水酸化カリウムによる泥化，篩別，重液（臭化亜鉛，比重 2.2）による有機物の分離，フッ化水素酸による鉱物質の除去，アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い，物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し，400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し，出現する全ての種類について同定･計数する。同定は，当社保有の現生標本や島倉（1973），中村（1980），藤木・小澤（2007），三好ほか（2011）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表，及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは，種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を，草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として，百分率で出現率を算出し図示する。なお，木本花粉総数が 100 個未満のものは，統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので，出現した種類を＋で表示するにとどめておく。

(3)結果

①放射性炭素年代測定

結果を表 4，図 186 に示す。同位体補正を行った年代値は，Ⅴが 330 ± 20BP，Ⅵが 1345 ± 20BP である。

暦年較正は，大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動，その後訂正された半減期（14C

表 5. 珪藻分析結果

種類	生態性			環境	J区					
	塩分	pH	流水	指標種	I	II	III	IV	V	VI
Nitzschia lanceola Grunow	Euh			A,B	-	-	-	-	1	-
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			A,B	-	-	-	-	1	-
Thalassiosira hyalina (Grun.) Gran	Euh			A,B	1	-	-	-	-	-
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	13	13	2	2	28	1
Diploneis bombus (Ehr.) Ehrenberg ex Cleve	Euh-Meh			B	2	-	-	-	-	-
Diploneis spp.	Euh-Meh				1	-	-	-	-	-
Achnanthes brevipes C.Agardh	Meh			D1	5	14	4	1	5	-
Achnanthes spp.	Meh				2	2	-	-	-	-
Amphora coffeaeformis (Ag.) Kuetzing	Meh			E1,E2	1	-	-	-	-	-
Mastogloia braunii Grunow	Meh			E1,E2	1	-	-	-	-	-
Nitzschia cocconeiformis Grunow	Meh			E1	-	-	-	-	4	-
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	8	1	-	-	-	-
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh			E1	13	-	-	-	1	-
Nitzschia spp.	Meh				3	-	-	-	-	-
Pseudopodosira kosugii Tanimura et Sato	Meh			D1,E1	-	1	-	-	-	-
Thalassiosira bramaputrae (Ehr.) Hakansson & Locker	Meh			B	20	22	4	-	2	-
Amphora fontinalis Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	D,E	3	-	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	l-ph	U	9	2	-	-	-	-
Navicula gregaria Donkin	Ogh-Meh	al-il	ind	U	5	3	-	-	-	-
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	3	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-Meh	al-il	ind		4	2	-	-	-	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	2	4	-
Achnanthes japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,T	-	1	-	-	-	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	2	-	-	-	-
Amphora spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-
Aulacoseira crenulata (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	M,U	4	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	13	10	1	-	1	-
Cocconeis spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	-	-	-	1	-
Cyclotella radiosa (Grun.) Lemmermann(syno.:C. comta)	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	3	-	-	-	-	-
Cyclotella spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	-	-	-	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	3	1	-	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	12	12	3	2	2	-
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	1	-	-	-	-
Diatoma spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O	3	-	-	-	-	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	-	-	-	-	-
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	3	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	1	-	-	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	9	-	-	-	-	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	1	-	-	-	-
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	15	-	-	-	-	-
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	4	-	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	2	-	-	-	-
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		2	-	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	-	-	1	-
Melosira varians C.Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	3	-	-	-	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	2	-	-	-	-	-
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	3	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	3	-	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	2	-	-	-	-	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	3	-	-	-	-	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	2	-	-	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	4	-	-	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	-	-	-	-	-
Planothidium lanceolatum (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	2	2	-	-	-	-
Reimeria sinuata (Greg.) Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1	-	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lang-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	5	-	-	-	-	-
海水生種					1	0	0	0	2	0
海水～汽水生種					16	13	2	2	28	1
汽水生種					53	40	8	1	12	0
淡水～汽水生種					24	7	0	2	4	0
淡水生種					109	47	4	2	5	0
珪藻化石総数					203	107	14	7	51	1

凡例

塩分 : 塩分濃度に対する適応性　pH: 水素イオン濃度に対する適応性　流水 : 流水に対する適応性
Euh　: 海水生種　al-bi: 真アルカリ性種　l-bi: 真止水性種
Euh-Meh: 海水生種 - 汽水生種　al-il: 好アルカリ性種　l-ph: 好止水性種
Meh　: 汽水生種　ind　:pH 不定性種　ind : 流水不定性種
Ogh-Meh: 淡水生種 - 汽水生種　ac-il: 好酸性種　r-ph: 好流水性種
Ogh-hil: 貧塩好塩性種　ac-bi: 真酸性種　r-bi: 真流水性種
Ogh-ind: 貧塩不定性種　unk　:pH 不明種　unk : 流水不明種
Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種
Ogh-unk: 貧塩不明種
環境指標種
A: 外洋指標種　B: 内湾指標種　C1: 海水藻場指標種　C2: 汽水藻場指標種
D1: 海水砂質干潟指標種　D2: 汽水砂質干潟指標種
E1: 海水泥質干潟指標種　E2: 汽水泥質干潟指標種　F: 淡水底生種群 (以上は小杉 ,1988)
G: 淡水浮遊生種群　H: 河口浮遊性種群　J: 上流性河川指標種　K: 中～下流性河川指標種
L: 最下流性河川指標種群　M: 湖沼浮遊性種　N: 湖沼沼沢湿地指標種　O: 沼沢湿地付着生種
P: 高層湿原指標種群　Q: 陸域指標種群 (以上は安藤 ,1990)
S: 好汚濁性種　U: 広適応性種　T: 好清水性種 (以上は Asai and Watanabe,1995)
R: 陸生珪藻 (RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分，伊藤・堀内 ,1991)

の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって，暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは，Intcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。2 σ の値は，Ⅴが calAD1490 ～ 1639，Ⅵが calAD648 ～ 773 である。

②珪藻分析

結果を表 5，図 187 に示す。分析した 6 試料すべて珪藻殻は産出したが，Ⅰ，Ⅱの 2 試料からは 100 個体以上産出したが，その他の試料からの産出数は少なかった。全体的に保存状態は，完形殻もあるが一部の殻は壊れており，一部の殻に溶解の痕跡があるため，普通～不良である。

Ⅵからは，海水～汽水生種が 1 個体検出されたのみである。

Ⅴ～Ⅲは検出個数が少ない。分類群は，海水～汽水生種を主とする。産出した種は，海水～汽水生種の Cocconeis scutellum，汽水生種の Achnanthes brevipes，Thalassiosira bramaputrae，Nitzschia cocconeiformis，淡水～汽水の Rhopalodia gibberula 等である。

Ⅱからは 107 個体産出した。産出した分類群は，汽水生種を主として，海水～汽水生種，淡水～汽水生種，淡水生種を伴う種群で構成される。産出した種は，海水～汽水生種の Cocconeis scutellum，汽水生種の Achnanthes brevipes，Thalassiosira bramaputrae，淡水生種で流水性種の Cocconeis placentula var. lineata，Cymbella turgidula 等である。

Ⅰからは 200 個体以上産出した。産出した分類群は，淡水生種を主として，海水～汽水生種，汽水生種，淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。特徴的に産出した種は，海水～汽水生種の Cocconeis scutellum，汽水生種の Nitzschia levidensis，Thalassiosira bramaputrae，淡水生種で流水性種の Cocconeis placentula var. lineata，Cymbella turgidula 等である。

③花粉分析

結果を表 6，図 188 に示す。花粉化石の産出状況は概ね良好で，保存状態も普通～やや悪い程度である。花粉化石はⅠ，Ⅳ，Ⅴから豊富に，Ⅱからかろうじて定量解析が行える程度の産出が認め

られた。花粉化石群集はいずれの試料も多産する種類は類似しており，木本花粉ではツガ属，マツ属，コナラ属アカガシ亜属が多く認められる。その他ではモミ属，スギ属，ハンノキ属，コナラ属コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し，カヤツリグサ科，クワ科，タデ属，ヨモギ属などを伴う。また，ガマ属，スブタ属，ミズアオイ属，ゴキヅル属，ミズワラビ属，サンショウモなどの水湿地生植物に由来する花粉，胞子も確認された。

花粉化石の産状が悪かったⅢ，Ⅵでも，木本花粉ではツガ属，マツ属など，草本花粉ではイネ科，クワ科など，前述の試料で多く認められた種類が確認されている。

⑷考察

年代測定の結果，Ⅴ層は前回の結果よりもやや古く中世末の年代値を示す。Ⅵは７世紀～８世紀を示し，極端に古い。層位的関係から，Ⅵ層の有機物？は，Ⅵ層の年代を反映していないと思われる。理由としては再堆積したか，あるいは古い有機物を含んだ鉄分がクラック等に集積して固化した（色調が赤っぽいため）などが考えられる。したがって，今回分析を行ったⅠ～Ⅵは中世末以降の堆積物であると考え，古環境について述べる。

Ⅵ～Ⅰの花粉化石群集を見ると，産出が悪いⅥ，Ⅲでも，検出される種類は他の試料で認められる種類であることから，全試料を通じて花粉化石群集組成に大きな差はないと判断される。よって，J区のⅥ～Ⅰ堆積時の周辺植生に，大きな変化はなかったと推測される。

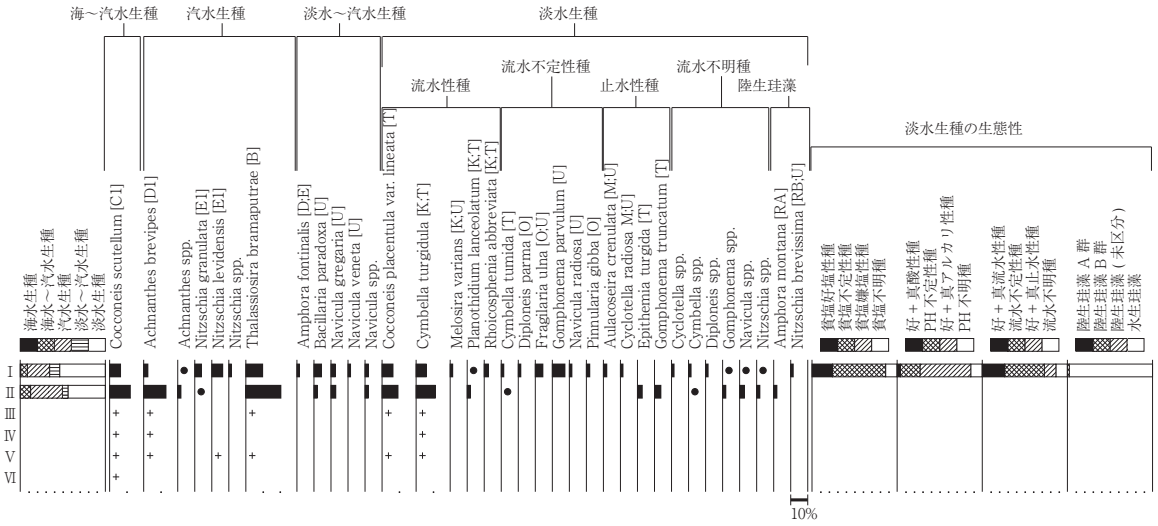
周辺の森林植生を反映する木本類についてみると，モミ属，ツガ属，マツ属などの針葉樹，コナラ属アカガシ亜属などの常緑広葉樹，ハンノキ属，コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹が認められる。アカガシ亜属はヤマモモ属，シイノキ属などとともに暖温帯性常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要構成要素であり，ツガ属，スギ属などは照葉樹林帯とそれより高い（あるいは北方の）山地にあるブナ帯の間を埋める温帯針葉樹林の構成要素である。よって，周辺にはこれらが林分を形成していたと考えられる。また，マツ属は極端な陽樹であり，生育の適応範囲も広いことから，他の種類の生育に不適の土地や伐採された土地などに生育する。前報の樹種同定でもマツが多かったことから，当時の周辺に二次林などとして分布していた可能性がある。マツは護岸などを目的として植栽されることも多いため，当時周辺に植えられていた可能性もある。コナラ亜属，ハンノキ属は河畔などに生育する種を含み，ヤナギ属，サワグルミ属，クルミ属，クマシデ属―アサダ属，ニレ属―ケヤキ属，エノキ属―ムクノキ属なども同様である。これらは江ノ口川や堀川などの周辺河川沿いに生育した可能性がある。このように，さまざまな生態を持つ花粉化石がみられるのは，調査地点が河口部であるため，山間部から海岸に至る様々な集水域から花粉化石が運ばれ堆積したためと思われる。

草本類はイネ科が最も多く，カヤツリグサ科，クワ科，タデ属，ヨモギ属などが認められる。これらはいずれも開けた明るい場所に生育する「人里植物」を多く含む分類群である。その他にも同様な生育環境を示す種類が検出されることから，調査区内の草地などに由来すると思われる。また，ガマ属，スブタ属，ミズアオイ属，ゴキヅル属などの水湿地生草本，ミズワラビ属，サンショウモなどの水生シダ類も検出されたことから，これらは周囲の水湿地に由来すると推測される。

珪藻化石が多く検出されたのはⅠ，Ⅱのみだが，珪藻化石が少ない試料も傾向は似ており，海水生～淡水生まで様々な生態性をもつ珪藻化石が混在する。

表 6. 花粉分析結果

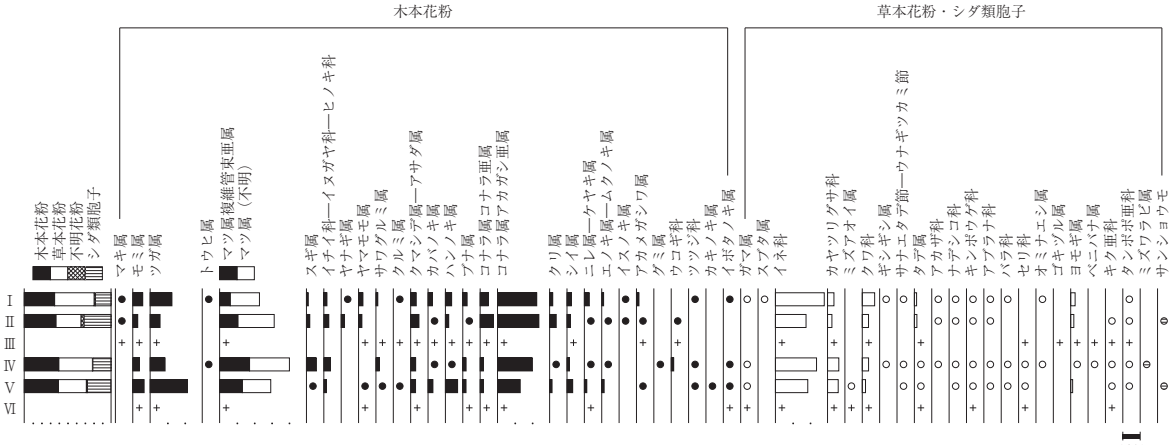
種　類	J区 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
木本花粉						
マキ属	1	1	1	-	-	-
モミ属	16	3	3	8	14	6
ツガ属	35	6	10	18	46	12
トウヒ属	1	-	-	1	-	-
マツ属複維管束亜属	17	11	8	36	28	7
マツ属（不明）	47	22	9	48	35	11
スギ属	3	2	-	12	1	-
イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科	5	3	-	8	3	-
ヤナギ属	2	2	-	-	-	-
ヤマモモ属	7	2	1	-	1	2
サワグルミ属	3	-	1	4	1	-
クルミ属	2	-	1	-	1	-
クマシデ属―アサダ属	9	5	1	6	6	1
カバノキ属	7	1	1	1	6	-
ハンノキ属	10	2	1	1	15	-
ブナ属	7	1	1	4	4	1
コナラ属コナラ亜属	13	8	1	4	4	2
コナラ属アカガシ亜属	63	25	3	42	28	2
クリ属	5	4	-	1	3	-
シイ属	7	2	1	3	7	-
ニレ属―ケヤキ属	8	1	-	2	3	1
エノキ属―ムクノキ属	3	1	-	1	3	-
イスノキ属	1	1	-	-	-	-
キハダ属	-	-	1	-	-	-
アカメガシワ属	4	1	1	-	1	-
グミ属	-	-	-	1	-	-
ウコギ科	-	1	1	3	-	-
ツツジ科	1	-	-	2	1	-
カキノキ属	-	-	-	-	1	-
ハイノキ属	-	-	-	1	-	-
イボタノキ属	2	-	-	2	2	3
草本花粉						
ガマ属	1	-	-	1	4	1
スブタ属	1	-	-	-	-	-
イネ科	221	49	14	124	100	13
カヤツリグサ科	29	7	1	34	33	2
ミズアオイ属	-	-	-	-	1	1
クワ科	56	10	3	19	10	3
ギシギシ属	1	-	-	1	-	-
サナエタデ節―ウナギツカミ節	2	-	-	1	3	-
タデ属	10	4	2	3	1	2
アカザ科	4	1	-	2	-	-
ナデシコ科	4	1	-	2	2	-
カラマツソウ属	-	-	-	-	-	1
キンポウゲ属	1	-	-	-	-	-
キンポウゲ科	2	1	-	1	2	1
アブラナ科	1	1	-	4	1	-
バラ科	1	-	-	1	1	-
マメ科	1	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	-	-	-	-	1	-
セリ科	-	-	1	2	2	1
オオバコ属	2	-	-	-	-	-
オミナエシ属	1	-	-	1	-	-
ゴキヅル属	-	-	1	-	-	-
ヨモギ属	20	5	4	3	6	-
ベニバナ属	-	-	1	1	-	-
キク亜科	-	2	2	3	4	1
タンポポ亜科	5	2	1	1	4	-
不明花粉						
不明花粉	12	10	4	2	7	5
シダ類胞子						
ゼンマイ属	1	1	-	1	3	-
イノモトソウ属	6	4	3	3	8	1
ミズワラビ属	-	-	-	1	-	-
サンショウモ	-	1	-	-	1	-
他のシダ類胞子	137	84	41	106	135	30
合　計						
木本花粉	279	105	46	209	214	48
草本花粉	363	83	30	204	175	26
不明花粉	12	10	4	2	7	5
シダ類胞子	144	90	44	111	147	31
合計（不明を除く）	786	278	120	524	536	105



海水−汽水−淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

環境指標種
B:内湾指標種 C1:海洋藻場指標種 D:海水砂質干潟指標種 E1:海水泥質干潟指標種(以上は小杉,1988)
K:中～下流性河川指標種 M:湖沼浮遊性種 O:沼沢湿地付着生種 (以上は安藤,1990)
S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種(以上はAsai & Watanabe,1995) R:陸生珪藻（RA:A群,RB:B群;伊藤・堀内,1991）

図187　主要珪藻化石群集



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。
丸印は1% 未満、＋は木本花粉 100 個未満の試料において検出された種類を示す。

図188　主要花粉化石群集

産出した種の生態性について述べると，海水～汽水生種の Cocconeis scutellum は，塩分濃度が 12 パーミル以上の水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群とされ，海水藻場指標種群（小杉 ,1988）と呼ばれている。汽水生種の Achnanthes brevipes は，海水砂質干潟の指標種群とされる（小杉 ,1988）。海水砂質干潟とは，塩分濃度が 26 パーミル以上の水域の砂底（砂の表面や砂粒間）であり，このような場所にはウミニナ類，キサゴ類，アサリ，ハマグリ類などの貝類が生活するとされる。汽水生種の Thalassiosira bramaputrae は，一般には汽水生種とされ，内湾等には普遍的に認められる種である。Nitzschia cocconeiformis は，海水泥質干潟の代表種（小杉 ,1988）とされ，閉塞性の高い塩性湿地や閉塞性の高い塩性湿地などに付着生活する種として知られている。Nitzschia levidensis は，沿岸部の汽水域でも泥質の干潟に特徴的に認められる種である。淡水～汽水生種の Rhopalodia gibberula は，好塩性種であり，Cholnoky（1968）によれば，本種は高 pH の水域を好むとしている。本種は，基本的には淡水生種であるが，前述のように塩分に対しては，他の種群にくらべて耐性が高いため，沿岸部の海水の影響がおよんで，塩分濃度が高くなる後背湿地をはじめ，湿地や河岸などで比較的，水が停滞することの多い場所（淀み）などの水中の塩類濃度が高い水域に特徴的に認められる。淡水生種で流水性種の Cocconeis placentula var. lineata は，河川等の流水域の基物（礫等）に大型の藻類と共に付着生育する種である。流水性種の Cymbella turgidula は，中～下流性河川指標種群（安藤 ,1990）と呼ばれ，河川沿いの河成段丘，扇状地および自然堤防，後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現するとされる。

以上の産出した種の生態性と群集の特徴から堆積時の環境を推定すると，調査地点は河口に近く，海水と淡水両方の影響も受けていたと思われる。このため，様々な生態性を持つ珪藻化石が流入して今回見られるような群集になったと思われる。ただし，基本的には河口部にみられる汽水的環境であったと考えられる。このことは，花粉分析でみられる水生植物が，河口付近の河跡湖や潟湖などに普通にみられる種類であることからも調和的といえる。

引用文献

安藤一男,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88. ,1990

Asai Kazumi&Watanabe Toshiharu,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,35-47. ,1995

Bronk RC. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360. , 2009

Cholnoky, B. J., Die Oekologie der Diatomeen in Binnengewassern. p. 699. Lehre(Cramer). , 1968

千木良雅弘,風化と崩壊.近未来社,204p. ,1995

Desikachary, T. V., Atlas of Diatoms. Marine Diatom of the Indian Ocean. Madras science foundation,1-13, Plates,401-621. , 1987

藤木利之・小澤智生,琉球列島産植物花粉図鑑.アクアコーラル企画,155p. ,2007

Hustedt, F., Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p. , 1930

Hustedt, F., Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p. , 1937-1938

Hustedt, F., Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p. , 1959

Hustedt, F., Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p. , 1961-1966

伊藤良永・堀内誠示,古環境解析からみた陸生珪藻の検討 －陸生珪藻の細分－. 日本珪藻学会第10回大会講演要旨集,17. ,1989

伊藤良永・堀内誠示,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.日本珪藻学誌,6,23-44. ,1991

小杉正人,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究,27,1-20. ,1988

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, vol. 9,p.250. , 1985

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1) :876p. , 1986

Krammer, K. & Lange-Bertalot H. Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2): 596p. , 1988,

Krammer, K. & Lange-Bertalot H., Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576p. , 1990

Krammer, K. & Lange-Bertalot H. a, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4):437p. , 1991

Lange-Bertalot, H., Witowski, A., Metzeltin, D.,2000,ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts ,1,925p.

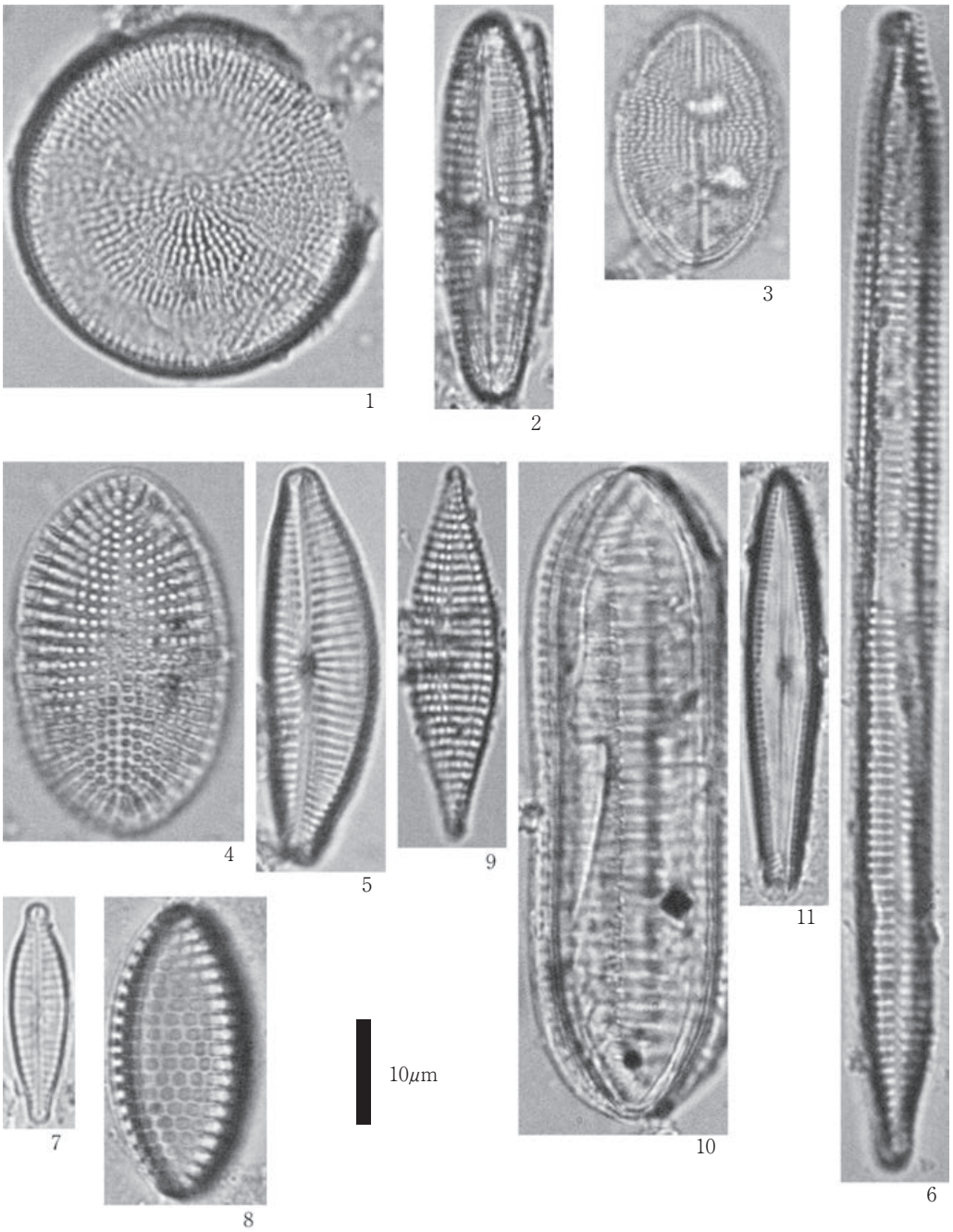
三好教夫・藤木利之・木村裕子,日本産花粉図鑑.北海道大学出版会,824p. ,2011

中村 純,日本産花粉の標徴 Ⅰ Ⅱ(図版).大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p. ,1980

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33.

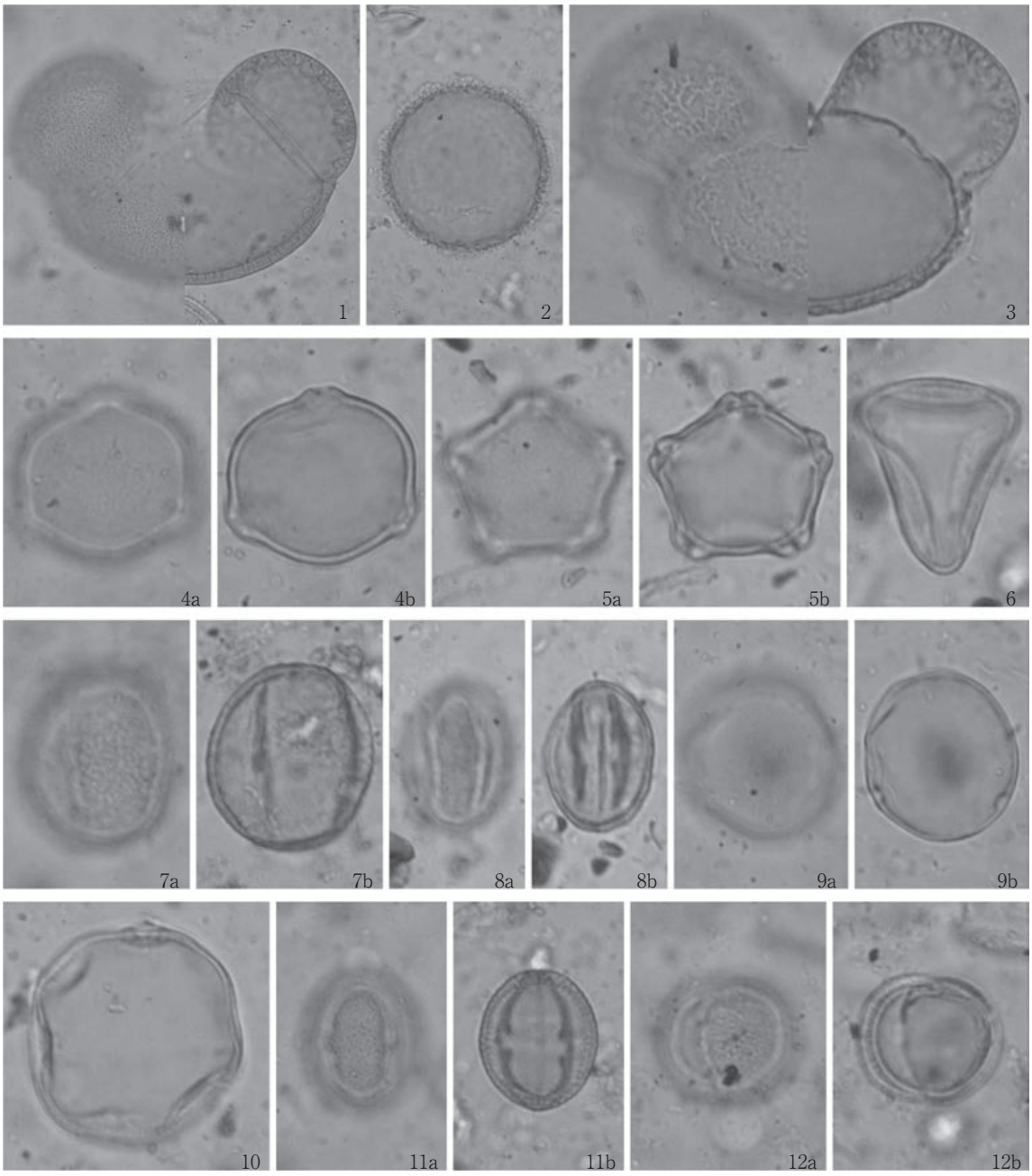
島倉巳三郎,日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p. ,1973

Stuiver M., & Polach AH., Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363. , 1977



1.Thalassiosira bramaputrae (Ehr.) Hakansson & Locker (J区;I)
2.Achnanthes brevipes C.Agardh (J区;I)
3.Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve (J区;I)
4.Cocconeis scutellum Ehrenberg (J区;I)
5.Cymbella turgidula Grunow (J区;I)
6.Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot (J区;I)
7.Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing (J区;I)
8.Nitzschia granulata Grunow (J区;I)
9.Nitzschia lanceola Grunow (J区;V)
10.Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow (J区;I)
11.Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lang-Bertalot (J区;I)

図189　珪藻化石



1.モミ属(J区;V)
2.ツガ属(J区;V)
3.マツ属(J区;I)
4.クマシデ属―アサダ属(J区;I)
5.ハンノキ属(J区;I)
6.カヤツリグサ科(J区;I)
7.コナラ属コナラ亜属(J区;II)
8.コナラ属アカガシ亜属(J区;I)
9.クワ科(J区;I)
10.イネ科(J区;I)
11.タデ属(J区;I)
12.ヨモギ属(J区;V)

図190　花粉化石

第Ⅵ章　まとめ

1. 胴木について(図192)

護岸に使用されていた胴木は大きく3種類に分類できた。ここでは，旧石垣に伴い皮を剥がず，両端を切り出した部分などに一辺10cm前後で四角のホゾ穴を切り出し，丸杭を打ち込んでいるものをＡ類，亀甲積みに伴い胴木の断面形が長方形を呈しているものをＢ類，また，Ｌ区の掘削によって検出した梯子胴木をＣ類とする(図191･192)。

Ａ類とＢ類は2本の胴木をわずかにずらし，組み合わせて使用していた。Ａ類は両端を半裁するように切り出していたため，端部同士を重ねることも可能だったはずであるが，そういった施工はみられなかった。A類は旧石垣の下だけではなく，立面7の石垣まで続いていた。立面7の石垣と胴木の変化点が一致しないことや(図192)，背面状況，出土した遺物との関係より，石垣改修は必要最低限に抑えられ，胴木以外の根石より上が改められたと考えられる。

Ｂ類は川側に角杭を打ち固定しており，それ以上の痕跡は確認できなかった。また，Ａ類より胴木同士の重なりは小さい。



図191　胴木Ａ･Ｂ類断面

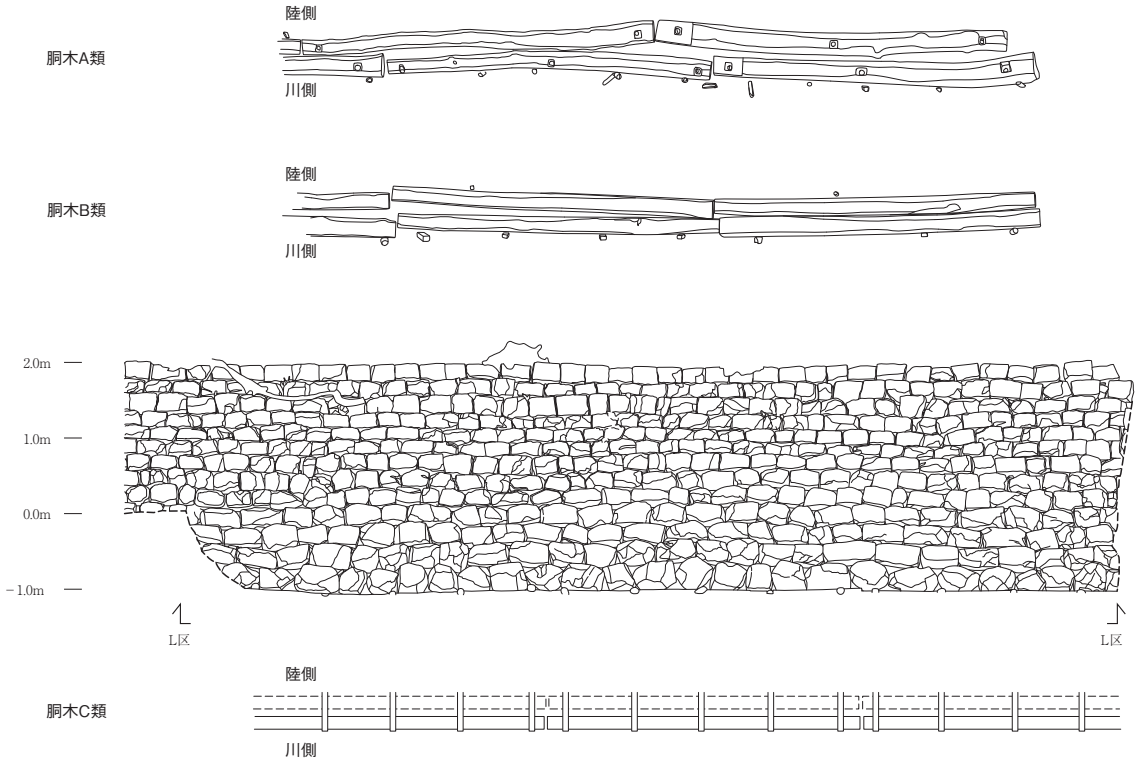


図192　胴木模式図

C類は梯子胴木であったが，石垣解体は行わず根入れの掘削のみであったため，立面より模式図を作成した。木材の分析は行っていない。梯子胴木は2本胴木にV字状ないし凹字状の切り込みが入り，そこに桟木が配置される。裏込め石の充填などがわずかにみられた。C類は樹皮などはついておらず，解体もしていないため樹種は不明である。



図193　胴木と根石

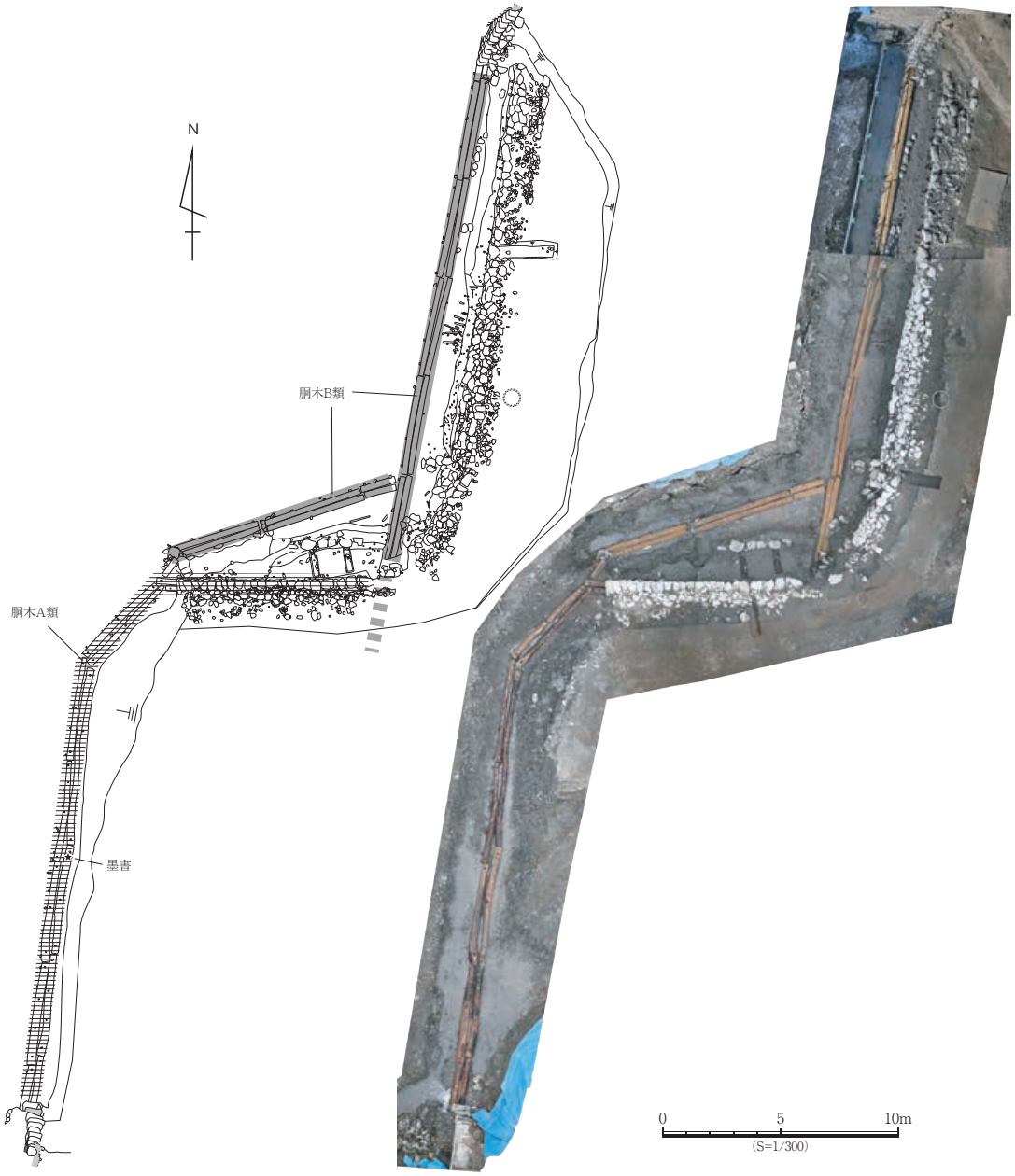


図194　平面胴木

胴木を洗浄しているなかで墨書のある胴木を検出した（図195）。墨書は端部の削り出した箇所に「二印御木竪□　一印□」の文字がみられる。通常，材木を「御木」と称することは御神木や下げ渡された場合であるが，そういったものを胴木として使用する例は極めて少なく，比較は困難である。

この部分は新設する石垣に干渉するため取り上げることが決定していた。それに伴い，取り上げて墨書部分の保存処理を行った。また，この胴木に関してパリノ・サーヴェイ株式会社に樹種同定及び放射性炭素年代測定を委託した。先述したが，墨書胴木は年輪数46年のマツ属複維管束亜属である。ウイグルマッチング法を用いたところ，伐採年代は1804～1819年，19世紀初頭に収束したため，胴木として施工されたのはそれ以降である。



図195　丸太胴木文字部分

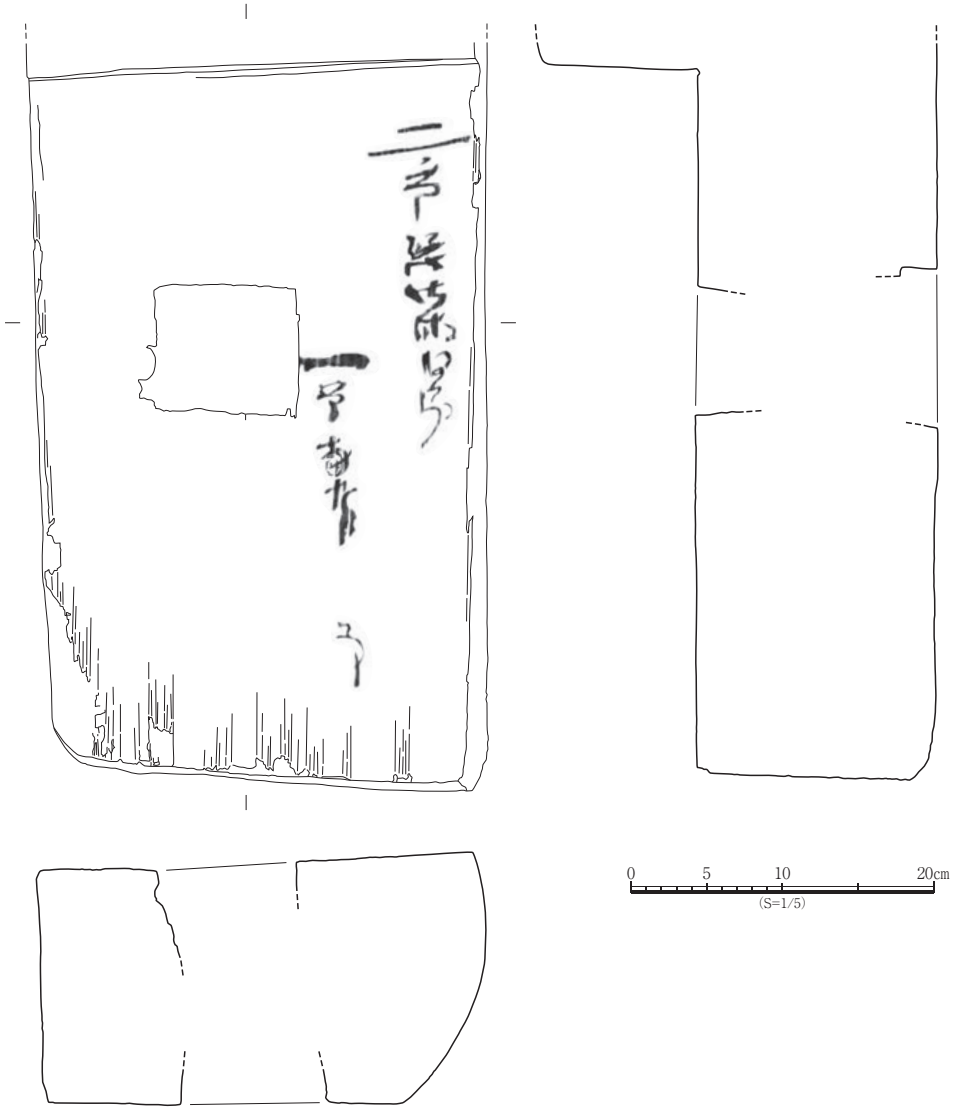


図196　墨書胴木実測図

2. 旧石垣について

調査前より露出していた石垣の背面より旧石垣を検出した。この旧石垣は2分割でき，ここでは主軸方向がN－10°－Eの石垣を北旧石垣，主軸方向がN－90°の東西に軸を持つ石垣を南旧石垣とする。なお，両者とも使用されている石材はほぼ石灰岩であった。

北旧石垣は検出長21.5m，検出高1.1mである。なお，北端部は調査区外へ続き，南端部は立面5に切られる。天端も検出できておらず，石垣が破損した際に崩落したか，立面5の構築時に撹乱されたと考えられる。胴木を持たず，下部構造は径10cm前後の杭郡がみられるのみである。築石は一石の幅が70～80cm，高さは30～40cmのものが多く，乱積みされる。

南旧石垣は検出長8.3m，検出高1.2mである。東端部は立面5に切られ，西端部は立面7に切られる。胴木は先述した胴木A類の胴木を持つが，西に向かって4度の傾斜で下がる。構築時は平坦でその後沈下した可能性を考えたが，胴木の勾配に合わせて段を構築しているため，構築時より傾斜を持っていたと考えられる。築石は西から東にかけて構築されていた。一石の幅が30～40cm，高さは20～30cmほどのものがほとんどを占めており，北石垣よりやや小ぶりである。

南旧石垣は西に向かって傾斜していることに対して，それを覆う石垣6は傾斜ではなく，西の胴木が一段低い段差になっている。段差に構築時期の違いはなく，低い胴木に砕石を積み段をつけて胴木を設置していることから意図したものである。横堀のクランクは正保段階より明確に図示されており，新堀に入るための旋回ないし荷上げのための空間と仮定していた。そのため凹凸が生まれ凸部分の石垣に水流や災害時のダメージが集中する部分であるといえる。よって低くすることで対策を図ったと仮説を立てたい。川の侵食によって勾配が生まれ，それに沿って石垣を構築した可能性もあるが，南旧石垣の胴木は－1m前後の高さで検出しており，立面6の胴木は－2.4m前後である。



図197　胴木・旧石垣検出状態（一部合成）

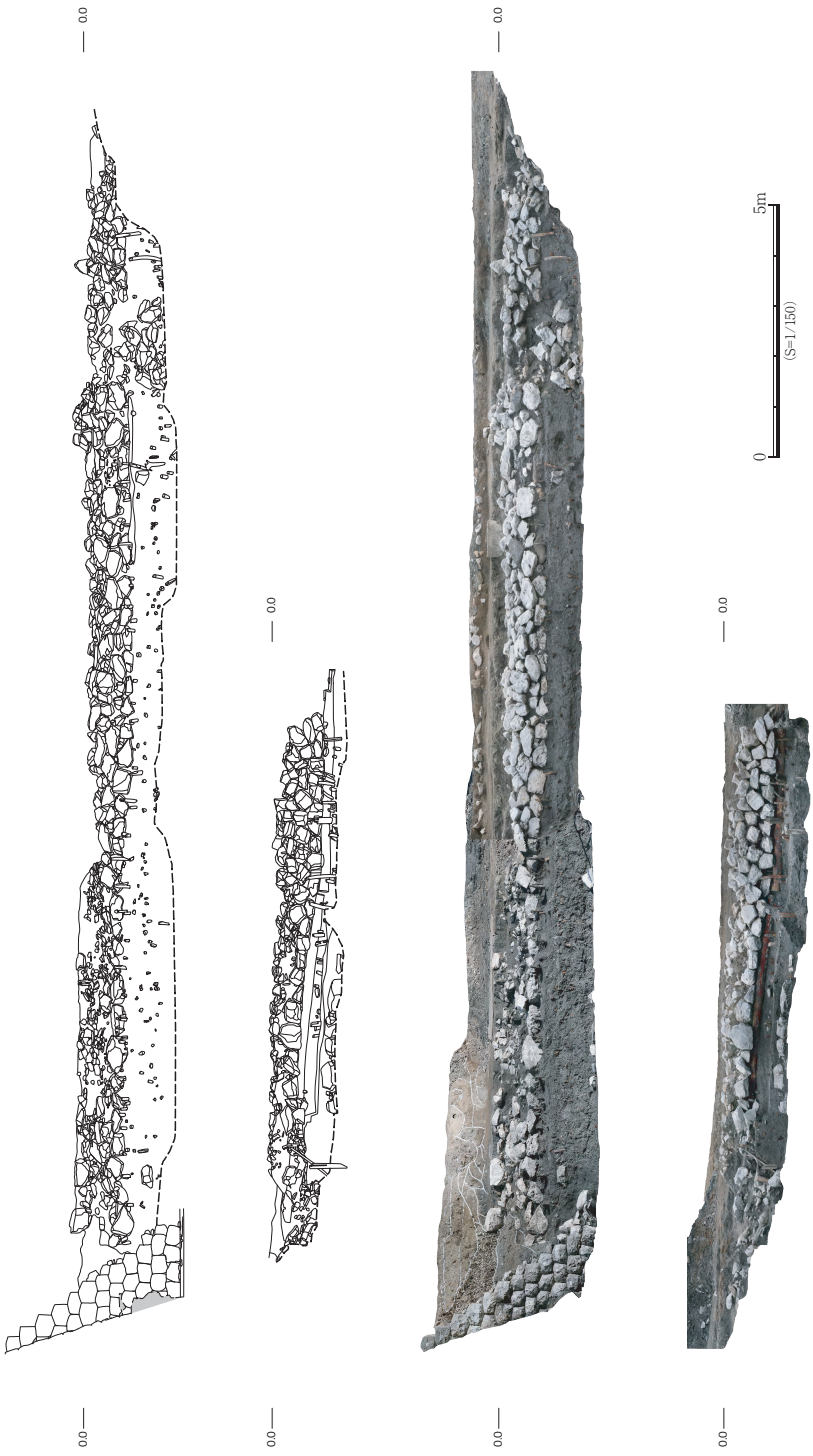


図198　立面旧石垣

そのため，南旧石垣については川の侵食による勾配や堀の川床勾配を踏襲して傾斜を持たせた可能性は払拭できないが，少なくとも立面6においては意図的に段差を持たせて掘削を行い，あわせて石垣を構築している。

3. 石垣の変遷

石垣の構築順について表記した。①は北旧石垣と呼称した箇所である。②は南旧石垣と呼称した。③は立面5と立面6－1，④は立面7，⑤は立面6－2と立面7である。

構築順は①と②については明確な前後が不明であるが，胴木の技術などから①が古く，②が新しいと考えられる。コーナー部分が③によって撹乱されているが，石垣の基底部が－0.9m前後に収まることや布積みに満たない積み方であることから時期差は小さいと思われる。②は一部しか築石を確認できなかったが，胴木が施工された当初は残存していた築石と同じように不揃いの石灰岩が乱積みされていたと考えられる。

その後，③の石垣が築かれる。③の石垣は南北軸の石垣が先に築かれ，次に東西の石垣という順序である。③については胴木と築石に矛盾がなく，築石の背面より明治期の遺物が出土していることから胴木を含めて明治期以降の構築である。

③との前後は不明であるが，②の築石のみ除去され，④の築石が構築される。④の根石は②の胴木の継ぎ目に沿って加工されていることや，新堀川の築石のなかでは堅牢なつくりになっており，高い技術がみられる。胴木付近からは遺物量が少なく，天端付近は冒頭でも触れた台風10号の撹乱かつ復旧のため戦後の遺物が多くみられた。そのため明確な時期は不明である。この部分の写真については第Ⅱ章に掲載している(図17)。

その後，⑤の石垣が構築されるが，空石積みの技術はみられず大小様々な石が練り積みされる。これらは隙間が大きく，隙間から遺物が多く流入していたため構築時の遺物と混在していた。

4. 文献史と発掘調査成果について

新堀川周辺における歴史は，中世終末期～江戸時代初期に粗朶を用いた地盤改良が行われたことが下限であると考えられる。地盤改良に使用された粗朶の分析結果が1600年前後であったことや，その時期が山内一豊入城という画期と重なり，菜園場という地名も藩主用菜園所があったことに由来する。寛永2(1625)年には新堀開削の文書も存在することから，城下町の整備の中で一帯が形作られたと考えられる。

17世紀後半には横堀周辺の整備が進み，貞享元(1684)年には堀川が東西に開通する。それまでは納屋堀方面より堀川に合流していた。貞享4(1687)年ごろには江ノ口川と横堀が開通することが長帳甲101号の文書にみられる。ここでは「横堀」と明確に記載されており，それが江ノ口川と合流することから地理的にも東西の堀が横堀として認識できる重要な資料である。18世紀になると城郭都市としての機能が希薄になり，福岡宮内の船屋から民間に土地が払い下げられ，明和9(1772)年に木屋竹村家が出店し，頭角を表していく。天保元(1830)年の「天保元年高知之圖」では菜園場の表記の隣に「木屋」の表記がみられ，菜園場橋の名も木屋橋に変わり，橋名は今に至るまで変わっていない。

当初より工事アドバイザー会議などで議題に挙がっていた横堀の土手について，天明8(1788)年

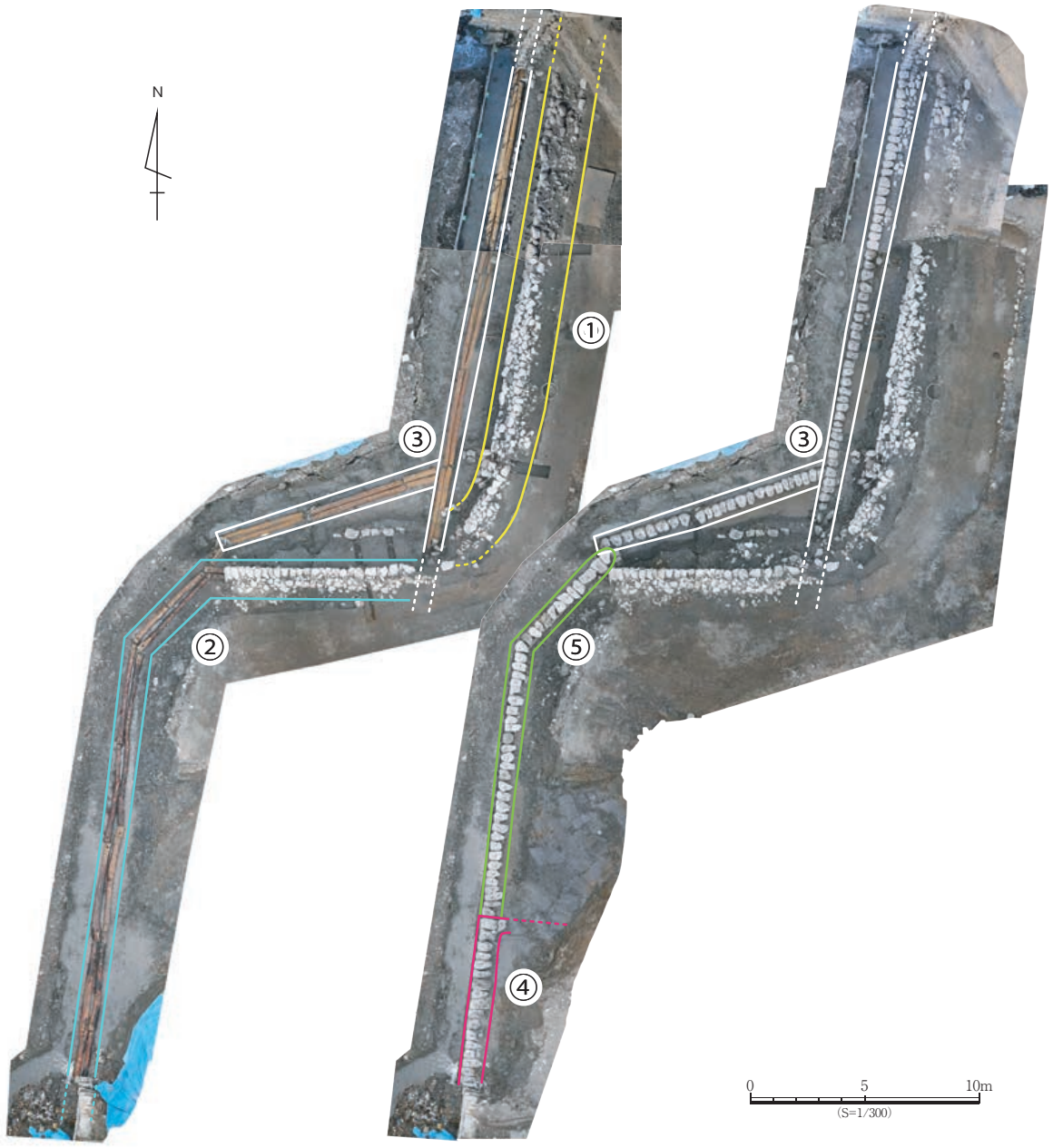


図199　石垣構築順

「高知街図」などから土手だと推察できていたが，調査においても土手以外の痕跡を確認することはできなかった。

19世紀の後半にはじめて胴木を持つ石灰岩の乱積み石垣が構築され，その石垣は竹村家の母家方向に伸びていたと考えられる。石垣の築石自体はあまり残存していなかったが，セットの胴木は転用されていた。そして，その胴木は年輪年代から19世紀初頭に伐採されたものであったため，石垣の構築はそれ以降と考えられる。

竹村家の蔵部分に相当する箇所についておそらく明治期頃に改修され，その石垣がG区の区画する石列を持つ石垣である。前後は不明であるが，当初よりシンボリックな存在であったE区の亀甲積みは出土遺物から明治期以降の築造と考えられる。E区の石垣は旧石垣より1m以上深く，この部分のみ深い理由は不明である。また，一部は旧石垣を掘り込み，一部は覆っている構造の理由も判明しなかった。

対岸の新堀は明治期から埋め立てられ，昭和期にさしかかり完全に蓋がされることが絵図の表記でわかっていることから，昭和元年前後の構築であることがほぼ確実であるのだが，幾度も改修の手が入っていることから石垣の構造はそれぞれ異なる。K区は乱雑な材木の上に根石を検出したが，L区は丁寧な梯子胴木に根石を置き，深さもあった。

新堀川一帯に限った話ではないが，近世近代の石垣とその後を俯瞰すると築石の加工技術について昭和期頃から大きく衰えていくことがわかる。基本的に土佐では近世近代は在地の石材を利用し，空積みで積む。しかし，明治期ごろから花崗岩の使用がみられはじめ，路面電車も花崗岩を用いた線路の施工がされている。新堀川も石灰岩の上に花崗岩が使用されていることや，昭和期頃の築造と考えられる橋台は県外産の砂岩間知石が用いられる。そして，乱積みや練り積みが横行し，練り積みに用いられる石材は転用されたものが多かった。転用石は面の認識も曖昧であり，本来の天地や石尻，面の区別がされていない。石列を持つ小規模な溝跡なども確認することができたが，ほとんどが石灰岩を使用しており，わずかにチャートが確認できたのみである。

高知市中心部において現在も石垣を持つ家は数多いが，武家や寺社仏閣に関する屋敷の基礎などに用いられている石垣は多くがチャートである。例としては，高知城はさることながら山内神社や致道館，旧山内下屋敷長屋が挙げられる。一般市民の石垣に使用される石材は石灰岩であり，現在もいたる所でその役割を果たしている。

参考文献

皆山集第九巻
長帳甲101号（高知城歴史博物館蔵）
高知市・高知市教育委員会　2014『高知城城下町読本　改訂版』

築石一覧表

遺物観察表凡例

1. 計測単位はcmまたはgで示している。数値は重量を除き復元値を含む。(　　)は残存値。
2. 回転ナデ調整などの調整の文字は省略している。
3. 胎土の赤色風化礫は赤礫と略している。

築石一覧表・イ１段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−1	石灰岩	280	400	490	−	−	
イ−2	石灰岩	290	370	560	介石	−	
イ−3	石灰岩	260	430	470	介石	−	
イ−4	石灰岩	200	370	450	介石	−	
イ−5	石灰岩	290	340	510	介石	−	
イ−6	石灰岩	280	390	520	介石	−	
イ−7	石灰岩	280	410	540	介石	−	
イ−8	石灰岩	260	390	520	介石	−	
イ−9	石灰岩	140	450	470	−	−	
イ−10	石灰岩	200	450	420	−	−	
イ−11	石灰岩	200	390	470	−	−	
イ−12	石灰岩	210	430	320	介石	−	割石
イ−13	石灰岩	350	380	450	介石	−	割石, 根の撹乱
イ−14	石灰岩	300	440	430	−	−	根の撹乱
イ−15	石灰岩	260	410	500	−	−	根の撹乱
イ−16	石灰岩	150	510	430	介石	−	
イ−17	石灰岩	270	430	510	介石	−	
イ−18	石灰岩	180	410	420	−	−	
イ−19	石灰岩	240	420	500	−	128	
イ−20	石灰岩	230	420	420	−	75	
イ−21	石灰岩	390	290	490	−	110	
イ−22	石灰岩	240	400	470	−	98	
イ−23	石灰岩	320	360	540	−	93	
イ−24	石灰岩	300	380	530	−	73	
イ−25	石灰岩	270	350	490	−	94	
イ−26	石灰岩	300	380	540	−	102	
イ−27	石灰岩	250	370	460	−	74	
イ−28	石灰岩	240	430	380	−	68	
イ−29	石灰岩	350	430	390	−	92	
イ−30	石灰岩	440	510	480	−	124	
イ−31	石灰岩	450	550	500	−	150	

築石一覧表・イ２段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−32	石灰岩	380	420	450	介石	−	
イ−33	石灰岩	430	370	550	介石	−	
イ−34	石灰岩	430	410	460	介石	−	
イ−35	石灰岩	330	370	550	介石	−	
イ−36	石灰岩	390	380	540	介石	−	
イ−37	石灰岩	300	410	470	介石	−	
イ−38	石灰岩	300	410	470	介石	−	
イ−39	石灰岩	410	410	510	−	−	
イ−40	石灰岩	330	450	430	介石	−	
イ−41	石灰岩	420	410	530	−	−	
イ−42	石灰岩	310	400	460	−	−	
イ−43	石灰岩	390	420	550	−	−	
イ−44	石灰岩	450	460	490	介石	−	
イ−45	石灰岩	530	410	470	介石	−	
イ−46	石灰岩	430	450	510	介石	−	
イ−47	石灰岩	410	460	490	介石	−	
イ−48	石灰岩	420	420	550	介石	−	
イ−49	石灰岩	360	420	450	介石	112	
イ−50	石灰岩	410	400	550	介石	142	
イ−51	石灰岩	390	380	530	介石	110	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－52	石灰岩	420	350	540	－	123	
イ－53	石灰岩	420	400	480	介石	107	
イ－54	石灰岩	390	330	500	介石	114	
イ－55	石灰岩	420	370	540	介石	125	
イ－56	石灰岩	440	400	450	介石	123	
イ－57	石灰岩	350	450	440	介石	113	
イ－58	石灰岩	400	380	410	介石	102	
イ－59	石灰岩	350	330	460	介石	100	
イ－60	石灰岩	340	460	480	介石	98	
イ－61	石灰岩	380	430	450	介石	－	割石
イ－62	石灰岩	300	520	540	介石	－	割石

築石一覧表・イ３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－63	石灰岩	360	400	530	－	－	
イ－64	石灰岩	370	380	450	介石	－	
イ－65	石灰岩	350	420	500	－	－	
イ－66	石灰岩	340	390	500	－	－	
イ－67	石灰岩	360	410	580	－	－	
イ－68	石灰岩	360	380	490	－	－	
イ－69	石灰岩	390	410	430	－	－	
イ－70	石灰岩	390	470	540	－	－	
イ－71	石灰岩	370	450	560	－	－	
イ－72	石灰岩	330	440	580	－	－	
イ－73	石灰岩	340	420	450	－	－	
イ－74	石灰岩	420	420	450	－	－	
イ－75	石灰岩	380	440	480	－	－	
イ－76	石灰岩	380	500	500	－	－	
イ－77	石灰岩	400	510	500	－	－	
イ－78	石灰岩	350	460	500	介石	－	
イ－79	石灰岩	380	450	500	介石	125	
イ－80	石灰岩	410	400	570	介石	108	
イ－81	石灰岩	400	470	420	介石	115	
イ－82	石灰岩	340	320	460	介石	79	
イ－83	石灰岩	380	410	450	介石	93	
イ－84	石灰岩	420	380	530	介石	123	
イ－85	石灰岩	400	350	520	－	118	
イ－86	石灰岩	410	400	450	介石	117	
イ－87	石灰岩	430	410	530	－	126	
イ－88	石灰岩	380	460	430	介石	140	
イ－89	石灰岩	320	350	440	－	86	
イ－90	石灰岩	400	370	500	介石	122	
イ－91	石灰岩	380	430	480	介石	124	
イ－92	石灰岩	400	420	510	－	135	
イ－93	石灰岩	340	400	400	－	60	
イ－93′	石灰岩	330	260	570	－	90	

築石一覧表・イ４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－94	石灰岩	380	410	450	－	－	
イ－95	石灰岩	400	400	380	介石	－	
イ－96	石灰岩	390	400	400	－	－	
イ－97	石灰岩	390	410	500	－	－	
イ－98	石灰岩	400	450	500	－	－	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－99	石灰岩	360	400	550	－	－	
イ－100	石灰岩	360	400	500	－	－	
イ－101	石灰岩	340	420	520	－	－	
イ－102	石灰岩	340	470	520	－	－	
イ－103	石灰岩	330	430	520	－	－	
イ－104	石灰岩	320	400	500	－	－	
イ－105	石灰岩	300	370	540	介石	－	
イ－106	石灰岩	350	500	540	－	－	
イ－107	石灰岩	320	480	500	－	－	
イ－108	石灰岩	290	450	500	－	－	
イ－109	石灰岩	320	420	420	－	108	
イ－110	石灰岩	330	400	440	介石	67	
イ－111	石灰岩	340	400	450	介石	75	
イ－112	石灰岩	290	430	530	－	98	
イ－113	石灰岩	280	310	420	－	54	
イ－114	石灰岩	340	430	530	－	99	
イ－115	石灰岩	320	360	450	介石	63	
イ－116	石灰岩	320	400	400	－	101	
イ－117	石灰岩	330	410	440	介石	85	
イ－118	石灰岩	340	450	500	－	110	
イ－119	石灰岩	320	410	540	－	112	
イ－120	石灰岩	340	350	540	介石	81	
イ－121	石灰岩	310	440	530	介石	106	
イ－122	石灰岩	320	400	400	介石	70	
イ－123	石灰岩	300	400	470	－	83	
イ－124	石灰岩	320	440	440	－	67	
イ－124'	石灰岩	360	400	370	－	66	

築石一覧表・イ５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－125	石灰岩	340	370	530	－	－	
イ－126	石灰岩	330	430	400	－	－	
イ－127	石灰岩	350	420	500	－	－	
イ－128	石灰岩	380	400	500	－	－	
イ－129	石灰岩	340	400	490	－	－	
イ－130	石灰岩	350	400	500	－	－	
イ－131	石灰岩	300	450	450	－	－	
イ－132	石灰岩	290	420	470	－	－	
イ－133	石灰岩	340	400	410	－	－	
イ－134	石灰岩	320	460	420	－	－	
イ－135	石灰岩	320	420	470	－	－	
イ－136	石灰岩	320	420	450	－	－	
イ－137	石灰岩	360	440	450	－	－	
イ－138	石灰岩	370	500	500	－	－	
イ－139	石灰岩	350	430	480	－	92	
イ－140	石灰岩	350	400	550	－	75	
イ－141	石灰岩	340	400	550	介石	94	
イ－142	石灰岩	340	400	520	－	89	
イ－143	石灰岩	290	380	400	－	58	
イ－144	石灰岩	300	430	430	－	59	
イ－145	石灰岩	280	380	470	－	54	
イ－146	石灰岩	280	350	520	介石	72	
イ－147	石灰岩	250	470	480	介石	90	
イ－148	石灰岩	320	380	530	介石	77	
イ－149	石灰岩	300	440	480	介石	83	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−150	石灰岩	310	400	500	介石	82	
イ−151	石灰岩	280	400	450	介石	69	
イ−152	石灰岩	320	440	450	介石	93	
イ−153	石灰岩	290	400	450	介石	69	
イ−154	石灰岩	290	400	500	介石	86	

築石一覧表・イ６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−155	石灰岩	320	400	520	−	−	
イ−156	石灰岩	310	450	450	−	−	
イ−157	石灰岩	390	420	470	−	−	
イ−158	石灰岩	360	450	570	−	−	
イ−159	石灰岩	370	450	500	−	−	
イ−160	石灰岩	330	350	510	−	−	
イ−161	石灰岩	350	450	570	−	−	
イ−162	石灰岩	300	400	550	−	−	
イ−163	石灰岩	350	420	550	−	−	
イ−164	石灰岩	310	400	570	−	−	
イ−165	石灰岩	320	460	450	−	−	
イ−166	石灰岩	330	430	450	−	−	
イ−167	石灰岩	320	470	450	−	−	
イ−168	石灰岩	350	450	480	−	105	矢穴
イ−169	石灰岩	350	450	470	−	95	
イ−170	石灰岩	340	410	550	−	100	
イ−171	石灰岩	290	400	450	介石	72	
イ−172	石灰岩	300	380	550	−	95	
イ−173	石灰岩	300	400	430	−	72	
イ−174	石灰岩	290	400	420	介石	70	
イ−175	石灰岩	280	380	500	−	72	
イ−176	石灰岩	330	370	460	−	75	
イ−177	石灰岩	300	440	450	介石	82	
イ−178	石灰岩	320	380	400	介石	63	
イ−179	石灰岩	330	420	260	−	50	
イ−180	石灰岩	330	420	470	−	84	
イ−181	石灰岩	310	430	380	−	76	
イ−182	石灰岩	320	450	400	介石	66	
イ−183	石灰岩	290	400	450	−	60	
イ−184	石灰岩	330	430	370	−	67	
イ−184'	石灰岩	180	300	400	−	20	

築石一覧表・イ７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−185	石灰岩	330	410	450	−	−	
イ−186	石灰岩	320	390	430	−	−	
イ−187	石灰岩	290	400	400	−	−	
イ−188	石灰岩	320	400	440	−	−	
イ−189	石灰岩	330	380	480	−	−	
イ−190	石灰岩	370	400	460	−	−	
イ−191	石灰岩	370	410	570	介石	−	
イ−192	石灰岩	380	450	510	−	−	
イ−193	石灰岩	350	470	520	−	−	
イ−194	石灰岩	350	470	570	−	−	
イ−195	石灰岩	350	420	430	−	−	
イ−196	石灰岩	310	470	380	介石	−	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－197	石灰岩	290	440	480	－	66	
イ－198	石灰岩	310	400	480	－	83	
イ－199	石灰岩	340	460	450	－	96	
イ－200	石灰岩	340	330	650	－	93	
イ－201	石灰岩	320	430	450	－	81	
イ－202	石灰岩	320	410	400	－	57	
イ－203	石灰岩	320	370	450	－	72	
イ－204	石灰岩	290	360	440	－	63	
イ－205	石灰岩	310	420	520	－	82	
イ－206	石灰岩	280	430	400	－	57	
イ－207	石灰岩	280	370	510	－	93	
イ－208	石灰岩	300	400	460	－	63	
イ－209	石灰岩	310	450	430	－	81	
イ－210	石灰岩	340	420	400	－	64	
イ－211	石灰岩	300	450	420	－	87	
イ－212	石灰岩	320	380	480	－	70	
イ－213	石灰岩	360	450	400	－	66	
イ－213'	石灰岩	330	440	400	－	73	

築石一覧表・イ８段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－214	石灰岩	350	400	490	－	－	
イ－215	石灰岩	340	410	510	－	－	
イ－216	石灰岩	300	410	490	－	－	
イ－217	石灰岩	320	400	470	－	－	
イ－218	石灰岩	340	380	510	－	－	
イ－219	石灰岩	340	390	450	－	－	
イ－220	石灰岩	350	430	510	－	－	
イ－221	石灰岩	380	450	470	－	－	
イ－222	石灰岩	340	470	460	－	－	
イ－223	石灰岩	270	400	440	介石	－	
イ－224	石灰岩	320	440	520	－	－	
イ－225	石灰岩	300	430	500	－	94	
イ－226	石灰岩	340	380	560	－	85	
イ－227	石灰岩	320	450	530	－	104	
イ－228	石灰岩	290	330	440	－	66	
イ－229	石灰岩	340	500	500	－	102	
イ－230	石灰岩	330	430	500	－	77	
イ－231	石灰岩	340	360	550	－	105	
イ－232	石灰岩	320	400	480	－	82	
イ－233	石灰岩	300	360	580	－	95	
イ－234	石灰岩	360	370	370	－	76	
イ－235	石灰岩	300	370	380	－	76	
イ－236	石灰岩	310	410	480	－	90	
イ－237	石灰岩	310	400	450	－	61	
イ－238	石灰岩	270	440	430	－	86	
イ－239	石灰岩	280	420	470	－	72	
イ－240	石灰岩	270	410	370	－	65	
イ－241	石灰岩	290	430	350	介石	61	
イ－242	石灰岩	280	420	410	－	－	

築石一覧表・イ９段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－243	石灰岩	310	440	530	－	－	
イ－244	石灰岩	330	350	500	介石	－	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－245	石灰岩	260	480	420	介石	－	
イ－246	石灰岩	330	350	560	－	－	
イ－247	石灰岩	250	420	420	－	－	
イ－248	石灰岩	320	360	450	－	－	
イ－249	石灰岩	340	440	420	－	－	
イ－250	石灰岩	300	450	500	－	－	
イ－251	石灰岩	300	460	520	－	－	
イ－252	石灰岩	280	440	450	－	－	
イ－253	石灰岩	350	460	500	－	106	
イ－254	石灰岩	380	370	440	－	78	
イ－255	石灰岩	350	420	490	－	113	
イ－256	石灰岩	350	400	530	介石	120	
イ－257	石灰岩	330	400	570	介石	97	
イ－258	石灰岩	340	380	510	－	99	
イ－259	石灰岩	340	400	560	－	117	
イ－260	石灰岩	280	400	460	介石	65	
イ－261	石灰岩	330	450	450	－	73	
イ－262	石灰岩	330	420	410	－	61	
イ－263	石灰岩	370	360	530	－	76	
イ－264	石灰岩	370	450	460	介石	110	
イ－265	石灰岩	370	390	560	－	117	
イ－266	石灰岩	380	430	530	－	128	
イ－267	石灰岩	320	380	470	－	85	
イ－268	石灰岩	340	390	440	－	73	
イ－269	石灰岩	360	430	470	－	96	
イ－270	石灰岩	370	420	590	－	125	
イ－270－1	石灰岩	310	400	500	介石	74	
イ－270－2	石灰岩	300	430	480	－	83	
イ－271							
イ－272							
イ－273							
イ－274							
イ－275					Aにあり		
イ－276							
イ－277							
イ－278							
イ－279							

築石一覧表・イ 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－280	石灰岩	310	430	540	－	－	
イ－281	石灰岩	360	370	360	－	－	
イ－282	石灰岩	380	450	410	介石	－	
イ－283	石灰岩	340	370	540	介石	－	
イ－284	石灰岩	350	400	540	介石	－	
イ－285	石灰岩	350	460	520	－	－	
イ－286	石灰岩	310	400	480	介石	－	
イ－287	石灰岩	350	460	370	介石	－	
イ－288	石灰岩	360	430	460	－	－	
イ－289	石灰岩	320	530	420	介石	85	
イ－290	石灰岩	370	410	470	介石	94	
イ－291	石灰岩	290	430	450	介石	79	
イ－292	石灰岩	340	410	450	－	98	
イ－293	石灰岩	340	420	420	介石	68	
イ－294	石灰岩	310	400	380	－	65	
イ－295	石灰岩	300	360	420	介石	53	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－296	石灰岩	340	390	430	－	67	
イ－297	石灰岩	320	420	390	介石	69	
イ－298	石灰岩	320	430	470	－	84	
イ－299	石灰岩	320	310	570	介石	62	
イ－300	石灰岩	310	400	490	介石	98	
イ－301	石灰岩	310	440	490	－	98	
イ－302	石灰岩	270	460	530	介石	113	
イ－303	石灰岩	310	410	520	－	119	
イ－304	石灰岩	320	420	520	－	101	
イ－305	石灰岩	310	370	460	－	86	
イ－306	石灰岩	390	410	470	介石	100	
イ－306－1	石灰岩	320	470	450	－	99	
イ－306－2	石灰岩	350	420	500	－	85	
イ－306－3	石灰岩	360	400	520	－	101	

築石一覧表・イ 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－307	石灰岩	350	390	450	介石	－	
イ－308	石灰岩	340	400	470	介石	－	
イ－309	石灰岩	300	400	460	介石	－	
イ－310	石灰岩	290	370	540	介石	－	
イ－311	石灰岩	280	450	540	－	－	
イ－312	石灰岩	360	450	510	－	－	
イ－313	石灰岩	320	480	460	介石	－	
イ－314	石灰岩	350	430	520	－	80	
イ－315	石灰岩	360	420	510	介石	105	
イ－316	石灰岩	330	490	450	介石	90	
イ－317	石灰岩	360	470	480	介石	93	
イ－318	石灰岩	330	520	440	介石	89	矢穴
イ－319	石灰岩	290	380	490	介石	77	
イ－320	石灰岩	330	420	530	介石	95	
イ－321	石灰岩	300	430	520	－	83	
イ－322	石灰岩	300	320	460	介石	60	
イ－323	石灰岩	330	370	490	－	77	
イ－324	石灰岩	270	460	460	介石	89	
イ－325	石灰岩	320	350	560	－	82	
イ－326	石灰岩	300	350	590	介石	103	
イ－327	石灰岩	330	450	480	介石	104	
イ－328	石灰岩	310	380	480	介石	108	
イ－329	石灰岩	300	490	530	介石	124	
イ－330	石灰岩	300	390	560	－	102	
イ－331	石灰岩	330	440	530	介石	110	
イ－332	石灰岩	300	390	480	介石	91	
イ－333	石灰岩	300	460	470	介石	87	
イ－333－1	石灰岩	340	410	480	－	89	
イ－333－2	石灰岩	340	380	500	介石	93	
イ－333－3	石灰岩	350	460	520	介石	112	

築石一覧表・イ 12 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－334	石灰岩	290	340	550	介石	－	
イ－335	石灰岩	310	360	560	介石	－	
イ－336	石灰岩	350	360	470	介石	－	
イ－337	石灰岩	330	380	460	－	－	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−338	石灰岩	360	430	550	−	−	
イ−339	石灰岩	330	390	530	−	−	
イ−340	石灰岩	360	430	500	介石	103	
イ−341	石灰岩	340	430	540	介石	100	
イ−342	石灰岩	400	510	460	介石	103	
イ−343	石灰岩	440	500	400	介石	116	
イ−344	石灰岩	430	490	560	介石	146	
イ−345	石灰岩	410	450	550	介石	112	
イ−346	石灰岩	440	330	580	介石	125	
イ−347	石灰岩	440	500	540	介石	134	
イ−348	石灰岩	400	360	530	介石	105	
イ−349	石灰岩	330	410	550	介石	94	
イ−350	石灰岩	370	440	480	介石	115	
イ−351	石灰岩	340	470	550	介石	114	
イ−352	石灰岩	290	340	480	−	72	
イ−353	石灰岩	360	390	550	−	109	
イ−354	石灰岩	330	430	470	介石	90	
イ−355	石灰岩	350	530	540	−	116	
イ−356	石灰岩	370	400	520	介石	108	
イ−357	石灰岩	390	500	500	介石	120	
イ−358	石灰岩	390	320	550	介石	100	
イ−359	石灰岩	450	380	630	介石	132	
イ−359−1	石灰岩	380	410	530	介石	134	
イ−359−2	石灰岩	350	400	580	介石	108	
イ−359−3	石灰岩	370	460	540	−	113	割石
イ−359−4	石灰岩	350	480	520	介石	126	

築石一覧表・イ 13 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ−360	石灰岩	400	310	580	介石	−	
イ−361	石灰岩	340	420	570	介石	−	割石
イ−362	石灰岩	300	520	530	−	−	
イ−363	石灰岩	310	320	510	−	−	
イ−364	石灰岩	330	420	500	介石	−	
イ−365	石灰岩	330	390	470	介石	95	
イ−366	石灰岩	440	440	500	介石	115	
イ−367	石灰岩	410	480	580	−	140	
イ−368	石灰岩	410	440	480	介石	109	
イ−369	石灰岩	330	490	530	−	115	
イ−370	石灰岩	330	450	560	介石	117	
イ−371	石灰岩	390	400	500	−	103	
イ−372	石灰岩	420	410	530	介石	109	
イ−373	石灰岩	340	440	510	介石	100	
イ−374	石灰岩	350	290	550	−	77	
イ−375	石灰岩	260	490	520	−	98	
イ−376	石灰岩	330	400	540	介石	96	
イ−377	石灰岩	330	400	550	−	106	
イ−378	石灰岩	380	270	590	介石	99	
イ−379	石灰岩	320	470	490	−	117	
イ−380	石灰岩	390	490	500	−	123	
イ−381	石灰岩	350	480	550	−	115	
イ−382	石灰岩	330	270	480	介石	49	
イ−383	石灰岩	320	500	470	介石	80	
イ−384	石灰岩	360	330	530	−	75	
イ−385	石灰岩	390	370	500	−	80	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－385－1	石灰岩	390	450	520	－	110	
イ－385－2	石灰岩	310	410	500	介石	80	
イ－385－3	石灰岩	340	400	550	－	107	
イ－385－4	石灰岩	260	500	470	介石	94	

築石一覧表・イ 14 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
イ－386	石灰岩	330	500	560	介石	113	根石
イ－387	石灰岩	340	370	550	－	98	根石
イ－388	石灰岩	320	530	590	－	154	根石
イ－389	石灰岩	370	510	600	－	155	根石
イ－390	石灰岩	380	420	520	－	108	根石
イ－391	石灰岩	410	470	580	介石	128	根石
イ－392	石灰岩	370	410	500	－	100	根石
イ－393	石灰岩	340	370	570	－	95	根石
イ－394	石灰岩	320	450	530	－	92	根石
イ－395	石灰岩	340	460	530	－	140	根石
イ－396	石灰岩	360	400	570	－	98	根石
イ－397	石灰岩	400	420	480	介石	108	根石
イ－398	石灰岩	350	390	560	－	112	根石
イ－399	石灰岩	390	460	530	－	116	根石
イ－400	石灰岩	350	400	570	－	102	根石
イ－401	石灰岩	300	330	540	－	72	根石
イ－402	石灰岩	350	340	600	介石	108	根石
イ－403	石灰岩	370	430	530	－	104	根石
イ－404	石灰岩	330	310	430	介石	50	根石
イ－405	石灰岩	320	190	490	－	51	根石
イ－406	石灰岩	310	360	610	－	106	根石
イ－407	石灰岩	290	350	540	－	82	根石
イ－408	石灰岩	310	420	470	－	107	根石
イ－409	石灰岩	300	380	530	－	74	根石
イ－410	石灰岩	330	450	480	－	112	根石
イ－410－1	石灰岩	350	410	570	－	128	根石
イ－410－2	石灰岩	360	350	560	－	99	根石
イ－410－3	石灰岩	340	410	540	介石	103	根石
イ－410－4	石灰岩	380	410	420	－	88	根石
イ－410－5	石灰岩	430	530	470	－	123	根石

築石一覧表・ロ 1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－1	石灰岩	440	460	400	－	120	
ロ－2	石灰岩	390	440	390	－	100	
ロ－3	石灰岩	360	470	450	－	114	
ロ－4	石灰岩	270	300	430	－	65	
ロ－5	石灰岩	310	390	480	－	75	
ロ－6	石灰岩	370	330	470	－	84	
ロ－7	石灰岩	440	280	440	－	86	
ロ－8	石灰岩	370	390	600	－	111	
ロ－9	石灰岩	300	390	440	－	80	
ロ－10	石灰岩	400	380	500	－	108	
ロ－11	石灰岩	310	410	500	－	100	
ロ－12	石灰岩	360	420	500	介石	119	
ロ－13	石灰岩	400	420	510	－	128	
ロ－14	石灰岩	390	490	540	介石	137	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－15	石灰岩	350	510	600	－	168	
ロ－16	石灰岩	450	490	550	－	165	
ロ－17	石灰岩	420	470	550	－	157	
ロ－18	石灰岩	390	470	530	介石	142	
ロ－19	石灰岩	320	480	490	介石	125	
ロ－20	石灰岩	410	430	510	－	151	
ロ－21	石灰岩	390	430	510	－	140	
ロ－22	石灰岩	410	440	460	－	120	
ロ－23	石灰岩	300	410	570	－	137	
ロ－24	石灰岩	440	520	410	－	128	

築石一覧表・ロ２段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－25	石灰岩	－	－	－	－	－	割石
ロ－26	石灰岩	360	450	450	－	120	
ロ－27	石灰岩	320	340	480	－	103	
ロ－28	石灰岩	360	320	470	－	98	
ロ－29	石灰岩	360	400	450	介石	92	
ロ－30	石灰岩	350	280	450	－	85	
ロ－31	石灰岩	400	360	450	介石	88	
ロ－32	石灰岩	360	400	480	－	94	
ロ－33	石灰岩	390	340	470	－	92	
ロ－34	石灰岩	370	400	530	－	120	
ロ－35	石灰岩	340	410	450	－	134	
ロ－36	石灰岩	330	410	680	－	114	
ロ－37	石灰岩	390	460	550	－	147	
ロ－38	石灰岩	520	450	510	－	174	
ロ－39	石灰岩	410	450	510	－	165	
ロ－40	石灰岩	370	480	530	－	187	
ロ－41	石灰岩	440	480	600	－	210	
ロ－42	石灰岩	360	440	430	－	125	
ロ－43	石灰岩	410	420	620	－	205	
ロ－44	石灰岩	410	410	520	－	125	
ロ－45	石灰岩	450	400	470	－	138	
ロ－46	石灰岩	480	440	490	介石	150	
ロ－47	石灰岩	420	480	500	介石	133	
ロ－48	石灰岩	380	370	670	介石	－	ハ－1

築石一覧表・ロ３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－49	石灰岩	360	350	520	介石	98	割石
ロ－50	石灰岩	320	500	420	－		割石
ロ－51	石灰岩	330	400	390	介石	76	
ロ－52	石灰岩	310	400	530	－	83	
ロ－53	石灰岩	330	330	570	－	96	
ロ－54	石灰岩	320	400	420	介石	79	
ロ－55	石灰岩	280	400	500	介石	98	
ロ－56	石灰岩	350	350	450	－	93	
ロ－57	石灰岩	420	390	520	－	123	
ロ－58	石灰岩	360	410	520	－	112	
ロ－59	石灰岩	400	430	470	－	117	
ロ－60	石灰岩	300	410	410	－	95	
ロ－61	石灰岩	300	440	420	－	108	
ロ－62	石灰岩	320	420	480	－	126	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－63	石灰岩	350	440	550	－	135	
ロ－64	石灰岩	390	520	470	－	186	
ロ－65	石灰岩	360	450	460	－	123	
ロ－66	石灰岩	310	510	520	－	145	
ロ－67	石灰岩	490	500	470	－	147	
ロ－68	石灰岩	370	450	470	－	143	
ロ－69	石灰岩	380	360	500	－	107	
ロ－70	石灰岩	440	450	500	介石	129	
ロ－71	石灰岩	420	460	540	－	169	
ロ－72	石灰岩	360	600	430	－	171	ハ－2

築石一覧表・ロ 4 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－73	石灰岩	310	650	450	－	108	
ロ－74	石灰岩	300	400	450	－	76	
ロ－75	石灰岩	320	400	550	介石	87	
ロ－76	石灰岩	330	350	450	－	77	
ロ－77	石灰岩	300	340	500	－	83	
ロ－78	石灰岩	360	400	400	介石	69	
ロ－79	石灰岩	310	400	500	－	67	
ロ－80	石灰岩	340	360	500	－	73	
ロ－81	石灰岩	400	410	410	介石	97	
ロ－82	石灰岩	410	400	430	－	97	
ロ－83	石灰岩	350	470	450	－	98	
ロ－84	石灰岩	350	440	500	介石	79	
ロ－85	石灰岩	400	430	510	－	120	
ロ－86	石灰岩	430	400	500	－	118	
ロ－87	石灰岩	320	490	520	－	150	
ロ－88	石灰岩	440	450	470	－	150	
ロ－89	石灰岩	400	480	480	－	152	
ロ－90	石灰岩	390	540	550	－	161	
ロ－91	石灰岩	420	500	500	－	139	
ロ－92	石灰岩	420	450	520	－	121	
ロ－93	石灰岩	410	450	500	－	146	
ロ－94	石灰岩	440	430	560	－	200	
ロ－95	石灰岩	450	550	600	－	202	
ロ－96	石灰岩	370	430	750	－	251	ハ－3

築石一覧表・ロ 5 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－97	石灰岩	280	380	520	－	158	
ロ－98	石灰岩	320	400	430	－	112	
ロ－99	石灰岩	330	350	480	介石	130	
ロ－100	石灰岩	380	380	480	－	128	
ロ－101	石灰岩	360	400	500	－	142	
ロ－102	石灰岩	360	350	500	介石	137	
ロ－103	石灰岩	350	320	500	－	135	
ロ－104	石灰岩	330	370	500	介石	136	
ロ－105	石灰岩	350	420	420	－	129	
ロ－106	石灰岩	310	400	400	－	134	
ロ－107	石灰岩	370	450	400	介石	128	
ロ－108	石灰岩	380	450	500	－	134	
ロ－109	石灰岩	370	400	590	－	157	
ロ－110	石灰岩	340	450	450	－	116	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－111	石灰岩	310	530	500	－	122	
ロ－112	石灰岩	520	500	550	－	187	
ロ－113	石灰岩	480	500	580	－	186	
ロ－114	石灰岩	440	500	600	－	172	
ロ－115	石灰岩	410	500	500	－	158	
ロ－116	石灰岩	400	500	550	－	141	
ロ－117	石灰岩	410	500	500	介石	137	
ロ－118	石灰岩	390	480	570	－	193	
ロ－119	石灰岩	410	490	710	－	178	
ロ－120	石灰岩	410	650	400	介石	78	ハ－4

築石一覧表・ロ６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－121	石灰岩	330	490	430	－	78	
ロ－122	石灰岩	420	500	450	介石	101	
ロ－123	石灰岩	400	340	370	－	84	
ロ－124	石灰岩	380	370	470	－	95	
ロ－125	石灰岩	380	400	470	－	89	
ロ－126	石灰岩	410	340	410	介石	77	
ロ－127	石灰岩	420	380	520	介石	95	
ロ－128	石灰岩	370	390	470	－	96	
ロ－129	石灰岩	350	450	510	－	103	
ロ－130	石灰岩	390	450	470	介石	117	
ロ－131	石灰岩	400	490	590	－	116	
ロ－132	石灰岩	370	400	450	－	79	
ロ－133	石灰岩	350	390	460	－	83	
ロ－134	石灰岩	320	380	560	－	92	
ロ－135	石灰岩	300	370	470	－	69	

築石一覧表・ロ７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－136	石灰岩	410	680	430	－	173	
ロ－137	石灰岩	390	380	450	－	95	
ロ－138	石灰岩	340	390	470	介石	90	
ロ－139	石灰岩	350	360	420	－	73	
ロ－140	石灰岩	300	310	490	－	70	
ロ－141	石灰岩	340	320	500	－	90	
ロ－142	石灰岩	320	390	550	－	114	
ロ－143	石灰岩	350	450	510	－	115	
ロ－144	石灰岩	350	430	540	－	103	
ロ－145	石灰岩	330	460	480	－	94	
ロ－146	石灰岩	340	400	510	－	116	
ロ－147	石灰岩	330	420	470	－	90	
ロ－148	石灰岩	310	410	530	介石	88	
ロ－149	石灰岩	470	320	480	－	85	
ロ－150	石灰岩	380	450	560	－	124	
ロ－151	石灰岩	420	470	550	介石	160	
ロ－152	石灰岩	400	440	500	－	13	
ロ－153	石灰岩	450	520	650	－	195	
ロ－154	石灰岩	440	510	510	介石	178	
ロ－155	石灰岩	450	500	520	－	148	
ロ－156	石灰岩	360	430	580	－	144	
ロ－157	石灰岩	430	410	530	－	200	
ロ－158	石灰岩	430	410	520	介石	164	
ロ－159	石灰岩	390	330	570	介石	152	ハ－6

築石一覧表・ロ 8 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－160	石灰岩	320	360	520	介石	88	
ロ－161	石灰岩	320	460	470	－	95	
ロ－162	石灰岩	320	360	490	－	85	
ロ－163	石灰岩	310	380	490	－	88	
ロ－164	石灰岩	340	390	570	－	96	
ロ－165	石灰岩	400	340	490	－	100	
ロ－166	石灰岩	320	300	500	－	80	
ロ－167	石灰岩	330	520	490	－	108	
ロ－168	石灰岩	330	470	410	介石	93	
ロ－169	石灰岩	370	450	490	－	101	
ロ－170	石灰岩	330	440	520	－	107	
ロ－171	石灰岩	370	460	530	－	117	
ロ－172	石灰岩	400	350	550	－	103	
ロ－173	石灰岩	440	450	450	－	118	
ロ－174	石灰岩	490	320	490	－	117	
ロ－175	石灰岩	490	500	550	－	192	
ロ－176	石灰岩	410	470	530	介石	157	
ロ－177	石灰岩	460	410	540	介石	129	
ロ－178	石灰岩	430	500	580	－	217	
ロ－179	石灰岩	380	530	470	介石	132	
ロ－180	石灰岩	440	470	600	－	194	
ロ－181	石灰岩	390	470	470	介石	124	
ロ－182	石灰岩	390	400	470	介石	118	
ロ－183	石灰岩	350	320	600	－	135	ハ－8

築石一覧表・ロ 9 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－184	石灰岩	400	570	460	－	138	
ロ－185	石灰岩	340	440	500	－	112	
ロ－186	石灰岩	340	300	450	介石	66	
ロ－187	石灰岩	350	360	500	介石	85	
ロ－188	石灰岩	340	340	520	介石	92	
ロ－189	石灰岩	320	360	550	－	85	
ロ－190	石灰岩	350	470	520	介石	120	
ロ－191	石灰岩	380	480	450	介石	113	
ロ－192	石灰岩	350	450	490	介石	97	
ロ－193	石灰岩	390	480	530	－	131	
ロ－194	石灰岩	380	500	490	介石	110	
ロ－195	石灰岩	320	390	490	介石	88	
ロ－196	石灰岩	380	380	510	介石	108	
ロ－197	石灰岩	340	430	520	介石	114	
ロ－198	石灰岩	310	350	440	－	94	
ロ－199	石灰岩	400	510	530	－	138	
ロ－200	石灰岩	440	430	570	－	170	
ロ－201	石灰岩	410	490	470	－	140	
ロ－202	石灰岩	450	530	500	－	195	
ロ－203	石灰岩	430	450	480	介石	130	
ロ－204	石灰岩	430	460	460	介石	131	
ロ－205	石灰岩	410	440	510	介石	155	
ロ－206	石灰岩	420	480	510	介石	140	
ロ－207	石灰岩	420	400	600	－	203	ハ－32

築石一覧表・ロ 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－208	石灰岩	360	390	540	－	108	
ロ－209	石灰岩	360	390	530	介石	123	
ロ－210	石灰岩	380	430	570	－	111	
ロ－211	石灰岩	350	320	520	介石	83	
ロ－212	石灰岩	350	390	580	－	108	
ロ－213	石灰岩	340	260	590	－	93	
ロ－214	石灰岩	360	450	540	介石	140	
ロ－215	石灰岩	340	380	530	介石	130	
ロ－216	石灰岩	360	490	470	－	116	
ロ－217	石灰岩	340	520	460	介石	124	
ロ－218	石灰岩	340	450	470	介石	119	
ロ－219	石灰岩	400	470	540	－	130	
ロ－220	石灰岩	350	330	590	介石	94	
ロ－221	石灰岩	360	390	460	－	97	
ロ－222	石灰岩	360	430	430	－	97	
ロ－223	石灰岩	350	360	430	－	73	
ロ－224	石灰岩	380	500	560	介石	169	
ロ－225	石灰岩	450	520	530	介石	185	
ロ－226	石灰岩	480	550	570	介石	199	
ロ－227	石灰岩	420	500	430	介石	135	
ロ－228	石灰岩	420	510	550	介石	167	
ロ－229	石灰岩	410	500	550	－	168	
ロ－230	石灰岩	470	520	540	介石	169	
ロ－231	石灰岩	480	380	580	介石	220	ハ－36

築石一覧表・ロ 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－232	石灰岩	370	460	500	介石	128	
ロ－233	石灰岩	370	420	470	介石	99	
ロ－234	石灰岩	370	410	530	－	117	
ロ－235	石灰岩	360	390	560	－	100	
ロ－236	石灰岩	360	270	540	介石	75	
ロ－237	石灰岩	360	400	530	介石	95	
ロ－238	石灰岩	330	430	520	－	95	
ロ－239	石灰岩	300	430	510	－	105	
ロ－240	石灰岩	300	540	530	－	135	
ロ－241	石灰岩	300	440	480	－	112	
ロ－242	石灰岩	340	490	480	介石	105	
ロ－243	石灰岩	340	420	530	介石	102	
ロ－244	石灰岩	300	350	550	介石	80	
ロ－245	石灰岩	320	380	550	－	99	
ロ－246	石灰岩	330	410	570	－	109	
ロ－247	石灰岩	440	460	600	－	156	
ロ－248	石灰岩	410	510	560	－	149	
ロ－249	石灰岩	380	550	650	介石	158	
ロ－250	石灰岩	430	520	540	介石	147	
ロ－251	石灰岩	500	530	520	介石	148	
ロ－252	石灰岩	510	490	560	－	166	
ロ－253	石灰岩	450	510	490	－	169	
ロ－254	石灰岩	420	500	560	－	166	
ロ－255	石灰岩	420	400	600	－	194	

築石一覧表・ロ 12 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－256	石灰岩	320	380	590	－	99	根石
ロ－257	石灰岩	380	380	540	－	111	根石
ロ－258	石灰岩	310	370	570	介石	100	根石
ロ－259	石灰岩	340	330	520	介石	99	根石
ロ－260	石灰岩	340	360	560	－	88	根石
ロ－261	石灰岩	350	290	540	－	78	根石
ロ－262	石灰岩	370	430	530	介石	115	根石
ロ－263	石灰岩	370	410	530	－	113	根石
ロ－264	石灰岩	370	500	510	－	126	根石
ロ－265	石灰岩	350	370	580	－	106	根石
ロ－266	石灰岩	360	510	590	介石	160	根石
ロ－267	石灰岩	290	440	540	介石	109	根石
ロ－268	石灰岩	340	330	520	－	70	根石
ロ－269	石灰岩	360	370	550	介石	110	根石
ロ－270	石灰岩	320	370	490	介石	79	根石
ロ－271	石灰岩	310	520	580	介石	112	根石
ロ－272	石灰岩	480	480	600	－	212	
ロ－273	石灰岩	460	580	570	－	192	
ロ－274	石灰岩	510	500	570	－	191	
ロ－275	石灰岩	490	500	570	－	205	
ロ－276	石灰岩	470	520	600	－	233	
ロ－277	石灰岩	490	530	620	－	210	
ロ－278	石灰岩	360	530	560	－	178	
ロ－279	石灰岩	470	670	380	－	168	

築石一覧表・ロ 13 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ロ－280	石灰岩	430	570	600	－	211	根石
ロ－281	石灰岩	490	490	560	－	166	根石
ロ－282	石灰岩	450	570	580	－	241	根石
ロ－283	石灰岩	420	490	580	－	206	根石
ロ－284	石灰岩	510	550	550	介石	231	根石
ロ－285	石灰岩	550	520	570	－	221	根石
ロ－286	石灰岩	500	530	560	－	198	根石
ロ－287	石灰岩	540	450	600	－	244	根石

築石一覧表・ハ 1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ－10	石灰岩	400	490	450	－	125	

築石一覧表・ハ 2 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ－1	石灰岩	380	670	370	介石	122	ロ－48
ハ－11	石灰岩	400	550	530	－	154	
ハ－12	石灰岩	340	450	450	－	91	
ハ－13	石灰岩	380	550	370	介石	90	

築石一覧表・ハ３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−2	石灰岩	360	430	600	−	171	ロ−72
ハ−14	石灰岩	410	560	480	−	160	
ハ−15	石灰岩	280	600	350	介石	84	
ハ−16	石灰岩	300	500	500	−	108	
ハ−17	石灰岩	470	450	350	−	111	

築石一覧表・ハ４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−3	石灰岩	370	750	430	−	251	ロ−96
ハ−18	石灰岩	440	600	450	−	155	
ハ−19	石灰岩	370	500	370	−	83	
ハ−20	石灰岩	340	600	400	−	92	
ハ−24	石灰岩	370	350	550	−	88	
ハ−25	石灰岩	260	350	580	−	45	

築石一覧表・ハ５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−4	石灰岩	410	400	650	介石	78	ロ−120
ハ−5	石灰岩	430	450	500	介石	113	
ハ−21	石灰岩	460	490	480	介石	134	
ハ−22	石灰岩	310	520	460	−	85	
ハ−23	石灰岩	280	500	460	−	70	

築石一覧表・ハ６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−28	石灰岩	340	410	490	−	84	
ハ−29	石灰岩	280	400	480	−	78	
ハ−30	石灰岩	340	320	610	−	89	

築石一覧表・ハ７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−6	石灰岩	390	330	570	−	152	ロ−159
ハ−26	石灰岩	420	480	500	−	158	
ハ−27	石灰岩	460	340	390	−	89	

築石一覧表・ハ８段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−8	石灰岩	350	320	600	−	135	ロ−183
ハ−9	石灰岩	380	410	510	介石	126	
ハ−7	石灰岩	320	440	430	−	80	
ハ−31	石灰岩	270	460	290	−	62	

築石一覧表・ハ９段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ−32	石灰岩	420	400	600	−	203	ロ−207
ハ−33	石灰岩	380	340	540	−	98	
ハ−34	石灰岩	340	240	540	−	66	
ハ−35	石灰岩	−	−	−	−	−	未採取

築石一覧表・ハ 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ－36	石灰岩	480	380	580	介石	220	ロ－231
ハ－37	石灰岩	350	480	440	介石	85	
ハ－38	石灰岩	290	300	410	介石	57	

築石一覧表・ハ 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ハ－39	石灰岩	310	360	440	－	76	石灰石
ハ－40	石灰岩	430	390	500	－	102	石灰石
ハ－41	石灰岩	390	350	520	－	98	石灰石
ハ－42	石灰岩	350	440	550	介石	132	石灰石

築石一覧表・ニ 1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－1	石灰岩	360	460	420	－	130	
ニ－2	石灰岩	320	500	480	－	152	
ニ－3	石灰岩	340	430	430	介石	117	
ニ－4	石灰岩	350	460	570	介石	131	
ニ－5	石灰岩	380	500	450	－	113	
ニ－6	石灰岩	370	340	460	－	118	
ニ－7	石灰岩	360	460	420	－	－	
ニ－8	石灰岩	380	470	410	－	－	
ニ－9	石灰岩	340	450	410	－	－	
ニ－10	石灰岩	320	410	500	－	－	
ニ－11	石灰岩	350	490	380	－	－	
ニ－12	石灰岩	310	410	410	－	－	
ニ－13	石灰岩	410	410	500	－	103	ホ－1

築石一覧表・ニ 2 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－14	石灰岩	350	630	500	－	181	
ニ－15	石灰岩	310	450	450	介石	111	
ニ－16	石灰岩	360	500	500	介石	162	
ニ－17	石灰岩	390	470	500	介石	129	
ニ－18	石灰岩	360	590	530	－	－	
ニ－19	石灰岩	430	430	420	－	－	
ニ－20	石灰岩	370	580	440	介石	－	
ニ－21	石灰岩	330	430	460	－	－	
ニ－22	石灰岩	350	530	530	－	－	
ニ－23	石灰岩	410	520	550	介石	－	
ニ－24	石灰岩	470	560	510	介石	－	ホ－58

築石一覧表・ニ 3 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－25	石灰岩	460	400	460	介石	－	
ニ－26	石灰岩	470	580	500	介石	－	
ニ－27	石灰岩	480	450	500	－	168	
ニ－28	石灰岩	450	500	500	介石	156	
ニ－29	石灰岩	410	570	520	介石	190	
ニ－30	石灰岩	480	510	500	－	－	
ニ－31	石灰岩	460	590	520	－	－	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－32	石灰岩	490	500	540	－	－	
ニ－33	石灰岩	420	350	730	－	－	
ニ－34	石灰岩	490	600	500	－	－	
ニ－35	石灰岩	390	350	750	－	－	

築石一覧表・ニ４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－36	石灰岩	340	550	460	－	－	石灰石
ニ－37	石灰岩	320	450	490	－	－	石灰石
ニ－38	石灰岩	270	580	480	－	－	石灰石
ニ－39	石灰岩	360	470	470	介石	－	石灰石
ニ－40	石灰岩	330	290	520	－	－	石灰石
ニ－41	石灰岩	300	290	600	－	－	割石
ニ－42	石灰岩	310	450	390	－	－	石灰石
ニ－43	石灰岩	330	350	470	－	－	石灰石
ニ－44	石灰岩	240	370	350	－	－	石灰石
ニ－45	石灰岩	240	310	490	－	－	石灰石
ニ－46	石灰岩	310	530	520	介石	－	石灰石
ニ－47	石灰岩	320	400	700	－	－	石灰石
ニ－48	石灰岩	340	400	650	－	－	石灰石
ニ－49	石灰岩	320	500	1000	介石	262	ホ－151

築石一覧表・ニ５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－50	石灰岩	430	350	500	－	－	
ニ－51	石灰岩	420	430	530	－	－	
ニ－52	石灰岩	360	370	480	－	－	
ニ－53	石灰岩	360	380	440	介石	－	欠け
ニ－54	石灰岩	360	450	470	－	－	
ニ－55	石灰岩	340	290	490	－	－	
ニ－56	石灰岩	410	260	500	－	－	
ニ－57	石灰岩	320	450	500	－	－	
ニ－58	石灰岩	370	470	450	－	－	
ニ－59	石灰岩	360	330	470	介石	－	
ニ－60	石灰岩	310	330	470	－	－	
ニ－61	石灰岩	230	270	480	－	－	

築石一覧表・ニ６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ－62	石灰岩	360	350	900	－	－	
ニ－63	石灰岩	400	350	910	－	－	
ニ－64	石灰岩	410	600	950	－	－	
ニ－65	石灰岩	250	460	400	－	－	
ニ－66	石灰岩	220	380	550	－	－	
ニ－67	石灰岩	310	430	540	－	－	
ニ－68	石灰岩	420	360	460	－	－	
ニ－69	石灰岩	350	500	700	－	－	
ニ－70	石灰岩	380	380	450	介石	－	
ニ－71	石灰岩	370	300	480	－	－	
ニ－72	石灰岩	360	400	470	介石	－	
ニ－73	石灰岩	370	470	540	－	－	
ニ－74	石灰岩	410	370	510	－	－	
ニ－75	石灰岩	200	280	520	－	－	

築石一覧表・ニ 7 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−76	石灰岩	210	550	950	−	−	
ニ−77	石灰岩	210	300	560	−	−	
ニ−78	石灰岩	330	350	940	−	−	
ニ−79	石灰岩	330	550	850	−	−	ホ−228

築石一覧表・ニ 8 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−80	石灰岩	390	290	390	−	−	
ニ−81	石灰岩	350	450	450	介石	−	
ニ−82	石灰岩	350	390	790	−	−	
ニ−83	石灰岩	380	300	760	−	−	
ニ−84	石灰岩	300	410	610	−	−	
ニ−85	石灰岩	290	430	590	介石	−	
ニ−86	石灰岩	290	390	450	−	−	
ニ−87	石灰岩	310	390	520	介石	−	
ニ−88	石灰岩	340	390	520	−	−	
ニ−89	石灰岩	430	300	430	介石	−	
ニ−90	石灰岩	320	370	500	−	−	
ニ−91	石灰岩	290	240	480	−	−	
ニ−92	石灰岩	280	370	480	−	−	
ニ−93	石灰岩	300	420	750	−	−	
ニ−94	石灰岩	320	340	1110	介石	−	

築石一覧表・ニ 9 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−95	石灰岩	360	410	530	−	−	
ニ−96	石灰岩	360	460	440	−	−	
ニ−97	石灰岩	330	300	660	−	−	
ニ−98	石灰岩	420	380	660	−	−	
ニ−99	石灰岩	360	460	550	−	−	
ニ−100	石灰岩	310	350	760	−	−	
ニ−101	石灰岩	230	390	540	−	−	
ニ−102	石灰岩	240	240	490	−	−	
ニ−103	石灰岩	200	450	450	−	−	
ニ−104	石灰岩	260	340	490	−	−	
ニ−105	石灰岩	290	270	400	−	−	
ニ−106	石灰岩	370	320	510	−	−	
ニ−107	石灰岩	210	200	520	−	−	
ニ−108	石灰岩	400	280	540	−	−	
ニ−109	石灰岩	320	490	580	−	−	
ニ−110	石灰岩	330	500	690	−	−	

築石一覧表・ニ 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−118	石灰岩	270	260	490	−	−	
ニ−119	石灰岩	220	580	490	−	−	
ニ−120	石灰岩	250	310	380	−	−	
ニ−121	石灰岩	300	400	590	−	−	
ニ−122	石灰岩	360	310	530	−	−	
ニ−123	石灰岩	220	340	530	−	−	

築石一覧表・ニ 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−111	石灰岩	310	280	600	介石	−	
ニ−112	石灰岩	330	420	600	介石	−	
ニ−113	石灰岩	300	350	530	介石	−	
ニ−114	石灰岩	290	370	890	−	−	
ニ−115	石灰岩	300	430	690	−	−	
ニ−116	石灰岩	300	300	630	介石	−	
ニ−117	石灰岩	280	330	500	−	−	
ニ−124	石灰岩	400	250	690	−	−	
ニ−125	石灰岩	350	420	460	−	−	
ニ−126	石灰岩	370	460	590	−	−	
ニ−127	石灰岩	300	340	470	−	−	
ニ−128	石灰岩	270	590	550	−	−	割石
ニ−129	石灰岩	290	290	580	−	−	
ニ−130	石灰岩	390	370	500	−	−	
ニ−131	石灰岩	320	410	460	介石	−	

築石一覧表・ニ 12 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ニ−132	石灰岩	290	490	670	−	141	根石
ニ−133	石灰岩	260	570	720	−	121	根石
ニ−134	石灰岩	270	750	500	介石	210	根石　矢穴
ニ−135	石灰岩	300	370	690	−	145	根石
ニ−136	石灰岩	390	330	720	−	130	根石
ニ−137	石灰岩	280	290	590	−	50	根石
ニ−138	石灰岩	280	320	570	−	66	根石
ニ−139	石灰岩	320	380	570	−	102	根石
ニ−140	石灰岩	190	420	580	−	62	根石
ニ−141	石灰岩	240	440	590	−	72	根石
ニ−142	石灰岩	300	250	550	−	70	根石
ニ−143	石灰岩	390	370	630	−	135	根石
ニ−144	石灰岩	320	380	630	−	117	根石
ニ−145	石灰岩	380	540	700	−	165	根石　ホ−483

築石一覧表・ホ 1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ−1	石灰岩	410	410	500	−	103	ニ−13
ホ−2	石灰岩	360	400	450	−	−	
ホ−3	石灰岩	360	410	450	−	−	
ホ−4	石灰岩	350	370	400	−	−	
ホ−5	石灰岩	350	360	340	介石	−	
ホ−6	石灰岩	340	350	460	−	−	
ホ−7	石灰岩	330	420	480	−	−	
ホ−8	石灰岩	310	500	450	−	−	
ホ−9	石灰岩	360	400	400	−	−	
ホ−10	石灰岩	360	440	470	−	−	
ホ−11	石灰岩	350	320	410	−	−	
ホ−12	石灰岩	350	320	410	介石	−	
ホ−13	石灰岩	360	420	520	介石	−	
ホ−14	石灰岩	320	420	450	−	−	
ホ−15	石灰岩	330	420	450	−	−	
ホ−16	石灰岩	330	290	440	−	−	
ホ−17	石灰岩	310	390	430	−	−	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－18	石灰岩	360	410	470	－	－	
ホ－19	石灰岩	380	430	400	コンクリート	－	
ホ－20	石灰岩	360	290	380	－	－	
ホ－21	石灰岩	340	400	390	－	－	
ホ－22	石灰岩	310	290	420	－	－	
ホ－23	石灰岩	350	480	460	介石	－	
ホ－24	石灰岩	370	350	470	－	－	
ホ－25	石灰岩	380	410	480	－	－	
ホ－26	石灰岩	380	310	490	介石	－	
ホ－27	石灰岩	390	500	520	－	－	
ホ－28	石灰岩	350	380	420	介石	－	
ホ－29	石灰岩	380	350	460	介石	－	
ホ－30	石灰岩	350	330	475	－	－	
ホ－31	石灰岩	360	420	450	介石	－	
ホ－32	石灰岩	360	330	480	－	－	
ホ－33	石灰岩	390	480	440	介石	－	
ホ－34	石灰岩	370	440	450	介石	120	
ホ－35	石灰岩	350	450	560	－	127	
ホ－36	石灰岩	340	360	520	コンクリート	105	
ホ－37	石灰岩	340	440	510	コンクリート	112	
ホ－38	石灰岩	310	390	410	コンクリート	80	
ホ－39	石灰岩	300	380	280	コンクリート	39	
ホ－40	石灰岩	250	440	350	コンクリート	70	
ホ－41	石灰岩	220	400	350	コンクリート	55	
ホ－42	石灰岩	280	360	410	コンクリート	58	
ホ－43	石灰岩	270	350	350	コンクリート	45	
ホ－44	石灰岩	260	350	340	コンクリート	38	
ホ－45	石灰岩	320	340	260	介石　コンクリート	50	
ホ－46	石灰岩	300	420	430	介石　コンクリート	61	
ホ－47	石灰岩	240	320	410	コンクリート	37	
ホ－48	石灰岩	270	430	410	コンクリート	54	
ホ－49	石灰岩	200	430	340	介石　コンクリート	48	
ホ－50	石灰岩	240	360	510	コンクリート	72	
ホ－51	石灰岩	280	420	510	コンクリート	77	
ホ－52	石灰岩	280	450	380	コンクリート	70	
ホ－53	石灰岩	245	390	440	コンクリート	79	
ホ－54	石灰岩	290	360	350	コンクリート	57	

築石一覧表・ホ北２段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－58	石灰岩	470	560	510	介石	－	ニ－24
ホ－59	石灰岩	460	450	480	介石	－	
ホ－60	石灰岩	420	280	600	－	137	
ホ－61	石灰岩	280	470	500	介石	120	
ホ－62	石灰岩	350	600	480	－	197	
ホ－63	石灰岩	520	510	560	介石	208	
ホ－64	石灰岩	490	450	430	介石	160	
ホ－65	石灰岩	440	570	480	－	219	
ホ－66	石灰岩	480	540	520	－	214	
ホ－67	石灰岩	560	540	500	－	176	
ホ－68	石灰岩	450	540	470	介石	202	
ホ－69	石灰岩	500	480	450	介石	169	
ホ－70	石灰岩	500	580	350	－	220	
ホ－71	石灰岩	550	390	450	－	218	
ホ－72	石灰岩	510	440	500	－	160	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－73	石灰岩	500	580	400	介石	186	
ホ－74	石灰岩	410	380	400	介石	98	割石
ホ－75	石灰岩	460	550	490	－	217	割石
ホ－76	石灰岩	450	580	400	－	209	
ホ－77	石灰岩	490	600	510	介石	245	
ホ－78	石灰岩	470	520	510	－	200	
ホ－79	石灰岩	520	520	400	－	134	
ホ－80	石灰岩	470	510	560	－	203	
ホ－81	石灰岩	490	450	480	－	189	
ホ－82	石灰岩	500	400	380	－	153	

築石一覧表・ホ北３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－106	石灰岩	350	480	1200	－	－	
ホ－107	石灰岩	450	550	600	－	207	
ホ－108	石灰岩	500	380	680	－	161	
ホ－109	石灰岩	410	580	480	－	－	
ホ－110	石灰岩	520	520	400	介石	－	
ホ－111	石灰岩	500	470	590	－	200	
ホ－112	石灰岩	550	450	500	－	205	
ホ－113	石灰岩	540	480	570	－	243	
ホ－114	石灰岩	570	530	510	介石	240	
ホ－115	石灰岩	570	530	500	介石	214	
ホ－116	石灰岩	550	500	530	介石	229	
ホ－117	石灰岩	540	420	580	介石	232	
ホ－118	石灰岩	510	550	530	介石	246	
ホ－119	石灰岩	480	500	600	－	212	
ホ－120	石灰岩	510	450	550	介石	190	
ホ－121	石灰岩	510	550	500	介石	190	
ホ－122	石灰岩	510	430	600	－	190	
ホ－123	石灰岩	510	580	520	介石	199	
ホ－124	石灰岩	520	600	500	介石	233	
ホ－125	石灰岩	480	560	520	－	180	
ホ－126	石灰岩	450	420	500	介石	170	
ホ－127	石灰岩	500	490	550	－	229	
ホ－128	石灰岩	550	570	410	介石	170	
ホ－129	石灰岩	520	500	470	介石	188	

築石一覧表・ホ北４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－151	石灰岩	320	500	1000	介石	262	ニ－49
ホ－152	石灰岩	350	350	770	－	－	
ホ－153	石灰岩	370	400	630	介石	－	
ホ－154	石灰岩	340	440	480	－	－	
ホ－155	石灰岩	280	400	430	－	－	

築石一覧表・ホ北５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－177	石灰岩	360	500	800	介石	－	
ホ－178	石灰岩	290	380	700	介石	－	
ホ－179	石灰岩	330	400	860	介石	－	
ホ－180	石灰岩	380	410	590	－	138	
ホ－181	石灰岩	370	450	700	－	135	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－182	石灰岩	290	380	440	－	71	
ホ－183	石灰岩	250	480	470	介石	83	
ホ－184	石灰岩	300	320	480	－	84	
ホ－185	石灰岩	280	530	510	－	105	
ホ－186	石灰岩	270	510	490	介石	92	
ホ－187	石灰岩	340	400	420	介石	74	
ホ－188	石灰岩	270	400	500	－	89	
ホ－189	石灰岩	290	360	500	－	102	
ホ－190	石灰岩	280	380	500	－	71	
ホ－191	石灰岩	290	350	420	介石	69	
ホ－192	石灰岩	290	350	400	－	58	
ホ－193	石灰岩	320	360	450	－	60	
ホ－194	石灰岩	330	320	450	－	74	
ホ－195	石灰岩	300	410	350	－	62	
ホ－196	石灰岩	310	370	550	－	80	
ホ－197	石灰岩	310	340	500	介石	90	
ホ－198	石灰岩	300	400	550	－	106	
ホ－199	石灰岩	310	430	430	介石	84	
ホ－200	石灰岩	300	480	550	－	141	
ホ－201	石灰岩	290	460	450	－	98	
ホ－202	石灰岩	300	590	350	－	81	
ホ－203	石灰岩	360	390	510	－	82	
ホ－204	石灰岩	330	480	470	－	95	
ホ－205	石灰岩	340	300	420	介石	59	

築石一覧表・ホ北６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－228	石灰岩	330	550	850	－	－	ニ－79
ホ－229	石灰岩	310	400	420	－	－	
ホ－230	石灰岩	330	500	480	介石	－	
ホ－231	石灰岩	340	400	400	－	－	
ホ－232	石灰岩	310	430	470	－	120	
ホ－233	石灰岩	310	450	470	－	109	
ホ－234	石灰岩	340	350	500	－	86	
ホ－235	石灰岩	350	450	420	－	102	
ホ－236	石灰岩	350	410	550	－	113	
ホ－237	石灰岩	350	480	450	－	130	
ホ－238	石灰岩	320	440	400	介石	80	
ホ－239	石灰岩	240	460	460	－	84	
ホ－240	石灰岩	240	500	400	－	69	
ホ－241	石灰岩	290	350	400	－	70	
ホ－242	石灰岩	260	380	420	－	56	
ホ－243	石灰岩	310	400	460	－	78	
ホ－244	石灰岩	380	330	450	－	90	
ホ－245	石灰岩	270	300	450	－	43	
ホ－246	石灰岩	320	480	440	－	89	
ホ－247	石灰岩	290	310	450	－	57	
ホ－248	石灰岩	220	300	400	－	52	
ホ－249	石灰岩	290	350	480	－	69	
ホ－250	石灰岩	270	350	500	－	77	
ホ－251	石灰岩	330	510	420	介石	105	
ホ－252	石灰岩	310	470	500	－	113	
ホ－253	石灰岩	260	470	400	－	69	
ホ－254	石灰岩	310	500	450	－	103	
ホ－255	石灰岩	320	450	400	－	79	
ホ－256	石灰岩	290	520	400	－	106	

築石一覧表・ホ北７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－278	石灰岩	300	560	600	－	－	
ホ－279	石灰岩	370	360	600	－	－	
ホ－280	石灰岩	290	390	400	介石	－	
ホ－281	石灰岩	300	390	510	－	－	
ホ－282	石灰岩	400	350	520	－	101	
ホ－283	石灰岩	290	430	560	－	90	
ホ－284	石灰岩	290	500	510	－	91	
ホ－285	石灰岩	270	500	400	－	69	
ホ－286	石灰岩	260	400	490	－	66	
ホ－287	石灰岩	170	370	520	－	51	
ホ－288	石灰岩	280	520	520	－	70	
ホ－289	石灰岩	330	400	400	－	－	割石
ホ－290	石灰岩	210	260	420	－	45	
ホ－291	石灰岩	320	380	380	－	67	
ホ－292	石灰岩	300	460	390	－	61	
ホ－293	石灰岩	320	380	430	－	56	
ホ－294	石灰岩	300	390	450	－	75	
ホ－295	石灰岩	310	370	450	－	84	
ホ－296	石灰岩	270	300	440	－	50	
ホ－297	石灰岩	390	310	500	－	86	
ホ－298	石灰岩	390	360	460	－	65	
ホ－299	石灰岩	280	520	500	－	－	割石
ホ－300	石灰岩	260	520	500	－	81	
ホ－301	石灰岩	330	490	560	介石	96	
ホ－302	石灰岩	320	420	470	－	84	
ホ－303	石灰岩	310	380	440	－	73	
ホ－304	石灰岩	310	400	390	－	66	
ホ－305	石灰岩	270	470	480	介石	100	
ホ－306	石灰岩	280	280	380	－	49	

築石一覧表・ホ北８段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－330	石灰岩	270	380	530	－	－	
ホ－331	石灰岩	240	440	510	－	－	
ホ－332	石灰岩	220	390	530	－	73	
ホ－333	石灰岩	250	310	500	介石	－	割石
ホ－334	石灰岩	180	140	180	－	4	
ホ－335	石灰岩	300	320	460	－	55	
ホ－336	石灰岩	350	490	500	－	91	
ホ－337	石灰岩	160	220	420	－	35	
ホ－338	石灰岩	270	310	530	－	57	
ホ－339	石灰岩	210	460	520	－	64	
ホ－340	石灰岩	250	300	450	－	39	

築石一覧表・ホ北９段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－387	石灰岩	250	470	450	介石	60	
ホ－388	石灰岩	270	470	410	コンクリート	74	
ホ－389	石灰岩	220	330	450	－	52	
ホ－341	石灰岩	300	410	470	コンクリート	70	
ホ－342	石灰岩	290	460	550	－	87	
ホ－343	石灰岩	300	360	440	－	－	割石
ホ－344	石灰岩	230	380	470	介石	60	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－345	石灰岩	250	250	500	－	47	
ホ－346	石灰岩	290	430	500	－	80	
ホ－347	石灰岩	290	490	510	－	94	
ホ－348	石灰岩	300	290	580	－	77	
ホ－349	石灰岩	350	400	520	介石	101	
ホ－350	石灰岩	330	360	430	－	66	
ホ－351	石灰岩	440	360	430	－	73	
ホ－352	石灰岩	310	360	400	－	53	
ホ－353	石灰岩	260	430	410	－	77	
ホ－354	石灰岩	320	430	420	－	56	
ホ－355	石灰岩	290	360	500	－	90	
ホ－356	石灰岩	300	290	450	－	56	
ホ－357	石灰岩	330	170	440	－	34	
ホ－358	石灰岩	290	460	370	－	55	
ホ－359	石灰岩	200	180	500	－	27	
ホ－360	石灰岩	270	300	490	－	53	
ホ－361	石灰岩	310	530	460	－	108	

築石一覧表・ホ北 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－329	石灰岩	360	480	460	－	－	
ホ－380	石灰岩	240	400	630	－	100	
ホ－381	石灰岩	230	400	400	－	－	割石
ホ－382	石灰岩	310	360	490	－	73	
ホ－383	石灰岩	300	340	410	－	50	
ホ－384	石灰岩	310	330	520	－	65	
ホ－385	石灰岩	250	190	390	－	30	
ホ－386	石灰岩	290	270	510	－	61	
ホ－390	石灰岩	320	490	530	－	83	
ホ－391	石灰岩	210	160	390	－	20	
ホ－392	石灰岩	270	230	510	－	49	
ホ－393	チャート	220	170	480	－	15	
ホ－394	石灰岩	200	240	580	－	60	
ホ－395	石灰岩	330	410	530	－	103	
ホ－396	石灰岩	300	330	530	－	83	
ホ－397	石灰岩	390	370	600	－	109	
ホ－398	石灰岩	270	400	490	－	68	
ホ－399	石灰岩	310	150	520	－	53	
ホ－400	石灰岩	270	430	540	－	88	
ホ－401	石灰岩	300	350	540	－	76	
ホ－402	石灰岩	340	380	500	－	66	
ホ－403	石灰岩	200	200	430	－	41	
ホ－404	石灰岩	320	320	450	－	64	
ホ－405	石灰岩	200	400	550	－	75	
ホ－406	石灰岩	370	450	580	介石	120	
ホ－407	石灰岩	290	400	430	介石	92	
ホ－408	石灰岩	370	420	520	－	113	
ホ－409	石灰岩	260	290	310	－	37	
ホ－410	石灰岩	330	430	510	－	72	
ホ－411	石灰岩	300	340	450	－	80	
ホ－412	石灰岩	320	160	470	－	44	割石
ホ－413	石灰岩	380	500	480	介石	121	
ホ－414	石灰岩	270	350	500	－	93	
ホ－415	石灰岩	280	250	460	－	54	

築石一覧表・ホ北 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－436	石灰岩	380	440	500	－	90	
ホ－437	石灰岩	250	380	590	－	－	割石
ホ－438	石灰岩	250	170	510	－	34	
ホ－440	石灰岩	260	180	410	－	36	
ホ－441	石灰岩	290	400	460	－	73	
ホ－443	チャート	200	410	490	－	－	割石
ホ－445	石灰岩	270	290	570	－	67	
ホ－446	石灰岩	320	410	560	介石	83	
ホ－447	石灰岩	250	430	420	－	70	
ホ－448	石灰岩	270	400	530	－	73	
ホ－449	チャート	450	500	580	－	111	
ホ－450	石灰岩	240	320	590	介石	64	
ホ－451	石灰岩	250	330	470	介石	53	
ホ－452	石灰岩	330	350	520	介石	50	
ホ－453	石灰岩	230	220	600	－	68	
ホ－454	石灰岩	190	390	530	－	63	
ホ－455	石灰岩	310	490	560	－	111	
ホ－456	石灰岩	320	310	530	－	55	
ホ－457	石灰岩	220	340	600	－	74	
ホ－458	石灰岩	300	410	700	－	85	
ホ－459	石灰岩	220	480	540	－	70	
ホ－460	石灰岩	340	400	500	－	83	
ホ－461	石灰岩	270	320	600	－	58	
ホ－462	石灰岩	340	400	800	－	150	
ホ－463	石灰岩	310	330	550	－	74	
ホ－464	石灰岩	320	370	530	介石	86	
ホ－465	石灰岩	320	400	600	－	110	
ホ－466	石灰岩	350	480	560	－	119	

築石一覧表・ホ北 12 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－433	石灰岩	280	520	730	－	170	
ホ－434	石灰岩	280	370	370	－	－	
ホ－435	石灰岩	350	440	240	介石	－	
ホ－439	石灰岩	440	250	620	－	69	
ホ－442	石灰岩	300	370	600	－	97	
ホ－444	石灰岩	350	210	390	－	40	
ホ－487	石灰岩	270	120	540	－	－	
ホ－488	石灰岩	240	450	660	－	－	
ホ－489	石灰岩	280	350	580	介石	90	
ホ－490	石灰岩	240	250	470	－	49	
ホ－491	石灰岩	240	350	680	－	87	
ホ－492	石灰岩	350	340	560	－	63	
ホ－493	石灰岩	230	420	660	－	103	
ホ－494	石灰岩	300	310	600	－	88	
ホ－495	石灰岩	350	410	650	－	125	
ホ－496	石灰岩	350	490	600	－	127	
ホ－497	石灰岩	220	330	670	－	82	
ホ－498	石灰岩	200	210	600	－	36	
ホ－499	石灰岩	250	380	530	－	62	
ホ－500	石灰岩	230	380	600	－	90	割石
ホ－501	石灰岩	350	390	550	－	113	
ホ－502	石灰岩	320	260	590	－	54	
ホ－503	石灰岩	300	310	510	－	58	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－505	石灰岩	360	370	470	－	109	
ホ－506	石灰岩	360	450	460	介石	98	
ホ－507	石灰岩	350	490	560	介石	130	
ホ－508	石灰岩	320	380	600	－	93	割石
ホ－509	石灰岩	320	320	500	－	90	
ホ－510	石灰岩	300	350	600	－	72	
ホ－511	石灰岩	330	310	660	－	107	
ホ－512	石灰岩	320	230	640	－	76	
ホ－513	石灰岩	290	470	640	－	117	
ホ－514	石灰岩	260	390	660	－	127	
ホ－515	石灰岩	290	240	560	－	67	

築石一覧表・ホ北 13 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－483	石灰岩	380	540	700	－	165	ニ－145 根石
ホ－484	石灰岩	410	410	570	－	173	根石
ホ－485	石灰岩	380	360	650	－	130	根石
ホ－486	石灰岩	370	340	630	－	92	根石
ホ－516	石灰岩	240	480	530	－	85	根石
ホ－517	石灰岩	300	270	500	－	78	根石
ホ－518	石灰岩	280	490	750	介石	139	根石
ホ－519	石灰岩	250	380	530	－	76	根石
ホ－520	石灰岩	310	440	590	介石	100	根石
ホ－521	石灰岩	280	340	760	介石	148	根石
ホ－522	チャート	280	430	540	－	90	根石
ホ－523	石灰岩	200	350	670	介石	67	根石
ホ－524	石灰岩	290	370	600	－	88	根石
ホ－525	石灰岩	300	330	710	－	100	根石
ホ－526	チャート	210	450	640	－	86	割石 根石
ホ－527	石灰岩	300	430	680	－	103	根石
ホ－528	石灰岩	340	430	730	介石	124	根石
ホ－529	石灰岩	280	500	700	介石	119	根石
ホ－530	石灰岩	260	480	640	介石	105	根石
ホ－531	石灰岩	260	450	750	－	112	割石 根石
ホ－532	石灰岩	280	440	620	－	93	根石
ホ－533	石灰岩	390	450	530	介石	109	根石
ホ－534	石灰岩	360	330	580	－	132	根石
ホ－535	石灰岩	310	420	640	介石	110	根石
ホ－536	石灰岩	350	380	660	－	100	根石
ホ－537	石灰岩	320	350	580	－	93	根石
ホ－538	石灰岩	300	330	660	－	68	根石
ホ－539	石灰岩	320	330	850	－	157	根石
ホ－540	石灰岩	280	310	790	介石	108	根石
ホ－541	石灰岩	280	510	600	介石	140	根石

築石一覧表・ホ南 2 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－83	石灰岩	280	530	390	－	93	
ホ－84	石灰岩	280	460	460	－	76	
ホ－85	石灰岩	320	380	540	－	93	
ホ－86	石灰岩	320	400	480	－	70	
ホ－87	石灰岩	280	410	430	－	76	
ホ－88	石灰岩	290	410	410	－	74	
ホ－89	石灰岩	350	500	530	－	119	
ホ－90	石灰岩	－	－	－	－	－	割石

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－91	石灰岩	350	480	450	コンクリート	106	
ホ－92	石灰岩	310	350	500	コンクリート	58	割石
ホ－93	石灰岩	320	370	630	コンクリート	85	
ホ－94	石灰岩	320	260	550	コンクリート	51	
ホ－95	石灰岩	330	440	340	コンクリート	－	
ホ－96	石灰岩	300	540	420	コンクリート	－	
ホ－97	石灰岩	270	400	400	コンクリート	－	
ホ－98	石灰岩	330	460	550	コンクリート	106	
ホ－99	石灰岩	230	350	430	コンクリート	93	
ホ－100	石灰岩	300	450	450	コンクリート	83	
ホ－101	石灰岩	310	440	390	コンクリート	96	
ホ－102	石灰岩	340	420	440	コンクリート	102	

築石一覧表・ホ南３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－130	石灰岩	310	470	700	－	219	
ホ－131	石灰岩	310	560	410	－	174	
ホ－132	石灰岩	350	380	370	－	133	
ホ－133	石灰岩	330	390	570	介石	136	
ホ－134	石灰岩	330	400	570	介石	140	
ホ－135	石灰岩	280	480	650	介石	192	
ホ－136	石灰岩	330	510	650	介石	230	
ホ－137	石灰岩	350	490	600	介石	241	
ホ－138	石灰岩	420	350	290	－	67	
ホ－139	石灰岩	410	320	300	－	52	
ホ－140	石灰岩	350	440	310	－	75	
ホ－141	石灰岩	350	380	350	－	68	
ホ－142	石灰岩	340	460	370	－	87	
ホ－143	石灰岩	370	430	330	－	80	
ホ－144	石灰岩	300	600	350	－	109	
ホ－145	石灰岩	420	370	500	－	98	
ホ－146	石灰岩	400	370	370	介石	72	
ホ－147	石灰岩	350	600	430	－	142	
ホ－148	石灰岩	380	500	480	－	103	

築石一覧表・ホ南４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－156	石灰岩	330	800	400	－	215	へ－1
ホ－157	石灰岩	280	400	850	介石	180	
ホ－158	石灰岩	320	370	720	－	132	
ホ－159	石灰岩	320	380	750	－	166	
ホ－160	石灰岩	390	480	700	介石	166	
ホ－161	石灰岩	330	520	570	介石	169	
ホ－162	石灰岩	350	530	670	介石	157	
ホ－163	石灰岩	290	410	750	－	199	
ホ－164	石灰岩	360	400	750	介石	168	
ホ－165	石灰岩	410	480	670	－	186	
ホ－166	石灰岩	370	430	720	－	246	
ホ－167	石灰岩	380	400	500	－	170	
ホ－168	石灰岩	460	510	760	介石	212	
ホ－169	石灰岩	450	470	630	－	165	
ホ－170	石灰岩	420	520	720	－	248	
ホ－171	石灰岩	380	490	600	介石	200	
ホ－172	石灰岩	350	520	530	介石	183	
ホ－173	石灰岩	390	500	730	介石	203	

築石一覧表・ホ南５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－206	石灰岩	290	490	770	－	212	へ－5
ホ－207	石灰岩	350	460	700	介石	184	
ホ－208	石灰岩	350	440	750	介石	184	
ホ－209	石灰岩	380	450	700	－	157	
ホ－210	石灰岩	350	450	730	介石	206	
ホ－211	石灰岩	410	450	770	介石	243	
ホ－212	石灰岩	340	600	650	介石	215	
ホ－213	石灰岩	380	430	650	介石	203	
ホ－214	石灰岩	400	380	630	－	161	
ホ－215	石灰岩	370	420	610	介石	162	
ホ－216	石灰岩	370	470	700	介石	189	
ホ－217	石灰岩	360	470	680	－	173	
ホ－218	石灰岩	360	450	650	介石	147	
ホ－219	石灰岩	430	520	650	介石	180	
ホ－220	石灰岩	410	400	700	－	186	
ホ－221	石灰岩	340	350	760	－	156	
ホ－222	石灰岩	410	400	700	－	177	
ホ－223	石灰岩	390	500	560	－	189	
ホ－224	石灰岩	380	450	720	－	191	

築石一覧表・ホ南６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－257	石灰岩	420	740	530	－	262	へ－27
ホ－258	石灰岩	430	490	660	介石	190	
ホ－259	石灰岩	380	500	700	介石	187	
ホ－260	石灰岩	400	500	850	介石	225	
ホ－261	石灰岩	330	400	700	－	137	
ホ－262	石灰岩	410	500	800	介石	222	
ホ－263	石灰岩	390	450	700	－	196	
ホ－264	石灰岩	360	400	700	－	148	
ホ－265	石灰岩	390	450	630	介石	182	
ホ－266	石灰岩	320	350	800	－	157	
ホ－267	石灰岩	400	420	630	介石	145	
ホ－268	石灰岩	410	520	700	－	157	
ホ－269	石灰岩	400	450	680	－	156	
ホ－270	石灰岩	360	500	550	－	141	
ホ－271	石灰岩	280	400	750	－	178	
ホ－272	石灰岩	360	400	660	－	147	
ホ－273	石灰岩	310	450	600	－	145	
ホ－274	石灰岩	300	470	550	－	147	

築石一覧表・ホ南７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－307	石灰岩	390	510	670	－	245	へ－38
ホ－308	石灰岩	410	490	720	介石	202	
ホ－309	石灰岩	390	480	770	介石	197	
ホ－310	石灰岩	350	430	820	介石	190	
ホ－311	石灰岩	500	440	780	介石	187	
ホ－312	石灰岩	440	390	800	介石	238	
ホ－313	石灰岩	430	460	780	介石	208	
ホ－314	石灰岩	370	450	630	介石	149	
ホ－315	石灰岩	400	430	660	介石	186	
ホ－316	石灰岩	440	360	750	－	158	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－317	石灰岩	390	450	610	介石	176	
ホ－318	石灰岩	400	460	670	－	164	
ホ－319	石灰岩	400	420	740	－	205	
ホ－320	石灰岩	350	390	680	介石	117	
ホ－321	石灰岩	290	440	770	－	178	
ホ－322	石灰岩	290	420	710	－	143	
ホ－323	石灰岩	320	400	590	－	106	
ホ－324	石灰岩	400	380	610	－	130	

築石一覧表・ホ南 8 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－362	石灰岩	320	720	380	－	181	ヘ－43　欠け
ホ－363	石灰岩	340	530	950	－	238	
ホ－364	石灰岩	350	420	650	－	162	
ホ－365	石灰岩	400	450	720	介石	199	
ホ－366	石灰岩	400	420	830	－	228	
ホ－367	石灰岩	400	380	700	介石	183	
ホ－368	石灰岩	420	520	730	－	201	
ホ－369	石灰岩	400	420	650	－	186	
ホ－370	石灰岩	340	400	700	－	189	矢穴
ホ－371	石灰岩	400	400	850	－	233	矢穴
ホ－372	石灰岩	400	430	720	－	194	矢穴　欠け
ホ－373	石灰岩	390	480	770	－	207	
ホ－374	石灰岩	370	500	740	－	192	
ホ－375	石灰岩	340	480	670	－	188	
ホ－376	石灰岩	400	480	590	介石	179	
ホ－377	石灰岩	370	380	560	－	171	
ホ－378	石灰岩	440	510	760	－	202	

築石一覧表・ホ南 9 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－416	石灰岩	400	450	680	－	261	ヘ－48
ホ－417	石灰岩	350	480	870	介石	214	
ホ－418	石灰岩	410	560	660	－	210	
ホ－419	石灰岩	410	380	660	介石	145	
ホ－420	石灰岩	410	470	610	介石	174	
ホ－421	石灰岩	350	410	710	－	160	
ホ－422	石灰岩	360	430	800	－	206	
ホ－423	石灰岩	350	440	800	－	180	
ホ－424	石灰岩	350	430	750	－	209	
ホ－425	石灰岩	380	400	680	－	175	
ホ－426	石灰岩	350	520	740	－	198	
ホ－427	石灰岩	350	470	670	－	205	
ホ－428	石灰岩	340	500	910	介石	213	
ホ－429	石灰岩	370	500	740	－	178	
ホ－430	石灰岩	420	430	760	－	197	
ホ－431	石灰岩	410	370	700	－	155	
ホ－432	石灰岩	390	380	710	介石	179	矢穴

築石一覧表・ホ南 10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－467	石灰岩	370	800	390	－	215	ヘ－51
ホ－468	石灰岩	400	470	740	－	215	
ホ－469	石灰岩	400	520	660	－	248	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－470	石灰岩	340	330	720	－	159	
ホ－471	石灰岩	350	400	740	－	150	
ホ－472	石灰岩	380	390	660	－	154	
ホ－473	石灰岩	360	500	620	－	182	
ホ－474	石灰岩	320	490	720	－	208	
ホ－475	石灰岩	330	470	720	－	182	矢穴
ホ－476	石灰岩	310	480	950	－	165	
ホ－477	石灰岩	300	610	810	－	222	
ホ－478	石灰岩	340	430	650	－	137	
ホ－479	石灰岩	280	440	860	－	127	
ホ－480	石灰岩	300	420	690	－	133	
ホ－481	石灰岩	320	470	890	－	218	
ホ－482	石灰岩	320	470	710	－	153	

築石一覧表・ホ南 11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ホ－542	石灰岩	430	470	750	－	300	ヘ－55　根石
ホ－543	石灰岩	380	560	790	介石	232	根石
ホ－544	石灰岩	500	440	750	介石	276	根石
ホ－545	石灰岩	440	390	710	－	205	根石
ホ－546	石灰岩	420	450	830	－	174	根石　土器
ホ－547	石灰岩	280	450	870	－	151	根石
ホ－548	石灰岩	360	550	970	－	245	根石
ホ－549	石灰岩	350	460	780	－	150	根石
ホ－550	石灰岩	340	470	930	－	244	矢穴　根石
ホ－551	石灰岩	310	450	740	－	163	根石
ホ－552	石灰岩	350	470	770	－	180	根石
ホ－553	石灰岩	320	490	730	介石	142	ルート　根石
ホ－554	石灰岩	340	410	830	介石	182	根石
ホ－555	石灰岩	370	410	570	－	144	矢穴　根石
ホ－556	石灰岩	350	430	880	介石	222	根石
ホ－557	石灰岩	340	390	720	－	157	根石

築石一覧表・ヘ 1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ヘ－1	石灰岩	330	400	800	－	－	ホ－156
ヘ－2	石灰岩	340	400	420	－	93	
ヘ－3	石灰岩	300	380	430	－	－	
ヘ－4	石灰岩	200	300	450	－	－	
ヘ－8	石灰岩	310	450	400	－	96	
ヘ－9	石灰岩	190	350	410	－	－	
ヘ－10	石灰岩	170	230	370	－	－	
ヘ－11	石灰岩	260	300	470	－	43	
ヘ－12	石灰岩	350	350	380	－	57	
ヘ－13	石灰岩	360	450	330	－	－	
ヘ－14	石灰岩	190	400	400	－	－	
ヘ－15	石灰岩	210	600	380	－	－	

築石一覧表・ヘ 2 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ヘ－5	石灰岩	290	490	770	－	212	ホ－206
ヘ－6	石灰岩	280	510	480	－	142	
ヘ－7	石灰岩	200	430	380	－	40	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−17	石灰岩	250	380	430	−	50	
へ−18	石灰岩	210	370	420	−	54	
へ−19	石灰岩	220	220	410	−	−	
へ−20	石灰岩	240	340	350	−	43	
へ−21	石灰岩	190	240	290	−	−	
へ−22	石灰岩	160	240	330	−	−	
へ−23	石灰岩	250	340	330	−	47	
へ−24	石灰岩	210	300	440	−	37	
へ−25	石灰岩	210	410	400	−	47	
へ−26	石灰岩	240	410	340	−	51	

築石一覧表・へ３段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−16	石灰岩	290	320	480	介石	42	
へ−31	石灰岩	190	370	420	介石	48	
へ−32	石灰岩	220	270	350	−	31	
へ−33	チャート	120	250	330	−	−	
へ−34	石灰岩	220	350	270	−	28	
へ−35	石灰岩	310	160	280	−	−	

築石一覧表・へ４段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−27	石灰岩	420	740	530	−	262	ホ−257
へ−28	石灰岩	410	350	700	−	143	
へ−29	石灰岩	370	420	550	−	108	
へ−30	石灰岩	190	400	410	−	42	
へ−36	石灰岩	220	240	390	−	48	
へ−37	石灰岩	240	490	370	−	55	

築石一覧表・へ５段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−38	石灰岩	−	−	−	−	−	石灰石
へ−39	石灰岩	420	400	600	介石	180	石灰石
へ−40	石灰岩	420	390	570	介石	119	石灰石
へ−41	石灰岩	300	450	600	−	82	石灰石
へ−42	石灰岩	150	440	420	−	−	石灰石

築石一覧表・へ６段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−43	石灰岩	320	720	380	−	181	ホ−362　欠け
へ−44	石灰岩	400	510	540	−	155	
へ−45	石灰岩	360	420	580	−	152	
へ−46	石灰岩	420	480	440	−	98	
へ−47	石灰岩	320	250	600	−	65	

築石一覧表・へ７段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
へ−48	石灰岩	400	450	680	−	261	ホ−416
へ−49	石灰岩	390	490	590	−	160	
へ−50	石灰岩	210	340	740	−	100	

築石一覧表・ヘ 8 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ヘ－51	石灰岩	370	800	390	－	215	ホ－467
ヘ－52	石灰岩	380	420	580	－	152	
ヘ－53	石灰岩	450	370	720	－	123	
ヘ－54	石灰岩	110	220	430	－	20	

築石一覧表・ヘ 9 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
ヘ－55	石灰岩	430	470	750	－	300	ホ－542
ヘ－56	石灰岩	300	430	550	－	83	

築石一覧表・A1 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－1	石灰岩	340	360	500	－	83	
A－2	石灰岩	310	410	540	介石	102	
A－3	石灰岩	290	400	520	介石	116	
A－4	石灰岩	320	430	540	介石	116	
A－5	石灰岩	350	420	450	介石	104	
A－6	石灰岩	330	420	470	介石	100	
A－7	石灰岩	320	430	520	－	100	
A－8	石灰岩	320	370	480	－	86	
A－9	石灰岩	320	410	550	－	116	
A－10	石灰岩	330	400	490	介石	117	
A－11	石灰岩	330	410	510	介石	110	
A－12	石灰岩	340	3800	450	－	113	
A－13	石灰岩	310	370	440	－	70	
A－14	石灰岩	330	400	460	－	88	
A－15	石灰岩	290	390	490	－	71	
A－16	石灰岩	270	430	440	－	89	
A－17	石灰岩	320	430	440	－	81	
A－18	石灰岩	300	400	460	介石	74	
A－19	石灰岩	310	390	450	介石	83	
A－20	石灰岩	340	370	410	－	70	

築石一覧表・A2 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－22	石灰岩	330	390	530	－	109	
A－23	石灰岩	340	410	470	介石	119	
A－24	石灰岩	330	460	540	介石	113	
A－25	石灰岩	350	410	520	－	122	
A－26	石灰岩	340	410	490	－	104	
A－27	石灰岩	370	390	530	介石	115	
A－28	石灰岩	380	430	470	介石	122	
A－29	石灰岩	360	410	440	－	97	
A－30	石灰岩	360	400	500	－	95	
A－31	石灰岩	350	390	480	－	97	
A－32	石灰岩	340	450	480	－	96	
A－33	石灰岩	310	410	500	－	101	
A－34	石灰岩	340	340	430	－	75	
A－35	石灰岩	370	450	500	－	115	
A－36	石灰岩	340	460	440	－	129	
A－37	石灰岩	320	380	490	－	102	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－37	石灰岩	320	380	490	－	102	
A－38	石灰岩	380	430	500	介石	125	
A－39	石灰岩	350	410	470	－	107	
A－40	石灰岩	370	390	470	介石	92	
A－41	石灰岩	350	400	420	介石	87	

築石一覧表・A3 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－43	石灰岩	370	410	450	介石	112	
A－44	石灰岩	390	410	410	介石	95	
A－45	石灰岩	370	420	530	介石	110	
A－46	石灰岩	340	410	500	介石	94	
A－47	石灰岩	320	430	430	介石	102	
A－48	石灰岩	360	420	480	介石	106	
A－49	石灰岩	360	470	480	介石	124	
A－50	石灰岩	350	380	520	－	91	
A－51	石灰岩	400	380	450	介石	100	
A－52	石灰岩	360	350	470	介石	102	
A－53	石灰岩	370	430	570	介石	144	
A－54	石灰岩	340	420	510	－	104	レンガ
A－55	石灰岩	350	380	470	－	98	
A－56	石灰岩	340	450	490	－	115	
A－57	石灰岩	350	410	550	－	94	
A－58	石灰岩	350	440	500	介石	120	
A－59	石灰岩	360	430	420	介石	98	
A－60	石灰岩	350	410	510	介石	103	
A－61	石灰岩	340	370	550	－	114	
A－62	石灰岩	380	450	510	介石	88	

築石一覧表・A4 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－64	石灰岩	420	410	370	介石	94	
A－65	石灰岩	380	410	440	－	103	割れ
A－66	石灰岩	380	430	510	介石	112	
A－67	石灰岩	390	390	530	介石	119	
A－68	石灰岩	360	420	480	介石	114	
A－69	石灰岩	370	430	440	介石	100	
A－70	石灰岩	360	450	550	介石	103	
A－71	石灰岩	350	390	480	介石	114	
A－72	石灰岩	370	430	450	介石	84	
A－73	石灰岩	310	400	460	－	99	
A－74	石灰岩	360	370	440	介石	88	
A－75	石灰岩	370	410	520	介石	116	
A－76	石灰岩	370	400	440	－	90	
A－77	石灰岩	370	450	520	－	130	
A－78	石灰岩	340	440	460	－	99	
A－79	石灰岩	420	400	560	介石	114	
A－80	石灰岩	430	450	580	介石	152	
A－81	石灰岩	380	390	520	介石	107	
A－82	石灰岩	400	410	420	－	86	
A－83	石灰岩	370	450	420	介石	85	

築石一覧表・A5 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－85	石灰岩	370	390	530	介石	114	
A－86	石灰岩	390	440	460	介石	104	
A－87	石灰岩	350	430	510	介石	101	
A－88	石灰岩	400	410	530	介石	123	
A－89	石灰岩	350	400	480	－	100	
A－90	石灰岩	360	490	430	介石	121	
A－91	石灰岩	370	410	450	介石	111	
A－92	石灰岩	360	370	500	介石	96	
A－93	石灰岩	340	360	490	介石	102	
A－94	石灰岩	320	380	480	介石	92	
A－95	石灰岩	370	430	520	介石	104	
A－96	石灰岩	330	420	530	－	98	
A－97	石灰岩	340	450	340	介石	69	
A－98	石灰岩	340	470	440	－	98	
A－99	石灰岩	340	400	450	－	83	
A－100	石灰岩	320	380	470	－	81	
A－101	石灰岩	300	330	470	－	64	
A－102	石灰岩	330	410	430	介石	115	
A－103	石灰岩	350	420	450	－	72	
A－104	石灰岩	310	430	460	－	119	

築石一覧表・A6 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－107	石灰岩	360	400	400	介石	71	
A－108	石灰岩	350	430	460	介石	94	
A－109	石灰岩	320	400	490	介石	97	
A－110	石灰岩	340	370	450	介石	75	
A－111	石灰岩	300	450	390	介石	74	
A－112	石灰岩	340	450	460	－	133	
A－113	石灰岩	300	380	490	－	107	
A－114	石灰岩	350	410	430	介石	86	
A－115	石灰岩	300	360	420	－	72	
A－116	石灰岩	340	390	490	介石	85	
A－117	石灰岩	340	410	550	－	103	
A－118	石灰岩	310	370	430	介石	74	
A－119	石灰岩	340	440	390	－	73	
A－120	石灰岩	330	420	480	－	89	
A－121	石灰岩	350	430	440	介石	92	
A－122	石灰岩	290	410	520	－	90	
A－123	石灰岩	300	370	390	介石	74	
A－124	石灰岩	350	350	500	－	105	
A－125	石灰岩	290	400	470	介石	77	
A－126	石灰岩	320	400	440	介石	67	

築石一覧表・A7 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－129	石灰岩	380	410	500	介石	107	
A－130	石灰岩	340	390	430	介石	77	
A－131	石灰岩	380	350	430	介石	101	
A－132	石灰岩	380	470	450	介石	86	
A－133	石灰岩	320	410	490	介石	111	
A－134	石灰岩	330	390	500	介石	92	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－135	石灰岩	310	390	430	介石	90	
A－136	石灰岩	390	350	500	－	94	
A－137	石灰岩	310	360	470	－	67	
A－138	石灰岩	300	340	550	－	89	
A－139	石灰岩	340	390	450	－	74	
A－140	石灰岩	360	450	450	介石	85	
A－141	石灰岩	350	390	480	－	87	
A－142	石灰岩	320	400	440	－	83	
A－143	石灰岩	290	370	470	－	93	
A－144	石灰岩	300	340	480	介石	75	
A－145	石灰岩	320	360	430	－	86	
A－146	石灰岩	350	350	430	－	84	
A－147	石灰岩	330	390	450	－	100	
A－148	石灰岩	360	380	500	介石	94	

築石一覧表・A8 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－151	石灰岩	340	350	450	－	85	
A－152	石灰岩	360	410	430	－	95	
A－153	石灰岩	330	400	470	介石	72	
A－154	石灰岩	320	390	440	介石	94	
A－155	石灰岩	330	430	460	－	107	
A－156	石灰岩	330	450	460	介石	91	
A－157	石灰岩	330	390	430	介石	78	
A－158	石灰岩	320	400	510	介石	101	
A－159	石灰岩	300	380	390	介石	67	
A－160	石灰岩	310	380	500	－	82	
A－161	石灰岩	310	440	480	－	85	
A－162	石灰岩	340	450	480	－	114	
A－163	石灰岩	350	430	450	－	94	
A－164	石灰岩	300	450	440	－	92	矢穴　ルート
A－165	石灰岩	260	330	440	介石	70	
A－166	石灰岩	300	400	500	－	104	
A－167	石灰岩	360	400	490	介石	101	
A－168	石灰岩	290	360	440	－	66	
A－169	石灰岩	340	390	480	介石	106	
A－170	石灰岩	330	390	570	－	103	

築石一覧表・A9 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－174	石灰岩	270	400	520	－	86	
A－175	石灰岩	330	410	430	介石	85	
A－176	石灰岩	290	390	520	－	108	
A－177	石灰岩	320	410	450	介石	86	
A－178	石灰岩	330	500	450	介石	102	
A－179	石灰岩	320	440	560	介石	117	
A－180	石灰岩	290	400	450	介石	72	
A－181	石灰岩	280	390	480	－	76	
A－182	石灰岩	280	380	410	－	70	
A－183	石灰岩	330	340	490	－	80	
A－184	石灰岩	360	450	380	－	87	
A－185	石灰岩	340	490	470	－	111	
A－186	石灰岩	340	430	490	－	91	
A－187	石灰岩	280	400	410	介石	86	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－188	石灰岩	290	370	480	介石	73	
A－189	石灰岩	320	380	400	－	76	
A－190	石灰岩	320	370	490	－	84	
A－191	石灰岩	300	420	530	介石	89	
A－192	石灰岩	310	390	470	介石	94	
A－193	石灰岩	350	390	510	－	108	

築石一覧表・A10 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－197	石灰岩	350	400	400	－	75	
A－198	石灰岩	310	400	460	介石	83	
A－199	石灰岩	330	410	440	介石	94	
A－200	石灰岩	290	450	430	介石	78	
A－201	石灰岩	320	450	480	－	95	
A－202	石灰岩	31	430	510	介石	78	
A－203	石灰岩	330	400	450	介石	73	
A－204	石灰岩	310	400	480	介石	83	
A－205	石灰岩	320	350	440	介石	58	
A－206	石灰岩	300	390	360	介石	71	
A－207	石灰岩	300	410	460	－	92	
A－208	石灰岩	250	430	510	－	99	
A－209	石灰岩	290	450	430	介石	76	
A－210	石灰岩	300	430	460	介石	82	
A－211	石灰岩	340	380	440	－	76	
A－212	石灰岩	320	370	490	介石	100	
A－213	石灰岩	320	380	500	介石	89	
A－214	石灰岩	320	440	490	－	108	
A－215	石灰岩	300	460	470	－	91	
A－216	石灰岩	－	－	－	介石	－	割れ

築石一覧表・A11 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－220	石灰岩	300	410	480	－	82	
A－221	石灰岩	310	430	450	介石	83	
A－222	石灰岩	290	440	490	介石	91	
A－223	石灰岩	330	540	460	－	102	
A－224	石灰岩	330	410	490	－	80	
A－225	石灰岩	360	430	480	－	90	
A－226	石灰岩	320	410	500	介石	113	
A－227	石灰岩	300	370	510	介石	73	
A－228	石灰岩	300	370	470	介石	85	
A－229	石灰岩	280	470	390	介石	83	
A－230	石灰岩	300	420	420	介石	79	
A－231	石灰岩	320	380	430	介石	80	
A－232	石灰岩	340	440	450	介石	100	
A－233	石灰岩	330	440	470	－	103	
A－234	石灰岩	290	390	410	介石	58	
A－235	石灰岩	340	310	420	－	60	
A－236	石灰岩	340	480	430	介石	101	
A－237	石灰岩	370	420	520	－	96	
A－238	石灰岩	330	500	470	介石	100	
A－239	石灰岩	320	430	510	介石	103	

築石一覧表・A12 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－243	石灰岩	320	430	470	－	87	
A－244	石灰岩	370	500	550	－	89	
A－245	石灰岩	360	500	380	介石	92	
A－246	石灰岩	310	460	430	介石	80	
A－247	石灰岩	290	410	570	介石	104	
A－248	石灰岩	310	420	490	－	85	
A－249	石灰岩	300	360	480	介石	86	割れ
A－250	石灰岩	330	370	470	介石	91	
A－251	石灰岩	380	490	460	介石	107	
A－252	石灰岩	340	480	450	介石	114	
A－253	石灰岩	400	430	470	介石	98	
A－254	石灰岩	360	420	510	介石	112	
A－255	石灰岩	350	500	550	介石	130	
A－256	石灰岩	390	470	500	介石	104	
A－257	石灰岩	390	370	560	－	104	
A－258	石灰岩	280	370	470	介石	76	割れ
A－259	石灰岩	280	420	470	介石	80	
A－260	石灰岩	290	430	510	介石	86	
A－261	石灰岩	310	480	540	介石	108	
A－262	石灰岩	300	450	500	介石	96	

築石一覧表・A13 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－266	石灰岩	300	400	480	介石	75	
A－267	石灰岩	350	450	510	介石	103	
A－268	石灰岩	320	430	480	－	86	
A－269	石灰岩	330	410	600	介石	122	
A－270	石灰岩	350	330	440	介石	68	
A－271	石灰岩	330	420	540	－	123	矢穴
A－272	石灰岩	330	460	580	－	131	
A－273	石灰岩	320	350	590	介石	119	
A－274	石灰岩	350	470	550	－	100	
A－275	石灰岩	350	380	520	－	103	
A－276	石灰岩	290	400	580	介石	94	
A－277	石灰岩	320	380	500	－	85	
A－278	石灰岩	320	430	520	－	83	
A－279	石灰岩	280	390	510	－	101	
A－280	石灰岩	320	420	530	介石	85	
A－281	石灰岩	320	450	540	－	108	
A－282	石灰岩	350	420	520	介石	96	
A－283	石灰岩	340	410	570	介石	110	
A－284	石灰岩	380	470	510	介石	101	
A－285	石灰岩	420	360	550	介石	130	

築石一覧表・A14 段目

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－290	石灰岩	330	440	520	－	102	
A－291	石灰岩	330	420	520	－	72	
A－292	石灰岩	330	470	480	－	108	
A－293	石灰岩	330	430	540	介石	98	
A－294	石灰岩	240	410	600	－	97	
A－295	石灰岩	260	400	600	－	97	

番号	石質	高さ(mm)	幅(mm)	控え長(mm)	介石の状況	重さ(kg)	備考
A－296	石灰岩	270	400	600	－	96	
A－297	石灰岩	320	340	600	－	84	
A－298	石灰岩	300	350	570	－	108	
A－299	石灰岩	420	450	500	－	126	
A－300	石灰岩	330	380	510	－	92	
A－301	石灰岩	320	390	550	－	82	矢穴
A－302	石灰岩	280	520	530	－	100	矢穴
A－303	石灰岩	250	420	550	－	87	ルート
A－304	石灰岩	370	400	490	－	111	
A－305	石灰岩	320	410	540	－	107	
A－306	石灰岩	330	400	520	介石	85	
A－307	石灰岩	370	380	550	－	120	
A－308	石灰岩	320	380	530	－	81	
A－309	石灰岩	320	390	570	－	105	

遺物観察表

遺物観察表凡例
1. 計測単位はcmまたはgで示している。数値は重量を除き復元値を含む。(　　)は残存値。
2. 回転ナデ調整などの調整の文字は省略している。

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
1	TR1	陶器 台付灯明皿	−	(1.6)	−	3.8	受部径 6.7	①鉄釉.内外面:暗赤褐.断面:灰黄褐.④土見せ.	
2	TR1	磁器 碗	−	(3.3)	−	7.0	−	①内外面,断面:灰白.③内高台一重圏線,「大明年製」.見込中央コンニャク印判五弁花文.内面二重圏線,半菊文のコンニャク印判.外面蛇行した唐草文.⑥木場山窯.	波佐見. 1680～ 1740年代.
3	TR1	磁器 碗	11.3	6.1	−	4.7	−	①透明釉.内外面:灰白.断面:灰.畳付釉剥.③内高台「福貴者□」.内面四方襷.④見込砂付着.	肥前ヵ. 19c.
4	TR2	磁器 広東碗	−	(2.2)	−	6.7	−	①内外面,断面:灰白.③内高台一重圏線.見込一重圏線,丸に波濤文ヵ.外高台一重圏線.	19c.
5	TR2	磁器 碗	−	(2.1)	−	7.3	−	①内外面,断面:灰白.畳付釉剥.③見込花文.④外高台内砂付.	
6	TR2	土師器 皿	−	(1.5)	−	−	−	①内外面,断面:灰白.④白焼き.	尾戸.
7	TR3	陶器 碗	−	(2.5)	−	4.2	−	①断面:にぶい黄橙.内外面灰釉施す.④削出高台.	
8	TR3	陶器 碗	−	(5.4)	−	5.1	−	①内外面:にぶい黄.断面:灰黄.畳付釉剥.④わずかに砂付着.	
9	TR3	陶器 皿	−	(1.0)	−	4.6	−	①内面:灰黄.外面,断面:にぶい橙.内面施釉.④底部ケズリ.	
10	TR3	陶器 灯明受皿	−	(1.7)	−	−	−	①内外面:暗赤褐.断面:黒褐.④焼締.受部に切り込み有.回転ナデ	備前.
11	TR3	陶器 台付灯明皿	−	(3.8)	−	3.3	受部径 6.6	①内外面:黒赤褐.鉄釉.断面:にぶい黄橙.④土見せ.	
12	TR3	陶器 擂鉢	−	(4.2)	−	−	−	①内外面:灰褐.断面:黄灰.	
13	TR3	陶器 擂鉢	36.3	(4.0)	−	−	−	①内面:赤褐.外面:灰赤.断面:赤褐.③内口縁2条凹線.外口縁2条凹線④10歯摺目.上端右上がり.	近世5期b群.幕末.
14	TR3	陶器 擂鉢	35.5	(5.2)	−	−	−	①内外面:灰赤.断面:赤橙.③外口縁二重凹線,内口縁一重凹線.	備前.
15	TR3	陶器 甕	−	(4.9)	−	13.6	−	①内面:浅黄橙.外面:黄褐,黄橙.断面:浅黄橙.底部露胎.	
16	TR3	磁器 碗	−	(4.2)	−	5.0	−	①内外面,断面:灰白.③見込一重圏線.外面青海波.外高台二重圏線.⑤焼成後被熱.	
17	TR3	磁器 碗	12.2	(4.5)	−	−	−	①内外面,断面:灰白.③口縁二重圏線.見込一重圏線.外面花文.	
18	TR3	磁器 碗	11.4	6.0	−	4.9	−	①内外面,断面:灰白.③外口縁一重圏線.窓絵.外高台三重圏線.内高台「唐」ヵ.内口縁二重圏線,見込二重圏線に五弁花.	
19	TR3	磁器 碗	−	(3.7)	−	4.5	−	①内外面:灰白.断面:浅黄橙.③外面二重圏線と草文.見込一重圏線と松竹梅文.	
20	TR3	磁器 小皿ヵ	−	(1.7)	−	4.0	−	①内面:灰白.外面:オリーブ灰.断面:灰白.青磁釉外体部施釉.白磁釉高台施釉.③内面二重圏線,五弁花.銘有.	
21	TR3	磁器 杯	6.0	(2.3)	−	−	−	①内外面,断面:灰白.③内口縁「山 帝」.染付有.	
22	TR3	陶器 猪口	7.8	6.0	−	5.6	−	①内外面,断面:灰白.③内口縁三重圏線.見込一重圏線.外底部二重圏線.花文ヵ.内高台蛇ノ目釉剥.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
23	TR3	磁器 蓋	9.3	(2.1)	−	−	−	①全釉.内外面,断面:灰白.③見込一重圏線.内面雷文.外面扇文.	肥前. 19c.
24	TR3	磁器 蓋	9.6	3.2	−	−	摘径 4.7	①全釉.内外面,断面:灰白.内面中部釉溜り有.③内面雷文,一重圏線.内高台「瑞」ヵ.外面扇文に区画された窓絵.	肥前. 19c.
25	TR3	土師器 皿	11.2	2.0	−	6.0	−	①内外面,断面:にぶい橙.④底部回転糸切,轆轤成形.内面やや轆轤目有.	
26	TR3	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 3.9		①外面:橙.③型成形.コウモリ文.	
27	TR3	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.4	全厚 0.7	重量 4.3		①表裏,断面:にぶい黄橙.③「尾上」ヵ.④型成形.下面ナデ.	
28	TR3	石製品 硯	全長 (5.2)	全幅 4.2	全厚 1.0	重量 36.2		②玄昌石(粘板岩)ヵ.⑤海のフチに墨残.全体キズ有.	
29	TR3	ガラス製品 瓶	4.5	7.2	−	3.6	−	①遮光.④「元禄海苔」エンボス.	
30	TR5	磁器 徳利	2.9	12.4	−	4.2	−	①内外面,断面:灰白.コバルト強い.	近代.
31	A区 客土	陶器 台付灯明皿	6.8	4.9	−	3.3	−	①鉄釉.内外面:にぶい赤褐.断面,胎土:灰白.④回転糸切痕,右回転.	
32	A区 客土	磁器 碗	−	(4.2)	−	5.1	−	①全面透明釉.内外面,断面:灰白より白い.畳付釉剥.③見込圏線内に楼閣山水.内高台□内に「茶」.外面格子文.外高台三重圏線.④染付碗.	能茶山.
33	A区 客土	金属製品 古銭	銭径・縦 5.0	銭径・横 3.2	孔径 0.6	銭厚 0.3	重量 23.4	⑥天保通寶.錆化.	
34	A区 客土	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.5	全厚 0.6	重量 4.2		①橙.③備前蝶.④型成形.下面ナデ.	
35	A区 客土	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.3	全厚 0.6	重量 3.6		①橙.③変わり左二つ丁子巴.④型成形.	
36	A区 客土	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 3.9		①橙.③「自」.④型成形.	
37	A区 客土	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.6	重量 3.6		①にぶい黄橙.②砂粒を含む(雲母片ヵ).③「福」ヵ.⑤周縁,裏面摩耗.	
38	A区 Ⅰ層	磁器 蓋	5.1	1.1	−	−	−	①全面透明釉施す.内外面:明緑灰より明るい.胎土:灰白.縁端部露胎.③草花文.④染付蓋.	能茶山. 1820～幕末.
39	A区 Ⅰ層	土師器 皿	9.3	2.4	−	4.8	−	①内外面,断面:灰白.④轆轤成形.内底部ナデ.畳付ケズリ.白土器.	
40	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.2	全厚 0.7	重量 4.0		①にぶい黄橙.③「板垣」.④型成形.	
41	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 3.4		①浅黄橙.③三ツ葉柏.④型成形.	
42	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 3.4	全幅 3.5	全厚 0.9	重量 12.0		①にぶい橙.③幾何学文様.④型成形.	
43	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.4	全厚 0.7	重量 2.3		①橙.わずかにキラ粉付着.③橘文.④型成形.下面ナデ.	
44	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 4.7		①橙.②砂粒を含む.③篆書による刻印ヵ.④型成形.裏面,周縁部ナデ.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
45	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.4	全厚 0.7	重量 4.4		①にぶい橙.②砂粒及び雲母片含む.③表面中央に十字花文ヵ,周囲に草花ヵ.④型成形.周縁,裏面ナデ.	
46	A区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.1	全幅 2.1	全厚 0.5	重量 2.1		①橙.②砂粒を含む.③梅文ヵ.④裏面ユビオサエ,ユビナデヵ.周縁ナデ.	
47	A区 Ⅱ層	磁器 広東碗	10.7	6.2	−	6.3	−	①内外面,断面:灰白.③外面草花文,蝶.内面帆掛船,一重圏線.外高台二重圏線.外頸部一重圏線.内口縁二重圏線.「サ」銘有.④轆轤成形.削出高台.見込高台3足,ハマ痕.	尾戸ヵ.
48	A区 Ⅲ層	陶器 碗	9.4	(6.3)	−	−	−	①灰釉.灰白釉.胎土:灰白.③外口縁白化粧土象嵌による二重圏線.体部暦手文ヵ.	尾戸.
49	A区 Ⅲ層	陶器 碗	−	(2.4)	−	7.2	−	①内外面:灰白,にぶい橙.断面:灰白.全面灰釉施す.畳付釉剥.④僅かに染付残存.⑥尾戸窯.	
50	A区 Ⅲ層	陶器 灯明皿	9.1	2.2	−	−	−	①内面:暗褐.外面:にぶい赤褐.断面:灰.④轆轤成形.内外面回転ナデ.全体に器壁は薄い.⑤内外口縁部タール付着.	17c末～18c初頭ヵ.
51	A区 Ⅲ層	磁器 杯	7.1	4.8	−	3.3	−	①全面に透明釉.内外面,断面:灰白.③外面植物文.④端反口縁.磁器染付小碗.肥前系	
52	A区 Ⅲ層	青花 皿	−	(1.4)	−	7.8	−	①透明釉.内外面:明緑灰.断面:灰白より明るい.畳付から内高台まで無釉.③内面草花文.外高台一重圏線,呉須淡い.④畳付砂付着.⑥青花皿底部.	
53	A区 Ⅲ層	金属製品 小柄	残存長 10.3	全幅 1.5	全厚 0.5	重量 28.05		②銅製.③彫金による菊花文様.⑥柄.	
54	A区-1 SK1	土製品 泥面子	全長 2.0	全幅 2.2	全厚 0.6	重量 3.2		①橙.浅黄橙.断面:橙.②砂粒を含む.③四つ目菱文.④周縁,裏面ナデ.⑤一部摩耗.⑥裏面墨書あるいはスス.	
55	A区-1 SK4	磁器 隅切角皿	−	6.5	−	16.7	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③高台内変形銘.内体部松に梅文.如意頭の窓絵に水草,蛤,四隅は四方襷に雷文.④波形口縁.	
56	A区-1 SK4	磁器 蓋付き鉢ヵ	12.5	4.9	12.7	−	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内面貫入有.端部と内面の一部露胎.③外面蝶,草花文,渦文様ヵ.④口縁端部内傾.口縁部は直立する.	
57	A区-1 SK4	磁器 香炉	10.0	8.5	10.6	9.8	−	①灰白釉.内面:灰白.外面:にぶい黄橙.断面:灰白.内面及び高台内面は露胎.④高台一部に抉り.内面轆轤目残る.外面型紙刷りヵ.	
58	A区-1 SK4	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.1	全厚 0.5	重量 3.0		①橙.②砂粒含む.④型成形.紋形文ヵ.裏面ユビナデヵ.⑤裏面摩耗する.	
59	A区-1 SK5	金属製品 簪	全長 8.3	全幅 0.5	全厚 0.3	重量 4.5		④頭部は耳掻き状.頭部より約2cmの部分に径2mmの円孔有.	
60	A区-1 SK6	陶器 猪口	4.5	2.9	−	2.9	−	①内外面,断面:にぶい黄橙.内面と外口縁から体部にかけ施釉.底部露胎.④底部回転糸切.	
61	A区-1 SK7	陶器 鉢	16.2	(4.0)	15.8	−	−	①極暗褐釉.内面:にぶい黄橙.外面:明赤褐.断面:にぶい黄橙.内口縁下に黒褐色釉.外面一部に黒褐色釉の文様.④行平鍋の一部ヵ.蓋付ヵ.⑤外底部に煤ヵ.	
62	A区-1 SK7	瓦質土器 火鉢	19.2	(10.1)	21.8	−	−	①内面:黒褐.外面:暗灰.断面:灰黄.②白色砂粒を含む.③段部下半に縮緬状文様に獅子の突起.④獅子突起部に径8mmの円孔.⑤内面スス付着.	
63	A区-1 SK8	陶器 台付灯明皿	5.7	4.5	−	3.4	−	①内面:暗赤褐.外面:灰褐.断面:灰.底部付近まで鉄釉.④底部回転糸切.	19c.
64	A区-1 SK8	磁器 碗	6.7	4.4	7.1	3.6	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.③外面区画間に草文ヵ.④丸形碗.削出高台.腰部やや張る.口縁部は内湾気味に立ち上がりのびる.⑤被熱ヵ.	
65	A区-1 SK8	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.3	全厚 0.5	重量 3.4		①にぶい橙.②砂粒を含む.③「尾上」ヵ.④型成形.裏面ナデ,ヘラの痕ヵ.周縁部ナデ.	
66	A区-1 SK10	磁器 皿	−	2.5	−	−	−	①明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③外面唐草文ヵ.内面窓絵,壽と格子の染付.	18c.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
67	A区-1 SK11	陶器 餌鉢	−	4.0	−	−	−	①オリーブ黄釉.胎土:灰黄.断面:灰白.底部無釉.④ヘラ切り調整.⑤外面に9mm幅の銅板の細工有.	
68	A区-1 SK11	磁器 皿	12.0	3.1	−	7.4	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.③見込蛇ノ目釉剥,蛇ノ目内および内面に草文,三重圏線.内口縁四重圏線.外面染付無.蛇ノ目凹形高台.④口縁肥厚.	波佐見.1820～1860.
69	A区-1 SK11	磁器 合子	6.8	4.6	−	4.6	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.底部,口縁部無釉.③内面染付無.外面梅文.	
70	A区-1 SK12	土製品 泥面子	全長 2.6	全幅 2.6	全厚 0.7	重量 5.4		①にぶい橙.③文様「福」ヵ.④型成形.下面ナデ.	
71	A区-1 SK15	土師器 皿	19.3	(3.6)	−	−	−	①内面:橙.外面:灰褐.断面:橙.④内外面回転ナデ.⑤内底部スス付着.	
72	A区-1 SK15	石製品 硯	全長 (11.5)	全幅 7.1	全厚 2.4	重量 315.0		②流紋岩ヵ.⑤わずかに墨の痕残存.⑥陸から波止まで残存.	
73	A区-1 SD1	陶器 蓋	12.5	(2.5)	−	−	−	①暗赤褐釉.黒釉.胎土,断面:灰黄.④鉄釉蓋.	
74	A区-1 SD1	磁器 猪口	5.1	(4.9)	−	−	−	①内外面,断面:灰白.③外面「嫦娥□」,外面山水風景,岩山と老婆ヵ.内口縁二重圏線.④筒型.	
75	A区-1 SD1	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.4	全厚 0.7	重量 4.0		①にぶい橙.③丸に「璃」文.④型成形.下面ナデ成形.	
76	A区-1 SD1	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.2	全厚 0.8	重量 4.3		①にぶい橙.③隅立て四つ目文.④型成形.下面ナデ成形.	
77	A区-1 SD1	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.9	重量 4.5		①橙.③コウモリ文.④型成形.下面ナデ成形.	
78	A区-1 SD3	陶器 火鉢	−	(3.4)	−	−	−	①外:緑釉.胎土,断面:淡黄.③外頸部に花文.⑤内肩部にスス付着.	
79	A区-1 SD5	陶器 火入	15.6	(12.8)	19.2	−	−	①胎土:灰褐.断面:褐灰.外胴部より下鉄釉.④低平.円筒形.口縁肥厚.⑤胴部に鉄付着.	
80	A区-1 SD6	陶器 碗	−	(2.6)	−	4.4	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.外高台土見せ(露胎).③内面蛇ノ目釉剥,砂付着.④削出高台.	17cヵ.
81	A区-1 SX1	陶器 皿	13.2	3.3	−	8.1	−	①灰白釉.胎土:灰白.③外面草花文.見込竹文.口縁部菱形の中に菖蒲文.内高台墨書有,判読不明.④底部蛇ノ目凹形高台.口縁部輪花状.型成形ヵ.	
82	A区-1 SX1	陶器 蓋	6.0	1.4	−	−	7.7	①内外面,断面:灰白.④天井部は平坦に近いが中心部はやや盛り上がる.内外面回転ナデ.断面三角形状の返りが垂直気味に付く.口縁端部面取状をなす.	
83	A区-1 SX1	陶器 蓋	10.3	3.1	10.7	1.6	−	①暗赤褐釉.断面:浅黄橙.鉄釉を施し,口縁部,把手,天井部は釉一部かき取り.③外面天井部ハケ目ヵ.④把手ボタン状.	
84	A区-1 SX1	磁器 杯	7.0	2.9	−	2.6	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.高台畳付と内面を除き全面施釉.④口縁部と内面に絵付.口縁部は外方に開く.外面には段を設ける.	
85	A区-1 SX1	磁器 小瓶	−	(8.4)	5.7	3.8	−	①灰白釉.断面:灰白.外高台,畳付以外施釉.内面露胎.③外面蛸唐草文.④回転轆轤成形.内面段が残る.口縁部鶴首形ヵ.⑥口縁部欠損.肥前系	V期 1800年代以降ヵ.
86	A区-1 SX1	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.4	全厚 0.8	重量 4.2		①にぶい橙.②精選された胎土.③橘文.④周縁,裏面ナデ.型成形.	
87	A区-1 SX1	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.55	重量 3.0		①にぶい橙.②砂粒を含む.③桔梗文.④型成形.⑤周縁,裏面摩耗.	
88	A区-1 SX6	磁器 碗	9.8	(5.3)	−	−	−	①透明釉.胎土:灰白.③内口縁六重圏線.見込腰一重圏線,中心一重圏線内舟ヵ.外口縁一重圏線,水鳥と流水,腰に一重圏線.腰と高台外の間に一重圏線.高台外に一重圏線.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
89	A区-1 SX7	土製品 泥面子	全長 (2.5)	全幅 (2.3)	全厚 1.0	重量 10.8		①にぶい黄橙.②砂粒を含む.③三巴文ヵ.④大形.巴頭部は大きく頂部は平坦.裏面には工具等による圧痕.⑤裏面と周縁部は摩耗.	
90	A区-1 SX8	陶器 蓋	2.0	1.7	−	−	5.2	①外:鉄釉.内面:赤褐.胎土:にぶい橙.笠より下無釉.④笠部ナデ.底部糸切.	
91	A区-1 SX8	陶器 玩具	全長 1.5	全幅 1.5	全厚 (0.8)	重量 0.9		①内面:橙.②砂粒を含む.③表面には山形状の文様.④遊戯具,独楽ヵ.裏面は中央部凸状を呈す.	
92	A区-1 SX8	磁器 瓶	−	(2.0)	−	5.5	−	①内:無釉.外:灰釉.胎土,断面:灰白.畳付無釉.④見込削出.	
93	A区-1 SX8	磁器 小瓶	−	(4.5)	5.1	3.1	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面草花文.	肥前. 1800年頃.
94	A区-1 SX8	磁器 人形	全長 (4.5)	全幅 (8.1)	全厚 2.2	−		①灰白釉.胎土,断面:灰白.底部無釉.④型合わせ人形,市松模様の枕に肘を置く.中空.	
95	A区-1 SX8	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 4.0		①橙.橘文の凹キラ粉付着.③橘文.④型成形.下面ナデ.	
96	A区-1 SX8	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.2	全厚 0.6	重量 3.8		①内外面,断面:橙.③草花文ヵ.④型成形.下面ナデ.	
97	A区-1 SX9	陶器 灯明受皿	10.1	1.7	−	3.9	−	①灰黄釉.胎土,断面:灰白.内面および外口縁まで施釉.外体部から底部まで無釉.④轆轤成形.底部ヘラ切り.⑤僅かにタール付着.	
98	A区-1 SX9	磁器 碗	10.4	(5.2)	−	−	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.③外面窓絵青海波と雲に千鳥,腰に一重圏線.高台内無文.内口縁四方襷,腰一重圏線,見込松竹梅ヵ.	肥前. 1850〜1860.
99	A区-1 P6	陶器 皿	10.8	2.1	−	4.4	−	①灰白釉.断面:灰白.内面から外口縁まで施釉,その他外面は露胎.細かい貫入有.④轆轤成形.回転ナデ.見込の一部に目跡ヵ.	
100	A区-1 P6	磁器 碗	−	(2.7)	−	3.5	−	①内外面,断面:灰白.畳付釉剥③見込中央に文様有.外高台脇に圏線文,文様不明(よろけ縞文ヵ).④丸形碗ヵ.	
101	A区-1 P9	土製品 泥面子	全長 2.6	全幅 2.6	全厚 0.7	重量 5.4		①にぶい橙.③矢車.④型成形.	
102	A区-1 P13	陶器 瓶	−	(10.9)	7.5	6.4	−	①内面,断面:にぶい褐.鉄釉.底部無釉.④轆轤成形.底部削で面取.	近代ヵ.
103	A区-1 P22 掘方	ガラス製品 瓶蓋	−	(2.2)	−	−	1.9	①透明.④気泡入る.瓶との接点スレ.	
104	A区-1 P22 掘方	ガラス製品 瓶	1.8	5.5	2.1	2.0	−	①透明.④角肩.気泡入る.内胴部ひっかき有.頸部フタによるスレ.	
105	A区-1 P28	磁器 碗	−	(3.7)	−	−	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面鳥文と花文ヵ,腰と外高台に一重圏線.見込に一重圏線,ピン痕.	
106	A区-1 P30	陶器 蓋	10.2	(2.4)	−	−	−	①無釉.内外面:浅黄.断面:灰黄.④天井部リボン状の摘貼付.	
107	A区-1 P30	磁器 輪花皿	14.6	4.4	−	8.6	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③内体部窓絵に草花文,菊文.見込三角文,松竹梅文.外面花唐草文.④蛇ノ目凹形高台.型打成形.	
108	A区-1 P35	陶器 土瓶	10.0	6.8	−	3.7	−	①内外:鉄釉.断面:黒褐.③外口縁から胴部まで飛鉋文.④注口貼付.	
109	A区-1 P35	磁器 輪花皿	14.6	4.3	−	9.2	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内体部草花文,蝶文,亀甲文.外体部唐草文,下界線.見込三角文,松竹梅文.外高台二重圏線.④蛇ノ目凹形高台.型打成形.	
110	A区-1 P38	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.1	全厚 0.6	重量 3.2		①橙.③花文.④型成形.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種：器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
111	A区-1 P45	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.65	重量 3.8		①橙．②砂粒含む(雲母片ヵ)．③家紋ヵ，四つ目菱．④型成形．裏面ユビオサエ．周縁部ナデ．	
112	A区-2 SK18	陶器 碗	－	(4.1)	－	4.4	－	①内外：灰白釉．断面：灰白．外体部まで施釉．④畳付面取．高台内ケズリ．見込わずかに砂付着．	
113	A区-2 SK18	磁器 皿	－	(1.4)	－	5.4	－	①透明釉．胎土，断面：灰白．③見込鷺と草木．外高台二重圏線．内高台一重圏線内に「成化年製」ヵ．	肥前． 1830～ 1860.
114	A区-2 SK18	磁器 小杯	5.5	(2.6)	－	－	－	①透明釉．胎土，断面：灰白．③外面「寿 福 寿」と唐草，宝文ヵ．内面文様無，口縁部のみ釉剥．⑤全体被熱．断面スス付着．	
115	A区-2 SK18	土製品 碁石	全長 2.1	全幅 2.1	全厚 0.6	重量 2.1		①外面：にぶい褐．④全面ナデ．	
116	A区-2 SK18	土製品 碁石	全長 2.1	全幅 2.1	全厚 0.6	重量 2.2		①外面：にぶい橙．④全面ナデ．	
117	A区-2 SK18	金属製品 古銭	銭径 2.4	孔径 0.5	銭厚 0.1	重量 3.1		⑥寛永通寶．	
118	A区-2 SK18	金属製品 古銭	銭径 2.3	孔径 0.5	銭厚 0.1	重量 2.7		⑥寛永通寶．	
119	A区-2 SK22	陶器 小碗	－	(1.9)	－	2.8	(5.8)	①内外：灰オリーブ釉．外面，断面：灰白．外体部まで施釉．見込貫入顕著．④削出高台．わずかに饅頭心．	
120	A区-2 SK23	磁器 蓋付鉢	9.3	(2.8)	－	－	－	①透明釉．胎土，断面：灰白．③銀杏に花文ヵ．内外口縁釉剥．④口縁が直立する．	
121	A区-2 SK25	陶器 台付灯明皿	6.6	5.1	－	4.3	－	①胎土，断面：灰黄褐．内面から外底部まで鉄釉．④外底部回転糸切．	
122	A区-2 SK25	陶器 台付灯明皿	7.0	5.3	－	4.3	－	①胎土：灰褐．断面：灰．内面から外底部まで鉄釉．④外底部回転糸切．⑤底部タール付着．	
123	A区-2 SK25	陶器 台付灯明皿	6.7	5.8	－	4.1	－	①内面から外底部まで灰オリーブ釉．胎土：にぶい赤褐．断面：灰．④外底部回転糸切．外底部回転ナデ．底部から上方へ立ち上がり際がくびれる．	
124	A区-2 SK25	磁器 碗	－	(4.0)	－	4.7	－	①透明釉．胎土，断面：灰白．畳付釉剥．	近代ヵ．
125	A区-2 SK25	磁器 瓶	－	(7.4)	－	6.8	－	①外：明オリーブ灰釉．胎土，断面：灰白．畳付釉剥．③外面草花文ヵ．④畳付砂付着．輪状の脚貼付．内面内底に砂付着．	
126	A区-2 SK25	石製品 硯	全長 7.7	全幅 6.9	全厚 2.9	重量 238.6		②凝灰岩ヵ．④途中割れたため裏面を新たに製作ヵ．表面の陸部中央はやや凹む．⑤両面使用．	
127	A区-2 SK26	石製品 硯	全長 (5.4)	全幅 2.5	全厚 0.7	重量 11.4		②頁岩．④小型硯．⑥海部分残存．	
128	A区-2 SK28	磁器 碗	11.3	5.0	－	3.8	－	①透明釉．胎土，断面：灰白．畳付無釉．③外面鳳凰に草花，菊文．胴部下方に蓮弁文．外高台格子．見込麒麟．	19c.
129	A区-2 SK28	磁器 紅皿	4.6	(1.4)	－	1.6	－	①灰白釉．胎土，断面：灰白．内面から外口縁一部まで施釉．④菊花形．型打成形．	肥前． 1840～ 1860.
130	A区-2 SK28	磁器 蓋	－	(2.4)	－	4.3	－	①明緑灰釉．断面：灰白．③天井部二重圏線五弁花．外面花文，摘内三重圏線．	
131	A区-2 SK29	陶器 鉢	25.0	(12.1)	－	－	－	①灰白釉．全体(残存部)施釉．④底へしぼむ．胴張り．口縁わずかに内傾．口縁端部は外傾に折り返し元の部分とは接しない．	
132	A区-2 SK29	磁器 輪花皿	10.3	(2.4)	－	5.4	－	①内外面，断面：灰白．畳付以外施釉．③口錆．見込山水楼閣．④型打成形．	肥前． 1810～ 1860.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
133	A区-2 SK29	磁器 仏飯器	6.0	6.1	−	3.6	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.削出部分から底部まで無釉.③外面杯部唐草文.④底部削出.轆轤成形.	肥前. 1690～1780.
134	A区-2 SK29	磁器 小瓶	1.6	8.0	4.0	3.2	−	①内外面:灰白.高台畳付を除き全面施釉.③染付.外面には竹と梅の文様ヵ.④小型瓶.仏花器ヵ.肩幅が狭い,頸部は垂直にのび,口縁部外反.	1800年代以降ヵ.
135	A区-2 SK29	石製品 硯	全長(4.4)	全幅 6.2	全厚 3.4	重量 74.1		②砂岩.⑥陸残存.縁は一部欠け.	
136	A区-2 SK30	陶器 瓶	3.2	(14.3)	10.3	−	−	①灰釉.胎土:にぶい橙.断面:灰白.内口縁から外面まで光沢のある灰釉.④鶴首形.	
137	A区-2 SK31	土製品 碁石	全長 1.9	全幅 2.0	全厚 0.6	重量 1.96		①表:橙.④全面ナデ.⑤完存.	
138	A区-2 SK32	陶器 土瓶	−	(2.9)	−	5.1	−	①灰オリーブ釉.内面:にぶい赤褐.無釉.外面:褐灰.体部灰釉.断面:黄灰.④貼付脚.回転ナデ.	
139	A区-2 SK32	磁器 瓶	1.5	(6.0)	−	−	−	①灰白釉.胎土:灰白.外面から内口縁施釉.③草花文ヵ.④鶴首形.	
140	A区-2 SK33	磁器 杯	7.3	3.8	−	2.7	−	①内外面:灰黄.断面:灰白.内面から外体部まで施釉.④削出高台.⑤割れ口に被熱.1/3残存.	
141	A区-2 SK34	土製品 泥面子	2.3	2.3	0.6	3.5	−	①表裏,断面:橙.③下り藤ヵ.④型成形.下面ナデ.⑤全体摩耗.一部欠損.	
142	A区-2 SK36	陶器 蓋	20.6	(3.2)	−	−	−	①暗褐釉.内面:浅黄橙.外,断面:にぶい橙.内口縁無釉.内体部鉄釉.外面一部鉄釉.④外体部ハケで放射状に削り.⑤1/10程残存.	
143	A区-2 SD7	陶器 碗	−	(5.6)	−	4.9	−	①全体に透明釉.内外面,断面:灰.畳付釉剥.内面貫入顕著.③外面松文,山水.外高台二重圏線.④腰部が張り,わずかに開きながら口縁部へのびる.	肥前. 17c.
144	A区-2 SD7	陶器 小皿	6.0	1.4	−	2.1	−	①灰白釉.外面:灰白.内面から外口縁施釉.④底部ヘラ切り.⑤全体わずかに被熱.	
145	A区-2 SD7	陶器 小壺	12.0	(8.2)	13.4	−	−	①内面:明赤褐.外面:にぶい褐.断面:明赤褐.外面鉄釉.内面明赤褐色釉.④轆轤成形.⑤割れ口スス付着.	
146	A区-2 SD7	瓦質土器 焜炉	全長(4.8)	全幅(9.0)	−	−	−	①内面:にぶい橙.外面:黒.断面:にぶい橙.④箱形.外面ミガキ.側面扇形の把手貼付.内面粗い縦ハケ.たたら成形.	
147	A区-2 SD8	陶器 鍋	21.4	13.4	−	9.0	−	①内:灰釉.外:暗赤褐釉.内面:灰黄.外面:にぶい黄橙.把手部分のみ丸く施釉.③接着部分花形の印.2ヵ所鉄釉の模様.④把手2つ貼付.⑤胴下部スス付着多.	
148	A区-2 SD8	磁器 蓋	9.0	2.6	−	−	摘径 3.6	①内外面,断面:灰白.③内口縁宝文,波文に松竹梅.外口縁宝文,松に草花・人のプリント.④望料形.⑥高台内「□ 年 □」.	
149	A区-2 SD9	磁器 皿	9.6	2.0	−	5.4	−	①内外面,断面:灰白.③上絵付.④木型打込成形.見込「壽」.線刻.二段折形.⑥見込「□ 乃 宋」と朱書き.⑥白磁.	瀬戸. 19c後半.
150	A区-2 SD11	炻器 焜炉	−	2.9	−	13.8	−	①内面:にぶい黄橙.外面:橙.断面:にぶい黄橙.胎土:礫粗粒含む.④外面ナデ.輪積み.	
151	A区-2 SD13	陶器 小碗	8.9	5.5	−	3.6	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内面から外体部まで施釉.貫入顕著.内外口縁に緑釉施釉.④削出高台.端反り.	
152	A区-2 SD13	磁器 碗	7.6	5.6	−	3.8	−	①内外面,断面:灰白.高台,畳付釉剥.③染付.外面草花文,格子文,高台上に二重圏線.内口縁圏線文.見込圏線文と中央にコンニャク印判ヵ.④削出高台.	1780～1810年代ヵ.
153	A区-2 SD13	磁器 紅皿	4.5	1.4	−	1.4	−	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外面一部底部まで施釉.④型成形.外底部に焼成時礫付着.⑤完存.	
154	A区-2 SD16	陶器 皿	−	(2.1)	−	4.9	−	①内面:灰褐,黒褐.外面:灰褐.断面:にぶい橙.外面露胎(土見せヵ).③内面蛇の目釉剥.④削出高台.	1780～1860ヵ.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
155	A区-2 SD16	陶器 蓋	17.1	(3.5)	−	−	笠径 17.4	①にぶい褐釉.黒褐釉.内外面,断面:にぶい黄橙.外面鉄釉.内体部端部より施釉.③外面笹文.	
156	A区-2 SD16	陶器 土瓶	10.3	(5.2)	10.8	−	−	①内面:黒褐.外面:灰褐.断面:黒灰.全体鉄釉.③外面飛鉋文.⑤口縁から胴部まで残存.	
157	A区-2 SD16	陶器 火入	8.5	5.4	8.6	3.9	−	①灰オリーブ釉.胎土:灰黄.断面:灰白.体部から底部下半まで施釉.削出高台.露胎.③見込4箇所目跡残る.④端部露胎.⑤端部,高台スス付着.	
158	A区-2 SD16	陶器 火入	9.5	(3.4)	9.8	−	−	①暗緑釉.胎土:灰白,灰.断面:灰白.④口縁丸く肥厚.頸部わずかにしまり,胴部が丸く膨らむ.⑤胴から口縁残存.	
159	A区-2 SD16	磁器 碗	−	(3.7)	−	−	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面植物文.内面無文.④一部上絵付.⑤焼継痕.	
160	A区-2 SD16	磁器 紅皿	4.5	1.6	−	1.3	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白,内面から外口縁まで施釉.④型成形.内面ナデ.⑤4/5残存.わずかに被熱.	19c.
161	A区-2 SD16	磁器 杯	7.3	3.7	−	3.2	−	①透明釉.胎土:灰白.全体透明釉.畳付釉剥.③外面文様無し.内面鶴文金塗.	
162	A区-2 SD16	磁器 杯	6.9	3.3	−	3.3	−	①内外面,断面:灰白.全体透明釉.畳付釉剥.③外面笹文.	肥前. 19c前半.
163	A区-2 SD16	磁器 仏飯器	7.1	6.7	−	4.8	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内高台露胎.③杯部外面草花文.④高台中心への刳り込み.杯部は上方に向かって口縁部が開く,深いタイプ.	Ⅳ～Ⅴ期ヵ.
164	A区-2 SD16	磁器 花瓶ヵ	9.4	(6.0)	−	−	−	①明緑灰釉.胎土,断面:灰白.外面から内頸部まで施釉.釉にムラ有.③外頸部に逆三角形の文様.⑤外面被熱.	
165	A区-2 SD16	石製品 石臼	全長 33.8	全幅 (16.9)	全厚 10.3	重量 7770.0	−	②花崗岩.④中央円孔.側面3.6cmの孔.⑥上臼.	
166	A区-2 SX10	陶器 輪花皿	9.1	2.3	−	3.6	−	①灰白釉.胎土:褐.断面:橙.釉光沢無.内面から外胴部まで施釉.④削出高台.	
167	A区-2 SX10	陶器 皿	−	(2.9)	−	9.1	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.胎土礫混じる.畳付釉剥.見込貫入顕著.④重ね焼き痕跡有.削出高台.	
168	A区-2 SX10	磁器 瓶	−	(7.6)	−	−	−	①明オリーブ灰釉.胎土:灰白.断面:灰白.③染付有.判別不可.④断面わずかにスス付着.⑤高台一部から胴部下方残存.	
169	A区-2 SX10	磁器 花器	−	(9.1)	−	全幅 (4.1)	全厚 (3.7)	①暗褐釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.内面無釉.壁側鉄釉.③陽刻松文.④壁掛け花器.	
170	A区-2 SX10	磁器 火入	10.9	5.0	−	4.0	−	①内外面,断面:灰白.内口縁から外高台まで施釉.④三足付く.削出高台.	肥前. 1780～1860.
171	A区-2 SX11	磁器 蓋	9.0	(3.0)	−	−	摘径 3.2	①内外面,断面:灰白.③外面丸に椿.内口縁雷文.腰に一重圏線.⑤1/10残存.	肥前. 19c.
172	A区-2 SX11	磁器 花瓶	4.1	(7.1)	−	−	−	①透明釉.内外面:明青灰.断面:灰白.③陽刻の上に染付.胴部陽刻.麻の葉と松.④胴部六面.内面は丸形.口縁六角形,染付.	
173	A区-2 P57	陶器 碗	11.9	8.7	−	6.9	−	①内面:淡黄.外面:灰黄.断面:灰白.体部下部まで灰釉施釉.口縁部露胎.③鉄錆で注連縄文ヵ.④腰折形.削出高台.内底3ヵ所円錐ピン残存.	尾戸. 18cヵ.
174	A区-2 P57	陶器 甕	25.1	(6.6)	−	−	−	①灰赤釉.胎土:明赤褐.断面:橙.口縁から外面にかけて鉄釉.③外肩部12条以上の沈線.④口縁は内側が外傾しながら直立し,端部は外側へ肥厚.	
175	A区-2 P57	陶器 カップ	5.2	4.5	−	−	−	①無釉.胎土:灰黄.内外面,断面:灰黄.③外面布目圧痕による文様有.	
176	A区-2 P62	陶器 皿	−	(2.2)	−	3.8	−	①灰白釉.胎土:灰白.③高台内墨書有「丁」,「ト」ヵ.④土見せ.見込砂付着.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
177	A区-2 P62	磁器 碗	10.2	4.6	−	3.5	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.全体施釉.③内外口縁に瓔珞文.外面漢人1人.草木に蝶.コバルト染付.	
178	A区-2 P62	磁器 皿	−	(1.7)	10.9	5.0	−	①灰白釉.透明釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③見込山水楼閣.	
179	A区-2 P68	磁器 皿	−	(2.8)	−	24.2	−	①内外面:明緑灰.断面:灰白.畳付釉剥.③見込竹文.草花文.⑤割口スラグ付着.	
180	A区-2 P68	磁器 蓋付鉢	12.0	4.4	12.4	11.1	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.高台外重ね部分釉剥.③外面唐草に松.⑤ほぼ完存.	
181	A区-2 P70	磁器 瓶	−	(7.2)	−	−	−	①明オリーブ灰釉.胎土,断面:灰白.外面青磁釉.③頸部装飾が付く④頸部しまり,口縁は外に広がり,胴部膨らむ.	
182	A区-2 P78	磁器 皿	11.6	(2.3)	−	−	−	①灰白釉.内面:灰白.③内口縁から腰部斜め格子文.⑤口縁残存.	肥前.
183	A区-2 P80	磁器 輪花皿	13.4	4.2	−	4.9	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.畳付釉剥.貫入顕著.③蛇ノ目釉剥.④削出高台.重ね焼き痕.	
184	A区-2 P84	磁器 蓋	9.8	3.1	−		摘径 4.3	①灰白釉.摘高台畳付無釉.③内口縁雷文.外面窓絵楼閣,草花文ヵ.口縁格子文.	肥前. 1820～1860.
185	A区-2 P96	磁器 仏飯器	6.9	(3.0)	−	−	−	①灰白釉.全体透明釉.③外面に花卉.花文.④高台欠.内面砂付着.断面鉄分わずかに付着.	
186	A区-2 P98	陶器 鉢	−	(4.3)	−	6.7	−	①灰白釉.胎土:橙.断面:にぶい橙.内面から外胴部施釉.④轆轤成形.削出高台.	
187	A区-2 P98	磁器 碗	−	(2.9)	−	5.0	−	①内面:灰白.畳付無釉.③内面染付無.外面草花文.外高台二重圏線.高台内染付無.	
188	A区-3 SB1-P5	土師器 杯	10.6	3.0	−	5.8	−	①内外面:橙.断面:浅黄橙.④轆轤成形.回転糸切ヵ.	
189	A区-3 SB1-P5	土師器 灯明皿	6.8	1.2	−	4.7	−	①内面:橙.外面:明赤褐.断面:橙.④轆轤成形.回転糸切.⑤内外胴部タール付着.	
190	A区-3 SK37	陶器 皿	8.8	2.2	−	3.7	−	①灰白釉.胎土:にぶい褐.断面:灰白.③見込7条おろし.④土見せ.削出高台.	
191	A区-3 SK37	陶器 火鉢ヵ	−	(3.1)	−	5.9	−	①内面:オリーブ黒.外面:褐灰,灰オリーブ.断面:褐灰.鉄釉.④見込,ハリ痕4点,礫付着.土見せ.削出高台.⑤内外被熱.断面被熱無,使用痕ヵ.	
192	A区-3 SK37	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 4.2		①橙.③花文(梅ヵ).④型成形.下面ナデ.⑥一部割れ.	
193	A区-3 SK38	陶器 小碗	7.2	3.8	−	3.0	−	①黄灰釉.胎土:黒.断面:灰.見込緑釉付着.③外口縁笹文.④轆轤成形.削出高台.	
194	A区-3 SK38	陶器 杯	−	(2.2)	−	2.7	−	①灰白釉.胎土,断面:灰.外高台無釉.腰部から上施釉.④見込気泡多.削出高台.	
195	A区-3 SK38	陶器 蓋	−	(1.5)	−	−	−	①明赤褐釉.内面:灰褐.断面:橙.外面施釉.内面無釉.④型成形.ナデ成形.⑤端部スス付着.	
196	A区-3 SK38	磁器 瓶	−	(2.8)	−	7.9	−	①明オリーブ灰釉.断面:灰白.外面明オリーブ釉.内面無釉.④轆轤成形.削出高台.畳付砂付着.	
197	A区-3 SK38	磁器 瓶	−	(16.5)	12.4	−	−	①明オリーブ灰釉.胎土:灰,灰白.断面:灰白.内頸上部に釉垂.貫入顕著.③外面草花文ヵ.⑤内面及び断面にスス付着.	
198	A区-3 SK38	土師器 焜炉	−	(10.0)	−	16.0	−	①内面:橙.外面:明赤褐.断面:橙.④円筒形.回転ナデ.⑤摩耗顕著.内面スス付着.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
199	A区-3 SK38	土師器 人形型	全長 (3.8)	全幅 (4.8)	全厚 0.8	重量 21.6		①内面:黒褐.外面:にぶい黄橙.断面:黄灰.④型成形.下面ナデ.	
200	A区-3 SK42	陶器 鉢	31.4	(3.9)	−	−	−	①内面:暗赤褐.外面:赤灰,赤褐.断面:にぶい赤褐.口縁受部以外鉄釉施釉.④貼付口縁.	
201	A区-3 SK43	陶器 蓋	8.8	(2.9)	−	−	笠径 11.2	①灰白釉.胎土:灰黄.断面:灰白.内外面露切,掛子無釉.笠部施釉.④削出掛子.	
202	A区-3 SK43	磁器 碗	11.0	5.0	−	4.2	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③外面鳳凰,青海波,雲文.外高台三重圏線.見込麒麟.内口縁宝文.	
203	A区-3 SK43	磁器 灰落し	8.4	(3.2)	−	−	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.内口縁のみ施釉.③口縁受部渦文.外面唐草文ヵ.⑤内面スス付着.	
204	A区-3 SD18	磁器 皿	12.6	2.5	−	7.8	−	①白釉.胎土:灰白.断面:白.③内面麻雀牌文.⑥「東洋陶器會社」.	S3～S36.
205	A区-3 SD18	磁器 小杯	7.8	(4.1)	−	−	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内外施釉.③外面草花文,唐草文.④端反り.	17c.
206	A区-3 SD20	陶器 皿	12.5	4.2	−	4.4	−	①暗赤褐釉.胎土,断面:褐灰.鉄釉,一部青みがかる.③内面蛇ノ目釉剥.④貼付高台.外面土見せ.重ね焼き.	
207	A区-3 SD20	陶器 輪花皿	8.9	2.4	−	5.2	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③見込山水に網干,雁文.口錆.④型押成形.⑤全体被熱.	
208	A区-3 SD20	陶器 土瓶	−	(3.1)	−	10.7	−	①浅黄釉.胎土:にぶい黄橙.断面:浅黄橙.内面施釉.外面露胎.④脚貼付.内面中心に多く礫付着.	
209	A区-3 SD20	磁器 碗	10.6	5.9	−	4.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面格子文.外高台圏線.内口縁圏線.見込菱形格子ヵ.	肥前. 1850～1860.
210	A区-3 SD20	磁器 広東碗	−	(2.8)	−	5.8	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③見込鷺文ヵ.	肥前ヵ. 1780～1810.
211	A区-3 SD20	磁器 碗	−	(3.9)	−	5.9	−	①内外面,断面:灰白.畳付釉剥.③見込舟文ヵ.ピン痕残る.外面草花文ヵ.高台内「サ」.④広東碗.削出高台.	能茶山.
212	A区-3 SD20	磁器 蓋	9.0	3.3	−	3.6	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面摘内枠に吉.窓絵に花卉.内面天井部圏線に花卉.内口縁雷文.	
213	A区-3 SX12	磁器 皿	7.7	2.3	−	3.8	−	①透明釉.胎土,断面:白.内面斜格子と菊の外に染付.③内面陽刻枠に菊(見込),枠に斜格子に波文の陽刻.④型打成形.	
214	A区-3 SX12	磁器 皿	−	(3.4)	−	8.6	−	①内外面,断面:灰白.外高台畳付施釉.内高台畳付釉剥.③外高台二重圏線.外胴下部二重圏線.内面草花文.④型打成形.蛇ノ目凹形高台.	
215	A区-3 SX12	磁器 変形皿	−	(2.5)	−	−	−	①明緑灰釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③口錆.内面窓絵に八卦(区画間).外面宝文ヵ.④型打成形.	
216	A区-3 P100	陶器 蓋	−	2.1	−	3.6	−	①にぶい赤褐釉.胎土:灰赤.断面:黄灰.鉄釉.④轆轤成形.底部糸切.	
217	A区-3 P100	陶器 鉢	19.6	(6.8)	20.1	−	−	①赤黒釉.断面:にぶい橙.内外鉄釉.	
218	A区-3 P102	磁器 皿	13.2	3.5	−	7.9	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③外高台圏線,塔.内面笹と松文.④蛇ノ目凹形高台.	肥前. 1810～1860.
219	A区-3 P104	磁器 蓋	−	(1.7)	−	3.8	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③摘内圏線に「大明年製」.内面天井花唐草.外面牡丹と唐草ヵ.④素描き.	
220	A区-3 P106柱痕	陶器 瓶	−	(22.7)	−	7.4	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.③外面鷺と樹木ヵ,錆絵.④底部面取.土見せ.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
221	A区-3 P106柱痕	陶器 火鉢ヵ	−	(10.9)	15.2	9.7	−	①明緑灰釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.明緑灰釉が胴部にかかる.内胴部上方灰白釉.④削出高台.土見せ.	瀬戸ヵ.
222	A区-3 P106柱痕	磁器 皿	−	(2.4)	−	14.8	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.高台無釉.③見込笹文,草花文.高台内「大明年製」,唐草文.	1700～1730.
223	A区-3 P110	陶器 碗	−	(4.0)	−	4.0	−	①灰白釉.断面:浅黄橙.畳付釉剥.③見込圏線,蛇ノ目釉剥.外高台圏線.外面草花文.⑤断面スス付着.	
224	A区-3 P110	陶器 蓋	15.6	(2.5)	−	−	笠径 15.8	①黒褐釉.胎土,断面:淡黄.③外面錆絵.⑤断面スス付着.	
225	A区-3 P114	土師器 小皿	7.6	1.3	−	4.6	−	①内外面,断面:にぶい橙.④底部糸切.⑥外面「…之□」「単×」.内面判読不可.	
226	A区-3 P114掘方	陶器 碗	−	(2.3)	−	5.3	−	①灰オリーブ釉.胎土,断面:灰白.貫入顕著.④削出高台.土見せ.⑥高台内墨書有,判読不可.	
227	A区-3 P128柱痕	陶器 壺	−	(10.3)	14.1	9.9	−	①内:黒褐釉.外:暗赤褐釉.胎土:灰黄.断面:褐灰.③外面錆絵.④胴部が一部へこむ.	
228	A区-3 P129	陶器 瓶	4.6	(17.1)	9.1	−	−	①灰オリーブ釉.胎土:灰白.断面:灰.外面から内面肩部まで施釉.	
229	A区-3 P129	磁器 碗	11.5	(5.3)	−	−	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面桃文,腰に圏線.内口縁に二重圏線,腰に二重圏線.	
230	A区-3 P129	石製品 砥石	全長 17.7	全幅 6.6	全厚 2.3	重量 414.0		②チャート.	
231	A区-3 P140	陶器 火入	10.5	(2.8)	−	−	−	①透明釉.胎土:褐灰.断面:灰褐.内口縁まで施釉.③外面山水文.	
232	A区-3 P143	陶器 小碗	6.8	5.1	−	3.2	−	①灰釉,一部緑釉.胎土:にぶい黄橙.断面:浅黄橙.畳付釉剥.④轆轤成形.	
233	A区-3 P148	陶器 杯	8.7	(3.9)	−	−	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.貫入顕著.	
234	A区-4 SK46	磁器 碗	9.3	(4.7)	−	−	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.④口縁わずかにくびれる.⑤わずかに被熱.	
235	A区-4 SK46	土師質土器 皿	−	(1.3)	−	4.4	−	①内外面,断面:橙.④轆轤成形.内面轆轤目少し残る.底部糸切.	
236	A区-4 SK47	陶器 鉢	30.1	(7.1)	−	−	−	①暗オリーブ褐釉.赤黒釉.胎土,断面:にぶい赤褐.内底部に暗オリーブ褐釉かかる.④外面赤黒釉横ハケ.内面部分的に縦のハケ入る.	
237	A区-4 SK48	磁器 瓶	1.6	(5.0)	−	−	−	①内面:灰白.外面:にぶい赤褐.断面:灰白.磁器ににぶい赤褐釉かかる.④口縁面取.⑥瓶頸部.	
238	A区-4 SK49	磁器 小碗	−	(3.1)	−	3.1	−	①灰オリーブ釉.内面,外面:灰オリーブ.断面:灰白.畳付釉剥.④轆轤成形.見込,高台内小礫付着.	
239	A区-4 SK50	陶器 玩具	(6.1)	(3.0)	−	3.2	−	①オリーブ黒釉.胎土:オリーブ黒.内外面,断面:オリーブ黒.外面釉一部有.④見込※の形で3歯摺目入る.⑤ままごと道具.片口鉢	
240	A区-4 SK50	磁器 小碗	−	(2.8)	−	4.2	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③内面染付無.外面樹木文ヵ.外高台三重圏線.内高台二重圏線.	
241	A区-4 SK51	陶器 甕	35.6	(13.5)	43.2	−	−	①内外面,断面:暗灰.胎土:黒褐.一部透明釉施釉.	
242	A区-4 SD21	磁器 碗	10.8	6.2	−	4.6	−	①灰白釉.透明釉.胎土,断面:灰白.一部露胎.③内面染付無.外口縁,外高台圏線.山水風景ヵ.④削出高台.底部,見込砂付着.	17c中期後葉ヵ.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
243	A区-4 SD21	磁器 皿	–	(2.4)	–	5.2	–	①青磁釉.内外面:明緑灰白.断面:にぶい橙.焼成時露出部分にぶい黄橙.③蛇ノ目釉剥.④土見せ.見込	
244	A区-4 SD22	陶器 碗	–	(4.7)	–	–	–	①にぶい黄釉.胎土,断面:灰黄.③内外面上絵付草文.	
245	A区-4 SD22	石製品 硯	全長 (7.1)	全幅 3.6	全厚 0.7	重量 29.4		①胎土:灰.⑤陸残存.粘板岩ヵ.	
246	A区-4 SX14	陶器 鉢	–	(4.5)	–	–	–	①黒褐釉.胎土:橙.内外面:黒褐,橙.断面:橙.	
247	A区-4 SX14	陶器 火鉢	–	(7.5)	19.8	15.0	–	①暗褐釉.内面:にぶい黄.外面,断面:灰白.④土見せ.内面,断面砂付着.削出高台.高台内ヘラケズリ.⑤廃棄後被熱ヵ.	
248	A区-4 SX14	磁器 皿	–	(1.5)	–	5.6	–	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付無釉.③籠に野菜文.④見込饅頭心.	
249	A区-4 SX15	磁器 紅皿	4.8	1.8	–	1.3	–	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外体部まで白磁釉.④菊花形.型打成形.焼成時礫付着.	
250	A区-4 P155	土師器 小皿	11.3	1.7	–	6.6	–	①内外面:灰白.断面:黄灰.③見込型による高砂文.④外底直線方向ナデ.	尾戸.
251	A区-4 P164,柱痕	磁器 皿	–	(2.0)	–	4.6	–	①青磁釉.明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③見込蛇ノ目釉剥.④外面土見せ.見込,畳付砂付着.削出高台.	
252	A区-4 P168	土師器 杯	10.1	(1.6)	–	–	–	①胎土:にぶい橙,粗粒砂含む.内外面,断面:にぶい橙.④ナデ成形.	
253	A区-4 P171	陶器 鉢	19.9	(2.5)	–	–	–	①透明釉.緑釉.胎土:にぶい黄橙,にぶい黄褐.断面:にぶい黄橙.外面透明釉.内面緑釉.	堺ヵ.
254	A区-4 P176	陶器 擂鉢	29.8	(5.0)	–	–	–	①内外面:暗赤灰.断面:赤,黒.③外口縁1条沈線.④内面摺目.	
255	A区-4 P178,掘方	磁器 瓶	–	(6.3)	–	–	7.1	①透明釉.灰釉.胎土,断面:灰.③肩部山水文ヵ.⑥瓶頸部から肩部.	
256	A区-4 P184	陶器 碗	11.9	7.7	12.1	4.5	–	①オリーブ黄釉.胎土:灰白.④土見せ.	唐津. 17cヵ.
257	A区-4 P185	磁器 碗	–	(2.0)	–	3.1	–	①内面:灰白.外面:明オリーブ灰.断面:灰白.高台内透明釉,一部白濁.外面青磁釉.③内面二重圏線,五弁花.外高台内渦福.	
258	A区-4 P187	陶器 火入	–	(3.9)	–	–	–	①内面:にぶい赤褐.外面:暗赤褐.断面:褐灰.④口縁T字形.⑤内面わずかに被熱.	肥前. 17c.
259	A区-4 P205	磁器 小碗	–	(3.0)	–	3.6	–	①明緑灰釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③外高台二重圏線.花文ヵ.	
260	B区 Ⅰ層	陶器 皿	7.4	2.3	–	3.5	–	①灰釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内体部草花文.見込梅文.④型打成形.	
261	B区 Ⅰ層	陶器 灯明皿	8.5	1.7	–	3.2	–	①灰白釉.胎土,断面:灰白.内面から外口縁まで灰釉施す.④見込3箇所ピン痕.⑤口縁被熱.外面タール付着.	
262	B区 Ⅰ層	磁器 皿	10.2	2.5	–	6.4	–	①透明釉.胎土,断面:灰白.③内体部唐草文.見込松竹梅文.外面唐草文.④輪花皿.	
263	B区 Ⅰ層	土師器 皿	12.0	2.0	–	8.0	–	①内面:にぶい黄橙.外面:灰白.断面:浅黄橙.③底部松文ヵ.内面横ナデ調整.	尾戸.
264	B区 Ⅰ層	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.3	全厚 0.7	重量 4.2		①表:橙.裏:にぶい橙.③丸に九枚笹(変形).④型成形.下面ナデ.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
265	B区 Ⅰ層	石製品 硯	全長(19.6)	全幅 11.2	全厚 3.7	重量 1018.0	−	①表裏,断面:灰白.②砂岩.③刻書無.⑤海より割れ.	
266	B区 Ⅱ層	陶器 碗	8.9	5.4	−	3.8	−	①灰黄釉.胎土,断面:灰白.内面から高台付近まで灰釉施す.③外面鉄錆文.④削出高台.焼成時礫付着.	京都・信楽系.
267	B区 Ⅱ層	陶器 鉢	11.0	9.5	−	9.4	−	①内面:灰オリーブ.外面:灰赤.断面:にぶい橙.灰オリーブ釉内面から外胴部まで施釉.外胴部から外高台まで鉄釉施釉.③外胴部9条波状文.	
268	B区 Ⅱ層	陶器 鉢	15.7	7.0	−	5.2	−	①明オリーブ灰釉.胎土,断面:灰白.内面から外胴部まで施釉.④内面底部5箇所ハリ痕.⑤外高台に鉄付着,廃棄後ヵ.	
269	B区 Ⅱ層	陶器 灯明皿	9.1	1.7	−	3.8	−	①灰白釉.胎土:灰黄.断面:灰白.内面から外口縁まで灰釉施す.③内面格子状櫛目.⑤口縁被熱.外面タール付着.	京都・信楽系.
270	B区 Ⅱ層	石製品 硯	全長 13.9	全幅 6.4	全厚 1.6	重量 256.0	−	①表裏,断面:黄灰,灰オリーブ.②砂岩.③硯背刻書「本高島青石」.④3箇所穿孔.温石に転用ヵ.	湖西高島産.
271	B区 Ⅲ層	陶器 皿	12.4	4.4	−	4.5	−	①赤黒釉.内面:にぶい赤褐.外面:灰褐.断面:橙.③蛇ノ目釉剥.高台内墨書.④削出高台.土見せ.重ね焼き痕.	
272	B区 Ⅲ層	陶器 灯明受皿	7.5	1.8	−	3.9	−	①暗赤褐釉.胎土:灰白.内口縁施釉.外口縁から体上部施釉.④外面重ね焼き痕.⑤内面擦り痕.	
273	B区 Ⅲ層	陶器 灯明受皿	9.9	1.6	−	4.4	−	①内外面:赤褐.断面:橙.④輪状受部貼付.3箇所切れ込み.底部糸切後全体轆轤調整.⑤内外口縁部タール付着.	
274	B区 Ⅲ層	磁器 皿	11.7	3.6	−	4.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③内体部二重格子文.④蛇ノ目釉剥.重ね焼き痕.	波佐見. 1680～1740.
275	B区 Ⅲ層	磁器 杯	7.7	4.0	−	3.2	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③内面無文.外面花弁文,界線.外高台圏線.④内面砂付着.	
276	B区 Ⅲ層	土製品 人形	全長 2.9	全幅 2.6	全厚 1.1	重量 4.9		①表:にぶい橙.裏:橙.断面:浅黄橙.全体キラ粉付着.④板状台座.型成形.下面径4mm孔有.⑥天神様.	
277	B区-1 SB1	磁器 角皿	7.4	2.4	−	3.5	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.白磁釉.③見込陽刻梅文.内体部紗綾文.	瀬戸.
278	B区-1 SK5	陶器 蓋	6.3	0.9	−	−	笠径 8.2	①明オリーブ灰釉.胎土:灰白.外面青磁釉.笠部露胎.④ハリ痕3点.鉄分付着.	
279	B区-1 SK5	土製品 玩具	7.3	5.9	−	5.5	−	①胎土:浅黄橙.内面:灰白.外面,断面:浅黄橙.外面キラ粉付着.④型打成形後ナデ成形.⑥飯事道具.焜炉.	
280	B区-1 SK12	土製品 泥面子	全長 (2.2)	全幅 2.2	全厚 0.6	重量 3.3		①胎土:橙.③「ユ」.④型成形.全体ナデ.⑤下面やや割有.	
281	B区-1 SK12	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.6	重量 3.3		①胎土:灰白.③葵文.④型成形.下面ナデ.	
282	B区-1 SD3	土製品 泥面子	全長 2.2	全幅 2.2	全厚 0.6	重量 3.2		①胎土:橙.③文字文.④型成形.下面ナデ.	
283	B区-1 SX3	土製品 泥面子	全長 2.0	全幅 2.0	全厚 0.6	重量 2.6		①胎土:にぶい橙.③梅文.④型成形.下面ナデ.	
284	B区-1 SX3	土製品 泥面子	全長 (2.0)	全幅 2.4	全厚 0.6	重量 3.5		①胎土:にぶい褐.キラ粉付着.③三つ葉柏文.④型成形.下面ナデ強.中央凹み顕著.	
285	B区-1 P18	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.3	全厚 0.6	重量 3.3		①胎土:橙.③蜻蛉文.④型成形.下面ナデ.	
286	B区-1 P37	陶器 蓋	10.4	3.1	−	笠径 10.5	摘径 1.9	①赤黒釉.胎土,断面:赤.内外笠部鉄釉施釉.③笠部蛇ノ目施釉.⑥287とセット.急須蓋.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
287	B区-1 P37	陶器 急須	10.5	6.9	11.6	5.0		①赤黒釉.胎土,断面:赤.内外面鉄釉.③外面飛鉋文.⑤取手割れる.注口残存.286とセット	
288	B区-2 SK15	陶器 小碗	8.2	4.5	−	2.5	−	①浅黄釉.内外面:浅黄.断面:灰白.貫入顕著.④削出高台.土見せ.	
289	B区-2 SD8	陶器 壺	7.8	7.3	8.7	4.1	−	①鉄釉.胎土:灰黄.内外面:黒.断面:灰黄.④土見せ.碁笥底.	
290	B区-2 SX7	磁器 皿	10.3	2.9	−	5.8	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③見込「寿」.胴部同心円文.外面宝文.④輪花皿	
291	B区-2 SX9	陶器 杯	8.2	3.6	−	3.4	−	①内面:灰白.外面:灰白.断面:灰黄.内面から外高台まで灰釉施す.④削出高台.	
292	B区-2 SX9	陶器 餌皿	5.2	2.3	−	3.9	−	①灰釉.黄灰釉.内面:黄灰.外面:褐灰.断面:灰白.内面から外体部まで施釉.④内面,口縁部,底部砂付着.2箇所施釉時指痕.	
293	B区-2 SX9	陶器 紅皿	4.7	1.4	−	1.4	−	①白磁釉.灰白釉.胎土:灰白.③菊花.④型打成形.	
294	B区-2 SX9	陶器 燗徳利	−	(18.7)	−	−	−	①暗青灰釉.灰黄釉.胎土:灰白.口縁から頸部まで緑釉かかる.胴部透明釉.貫入顕著.	
295	B区-2 SX9	磁器 小碗	8.1	5.6	8.8	3.8	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③見込舟文ヵ.外面花卉文.高台内「サ」ヵ.	能茶山ヵ.
296	B区-2 SX9	磁器 八角鉢	14.9	(6.1)	−	−	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③見込草花に鳥.内面区画内花卉,雲文,捻り格子文.外面如意頭に雲文.高台内枠に茶山.	能茶山.
297	B区-2 SX9	磁器 仏飯器	6.4	5.7	−	3.5	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.③杯部外面唐草文.	肥前. 19c ヵ.
298	B区-2 P44	陶器 火入	10.2	10.2	−	9.0	−	①暗赤褐釉.内面:赤褐.外面:にぶい赤褐.断面:赤灰.内口縁から外胴部まで鉄釉施す.④轆轤成形.底部ヘラ削り.⑤僅かに被熱.	
299	B区-2 P60	土製品 泥面子	全長 2.4	全幅 2.4	全厚 0.7	重量 4.0		①表:橙.裏:にぶい赤褐.③変わり熊笹文ヵ.④型成形.下面ナデ.	
300	B区-2 P68	陶器 甕	23.8	−	−	11.1	−	①内外面:灰赤.断面:灰白.内面から外胴部下部まで鉄釉施す.④内底部5点ハリ痕.	
301	B区-2 P68	瓦質土器 火鉢	15.1	8.4	−	15.3	−	①無釉.内面:灰白.外面:暗青灰.断面:灰白.④内外面横方向ナデ.底部円柱形を呈する脚3点付.円筒形.⑤内面使用痕.	
302	B区-2 P85	陶器 擂鉢	23.0	8.6	−	7.9	−	①暗赤褐釉.内外面:にぶい赤褐.断面:暗灰.内口縁,外体部鉄釉.④18歯摺目.轆轤成形.削出高台.面取.	
303	B区-2 P93	陶器 台付灯明皿	7.2	5.4	−	3.2	−	①内面:極暗赤褐.外面:暗オリーブ褐.断面:橙.内面から外底部まで鉄釉施釉.④底部糸切.轆轤成形.	
304	B区-2 P93	磁器 皿	14.6	2.9	−	8.8	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.③外高台二重圏線.高台内一圏線,渦福.体部下方一圏線.見込牡丹文,界線二重圏線.立ち上がり山水文ヵ.	18c.
305	B区-2 P121	金属製品 古銭	銭径 2.4	孔径 0.5	銭厚 0.1	重量 3.9		⑥寛永通寶.	
306	B区-3 SK20	土師器 皿	−	1.0	−	3.5	−	①内外面,断面:橙.④底部糸切.	
307	B区-3 SK27	陶器 擂鉢	30.2	11.3	−	13.1	−	①内面:赤褐.外面:灰赤:断面:赤.胎土1-2mm礫混じる.④10歯摺目の後,口縁ナデ.	堺ヵ.
308	B区-3 SK27	瓦質土器 火鉢	19.0	18.3	−	17.7	−	①内外面:灰.断面:灰白.内面底部キラ粉付着.④轆轤成形.⑤内底部,胴部使用痕.	在地.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
309	B区-3 SK29	青花 碗	11.6	7.8	−	5.8	−	①明オリーブ灰釉.内外面:明オリーブ灰.胎土:灰.畳付釉剥.内面貫入顕著.③外面山水文.④底部薄く体部厚い.削出高台.	
310	B区-3 SD10	陶器 火鉢ヵ	12.8	7.5	13.3	13.0	−	①内面:にぶい橙.外面:にぶい赤褐.断面:橙.②胎土粗礫混じり.③刻印ハに上.④底部縁辺部,口縁部重ね焼き痕.底部薄く,下方に膨れる.胴部下方ややくびれる.	
311	B区-3 P132	陶器 合子蓋	6.6	0.9	−	−	笠径 8.6	①浅黄釉.灰釉.胎土:灰白.内面無釉.⑥312とセット.	在地,県東部ヵ.
312	B区-3 P132	陶器 合子	8.1	4.6	−	4.9	8.4	①浅黄釉.灰釉.胎土:灰白.底部,口縁部無釉.④轆轤.④餌鉢ヵ.⑥小龍3で餌鉢と報告されているものに似ている.311とセット.	在地,県東部ヵ.
313	B区-3 P157	陶器 擂鉢	32.8	(11.0)	−	−	−	①内外面:灰赤.断面:赤褐.③外口縁2条沈線.内口縁2条沈線.④内面7歯単位の摺目	
314	B区-3 P162	土師器 皿	9.7	1.7	−	5.7	−	①内面:灰白.外面:にぶい橙.断面:灰白.④底部回転糸切.内外回転ナデ.	
315	B区-3 P172	陶器 碗	11.3	(4.4)	−	−	−	①灰白釉.胎土:灰白.③外口縁二重圏線.④口縁肥厚.	
316	B区-3 P179	磁器 碗	10.6	6.1	−	4.2	−	①内外面,断面:灰白.③外面山水に東屋,網干,松,波.背景に岩山,下界線.外高台二重圏線.見込二重圏線に鷺ヵ.内口縁雷文.④端反り.	肥前. 1820～1860.
317	B区-3 P184	瓦質土器 火鉢	17.4	8.8	19.7	15.6	−	①内面:灰白.外面:黄灰.断面:灰白.④底部ヘラ切り.三脚貼付.輪積み.轆轤成形.⑤スス付着.	
318	B区-4 SK30	陶器 皿	12.3	3.7	−	5.2	−	①鉄釉.内外面:にぶい黄橙.断面:にぶい褐.④轆轤成形.削出高台.見込砂目痕3箇所.⑥唐津系灰釉陶器.	1610～1630年ヵ.
319	B区-4 SK34	陶器 鉢	−	(4.7)	−	−	−	①赤黒釉.胎土,断面:明赤褐.内外鉄釉.④内面横ハケの施釉を縦に切る.	
320	B区-4 SK40	陶器 灯明皿	11.4	2.1	−	6.9	−	①内外面:にぶい赤褐.断面:浅黄橙.全体ににぶい赤褐釉かかる.⑤口縁部タール付着.	
321	B区-4 SK43	磁器 杯	5.5	1.6	−	2.7	−	①内外面:明オリーブ.断面:灰白.全体に明オリーブ釉かかる.④回転ナデ成形.	
322	B区-4 SK44	陶器 不明	−	(5.8)	−	−	−	①灰オリーブ釉.胎土,断面:灰黄.内面露胎.外面灰オリーブ釉施す.③外面鉄錆による梅文.	京都・信楽系.
323	B区-4 SD21	陶器 碗	8.2	5.8	−	3.6	−	①内外面,断面:灰白.内面から高台付近灰釉.③内体部一重沈線.	
324	B区-4 SD27	陶器 小碗	(7.1)	2.0	−	3.1	−	①内面:にぶい橙.外面:灰白.断面:にぶい橙.内面から高台灰釉.畳付釉剥.	尾戸.
325	B区-4 SX18	磁器 皿	22.6	6.0	−	7.7	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③見込蓮葉文.④砂付着.	肥前. 17c.
326	B区-4 SX22	土師器 焼塩壺	5.7	8.5	−	3.8	−	①表裏,断面:橙.③刻印無.④帯状の粘土を巻上げ,叩き成形.底央部充填.	
327	B区-4 P190	磁器 蓋	10.3	2.7	−	4.3	−	①透明釉.内外面:明緑灰.断面:灰白.③外面摘三重圏線.笠部菊唐草文.内面松竹梅文.四方襷.	19c.
328	B区-4 P226	磁器 油壺	7.4	4.7	−	5.9	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.③外胴部唐草文,蓮弁文.	
329	B区-4 P239	陶器 甕	−	(26.9)	26.5	16.5	−	①内面:黄灰.外面:黒褐.断面:暗赤褐.外面鉄釉施す.内面まだらに釉かかる.③内面当て具.格子目.	肥前ヵ. 17c後半ヵ.
330	B区-4 P245	陶器 蓋	6.5	1.8	−	笠径 8.5	摘径 1.6	①黒褐釉.胎土,断面:橙.外面から口縁まで鉄釉施す.④摘花形付.内面面取.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
331	B区-4 P245	磁器 蓋	4.2	2.8	−	10.4	−	①透明釉.内外面:明緑灰.断面:灰白.③外面摘三重圏線.笠部菊唐草文.内面松竹梅文.四方襷.	19c.
332	B区-4 P254	陶器 碗	9.7	4.6	−	−	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.貫入1mm前後.④外面風景文の染付,朱の梅文.上絵付.	
333	B区-4 P254	陶器 擂鉢	31.8	10.0	−	−	−	①内外面:赤褐.断面:灰白.胎土粗粒砂混じる.④内面11歯単位摺目.口縁部面取.	
334	B区-4 P255	土師器 焙烙	29.9	7.4	31.6	−	−	①内面:にぶい橙.外面:橙.断面:にぶい橙.④内外面ナデ.口縁部に径2mm深さ4mmの孔有.⑤内外面使用時被熱.	
335	B区-4 P264	磁器 蓋	3.8	2.3	−	8.5	−	①透明釉.内外面,断面:灰白.③摘二重圏線.笠部文字文.内口縁部二重圏線.一重圏線.太極図.望料碗蓋.	
336	B区-4 P275	陶器 擂鉢	35.5	14.2	−	17.1	−	①内外面,断面:にぶい赤褐.④11歯摺目.	備前ヵ.
337	B区-4 P279	陶器 碗	7.5	5.7	−	4.4	−	①灰白釉.内外面,断面:灰白.内面から外体部施釉.貫入顕著.④外体部二重圏線,鉄錆.	
338	B区-4 P287	土師器 小皿	6.9	1.1	−	4.7	−	①内外面,断面:灰白.④底部糸切.内外面回転ナデ.見込ヘラ調整.⑤僅かに被熱.	
339	B区-4 P290	瓦質土器 焜炉	14.0	(0.6)	−	−	−	①内面:にぶい黄橙.外面:灰白.断面:灰黄褐.④円筒形.前方楕円形の窓.内口縁部回転ナデ.内面肩部指頭圧痕.外面回転ナデ.⑤口縁部被熱.	
340	B区-4 P294	金属製品 古銭	銭径 2.6	孔径 0.5	銭厚 0.1	重量 3.3		⑥寛永通寶.	
341	C区 客土	石製品 硯	全長 13.1	全幅 7.1	全厚 3.0	重量 487.0		②泥質砂岩.⑤陸残存.全体掻き傷多.	
342	C区 3層	陶器 碗	9.6	5.6	−	3.0	−	①内面:淡黄.外面:灰黄.断面:灰白.内面から外面体部まで施釉.貫入有.釉に光沢有.③外面鉄錆で絵付.	
343	C区 3層	陶器 手焙り	−	9.4	8.4	4.6	−	①赤黒釉.内面:灰褐.外面:暗赤褐.高台,見込無釉.鉄釉施す.④茄子形.上部に片喰形の窓.碁笥底.	尾戸.
344	C区-1 SK2	石製品 石臼	全長 (28.5)	全幅 29.7	全厚 12.5	重量(kg) 11.8		②花崗岩.④孔上方は径2.5cm.孔下方は径8cm.⑤1/3ほど欠	
345	C区-2 SB1-P1	磁器 瓶	−	(15.2)	7.6	5.1	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③胴部に柳文ヵ.④畳付砂付着.頸部耳付き.	19c ヵ.
346	C区-2 SB1-P1	銅製品 簪	全長 15.2	全幅 −	全厚 0.1	重量 4.7		④上端から先端薄く扁平.	
347	C区-2 SK12	土師器 焼塩壺	5.5	8.4	−	3.7	−	①内外面,断面:橙.④内面布目痕.外面ナデ.内面粗いナデ.	
348	C区-2 SD4	陶器 壺	9.2	6.0	−	4.4	−	①鉄釉.内外面:オリーブ黒.断面:灰.内面から外胴部施釉.⑤畳付から外面にかけて鉄付着.廃棄時ヵ.	
349	C区-2 P12	陶器 甕	21.0	(27.4)	26.5	−	−	①赤黒釉.内面:黒褐.外面:暗赤褐.断面:黄灰.全体柿釉.頸部から鉄釉施す.④轆轤輪積み成形.平面形.口縁楕円形.	
350	C区-2 P12	陶器 甕	22.6	26.4	25.5	17.4	−	①極暗赤褐釉.胎土:にぶい黄.断面:灰黄褐.内面から外底部鉄釉.③肩部8条沈線.④内底部3点ハリ痕.	
351	C区-2 P12	磁器 枕	全長 17.3	(10.4)	−	−	全幅 9.1	①外面,断面:灰白.畳付釉剥.指頭のなかに釉有.③胴部草花に蝶(両面).④底部接地面を凹凸にして接合,その後施釉.	
352	C区-2 P12	磁器 碗	11.3	6.4	−	6.0	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面草文.外高台三重圏線.内口縁,見込一重圏線.④広東碗.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
353	C区-2 P12	磁器 瓶	1.5	9.6	4.7	3.2	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③染付草花文,草文.④口縁僅かに端反り.	肥前. 19c.
354	C区-3 SK15	磁器 杯	7.4	4.9	−	3.7	−	①青磁釉.内外面:明オリーブ灰.断面:灰白.③雁文ヵ.畳付砂付着.	
355	C区-3 SK16	陶器 餌鉢	5.4	2.3	−	4.8	−	①灰釉.内外面,断面:灰白.底部以外施釉.④底部糸切.	
356	C区-3 SK16	磁器 皿	10.0	2.2	−	6.4	−	①透明釉.内外面,断面:明褐灰.③口錆.見込楼閣山水文.④輪花皿.型打成形.	肥前ヵ.
357	C区-3 SK16	磁器 玩具	2.0	1.1	−	1.0	−	①灰白釉.白磁釉.胎土:灰白.④型成形.⑥紅皿を模した玩具.	
358	C区-3 SK16	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.4	全厚 0.8	重量 4.7		①表裏,断面:にぶい橙.③「民」④型成形.下面ナデ.	明治. 19c後半.
359	C区-3 SK17	陶器 蓋	7.6	2.4	−	5.7	−	①灰釉.内面:浅黄.外面,断面:灰白.外面摘から口縁まで施釉.⑤内面被熱顕著.	
360	C区-3 SK18	陶器 皿	9.1	1.8	−	4.0	−	①灰釉.内外面:灰黄.断面:灰白.内面から外口縁に施釉.④内面ハリ2点残存.⑤外面ややスス付着.	京都・信楽系ヵ.
361	C区-3 SK18	磁器 碗	9.8	5.5	−	4.0	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③内外面草文の染付に金の上絵付.⑤補修痕.	
362	C区-3 SK20	銅製品 煙管	全長 7.2	全幅 1.6	全厚 −	重量 7.0	火皿径 1.7	⑥銅製煙管雁首.	
363	C区-3 SK25	磁器 八角鉢	15.1	(4.6)	−	−	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面縦に帯線,帯線内に渦文.内面濃淡つき帯線.⑤補修痕.	
364	C区-3 SX3	陶器 蓋	7.7	1.8	−	4.5	−	①赤黒釉.内面:赤黒.外面,断面:にぶい黄橙.摘一部露胎.全体鉄釉.④内面重ね焼き痕.	
365	C区-3 SX3	磁器 蓋	9.9	2.9	−	6.0	−	①透明釉.内外面,断面:明緑灰.③摘内落款.外面草文.内底葉文と境界線.内口縁二重圏線.	
366	C区-3 P16	陶器 灯明皿	10.5	2.5	−	4.1	−	①灰釉.内外面,断面:灰白.内面から外口縁部まで施釉.貫入有.③内面3条櫛目.⑤断面スス付着.	京都・信楽系.
367	C区-3 P20	陶器 碗	10.5	8.4	−	5.0	−	①灰白釉.内面:灰白.外面:にぶい赤褐.断面:灰白.内面から外体部まで灰釉施す.貫入細かい.④見込わずかに砂付着.	
368	C区-4 SK29	陶器 甕	26.0	30.5	29.4	14.4	−	①黒釉.暗赤褐釉.胎土:にぶい褐.断面:褐灰.内面から外底部付近まで柿釉施す.③肩部2条沈線と櫛描,波状文.④内底部6箇所砂目.	
369	C区-4 SK31	陶器 蓋	15.5	3.3	−	14.9	16.6	①内外面:灰白.断面:明緑灰.露切以外施釉.貫入細い.③笠部鉄錆柴束文.	
370	C区-4 SK31	陶器 土瓶	7.8	(6.8)	10.3	−	−	①にぶい黄釉.胎土:淡黄.断面:灰白.口縁以外灰釉.③外面鉄錆椿文.	
371	C区-4 SK31	土師器 小皿	8.1	1.4	−	4.0	−	①内面:にぶい橙.外面:橙.断面:にぶい橙.④底部回転糸切.内外面ナデ.	
372	C区-4 SK32	陶器 碗	9.2	5.8	−	4.4	−	①内外面,断面:灰白.内面から外体部まで灰釉かかる.貫入有.	在地ヵ.
373	C区-4 SK32	土製品 人形	全長 (4.4)	全幅 5.6	全厚 2.8	重量 30.4		①表裏:にぶい黄橙.断面:灰白.表面キラ粉付着.④型成形.底面円錐形の孔有.径1.3cm.深さ3.7cm.⑥着物を着た人物形.	
374	C区-4 P26	土師器 皿	7.6	1.1	−	−	−	①内外面,断面:にぶい黄橙.④底部糸切.内外面回転ナデ.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
375	H区 1層	石製品 硯	全長 11.7	全幅 10.4	全厚 2.7	重量 431.0		②頁岩.	
376	H区 2層	陶器 香炉	10.1	7.6	9.1	5.8	−	①黒褐釉.内外面,断面:にぶい黄橙.鉄釉外高台から外口縁施釉.⑤内底部被熱.	17c ヵ.
377	H区 2層	磁器 徳利	−	(14.9)	5.6	5.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③竹文に花鳥文.背面に舟文.	
378	H区 2層	土製品 泥面子型	全長 4.5	全幅 4.6	全厚 1.5	重量 25.9		①表:にぶい橙.裏:橙.③篆書.④内面型成形.外面ナデ.	
379	H区 3層	陶器 台付灯明皿	6.3	5.0	−	4.2	−	①黒釉.胎土:黄灰.断面:にぶい褐.内面から外底部鉄釉施す.④底部糸切.⑤受皿外面被熱.	
380	H区 3層	磁器 蓋	7.1	2.3	−	笠径 7.8	摘径 1.0	①透明釉.灰白釉.胎土:白.	近代.
381	H区 3層	磁器 瓶	−	(10.4)	5.2	3.2	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰.畳付釉剥.光沢有.③紅葉文,笹文.	
382	H区-1 SX1	土製品 人形	全長 3.4	全幅 2.2	全厚 1.8	重量 10.6		①表:にぶい黄橙.④型成形.⑥大黒天.	
383	H区-2 SK5	土師器 皿	6.3	1.5	−	3.9	−	①内外面,断面:橙.④底部糸切.内面回転ナデ.⑤全体被熱.	
384	H区-2 SK5	土師器 皿	7.1	1.4	−	5.2	−	①内外面:橙.断面:浅黄橙.④轆轤成形.内面回転ナデ.底部糸切.	
385	H区-2 SK5	土師器 灯明皿	7.3	2.7	−	4.8	−	①内外面,断面:橙.④底部糸切.⑤口縁タール付着.	
386	H区-2 SK7	土製品 泥面子	全長 2.3	全幅 2.5	全厚 0.6	重量 3.9		①表裏:橙.③文字判読不可.④型成形.	
387	H区-3 SK9	磁器 皿	20.7	2.5	−	14.7	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③内面八卦.口縁帯線.見込太極図,界線,二重圏線.外高台二重圏線.外面八卦.内高台二重圏線内に「太清萬曆年製」5点ハリ痕.	肥前. 17c.
388	H区-3 SK15	土師器 皿	10.2	1.7	−	5.5	−	①内外面,断面:灰白.④底部糸切.⑤全体摩耗.	
389	H区-3 SK17	陶器 捏鉢	47.8	19.3	−	21.3	−	①内面:赤褐,暗赤灰.外面:暗赤.断面:赤灰.内外面一部自然釉かかる.④内面深さ4-5cm.回転ナデ.⑤白い内容物付着.周囲にスラグ付着,廃棄後ヵ.	
390	H区-3 SK17	陶器 壺	14.3	13.3	17.0	10.3	−	①暗褐釉.胎土,断面:灰白.内面から外胴部まで鉄釉施す.④内底部重ね焼き痕.⑤内底部周辺変色.銅片,鉄片付着.	
391	H区-3 SK17	陶器 仏花器	4.6	15.1	−	5.4	−	①頸部鉄釉.胴部灰釉.③笹文有.④畳付砂付着.⑤廃棄時ヵ穿孔有.胴部一部焼成時ヵ焼け有.	
392	H区-3 SK18	磁器 皿	12.8	3.0	−	8.2	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③見込海浜風景文.④蛇ノ目凹型高台.口縁肥厚.見込3点ハリ痕.	波佐見. 1820～ 1860.
393	H区-3 SK19	磁器 小杯	6.1	2.4	−	3.0	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土:にぶい橙.断面:灰白.③外面笹文.	
394	H区-3 SD3	土師器 灯明皿	6.0	1.0	−	5.0	−	①内外面,断面:橙.④底部糸切.内面回転ナデ.⑤口縁部タール付着.	
395	H区-3 SX6	陶器 碗	10.3	8.1	11.2	4.5	−	①灰オリーブ釉.胎土,断面:灰黄.内面から外高台まで灰釉施釉.④見込2点ハリ痕残存.	
396	H区-3 SX6	陶器 碗	10.0	5.1	−	3.9	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.畳付釉剥.③外面花卉文.⑤外面被熱.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
397	H区-3 SX6	陶器 皿	12.8	4.6	−	4.7	−	①極暗赤褐釉.内面:灰白.外面,断面:にぶい赤褐.鉄釉外口縁から体部施釉.③内面全体施釉後蛇ノ目釉剥.重ね焼き痕.⑤外底部被熱.	
398	H区-3 SX6	陶器 皿	10.4	2.3	−	3.6	−	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外口縁まで灰釉施す.③内面3条櫛目.④轆轤成形.内面3点ハリ痕.⑤全体被熱.	京都・信楽系.
399	H区-3 SX6	陶器 杯	6.4	4.4	−	3.1	−	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外体部まで灰釉施釉.貫入荒い.④轆轤成形.削出高台.⑤主に内面被熱ヵ.	
400	H区-3 SX6	陶器 杯	7.9	3.3	−	3.4	−	①灰釉.胎土:灰.内面から外高台まで灰釉施す.⑤全体被熱.	
401	H区-3 SX6	陶器 杯	7.8	3.3	−	3.3	−	①灰釉.胎土:灰.内面から外胴部まで灰釉施す.④削出高台.⑤一部やや鉄分付着.全体被熱,特に外面強い.	
402	H区-3 SX6	陶器 杯	7.7	2.8	−	3.2	−	①明オリーブ灰釉.胎土:灰.断面:灰白.内面から外体部まで灰釉施す.③外面笹文.④削出高台.⑤全体被熱.	
403	H区-3 SX6	陶器 杯	7.3	3.5	−	2.9	−	①灰白釉.白磁釉.胎土:にぶい黄橙.畳付釉剥.③外面笹文.	
404	H区-3 SX6	陶器 蓋	6.3	3.2	−	笠径 8.5	摘径 1.8	①にぶい黄釉.胎土,断面:橙,にぶい黄橙.外面笠部にぶい黄釉施釉.貫入顕著.③笠部放射状の沈線.	
405	H区-3 SX6	陶器 灯明受皿	11.0	2.1	−	4.4	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.白磁釉外口縁から内面施釉.受部口縁釉剥.⑤口縁部やや被熱.外底部スス付着.	
406	H区-3 SX6	磁器 杯	7.6	4.3	−	3.5	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面桔梗文.外面一重圏線.外高台一重圏線.内口縁帯線.⑤見込被熱.	
407	H区-3 SX6	磁器 杯	6.6	3.3	−	2.7	−	①透明釉.胎土:灰白.③外面笹文.④削出高台.⑤全体被熱.	
408	H区-3 SX6	磁器 杯	7.6	4.0	−	3.5	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③見込宝文.内口縁帯線.高台内「サ」.	能茶山.
409	H区-3 SX6	磁器 杯	7.4	4.3	−	3.3	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面蝶文.一重圏線.外高台二重圏線.内口縁帯線.⑤内面被熱.	
410	H区-3 SX6	土師器 火鉢	16.2	7.9	17.3	15.8		①内面:淡橙.外面:橙.④底部円形の脚3箇所付.円筒形.⑤内面被熱痕顕著.外面わずかに被熱.	
411	I区 I層	陶器 碗	9.8	5.3	−	4.2	−	①青磁釉.灰白釉.胎土:明赤褐.断面:灰白.③外面網目文.外高台二重圏線.	
412	I区 I層	磁器 碗	9.4	5.0	−	3.9	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③外面丸に矩形文と一重圏線.外高台二重圏線.内口縁二重圏線.見込不明瞭.	
413	I区 I層	磁器 碗	10.9	6.0	−	4.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面草花文,帯線,一重圏線.外高台二重圏線.高台内「茶」銘.内口縁七重圏線.見込貝文ヵ.⑤全体被熱.	能茶山.
414	I区 I層	磁器 蓋	9.1	3.2	−	笠径 9.3	摘径 4.1	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面花卉文,橘文ヵ.外摘二重圏線.摘内一重圏線内に「茶」の銘.内面宝文と雷文.	
415	I区 I層	石製品 硯	全長 16.2	全幅 6.7	全厚 2.7	重量 493.0		②砂岩.④淵に径5mmの孔有.⑤陸に墨染み込む.	
416	I区 Ⅲ層	陶器 擂鉢	31.7	(12.0)	−	−	−	①内外面:にぶい赤褐.断面:赤褐.④9歯摺目.	備前.
417	I区 Ⅲ層	磁器 蓋	10.6	(2.2)	−	笠径 13.1	摘径 4.0	①内面灰オリーブ釉.外面明緑灰.胎土:褐.断面:灰白.外面,内底部青磁釉施す.掛子無釉.貫入顕著.④口縁砂付着.	
418	I区 Ⅲ層	土師器 灯明皿	6.7	10.3	−	4.6	−	①内外面,断面:橙.④轆轤成形.底部糸切.内面回転ナデ成形.⑤口縁タール付着.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
419	I区-1 SK1	陶器 灰落し	10.4	9.5	10.6	10.0	−	①灰黄釉.胎土:にぶい赤褐.内口縁から外底部まで灰釉施す.③外面山文,花文,松葉文.⑤内底部やや被熱.	
420	I区-2 SX5	陶器 皿	11.5	4.6	−	4.9	−	①極暗赤褐釉.内面:橙.外面:にぶい橙.断面:灰白.外体部から内面まで鉄釉施す.③蛇ノ目釉剥.④重ね焼き痕.削り出し高台.	肥前. 18c.
421	I区-3 SD2,P1	磁器 猪口	8.1	6.2	−	5.3	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土:灰白.③外面蓮文,蝶文.内面宝文.	
422	I区-3 P3	陶器 碗	−	(4.1)	−	5.1	−	①灰白釉.胎土:にぶい黄橙.断面:灰白.内面から外高台まで灰釉施す.④見込5点ハリ痕.	
423	D区	陶器 壺	7.0	9.4	11.2	5.4	−	①黒褐釉.胎土:黄灰.外口縁から胴部まで鉄釉施す.③高台内墨書「セツ□□」.④削出高台.⑤廃棄後鉄分付着.	
424	D区	磁器 碗	11.3	6.5	−	6.4	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.円高台際釉ムラ有.③見込一重圏線内に鷺.内口縁二重圏線.外高台三重圏線.外面草花文,鳥文.④広東碗⑥石垣根入れ部分,コンクリート下より出.	
425	D区	磁器 皿	7.4	1.7	−	4.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内面風景文ヵ.外面雲文.④型打成形.染付八角皿.	瀬戸ヵ.
426	D区	磁器 皿	12.8	(4.2)	−	4.6	−	①内外面,断面:灰白.畳付釉剥.③内面蛇ノ目釉剥ぎ.二重圏線.菱形文.⑤ローリング少.	18c後半.
427	E区 客土	磁器 蓋	9.5	2.8	−	笠径 9.8	摘径 4.2	①透明釉.灰白釉.③内口縁鋸歯文.外口縁鋸歯文,帯文.内底部山水楼閣文.外面窓絵に花文,草文,唐草文.	
428	E区 イ2段目盛土	磁器 皿	−	(2.2)	−	7.4	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.③高台内墨書「…ニシヒヤセ」.菊花文.④型打成形.蛇ノ目凹形高台.1点ハリ痕残存.⑤被熱.	
429	E区 イ2段目盛土	磁器 餌鉢	4.7	2.8	−	3.7	−	①白釉.胎土,断面:白.内面から外体部透明釉施す.④平面形,やや楕円形.	
430	E区 イ3段目盛土	磁器 碗	8.6	4.6	−	3.2	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内口縁雷文.見込渦文,松竹梅文.外面草花文,桐文ヵ.	
431	E区 イ4段目盛土	磁器 小瓶	1.3	5.7	3.6	2.6	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.外体部から内口縁まで灰白釉施釉.③外面染付,梅文,笹文.④底部糸切.	
432	E区 イ4段目盛土	土師器 蓋	6.6	1.3	−	笠径 7.5	−	①内面:にぶい橙.外面:橙.断面:にぶい橙.④外面回転ナデ.掛子面取.⑤全体被熱.	
433	E区 イ5段目盛土	陶器 土瓶 蓋	2.7	1.5	−	笠径 7.1	摘径 1.1	①淡黄釉.胎土:にぶい黄橙.外面灰釉施す,貫入顕著.③外面黒釉で井桁文.④穿孔径3mm.底部糸切.	
434	E区 イ5段目盛土	陶器 擂鉢	30.7	(10.2)	−	−	−	①内面:赤褐.外面:にぶい赤褐.断面:赤褐.胎土細礫含む.④11歯摺目.⑤内面摩耗.	
435	E区 イ5段目盛土	陶器 火鉢ヵ	24.4	9.9	−	19.0	−	①緑灰釉.胎土,断面:浅黄.内口縁から外体部まで銅緑釉施す.⑤やや被熱.	
436	E区 イ5段目盛土	磁器 碗	11.0	7.0	−	6.1	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内口縁二重圏線.見込一重圏線.外面草花文.外高台二重圏線.④広東碗.	
437	E区 イ5段目盛土	磁器 碗	13.6	6.8	−	5.5	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内面菊弁文,蓮文.外面菊弁文,菊葉文.外高台二重圏線と一重圏線.高台内二重圏線.④広東碗.	
438	E区 イ5段目盛土	磁器 皿	12.2	3.9	−	7.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内面型紙染付,雲文,菊文.④型打成形.輪花皿.3点ハリ痕.蛇ノ目凹形高台.	
439	E区イ6段目 裏込め層	磁器 皿	12.6	2.9	−	6.8	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③内口縁半梅花文.内面朱の上絵付けで菱窓絵,丸に四方襷,波状文,格子文,花器文ヵ.外面唐草文に梅文.外高台二重圏線.高台内一重圏線に変形字銘ヵ.	
440	E区 イ6段目盛土	陶器 蓋	6.6	3.5	−	笠径 9.5	摘径 1.9	①緑灰釉.胎土:灰黄褐,赤褐.断面:灰黄褐.外面笠部青緑釉.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
441	E区 イ6段目盛土	陶器 壺	12.0	11.0	13.0	7.6	−	①内面:灰赤.外面:赤褐.断面:灰.全体赤褐釉施釉.③胴部上方10条沈線.④口縁部受有.底部ヘラ切り.	
442	E区 イ6段目盛土	磁器 皿	12.3	3.9	−	7.1	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③外面唐草文.内面海浜風景文.④蛇ノ目凹形高台.型打成形.輪花皿.見込3点ハリ痕.	
443	E区 イ6段目盛土	磁器 蓋	8.2	2.3	−	8.1	−	①透明釉.胎土:灰白.掛子釉剥.③外面菊花文,四方襷,窓絵.	
444	E区 イ6段目盛土	磁器 瓶	1.6	12.3	6.1	4.0	−	①透明釉.胎土:灰白.③外頸部蛸唐草文.胴部草花文と笹文,二重圏線,松葉文.	
445	E区イ7段目 裏込め層	磁器 香炉	8.0	4.9	8.7	5.9	−	①胎土,断面:灰白.外面から内口縁まで透明釉施す.③外面山水楼閣文.⑤内面灰付着.	
446	E区イ8段目 裏込め層	磁器 皿	10.0	2.8	−	5.3	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③内面風景文.④型打成形.輪花皿.	
447	E区イ8段目 裏込め層	磁器 皿	16.1	3.1	−	9.6	−	①透明釉.明緑灰釉.胎土,断面:灰白.③口錆.内面山水楼閣文.④型打成形.輪花皿.⑤被熱.	19c.
448	E区 イ8段目盛土	陶器 甕	31.0	34.0	37.2	18.2		①暗赤褐釉.胎土,断面:灰白.底部無釉.③肩部多条沈線.④2箇所不遊環貼付.	
449	E区 イ8段目盛土	磁器 碗	10.5	5.1	−	3.5	−	①透明釉.胎土:灰白.③外面唐草文,蓮弁文.外高台一重圏線.内口縁宝珠繋ぎ.見込一重圏線内に松竹梅文.	
450	E区 イ8段目盛土	磁器 杯	7.1	(3.9)	−	3.0	−	①内外面,断面:灰白.畳付周辺釉薄い.④畳付砂付着.⑤ローリング少.⑥明治期石垣造築時の堆積.	18c後半.
451	E区イ9段目 裏込め層	陶器 皿	12.8	4.3	−	4.4	−	①灰白釉.胎土,断面:浅黄橙.外体部から内面まで灰釉施す.③見込蛇ノ目釉剥.④削出高台.	在地ヵ.
452	E区 イ9段目盛土	陶器 餌入	3.7	3.0	−	3.1		①灰白釉.胎土:橙.断面:にぶい橙.④底部糸切.⑤ローリング少.⑥旧石垣検面より出土.明治期石垣造築時の堆積.	在地.
453	E区 イ9段目盛土	土師器 胞衣壺	7.5	4.4	−	4.9	−	①内外面,断面:にぶい黄橙.④口縁わずかに内傾.轆轤成形.底部ヘラケズリ.⑥変色,内容物の影響ヵ.墨書「天神」.	
454	E区イ10段目 裏込め層	陶器 瓶	2.1	120.7	−	80.2	−	①暗灰黄釉.畳付釉剥.露胎.④胴部轆轤整形後鎬ケズリ.⑥「二乙」ヵ.	
455	E区イ10段目 裏込め層	陶器 仏花器	−	(5.8)	8.2	5.5	−	①灰黄釉.胎土,断面:黄灰.外高台まで灰釉施釉.③胴部鉄釉で笹文.④削出高台.	
456	E区イ10段目 裏込め層	磁器 碗	10.6	5.3	−	3.8	−	①透明釉.胎土:灰白.貫入顕著.③外口縁,腰部に一重圏線と松文.外高台二重圏線.内口縁二重圏線.見込一重圏線,記号文.	
457	E区 イ10段目盛土	磁器 皿	10.3	2.5	−	5.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③口錆.内面草文.外面土坡文.外高台周辺三重圏線.	
458	E区イ11段目 裏込め層	陶器 擂鉢	26.7	10.6	−	10.3	−	①暗赤褐釉.内面:赤褐.外面:灰赤.断面:にぶい赤褐.外体部から内体部まで鉄釉施す.④18歯摺目.	
459	E区イ11段目 裏込め層	磁器 碗	7.6	6.2	−	3.4	−	①明オリーブ灰釉.胎土:灰白.③外面菊花文,格子文.外高台二重圏線.内口縁四方襷.見込二重圏線,五弁花.	
460	E区イ11段目 裏込め層	磁器 碗	9.9	5.3	−	3.8	−	①透明釉.胎土:灰白.③外面雪輪文,草花文.外高台二重圏線.見込文字文ヵ.⑤畳付タール付着.	
461	E区イ11段目 裏込め層	磁器 碗	9.1	5.1	−	3.5	−	①透明釉.胎土:灰白.③外面渦文.内口縁渦文.見込二重圏線,葉文と同心円文.	
462	E区イ11段目 裏込め層	磁器 水滴	全長 7.3	全幅 11.7	器高 4.1			①透明釉.胎土:灰白.③菊と葉の陽刻.一部上から染付.④型打成形.上面に2箇所径4mmの穿孔.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
463	E区イ12段目 裏込め層	陶器 皿	11.7	3.5	−	4.5	−	①灰オリーブ釉.胎土,断面:灰白.外体部から内面まで灰釉施す.一部緑釉.③見込蛇ノ目釉剥.④口縁外反.削出高台.	
464	E区イ12段目 裏込め層	磁器 碗	11.6	5.9	−	4.8	−	①内面透明釉,灰白釉.外面明緑灰釉.胎土:灰白.外面貫入顕著.③内面草文.	
465	E区 イ胴木	土師器 蓋付鉢ヵ	15.3	6.4	−	12.4	−	①内外面,断面:橙.④轆轤成形.回転ナデ.底部ヘラ削り.⑤外体部から底部にかけ変色.	
466	E区ロ3段目 裏込め層	磁器 仏飯器	5.8	5.7	−	3.6	−	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外底部まで白釉施す.③外杯部渦文と三重圏線.外脚部一重圏線.	
467	E区ロ3段目 裏込め層	土師器 合子 蓋	6.9	2.2	−	笠径 8.4	−	①内外面,断面:浅黄橙.③内底墨書「卍」.⑤468とセット.	
468	E区ロ3段目 裏込め層	土師器 合子 身	7.9	4.4	8.2	5.4	−	①内外面,断面:浅黄橙.③見込九字墨書.外面墨書有.④轆轤成形.回転ナデ成形.底部糸切.⑤467とセット.	
469	E区ロ3段目 裏込め層	土師器 合子 身	11.6	7.7	12.5	7.0	−	①内面:浅黄橙.外面:橙.断面:浅黄橙.③内面ヘラによる陰刻.④轆轤成形.底部ヘラ切り.円筒形.	
470	E区 ロ6段目盛土	陶器 鉢	17.6	6.0	−	7.3	−	①灰白釉.胎土,断面:にぶい橙.内面から外体部まで灰釉施釉.③内面草花文ヵ.外面草文.④削出高台.	
471	E区 ロ6段目盛土	磁器 紅皿	4.3	1.4	−	1.2	−	①灰白釉.胎土:灰白.内面から外口縁白磁釉施す.④型成形に底部貼付.	
472	E区 ロ6段目盛土	磁器 蓋	13.5	3.9	−	6.3	−	①透明釉.明オリーブ灰釉.胎土,断面:灰白.③外面花文,摘区画文.摘内記号文ヵ.内面松竹梅文ヵ.口縁宝文.	小樽新 窯ヵ. 19c.
473	E区 ロ6段目盛土	土師器 皿	8.0	1.5	−	5.5	−	①内外面,断面:浅黄橙.④轆轤成形.内外面ナデ.底部糸切ヵ.⑤摩耗有.	
474	E区 ロ7段目盛土	磁器 皿	13.9	4.0	−	7.9	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③内面菊文,草花文.見込二重圏線内に五弁花.外面唐草文.高台付近三重圏線.高台内一重圏線,渦福.④輪花皿.	
475	E区 ロ7段目盛土	金属製品 銅銭貨	全長 2.7	全幅 2.6	全厚 0.1	重量 6.0		③表図柄龍,「明治十五年・1SEN・大日本」.裏図柄「以百枚換一圓一銭」.	明治15 年発行.
476	E区ロ8段目 裏込め層	磁器 蓋	9.6	2.9	−	笠径 9.8	摘径 3.8	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面:草花文,風景文,宝珠繋ぎ.外高台一重圏線.高台内一重圏線,落款.内口縁宝珠繋ぎ.内底部麒麟文.	
477	E区 ロ8段目盛土	陶器 蓋	14.7	(3.6)	−	笠径 16.7	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.掛子以外灰釉施す.③外面染付と鉄錆の柴束文.	
478	E区 ロ8段目盛土	磁器 杯	7.8	5.4	−	3.8	−	①透明釉.明オリーブ灰釉.胎土:灰白.③外面草花文.外高台二重圏線.	肥前. 18c.
479	E区 ロ8段目盛土	磁器 杯	6.3	4.4	−	3.0	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外口縁一重圏線,風景文.外高台一重圏線.高台内一重圏線,変形字銘.	
480	E区 ロ8段目盛土	磁器 小瓶	1.3	7.3	−	2.5	−	③胴部花文,山文.④畳付砂付着.	肥前ヵ.
481	E区 ロ8段目盛土	磁器 油壺	2.8	9.3	−	5.3	−	①畳付釉剥.内面露胎.③胴部草花文.外高台二重圏線.④染付.	
482	E区 ロ10段目盛土	陶器 瓶ヵ	−	(3.9)	−	7.5	−	①暗赤褐釉.内面:赤.外面:にぶい赤褐.断面:赤.外面暗赤褐釉施す.③底部刻印「上」有.	
483	E区 ロ根石裏込め層	磁器 皿	10.3	2.5	−	5.8	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③口錆.内面陰刻で葉文,人物,藤と「古人自惑其性…」,上から一部染付.外面葉文ヵ.高台付近に二重圏線.	
484	E区-4 SK1	陶器 灯明皿	11.1	2.3	−	4.0	−	①内外面:赤褐.断面:赤.④轆轤成形.底部糸切.⑤口縁タール付着.全体被熱.	

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
485	E区-4 SX4	陶器 碗	8.9	5.5	−	3.0	−	①灰白釉.胎土:灰黄.断面:灰白.内面から外体部まで灰釉施す.光沢有.貫入顕著.③外面錆絵ヵ.④削出高台.⑤高台スス付着.	
486	E区-4 SX4	陶器 皿	13.4	4.2	−	7.9	−	①白磁釉.灰白釉.胎土.断面:淡黄.③見込二重圏線内に風景文.④型打成形.見込5点ハリ痕.底部蛇ノ目凹形高台.	
487	E区-4 SX4	陶器 皿	−	(4.2)	−	5.8	−	①灰オリーブ釉.黒釉.暗灰黄釉.胎土,断面:にぶい黄橙.外面灰釉.内面鉄釉,灰オリーブ釉.③内面蛇ノ目釉剥.	
488	E区-4 SX4	陶器 皿	20.2	5.0	−	7.0	−	①灰黄釉.胎土:灰黄.断面:黄灰.内面から外高台まで灰釉施釉.③内面陰刻笹文.ハリ痕3点.④削出高台.	
489	E区-4 SX4	陶器 急須	11.1	(9.4)	15.2	−	−	①内面:灰白.外面:灰黄.断面:灰白.③外肩部から胴部まで飛鉋文.④薄手.注孔.5箇所円孔.⑤外底部スス付着.	
490	E区-4 SX4	磁器 碗	9.5	5.3	−	5.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③見込宝文ヵ.外面丸に四方襷,重なった丸に格子文と槍垣文.④広東碗.	肥前. 1760～1810.
491	E区-4 SX4	磁器 碗	9.8	5.5	−	4.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面梅文,松文,草文.一重圏線.外高台二重圏線.	肥前. 18c.
492	E区-4 SX4	磁器 碗	9.6	5.4	−	4.0	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面草花文,帯線,一重圏線.内口縁四重圏線.見込雁文,一重圏線.④内面砂付着.	
493	E区-4 SX4	磁器 皿	9.5	2.4	−	5.0	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内面陽刻,唐草文,鶴文.④輪花皿.型打成形.	
494	E区-4 SX4	磁器 皿	9.6	2.4	−	5.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③内面桜文,桜桃文.高台内「サ」.	能茶山.
495	E区-4 SX4	磁器 皿	20.0	2.7	−	13.8	−	③外体部唐草文,その下に二重圏線.外高台二重圏線.見込松竹梅.内体部窓絵.⑥断面煤付着.	19c代.
496	E区-4 SX4	磁器 杯	7.8	4.2	−	3.0	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面蘭文,山文.外高台二重圏線.	波佐見. 19c.
497	E区-4 SX4	磁器 杯	6.2	6.2	6.5	3.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③型紙染付.コバルト顔料.市松と十字文.圏線2本.外高台一重圏線.	19c後半.
498	E区-4 SX4	磁器 猪口	7.4	5.6	−	5.0	−	①透明釉.明オリーブ灰釉.胎土:橙.断面:灰白.③外面竹文.	肥前. 18c.
499	F区 ホ3段目盛土	陶器 擂鉢	33.0	(9.3)	−	−	−	①内面:にぶい橙.外面:極暗赤褐.断面:赤.③外面墨書有,判読不可.④9歯摺目.	
500	F区ホ4段目 裏込め層	磁器 皿	9.5	2.6	−	4.1	−	①透明釉.胎土:灰白.③見込蛇ノ目釉剥.内口縁四重圏線.内底部三重圏線,葉文.	1850～1860.
501	F区ホ4段目 裏込め層	磁器 杯	6.3	6.7	−	4.2	−	①透明釉.内外面:灰黄.断面:灰白.③内口縁雷文.外口縁一重圏線,草文.外高台一重圏線.	
502	F区ホ4段目 裏込め層	磁器 蓋	9.2	2.7	−	笠径 9.3	摘径 3.8	①透明釉.胎土:灰白.③外面素描で草花文,唐草文,丸絵.内口縁雷文.内底部二重圏線と渦文,一重圏線,松竹梅文.	
503	F区ホ4段目 裏込め層	磁器 蓋	5.1	1.1	−	5.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面雁文,草文.	
504	F区 ホ4段目盛土	陶器 玩具	4.4	4.0	5.0	2.2	−	①極暗赤褐釉.胎土,断面:にぶい赤褐.外面から内口縁まで鉄釉施釉.⑥飯事道具.甕.	
505	F区 ホ4段目盛土	磁器 杯	6.5	2.8	−	2.3	−	①透明釉.胎土,断面:灰白.③口縁緑染付.見込「光とし油 石炭,油 商 サヨコ松本店」.	近代.
506	F区 ホ5段目盛土	磁器 皿	18.8	4.9	−	9.8	−	①透明釉.胎土:明褐.断面:灰白.畳付釉剥.③見込蛇ノ目釉剥に五弁花.内体部花文.外面松葉文ヵ.	波佐見. 18c.

図版番号	出土位置	素材区分 器種:器形	口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	①色調・釉薬②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他	産地 時期
507	F区 ホ5段目盛土	磁器 皿	12.6	3.7	−	7.3	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.④見込3点ハリ痕.輪花皿.蛇ノ目凹形高台.	
508	F区 ホ5段目盛土	磁器 蓋	9.1	2.8	−	3.5	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.貫入顕著.③摘二重圏線.外面宝文,木賊文ヵ.内口縁渦文.内底部二重圏線に舟文ヵ.	
509	F区 ホ5段目盛土	磁器 仏飯器	6.2	6.2	−	4.5	−	①灰白釉.胎土,断面:灰白.全体透明釉施す.③外面格子文,二重圏線.④畳付砂付着.	18c.
510	F区ホ7段目 裏込め層	磁器 皿	9.6	2.4	−	5.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.貫入顕著.③内口縁三重圏線,雷文.内面丸の窓絵に藤文,花文,松文ヵ.	
511	F区ホ7段目 裏込め層	磁器 瓶	4.0	14.3	13.4	−	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.貫入顕著.③外口縁宝文.肩部雷文.胴部松文.	
512	F区 ホ根石	磁器 碗	−	5.3	−	4.0	9.8	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面2箇所に四重圏線と唐草文.外高台一重圏線.見込一重圏線,舟文ヵ.	
513	F区 ホ根石	磁器 小碗	8.8	5.0	−	3.7	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面雁文ヵ.外腰部四重圏線.内口縁四重圏線.見込一重圏線.	
514	F区 ホ胴木	磁器 碗	10.5	6.0	−	4.3	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面笹文.内面四重圏線,雷文.見込二重圏線,松竹梅文.	
515	F区 ホ胴木下	磁器 杯	6.4	3.3	−	2.9	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③外面渦文.内口縁二重圏線.見込一重圏線,記号文.	
516	F区 ニ胴木	磁器 小碗	7.2	5.3	−	3.6	−	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③内口縁二重圏線.見込一重圏線,寿.外面格子文.外高台一重圏線.	
517	F区 ニ胴木下	磁器 皿	−	2.2	−	8.5	11.9	①透明釉.灰白釉.胎土:灰白.③見込海浜風景文ヵ.④3点ハリ痕.蛇ノ目凹形高台.	
518	G区 客土	磁器 杯	−	(2.3)	−	2.9	−	①白釉.胎土,断面:白.③岐463,金で九谷の上絵付.外高台一重圏線.⑥統制陶器.	
519	G区 ホ5段目盛土	磁器 皿	13.6	3.7	−	8.4	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③内口縁一重圏線.体部桐文,唐草文.見込二重圏線と一重圏線,草花文.④3点ハリ痕.口縁肥厚.蛇ノ目凹形高台.	波佐見ヵ.
520	G区ホ根石 裏込め層	磁器 杯	7.4	3.5	−	2.9	−	①透明釉.灰白釉.胎土,断面:灰白.③外面笹文ヵ.④内面砂付着.	
521	G区ホ根石 裏込め層	瓦質土器 焜炉ヵ	−	(2.2)	−	−	−	①内面:にぶい橙.外面:明赤褐.断面:橙.胎土キラ粉混じる.③外面丸に「上」の刻印有.⑥箱形焜炉ヵ.	
522	G区 ホ胴木	磁器 皿	8.8	2.3	−	4.9	−	①透明釉.明オリーブ灰釉.胎土,断面:灰白.貫入顕著.③見込松竹梅文染付,金で上絵付ヵ.⑤畳付釉剥離.	
523	G区 ホ胴木	磁器 鉢	16.6	9.2	−	7.9	−	①灰白釉.胎土:にぶい黄橙.断面:灰白.全体灰釉施す.畳付釉剥.④口縁上端面取,僅かに内側に返る.	

瓦観察表

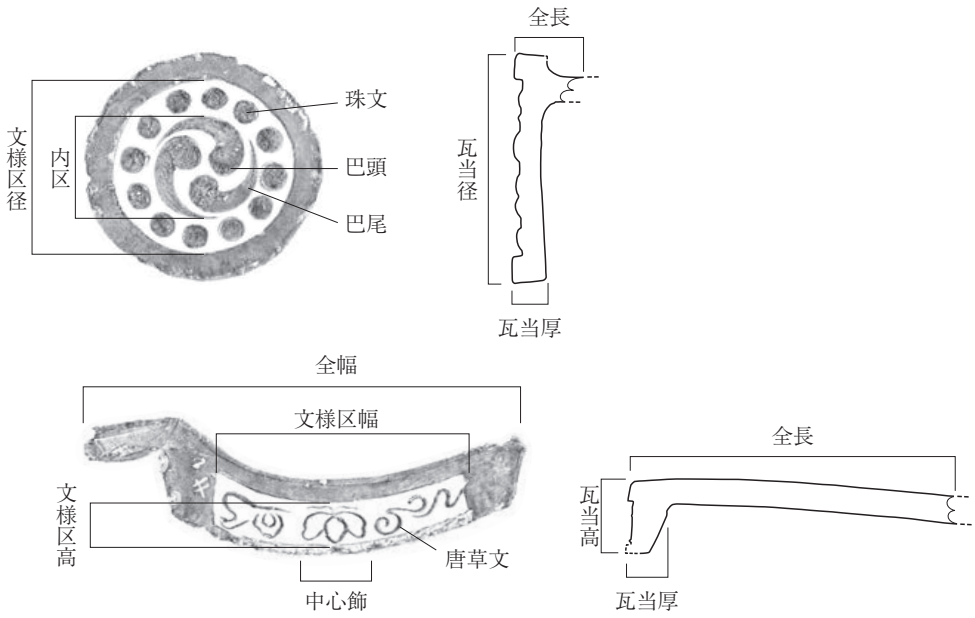
瓦観察表

瓦観察表凡例

1.計測単位はcmまたはgで示している。数値は重量を除き復元値を含む。(　　)は残存値。

2.軒瓦の残存率は瓦当の残存率。

3.瓦の計測点及び文様名称。



1. 軒丸瓦観察表

図版番号	出土位置	瓦当径（cm）	文様区径（cm）	全長（cm）	瓦当厚（cm）	重量（g）	①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
524	TR1	(8.2)	(6.0)	(2.2)	(2.6)	362.5	①表裏,断面:灰.キラ粉付着.
525	A区-2 SD16	15.6	15.3	(36.8)	(2.1)	1583.5	①表裏:黄灰,灰.断面:灰白.③5個珠文.左巻巴文.④凹面漆喰付着.棒状圧痕.2箇所1.4cm円孔.
526	A区-3 SD20	(12.1)	(10.1)	(1.0)	1.7	260.5	①内面:灰.外面:灰,にぶい黄橙.断面:灰.③珠文12ヵ(7個残存).④巴頭から巴尾の方向に右巻.巴のくびれ不明瞭.巴尾が他の巴尾と離れる.
527	B区-3 P165	(22.1)	(9.3)	1.7		428.4	①表裏:灰.断面:灰白.③陰刻兜,扇凸面.④コビキB.
528	B区-4 SD21	(10.9)	(10.4)	(2.2)	24.0	244.2	①外面:暗紫灰.断面:明赤灰.③右巻き.巴尾細く長い.⑥瓦当.
529	C区 客土	15.3	11.8	(4.9)	2.2	617.1	①表:黄灰.裏:灰.断面:灰白.③珠文12個.

2. 鳥衾瓦観察表

図版番号	出土位置	瓦当径（cm）	文様区径（cm）	全長（cm）	瓦当厚（cm）	重量（g）	①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
530	E区-4 SX4	14.8	10.9	14.8	(3.0)	669.6	①表:暗灰.断面:灰.③左巻連珠三巴文.珠文12個.巴頭と巴尾の括れ明瞭.④瓦当頂点に径6mm前後の孔3カ所有.

3. 軒桟瓦観察表

図版番号	出土位置	全長（cm）	全幅（cm）	瓦当高（cm）	文様区幅（cm）	文様区高（cm）	瓦当厚（cm）	重量（g）	①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
531	TR3	(8.75)	(19.8)	7.3	(16.0)	3.2	2.0	371.1	①外面:灰.断面:灰黄.③中心飾一つ巴.左右に唐草文.
532	TR3	(2.1)	(9.7)	(5.1)	(7.5)	2.8	1.8	84.2	①外面:暗灰.断面:灰.③中心飾二つ巴.左右に唐草文.
533	A区-1 SX1	(3.0)	(24.5)	(9.6)	15.0	(3.0)	1.9	374.7	①灰黄.暗灰.②小礫含む.③中心飾りは蔦文ヵ.左右脇に2回反転の唐草文と子葉文.④周縁上辺部は面取り.瓦当面はナデ調整.
534	A区-2 P27	(5.5)	(15.0)	(7.5)	3.9	(5.9)	2.0	441.6	①外面:灰.断面:黄灰.③瓦当左側唐草.銘,枠に「下田幸」.⑤瓦下面には漆喰付着.廃棄後鉄分付着.
535	B区-1 SB1	(9.2)	(11.6)	(6.6)	(5.4)	(3.3)	2.4	281.4	①表:灰.裏:暗灰.断面:灰.瓦当キラ粉付着.③瓦当左「片佐」の銘有.
536	B区-1 SK9	(11.4)	(10.5)	(5.5)	(4.3)	3.0	1.9	278.6	①表裏:灰.断面:灰白.③文様区画内葉文と唐草文残.文様右に枠に「登久弥」の銘.④瓦当接合部ナデ成形.
537	B区-2 SD8	(9.1)	(17.3)	(8.4)	(13.3)	3.1	2.1	346.6	①表:灰.裏:灰白.断面:灰.瓦当,下面キラ粉付着.③蔦文.左右脇に2回反転の唐草文.枠に「佐古伴」の銘.
538	B区-3 SK28	(9.3)	(24.7)	4.7	(15.1)	3.0	1.8	392.7	①表:にぶい黄橙.外,断面:灰.瓦当キラ粉付着.③中心飾丁字文.左右脇に2回反転の唐草文.枠に「小の…」の銘有.④瓦当上縁面取り.
539	B区-3 SD14	27.8	31.3	9.5	15.9	2.9	2.3	1529.3	①表裏,断面:灰.全体わずかにキラ粉付着.③中心飾,蔦文.唐草左右に2回反転.
540	E区 ロ3段目グリ	24.5	29.3	4.8	17.0	2.9	2.2	1737.2	①表裏,断面:灰.③文様区画左に全銘「アキ」.中心飾は蔦文.左右の唐草は非対称.
541	E区 ロ5段目盛土	(9.5)	(13.8)	(9.6)	(10.0)	3.2	2.3	446.8	①表:暗灰.裏:灰白.断面:黄灰.③中心飾,右巻巴文.左に唐草文.文様区画外左に銘有.判読不可.
542	E区 A5段目盛土	(9.0)	(19.1)	9.9	(14.2)	(2.8)	2.4	392.4	①表裏:暗灰.断面:灰.③右巻巴文.左右に唐草文.瓦当左に銘「御瓦師」.
543	K区	(21.3)	(22.5)	(8.1)	(12.2)	(3.6)	2.4	1114.7	①表裏:黄灰,灰.断面:灰白.③中心飾丁字文.2反転の唐草文.銘「片□」ヵ.

4. 丸瓦観察表

図版番号	出土位置	全長(cm)	全幅(cm)	全高(cm)	重量(g)	コビキ	①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
544	TR3 SK1	(19.9)	(9.9)	(8.4)	496.1	B	①内面:灰白.外面:灰.断面:灰白.④凹部わずかに布目有.
545	TR4	(10.4)	(9.0)	(4.8)	210.2		①表裏:橙.断面:にぶい黄橙.
546	A区-2 SK20	(9.8)	(9.0)	(3.5)	149.9	B	①表:黒.裏,断面:灰.③「ヘアキ」凸面.④わずかに布目圧痕.
547	B区 5層	(9.7)	15.0	(6.5)	423.9	A	①表裏:灰.断面:灰白.③上面銘「安森」ヵ.④ナデ.
548	B区-4 SK51	(17.1)	14.6	(7.2)	834.1	A	①表裏,断面:灰.④凸面ナデ調整.凹面布目.⑤ローリング顕著.
549	F区 ホ10段目盛土	28.9	14.4	7.7	1280.4	B	①表裏:灰.断面:灰白.④凸面縦方向ナデ.凹面,布目.

5. 桟瓦観察表

図版番号	出土位置	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
550	TR3	27.1	(18.7)	1.6	979.3		①表裏:灰.断面:灰白.③枠に「□□□平」の銘有.

6. 平瓦・桟瓦観察表　※干瓦および桟瓦は判別がつくもののみ木簡に記載あり.

図版番号	出土位置	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
551	TR2 Ⅵ層	(2.6)	(6.4)	2.0	27.8		①表裏:灰.断面:灰黄.③銘判読不可.
552	TR2 Ⅷ層	(6.4)	(10.6)	1.8	131.3		①表裏:灰.③銘「アキ」.
553	TR3 Ⅰ層	(6.1)	(5.8)	1.9	70.3		①表:灰.裏:暗灰.③銘「高口」.
554	TR3 Ⅰ層	(7.5)	(7.1)	1.7	99.4		①表:灰.裏:灰黄褐.断面:にぶい黄橙.③銘,判読不可.
555	TR3 Ⅰ層	(8.3)	(15.5)	1.8	240.5		①表裏:灰.断面:灰黄.③銘「アキ□」.
556	TR3 Ⅰ層	(15.3)	(11.8)	1.7	441.7		①表裏:暗灰.断面:灰白.③銘「片□」.
557	TR3 Ⅰ層	(8.2)	(6.2)	(2.3)	135.0		①表裏:灰.断面:灰白.③銘「御□」.
558	TR3 Ⅷ層	(10.7)	(3.2)	(1.6)	60.5		①表:暗灰.裏:灰.断面:灰白.③銘「片常」.
559	TR3 ⅩⅥ・ⅩⅧ層	27.2	(14.5)	1.6	935.4		①表裏,断面:灰.③銘,「徳善□」.瓦列の瓦.
560	TR3 ウラゴメ	(11.1)	(11.3)	1.9	222.1		①表:にぶい赤褐.裏:橙.断面:橙.③銘,判読不可.
561	TR3 ウラゴメ	(9.4)	(9.3)	1.6	132.2		①表裏:暗灰.断面:灰黄.③銘,判読不可.
562	TR3 P4	(9.4)	(6.0)	1.4	75.2		①表裏:にぶい黄橙.断面:黄灰.③銘,判読不可.
563	A区-1 カクラン13	(10.5)	(13.4)	1.8	231.3		①表:青灰,にぶい黄橙.裏:黄灰.断面:灰黄褐.②細礫を含む.③側面には方形枠内に「長谷川」の刻印ヵ.④側縁両辺部面取り.凹凸面ナデヵ.
564	A区-2 SK11	(10.9)	−	1.6	270.7		①内外面:灰.断面:灰白.③「片□」の刻印.

図版番号	出土位置	全長（cm）	全幅（cm）	全厚（cm）	重量（g）		①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
564	A区-2 SK11	（10.9）	－	1.6	270.7		①内外面:灰.断面:灰白.③「片□」の刻印.
565	A区-2 SK35	（5.2）	（5.2）	2.3	65.0		①表:灰.裏:黄灰.断面:灰.③枠に「□田…」の銘有.
566	A区-2 SD7	（10.2）	（10.8）	（1.6）	221.9		①内外面:にぶい橙.断面:橙.上面キラ粉わずかに付着.③枠に「安□…」の銘有.
567	A区-2 SX11	（19.3）	（10.0）	1.9	407.3		①表裏:にぶい黄橙.断面:浅黄橙.下面キラ粉付着.③枠に「王子貞」の銘有.④端部面取り.
568	A区-2 P51	（4.5）	（6.3）	1.7	63.2		①表裏:灰.断面:灰白.③枠に「徳善平」の銘有.
569	A区-3 SK38	（14.1）	（14.4）	1.8	445.3		①表:灰白,灰.裏:灰.断面:灰白.キラ粉付着.③枠に「片氵□」の銘有.④ナデ調整.
570	A区-3 SD20	（7.9）	（4.5）	1.7	77.9		①表:灰.裏:灰白.断面:灰.③銘「片□」ヵ.④端部面取.
571	B区-2 SD8	（6.9）	（7.4）	1.6	98.4		①表:黄灰.裏,断面:にぶい黄橙.③枠に銘「片忠」.④凹凸面端部面取り.
572	B区-2 SD8	（20.9）	（16.0）	1.8	594.6		①表:灰.裏:灰白.断面:灰.凸面キラ粉付着.③銘「溝原作」凹面鉄線.④両端面取り.
573	E区 SX4	（14.1）	（11.6）	1.7	346.0		①表裏:灰.断面:灰黄褐.③側面に刻印「アキ本家盛製」.
574	E区 3段目盛土	（6.7）	（13.3）	1.8	202.8		①表裏:暗灰.断面:黄灰.③枠に銘「下田幸」.

7. 平瓦観察表

図版番号	出土位置	全長（cm）	全幅（cm）	全厚（cm）	重量（g）	孔径（cm）	①色調②素材③装飾④造形⑤使用痕⑥その他
575	TR3 ウラゴメ	（6.9）	（8.0）	2.1	139.6	0.8	①表:灰黄.断面:にぶい黄橙.③陽刻「□製豊」
576	TR3 ウラゴメ	10.2	8.3	2.5	136.9	－	①表:暗灰.裏:灰.断面:灰黄褐.③陽刻「□共谷」
577	TR3 ウラゴメ	（6.2）	（8.6）	1.8	90.9	－	①表裏:暗灰.断面:灰黄.③陽刻「□佐土　豊秋」.
578	TR3 ウラゴメ	（15.8）	（13.6）	1.9	438.6	－	①表裏:暗灰.断面:浅黄.③陽刻「進共」「犬賞」「…□佐土」「□豊秋」.
579	TR3	（13.4）	（12.0）	1.9	376.5	0.7	①内外面:暗灰.断面:灰白.③陽刻「村子王□…」「場瓦□…」.
580	A区-1 SX1	（17.9）	（23.0）	1.9	829.3	－	①表:灰白.裏:暗灰.断面:灰白.②細礫を含む.③凸面区画内に「土佐徳…」「秋原」「品質信用本位」刻印.④凹面ナデ調整か銀化.側縁両辺部は面取.側縁部より奥に約2.5cm,径0.5mmの円孔有.

写真図版



胴木検出状態（北東より）

図版2



A区第1遺構面（上面）検出状態（北東より）



A区第1遺構面（上面）完掘状態（北東より）



A区第1遺構面検出状態（北東より）



A区第1遺構面完掘状態（北東より）

図版4



A区第2遺構面検出状態（北東より）



A区第2遺構面完掘状態（北東より）



A区第3遺構面検出状態（北東より）



A区第3遺構面完掘状態（北東より）

図版6



A区第4遺構面検出状態（北東より）



A区第4遺構面完掘状態（北東より）



B区第1遺構面検出状態（北東より）



B区第1遺構面完掘状態（北東より）

図版8



B区第2遺構面検出状態（北東より）



B区第2遺構面完掘状態（北東より）



B区第3遺構面検出状態（北東より）



B区第3遺構面完掘状態（北東より）

図版10



B区第4遺構面検出状態（北東より）



B区第4遺構面完掘状態（北東より）



C区第1遺構面検出状態(北西より)



C区第1遺構面完掘状態(北西より)

図版12



C区第2遺構面検出状態（北西より）



C区第2遺構面完掘状態（北西より）



C区第3遺構面検出状態（北西より）



C区第3遺構面完掘状態（北西より）

図版14



C区第4遺構面検出状態（北西より）



C区第4遺構面完掘状態（北西より）



H区第1遺構面検出状態(南東より)



H区第1遺構面完掘状態(南東より)

図版16



H区第2遺構面検出状態（南東より）



H区第2遺構面完掘状態（南東より）



H区第3遺構面検出状態（南東より）



H区第3遺構面完掘状態（南東より）

図版18



H区第4遺構面検出状態（南東より）



H区第4遺構面完掘状態（南東より）



Ⅰ区第1遺構面検出状態（北西より）



Ⅰ区第1遺構面完掘状態（北西より）

図版20



I区第2遺構面検出状態(北西より)



I区第2遺構面完掘状態(北西より)



Ⅰ区第3遺構面検出状態（北西より）



Ⅰ区第3遺構面完掘状態（北西より）

図版22



Ⅰ区第4遺構面検出状態(北西より)



Ⅰ区第4遺構面完掘状態(北西より)



E区第2・3遺構面検出状態（南より）



E区第2・3遺構面完掘状態（南より）

図版24



E区第4遺構面検出状態・F区第4遺構面完掘状態(南より)



胴木検出状態(南より)



根石検出状態(北西より)



胴木検出状態(西より)

図版26



J区作業前風景(西より)



J区作業前風景(西より)



J区第4遺構面検出状態（西より）



J区第4遺構面完掘状態（西より）

図版28



J区A胴木旧石垣(西より)



J区下層確認(西より)



J区A胴木旧石垣(南より)



石垣完成状態(西より)



TR1調査前風景(東より)



TR1(東より)



TR2設定状態(東より)



TR2(東より)



TR2ピット検出状態



TR2ピット半裁状態



TR2ピット完掘状態



TR3設定状態(東より)



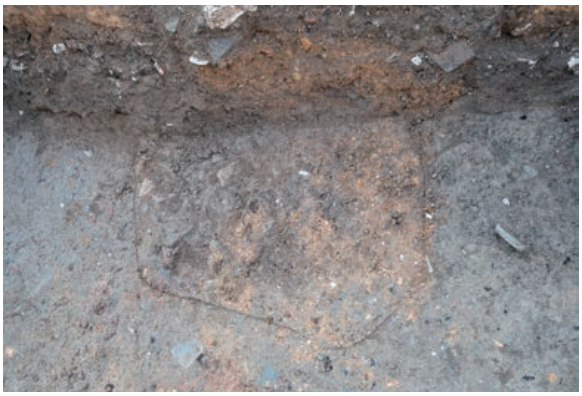
TR3(東より)



TR3 SK1完堀状態(北より)



TR3ピット検出状態



TR3ピット検出状態



TR3ピット完掘状態



TR3ピット検出状態



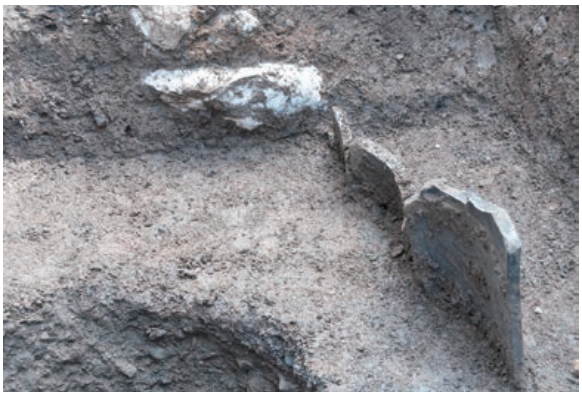
TR3ピット完堀状態



TR3焼土検出状態



TR3瓦検出状態



TR3瓦検出状態



TR3石灰岩検出状態



TR3出土石灰岩矢穴



TR4調査前風景(北東より)



TR4掘削状態(東より)



TR4(西より)



TR4埋め戻し状態



TR5調査前風景（東より）



TR5（東より）



石垣残存確認（北部）



石垣残存確認（北部）



石垣残存確認（北部）



石垣残存確認（暗渠）



石垣残存確認（暗渠）



石垣残存確認（南部）

図版34



石垣残存確認(南部)



調査前風景(南東より)



調査前風景(北より)



調査前風景(南より)



調査前風景(南東より)



A区第1遺構面石列検出状態(南より)



A区第1遺構面SX1セクション(東より)



A区第1遺構面SK4,P9完掘状態(南より)


A区第1遺構面石列検出状態（東より）


A区第1遺構面SK8完掘状態（東より）


A区第2遺構面SD16完掘状態（北より）


A区第3遺構面SB1完掘状態（南より）


A区第3遺構面SD20磁器蓋出土状態


A区第3遺構面SK38遺物出土状態


A区第4遺構面P161礎盤検出状態（西より）


A区第4遺構面SK50～52完掘状態（北より）


A区包含層土師器小皿出土状態


A区第4遺構面P158礎盤検出状態(東より)


A区包含層磁器碗出土状態


A区包含層遺物出土状態


B区第1遺構面SB1検出状態(南より)

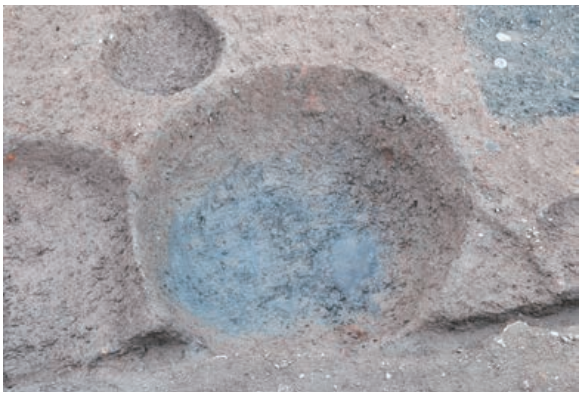

B区第1遺構面SB1敷石検出状態(南より)


B区第1遺構面SB1セクション(南より)


B区第2遺構面SD8石列検出状態(北西より)



B区第2遺構面SX9瓦検出状態(北より)



B区第3遺構面SK20,P135完掘状態(西より)



B区第3遺構面SK20セクション(南より)



B区第3遺構面石列2検出状態(東より)



B区第4遺構面SK44セクション(南より)



B区第4遺構面P284礎盤検出状態(南東より)



B区第4遺構面SD21周辺完掘状態(東より)



B区第4遺構面SD21木樋検出状態(東より)



B区第4遺構面SK30唐津系陶器皿出土状態



B区第4遺構面SK31セクション（南より）



B区第4遺構面SX21～23セクション（西より）



B区包含層陶器出土状態



A区西壁セクション（北東より）



A区北壁セクション（南西より）



B区東壁セクション（南西より）



B区北西壁セクション（南東より）



B区北壁セクション（南より）



発掘調査現地説明会風景



発掘調査現地説明会風景



A区水没状況



作業風景



埋め戻し



E区第4遺構面完掘状態（南より）



旧石垣検出状態（南より）


根入れ木杭検出状態（北より）


E区立面6入角（南より）


E区立面6入角（南西より）


E区立面6入角（南東より）


旧石垣と胴木（北より）


E区SX4遺物出土状態


旧石垣トレンチ設定状態


旧石垣セクション（南西より）



旧石垣トレンチ石臼出土状態(北より)



旧石垣トレンチ木材検出状態



E区遺物出土状態



E区立面6入角背面セクション(北より)



E区SX4遺物出土状態(北より)



E区北壁セクション(南より)



F区第1遺構面石列検出状態(南東より)



F区第1遺構面石列検出状態(北より)

図版42



F区第2・3遺構面石列検出状態



F区第2・3遺構面検出状態(南より)



立面ハ間詰検出状態



F区ホ-553ルート痕



F区ロ-39矢穴



F区捨石検出状態(北より)



立面8入角背面(南より)



立面8入角(北西より)



立面8入角(北西より)



立面8入角(北西より)



立面8入角(北より)



G区南壁セクション(北より)



胴木・旧石垣(西より)



旧石垣の胴木(西より)



旧石垣および胴木検出状態(北西より)



H区調査前風景(東より)


H区調査前風景（北西より）


H区調査区設定状態（東より）


H区調査区設定状態（北西より）


H区第1遺構面SD1完掘状態（南東より）


H区第1遺構面SX2完掘状態（北より）


H区第3遺構面SK9遺物出土状態（西より）


H区第3遺構面SK17遺物出土状態（西より）


H区第3遺構面SK19セクション（北西より）


H区第3遺構面SX6遺物出土状態（北西より）


H区第3遺構面SX6遺物出土状態（東より）


H区第3遺構面SX6遺物出土状態（東より）


H区第3遺構面SX8遺物出土状態（北より）


H区包含層遺物出土状態（南東より）


I区調査前風景・調査区設定状態（北西より）


I区第2遺構面完掘状態（北より）


I区第4遺構面SX6検出状態（北より）



J区作業前風景



J区壁セクション（南より）



J区旧石垣検出状態（南西より）



J区旧石垣掘削範囲設定状態（西より）



J区旧石垣心材（南東より）



J区旧石垣心材（北西より）



J区壁セクション（南より）



J区カニ



K区調査区設定状態(北より)



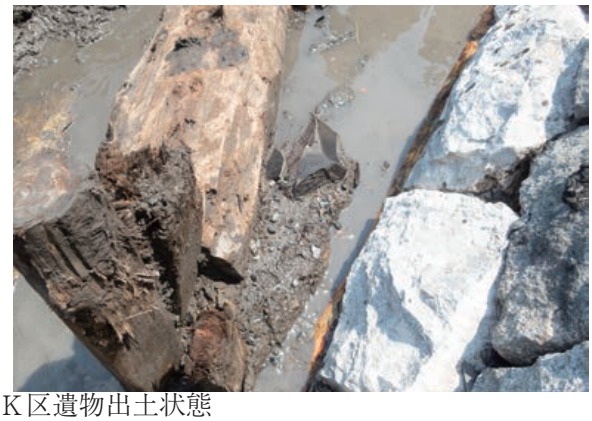
K区完掘状態(南より)



K区完掘状態(西より)



K区完掘状態



K区遺物出土状態



L区調査区設定状態(北より)



L区完掘状態(南より)



L区完掘状態(北より)



L区梯子胴木検出状態(東より)



木根除去作業



付着貝除去作業



石垣墨付け作業



練り積み解体作業



石垣保存作業



新石加工作業



石垣積み上げ作業


2


24


29


32


33


38


39


47

磁器(碗・蓋)，土師器(皿)，金属製品(古銭)，ガラス製品(瓶)

図版50


48


51


53


85


55


55


98


103・104

陶器(碗)，磁器(碗・小碗・皿・瓶)，金属製品(小柄)，ガラス製品(瓶蓋・瓶)


114


121


123


127


126


126


128


134

陶器(台付灯明受皿)，磁器(小杯・碗・小瓶)，石製品(硯)

図版52


143


147


148


149


157


158


161


163

陶器(碗・鍋・火入)，磁器(皿・杯・蓋・仏飯器)


165


165


169


172


173


176


180


190

陶器(碗・皿)，磁器(蓋付鉢・花器)，石製品(石臼)

図版54


193


206


211


212


213


220


225


225

陶器(小碗・皿・瓶)，磁器(碗・皿・蓋)，土師器(小皿)


226


232


245


266


268


271


270


270

陶器(碗・小碗・皿・鉢)，石製品(硯)

図版56


272


273


276


279


295


296


298


300

陶器(灯明受皿・甕・火入)，磁器(小碗・八角鉢)，土製品(人形・玩具)


302


307


308


309


310


311・312


316


317

陶器(合子蓋・合子・擂鉢・火鉢ヵ)，磁器(碗)，青花(碗)，瓦質土器(火鉢)

図版58


318


322


324


325


327

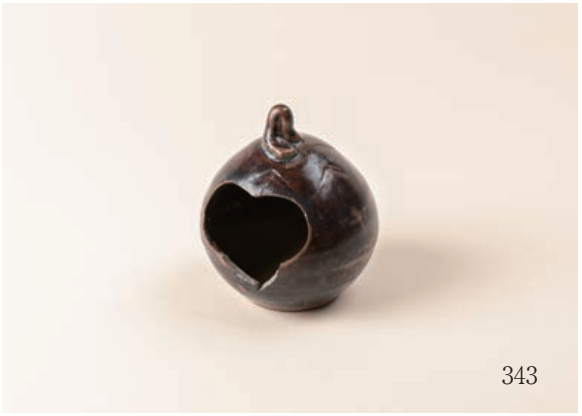

329


331


334

陶器(小碗・皿・甕・不明)，磁器(皿・蓋)，土師器(焙烙)


335


343


344


345


347


353


351


351

陶器(枕・手焙り)，磁器(蓋・瓶)，土師器(焼塩壺)，石製品(石臼)

図版60


356


362


368


369


375


376


377


378

陶器(蓋・甕・火入)，磁器(皿・徳利)，土製品(泥面子型)，石製品(硯)，銅製品(煙管)


382


383


384


385


387


389


390


391

陶器(仏花器・捏鉢・壺)，磁器(皿)，土師器(皿・灯明皿)，土製品(人形)

図版62


393


394


399


400


401


402


407


410

陶器(杯)，磁器(杯・小杯)，土師器(灯明皿・火鉢)


413


421


423


423


424


425


426


428

陶器(壺), 磁器(碗・皿・猪口)

図版64


430


433


437


437


439


452



453


454

陶器(土瓶蓋・瓶・餌入)，磁器(碗・皿)，土師器(胞衣壺)


462


469


467


468

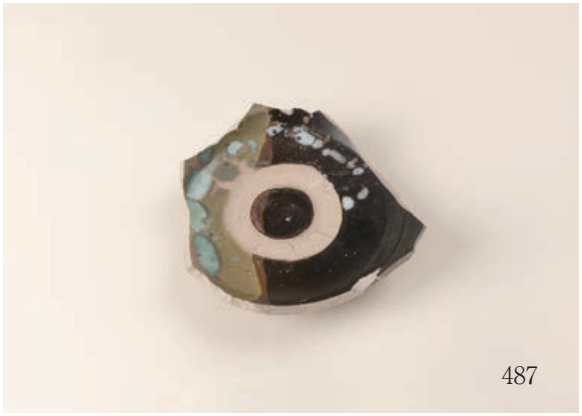

467・468


477


475


475

陶器(蓋)，磁器(水滴)，土師器(合子)，金属製品(銅銭貨)


487


488


489


494


495


499


505


518

陶器(皿・急須・擂鉢)，磁器(碗・皿・杯)

報告書抄録

ふりがな	しんぼりがわごがん
書名	新堀川護岸
副書名	都市計画道路はりまや町一宮線に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第156集
編著者名	下木千佳
編集機関	公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所在地	高知県南国市篠原1437－1
発行年月日	2022年12月9日

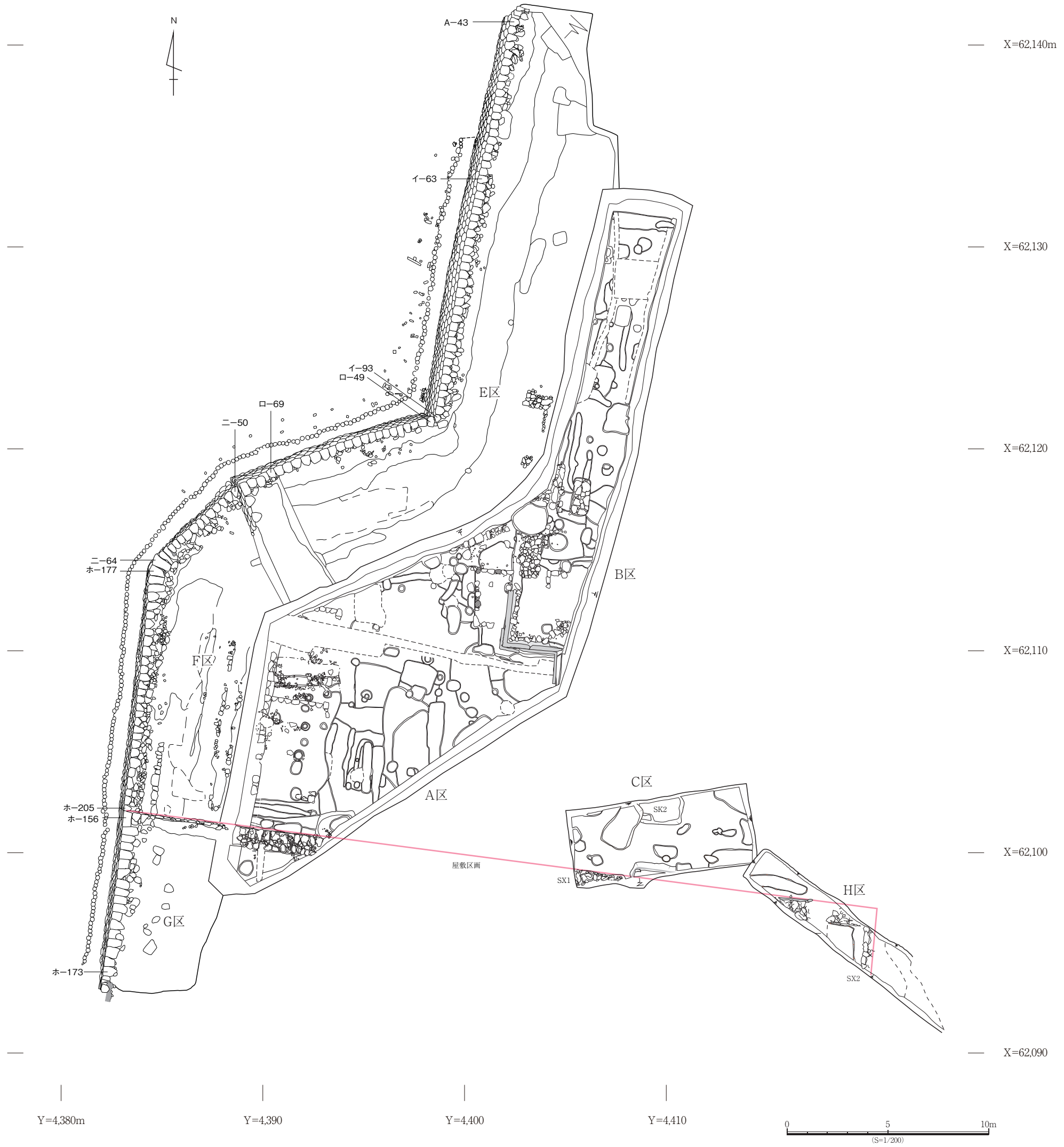
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
しんぼりがわごがん 新堀川護岸	〒780－0850 こうちけんこうちし 高知県高知市 さえんばちょう 菜園場町			33° 33′ 37	133° 32′ 51″	2019.1.28～ 2019.3.31 2019.9.26～ 2020.1.31 2020.7.13～ 2021.2.22 2021.6.7～ 2021.6.30	4,524㎡	都市計画 道路

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新堀川護岸	護岸	近世 近代	石垣 土坑 170基 溝跡 65条 井戸跡 1基 ピット 554個	陶器 磁器 土師器 土師質土器 瓦質土器 石製品 金属製品 瓦 木製品	石垣の背面構造の把握，石垣移設に伴う遺構。

要約

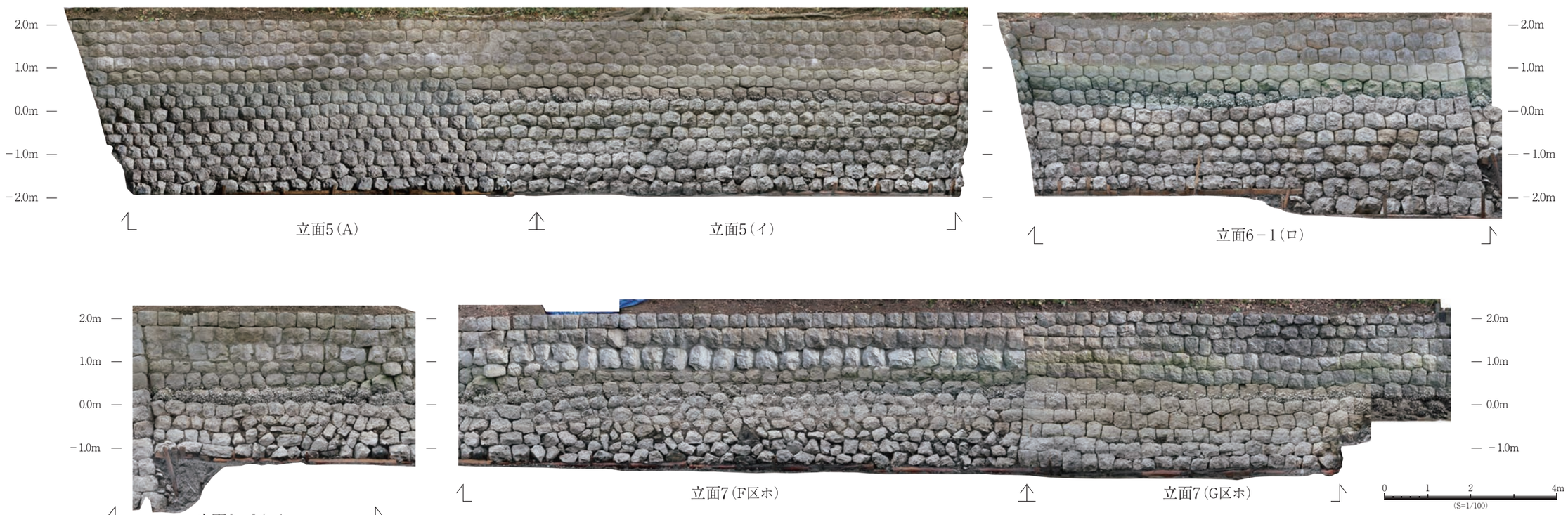
新堀川護岸は江ノ口川と堀川を結ぶ堀で，横堀と呼ばれており，横堀から西に伸びる堀が新堀である。横堀の石垣を移設するため背面の調査と石垣解体調査を行った。

調査で確認した遺構・遺物は近世・近代が多く，なかでも明治期のものが大半を占めている。当初より年代に課題があった亀甲積みの石垣は，石垣の盛土より明治期の銅貨が出土したことから明治期以降の構築ということがわかった。石垣の解体調査の中で旧石垣を検出した。詳しい年代は不明であるが，19世紀以降の構築である。旧石垣の下層部からは粗朶が検出されており，17世紀初頭の城下町整備によるものと思われる。



付図1　第1遺構面平面図(S=1/200)


立面5
立面6−1（ロ）
立面6−2（ニ）
立面7（ホ）


2.0m
1.0m
0.0m
−1.0m
−2.0m
立面5（A）
立面5（イ）
立面6－1（ロ）
立面6－2（ニ）
立面7（F区ホ）
立面7（G区ホ）
0
1
2
4m
(S=1/100)

付図2　石垣立面図

本書作成データ

システム：MacOS Monterey（12.1）
ソ フ ト：Adobe Photoshop®24.0.0，Adobe Illustrator®16.0.4，Adobe Indesign®17.4など
フォント：モリサワOTF基本7書体，Times New Roman Italic
デ ー タ：すべてデジタルデータで入稿

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第156集

新 堀 川 護 岸

都市計画道路はりまや町一宮線に伴う発掘調査報告書

2022年12月9日

発行　高知県
（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原1437－1
Tel. 088－864－0671

印刷　有限会社 西村謄写堂